

金  
沢  
城  
跡  
—橋爪門—

金沢城史料叢書23  
金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書7

金 沢 城 跡  
—橋 爪 門 —

二〇一五年三月

石川県金沢城調査研究所

2015

石川県金沢城調査研究所

金沢城史料叢書23

金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書7

金 沢 城 跡  
—橋 爪 門—

2015

石川県金沢城調査研究所





金沢城跡全景（平成22年4月18日撮影）



金沢城跡全景（平成22年9月27日撮影）



橋爪門（下中央）と石川門（左）、河北門（上）



調査区全景（I・II区）



調査区全景（I・III区）



調査区全景（III区）



調査区全景（I区）



石堰台



統槽台石垣南面 整切，敷石痕迹等

# 例　　言

1. 本書は、石川県金沢市丸の内地内に所在する金沢城跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 調査原因は公園整備事業であり、事業を所管する石川県土木部公園緑地課が石川県教育委員会に依頼し、文化財調査を鶴ノ丸第2次調査、橋爪門枠形は（財）石川県埋蔵文化財センターが、橋爪門は石川県金沢城調査研究所が実施した。
3. 調査期間及び担当は次の通りである。

## 現地調査

### 鶴ノ丸第2次調査

平成12年度

期間 平成12年5月9日～6月15日

担当者 富田和気夫（課主査）、濱谷玲美（主事）

### 橋爪門枠形

平成13年度

期間 平成13年6月22日～7月5日

担当者 富田和気夫（課主査）、濱谷玲美（主事）、土田友信（講師）

### 橋爪門

平成22年度

期間 平成22年7月14日～同年12月17日

担当者 北川晴夫（主幹）、石田和彦（調査研究専門員）、森由佳（嘱託）、小此木真理（嘱託）

平成23年度

期間 平成23年5月12日～同年12月22日

担当者 本田秀生（担当課長）、石田和彦（調査研究専門員）、森由佳（嘱託）

平成24年度

期間 平成24年4月9日～同年6月15日

担当者 本田秀生（担当課長）、石田和彦（調査研究専門員）、森由佳（嘱託）、坂下博晃（嘱託）、増永佑介（嘱託）、東緋美（嘱託）

4. 出土品整理は、平成22年度から平成24年度にかけて財團法人石川県埋蔵文化財センターに委託して実施した。

5. 報告書は、以下の職員が作成し、執筆分担は目次に記した。なお、第6章は株式会社パレオ・ラボによる分析報告である。

本田秀生（担当課長）、石野友康（主幹）、森由佳（嘱託）、東緋美（嘱託）

6. 調査に関する記録・遺物は石川県金沢城調査研究所で保管している。

7. 調査・報告に際して、次の方々から指導・助言ならびに協力を賜った。

石川県立図書館 石川県立歴史博物館 金沢市教育委員会 金沢市立図書館 金沢大学付属図書館  
金沢大学資料館 宮内庁書陵部 公益財團法人石川県埋蔵文化財センター 公益財團法人前田育徳会  
滋賀県立安土城考古博物館 東京大学総合図書館 東京大学埋蔵文化財調査室 文化庁記念物課  
防衛研究所戦史研究センター

栗野 隆 石黒信二 市川浩文 金田明大 金森安孝 久保智康 北垣聰一郎 北野博司  
楠 正勝 坂井秀弥 酒寄淳史 鳥崎 丞 千田嘉博 田嶋明人 中田宗伯 中村利則  
成瀬見司 西形達明 飛田範夫 平井 聖 古川知明 細田隆博 堀内秀樹 宮里 學  
森島康雄 横山隆昭 吉岡康暢 脇田 修 （五十音順、敬称略）

# 凡　例

1. 本書の水平基準は海拔高を表し、東京湾平均平面水準（T.P.）である。
2. 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の日本測地系第VII系に準拠した。
3. 遺構名は、次の略号を使用した。
 

SW : 石垣	P : 柱穴	SK : 土坑・枡	SD : 溝
SX : その他	T : トレンチ		

石垣については、金沢城内で統一したID番号が付けられており、それを付した。  
近代以降の遺構はその性格等が不明のものは搅乱とし、通し番号で表した。
4. 橋爪門調査区のセクションNo.は、調査年度 - 図面番号 - 枝番号で表している。
5. 平面図の線種、断面図の記号の用例については、次ページの表の通りである。
6. 橋爪門調査区の断面図の土色については、農林水産省農林水産技術会議事務局等監修「新版 標準土色帖」を使用している。
7. 遺物名は、次の略記号を使用した。
 

P : 土器・陶磁器	T : 瓦	M : 金属製品	S : 石製品
------------	-------	----------	---------
8. 遺物実測図・写真図版の遺物番号は、ゴシック体が本書報告番号を表し、明朝体は調査ID番号 - 実測番号を表す。調査ID番号は以下の通りである。
 

200001 : 平成 12 年度鶴ノ丸第 2 次調査	201005 : 平成 22 年度橋爪門調査
201105 : 平成 23 年度橋爪門調査	201203 : 平成 24 年度橋爪門調査
9. 遺物番号は、本文・観察表・遺物実測図・写真図版において共通する。
10. 遺物観察表中の計測値は、以下の図で示した位置で計測した。残存値は（ ）で表している。
11. 遺構・遺物実測図の縮尺に関しては各図中に示した。
12. 石垣構築技術等に使用される用語の内容については、以下の石垣用語表のとおりである。
13. 引用・参考文献は、原則的に一括して本文末に掲載した。

石垣用語表

**石垣部分名称**

用語	読み	解説
塗石部	つきいしふ	石垣の前面部分
隅角部	ぐうかくぶ	石垣の折れ部分。外側に折れるものを出角(ですみ)、内側に折れるものを入角(いりすみ)と呼ぶ
天端	てんばん	石垣の上面
天端石	てんぱんし	石垣の最上部の石材
隙	すそ	石垣が地面上と接する部分
根石	ねいし	石垣の最も下段の石
塗石	つきいし	石垣を構成する石材。平石(ひらいし)とも言う
間詰め	まづめ	塗石の隙間に詰める小振りの石
角石	すみいし	隅角部に使用する石材
角脇石	すみわきいし	角石の側に位置する石材
目地	めじ	石材同士の隙間
勾配	こうばい	石垣の角度。直線のノリと曲線のソリからなる
<b>石垣内部名称</b>		
用語	読み	解説
栗石	ぐりいし	塗石の裏込などに用いられる円錐
押石	おさえいし	栗石のはみ・ずれを防止するために石垣の後ろに置く石材
介石	かいいし	栗石の位置調整のために置く石材
捨石	すていし	栗石の内部に押石・介石に適さない状態で置かれた石材
盛土	もりど	本來の地面の上に盛られた土

**積み方名称**

用語	読み	解説
布積み	ぬのづみ	石材を横方向に並べながら積む積み方
乱積み	らんづみ	横目地が通らず、不規則に積む積み方
谷積み	たにづみ	石材の長軸を交互に斜めにして積む積み方
算木積み	さんぎづみ	出隅を構成する2面に長い石材の長辺を交互に重いで積み上げる積み方
石材部分名称		
用語	読み	解説
つら		石材の表面のうち、石垣の表面に位置する部分
大面	おおづら	角石の算木積みで使用した石材の表面のうち、挖が大きい面
小面	こづら	角石の算木積みで使用した石材の表面のうち、挖が小さい面
撆	ひかえ	石材の奥行き
尻	しり	石材の後ろ側
頭	とう	石材の面と尻の間
合掌	あいば	右肩同士の接点
石垣使用石材名稱		
用語	読み	解説
野面石	のづらいし	加工していない石。自然石・転石とも言う
割石	わりいし	削って、大きさを整えたり、面を造ったもの
粗加工石	あらかじめいし	削石をノミ等で粗く加工した石材
切石	きりいし	面や合掌まで加工した石材

平面図線種表

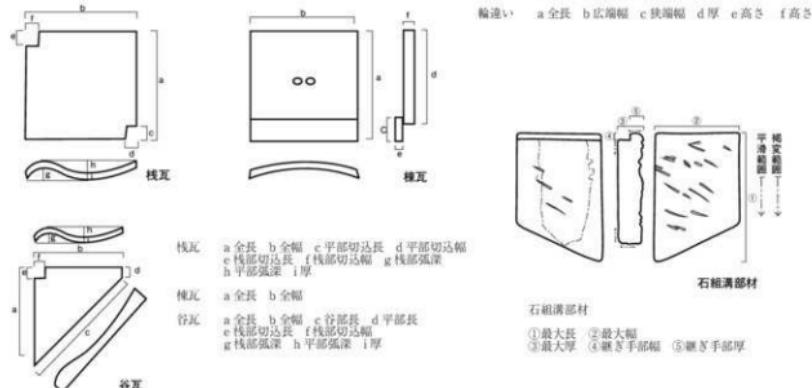
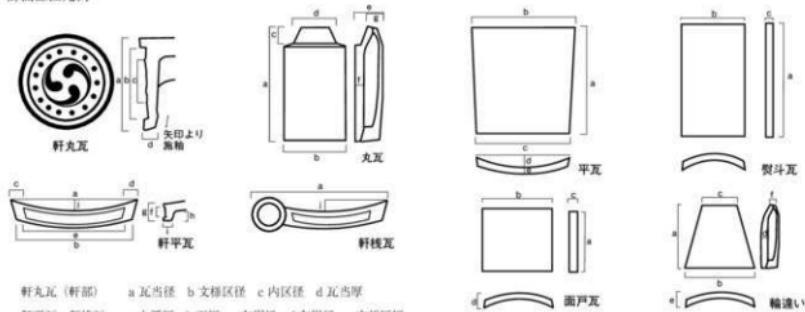
	ケバ種	上端線／下端線		ケバ種	上端線／下端線		ケバ種	上端線／下端線
トレンチ		崖ケバ 実線	造構(未完構)		長・短ケバ 一点鎖線	造構以外 (土質境)		実線・ケバなし
近代以後		短・冠ケバ 実線	造構(検出のみ)		長・短ケバ (下端線なし)	石(埋没部分)		一点鎖線
近世以前		長・短ケバ 実線	(壁のみで確認された造構)		長・短ケバ (下端線なし)			

参考底面調査区のトレンチ・近代以後のラインは緑で表示

断面図記号表

	断面角度変換点		石垣断面
	面接合点		他断面

計測部位凡例



# 目 次

巻頭カラー

第1章 調査の経緯と経過	9
第1節 発掘調査に至る経緯	(本田) ..... 9
第2節 発掘調査の経過	(本田) ..... 13
第2章 金沢城の位置と環境	19
第1節 金沢城跡と周辺の地形	(本田) ..... 19
第2節 金沢城跡の旧地形	(本田) ..... 20
第3節 金沢城跡と周辺の遺跡	(本田) ..... 25
第4節 金沢城の沿革	(本田) ..... 31
第5節 橋爪門の沿革	(本田) ..... 33
第6節 既往の調査	(本田) ..... 42
第3章 鶴ノ丸調査の遺構	47
第1節 概要	(東) ..... 47
第2節 鶴ノ丸第2次調査区の遺構	(東) ..... 50
第3節 橋爪門拵形調査区の遺構	(東) ..... 58
第4節 まとめ	(東) ..... 58
第4章 橋爪門調査の遺構	61
第1節 概要	(森) ..... 61
第2節 二ノ門	77
1. 碇石根固め	(森) ..... 77
2. 暗渠・橋、木蓋付溝	(森) ..... 86
3. 続櫓台石垣南面の痕跡	(森) ..... 108
第3節 拠形等	118
1. 続櫓台石垣東面の痕跡	(本田) ..... 118
2. 続櫓台石垣西面の痕跡	(本田) ..... 118
3. 石垣台および近世路盤面	(本田) ..... 128
第4節 下層の遺構	(森) ..... 137
第5節 近代の遺構	(森) ..... 179
第6節 まとめ	(森) ..... 189
第5章 出土遺物	190
第1節 概要	(東) ..... 190
第2節 鶴ノ丸第2次調査区遺構出土遺物	(東) ..... 190
第3節 鶴ノ丸第2次調査区遺構外出土遺物・橋爪門調査区出土遺物	191
1. 土器・陶磁器	(東) ..... 192
2. 瓦	(東) ..... 195
3. 金属製品	(東) ..... 198
4. 石製品	(森) ..... 199
第6章 自然科学的調査	243
第1節 金沢城跡橋爪門の花粉分析	(㈱パレオ・ラボ 森) ..... 243
第2節 金沢城跡橋爪門出土漆喰片・路盤構築土の自然科学分析	(㈱パレオ・ラボ 藤根・米田・竹原) ..... 249
第7章 総括	257
第1節 二ノ門の変遷	(森) ..... 257
第2節 石組暗渠・橋の構築過程	(森) ..... 261
第3節 絵図・文献による橋爪門改修履歴	(石野) ..... 267
第4節 橋爪門周辺の下層遺構	(森) ..... 273
引用・参考文献	285
報告書抄録	288
写真図版	

## 図版目次

頁

第1図 金沢城周辺の地形	21	第39図 分割図2	71	
第2図 旧地形面推定図	23	第40図 分割図3	72	
第3図 金沢城跡と周辺の道路	26	第41図 分割図4	73	
第4図 「御城中毫分基盤図」	31	第42図 分割図5	74	
第5図 「加州金沢之城図」	33	第43図 道構平面図 磨石根固め	80	
第6図 「加賀国金沢之絵図」	33	第44図 磨石根固め全景	81	
第7図 「金沢城圖」	34	第45図 道構平面図・土層断面図 2011-6-3	82	
第8図 「金沢城航図」	35	鏡柱	82	
第9図 「金沢城中地割絵図 甲号 東之御丸付段ヨリ鶴之御丸等」	35	第46図 土層断面図 2011-4	83	
第10図 「橋爪御番所並御厩諸方所土蔵絵図」	35	南北・東西柱列 2011-5	83	
第11図 「加州金沢御城来因略記」「橋爪一ノ門」「橋爪二ノ門」	37	2011-6-1・2	83	
第12図 「橋爪御門等御絵図 橋爪一ノ門」「同 橋爪二ノ門」	37	第47図 道構平面図 石組暗渠・井	90	
第13図 「加賀国金沢城絵図」	38	第48図 石組暗渠・井石材寸法	91	
第14図 「加賀国金沢城絵図」	38	第49図 土層断面図 石組橋 2012-7-2	92	
第15図 明治初期の橋爪門統轍	39	2012-9-1	92	
第16図 明治11年(1878)の三ノ丸	39	第50図 道構平面図 2012-12-1	93	
第17図 「金沢御城轍等之図 橋爪御門唐舗図」	40	・エレベーション図 2012-15-3	93	
第18図 「橋爪二之御門下舗石拾分之一図	40	石組暗渠・井 2012-15-4	93	
第19図 「金沢城橋爪御門・鶴ノ丸堀鉄竪扶間ノ図」	40	第51図 土層断面図 暗渠・井改修直 2012-6	94	
第20図 「御城中毫分基盤図」	41	第52図 土層断面図 トレンチ1 西壁 2010-6	95	
第21図 「御城分間御絵図」	41	第53図 土層断面図 通用門 2012-14	96	
第22図 「歩兵第七連隊構外本構解除之図」	42	2012-15-1	96	
第23図 「金澤旧城郭 第九師團司令部 步兵第七聯隊 步兵第六旅團司令部 第九師團城内被服庫 金澤憲兵隊 配置図」	42	2012-15-2	96	
第24図 「第五十二師團司令部図」	42	第54図 土層断面図 木道管(8)	99	
第25図 金沢城跡発掘調査位置図(平成26年度)	43	2012-9-2	99	
第26図 城内の調査地点(橋爪門周辺)	49	2012-10-	99	
第27図 調査区全体図(道構配置図)	53	第55図 土層断面図	100	
第28図 土層断面図 NS1区 2000-2-1	54	下水管北壁・アゼ南壁 2012-11-1	100	
	2000-3-2		2012-11-2	100
第29図 土層断面図 NS1区 2000-1-1	55	第56図 土層断面図 近代石垣北壁 2012-7-3	102	
第30図 土層断面図 S4区 2000-2-2	56	第57図 土層断面図	103	
	2000-3-1	水道管(2)・(3)南壁1 2011-8・9	103	
	2000-4-2	2011-7	104	
第31図 土層断面図 NS3区 2000-1-2	57	水道管(2)・(3)南壁2・北壁 2011-8・9	104	
第32図 調査区全体図(道構配置図)	59	第59図 石垣立面図 2110S	111	
第33図 土層断面図 南壁・西壁断面	60	第60図 石垣立面図(改修範囲・加工痕) 2110S	112	
第34図 橋爪門調査区概要	64	第61図 石垣垂直断面図 2110S	113	
第35図 橋爪門調査区全体図(道構配置図)	65	第62図 石垣痕跡1 2110S	114	
第36図 橋爪門調査区全体図(セクション位置図)	67	第63図 石垣痕跡2 2110S 被熱痕	115	
第37図 檜出面整地土層分布図	69	第64図 統括台石垣掘方 SX07	116	
第38図 分割図1	70	第65図 土層断面図 トレンチ 2012-16	117	
		2012-17-1	117	
		2012-17-2	117	
第66図 石垣痕跡 2110E		第66図 石垣痕跡 2110E	119	
第67図 石垣立面図 2110E		第67図 石垣立面図 2110E	120	
第68図 水平断面図1 2110S・2110E		第68図 水平断面図1 2110S・2110E	121	
第69図 水平断面図2 2110S・2110E		第69図 水平断面図2 2110S・2110E	122	
第70図 石垣垂直断面図 2110E		第70図 石垣垂直断面図 2110E	123	
第71図 石垣平面図 2330E・2330S		第71図 石垣平面図 2330E・2330S	124	

第72図	石垣痕跡	2120W	125	第108図	遺物実測図	瓦 2	212	
第73図	石垣立面図	2120W	126	第109図	遺物実測図	瓦 3	213	
第74図	石垣立面図	(改修範囲・加工痕)	2120W	127	第110図	遺物実測図	瓦 4	214
第75図	石垣平面図	立面図	2330E	129	第111図	遺物実測図	瓦 5	215
第76図	垂直断面図	水平断面図	2330E	130	第112図	遺物実測図	瓦 6	216
第77図	土層断面図	Ⅲ区下水管	2012-3	131	第113図	遺物実測図	瓦 7	217
			2012-5	131	第114図	遺物実測図	瓦 8	218
第78図	土層断面図		2012-2	135	第115図	遺物実測図	金属 1	219
		Ⅲ区調査区北壁 1		135	第116図	遺物実測図	金属 2	220
第79図	土層断面図		2012-2	136	第117図	遺物実測図	石製品 1	221
		Ⅲ区調査区北壁 2		136	第118図	遺物実測図	石製品 2	222
第80図	遺構平面図	S006		148	第119図	遺物実測図	石製品 3	223
第81図	土層断面図	S006	2012-17-3	149	第120図	遺物実測図	石製品 4	224
			2012-17-4	149	第121図	遺物実測図	石製品 5	225
第82図	土層断面図	水道管 (5)	2012-18	150	第122図	遺物実測図	石製品 6	226
第83図	土層断面図	下水管南壁 1	2012-33	151	第123図	遺物実測図	石製品 7	227
第84図	土層断面図	下水管南壁 2	2012-33	153	第124図	遺物実測図	石製品 8	228
第85図	土層断面図	近代石垣東壁	2012-34	161	第125図	金沢城跡橋爪門における花粉分布図		247
第86図	土層断面図	2012-25・26		166	第126図	金沢城跡橋爪門石組構架から産出した花粉化石		248
		教育学部木造 2 棟		166	第127図	漆喰片・路盤材中の粒子の偏光顕微鏡写真		254
第87図	土層断面図		2012-21-2	168	第128図	包埋試料の元素マッピング図 1		255
		教育学部分館北陸壁、	2012-21-3	168	第129図	包埋試料の元素マッピング図 2		256
		東オイルタンク西壁		168	第130図	二ノ門の寸法		259
第88図	土層断面図		2012-20	169	第131図	二ノ門の復元・変遷		260
		東オイルタンク北壁		169	第132図	暗渠・桥構築過程の復元		265
第89図	土層断面図		2012-19	172	第133図	暗渠・桥構築過程模式図		266
		東オイルタンク東壁		172	第134図	「金沢城城橹等之図」1		271
第90図	土層断面図		2012-21-1	174	第135図	「金沢城城橹等之図」2		272
		西オイルタンク北壁 1	2012-22	174	第136図	橋爪門周辺整地土対応模式図		276
第91図	土層断面図		2012-23-1	175	第137図	内堀東部南岸土層断面図		277
		西オイルタンク北壁 2	2012-23-2	175	第138図	五十間長屋台南北土層断面図		278
		・東壁		175	第139図	金沢城の石垣構築時期と S006		279
第92図	近代の遺構 1			182	第140図	下層遺構 寛永 8 年以前・元和年間		283
第93図	近代の遺構 2			183	第141図	下層遺構 文禄～慶長・地山面の遺構		284
第94図	石垣立面図	近代石垣		184				
第95図	垂直断面図	近代石垣		185				
第96図	水平断面図 1	近代石垣		186				
第97図	水平断面図 2	近代石垣		187				
第98図	水平断面図 3	近代石垣		188				
第99図	遺物実測図	土器・陶磁器・瓦 凡例		203				
第100図	鶴ノ丸遺構出土遺物 1			204				
第101図	鶴ノ丸遺構出土遺物 2			205				
第102図	遺物実測図	土器・陶磁器 1		206				
第103図	遺物実測図	土器・陶磁器 2		207				
第104図	遺物実測図	土器・陶磁器 3		208				
第105図	遺物実測図	土器・陶磁器 4		209				
第106図	遺物実測図	土器・陶磁器 5		210				
第107図	遺物実測図	瓦 1		211				

## 表目次

第1表 遺跡地名表（1）	27
第2表 遺跡地名表（2）	28
第3表 金沢城の沿革	32
第4表 金沢城跡発掘調査一覧（1）	44
第5表 金沢城跡発掘調査一覧（2）	45
第6表 橋爪門基本層序 時期区分	64
第7表 橋爪門遺構一覧	75
第8表 橋爪門乱一覧	76
第9表 二ノ門柱穴寸法表	81
第10表 石組暗渠石材寸法表	91
第11表 石組橋石材寸法表	91
第12表 土層No.対応表1	146
第13表 土層No.対応表2	147
第14表 遺物観察表 土器・陶磁器1	229
第15表 遺物観察表 土器・陶磁器2	230
第16表 遺物観察表 土器・陶磁器3	231
第17表 遺物観察表 土器・陶磁器4	232
第18表 遺物観察表 土器・陶磁器5	233
第19表 遺物観察表 瓦1	234
第20表 遺物観察表 瓦2	235
第21表 遺物観察表 瓦3	236
第22表 遺物観察表 瓦4	237
第23表 遺物観察表 瓦5	238
第24表 遺物観察表 瓦6	239
第25表 遺物観察表 金属1	240
第26表 遺物観察表 金属2	241
第27表 遺物観察表 石製品	242
第28表 分析試料一覧表	243
第29表 産出花粉化石一覧	246
第30表 薄片観察および元素マッピング分析を行った資料	249
第31表 漆喰・路盤材料中の微化石類と砂粒物の特徴	252
第32表 漆喰・路盤材料中の粘土および砂粒組成の特徴	252
第33表 岩石片の起源と組み合わせ	252
第34表 元素マッピングに基づく特徴的な部分の半定量 分析結果 (mass%)	253
第35表 二ノ門の寸法表	259
第36表 文化的橋爪門基礎作体制	268
第37表 「御造宮方日並記」に見る橋爪門・橋爪門統括 (橋爪櫓)関係記事(抄)	269
第38表 橋爪門周辺整地土対応表	279

## 写真図版目次

- 写真図版1 航空写真 金沢城古写真  
写真図版2 過年度調査 修築前石垣、二ノ丸内堀  
写真図版3 過年度調査 二ノ丸内堀、二ノ丸階段  
写真図版4 過年度調査 鶴ノ丸第1次  
写真図版5 鶴ノ丸第2次 近世整地土検出  
写真図版6 鶴ノ丸第2次 B層 検出面・集石層  
写真図版7 鶴ノ丸第2次 C層 検出状況  
写真図版8 鶴ノ丸第2次 D層 検出面  
写真図版9 鶴ノ丸第2次 完掘状況  
写真図版10 鶴ノ丸第2次 遺物棟出状況  
写真図版11 鶴ノ丸第2次 Pit 1～3  
写真図版12 鶴ノ丸第2次 Pit 5～7～11  
写真図版13 鶴ノ丸第2次 SK 1  
写真図版14 鶴ノ丸第2次 SK 4・5  
写真図版15 鶴ノ丸第2次 SK 7・8  
写真図版16 鶴ノ丸第2次 D層 SK 9～12  
写真図版17 鶴ノ丸第2次 東壁断面  
写真図版18 鶴ノ丸第2次 南壁断面  
写真図版19 橋爪門構形 表土除去・上層遺構  
写真図版20 橋爪門構形 西壁・南壁断面  
写真図版21 橋爪門構形 完掘状況  
写真図版22 橋爪門 二ノ門縫石根固め  
写真図版23 橋爪門 二ノ門縫石根固め・拡大  
写真図版24 橋爪門 石組暗渠・桥 1  
写真図版25 橋爪門 石組暗渠・桥 2  
写真図版26 橋爪門 石組暗渠・桥改修痕  
写真図版27 橋爪門 石組暗渠、木蓋付構、統槽台石垣掘方  
写真図版28 橋爪門 トレンチ、石垣台 1  
写真図版29 橋爪門 石垣台 2  
写真図版30 橋爪門 Ⅲ区近世路盤面 1  
写真図版31 橋爪門 Ⅲ区近世路盤面 2・石垣台土層断面 1  
写真図版32 橋爪門 石垣台土層断面 2  
写真図版33 橋爪門 整地土 1  
写真図版34 橋爪門 整地土 2  
写真図版35 橋爪門 整地上、下層遺構 1  
写真図版36 橋爪門 整地上、下層遺構 2  
写真図版39 橋爪門 整地上、下層遺構 3  
写真図版40 橋爪門 整地上、下層遺構 4  
写真図版37 橋爪門 整地土 3  
写真図版38 橋爪門 近代遺構  
写真図版41 橋爪門 統槽台石垣 1  
写真図版42 橋爪門 統槽台石垣 2  
写真図版43 橋爪門 統槽台石垣 3  
写真図版44 橋爪門 統槽台石垣 4  
写真図版45 出土遺物 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 1  
写真図版46 出土遺物 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 2

- 写真図版47 出土遺物 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 3  
写真図版48 出土遺物 土器・陶磁器 1  
写真図版49 出土遺物 土器・陶磁器 2  
写真図版50 出土遺物 土器・陶磁器 3  
写真図版51 出土遺物 土器・陶磁器 4  
写真図版52 出土遺物 土器・陶磁器 5  
写真図版53 出土遺物 土器・陶磁器 6  
写真図版54 出土遺物 瓦 1  
写真図版55 出土遺物 瓦 2  
写真図版56 出土遺物 瓦 3  
写真図版57 出土遺物 瓦 4  
写真図版58 出土遺物 瓦 5  
写真図版59 出土遺物 瓦 6  
写真図版60 出土遺物 瓦 7  
写真図版61 出土遺物 瓦 8  
写真図版62 出土遺物 瓦 9  
写真図版63 出土遺物 瓦 10  
写真図版64 出土遺物 金属製品 1  
写真図版65 出土遺物 金属製品 2  
写真図版66 出土遺物 金属製品 3  
写真図版67 出土遺物 金属製品 4  
写真図版68 出土遺物 石製品 1  
写真図版69 出土遺物 石製品 2  
写真図版70 出土遺物 石製品 3  
写真図版71 出土遺物 石製品 4  
写真図版72 出土遺物 石製品 5  
写真図版73 出土遺物 石製品 6  
写真図版74 出土遺物 石製品 7  
写真図版75 出土遺物 石製品 8  
写真図版76 復元された橋爪門等

# 第1章 経緯と経過

## 第1節 発掘調査に至る経緯

### 金沢城跡公園の開設

金沢城は、金沢平野が一望できる小立野台地先端に構築された平山城である。近世城郭以前は、天文15年（1546）、大坂本願寺により金沢御堂（金沢御坊）が置かれたとされている。

天正8年（1580）、佐久間盛政が初めて城主となり城郭整備に着手した。天正11年（1583）、前田利家の入城以降本格的な城郭整備が進み、寛永8年（1631）の大火後の造営では繩張りが定まつたとされている。以後、明治2年（1869）の版籍奉還まで、前田家歴代当主14代が約300年間にわたり城主となり、整備・改修を行った。

明治4年（1871）、金沢城内は兵部省（のちの陸軍省）の所管となる。第二次世界大戦後は、昭和24年（1949）に文部省の所管となり金沢大学が開学、平成7年（1995）2月の金沢大学城内キャンパス移転完了まで大学敷地として利用され、この間に金沢城は大きく改変された。

大学移転後の跡地利用は、平成3年（1991）8月に設置された金沢大学跡地利用懇話会で検討され、平成5年（1993）3月に「自然環境の保全、文化財の保護に配慮し、緑、空間を最大限に生かした一般県民に開放する公園的、文化的利用を基本とすること」との提言が出された。県はこの提言に沿い、平成7年3月に「金沢城跡整備実施設計報告書」をとりまとめ、平成8年（1996）1月に28.5haを都市公園に利用する都市計画を決定し、同年3月に国から大学跡地21.77haを取得した。

金沢城公園整備は、平成8年度から平成16年（2004）度までを公園としての基盤整備とする10箇年計画に基づき、①敷地環境の整備、調査（不要建物の撤去、石垣修景等）、②広場、園地等の整備（二ノ丸等各種広場、幹線園路、便益施設等）、③城郭建造物の復元（菱櫓・五十間長屋・橋爪門統櫓、内堀等）が進められた。公園の開設は、平成9年（1997）度の本丸等の暫定開園に始まり、平成13年（2001）9月の「全国都市緑化いしかわフェア」の開催を期に、公園計画区域のはば全域を開園した。

金沢城跡における埋蔵文化財調査は、昭和43年（1968）の金沢城学術調査委員会による本丸、二ノ丸等の学術調査が最初である。その後は、金沢城跡を埋蔵文化財包蔵地とみる意識が明確となり、昭和50～61年までは、主に金沢大学が主体となり、大学施設設置等工事に伴う事前発掘調査が行われた。

昭和62～平成4年度には、石川県教育委員会が、金沢大学移転後の整備・活用策を検討するための基礎的調査を目的とした「金沢御堂・金沢城調査委員会」を組織し、中・近世の文献調査、主要遺構の詳細な表面観察、踏査による調査等を実施し、それが現在の調査・研究の前提となっている。

平成4～6年度には、石川県土木部が所管する都市計画道路整備に伴い、石川県立埋蔵文化財センターが石川門前土橋、車橋門の一部で発掘調査を実施した。

平成9～13年度には、金沢城公園整備事業に伴い、石川県立埋蔵文化財センター（平成10年度からは（財）石川県埋蔵文化財センター）が復元整備や便益施設等に係る五十間長屋、本丸附段、三ノ丸、いもり堀等の発掘調査を実施した。この時、今回報告する鶴ノ丸第2次（平成12年度）、橋爪門枱形（平成13年度）の調査が行われている。これと平行して、石川県は、県民に開放された金沢城公園の活用のあり方を検討するため、平成9年、「金沢城址公園整備懇話会」（平成13年11月までの間に7回開催）を設置し、明治14年（1881）まで二ノ丸に現存した菱櫓・五十間長屋・橋爪門統櫓等について、史実に忠実であり、かつ本物志向の復元整備に着手した。これに伴い、平成11年（1999）には「金沢城址の櫓・石垣に関する修築・復元専門委員会」（平成12年7月までの間に8回開催）が設置され、専門的な立場からの指導助言をうけた。このような経過を経て、平成13年（2001）9月、

今回の橋爪門復元整備の前段となる、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門一ノ門、鶴ノ丸土塁、内堀等の復元事業が竣工した。

### 金沢城調査研究体制の整備拡充

金沢城公園の全域開園に先立つ平成13年7月1日、金沢城の調査研究、関連資料の整理・収集、関連城郭の調査研究、調査成果の普及・啓発等を目的として、県教育委員会文化財課内に金沢城研究調査室が設置された。同調査室では金沢城調査検討委員会を設置し、調査研究の課題や研究方法、研究計画等について総合的、専門的視点から指導助言を受け、平成14年（2002）2月に2期20年の金沢城調査研究事業計画を策定した。

平成14年度には、総合的、専門的視点からの指導を受けるための金沢城調査研究委員会、より専門的な立場からの指導・助言を受けるための金沢城調査研究専門委員会（絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の4分野）を設置し、国庫補助による城内埋蔵文化財確認調査をはじめ、絵図・文献、建造物、石垣、石垣構築技術等の基礎的調査と資料の収集・整理を進める第1期事業に着手し、金沢城に係る学術的な調査研究の専門機関として歩み始めることとなった。

平成19年（2007）度からは、調査研究体制の一層の拡充を図るために、石川県金沢城調査研究所に改組し、平成24年（2012）度からは城郭庭園、石垣保存管理事業等の総合研究、関連城郭との連携、金沢城編年史料等の編纂等の総合研究の推進と基礎的調査の資料の充実・発展を図る第2期事業をスタートさせている。

### 金沢城復元整備計画と史跡指定

公園の整備は全面開園後も進められたが、平成16年（2004）2月に「金沢城復元基本方針検討委員会」が設置され、今後の金沢城公園の復元整備の基本的な考え方、復元に際しての留意点等について検討を加えた。その結果は平成17年（2005）3月に報告され、「整備にあたっては、将来の史跡指定を視野に入れながら、これまでの復元や学術的な調査研究を踏まえつつ、史実を尊重した本物志向で進める」との基本理念のもと、①復元にあたっては史実の十分な調査と検証を行い、史実性の高い整備を行うこと、②復元に際しての時代設定は基本的に江戸時代後期に統一すること、③多様な公園機能にも配慮すること、④復元はゾーン別の保全・整備や活用方針等を踏まえて長期的視点も含めた段階的な取り組みを進めること等の基本方針を示した。

県は、この基本方針に基づき、平成18年（2006）5月に金沢城復元整備計画（第二期整備計画）を策定し、平成26年（2014）度までの10年間を期間とする短・中期の整備事業として、三御門（石川門、河北門、橋爪門）の整備、いもり堀の段階復元、石垣の保全・活用、玉泉院丸庭園の調査検討を進めることとした。

いもり堀は平成10～12、15、16、18～21年に確認調査を行い、平成22年までに堀の北側半分が水堀化されるとともに鯉口櫓台が復元された。

玉泉院丸南西石垣は、平成15年に変形が確認され、平成17年から石垣の解体調査を実施し、平成21年に修築を終えた。菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台石垣の修築以来、金沢城公園としては初めての石垣修築となった。

玉泉院庭園は、平成20年から石川県体育馆跡地の整備計画策定に資するための確認調査がスタートし、平成24年からは暫定整備（先導的整備）のための確認調査が進められ、平成25年度には玉泉院丸南石垣他の整備に伴う解体調査等も実施され、平成26年度末に整備工事が終了した。

三御門の整備は、河北門が短期（平成18～21年度）、石川門が短・中期（平成18～25年度）事業として進められ、河北門は平成18～20年に確認調査を実施し、平成22年に復元整備が完成した。

石川門は平成18・19、22・23年度に保存修理に伴う左右の附属太鼓塀控柱跡の確認調査が行われ、平成25年に修理終了、周辺を含めた整備がなされた。これらの整備事業が進むなか、石川県は平成20年(2008)1月11日に金沢城跡の主要部分275,155.14m<sup>2</sup>について文部科学大臣に史跡指定申請するとともに、その管理団体指定申請を行った。同年5月16日に文化審議会の文部大臣への答申を得て、同年6月17日付文部科学省告示第100号で史跡指定された。また、同年12月24日付文部科学省告示第21号にて管理団体の指定を受けた。これを受け県と金沢市は、平成21年10月に史跡金沢城保存管理計画策定検討委員会を設置し、文化庁文化財記念物課、金沢城調査研究委員会、金沢城河北門復元整備専門委員会(のちに金沢城橋爪門復元整備専門委員会)の助言指導を仰ぎながら検討を重ね、平成23年(2011)4月に「史跡の本質的要素と構成要素を明確化し、適切に保存管理していくための方針や具体的な方法を明示」した史跡金沢城保存管理計画書を作成した。



河北門確認調査現地説明会

#### 橋爪門復元整備に伴う確認調査

橋爪門(二ノ門等)の復元整備は、第二期整備計画「金沢城三御門」の整備の一環として石川門、河北門の整備に続き、中期(平成22~26年度)に位置づけられるものである。平成17年に河北門とともに復元に向けた基礎調査が行われ、復元根拠史料(絵図等)の調査分析、復元検討と課題の整理、概略設計図面の作成、概算工事費の積算、作業工程の検討等が行われた。平成19~20年は国への史跡指定申請や河北門、いもり堀の復元整備に係る現状変更申請等で文化庁との協議が行われているが、この中で橋爪門二ノ門の復元整備についても協議がなされている。

平成21年度に入ると、復元整備に係る準備作業が本格化していく。史跡内での復元整備では、復元の根拠(発掘調査(調査報告書)、絵図・文献資料、古写真等)、復元根拠の検討を踏まえた復元建物の設計案を提示し、文化庁における復元設計の審査(「史跡等における歴史的建造物等の取扱いに関する専門委員会」)、文化審議会文化財分科会第三専門調査会の審議を経て、現状変更許可を受け現地工事の着手となることから、平成26年度の整備完了を目指した諸作業の内容やスケジュールが、土木部公園緑地課、教育委員会文化財課、金沢城調査研究所で検討・計画された。史跡指定後初めての復元整備となることから、復元検討の進め方や工程等について文化庁に助言・指導を仰いだが、この中で、橋爪門二ノ門の復元にあたっては、平成13年に復元された菱檜・五十間長屋・橋爪門続櫓等と連続することから、二ノ門・枱形の復元根拠資料のみにとどまらず、埋蔵文化財調査を含めた菱檜・五十間長屋・橋爪門続櫓等の復元根拠等を示す必要があるとの指導を受けている。埋蔵文化財確認調査は橋爪門二ノ門及び枱形石垣を含む範囲1,000m<sup>2</sup>を対象とし、平成22・23年度の二箇年で実施することとなつた。平成22年当初に橋爪門復元整備計画が新聞報道されている。

平成22年度から発掘調査がスタートした。5月に発掘調査に係る現状変更許可を受け、7月から本格的な発掘調査をスタートさせた。一方で土木部公園緑地課、同営繕課、教育委員会文化財課、金



調査前の橋爪門周辺

沢城調査研究所で文化庁との協議を重ねながら復元整備に至るまでの工程を詰める作業が続いた。

9月頭に文化庁主任文化財調査官佐藤正知氏の現地視察を受け、以降、基本設計等を担当する公益財団法人文化財建造物保存技術協会も交え、発掘調査成果と、二ノ門・枱形の復元に係る資料の検討、五十間長屋等の復元検証等の作業が続けられた。

発掘調査では3段階の変遷を持つ二ノ門北脇柱列の礎石根固め遺構の他、石組暗渠、石組構等を検出し、続櫓台石垣南面には、添柱東端を示す被熱痕、添柱真の位置を示す駿切、敷石設置の際の加工痕等を確認した。また、復元検証の過程で、一ノ門復元の際の整備地盤高さが本来より低く、二ノ門復元にあたっての問題点となることが判明している。

12月には発掘調査成果を含めた今年度の検討資料をまとめ文化庁と協議を持ち、平成22年2月に第1回県復元検討委員会、同年3月に第1回国復元検討委員会に詰っている。また、平成23年度末に平成9～11年の発掘調査成果をまとめた『金沢城跡-二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓-Ⅰ』[金沢城調査研究所 2011e]を刊行した。

平成23年度は4月に前年度発掘調査区の拡張からスタートし、二ノ門礎石根固め遺構等の精查を進めた。二ノ門の礎石根固め遺構は、北脇柱列と北鏡柱以外は削平されていることが明らかとなったが、残された北脇柱列礎石根固め遺構からの柱間寸法等が判明し、これに基づいた復元検討がなされた。これらをまとめ、7月22日に第2回県復元検討委員会に詰り、同委員の現地視察も行われた。7月29日には第2回国復元検討委員会に詰っている。

復元設計が進む中、二ノ門床の復元高さが現況より低くなることから、二ノ丸からの園路を一部切り下げる必要が生じることがわかり、その取扱い等について検討を始めた。発掘調査では、枱形関連遺構は土塹石垣の根石下まで削平されており確認できず、復元検討は絵図、古写真解析を中心進められた。また、櫓台石垣東面に頗当石垣階段の痕跡が確認された。文化再建時の階段は5段で現況より高い位置に据えられており、枱形の整地地盤の検討が行われた。11月24日に埋蔵文化財調査の結果や復元設計の最終案等を県復元検討委員会に詰っている。

11月終わりに軍隊の構築した石垣（近代石垣）の取り外しを実施し、その部分から木蓋付構の残欠が確認された。12月27日には第3回の国の復元検討委員会に発掘調査の総括を含めた最終案を詰り、翌24年3月に前回指摘事項について回答した承を受けた。二ノ門と二ノ丸園路との取り付きに関しては、平成24年度に確認調査を実施することとなった。3月終わりには『金沢城跡-二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓-Ⅱ』[金沢城調査研究所 2012a]が刊行された。

平成24年度は4月から園路部分の調査を開始し、石組暗渠の延長、二ノ門雁木坂横の石垣台等を確認



確認された礎石根固め・石組構



平成 23 年度調査区



平成 24 年度調査区

した。

6月15日に現状変更許可を受け、同日、園路部分の現地調査も終了し、6月30日に起工式が行われた。

起工式終了後は、遺構面に保護砂を入れ埋戻し、復元工事がスタートした。園路部分については確認調査のデータで設計を詰めることとなった。以降、所要の打ち合わせ、工事立会等を行いながら工事は進められ、平成26年度末に工事終了を迎えている。

## 第2節 発掘調査の経過

### 平成12年（2000）・13年（2001）度調査

平成12・13年度の調査は金沢城公園整備に伴い、（財）石川県埋蔵文化財センターが調査を行った。

平成12年度の調査は鶴ノ丸第2次調査として、内堀に面した橋爪門枡形の出窓部分約50mを対象とした確認調査である。5月9日から調査を開始し、同年6月15日に調査区の埋戻しを終え現地調査を終了した。枡形に関わる遺構は確認できなかったが、枡形形成以前の遺構・遺物を確認し、初期金沢城を探るうえで良好な資料を得ている。

平成13年度は橋爪門枡形として、コンクリート溜柵等の埋設約15mに伴う確認調査で、同年6月22日から7月5日の期間調査を実施している。こちらも平成12年度調査区同様、枡形に関わる遺構は確認できなかったが、それ以前の遺構を確認している。

### 平成22（2010）年度調査

当該年度は400mを対象として発掘調査を実施した。5月21日に発掘調査に係る現状変更の許可を受け、発掘調査ヤードにある既存構造物の撤去や園路、排水路等の切り回しなどの諸作業を6月下旬から開始した。6月21日から樹木抜根、排水路の切り回し等準備工がスタートし、6月28日には橋爪門一ノ門が閉じられている。7月14日に二ノ門に相当するI区から表土除去を行うとともに、作業員を導入し、発掘調査を開始した。調査区は、ニノ門が位置していた橋爪門続櫓台石垣南面の南側をI区、枡形部分に相当する一ノ門の南側をII区とし、さらに調査区北端からヒューム管掘方までをA区、ヒューム管掘方から近代石垣までをB区、近代石垣下面からオイルタンク掘方上面までをC区と細分した。（調査区割りは第4章第1節を参照）

調査区の大半は近現代の構造物、構造物撤去の際の埋土、整地土等で占められており、これらの除去作業を進めながら遺構確認を進めた。ニノ門の遺構は、二ノ門北側柱列の背面大柱・中央大柱・添柱・脇柱・北鏡柱の礎石根固め、石組暗渠・石組枡等が、上部を削平されながらも確認することができたが、番所を含む二ノ門南側の柱列部分は、旧陸軍によって削平されており、残っている可能性のある鏡柱列を平成23年度調査で確認することとなった。さらに二ノ門南端の柱列は、大学時代のオイルタンク構築の際、段丘堆積物以下まで削平され、遺存しないことが判明した。根固め遺構は三段階の変遷がみられ、石組暗渠・石組枡にも切り合いが確認された。

また、続櫓台石垣の観察から、明治14年焼失時の被熱痕、添柱の中心を示す「鑿切」痕、敷石痕跡等を確認した。敷石痕跡にも三段階の変遷がみられ



埋戻し（平成24年度調査区）



表土除去風景

る。

12月初頭の航空測量後、遺構の養生を行い、12月17日に平成22年度の調査を終了した。

[主な調査工程]

- 6月21日～準備工スタート
- 7月14日～7月16日 I区 バックホーによる表土除去、コンクリート盤・下水管の撤去
- 7月16日 I-A区 近代石垣検出
- 7月22日 I区 近現代構築物（下水管・コンクリート擁壁等）およびその埋土の除去（～8/2）
- 7月29日 I-B区 トレンチ1掘削開始
- 7月30日～8月3日 II-A区 バックホーによる表土除去
- 8月4日 ユニットハウス設置、ベルトコンベア設置
- 8月5日 I-B区 トレンチ2・3掘削開始
- 8月9日 I-C区 トレンチ4掘削開始
- 8月20日 I-C区 トレンチ5掘削開始
- 8月25日～8月30日 I-B区 ポーリング調査
- 8月30日 I-C区 トレンチ6掘削開始
- 8月31日 I-C区 トレンチ7掘削開始
- 9月1日 現地視察（文化庁主任文化財調査官佐藤正知氏）
- 9月13日～9月14日 I区 バックホーによるヒューム管の撤去  
平成10年度工事および水道管(2)(3)の埋土の除去
- 9月14日 I-A区 新たに続櫓台石垣南面の石垣石が露出
- 9月29日 I-A・B区 遺構検出・搅乱掘削開始
- 10月1日 I-B区 石組暗渠・石組枡検出
- 10月22日 II-A区 表土の残土除去（～11/11）
- 10月25日 II-A区 近現代搅乱（蛇腹・ヒューム管・水道管理土等）埋土除去開始
- 10月26日 II-A区 遺構検出開始
- 11月1日 現地指導（調査研究専門委員 吉岡康暢氏、森岡康夫氏、金沢市埋蔵文化財センター  
楠 正勝氏）
- 11月11日 I-A・B区 背面大柱検出開始
- 11月15日 I-C区 バックホーによる近代整地土・オイルタンク埋土除去（～11/19）  
調査区一部扯張（二ノ門南側柱列確認のため）
- 11月22日 I-B区 北鏡柱検出開始
- 11月25日 I-A・B区 中央大柱検出開始
- 12月2日 ラジコンヘリによる空中写真測量（調査区平面）  
近代石垣・続櫓台石垣南面の写真測量（立面・平面）
- 12月3日 I区 平面・立面・断面実測（～12/9）  
養生等現場撤収準備開始
- 12月17日 機材を撤収し、平成22年度の現地調査を終了

## 平成23（2011）年度調査

平成23年度調査は22年度調査区を含む1,100m<sup>2</sup>の調査を実施した。昨年度の調査で調査区南側の金沢大学校舎部分が砂で埋め戻されていることが判明し、掘削深度の関係から校舎部分西側、南側はH鋼横矢板工法で、校舎部分東側はフトン籠等で土留めをすることとなり、4月4日からその作業に取り掛っている。4月11日からは横板の落とし込みと埋土、整地土の除去、構築物の撤去を進め、5月12日から作業員を導入して発掘調査を開始した。



H鋼横矢板とフトン籠による土留め

昨年度に引き続き、二ノ門関連の遺構確認調査と枱形関連遺構の確認を重点的に行った。また、調査区は枱形関連の遺構確認のため、平成22年度調査区を拡張して調査を実施している。拡張区はオイルタンク掘方以南をD区とした。



縦横に走る配管類

調査は二ノ門関連の遺構の確認から開始し、I-C区の表土・搅乱除去・検出、II区の表土・搅乱除去・検出と進めた。並行して近代遺構の壁面の土層断面による下層遺構の確認を行った。

二ノ門北側柱列の背面大柱・中央大柱・添柱・脇柱、北鏡柱の礎石根固め、石組暗渠・石組排等の精査を実施し詳細をとらえるとともに、門北側の木蓋付溝の残欠等を確認したが、南鏡柱は、旧陸軍時代の削平が、根固め掘方以下まで及んでいることが判明した。枱形部分のII区では、枱形石垣掘方以下まで削平がおよび、枱形に関連する遺構は確認できなかった。近代遺構の壁面の土層断面による下層遺構、地山等の確認を行っている。

11月下旬に近代石垣を撤去したが、その背面から二ノ門背面の木蓋付溝の残欠が確認された。12月上旬の航空測量後、遺構の養生を行い、12月22日に現地調査を終了した。

### [主な調査工程]

- 4月4日 準備工および表土除去着手
- 5月12日 現地調査着手
- 5月13日 I-B区 バックホーによる水道管撤去 (~5/17)
- 5月18日 I-A・B区 北鏡柱検出開始
- 5月19日 I-B区 水道管理土の除去開始
- I-C区 表土・オイルタンク埋土等の搅乱残土の除去開始
- 5月26日 I-A・B区 添柱・脇柱検出開始
- I-B区 近代石垣一部（二ノ門南北柱列部分）取り外し (~5/27)
- 6月1日 I-C区 遺構検出、南鏡柱の確認、搅乱掘削開始
- 6月8日 I-A・B区 東西柱列エレベーション実測終了
- I-B区 北鏡柱の東西断面図実測終了
- 現地指導（東京大学埋蔵文化財調査室 成瀬晃司氏）
- 9月9日 I-B区 近代石垣一部（二ノ門南北柱列部分）取り外し
- 6月17日 II-C・D区 表土残土の除去、搅乱掘削開始

- 6月20日 II-C・D区 遺構検出開始
- 6月24日 金沢城調査研究専門委員会（埋蔵文化財・伝統技術（石垣））現地指導
- 6月29日 I-A～C区 南北柱列エレベーション（トレンチ5土層断面含む）実測終了
- 7月22日 県橋爪門復元検討委員会現地視察
- 8月4日 I-B区 水道管(2)(3)壁面の分層開始
- 8月8日 II-B区 表土残土の除去、遺構検出開始
- 8月22日 I-A・B区 石組暗渠・枠改修痕の検出開始
- 8月24日 II-C区 撥乱掘削開始
- 9月6日 I-A・B区 柱穴及び石組暗渠・枠改修痕の平面図実測終了
- 9月12日 I-B区 石組暗渠・枠改修痕の土層断面図実測終了
- 9月26日 II-A・B区 撥乱掘削開始
- 9月27日 II-A区 続櫓台石垣東面の痕跡(GLライン等)確認(～9/28)
- 9月28日 I-A・B区 水道管(2)(3)土層断面図実測終了
- 9月29日 I・II-C区 下水管(No.029)壁面分層開始
- 10月18日 II-A～D区 近代暗渠(No.045)壁面分層開始
- 11月14日 リフトセンサーによる第1回空中写真測量(近代石垣平面・立面)
- 11月19日 現地説明会開催 参加者150名
- 11月21日 金沢城調査研究専門委員会（埋蔵文化財・伝統技術（石垣））現地指導
- 11月22日 クレーンによる近代石垣の解体開始(～11/28)
- 12月5日 I-B区 木蓋付溝検出
- 12月13日 ラジコンヘリ・リフトセンサーによる第2回空中写真測量  
(調査区平面、続櫓台石垣南面・東面の立面)  
レーザー測量(下水管掘方・近代暗渠壁面の土層断面)
- 12月14日 現場撤収準備開始
- 12月22日 機材撤収等を行い、平成23年度の現地調査を終了

#### 平成24（2012）年度調査

・平成24年度調査は橋爪門二ノ門と二ノ丸圍路の取り付きにあたり、二ノ丸圍路の切り下げに係る確認調査を実施した。調査面積は200m<sup>2</sup>である。二ノ丸圍路東端に敷設されている横断水路の配管を境として、平成22年度検出の石組暗渠の延長部分を含む東側をI区とし、西側をIII区とした。

4月9日から二ノ丸圍路の路盤除去がスタートし、翌10日から路盤下の近代層の除去を実施している。14日には続櫓台石垣裾の金沢大学時代の擁壁基礎コンクリートを削岩機により撤去した。26日には養生の撤去も終わり本格的な調査がスタートした。

I区西端からIII区東側は、金沢大学の共同講等で削平されており、また、前年度調査区から続く下水管が調査区を縦断するように設置されていた。I区では、石組暗渠の延長部分を確認したが、二ノ門から二ノ丸へは直角に屈折しており、絵図に描かれた暗渠ルートとは異なっていた。III区では二ノ丸雁木板横から続くの石垣台東面下部が確認され、その前面には玉砂利を含む整地土で形成された路盤面が残っていた。6月頭に航空測量を実施し、15日に現地調査を終了した。

#### [主な調査工程]

- 4月9日 重機による表土除去開始(～4/12)  
オイルタンク壁面土層断面等の実測開始
- 4月20日 機材搬入、養生撤去

- 4月26日 作業員によるⅢ区搅乱除去・検出作業開始  
 6月1日 金沢城調査研究専門委員会（埋蔵文化財・伝統技術（石垣））現地指導  
 6月5日 ラジコンヘリ・リフトセンサーによる空中写真測量  
 6月11日 現地指導（東京大学埋蔵文化財調査室 堀内秀樹氏）  
 6月15日 橋爪門の調査終了  
 6月30日 起工式

#### 遺物整理の経過

鶴ノ丸第2次では13箱、橋爪門枡形では1箱の遺物が出土している。橋爪門では平成22年度88箱、平成23年度66箱、平成24年度42箱で総数196箱であった。（いずれもLII型コンテナバット換算）

出土遺物の整理については、平成16年度までに鶴ノ丸第2次、橋爪門枡形を（財）石川県埋蔵文化財センターに委託して実施した。橋爪門は平成22～25年に実施し、洗浄は全て直営で調査年度内に行なった。記名・分類・接合および実測・トレースは、平成23～25年に（財）石川県埋蔵文化財センター（平成25年度からは（公財）石川県埋蔵文化財センター）に委託して行った。

#### 金沢城橋爪門復元整備専門委員会

橋爪門の復元整備を進めるにあたり、石川県は平成23年2月1日付で「金沢城橋爪門の復元整備専門委員会」を設置し、「橋爪門」の設計・施工上の指針等について、専門的・技術的視点から検討・助言を得ることとした。委員は以下の6氏で、石川県知事が委嘱した。

金沢城橋爪門復元整備専門委員会委員（敬称略）  
 扉書きは当時）

北垣聰一郎 石川県金沢城調査研究所長（石垣）  
 北野 博司 東北芸術工科大学准教授（考古）  
 平井 聖 昭和女子大学学長（城郭・建築）[委員長]  
 中村 利則 京都造形芸術大学教授（建築）  
 （オブザーバー：文化庁 文化財部 記念物課）

会議は以下の日程で計3回開催した。埋蔵文化財の調査状況については、適宜報告し、専門的な指導・助言を得た。

第1回 平成23年2月21日（月）

- (1) 「橋爪門」の復元整備計画等の概要
- (2) 埋蔵文化財の調査状況について
- (3) 「橋爪門（二ノ門・土塀）」の復元検討について
  - I. 復元概要
  - II. 復元根拠一覧
  - III. 古文書の検討
  - IV. 絵図の検討
  - V. 古写真的検討
  - VI. 二ノ門検討図

第2回 平成23年7月22日（金）



現地視察風景

- (1) 埋蔵文化財調査の状況について
- (2) 「橋爪門（二ノ門・土塀）」の復元検討について
  - I. 復元概要
  - II. 復元根拠一覧
  - III. 二ノ門の検討
  - IV. 桁形二重塀の検討
  - V. 復元検討図

第3回 平成23年11月24日（木）

- (1) 埋蔵文化財調査の状況について
- (2) 「橋爪門（二ノ門・土塀）」の復元検討について
  - I. 二ノ門番所および番所内階段の検討
  - II. 桁形整備地盤面の検討
  - III. 桁形二重塀の検討
  - IV. 二ノ門利活用の検討
  - V. 復元完成予定図
  - VI. 復元設計図

また、文化庁の「史跡等における歴史的建造物等の復元の取扱いに関する専門委員会」（国復元検討委員会）に復元案等を審査いただいた。

第1回 平成23年3月25日（金）

- I. 金沢城公園整備の目的と方針
- II. 史跡金沢城跡の概要
- III. 橋爪門の復元整備
- IV. 復元検討資料

第2回 平成23年7月29日（金）

- I. 復元概要
- II. 復元根拠一覧
- III. 二ノ門の検討
- IV. 桁形二重塀の検討
- V. 復元検討図

第3回 平成23年12月27日（火）

- I. 前回委員会結果
- II. 二ノ門扉の止め方について
- III. 二ノ門番所および番所内階段の検討
- IV. 発掘調査の総括
- V. 桁形整備地盤面の検討
- VI. 桁形二重塀の検討
- VII. 二ノ門利活用の検討
- VIII. 復元完成予定図
- IX. 復元設計図

第4回 平成24年3月27日（火）

史跡等における歴史的建造物等の復元に関する専門委員会  
平成23年度第2回委員会（平成23年12月）結果について

## 第2章 金沢城の位置と環境

### 第1節 金沢城跡と周辺の地形

金沢城跡は、石川県府が所在する金沢市街地南東部に位置する。石川県は本州日本海側のほぼ中央に位置し、古来から東西の様々な事象が交錯する場となってきた。県域は、日本海にアンテナ状に突出し、急峻な海岸線と狭い平地に縁取られた標高300m程度の丘陵地が主である能登地方と、列島内で3,000m級の峰としては最も西に位置する白山を主峰とする両白山山系と、そこから流れ出す河川に形成され、前面を砂丘によって縁どられた沖積平野の広がる加賀地方からなる。金沢市は、その加賀地方の北側に所在する。

市域の地形は、内灘砂丘により前面を仕切られ、日本海に沿って細長く伸びる金沢平野と、南東部に広がる丘陵・山地からなる。この丘陵・山地は、金沢市街地を南東～北西に流れる犀川、浅野川を境として北部の森本丘陵と、南部の富樫山地に分けられる。

森本丘陵は、金沢平野と東方の砺波平野を隔てる砺波丘陵の前衛的丘陵である。標高100～200mで開析が進んでいるものの、稜線上は比較的平坦である。主に鮮新～更新統(高崖層、大桑層、卯辰山層等)から構成される。これら地層は、一般に緩く北西方向に傾斜しているが、丘陵西縁で西向きに30～数10°の角度で急傾斜し金沢平野に没しており、森本急斜帶あるいは森本撓曲帯と呼ばれている。また、丘陵南東隅には、金沢城の石垣材である戸室石の供給元となった戸室山を有する戸室山地が位置する。

富樫山地は、両白山山地の前衛山地で、主に砺波丘陵と同様の堆積物によって構成される北部地域と、主に中新世の火山岩層からなる南部地域に分かれる。北部地域西縁では砺波丘陵と同様に西向きに地層が撓曲することが確認され、野町撓曲帯と呼ばれている。

これら丘陵・山地を分かつ犀川、浅野川沿いには、周辺の山地を構成する鮮新～更新統を不整合に覆う高位～低位の新旧の河岸段丘が形成され、多くの研究者により分類・対比されている[経済企画庁 1969、藤 1975、1983、1999、寒川 1986、東郷他 1988、国土地理院 2002、中村他 2003、2006]。

最新の中村洋介等による報告[中村他 2006]では、これらの段丘を高位から野田Ⅰ、Ⅱ面、小立野面、笠舞Ⅰ～Ⅳ面、森本面に細分している(第1図)。最も高位である野田Ⅰ面は、段丘礫層上に堆積するローム層上位でAT(姶良～丹沢火山灰)、中位でDKP(大山～倉吉バミス)、下部からK-Tz(鬼界～葛原火山灰)が確認され、さらに、K-Tz挟在層位よりも下位にローム層が堆積すること、段丘礫層下の砂層からSK(三瓶～木次テフラ)が確認されていることから形成年代を約100,000年前としている。また、小立野面では段丘礫層上に堆積するローム層上位でAT、最下部でDKPが検出されたことから約60,000～70,000年前、笠舞Ⅱ面では段丘礫層上に堆積するローム層最下部よりATが検出されたことから約30,000～35,000年前とし、これらを基に笠舞Ⅰ面を約45,000～50,000年前、笠舞Ⅲ面を約15,000～20,000年前、笠舞Ⅳ面を約10,000年前としている。森本面は犀川、浅野川流域ではその分布は見られないが、砺波丘陵、富樫山地の前面に形成され、14C年代測定資料から[石川県 1997]約6,000年前としている。

丘陵、台地の前面に広がる金沢平野は、手取川、犀川、浅野川等、山地・丘陵からの河川による扇状地堆積物の上に、繩文海進期に生じた沿岸洲によって日本海から隔離され、ラグーン化された海域が埋積され形成されたと考えられている。また、浅野川、犀川流域の台地先端部や森本丘陵、富樫山地の前面には新期扇状地が形成され、河川沿いには谷底平野が広がる。市街地は、この扇状地や三角州、谷底平野と、小立野面以下の段丘面に展開している。

金沢城は犀川・浅野川に挟まれた小立野段丘、通称小立野台地の先端に築かれた。小立野台地は、古犀川、古浅野川が合流し形成した扇状地面が、後の地形変動、浸食等により段丘化したものとされており、標高は先端の金沢城跡付近で50m前後、第1回図幅端のくびれ部付近で90m、幅500～700m程の細長い形状をしている。台地北東側は浅野川の谷底平野まで急崖となる部分が多く、南西側は、笠舞II～IV面の段丘面が上流側から形成され、犀川の谷底平野へと至る。谷底平野からの比高は標高60m付近で浅野川側が36m、犀川側が30m程度と浅野川側が低い。

台地上はほぼ平坦であるが、標高70m辺りから下流では台地北東側が南西側に比べ高くなる傾向を見せ始め、兼六園付近では明瞭な段差となる。また、標高60m辺りから下流側の傾斜が上流部に比べ緩やかとなるとともに、段丘面を開析した小さな谷が形成される。この開析谷は、浅野川沿いでは河川に並行するが、犀川沿いでは直交方向となるものもある。これらの谷頭や、兼六園付近の段差下には湧水が現れる。

図幅中、笠舞I～IV面の形成は兩河川とも右岸側に顕著である。段丘崖裾には湧水が散見され、旧流路の名残かと思われる谷状の窪地も確認できる。犀川左岸の笠舞II面（通称泉野台地）では段丘面中央付近にも谷状窪地があり、ともに小河川や用水路となっている。犀川左岸には標高18～20m付近に野町撓曲、50～60m付近に長坂撓曲、90m付近で野田山撓曲と呼ばれる断層による変異地形が確認されている。この野町撓曲は犀川右岸へも伸び、森本丘陵前面の撓曲と連続し森本・富樫断層と呼ばれている。

小立野台地先端部は、周囲を笠舞IV面が取り囲む。その形状は小立野面の形状と合わせるようにやや右に折れ、先端は北方向を向く。この段丘面は、上流部は明瞭な段丘崖が形成されているものの、下流では緩傾斜となり低地へと連続する部分が多い。地形区分では浅野川に到る手前で扇状地となるが、等高線からすると外惣構堀先端付近まで扇状地堆積物の下に段丘面が伸びているとも推測できる。金沢城下を区分する外惣構堀は、出發地点付近を除けば、ほぼこの段丘裾を巡る。

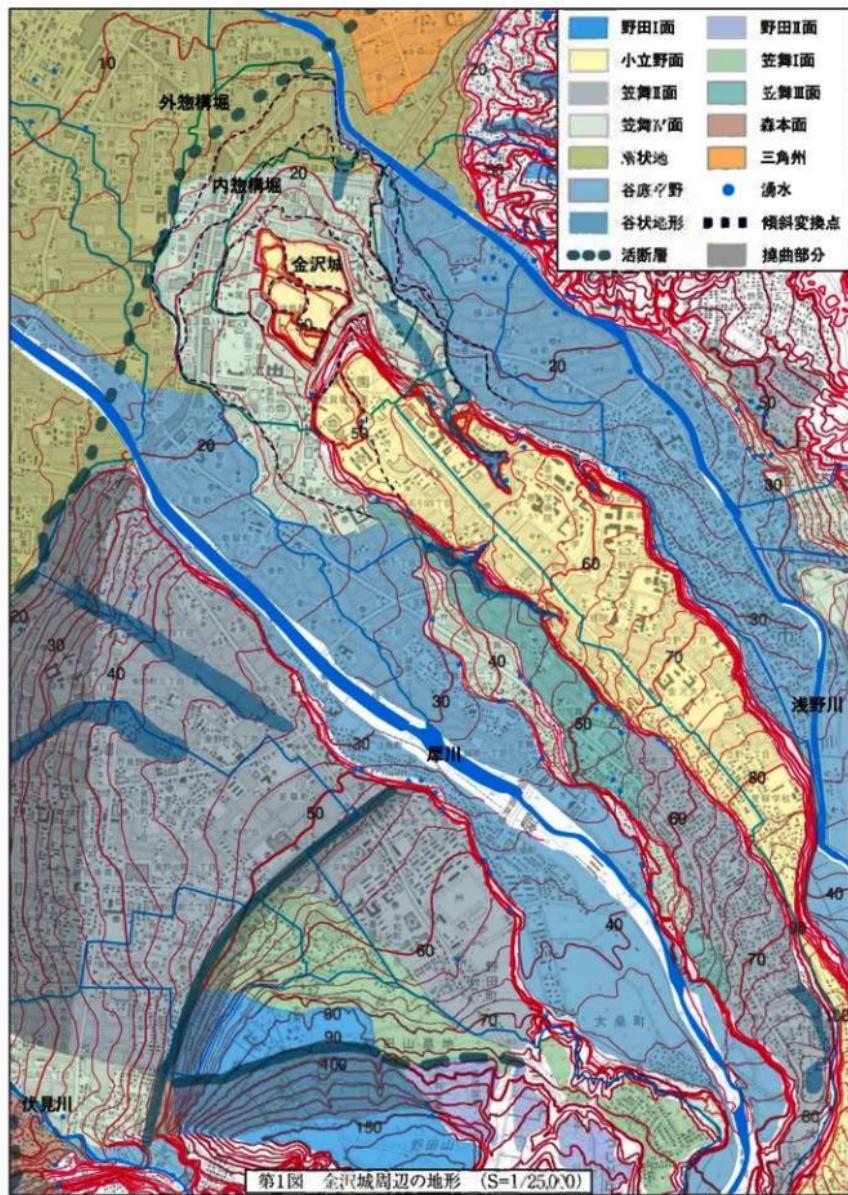
段丘面上には、比高差の小さい緩斜面となる段差や谷状地形がいくつか確認できる。開発による変形を否定できないが、ある程度旧地形を反映していると思われる。内惣構堀は、その地形をうまく利用し構築されているが、西内惣構堀北側は、前述の段丘の尾根を横切るよう掘削されている。

## 第2節 金沢城跡の旧地形

金沢城は、兼六園側の小立野台地本体と百間堀を設け隔てている。城内で最も高い本丸、東ノ丸（標高58～59m）、北西に続く本丸付段（標高55m前後）、東ノ丸付段・二ノ丸（標高49～50m）、数寄屋舗（標高46m）、鶴ノ丸・三ノ丸・御宮（標高42～44m）、薪ノ丸・藤衛門丸（標高40m）、新丸（標高33～34m）、玉泉院丸（標高33m）、金谷出丸（標高26m）の平坦面グループが存在する。小立野台地本体側とは異なり、浅野川側に段差を持つ平坦面があり、犀川側、扇状地側は急崖となる部分がほとんどである。

先の地形分類ではこれらに対し、中村洋介等が玉泉院丸を笠舞IV面に含め、それ以外を小立野面としている[中村他 2003, 2006]他、寒川旭が、本丸を野田下面（野田II面 \*カッコ内は中村の分類に対比したもの）、新丸を笠舞上面（笠舞II面？）に[寒川 1986]、新丸を東郷正美等が沖積I面（笠舞IV面）に[東郷他 1998]、木村佳織が笠舞II面（笠舞IV面）としている[国土地理院 2002]。多くが、玉泉院丸、あるいは新丸を小立野面より下位面としているが、他の面については寒川をのぞいて小立野面に一括している。

これに対し藤則夫は、接峯面・接谷面法により、本丸面、二の丸面、三の丸面、藤衛門丸面、新丸面、金谷御殿面の6つの面に分類し、これを一つの段丘面として扱うことは、地形発達史上は不都合であるとした。また、百間堀について、石川橋付け替え工事の際に兼六園側で確認された地層のズレ



第1図 金沢城周辺の地形 (S=1/25,000)

国土地理院発行(平成18年1月1日) 2万5千分の1地形図「金沢」を変換。地形区分は「官本他 2006」と「経済企画庁 1969」をもとに作成。等高線は金沢市都市計画基本図を基に作成、標高100m以上は10m、標高100m以下は2mとしているが、錯綜する部分は省略。湧水点は「金沢市 1996」をもとに作成。一部省略

を、森本・富樫断層と一連の断層群の一部とし、断層により弱部となった部分が、その後、浸食と断層の後継的活動とあいまって、谷様窪地となったところを堀掘削の際に利用したものと想定している[藤 1999]。百間堀を断層とする説は加藤道雄[加藤 2001]も同様な見解を述べているが、藤の指摘した地層のズレを断層ではないとする意見もある[船野 2001]。また、これとは別に先の森本・富樫断層のラインが第2図よりもう少し南東側に走るとする報告も見られる[船野 2001、酒寄 2013]。

金沢城跡は築城以降の改変等で、旧地形を現況から判断することは難しいが、近年のボーリング調査や発掘調査で、黒ボク層、ローム層、段丘礫層という段丘堆積物が高低差のあるいくつかの廓で確認されており、それぞれが段丘面であることは間違いないと思われる。金沢城はこの自然地形の段差を利用し構築されていると考えられる。

伊藤雅文は、「金沢城跡石川門前土橋（通称石川橋）発掘調査報告Ⅰ」[石川県立埋蔵文化財センター 1997]で、発掘調査や試掘調査、車橋門跡の発掘調査[石川県埋蔵文化財センター 1996]成果等から旧地形について述べている。その中で百間堀をかつては、南側は兼六園側の丘陵が本丸へと続き、北側は鶴ノ丸から石川橋下に伸びる谷地形であったと想定している。その後、先の藤論文を含め、いくつか旧地形復元図が提示されている[吉岡 2001、石川県金沢城調査研究所 2006]。

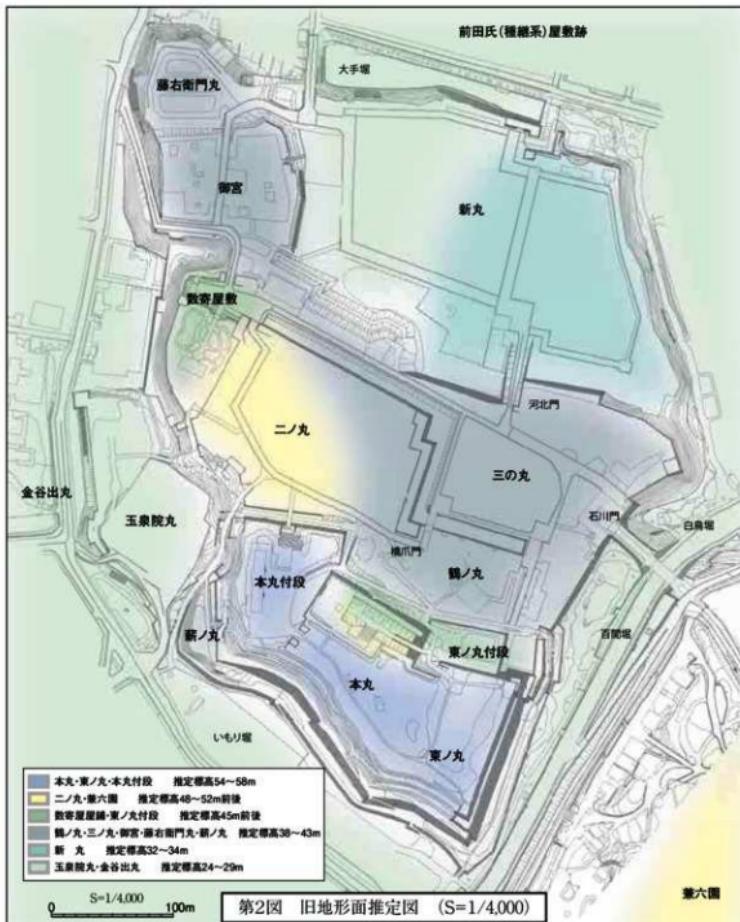
滝川重徳は、「金沢城跡確認調査報告Ⅱ」[石川県金沢城調査研究所 2014c]で、これまでのボーリング調査や発掘調査成果等を詳細に検討し、各廓の状況を踏まえ、現状の地山面の地形を復元している。第2図は、その成果を基に黒ボク層上面の標高等を推定して作成した旧地形面推定図である。

本丸、東ノ丸、本丸付段面は城内で最も高く、いずれも百間堀を隔てた兼六園より高い。特に本丸面は、近世盛土直下で確認された段丘礫層上面の標高が57mを超えており、ローム層、黒ボク層を復元すると、標高は58m前後となる。東ノ丸面は段丘礫層の標高が本丸より一段低く、また、南側が北側より若干低い。標高は54～56m程と推定した。本丸付段面については東ノ丸と同等と考えた。

二ノ丸面は旧地形復元に有効なデータがほとんど得られておらず、色紙短冊積石垣北側のボーリング調査で得られた卯辰層上面の標高および、兼六園の標高(52m)と小立野面の傾斜から、標高48m前後と推定した。また、鶴ノ丸・三ノ丸面は、整地土の下面が、五十間長屋台石垣下のボーリング調査データや河北門[石川県金沢城調査研究所 2011b]、橋爪門、内堀東側[同 2011c]の調査成果からすると標高42.5m前後で、石川門付近を除き本来の標高を40～43mと推定した。

今回の橋爪門復元整備に係る調査において、段丘堆積物の標高が二ノ丸側に向い高くなり、上位の黒ボク層、ローム層等を欠くが、礫層上面の標高が43mまで達する。しかし、調査区西端やさらに西側のボーリング調査では、礫層が標高42m程まで低くなり、その上位に砂層、砂礫層、礫混じりローム層という堆積状況を確認した。礫混じりのローム層の標高は上部を欠くが42.7mである。砂層、砂礫層の堆積は二ノ丸面裾付近に黒ボク層堆積以前の流路の存在を想起させる。さらに二ノ丸園路西側の調査区で標高45.3m、現鶴ノ丸トイレの発掘調査(鶴ノ丸第1次[土田 2000])で標高44.3mが整地土中であることを確認しており、自然地形の鶴ノ丸・三の丸面、あるいは寛永大火以前の鶴ノ丸・三ノ丸造成面が橋爪門続櫓台石垣よりさらに西側まで広がっていたと想定できる。

鶴ノ丸・三の丸面と標高を同じくする面は、五十間長屋、菱櫓のボーリング調査および二ノ丸北の内堀西部の発掘調査[石川県金沢城調査研究所 2011c]成果等で、五十間長屋、菱櫓を越え西側に広がることが想定できる。内堀西部の調査では、菱櫓北側付近から西の内堀底で黒ボク層が60m程の範囲で確認されている。標高は38.3m前後で、その下位に標高37.7m位でローム層と思われる土層が確認できる。ボーリングデータでは、河北門付近から徐々に黒ボク層の標高が下がる傾向がうかがえ、浅い谷状地形が存在するようである。内堀西端北側法面ではローム層の標高が42m程で、これらのことから、二ノ丸面東端は内堀西側西端付近と本丸付段東端付近を結ぶ線とし、鶴ノ丸・三の丸面はその裾を巡り、御宮面まで連続すると想定した。裾部付近にはローム層堆積以前の流路があり、一部は



鞍部となって内堀西側の谷に連続すると思われる。

橋爪門一ノ門付近の黒ボク層の厚さは、1m前後であることが発掘調査等で確認されている。一方、鶴ノ丸・三の丸面東端付近はボーリング調査によると、黒ボク層と思われる土壤の標高が橋爪門や河北門付近に比べ2~5m程度低く、堆積も厚いことが確認されている。特に右方太鼓塀側が低くローム層を欠くことから、先に述べた伊藤の想定するような谷状地形をうかがわせるが、橋爪門一ノ門付近では黒ボク層上面で古代~中世の遺構が構築されており、少なくとも古代以降、谷の延長が、本丸付段、二ノ丸堀まで伸びていることはなかったと考えられる。

内堀東側の発掘調査時の写真を見る限り急激に地形が傾斜することはなく、石川門前土橋発掘調査

で確認された金沢御堂期土橋の標高が約32.5mであることからすると、鶴ノ丸・三の丸東端は、一段低くなる可能性がある。ボーリング調査では石川門付近の標高が若干高くなることから、鶴ノ丸・三ノ丸東側縁にやや出入りのある段差が存在するものと想定した。

御宮面は、前述したとおり鶴ノ丸・三ノ丸面と深い谷を挟んだ同一面と考えた。藤右衛門丸は、現標高や、ボーリング発掘調査のデータからすると御宮より4m程低いが、三の丸東側と同様に段差となるものと想定した。薪ノ丸は現況標高から藤右衛門と同一面と考えたが、自然地形であるかは不明である。

東ノ丸付段面は、ボーリング調査のデータから標高45m弱と推定されるが、この高さが、本丸北面石垣下まで続くことをボーリング調査で確認している。その南側には、本丸面との間に崩落した段丘疊層<sup>?</sup>の上面に黒ボク層が確認される部分があり、標高は二ノ丸面と同じ高さとなろう。敷寄屋屋舗面はデータが少なく、現状の標高から東ノ丸付段面と同等としたが、どちらも平坦面として存在するのか、本丸、二ノ丸面の斜面となるのか現状では判断が難しい。

新丸面は、新丸第1・2次調査区[石川県教育委員会・財石川県埋蔵文化財センター 2002a]、三ノ丸第4次調査区や試掘調査で黒ボク層等が確認され、標高32~34mと推定できる。また、中央に走る堀を中心とした大きな谷があり込んでいることも判明している。この谷の延長は、尾坂門前の前田氏（長種系）屋敷跡地区の調査[石川県教育委員会・財石川県埋蔵文化財センター 2002b]で本来の地形は西側へやや傾斜することが確認されており、こちらの方に抜けるものと思われるが、大手堀北側の現況にはその痕跡は見当たらない。

玉泉院丸面は現況標高33m程であるが、ボーリング調査等の成果では黒ボク層が標高27~29m程で確認され、金谷出丸と同一の平坦面と想定できる。

兼六園は前述のとおり二ノ丸と同一面と考えている。『特別名勝兼六園（江戸町推定地）発掘調査報告』[石川県立埋蔵文化財センター 1992]には、百間堀との間に平坦面の存在をうかがえる記述がある。また、藤の先の報告[藤 1999]では、断層と判断した土層断面で確認した2つ疊層の内、上位のものを河成堆積物と思われるとし、今後の課題としているが小立野河岸段丘形成期より以降と推定している。のことからすれば、百間堀自体が流路の可能性もあり、百間堀東側に兼六園本体より低い平坦面が存在した可能性はあるが、データが少なく今後の研究を待ちたい。

金沢城の廓は上記で見るよう、河岸段丘様に形成された平坦面を基に構築されたと考えられる。前述の地形区分から玉泉院丸は笠舞IV面に対比されるが、それ以外は、形成年代を知るための火山灰分析等が行われておらず、今後の専門家による研究の進展を待ちたい。

地形的にはこれまで言われてきたとおり、弧状に比較的小な高低差を持って本丸・藤右衛門丸と連続する尾根筋と、新丸東側のもう一つの尾根という状況が本来の姿だといえる。築城以前の土地利用については定かでないが、古代、中世の掘立柱建物が、鶴ノ丸・三ノ丸面の奥まった地点で確認されており[石川県金沢城調査研究所 2011e]、この地の生活地としての本格的利用を示唆するものとなる。その後の展開がどのように現状では不明であるが、堀の掘削や石垣の構築といった外殻部の整備を除けば地形の大きな変化は、慶長4年（1599）とされる新丸造成、元和6年（1620）の本丸火災以後の本丸周辺整備、寛永8年（1631）大火後の二ノ丸拡張と進み、現在見る金沢城の骨格が完成したこととなる。

本丸、玉泉院丸の埋蔵文化財調査において精緻なボーリング調査が実施され、大きな成果を上げている[石川県金沢城調査研究所 2011d、2012b、2013b]が、他の廓で実施されたボーリング調査は、整備工事にかかるものであり、目的の違いや実施箇所の限定があり、試掘・立会・発掘調査についても同様で、地形復元が可能となるだけのデータはまだ不足している。データの増加を待って更新していきたい。

### 第3節 金沢城跡と周辺の遺跡

金沢城跡周辺は、絵図等で近世からの市街化が確認できるものの、それ以前の様相については文献等からの推定にとどまり、実態はほとんど不明であった。ここ四半世紀の間で、市街地再開発に伴う発掘調査、城跡自体や城地に隣接する前田氏（長種系）屋敷跡地点[石川県教育委員会・財石川県埋蔵文化財センター 2002e]・広坂地点[金沢市 2004b、2005b、2006b、2007c、2009c]・丸の内7番地点[石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター 2014]の調査、惣構堀復元整備に伴う発掘調査[金沢市（金沢時埋蔵文化財センター）2008a、2011b、2011c、2012d、2013b、2014]等により、その姿がようやくうかがえるようになってきた。平成23年4月1日には第3図の赤線内の範囲が金沢城下町遺跡として周知された。(これにより遺跡名は金沢城下町遺跡〇〇地点、〇〇地区と改称された。以下では金沢城下町遺跡内の遺跡は、金沢城下町遺跡を省略し、〇〇地点、〇〇地区と表記し、金沢城跡内については第4～5表の調査箇所名で表記する)。

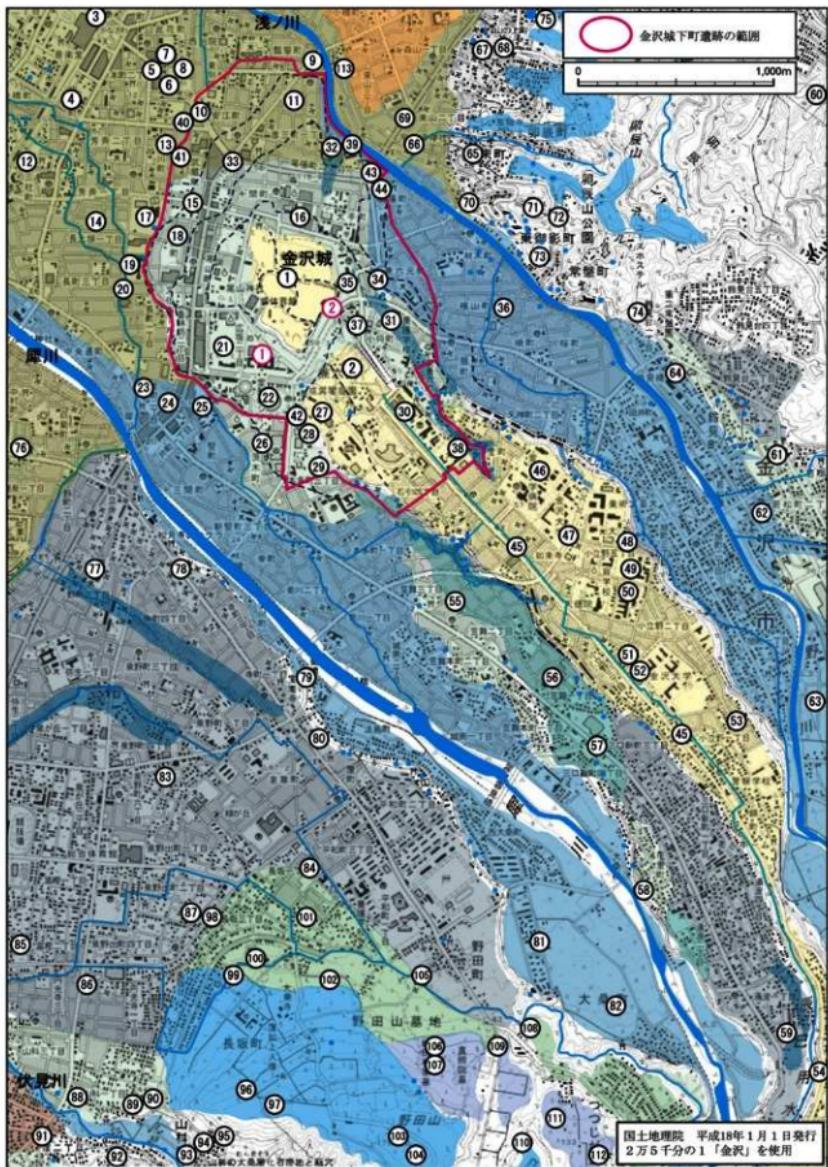
旧石器時代の遺跡は、石川橋前土橋、車橋、丸の内7番地点の発掘調査で、近世の整地土等から旧石器時代後半期と推定されたナイフ形石器、縦長剥片等が出土しており、低丘陵での遺跡のあり方を示すものとして注目される。また、丸の内7番地点では縄文時代草創期の有舌尖頭器も出土し、矢柄研磨器が出土した小立野台地上流の館山町ウワノヤマ遺跡[福垣重之・六川啓太 2006]、有舌尖頭器が出土した対岸の中戸遺跡[石川県立埋蔵文化財センター 1997]との関係に興味がもたれる。

縄文時代の遺跡は比較的多く、図幅中では森本丘陵頂部を除き分布が確認される。発掘調査により様子をうかがえるのは、笠舞A遺跡[石川県教育委員会 1979、金沢市教育委員会 1989等]、前田氏（長種系）屋敷跡地区、田上遺跡群（田上西遺跡、田上北遺跡、田上東遺跡、若松遺跡、田上本町遺跡、田上南遺跡からなる。田上西遺跡が谷底平野に立地する他は笠舞IV面）[金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2000a、金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2009d他]等に限られているが、金沢城周辺部の比較的大きな面積の発掘調査では土器等遺物の確認例が多い。金沢城跡では散発的な土器、石器の出土にとどまり、城跡周辺や小立野台地上も同様で、その実態はよくわからない。

犀川右岸は、中期を中心とする大集落である笠舞A遺跡、骨製釣針等が採集されている後期末～晚期前半の笠舞B遺跡[岡本 1975]が笠舞III面に位置し、犀川左岸は、標高の高い野田II面の大桑中平遺跡[沼田 1976]で中期前半の遺物が多く採集されているが、平坦面の広がる笠舞II面（通称泉野台地）の遺跡は遺物の出土等にとどまり実態は不明である。

浅野川沿いは、前田氏（長種系）屋敷跡地区で後期の陥穴が確認され、上流の田上遺跡[金沢市史編さん委員会 1999]で縄文早期の押形文土器が採集され、田上遺跡群[金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2000a、2000b、金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003f、2004e、2005f、2006f、2009d]では土坑、陥穴等が確認されている。

弥生時代の遺跡は低地部に進出するとともに、犀川、浅野川の図幅上流側でも確認される。広坂1丁目遺跡[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005b]では中期後半の土器が出土し、後期後半の堅穴建物等が確認され、前田氏（長種系）屋敷跡地区では後期後半～終末期の方形周溝墓が造られている。高岡町地点[石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター 2002d、金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2001a、金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003b]では後期後半～終末期の土器が出土している。犀川沿いでは、金沢城より3km程上流の大桑橋遺跡や、大桑アナゲチ遺跡[金沢市教育委員会（金沢市埋蔵文化財センター）2001e]で後期頃の土器が採集、出土し、浅野川沿いでは田上遺跡群で後期の堅穴建物、掘立柱建物等の遺構が確認されている。いずれも谷底平野の挿まる地点に位置しており注目される。伏見川沿いでも雍二丁目遺跡で堅穴状遺構等の遺構が確認されているが、小立野台地では、金沢大学宝町遺跡[金沢大学埋蔵文化財調査センター 2000]での遺物の



第3図 金沢城と周辺の遺跡 (S=1/25,000) ※第1図から等高線等を省き第1・2表の

遺跡を示した。

第1表 遺跡地名表(1)

遺跡名	時代	種別等	登記事項
1 安沢城跡	旧石器～近世	城跡	(剪開)
2 豊久園遺跡	魂文、近世	庭園	(剪開)
3 木ノ新保遺跡	魂文(後)、平安(8C～9C)、奈良(後)、中世(14C～15C中)、近世	下総武家地、町人地、百姓地	奈良後、水利施設(一井原井、竹桶)、溝(聚・しがらみ)、堤防の土堤築造、林木
4 阿相町遺跡	舊生(後)、近世	町人地、下総武家地	延宝5年(1677)大矢製糸組土、近世板月用水の検出
5 木本町丁目遺跡(第1次)	近世	町人地他	堀柵土垣、櫛齿木製品多數
6 木本町丁目遺跡(第2次)	近世	町人地他	堀成土柵
7 木本町丁目遺跡(第3次)	舊生(家)、近世	町人地他	
8 木本町丁目遺跡(第4次)	近世	町屋	副治開道遺物(櫛口印、楕形鉄矛)
9 桐町遺跡	近世	上総武家地	前田氏(上野系)上尾駅。整地塀から遺物多数出土。
10 金沢城下町河原町(安江町地区)	近世	町人地、中総武家地	掘解跡(有機土炭)、泥青木製品多數、「龍山」蔵向付出土。
11 金沢城下町河原町(序二町地点)	舊生、古代、室町、近世	小総武家地	
12 木村町遺跡	古墳	古墳地→町人地	道路、耕廣、肥前の群。除人引かしら
13 王三町遺跡	古墳	墓集落	
14 穴守町遺跡	古墳	下総武家地	長政下屋敷
15 金沢城下町河原町(高岡町地区)	魂文(後)、舊生(後)、古墳、奈良、中世、近世	上総町人地、木瀬	唐石遺物、削削基、廢棄土坑、瓦面裏(瓦耳瓦残瓦で回む)、瓦灯籠地基、楓形鉄矛
16 金沢城下町河原町(前田氏・長谷川氏・岸和田氏地区)	魂文(中)、舊生(後)、古墳(16C)、奈良(平安)、中世、近世	町人地、下総武家地	夏水以前の町原遺構
17 間心寺遺跡	近世	上総武家地	
18 金沢城下町河原町(前田氏・古の森之系・岸和田氏地区)	近世	上総武家地	
19 村井町尾根遺跡	近世	上総武家地	
20 金沢城下町河原町(長町地区)	近世	中総武家地	
21 金沢城下町河原町(法螺坂1丁目地区)	平安、近世	盆地地、その他の遺跡	
22 法螺坂2丁目遺跡	魂文(後)、舊生(中)、後醍醐天皇、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世	上一小上総武家地	夏水の大火火災資料、大型土坛(廢棄土坑、地下水、池等)、青燒瓦具、陶器群、紀年木製品等の基本資料収出。
23 丙町2丁目遺跡	古墳	武家地	
24 片岡2丁目(69番)遺跡	古墳	その他の遺跡	
25 堤町遺跡	魂文	斂布地	
26 金沢城下町河原町(本多町地区)	魂文(後)、古墳、近世	下総武家地→上総武家地	宝船の大火による火災資料
27 金沢城下町河原町(本多氏上屋敷跡地区)	古墳	上総武家地	唐舟(地下堂)
28 金沢城下町河原町(本多氏下屋敷跡地区)	古墳	武家地	本多氏上屋敷。屏風石壁殘石、門跡、石碑、道路
29 金沢城下町河原町(本多氏3丁目地点)	古墳(前)、奈良、平安、鎌倉、云間	武家地	道路、水路(板門用水分流)
30 金沢城下町河原町(原村家・室家・屋敷跡地区)	古墳	屋敷跡	
31 金沢城下町河原町(原村家・室家・屋敷跡地区)	古墳	屋敷跡	
32 金沢城下町河原町(原村1丁目地点)	魂文、古墳(前)、近世	武家地	廢棄土坑
33 金沢城下町河原町(下野・青草町地区)	魂文、古代、中世、近世	町人地	
34 金沢城下町河原町(第六矢内町・第七矢内町)	古墳(前)、近世	武家地	唐、石碑
35 金沢城下町河原町(丸の内7番地)	奈良(後)、魂文(前)、神文、古墳、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世	武家地(公事場、茶敷)	範囲遺構(石砌池沼遺構、景石等)
36 橋ノ上屋敷跡	古墳	屋敷跡	
37 金沢城下町河原町(東側六五番地地区)	古墳	今宿・墓地	
38 瑞穂町遺跡	古墳	城下町	
39 金沢城西内野櫻原(上町町地区)	室町～朝國、近世	整備	表御の坂、室町～朝國の鉛於開道遺物
40 金沢城西内野櫻原(舟町地区)	舊生、近世	整備	坂、舟引通様、建物跡
41 金沢城西外野櫻原(武蔵町地区)	中世、近世	整備	築堤(舟引の坂)、坂の変更状況 土砂盛土
42 金沢城西外野櫻原(本町町1丁目地区)	古墳	整備(西外野櫻原点付材)	坂、下野系基
43 金沢城西外野櫻原(松本橋南端地区)	近世	整備	坂の変更状況確認
44 金沢城西外野櫻原(松本橋南端地区)	近世	整備	
45 池ノ原水	近世	城下町	
46 医学部附属病院地区(医学部附属病院地区)	魂文～古墳	下一小上総武家地等	地下歩夢数
47 経一寺遺跡	魂文、古墳	寺院(墓地)・中総武家地	近後初期の灰塼、池状遺構、御跡
48 宮町町遺跡(医学部保健学科地区)	近世	下一小上総武家地等	
49 小山ユニアス遺跡	古墳	武家地	湖段付大型土坑
50 小山町西日暮遺跡(旧天無院院敷園上町家屋敷)	近世	寺院、墓地	坂
51 上野町遺跡	魂文	斂布地	
52 稲荷山御塚遺跡	古墳	古墳	
53 日下野射撃場遺跡	魂文	斂布地	
54 土浦木遺跡	平安	斂布地	
55 芝原日暮遺跡	魂文(後)	盆地地	
56 足利八幡宮	魂文(前)、魂文(中)、魂文(後)、舊生(家)、奈良、平安	転落跡、盆地地	
57 三丁町遺跡	古代	盆地地	
58 大和鉄道跡	舊生(國)、奈良	盆地地	
59 清瀬遺跡	古代、中世、近世	その他の要素整修施設	
60 東山丘陵穴跡	古墳(後)	古墳	
61 若松八幡社遺跡	室町	斂布地	
62 田上遺跡	魂文(後)、魂文(早)	盆地地、転落跡	
63 田上遺跡群	魂文(中世)	転落跡	
64 鹿見鬼跡	奈良、平安	斂布地	
65 亂町遺跡	魂文	盆地地	
66 東山清水湖跡	古墳	城下町	
67 神妙門前	近世	寺院、参道	
68 三丁前遺跡	古墳	今宿、参道	
69 東山一丁目遺跡	古墳	町人地	副治開道遺構・遺物(50件)、楓形鉄矛等)
70 雪見町自遊跡	古代	斂布地	
71 宇多野城跡	不詳	城跡	
72 田代山家跡	奈良、平安	寺院	

第2表 遺跡地名表（2）

遺跡名	時代	種別等	特記事項
23 豊磐町遺跡	その他	散布地	
74 東側町遺跡	その他	散布地	
75 山ノ上高木群	古墳(後)	古墳	
76 岩泉遺跡	古墳(後)	古墳地	
77 幌坂二丁目遺跡	近世	街字	
78 武坂古戻(寺町地点)	近世	城下町	
79 法烏寺跡	礎文(中)	散布地	
80 一ノ谷遺跡	礎文(中)	散布地	
81 大畠アダチ遺跡	弥生(後)、古墳(後)、奈良・平安	集落跡	
82 大畠エコウデン遺跡	宇治・鎌倉時代	集落跡	
83 京野遺跡	礎文	古墳地	
84 田野村横浜坂遺跡	礎文	散布地	
85 土寺町遺跡	礎文、奈良・平安	散布地	
86 円光寺A遺跡	礎文(中)	古墳地	
87 桐原山遺跡	礎文	古墳地	
88 山科やなした遺跡	古墳?	古墳地	
89 山科やなした北遺跡	奈良、平安、古代、中世	古墳地、集落跡	
90 山科やわらば遺跡	古墳	古墳地	
91 広坂2丁目遺跡	弥生、古墳、古代	集落跡	
92 高尾城跡	室町	城跡	
93 山科やねつき塚遺跡	礎文(後)、奈良・平安、南北朝～室町	古墳地	
94 山科やねつき塚遺跡	礎文、奈良・平安、室町	古墳地	
95 山科寺山遺跡	古代	散布地	
96 大桑寺山遺跡	古墳	古墳地	
97 長坂古墳群5号墳(山科うわの塚)	古墳?	古墳?	
98 長坂古墳群5号墳(長坂孤庵古墳)	古墳	古墳?	
99 長坂古墳群	古墳	古墳	
100 長坂古墳	室町	城跡	
101 長坂人遺跡	不詳	古墳地	
102 長坂人遺跡	古墳	古墳地	
103 長坂古墳群6号墳(野田山三角点古墳)	古墳	古墳	
104 野田山遺跡	古墳	古墳地	
105 大桑寺山遺跡	礎文	散布地	
106 野田山墓地	近世	墓地	藤原家の墓所を中央とした古墳墓地。
107 加賀郡上柏田町墓地	近世	田柵式古墳	
108 大桑古墳南北古墳	礎文、奈良、平安	古墳地	
109 大桑古墳南北古墳	平安	古墳地	
110 小竹作業遺跡	礎文	散布地	
111 大桑寺中平遺跡	礎文(中)	古墳地	
112 つづみが丘遺跡	礎文	古墳地	
113 小桃町遺跡	元世	土器式古墳ほか	

出土にとどまる。

古墳時代も弥生時代と同様な傾向にあるが、犀川左岸の野田山周辺と小立野台地中央部に古墳が築かれ、森本丘陵では横穴墓が造られる。高岡町地点では前期の堅穴建物が確認され、中期の土器も出土している。下本多町地点[金沢市埋蔵文化財センター 1999]や彦三町一丁目地点[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2007a]では中期の遺構が確認されている。広坂1丁目遺跡では前期、後期の土器の他、車輪石や勾玉等の遺物が出土している。浅野川沿いでは、田上遺跡群で、前期の周溝墓、土坑墓、中期の堅穴建物、掘立柱建物、後期の堅穴建物等が確認されている。

小立野台地の崎浦御塚遺跡[小嶋芳孝 1979]の古墳は削平され実態不明であるが、野田山周辺では長坂古墳群等[小嶋芳孝 1978]が造られ、全長約50mを測る前方後円墳であった長坂二子塚古墳や、直径40mを測る円墳の野田山三角点古墳が知られている。

古代でも遺跡の分布傾向は大きく変わらないが、浅野川右岸、犀川右岸に点々と遺跡が並び、7世紀代からの遺跡が金沢城跡周辺に出現する。また、犀川左岸、伏見川流域でも遺跡の集中が見られる。小立野台地上流部では末窓が稼働を始める。

高岡町地点では7世紀後半の堅穴建物や、半瓦当を含む古式瓦、奈良、平安時代の掘立柱建物と、円面鏡、金具、奈良三彩等が確認されている。県庁跡地（堂形）[石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター 2010、2012、石川県教育委員会・（公財）石川県埋蔵文化財センター 2014c]でも7世紀後半から10世紀初頭の遺物が出土し、堅穴建物、掘立柱建物等の遺構が確認されている。広坂1丁目遺跡では7世紀初頭頃から11世紀の遺物が確認されるとともに、藤原宮式、平城宮式に準拠した大量の瓦、「佛」刻書土器、「寺」刻書瓦、仏器等が出土し、矩形の区画溝、掘立柱建物、堅穴建物

等が確認され、古代寺院が造営されたと考えられている。金沢城内では、橋爪門一ノ門付近で8～9世紀代の大型方形掘方で構成される掘立柱建物が確認されている。

浅野川沿いの田上遺跡群でも7世紀から続く遺構群が確認され、堅穴建物、掘立柱建物等が検出されている。仏器関連の遺物が多く出土し寺院関連施設、あるいは寺院を支える有力氏族の存在が想定され、犀川左岸、野田山墓地奥の山林寺院跡と想定される三小牛ハバ遺跡[金沢市・金沢市教育委員会 1994]との関連が考えられている。犀川左岸では大桑ジョウデン遺跡、大桑アナグチ遺跡のはか、大桑七兵衛平跡、大桑七兵衛平北遺跡等笠舞I面にも遺跡が現れ、伏見川付近は河川が山間から抜け出る付近に遺跡が集中している。

中世も分布傾向は前代と変わらない。天文15年（1546）に金沢御堂が城地に創建されたとされる。

広坂1丁目遺跡では区画溝や礎石建物、墓地等が確認され、13世紀後半頃～14世紀代に盛期を持つ居館跡、室町末～17世紀初頭は寺内町内の有力者の居住域か施設が想定されている。また、西側の県庁跡地（堂形）では、16世紀後半の館ないし寺院の区画施設と推定される溝、土壙が確認されている。一方、城の反対側に位置する丸の内7番地区では、遺構は不明であるが13世紀頃から17世紀初頭の遺物が出土している。また、隣接する石川橋白鳥堀調査区では、16世紀第三四半期頃に築造されたと考えられる鍛冶関連遺構が確認されている。高岡町遺跡では薬研堀状の溝が確認され、館跡の一部と考えられている。

低地部の木ノ新保遺跡[石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2002b、金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2005]では14世紀～15世紀の遺構、遺物が確認されている。彦三町地点[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2002]では室町期の溝が確認され、金沢城下西内懇構跡（主計町地点）では焼土層と繭羽口等が出土し、室町から戦国時代の鍛冶関連遺構が想定されている。浅野川対岸の東山1丁目遺跡では14～15世紀代と思われる遺物が出土している。

浅野川沿いの田上遺跡群では11世紀末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物等の遺構が確認され、犀川沿いの大桑ジョウデン遺跡では11世紀中葉から14世紀前葉頃の掘立柱建物、石組井戸等が確認されている。伏見川付近でも中世の遺跡が前代と同様確認されている。

近世以前の遺跡の状況を俯瞰すると、弥生時代から中世の遺跡は分布が固定的となる。この中には、扇状地に位置する木ノ新保遺跡、金沢城周辺の高岡町遺跡、県庁跡地（堂形）、広坂1丁目遺跡、丸の内7番地点のように一つの遺跡で縄文～中世の遺物、遺構が確認される遺跡がある地点と、浅野川沿いの彦三町遺跡周辺や田上遺跡群、伏見川の谷頭周辺の遺跡群のように、特定の範囲内に各時代の遺跡が分布する地点がある。犀川上流側の大桑町アナグチ遺跡、大桑ジョウデン遺跡周辺もこれに類似すると思われる。これらは推測の域を出るものではないが、小規模な移転を伴いながらも継続して集落が営まれたことを示すものと思われ、集落を営む条件が整っていた場所と考えられる。これら遺跡群は崖線幅、段丘・段差の縁、あるいは小河川縁に立地しており、水利が立地要因の一つと考えられる。金沢城周辺には空白地があるものの、こうした遺跡群がいくつか存在する状況がうかがえる。

古代には、北西の高岡町地点、南西の県庁跡地堂形、広坂1丁目遺跡で7世紀代からの集落が継続し、特に高岡町地点は古代官衙との関連、広坂1丁目遺跡は古代寺院との想定がある。北・北西の前田氏（長種系）屋敷跡地区、丸の内7番地点でも内容は判然としないが、7世紀代からの土器が出土しており、また、城内では1棟のみであるが、8～9世紀の官衙的な建物が確認されている。兼六園のある小立野台地側や、反対の尾山神社側等に空白部はあるが、律令初期から金沢城跡を取り囲むように遺跡が展開している。これらの様相からすれば、金沢城周辺が古代において一つの中心であったと想定しても間違いとは思われない。

中世の様相は判然としないが、百間堀の両端となる北東の丸の内7番地点、南西の広坂1丁目遺跡で13世紀から継続的に集落が営まれており、城地の周辺に継続して集落が営まれていたことは確実で

ある。室町～戦国期には上記に加え、彦三町遺跡や、金沢城西惣構跡（主計町地点）で遺構等が確認され、中世「山崎窪市」との関連が注目されるとともに、石川門前土橋で確認された金沢御堂期の土橋、同白鳥堀調査区で確認された鍛冶遺構群、県庁跡地（堂形）で確認された溝、土塁、新丸2次調査地区で確認された遺構群等金沢御堂期前後の姿も垣間見えるようになっては来ている。古代から中世においては文献資料的には中心地として登場することはないものの、それと遜色のない集落等が形成され、まだまだ実態は不明であるが、その展開があったことはうかがえる。

様相が一変するのは、前田氏支配のもと城下の整備が進行する慶長・元和頃以降である。粗密はあるが、扇状地や低地部、森本丘陵先端部、繩文時代を除けば不毛の地ともいえる小立野台地、泉野台地を含め分布が拡大し、近世以降の開発を如実に表している。

現在、図幅中で調査された城下町の遺跡地点数は50箇所以上を数える（第1～2表）。また、慶長年間に築造された内・外惣構の一部についても発掘調査が行われており、当初の構造や、規模を縮小しつつ存続・再生が図られる変遷過程が判明している[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2008a、2011b、2011c、2012d、2013b、2014a、木越 2013]。城下町はその後度重なる火災等の災害（寛永8年（1631）・同12年（1635）の大火等）に見舞われ、また一方で計画的整備を繰り返しながら、寛文年間（1661～1673）までには骨格が整い、以後明治時代の初めまで発展する。

城下中框に位置する遺跡として広坂1丁目遺跡、前田氏（長種系）屋敷跡地点、丸の内7番地点がある。広坂1丁目遺跡は、17世紀前半における性格はなお検討の余地はあるものの、陶磁器の優品が多く出土し、また17世紀中頃以降は高級武家の屋敷として、多様な遺構・遺物が検出されている。城下町遺跡として最大の面積が調査されており、火災の比定等、今後基準となる所見が蓄積されている。前田氏（長種系）屋敷跡地点は、寛永16年（1639）以後、標記の重臣屋敷となつたところであるが、これ以前の遺構・遺物が充実しており、初期城下町の屋敷跡と考えられている。丸の内7番地点では、16世紀後半～17世紀初頭の町屋→17世紀初頭～寛永8年大火頃の町屋→大火以降から万治2年の武家屋敷→万治2年以降の公事場・武家屋敷という城下町遺跡の成立、変遷が捉えられている。

これらの外側に位置する安江町地区・本町一丁目遺跡の各遺跡は、性格を異にするが、城下町的一般的な在り方を示す。安江町地区[金沢市・金沢市教育委員会 1997]は中級藩士・町人居住地が対象となる調査であるが、町人の物質的な優位性が読み取れる、興味深いデータが得られた。本町一丁目遺跡[金沢市・金沢市教育委員会 1995]は町人の居住地に該当し、富蔵の突札等、生活臭の強い遺物が目を引く一方、建物・井戸・土坑（粘土採取坑・廐棄土坑）等の遺構配置から、屋敷地の空間構造も追求されている。木ノ新保・三社町地点の各遺跡は、城下縁辺に所在する。木ノ新保遺跡（久昌寺）[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2004c]では同名の曹洞宗寺院の墓地に該当する、約300基に達する墓が調査され、城下の墓制を考える上で重要な成果をあげている。木ノ新保遺跡[石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター 2002b]では、墓地・農地から足軽・下級武士の屋敷地への変容を窺うことができ、三社町地点[石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター 2007]でも、農地から町人地への変化が遺構より捉えられている。いずれも城下縁辺における都市域の拡大を示す良好な事例である。

そのほか城下町から離れるが、関連の深い遺跡として戸室石切丁場跡、野田山墓地、辰巳用水が上げられる。戸室石切丁場跡[石川県金沢城調査研究所 2008b、2013a]は金沢市東部の戸室山・キゴ山周辺に広がる採石関連遺跡群であり、城内石垣の9割強を占める石材産地である。悉皆踏査により丁場の分布範囲と保存状態が確認され、戸室石（黒雲母角閃石安山岩の一種）の特性を踏まえた総合的な調査研究により丁場の構造と変遷、戸室石の石割技術など様々な点が明らかにされた。野田山墓地では、墓地移転に伴う山麓部分の調査や藩主前田家墓所の測量・試掘調査等が実施されている[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2003、2008]。辰巳用水[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2009b]

は寛永9年（1632）に開削され、終着点である金沢城では堀や庭園の水源として利用された。城内の調査でも導水管（木桶、石樋）が確認されている。上流部では用水法面を保護するための三段石垣や隧道等当時の土木技術を良好にとどめた遺構が残る。

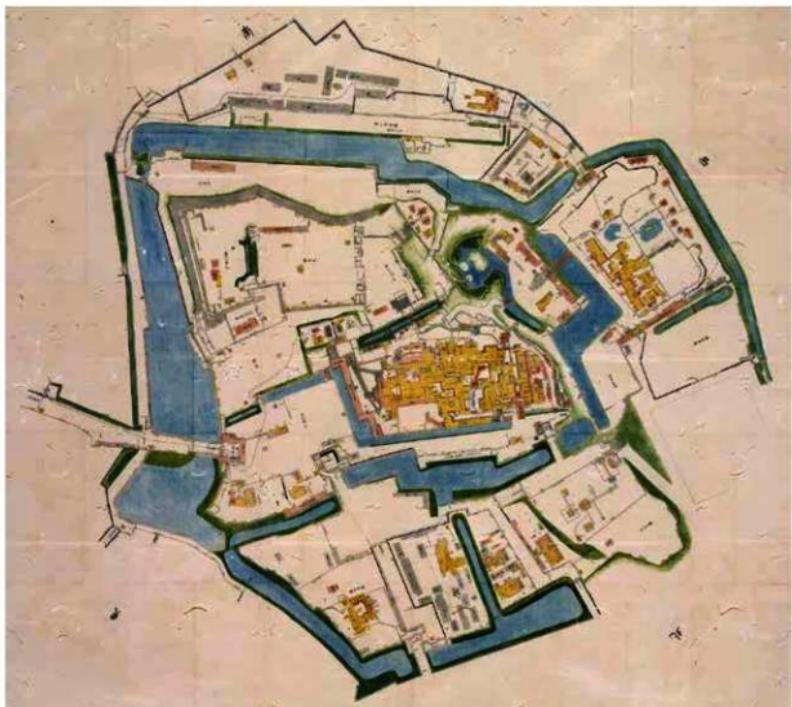
#### 第4節 金沢城の沿革

金沢城の沿革については既刊の『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書1』〔石川県金沢城調査研究所所長2008a〕が詳しく、参照されたい。ここでは、次頁の年表（第3表）をもって代え、若干の補足を付加しておきたい。

年表では、金沢城の歴史を4期に区分し、造成・災害・修築等を中心に記載した。4つの時期については、佐久間盛政の入城、そして前田家の居城となってから寛永の大火までを「初期金沢城」、寛永大火後の城内整備から宝暦の大火までを「寛永の大火後」、宝暦大火後の城内整備から廃藩までを「宝暦の大火後」、廃藩から現在までを「近代以降」とした。

初期金沢城については、その様相をうかがうに足る絵図・文献は極めて少なく、埋蔵文化財調査の所見が重要となる。

画期となった災害のうち、寛永8年（1631）の大火は、金沢城の骨格を変える契機となった。そ



第4図 「御城中壇分基絵図」(横山隆昭家蔵)

第3表 金沢城の沿革

時期	年号	西暦	出来事
前	天文15年	(1546)	本願寺別院として金沢坊（金沢御堂・尾山御坊）を設置、金沢城の前身
初期金沢城	天正 8 年	(1580)	佐久間盛政が入城、土器や堀を整備
	天正11年	(1583)	幾ヶ岳の合戦において佐久間盛政が敗北 前田利家が入城し、これ以後金沢城として前田家が14代にわたり統治
	天正14年	(1586)	天守構築、翌年に南部藩家臣北信愛が前田利家のもてなしを受け、天守をはじめ、城内の案内をされたとの記述（「北信愛覚書」）
	天正15年	(1587)	石垣職人の穴太源助に知行100俵を与え召抱える
	文禄元年	(1592)	戸室石を利用した本格的な石垣構築を開始、東ノ丸東面・北面、本丸西面の石垣を構築
	慶長 7 年	(1602)	落雷により天守焼失
	慶長 8 年	(1603)	本丸南面・三ノ丸北面、尾坂門の石垣を構築
	元和期		東ノ丸附段・百間堀縁などの石垣を構築
	元和 6 年	(1620)	本丸焼失、翌年本丸御殿などを再建
寛永の大火後	寛永 8 年	(1631)	城下町から出火、辰巳櫓に飛び火し城内も延焼【寛永の大火】 大火後の石垣構築・修築でほぼ現在の構造に近い状態に
	寛永 9 年	(1632)	犀川上流から取水する辰巳用水を施工、城内に引水され城内外の堀が水堀化
	寛永11年	(1634)	玉泉院丸に泉水や染山、御亭などを造成
	寛永17年	(1640)	20年間藩主不在、城内が荒廃
	万治 3 年	(1660)	
	寛文元年	(1661)	5代藩主綱紀がはじめて入国、城内のみならず城下町整備や新田開発など文化振興に寄与
	寛文 2 年	(1662)	
	寛文 11 年	(1671)	城内の損傷著しい石垣箇所を修築。玉泉院丸色紙短冊積み石垣もこの頃に構築か 鉛瓦が普及
	寛文 12 年		
	寛文 13 年		
宝曆の大火後	宝曆 9 年	(1759)	城下町で一萬軒以上が焼失、金沢城内でも本丸・二ノ丸・三ノ丸などの主要部が全焼する被害【宝曆の大火】
	宝曆10年	(1760)	幕府に城再建と石垣修築を願い出て、5万両を借り修築
	宝曆11年	(1761)	河北門石垣を修築
	宝曆12年	(1762)	橋爪門を再建
	宝曆13年	(1763)	五十間長屋石垣を修築
	明和 2 年	(1765)	石川門石垣を修築
	安永元年	(1772)	河北門を再建
	天明 8 年	(1788)	橋爪門続櫓台修理 五十間長屋や石川門などを再建
	文化 5 年	(1808)	二ノ丸火災
	文化 6 年	(1809)	橋爪門を再建
	寛政11年	(1799)	
	安政 2 年	(1855)	地震による石垣被害が大きく、石垣を修築
	安政 5 年	(1858)	
近代以降	明治 4 年	(1871)	兵部省（のち陸軍省）の所轄となり、多くの建物が払い下げ
	明治 9 年	(1876)	河北門二ノ門の渡櫓や櫓台石垣を撤去するよう進達
	明治14年	(1881)	二ノ丸御殿から出火し、御殿の他、菱檜・五十間長屋・橋爪門など焼失
	明治15年	(1882)	河北門一ノ門を解体、代わりに矢来門を設置
	明治40年	(1907)	辰巳櫓下の高石垣が崩落、石垣が幅200mに渡り上部2／3が取り壊され、現在残るようになく段を設けて改修
	昭和24年	(1949)	戦後、金沢大学の敷地として利用
	平成 7 年	(1995)	金沢大学の敷地を城外へ移転
	平成 8 年	(1996)	石川県が土地を取得し、金沢城公園として整備を開始
	平成20年	(2008)	国史跡に指定

れまでは本丸が中心であったが、大火を契機に二ノ丸が拡大され、ここに壯麗な御殿が営まれた。この二ノ丸を中心として定まった縄張りが、現在まで受け継がれることとなる。

一方、宝暦9年（1759）の大火は、全盛期の終わりを象徴する災害で、三階櫓や辰巳櫓といった本丸の櫓群は、二度と再建されることなく、石川門・河北門・橋爪門のいわゆる三御門も、再建までに10～30年の長期を要した。

廃藩後では、明治14年（1881）に二ノ丸御殿等が焼失したほか、あらたに城地を管轄した陸軍の手により旧来の建物は次々に撤去された。また、城の外堀・内堀の多くは埋め立てられるなどした。戦後、金沢大学の敷地になってからも様々な改変を受けた。

金沢大学移転後、平成8年（1996）に県が跡地を取得し、都市公園として整備が進められ、平成20年（2008）、国史跡に指定された。

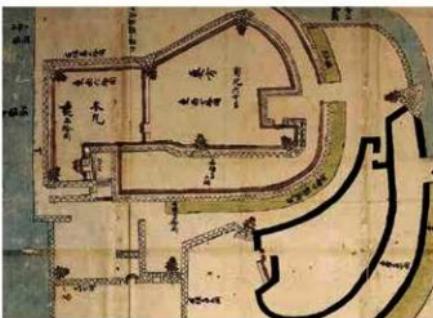
## 第5節 橋爪門の沿革

橋爪門の創建について、直接記した文献は未だ知られていないが、寛永8年（1631）の大火を契機として二ノ丸を整備したことは一次史料（「寛永八年老中奉書」）に見えるので、この時御殿等とともに創建されたと考えるのが妥当であろう。

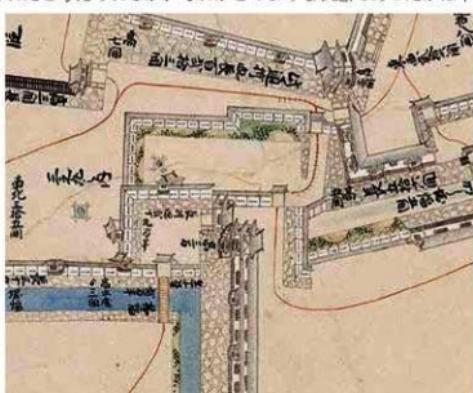
寛永大火以前の二ノ丸がどの様な状態にあったかは、確たる史料がない。主団合結記系の「加州金沢之城図」（東京大学総合図書館蔵）（第5図）では黒太線で区画された二ノ丸の東側に、食い違いになった出入り口と平入門が描かれるが、これが橋爪門の前身であるのかは不明である。これまでの調査成果等から、三ノ丸が五十間長屋の西側にまで広がり、二ノ丸は、本丸附段方から続く狭い尾根を基幹として整備されたと考えられるが、それがどのような状態であったかは不明である。

平成23・24年度の橋爪門の発掘調査で、二ノ門付近で旧地形の高まりを一部削平して寛永大火以前の整地面が形成されたことを確認しており、また、二ノ丸に上がる雁木坂の西に接する石垣台背面が造成土であり、これが寛永大火後の造成とすれば、本丸附段付近までは三ノ丸が延び、武家地等が展開していたと想定される。

橋爪門は、拡張された二ノ丸の南東隅に接するように設けられた。寛永大火後の金沢城を描く絵図の内に、延宝頃の姿を描くとされる「加賀國金沢之城之図」（金沢市立玉川図書館蔵）（第6



第5図 「加州金沢之城図」部分（東京大学総合図書館蔵）



第6図 「加賀國金沢之城之図」部分（金沢市立玉川図書館蔵）

図)、「金沢城絵図」(石川県立図書館蔵)(第8図)がある。これらを見ると橋爪門付近は、鳥瞰圖風に描く「加賀国金沢城之図」には、三ノ丸と鶴ノ丸を隔てる内堀の西端に木橋が掛けられ、高麗門形式である一ノ門、二重堀、橋爪門続櫓、櫓門形式の二ノ門に囲われた枠形の姿が描かれている。「金沢城絵図」では建物の外観が描かれていないものの同じ構成であり、二ノ門には番所部分を示す線が引かれ、枠形中央や二ノ門により「橋爪御門」の文字が見える。

二ノ門の西側は、「加賀国金沢城図」には、二ノ門、堀と門、堀を載せる石垣台に囲われた方形の空間が、「金沢城絵図」には、二ノ門、御番所と門、堀を載せる石垣台に囲われた方形の空間が描かれ、「金沢城絵図」ではこれに加え、五十間長屋石垣台に沿って二ノ丸に上がる雁木が描かれる。発掘調査では、この空間部分で、径1~2cm程度の円礫を含む整地土の上に薄く砂が堆積した平坦面を検出している。

さらにこの二つの空間の南側には、「加賀国金沢城之図」に、堀を載せる土居と本丸附段に沿う坂道の法面石垣に囲われた空間が、「金沢城絵図」に、門を中央に配する堀と土居、堀、この堀から本丸北側、本丸附段に沿う坂道の法面石垣で囲われた空間が描かれている。「金沢城絵図」では、御番所東側と石垣東端を結ぶ、空間を二分する堀が描かれる。どちらも空間東寄りに井戸が描かれている。1720~1740年頃の景観を描いたとされる「金沢城図」(横山隆昭家所蔵)(第7図)には、この空間に、東側は土蔵及び役所、西側に厩が描かれている。

この構成は、文化二ノ丸火災(文化5年(1808))以降の絵図にも描かれ変わることがなく、これらが一つのまとまりとして二ノ丸の南東隅に付随するように置かれ、二ノ丸正門に係る諸機能を果たしていたのでは思われる。

このような枠形門と足軽番所より上位の番所が付随する四角い空間が連続し、それに役所等が加わるという構成は、橋爪門ほど整った形態ではないものの、同じ三ノ丸に位置する河北門、石川門にもみられる。石川門では二ノ門を抜けた正面に与力番所が位置し、右手は太鼓堀を載せる石垣がある。与力番所の奥には、鉄砲所が置かれる。河北門では二ノ門を抜けた正面に与力番所が置かれるところは石川門と同じで、左手は板堀を設け空間を仕切る。番所と堀の奥には弓所が置かれる。このような構成は、三御門とも呼ばれた橋爪門、河北門、石川門以外には見られない。

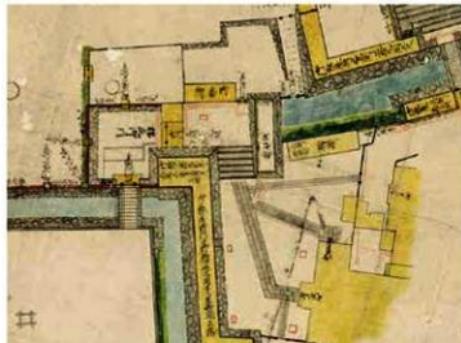
寛永大火後の橋爪門を描く絵図には、枠形内に区画を描くものがある。先にあげた「金沢城絵図」には頬当石垣から一ノ門を縁取るよう2重線が描かれ、それと平行させて2重線が間隔を開け2本引かれる。一ノ門から遠い方の2重線は、続櫓台石垣南面下端の延長線上の位置にあり、この2重線の左端は枠形石垣からやや間を開け、奥から頬当石垣まで1本線が引かれ、これらをつなぐ。また、二ノ門の両側には赤の2本線で溝と溜池と思われるものが描かれるが、その前面の溝から2重線が続櫓台石垣の角を区画するようL字状に引かれ、先の2本の2重線につながる。

これとよく似た表現が、「金沢城中地割絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)(第9図)にもみられる。こちらはすべて2重線で描かれている。続櫓台石垣の2重線は頬当石垣階段付近まで延び、再びL字状に折れ、続櫓台石垣東面にぶつかる。一ノ門床を縁どるよう描かれていた線はクランク状に折れ、続櫓台東面に引かれた線につながる。

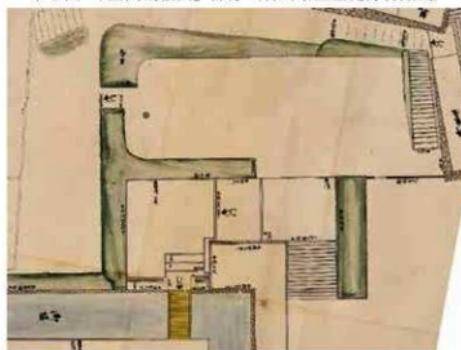
宝暦5年(1755)の幕府巡査上使閲覧用に描かれた「金沢城図 橋爪御門図」(金沢市立



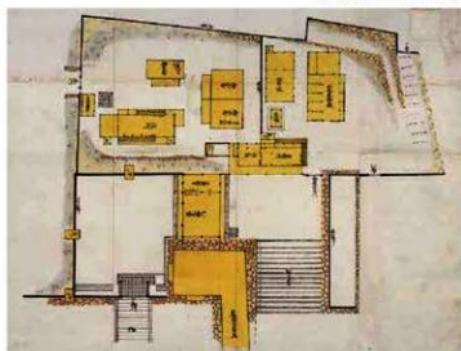
第7図 「金沢城図」部分(横山隆昭家蔵)



第8図 「金沢城絵図」部分（石川県立歴史博物館蔵）



第9図 「金沢城中地割絵図 甲号 東之御丸付段ヨリ鶴之御丸等」部分  
（金沢市立玉川図書館蔵）



第10図 「橋爪御番所並御厩諸方所土藏絵図」部分  
（石川県立歴史博物館蔵）

玉川図書館蔵)や、これと同系列の「橋爪御番所並御厩諸方土蔵図」(石川県立歴史博物館蔵)(第10図)では前述の2重線内に縦線が加わり、これが長方形の部材を並べたものとわかる。前述の2点の絵図では、一ノ門に平行して引かれた2本線が一ノ門に近い1本のみとなり、その間隔も狭くなる。続櫓台東面前に引かれた線は、頗当石垣階段につながる。これら区画が段差を表すものとすれば、宝暦大火以前の橋爪門の構形には、一ノ門の内側に通路状に段差が設けられ、それが何度も改修を受けていたとも考えられる。

また第10図では、二ノ門両側に縁石と木蓋のかかる溝、溜枠が描かれ、一ノ門床には正方形の石敷きと思われる表現がみられる。二ノ門床には石敷きが描かれていないものの、続櫓台石垣南面帽には二ノ門床にも石敷きがあったことをうかがわせる痕跡が残っている。この他、寛永大火後を描く絵図には、二ノ門を「坂下中御門」、「中御門」、一ノ門を「ほおあて御門」、木橋を「ほおあて御門橋」と記載するものがある。

当時の建物の姿は、天保15年(1844)に藩の御大工渡部知重によって編纂された「加州金沢御城來因略記」(石川県立図書館蔵)(第11図)等によって知ることができる。この図巻は、宝暦大火で焼失した本丸櫓等の再建が実現されていない中で、再建に備えるべく、宝暦大火以前の城内の立面図を集大成した図集とみられている。宝暦大火以降の姿と考えられている「橋爪御門等絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)(第12図)と比べると、一ノ門では扉の仕様が変わり、二ノ門では二階櫓部分の窓の数や、根太の本数等が異なっている。発掘調査では桁行も異なっていたことが判明しているが、基本的な構造や外観は大きく変わるものではない。なお、この「橋爪御門等絵図」は、発掘調査で確認された宝暦期の遺構とほぼ一致する「金沢御城櫓等之図 橋爪御門唐舎図」(第17図)と柱間寸法の整合性が高い。

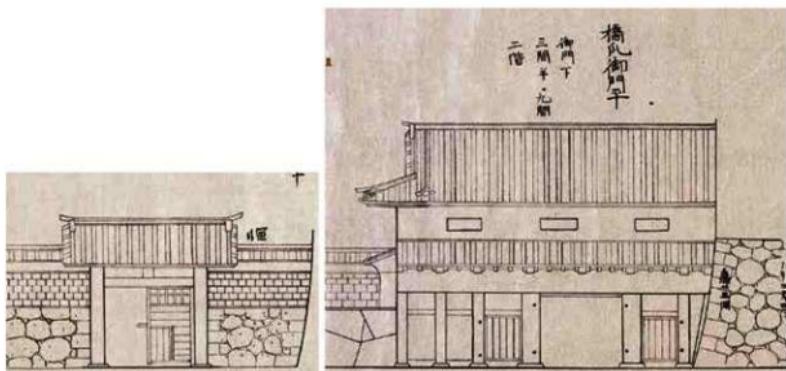
宝暦9年(1759)の大火は城内西側を除いて大半を焼き尽くし、その被害は甚大であった。「金沢城類焼後御普請等被仰付候絵図」(金沢市立玉川図書館蔵)や「加賀国金沢城絵図」(石川県立歴史博物館蔵)(第17図)によると、橋爪門付近では木橋、一ノ門、二ノ門、枱形土塀および石垣、足軽番所土塀、石垣台土塀、諸方御土蔵、五正建厩門、五十間長屋・菱櫓・続櫓等が焼失している。焼亡した菱櫓等建物群の土台である石垣上には、しばらく屏が設置されていたようである(「後藤家文書」)。

大火後の再建は、宝暦10年に幕府に修理願書が出され、同11年には二ノ丸御殿に再建に取り掛っている(「政隣記」)。橋爪門の再建については正確な着工時期はわからないが、宝暦10年、橋爪足軽番所横切合石垣の修理(「文禄年中以來之旧記」)、宝暦12年、門、番所の竣工(「諸事被仰付日記」)と、御殿とともに再建されたと考えられる。

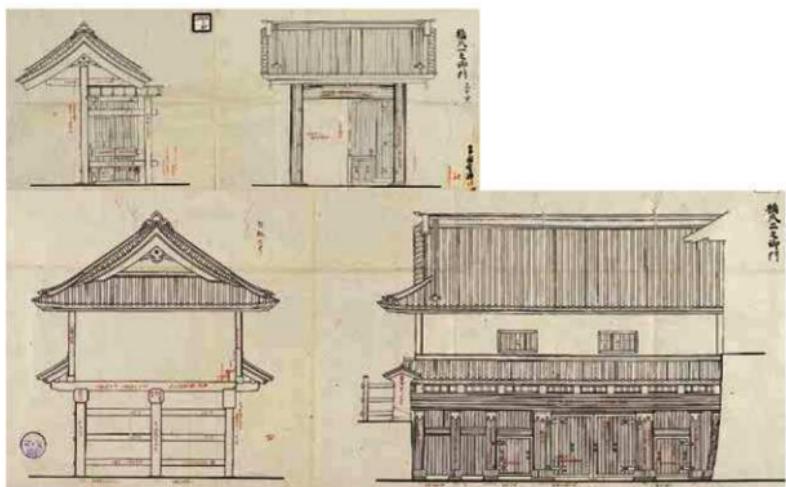
宝暦13年(1763)には、五十間長屋台石垣の大部分(南半中心)が修築された(「文禄年中以來等之旧記・宝暦十三年定銀御達始且御押之留」(後藤文庫))。これについては、五十間長屋台石垣背後より同年6月25日銘のある鐵始刻石が出土し、金沢市内波自加弥神社に伝わる神具机の裏書も類似の内容であることが改めて確認される等、宝暦13年修築を裏付ける資料が得られている。しかし、この時の修築は石垣のみで、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓等の再建は遅れる。

天明8年(1788)4月、橋爪門続櫓台石垣の修繕のため通行が禁止されている。同6月に修復が終わり(「天明八年御触并御返書留」(加賀藩史料九)、続櫓本体も天明8年に竣工している(「天明8年橋爪門続櫓台棟札」))。この時の石垣修理がどのようなものであったは、文化期の修理によってほとんどが改修されており不明である。

宝暦大火後、ようやく体をなした二ノ丸東側の建物群であったが、20年後の文化5年(1808)正月、二ノ丸で発生した火災により御殿とともに再び焼失した。この時の被災状況は「加賀国金沢城絵図」(城郭修補願図 石川県立図書館蔵)(第14図)等に見える。二ノ丸御殿およびその北側、東側の櫓、長屋土塀等が被災している。橋爪門付近では、一ノ門および左右の石垣、一ノ門左方の土塀、二ノ門、



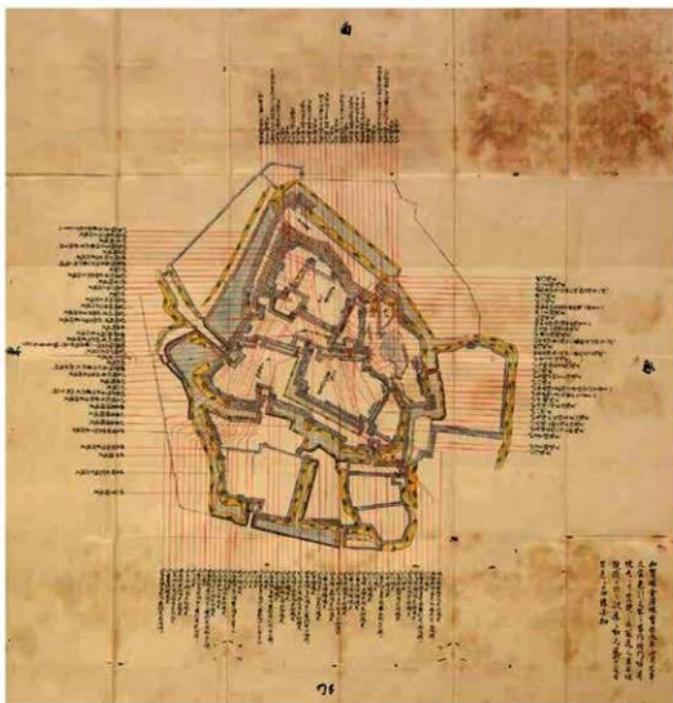
第11図 「加賀金沢御城來因略記」「橋爪一ノ門」(左)「橋爪二ノ門」(右)(石川県立図書館蔵)



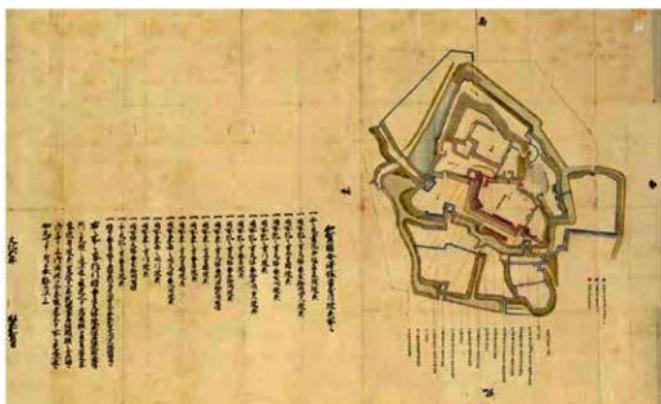
第12図 「橋爪御門等御絵図 橋爪一ノ門」上 「同 橋爪二ノ門」下 (金沢市立玉川図書館蔵)

御番所、諸方御土蔵、二ノ門雁木坂横土塀、橋爪門続櫓および石垣等が被害を受けている。

この時の復興は速やかで、文化5年4月には御造営當方御用主附で8人の奉行が任命され（「政隣記」（加能文庫））、橋爪門続櫓台石垣が文化5年6月頃（「橋爪一ノ門台並御櫓台御石垣積直指図絵図」）から11月頃、橋爪門が5年11月に斧執始め、同6年2月に上棟（「金沢城橋爪御門等門櫓札写」（金沢市立玉川図書館清水文庫））、橋爪門続櫓が6年5月に斧執始め、（同）、菱櫓が6年7月に斧執始め、（同）とあり、また、五十間長屋は6年7月に再建が完了しており（「齊広様御伝略等之内書抜」（加能文庫））。



第13図 「加賀国金沢城絵図」部分（石川県立歴史博物館蔵）



第14図 「加賀国金沢城絵図」部分（石川県立図書館蔵）

賀藩史料十一)、同7年7月29日に御造営方役所が解散している(「御造営方日並記」)。文化6~7年にかけての詳細は、御造営方奉行であった高畠厚定の日記「御造営方日並記」によっても知ることができる。

文化再建後の景観は、文政8年(1825)から天保3年(1832)の景観を描く「御城中壇分基絵図」(横山隆昭家蔵)(第20図)、天保14年(1843)から嘉永3年(1850)の景観を描く「御城分間御絵図」((公財)前田育徳会蔵)(第21図)等でうかがうことができる。

宝曆大火以前の姿と文化二ノ丸火災後再建の姿を絵図で比較すると、まず文化の二ノ丸火災以降の枠形には、宝曆大火以前の絵図に描かれていた区画を描くものが見当たらない。一ノ門床には、短冊敷きに石敷きを描く二ノ丸絵図が数枚ある。また「御城分間御絵図」には、二ノ門床に二ノ丸御殿玄関周りと同じ四半敷の敷石が描かれており、御殿絵図にも二ノ門床に四半敷きを描くものがある。敷石の詳細は「金沢御城櫓等之図 橋爪御門下舗図」(第17図)、「橋爪二之御門下舗石二拾分之一図」(金沢市立玉川図書館蔵)(第18図)で知ることができ、「橋爪二之御門下舗石二拾分之一図」には、敷石の寸法等が記載されている。なお、宝曆大火前の二ノ丸御殿玄関周りに敷石範囲を描く絵図は数点あるが、詳細を描いたものは1点のみで、短冊敷き、あるいは市松敷きが描かれている。

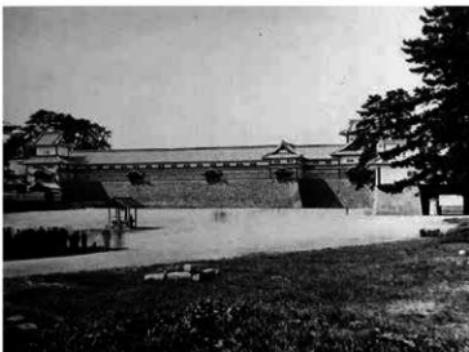
再建された建物自体は、明治初期頃に撮影された三ノ丸や橋爪門統櫓等の写真の一角に一ノ門、二ノ門屋根等が写ったものが数枚ある(第15、16図、写真図版1)。枠形については「金沢城橋爪御門・鶴ノ丸堀鉄砲狹間ノ図」(金沢市立玉川図書館蔵)(第19図)で、規模や土塀の控柱の位置等を知ることができる。

文化再建の橋爪門及び櫓・長屋は、近世を通じて存続した。加賀藩主が退転し、明治4年(1871)、城地は兵部省(のち陸軍省)の管轄となり、櫓・長屋も若干の変更はあったようであるが、概ね造営当初の姿を保ったまま、前述した明治初期の写真に威容を留めるに到了。しかし、明治14年(1881)、兵舎に改築された旧二ノ丸御殿からの失火により焼失し、近世以来の建物は姿を消した。その後は、近代を通じて変更が進んだ。

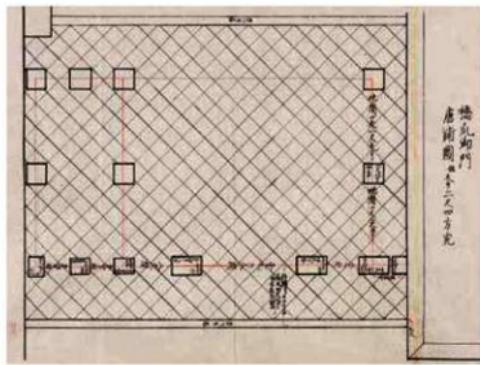
橋爪門周辺では、明治32年(1899)1月に、歩兵第七連隊第九師団より腐朽した木柵を土塀に変更する申請が陸軍大臣宛に出されているが、それに添付された「歩兵第七連隊構外木柵解除之図」(防衛研究所戦史研究センター蔵)(第22図)を見ると、すでに内堀、門、枠形、諸方御土蔵、五疊建屋等は跡形もなく、発掘調査でも確認された



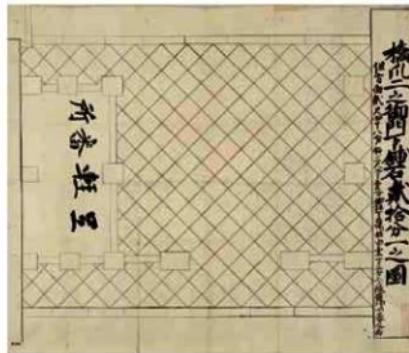
第15図 明治初期の橋爪門統櫓(金沢大学附属図書館蔵)



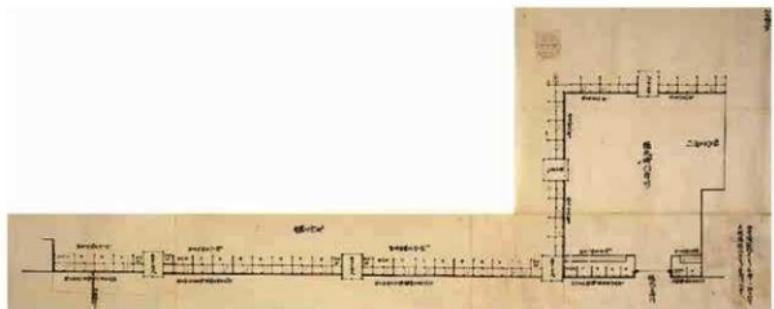
第16図 明治11年(1878)の三ノ丸(宮内庁書陵部蔵)



第17図 「金沢御城櫓等之図 橋爪御門唐舗図」部分  
(金沢市立玉川図書館蔵)



第18図 「橋爪二之御門下舗石式拾分一之図」  
(金沢市立玉川図書館蔵)



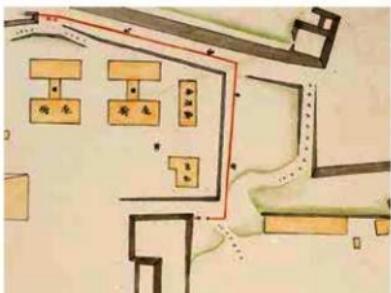
第19図 「金沢城橋爪御門・鶴ノ丸堀鉄砲狭間ノ図」部分 (金沢市立玉川図書館蔵)



第20図 「御城中壱分碁絵図」部分（横山隆昭家蔵）



第21図 「御城分間御絵図」部分 ((公財) 前田育徳会蔵)



第22図 「歩兵第七連隊構外木橋解除之圖」部分  
(防衛研究所戦史研究センター蔵)



第23図 「金澤旧城郭 第九師團司令部 歩兵第七連隊 歩兵第六旅團司令部 第九師團城内被服庫 金澤憲兵隊配置図」部分  
階調を反転  
(防衛研究所戦史研究センター蔵)

続櫓台に沿う石垣等がすでに造られている。雁木坂も改変され、木柵と通用門が上り口に置かれ、階段も変更されている。石川県立歴史博物館所蔵の「旧軍金沢城関係文書」の中の「建造物履歴表」等によれば第22図に見える浴室等が明治15年に新設されており、橋爪門周辺の敷地造成が明治14年の火災後行われたことがわかる。柵や門については不明である。発掘調査では、この木柵と思われる遺構が石垣台を取り崩した地層の上から構築されていることを確認している。橋爪門は、通路下となった二ノ門北側脇柱列、一ノ門柱掘方等を除き削平され、失われてしまった。

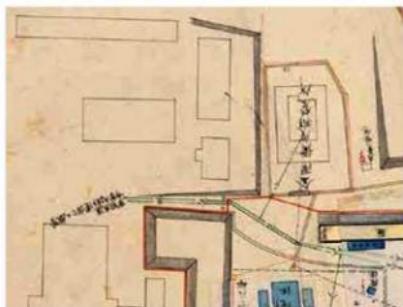
大正15年（1926）、同じく第九師団から陸軍大臣あてに出された「工作物ノ一部供用途所属変更ノ件伺」に添付された青焼図「金澤旧城郭 第九師團司令部 歩兵第七連隊 歩兵第六旅團司令部 第九師團城内被服庫 金澤憲兵隊 配置図」（防衛研究所戦史研究センター蔵）（第23図）には、前述の雁木坂に設置されていた通用門ではなく、変わって続櫓台南面に設けられた道路に発掘調査でも確認された通用門が描かれ、五疋建既のあったところには金沢衛戍拘禁所と書かれた建物が建ち、二ノ丸へ上がる階段表記はなく二ノ丸側に側溝と思われる弧状のラインが描かれる。

昭和20年の「第五十二師團司令部図」（石川県立歴史博物館蔵）（第24図）には、続櫓東面前まで延びる兵舎、軍用水道管等が描かれ、さらに改変が進んだことがうかがえる。

第二次大戦後の昭和24年（1949）以降、金沢大学のキャンパスとなって以後も改変は続いたが、唯一橋爪門続櫓台石垣が文化修築の姿を留めていた。

## 第6節 既往の調査

金沢城内における埋蔵文化財調査の概要について、現在（平成26年（2014）度）に至るまでの状



第24図 「第五十二師團司令部図」部分  
(石川県立歴史博物館蔵)



第25図 金沢城跡発掘調査位置図（～平成26年度）

第4表 金沢城跡発掘調査一覧（1）

No.	調査期間	調査年度	調査主体	調査原因	備考	文献
1	本丸	昭和43(1968)	金大沢町城跡委	学術調査	西門・造石建物跡	島上 1969・吉岡 1985・増山 1999
2	本丸周辺	昭和43(1968)	金大沢町城跡委	学術調査		島上 1969・吉岡 1985・増山 1999
3	三ノ丸	昭和43(1968)	金大沢町城跡委	学術調査	巨石石垣	島上 1969・吉岡 1985・増山 1999
4	二ノ丸	昭和43(1968)	金大沢町城跡委	学術調査	道端石垣・台地跡・施設跡付近建物跡	島上 1969・吉岡 1985・増山 1999
5	二ノ丸	昭和44(1969)	県教育委・金大	考古増備	縄文跡・排水施設・用水路	県教育委 1970・吉岡 1985・増山 1999
6	本丸	昭和44(1969)	県教育委・金大	学術調査	三門櫓・二十四間瓦屋根	県教育委 1970・吉岡 1985・増山 1999
7	四十間瓦屋	昭和50(1975)	金大	学生会社組組建設	巨石石垣・椿石庭	上野 1976・吉岡 1985・増山 1999
8	二ノ丸	昭和52(1977)	金大	学術調査	明治14年後方の御殿跡	島上木 1981・吉岡 1985・増山 1999
9	三ノ丸・四十間瓦屋周辺	昭和54(1979)	金大考古学研究室	無蓋アンダーライフ	大型砾石	島上木 1980・吉岡 1985・増山 1999
10	藤石御門丸北側斜面部	昭和56(1981)	金大考古学研究室	施設設置	石垣跡・瓦	島上木 1986・増山 1999
11	尾門櫓北側斜面部	昭和61(1986)	金大考古学研究室	複数部隊搭営防止工事	石垣跡・切石構造・瓦	島上木 1989
12	豪六園(江戸町原定地)	平成元年(1989)	御殿文セセンター	古墳改築	17世紀初期の遺構(造石建物等)	御殿文セセンター 1992
13	石川門前土塁(石垣櫓)	平成4(1992-93)	御殿文セセンター	道路整備	土塁の芯追加・16世紀半ばの遺構(遺構等)	御殿文セセンター 1997・1998
14	番櫓	平成6(1990)	御殿文セセンター	道路整備	石垣	御殿文セセンター 1995
15	内堀頭1次・兼堀	平成9(1997)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	築・横壁(埋葬された刀・鏡・鏡・美濃焼磁器)	金沢城考古研究所 2011c・2012a
16	本丸周辺	平成10・12(1998・2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	施設跡	満川 1999・浦原・土田哲 2001
17	三ノ丸頭1次	平成10(1998)	御殿文セセンター	公園整備(施設設置)	施設跡(馬頭塗装)・馬糞堆積	金沢城考古調査室 2006a
18	いもり堀第1次	平成10(1998)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	天井・瓦頭の軒・上棟・元和以前の軒・飛行	三浦 1999
19	五十間瓦屋	平成10-11(1998-99)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	石垣内部构造・地・瓦頭瓦石・17世紀初期の遺構面	金沢城考古研究所 2011c・2012a
20	内堀第2次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	西手北側石垣の建造把握	金沢城考古研究所 2011c・2012a
21	新丸頭1次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	近代に埋められた廻の範囲確定	土田 2000
22	三ノ丸頭2次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(施設設置)	遺構跡(馬頭塗装)・石垣井戸	御殿文セセンター 2002a
23	鷺ノ丸頭1次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(施設設置)	木構・石垣(京瓦用)	土田 2000
24	新丸頭2次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(施設設置)	馬頭塗装(馬頭建設)	御殿文セセンター 2002a
25	横浜市外構築系基礎	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	御殿基礎の構造把握	金沢城考古研究所 2011c・2012a
26	二ノ丸周辺	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	壁面・石垣遺構	御殿文セセンター 2001
27	三ノ丸頭3次	平成11(1999)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	土塁	金沢城考古研究所 2011c・2012a
28	鷺ノ丸頭2次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	16世紀末頃の土塁構造	浦原・土田 2001
29	いもり堀第2次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	施設後半から元和年間の石垣	浦原・土田 2001
30	北ノ丸頭1次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	火薬通路・空隙跡・石垣等	浦原・土田 2001
31	いもり堀第3次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	元和以前の軒・上棟・土頭隠井・金箔瓦	浦原・土田 2001
32	三ノ丸頭4次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	河内門石垣・石櫓・16世紀後半-末葉の遺構面	加藤 2001・金沢城考古研究所 201b
33	新丸頭3次	平成12(2000)	御殿文セセンター	公園整備(復元整備)	見附門石段・16世紀後半-末葉頃の遺構面	浦原・土田 2001
34	風呂附門等	平成13(2001)	御殿文セセンター	公園整備(風呂附塗装)	石垣・石組遺構	浦原・土田 2002
35	横浜門門形	平成13(2001)	御殿文セセンター	公園整備(風呂附塗装)	土塁・ビット	浦原・土田 2002
36	堀尾門	平成13(2001)	御殿文セセンター	公園整備(堀尾)	石垣遺構・堀尾	浦原・土田 2002
37	本丸周辺	平成14(2002)	金沢城考古調査室	学術調査	本丸D1受覆の挖掘	金沢城考古研究所 2008a
38	本丸周辺	平成15(2003)	金沢城考古調査室	学術調査	三・四世紀初期石垣石柱の調査等	金沢城考古研究所 2008a
39	いもり堀	平成15(2003)	金沢城考古調査室	公園整備(復元整備)	施設移築の検査	金沢城考古調査室 2004a
40	本丸周辺	平成16(2004)	金沢城考古調査室	学術調査	更大木大以前の2重の遺構面	金沢城考古研究所 2008a
41	いもり堀	平成16(2004)	金沢城考古調査室	公園整備(復元整備)	遺構古前の軒・横壁を確認	金沢城考古調査室 2004a
42	本丸	平成17(2005)	金沢城考古調査室	学術調査	本丸二階石垣	金沢城考古調査室 2006d
43	三章曳丸	平成17(2005)	金沢城考古調査室	公園整備(石垣修繕)	近代の改作・石垣上部の二重構造の把握	金沢城考古研究所 2010a

第5表 金沢城跡発掘調査一覧（2）

No.	調査箇所	調査年度	調査主導	調査原因	参考	文献
44	奉丸	平成18(2006)	金沢城研究調査委員会	学術調査	元御居の大規模造成、初期金沢城の礎石遺物	金沢城研究調査2007a
45	玉藻院丸(東西石垣)	平成18(2006)	金沢城研究調査委員会	山岡監修(石垣移築)	部分修復の把柄、昭和金沢城の礎石類	金沢城調査研究2010a
46	河北門	平成18(2006)	金沢城研究調査委員会	山岡監修(石垣移築)	現在状況、復原、改修、削除時期の把握	金沢城研究調査2007d・金沢城調査研究2011b
47	いもり堀	平成18(2006)	金沢城研究調査委員会	山岡監修(復元整備)	南北の位置確認	金沢城研究調査2007a
48	奉丸	平成19(2007)	金沢城跡研究室	学術調査	東本丸大火以前の大型遺構	金沢城跡研究2008d
49	石川門(行方太鼓解)	平成19(2007)	金沢城跡研究室	文化財修復(建古跡)	竹林跡の確認	金沢城調査研究2008d
50	玉藻院丸(東西石垣)	平成19(2007)	金沢城調査研究室	山岡監修(石垣移築)	改修範囲と時期、昭和金沢城の変遷の確認	金沢城調査研究2010a
51	河北門	平成19(2007)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	削除門柱遺構(慶良房焼成以前)の遺構確認	金沢城調査研究2009d・2011d
52	いもり堀	平成19(2007)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	南北の位置確認	金沢城調査研究2008a
53	奉丸	平成20(2008)	金沢城調査研究室	学術調査	東本丸大火以前の大型遺構	金沢城調査研究2008e
54	石川門(行方太鼓解)	平成20(2008)	金沢城調査研究室	文化財修復(建古跡)	竹林跡の確認	金沢城調査研究2008e
55	河北門	平成20(2008)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	石垣剥離保証(二ノ丸跡舟、一ノ門周辺)	金沢城調査研究2008e・2011b
56	いもり堀	平成20(2008)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	塗抹南北、足見川石垣、瓦葺御門の石垣、石列等	金沢城調査研究2009b
57	玉藻院丸(裏手)	平成20(2008)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	東本丸部の遺構確認	金沢城調査研究2009b
58	玉藻院丸(いもり堀付近)	平成20(2008)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	石垣剥離取扱(複数回)	金沢城調査研究2009b
59	裏六間梁塙	平成21(2009)	金沢城調査研究室	文化財修復(石垣修繕)	石垣剥離調査	金沢城調査研究2010e・金沢城裏六間梁塙・調査研究2012
60	いもり堀	平成21(2009)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	無縫合石垣の複数回確認。一部解体	金沢城調査研究2010d
61	玉藻院丸	平成21(2009)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	東本丸中央部、北部の遺構確認(中島、出島、堀石等)	金沢城調査研究2009b・2010a
62	裏六間梁塙	平成22(2010)	金沢城調査研究室	文化財修復(石垣修繕)	石垣剥離調査	金沢城裏六間梁塙・調査研究2011a
63	石川門(左方太鼓解)	平成22(2010)	金沢城調査研究室	文化財修復(建古跡)	竹林跡の確認	金沢城調査研究2011d
64	横手門	平成22(2010)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	二ノ丸門檻石根固め、石垣頭張	金沢城調査研究2011a
65	玉藻院丸	平成22(2010)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	東本丸東部の遺構確認(溝岸石垣・鉄石等)	金沢城調査研究2010c
66	裏六間梁塙	平成23(2011)	金沢城調査研究室	文化財修復(石垣修繕)	石列・石造物の現地調査	金沢城調査研究2012b・管理実習・調査実習2012
67	石川門(左方太鼓解)	平成23(2011)	金沢城調査研究室	文化財修復(建古跡)	竹林跡の確認	金沢城調査研究2012b
68	横手門	平成23(2011)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	二ノ丸門檻石根固め、石垣頭張、波音御頭張	金沢城調査研究2012b
69	玉藻院丸	平成23(2011)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	赤鉛錆御頭張石垣下部の遺構確認	金沢城調査研究2012b
70	横手門	平成24(2012)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	石垣用石、竹筋頭張	金沢城調査研究2013a
71	玉藻院丸	平成24(2012)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	赤鉛錆御頭張石垣下部と萬引頭上部の遺構確認	金沢城調査研究2013b
72	玉藻院丸	平成25(2013)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	近傍御頭張の土壘確認	金沢城調査研究2014
73	裏ノ丸	平成26(2014)	金沢城調査研究室	保存目的調査	裏ノ丸周辺の遺構確認	
74	玉藻院丸	平成26(2014)	金沢城調査研究室	山岡監修(復元整備)	波音門・延多門脚の遺構確認	
A	御行跡地(堂形)	平成26(2014)	御行跡地センター	都心地区整備(藤田謙調査)	後木(堂形)の遺構調査	伊藤2004・御行跡地センター 2010
B	想行跡地(堂形)	平成16(2004)	御行跡地センター	都心地区整備(藤田謙調査)	足利系御行跡地	伊藤2004・御行跡地センター 2010
C	想行跡地(堂形)	平成19(2007)	御行跡地センター	都心地区整備(施設復元)	古代・近世の遺構調査	伊藤2004・御行跡地センター 2012
D	想行跡地(堂形)	平成20(2008)	御行跡地センター	都心地区整備(施設復元)	史跡・建物、石垣、頭張、古代・中世の遺構調査	伊藤2008・御行跡地センター 2012
E	想行跡地(堂形)	平成21(2012)	御行跡地センター	都心地区整備(施設復元)	石列・石垣遺構	柳谷2013・(公財)御行跡地センター 2014

担当者：石川県教育委員会　　担当文書センター：石川県立歴史文化財センター

御行跡地センター：石行跡地教育委員会・御行跡地歴史文化財センター（2013年から公財財団法人）

金沢城研究調査室・石川県教育委員会事務局文化財課・石川城研究調査室

金沢城調査研究所・石川県金沢城・東六間梁管理事務所・石川県金沢城調査研究室

況を第25図・第4～5表にまとめた。平成22年（2010）度までの内容については、金沢城の沿革と同様に『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書Ⅰ』で詳述しており、第1章でも少し触れているので以下では要約に留める。

金沢城跡における埋蔵文化財調査は、昭和43年（1968）・同44年（1969）が金沢城跡の埋蔵文化財調査の端緒で、43年は金沢大学金沢城学術調査委員会、44年は大学・石川県教育委員会が調査主体である。二ノ丸御殿、本丸三階櫓等、金沢城の中枢域を対象とした極めて重要な調査であった。昭和50～61年には金沢大学が主体となり大学施設設置工事に伴う調査が実施された。

平成3年（1991）・同4年（1992）は、金沢御堂・金沢城調査委員会が組織され、主要遺構の縦密な踏査が行なわれた。平成4～6年には都市計画道路整備に伴い、石川県立埋蔵文化財センターが石川門前土橋、車橋門の一部で調査を実施している。

平成8年（1996）、石川県が金沢城跡の用地を国から取得し金沢城公園整備事業が開始され、平成9～13年にかけて石川県立埋蔵文化財センター（平成10年以降は（財）石川県埋蔵文化財センター）が二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓、本丸附段、三ノ丸等の調査を実施している。特に二ノ丸内堀・菱櫓等の調査は、今まで受け継がれている金沢城の姿が、寛永8年（1631）の大火以後であることを明らかにした点、金沢城の石垣編年の基礎等、金沢城の調査史で大きな画期となった。

平成13年（2001）、石川県教育委員会文化財課に金沢城研究調査室（平成19年度に石川県金沢城調査研究所に改組）が開設され、翌年より絵図・文献、埋蔵文化財、建造物、石垣等伝統技術の4分野から総合的な調査研究が開始された。埋蔵文化財確認調査事業は初期金沢城の解明を目的として平成14年度から継続的に実施されている。調査では本丸・東ノ丸を中心にして石垣の構築過程、本丸大手通路（虎口）の変遷過程、本丸の造成状況、庭園遺構の検出等多くの成果がある。

平成15年（2003）度以降、金沢城公園整備事業に係る調査が再開され、現在まで継続している。この他、都心地区整備推進事業（県庁跡地（堂形）・県教育委員会事業（石川門左右太鼓塀）に係る調査がある。以下に主な事業を挙げる。

- ・平成15・16・18～19年度 いもり堀確認調査
- ・平成17～19年度 玉泉院丸南西石垣の修築に係る調査
- ・平成18～20年度 河北門の復元整備に係る調査
- ・平成20年度～26年度 玉泉院丸の確認調査
- ・平成22年度～24年度 橋爪門の復元整備に係る調査
- ・平成15・16・20・21・24年度 県庁跡地（堂形）の調査
- ・平成19・20・22・23年度 石川門（付属太鼓塀）の調査

橋爪門は、平成22年度からの調査で、既に復元整備された一ノ門以外の枱形部分と二ノ門部分、二ノ門から石垣台付近を調査範囲とした。遺構は近代以降の改変により大きく失われていたが、礎石根固め遺構や二ノ門下の石組暗渠、続櫓台石垣の痕跡等から寛永以降の二ノ門の規模と変遷等が確認された。玉泉院丸庭園は平成20年度からの調査で、庭園を構成する池や島、滝石組、色紙短冊積石垣下滝壺の石組等の遺構を検出し、庭園最終段階の地形や池に至るまでの水の流れを明らかにした。

### 3章 鶴ノ丸調査の遺構

#### 第1節 概要

鶴ノ丸の発掘調査は、平成9年（1997）から行われた金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査の一環として実施されたもので、平成11年（1999）に行われた第1次調査に始まり、平成12年（2000）に第2次調査が行われた。平成13年（2001）には橋爪門枠形調査が行われ、3箇年にわたり橋爪門枠形の調査が行われた。

鶴ノ丸調査を含め橋爪門周辺にて行われた調査については、第26図にて調査地点図を掲載した。

##### 1. 鶴ノ丸第2次調査

鶴ノ丸第2次調査は、平成12年（2000）に鶴ノ丸北面（内堀東部南岸）にて行われた調査である。調査を行うに当たり、調査区北西部で確認されたコンクリート建物基礎の掘方を基準に調査区を南北に分け、北側をN区、南側をS区とした。調査区東側から順にレンガ枠東端部までを1区、レンガ枠中央までを2区、コンクリート建物基礎掘方東端部までを3区、それより西側を4区とした。

##### 基本層序

鶴ノ丸第2次調査区では、上部の近代以降の土層を除き大別してA～D及び黒ボク層の5つの層に分けることができる。

近現代の削平を受け、橋爪門枠形に伴う遺構は確認できておらず全て橋爪門創建以前の遺構になる。

**A層** 近世層。上部は近現代の削平を受けている。全体的に黄褐色系の砂質土を主体としている。

最下層には戸室チップを含む灰色系の砂質土を含む。検出時の標高は43.1m前後を測り、10～20cm程の厚みで水平を意識した整地が行われていると思われる。橋爪門枠形に伴うような遺構は確認されず、寛永の大火までに造成されたものとみられる。

**B層** 近世層。濁暗灰褐色系の砂質土を主体とし、礫や炭粒を含む。主に調査区西側にて遺構を確認している。検出時の標高は42.8～43.0m前後を測る。調査区中央から西側ではA層同様に水平を意識した整地と思われる。

**C層** 近世層。主に黄～暗褐色系の粘砂質土を主体とするが、調査区東側では2～10cm程の石を多量に含む灰褐色系の砂質土層が展開する。調査区中央から南側にかけて遺構を確認している。検出時の標高は42.8～42.9m前後を測る。

**D層** 近世層。調査区のはば全域で遺構を確認している。しまりのある黒褐色系の土を主体とし、地山由来の黄褐色系の粘質土ブロックを含む。検出時の標高は42.8～43.0m前後を測り、調査区の東側と西側とで検出高が大きく異なる。東側では遺構の影響から南から北東方向へ向けて緩やかに落ち込んでおり、最下面は42.4m前後まで達する。

D層を基盤とする遺構は、上面から掘り込むものと下面から掘り込むものとの2種確認されており、上面をDa層、下面をDb層とした。どちらも黒褐色系の土を主体とするが、Db層では1cm以下の遺物片や礫等を含む。調査区南東部では、この2層の間に濁白色系シルト質土が入り込む。

調査区東側の土層断面図（第29図 2000-1-1）では、B・C層が確認されておらず、地形的に東側が高くなっている可能性がある。

**黒ボク層** 黒褐色の黒ボク層。調査区南西部隅にて遺構（SK14）を確認しており、そこから土師器片（第101図 P27）が出土している。検出時の標高は42.6m前後を測る。出土した遺物から、

古代～中世を含む可能性が考えられる。

## 2. 橋爪門枡形調査区

橋爪門枡形調査は平成13年（2001）に実施され、橋爪門一ノ門南西側に位置する。鶴ノ丸第2次調査区と同様に寛永8年（1631）の火災以後、橋爪門及びその枡形創建の際に組み込まれた部分に相当する。鶴ノ丸第2次調査区同様に近現代の改変を大きく受けているが、改変を免れた箇所から橋爪門創建以前とみられる層を確認している。

### 基本層序

橋爪門枡形調査区では、当時行われた工事に伴う盛土を含め、大別してA～Xの12の層に分けることができ、これは鶴ノ丸第2次調査の大別A～黒ボク層に相当する。

鶴ノ丸第2次調査にて確認された層序と整合性を図る為、一部順序の分化や入替を行っている。

**A～C<sub>1-5</sub>・D層** 近現代層。公園期（A層）・大学期（B層）・軍隊期（C<sub>1-5</sub>～D層）に相当する。

**A層** 公園整備工事に伴う盛土。橙褐色～褐灰色系の土を主体とし、間にコンクリート粉末の層を持つ。標高は最高値で44.2m前後を測る。

**B層** 金沢大学時代の整地土。検出高は44.0m前後を測る。全体的に礫やレンガ片などを含んだ暗褐色～暗黃褐色系の土を主体としており、間には大学期のAs基盤層とされる玉砂利層（B<sub>9</sub>層）が展開している。基盤層より下層では瓦片・円礫・ガラスを含む灰褐色系の土で盛土している。

**C<sub>1-5</sub>層** 軍隊期の整地土。黄褐色～灰褐色系の砂質土を主体としており、A・B層と比べてやや薄く、水平を意識した整地がみられる。検出高は43.4m前後、南側にて掘り込みを確認している。

**D層** C<sub>2</sub>層から切り込む掘り込みの埋土で、小礫を含む灰褐色土。検出高は43.3m前後を測る。

**C<sub>6</sub>・E～G<sub>1-3</sub>層** 近世層。鶴ノ丸第2次調査区基本層序A層前後に相当する。

**C<sub>6</sub>層** 地山系のブロックを多量に含む黄褐色土層。検出高は43.3m前後を測る。橋爪門調査区にてC<sub>6</sub>層と同一の層（第85回2012-34：99層）を確認しており、橋爪門調査区基本層序Ⅲb層・鶴ノ丸第2次調査区基本層序A層以前の層に相当する近世整地層とした。

**E層** G<sub>1</sub>層から切り込む掘り込みの埋土。灰褐色系の土を主体とし、検出高は43.3m前後を測る。調査区北側へ向けて深く切り込む。

**F層** E層同様にG<sub>1</sub>層から切り込む掘り込みの埋土。黄褐色土粒を含むややしまりの弱い灰褐色土で、検出高は43.2m前後を測る。

**G<sub>1-3</sub>層** 鶴ノ丸第2次調査区A層に相当する整地層で、円礫を含む灰褐色系の砂質土を主体とする。検出高は43.2m前後を測る。

**G<sub>4-8</sub>～J層** 近世層。鶴ノ丸第2次調査区基本層序B～D層に相当する。

**G<sub>4-8</sub>層** 黄褐色系の砂質土を主体とする整地層で、検出高は43.0m前後を測る。下層部は暗灰褐色～黒褐色系の土が薄く堆積するが、上層は黄褐色～黄灰色系の砂質土を薄く互層状に整地している。

**H層** 西壁中央下層にて確認された遺構の埋土。灰褐色系の砂質土を主体としており、検出高は42.7m前後を測る。最下層の上面には薄い炭層を確認している。

**I層** 西壁北側下層にて確認された遺構の埋土。検出高は42.4m前後を測り、黄褐色土ブロックを含んだ黒褐色土を主体とする。

**J層** 黑褐色系の土を主体とした整地層。検出高は42.7m前後を測る。黒ボク層を標高42.5m前後にまで掘り下げた上に水平を意識した丁寧な造成を行っている。最上面はしまりが強く、径1cm程の玉砂利が薄く展開している。

第26図 城内の調査地点(橋爪門周辺) (S=1/400)



**X層** 鶴ノ丸第2次調査区基本層序黒ボク層に相当する。

南が最も高く、北へ向けて段状に削平を受けている。断面から確認できる検出高は42.8mを測る。

## 第2節 鶴ノ丸第2次調査区の遺構

鶴ノ丸第2次調査区では、前述したとおり大別してA～D層及び黒ボク層の5つの層を確認しており、遺構は各層の検出面やトレンチ等の断面にて確認した。大別層内における細分層については、部分的な造成も確認していることから、遺構が所属する細分層が判断できないものも存在する。

各遺構の時期については、他の遺構との先後関係や掘り込み面の標高、遺構出土遺物から読みとれる時期等を加味して判断している。

### A層

近代整地層を除去して最初に確認される近世層。後世の造成による削平を受けており、遺構は確認していない。調査区の西側では最下層部に戸室チップ層を含む層を確認している。

### B層

調査区の西側上面で大小の遺構が確認されている。東側では、礫を多量に含む礫層を確認している。

#### P2 [第27図]

調査区北西部N4区、コンクリート建物基礎内側にて検出した。長軸52cm、短軸47cmの円形をなしており、検出面からの深さは20cmを測る。後述するP3、P4のように根固め石は確認されていない。

#### P3 [第27図]

調査区北西部N4区、コンクリート建物基礎内側より検出。長軸60cm、短軸52cmを測る円形の遺構である。遺構を検出した面が遺構の底面にまで達し、根固め石とみられる礫を多数確認していることから、建物基礎と考えられる。遺構の検出状況から、時期的にはB層面より新しい時期の遺構と考えられる。

#### P4 [第27図]

調査区北西部N4区、コンクリート建物基礎内側にて検出した。長軸52cm、短軸50cmを測る円形をなしている。P3と同様に遺構の検出面が遺構の底面近くにまで達しており、底部には根固め石とみられる礫を多数確認していることから、こちらも建物基礎であったと考えられる。遺構の検出状況から、時期的にはB層面より新しい時期の遺構と考えられる。

#### P1・P6 [第30図]

調査区南西部S4区、B層上面にて確認された。後述するSK1及びSK5の間に位置する。長軸82cm、短軸46cm、検出面からの深さは18cmを測る梢円形を呈している。

P6はC層上面にて確認した遺構だが、P1の直下であり、同一の遺構と考えた。

#### SK5 [第30図]

調査区南西部、B層上面より確認した。平面形は長軸180cm、短軸177cmの円形を呈している。断面の一部が崩落したため、図示できないが、上部は整地土で埋め戻されていた。

袋状を呈し、底面は比較的平坦である。遺構壁面（第30図 2000-2-2）では黒ボク層を基盤とするSK14の埋土を確認することができ、さらに遺構南側では後述するSK6により壁面を削られている。

#### SK6 [第30図]

調査区南西部S4区、B層上面および南壁断面（第30図 2000-3-1）にて確認。北端部は先述したSK5を削っており、遺構の大半は調査区の外へ展開しているものとみられる。南壁断面では、D層を基盤とするSK13を削平しているのが確認できる。栓出した範囲では長軸120cm、短軸100cmを測り、

平面は梢円形を、南壁断面では漏斗状を呈している。

## C層

調査区南側中央部にて遺構を確認している。

### SK1 [第31図]

調査区中央部S3~4区、南北アゼ断面（第31図 2000-1-2）にて確認した。C層から切り込み、長軸95cm、短軸70cm、検出面からの深さは44cmを測る。遺構南側に深い箇所が見受けられる。

### SK4、SK7、SK10 [第27図]

調査区南側S1~4区、C層上面にて確認した。長軸231cm、短軸142cm、検出面からの深さ102cmを測る。東側にはテラス面を持つのが確認できる。遺構内側には軍隊期に敷設されたとみられる煉瓦枠が存在しており、遺構内部の様相を確認することはできなかった。西側に接するSK8より新しい。調査当時は個別の遺構としていたが、精査の結果同一の遺構と考えた。

## D層

調査区東側にて大型の遺構を確認している。概要でも述べたように、調査区南部ではD層中に濁白色系シルト質土が確認されており、それより上部をDa層・下部をDb層に細分している。

### -Da層検出-

### P5 [第27図]

調査区南中央部S3区、Da層にて確認。円形の遺構で、長軸49cm、短軸44cm、検出面からの深さは52cmを測る。検出面の直下に濁白色系シルト質土が確認でき、濁白色系シルト質土が確認できる範囲の西端に位置している。

### P7 [第28図]

調査区南東部S1区、Da層にて確認、長軸40cm、短軸38cmの円形をなす。断面（第28図 2000-3-2）にて濁白色系シルトを掘り込んでいることを確認することができる。SK3より新しい。

### P8 [第27図]

調査区北東部N2区Da層にて確認、長軸60cm、短軸50cmを測る円形をなし、検出面からの深さは15cmを測る。東側に接するP9及びSK3・SK2より新しい。

### P9 [第27図]

調査区北東部N2区Da層にて確認。長軸77cm、短軸61cmを測る円形を停止、検出面からの深さは33cmを測る。底部は礫を含む黄褐色地山層にまで達する。

### P10 [第27図]

調査区北東部N2~N3区、SK2を掘り込む形で確認。長軸50cm、短軸38cm、検出面からの深さ31cmを測る円形をなす。底部には径20cm程の礫を1点確認している。

### P11 [第27図]

調査区北東部N2~N3区、SK2を掘り込む形で確認。長軸68cm、短軸53cm、検出面からの深さ31cmを測る円形を呈している。床面は礫を含む黄褐色の地山層にまで達する。

### SK3 [第28,29図]

調査区北東部N1~N2区、Da層及び東壁断面（第29図 2000-1-1）にて確認。一部、後世の埋設管敷設に伴う掘方等の削平を受けているものの、遺構は調査区の東側へ展開していくとみられる。遺構南側では一部P7に削られ、遺構北側の底部からはSK12が検出されている。

検出面から底面までは緩やかに傾斜する。底面は比較的平坦で、黒ボク層にまで達する。検出面からの深さは39cmを測る。この遺構埋土から出土した遺物の中に、越中瀬戸陶器皿（第100図 P14）

が出土している。山下窯（操業期間：1590～1610）にて焼成された物と考えられる。

#### SK2 [第27図]

調査区北東部N2～N3区、Da層にて確認。遺構東側のSK3、南西隅のSK1等周辺の遺構に削平されている。

#### SK8 [第27図]

調査区南西部S4区、Da層にて確認。東側をSK7、西側をSK5に削られており、その全景をうかがうことはできないが、検出部分は楕円形に近い形状をしている。確認できる範囲では長軸88cm、短軸74cm、検出面からの深さは52cmを測る。

#### -Db層検出-

#### P12 [第27図]

調査区南東部S2区、Db層にて確認。P5の南東に接する遺構である。SK4により削られており、SK4の立ち上がりに埋土の状況を確認できる。

#### P13 [第27図]

調査区南東部S3区、Db層にて確認。SK10の北側に接する。

#### P14 [第27図]

調査区南東部S3区、Db層にて確認。P13の北側及びSK1の南側に接する。

#### SK9 [第27図]

調査区中央北部N3区、Db層にて確認。東側上部をSK2に削られている。長軸57cm、短軸49cm、検出面からの深さ62cmを測る。底部は礫を含む黄褐色の地山層にまで達する。

#### SK12 [第27図]

調査区北東部N2区、Db層にて確認。SK3の底面から検出された遺構で、長軸62cm、短軸44cm、検出面からの深さ27cmを測る。底部は礫を含む黄褐色の地山層にまで達している。

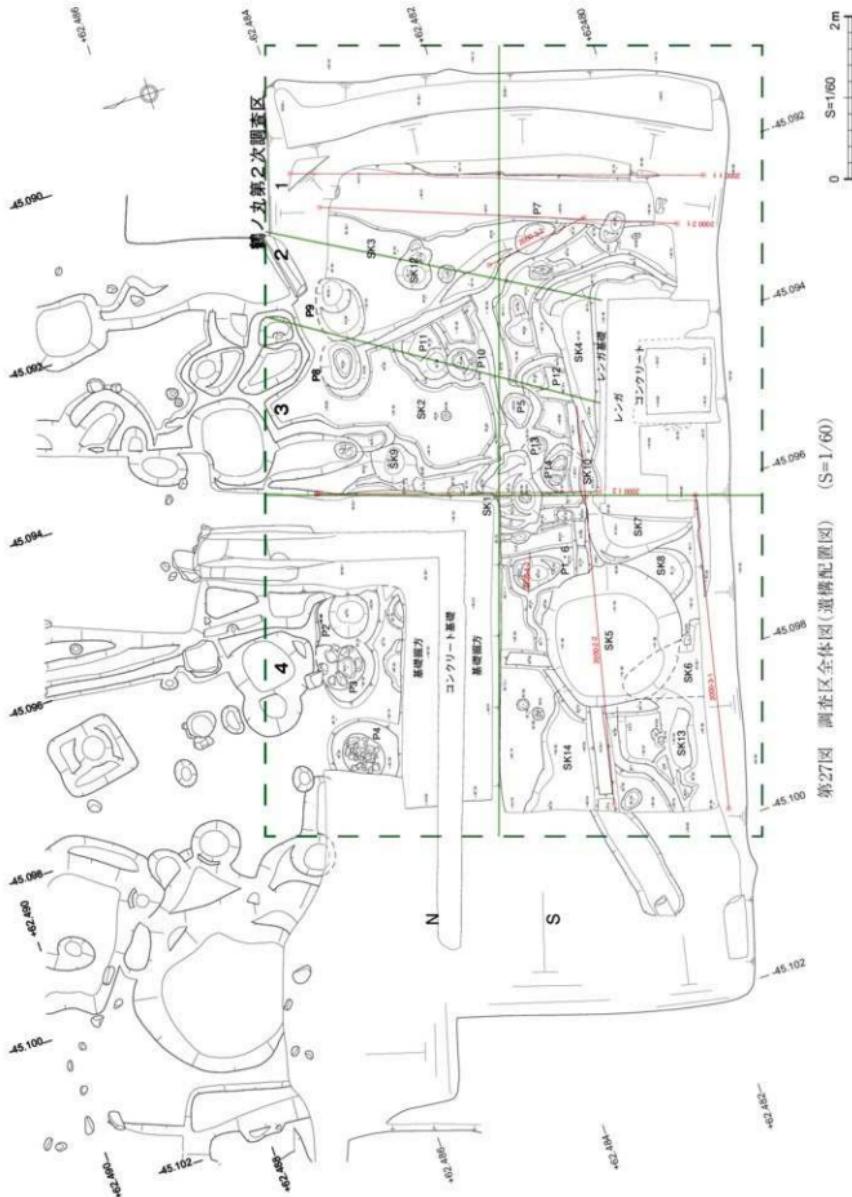
#### SK13 [第30図]

調査区南西部S4区、Db層及び南壁断面（第30図 2000-3-1）にて確認。南壁断面のほぼ全幅にて展開しており、かなり大型の遺構であったとみられるが、SK5をはじめとする周辺の遺構により削られており、全形をうかがうことはできない。北側にはテラス面を持つ。南壁断面から確認できる範囲で、長軸219cm、深さ36cmを測り、更に調査区の南側へ展開しているものとみられる。

#### 黒ボク層

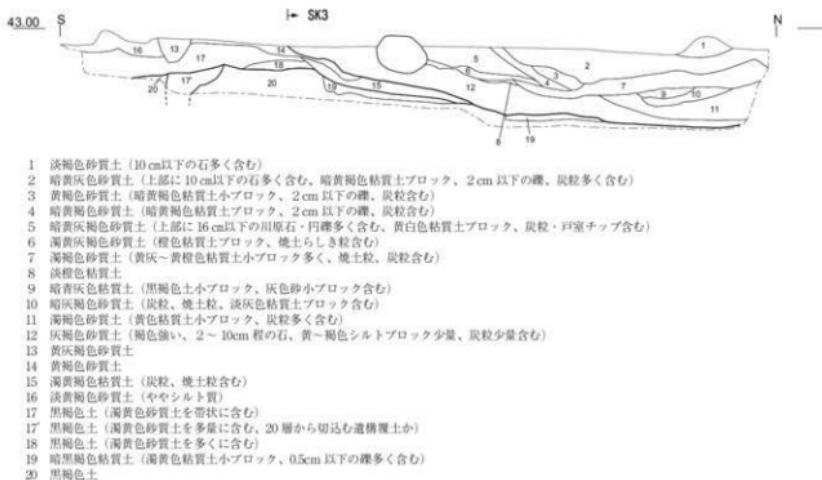
#### SK14 [第27図]

調査区南西部S4区、黒ボク層より確認。SK5、SK13により削られており、全容をうかがうことはできない。確認できる範囲で長軸186cm、短軸154cm、検出面からの深さは20cmを測り、さらに調査区の西側へ展開しているものと考えられる。ここからは土師器の小片が出土している。



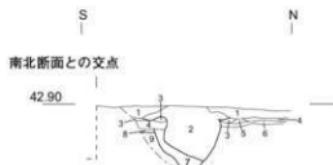
2000-2-1 東側断面 1/30

SK3	1 ~ 12
D層	13 ~ 19
D <sub>a</sub> 層	14 ~ 18
黒ボク層	14から掘り込む道構か 17°
D <sub>b</sub> 層	19
黒ボク	20



2000-3-2 P7断面 1/30

D層	1 ~ 8
D <sub>a</sub> 層	1.3 ~ 5
P7	2
白粘土	6
D <sub>b</sub> 層	7
D <sub>b</sub> 層	8
黒ボク	9



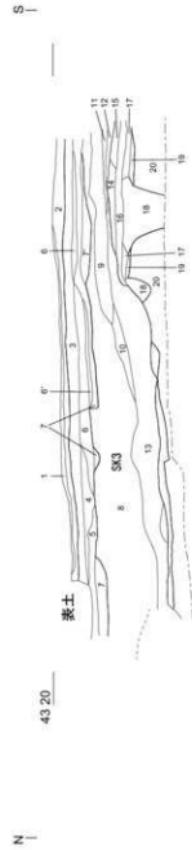
- 1 濡潤褐色土（焼土・礫・炭混じる）
- 2 黑褐色土（淡褐色粘質土ブロック（地山ブロック）を多量に含む）
- 3 黑褐色粘質土（しまりあり）
- 4 暗褐色粘質土（しまりあり、橙色粘質土ブロック含む）
- 5 濡潤褐色土（淡褐色粘質土ブロック（地山ブロック）を多量に含む）
- 6 淡褐色シルト質土
- 7 黑褐色土（淡褐色粘質土ブロック（地山ブロック）を多く含む）
- 8 黑褐色土（非常にしまりあり）
- 9 黑褐色土

0 S=1/30 1m

第28図 土層断面図 NS1区 (S=1/30)

2000-1-1 東壁土層断面 1/30

表土 1 ~ 2  
A 層 3 ~ 7  
S3 8 ~ 13  
D 層 14 ~ 19  
B 層 14 ~ 17  
D<sub>b</sub> 層 19  
黒泥土 20



— 55 —

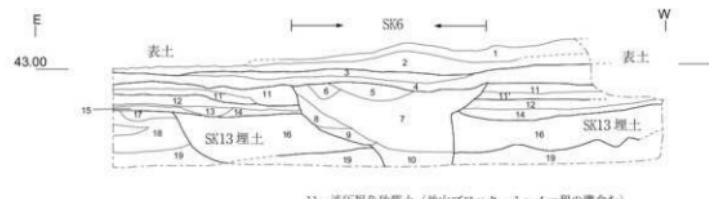
- 1 棕褐色砂質土 (1 ~ 2 cm の砂礫多く含む、非常に珍質多い) 300-3-4 2 級に付記
- 2 棕褐色質土 (1 ~ 2 cm の砂礫多く含む、非常に珍質多い)
- 3 棕褐色砂 (1 ~ 7 cm の石多く含む、非常に珍質多い)
- 4 棕褐色砂質土 (3 cm 以上の石多く含む、非常に珍質多い)
- 5 黄褐色砂質土 (0.5cm 以下の石の量、非常に珍質多い)
- 6 棕褐色砂質土 (非常に珍質多く含む、褐色である。1 cm 以下の石含む、日常チャツブ解・対応か)
- 6' 棕褐色砂質土 (非常によく含む、1 cm 以下の石含む、日常チャツブ解・対応か)
- 7 棕褐色砂質土 (珍少量、1 cm 以下の石含む、非常に珍質多い)
- 7' 淡褐色砂質土 (非常に珍質多い、風少量、1 cm 以下の石含む)
- 8 淡褐色砂質土 (1 cm 以下の石、風、白色砂質土プロック含む、淡褐色砂質土プロック含む)
- 9 淡褐色砂質土 (1 cm 以下の石、風、白色砂質土プロック含む)
- 10 黄褐色砂質土 (1 cm 以下の石、風含む)
- 11 白褐色砂質土 (淡褐色砂質土プロック含む)
- 12 黄褐色砂質土 (1 cm 以下の石、風少量含む)
- 13 黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土、黄色砂質土プロック含む、風、10cm 以下の石含む)
- 14 黄色砂質土 (2 cm 以上の石、黄色砂質土プロック含む)
- 15 淡褐色土 (風、棕色砂質土プロック含む)
- 16 淡褐色砂質土 (淡褐色砂質土プロック含む)
- 17 黑褐色土 (淡褐色砂質土)
- 18 黑褐色土 (淡褐色砂質土プロック) を多く含む)
- 19 黑褐色土 (淡褐色砂質土プロック、1 cm 以下の石含む、珍質多い、1 cm 以下の石含む)
- 20 黑褐色土

第29図 土層断面図 NS1区 東壁 (S=1/30)

0 S=1/30 1m

表土	1 ~ 2
A層	3 ~ 4
B層	11 ~ 11'
SG6	5 ~ 10
C層	12 ~ 15
SK13	16
D層	17 ~ 18
黒ボク	19

### 2000-3-1 南壁土層断面 1/30



- 1 灰色砂質土  
 2 棕灰色砂質土 (1 ~ 2cmの円礫多く含む) 2000-4-1 1層に対応  
 3 黑色砂質土 (5cm以下の礫多く含む、戸室チャップ層)  
 4 濡潤暗褐色砂質土  
 5 暗褐色砂質土 (2cm以下の礫、炭多く含む)  
 6 暗灰色砂質土 (2cm以下の礫、炭多く含む)  
 7 暗潤褐色砂質土 (5cm以下の石、2cm前後の本木多量に含む)  
 8 暗潤褐色粘砂質土 (黒色粘質土ブロック、地山ブロック含む)  
 9 濡灰褐色粘砂質土 (地山ブロック多く、黒色粘質土ブロック少量含む)  
 10 暗潤褐色粘砂質土 (黒色粘質土、地山ブロック少量含む)  
 11 淡灰褐色砂質土 (地山ブロック、1 ~ 4cm程の礫含む)  
 11' 淡灰褐色砂質土 (地山ブロックやや多く含む、1 ~ 4cm程の礫含む)  
 12 濡潤褐色砂質土 (白色砂質土、鉄分含む)  
 13 暗褐色粘質土 (礫や淡い砂礫多く含む)  
 14 黑褐色粘質土  
 15 滅白色砂質土  
 16 滅灰褐色砂質土 (黒色ブロック、地山ブロック、10cm以下石多く含む)  
 17 黑褐色粘質土 (桃黄色粘質土ブロック含む)  
 18 黑褐色土 (桃黄色粘質土ブロックわずかに含む)  
 19 黑褐色土

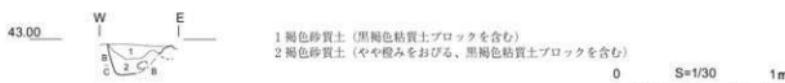
A層	1 ~ 4
B層	5 ~ 7
D層	8

### 2000-2-2 SK5 東西断面 1/30



- 1 淡褐色砂質土 (黄色粘質土ブロック、礫含む)  
 2 桃色砂質土 (礫含む)  
 3 棕色砂質土  
 4 青灰色砂質土 (3cm以下の礫含む)  
 5 暗褐色粘質土 (やや礫を含む)  
 6 暗褐色粘質土 (0.5 ~ 1cmの礫含む)  
 7 濡潤褐色砂質土  
 8 黑褐色粘質土 (濁桃色粘質土小ブロック含む)  
 SK5 埋土  
 ア 暗褐色砂質土  
 イ 暗褐色砂質土  
 ウ 暗褐色粘質土  
 エ 暗褐色砂質土  
 オ 濡潤褐色砂質土  
 カ 濡潤褐色砂質土 (やや暗褐色を含む)  
 キ 濡潤褐色粘質土  
 ク 暗褐色砂質土  
 ケ 暗褐色砂質土 (石多い)  
 コ 暗褐色砂質土 (黒色粘質土ブロック多く含む、地山ブロック含む)  
 サ 暗褐色砂質土 (黒色粘質土ブロック少量含む、地山ブロック含む)

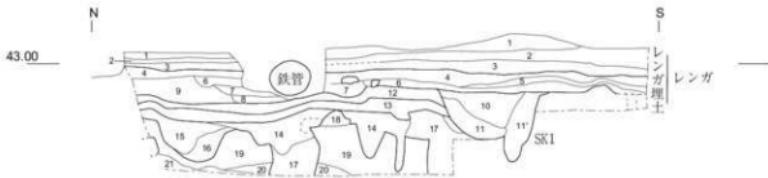
### 2000-4-2 P1 土層断面 1/30



第30図 土層断面図 S4区 (S=1/30)

2000-1-2 南北アセ断面 1/30

A層	1 ~ 3
B層	4 ~ 9
SK1	10 ~ 11'
C層	12
D層	13
黒ボクから掘り込む道標か	14 ~ 17
黒ボク	19 ~ 20
地山	21



- 1 淡灰褐色砂質土（黄色粗砂や暗褐色粘質土小ブロック含む、1~5cmの円錐多く含む）
- 2 黄褐色砂質土（炭粒少含む、最下に鉄分層、円錐多く含む）
- 3 淡褐色砂質土（0.5~2cmの塵多く含む、戸窓チップ、炭粒少量混じる）
- 4 淡褐色砂質土（淡褐色粘質土粒、炭粒含む、灰色砂ブロック含む）
- 5 暗褐色粘質土（淡褐色粘質土粒、炭粒含む）
- 6 暗褐色粘質土（炭粒含む）
- 7 淡褐色砂質土（淡褐色強粘質土、炭粒少含む）
- 8 淡褐色粘質土（暗褐色粘質土ブロック含む、炭粒含む）
- 9 暗褐色（黄色粘質土、底、5~10cmの焼土の粒多く含む）
- 10 淡褐色灰粘質土（底大量、黄色粘質土ブロック含む）
- 11 淡褐色灰粘質土（炭多く含む）
- 11' 暗褐色灰粘質土（淡褐色粘質土ブロック多量に含む、炭少含む）
- 12 黄色粘質土（黄白色シルト質土小ブロック、鉄分粒少含む）
- 13 淡褐色灰粘質土（底、5~10cmの石少量含む）
- 14 黑褐色土（黄褐色粘砂土ブロックを多量に含む）
- 15 暗褐色粘砂土（淡黄色粘質土粒含む）
- 16 暗褐色粘砂土（淡黄色粘質土粒含む）
- 17 黑褐色土（黄褐色砂質土ブロックをわずかに含む、全体的にやや砂質）
- 18 暗褐色粘土（20層より硬い、しまりあり）
- 19 黑褐色土
- 20 淡褐色土
- 21 淡褐色土

0 S=1/30 1m

第31図 土層断面図 NS3区 (S=1/30)

### 第3節 橋爪門枡形調査区の遺構

橋爪門枡形調査区では、大別してA～Xの12の層を確認している。後世の改変を著しく受けているものの、削平を免れた箇所からは近世・近代の層及び遺構を確認した。しかし調査範囲が極めて狭く、その大半を搅乱が占めていることから確認された遺構は少なく、そのほとんどが調査区壁面の断面にて確認したものとなる。

#### P1 [第32図]

調査区中央にて検出した。J2-2層から掘り込む円形の土坑。長軸30cm、短軸28cm、検出時の標高は42.5m前後、深さは80cmを測る。遺構北側に深い箇所が見受けられる。

#### P2 [第33図]

調査区西壁断面にて確認。黒ボク層を切るように垂直に伸びる遺構で、掘り込み面をP3に、遺構北側をE層に削られており、P3よりは古いものとみられる。確認できる範囲で長軸26cm、短軸23cm、検出高は42.4m前後、深さ54cmを測る。

#### P3 [第33図]

調査区西壁断面にて確認。遺構の北側をE層、南側をF層に削られているが、遺構の南北で接するP2・P4よりは新しい。確認できる範囲で長軸52cm、短軸13cm、検出高42.7m前後、深さは22cmを測る。

#### P4 [第33図]

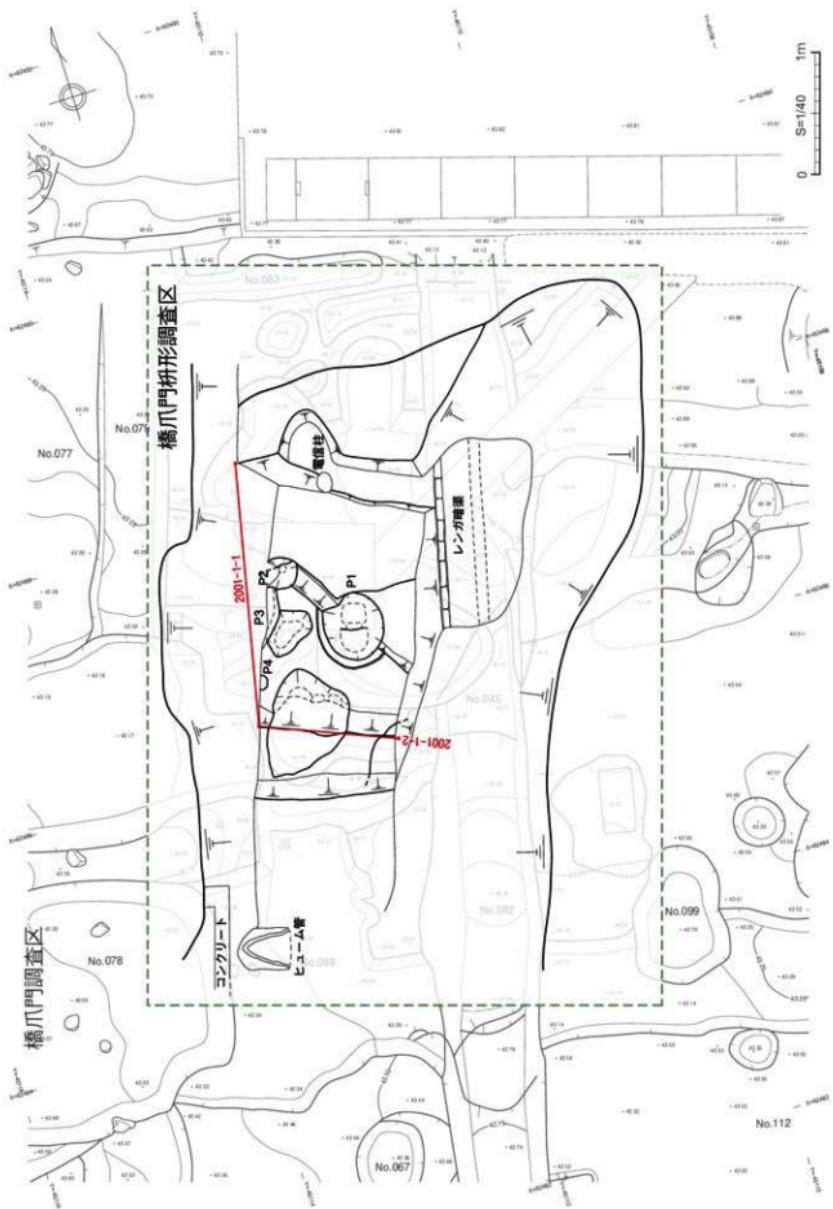
調査区西壁断面にて確認。遺構上部をF層及びH層により削られており、掘り込み面は不明だが、P1・P3と同様にJ層より掘り込む遺構か。確認できる範囲で長軸11cm、短軸8cm、検出高42.7m前後、深さ16cmを測る。

### 第4節まとめ

鶴ノ丸第2次調査区および橋爪門枡形調査区では、後世の改変による削平が著しく、橋爪門に伴う遺構を確認することはできなかった。しかし、削平を免れた箇所からは寛永の大火（1631）以前に遡る遺構を確認することができ、近世以前の土地利用の一端をうかがうことができた。

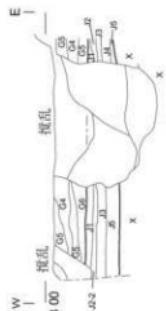
鶴ノ丸第2次調査区では室状遺構等の遺構の他、碗・皿・焼塙壺等の供膳具や擂鉢等の調理器具が出土していることから、橋爪門創建以前には武家屋敷が展開していたと考えられる。慶長16年（1611）には、城内にあった武家屋敷を城外へ移す旨の法令（「慶長以来定書」加賀藩史料2）が発令されており、武家屋敷の移設に伴って廃棄された可能性が考えられる。黒ボク層から検出された遺構からは古代の土師器焼片が出土している。過去に行われた二ノ門内堀調査から掘立柱建物の遺構が確認されており、それらに関連するものと思われる。

橋爪門枡形調査区では遺構をいくつか確認しているが、そのほとんどで掘り込み面が削平をうけており、時期や性格は判断できなかった。そのため、各層は橋爪門調査区にて確認された土層断面との対比にて時期を推測した。



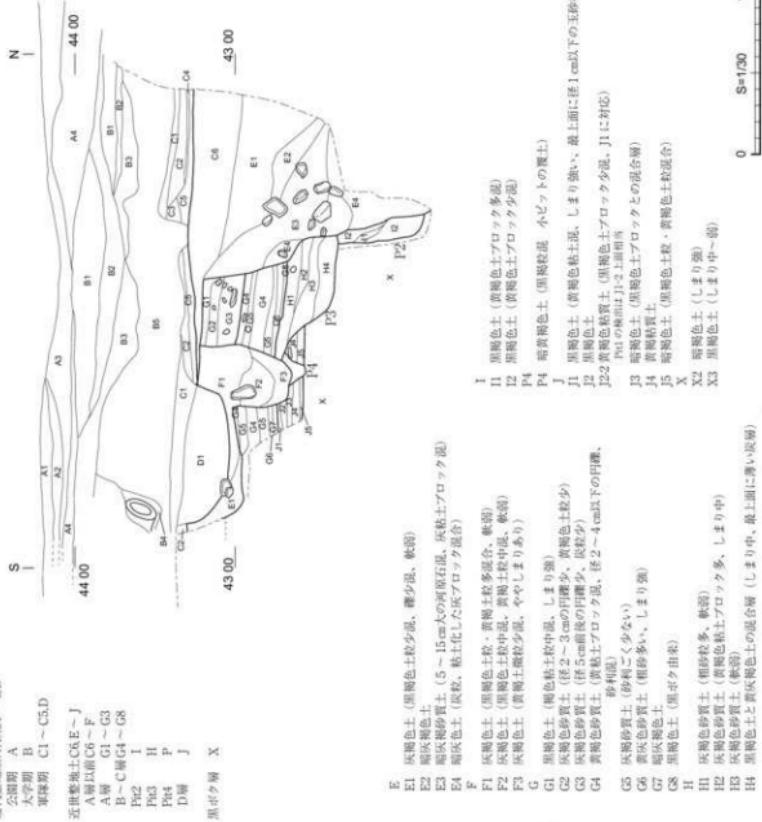
第32図 調査区全体図(遺構配置図) (S=1/40)

2001-1-2 南壁断面 1/30



— 60 —

2001-1-1 西壁断面 1/30



第33図 土層断面図 南壁・西壁 (S=1/30)

## 第4章 橋爪門調査の遺構

### 第1節 概要

#### 調査の方法

遺構の調査は近現代の整地土や搅乱埋土をバックホーや人力でおおむね除去した後、近世整地土の上面の精査を行い関連遺構の確認に努めた。遺構や整地土の土層堆積状況の確認は、搅乱壁面等を利用したが、必要な箇所にはトレーナーを設けた。遺構および土層堆積状況の確認終了後にラジコンヘリやリフトセンサーによる空中写真測量を行い、平面図を作成した。土層断面図の作成は主に手実測で行ったが、調査区を東西・南北に走る下水管・近代暗渠壁面の土層断面図は、レーザー測量を行い作成した。

また、続檜台石垣に残る加工等の痕跡についても観察を行い、続檜台石上南面・西面については全面、同西面については一部を、ラジコンヘリやリフトセンサーによる空中写真測量を行って立面図を作成した。

平成22年（2010）度の調査で確認した近代の石垣については、平成23年度に写真測量を行って立面図を作成したのち解体・撤去したが、法面保護のため裏込め栗石層はそのままとした。

#### 調査区割 [第34図]

平成22年度調査で、橋爪門続檜台石垣の南面側をI区、東面側をII区とした。さらに調査区北端から東西に走るヒューム管掘方までをA区、ヒューム管掘方から近代石垣およびその東延長までをB区、近代石垣下面からオイルタンク掘方上面までをC区とした。平成23年度に枠形関連遺構の確認を目的として調査区を南に拡張し、オイルタンク掘方以南をD区とした。平成24年度には二ノ丸園路下の遺構確認を実施し、続檜台西面近くの園路横断配管を境として東側をI区の延長部分とし、西側をIII区とした。

#### 基本層序 [第34図]

橋爪門二ノ門・枠形内は近現代に大きく改変され、二ノ門が存在した当時の地表面は遺存していないかったが、縦横に埋設された水道管や下水管または、大学期の建物の掘方壁面などの精査を行ったところ、二ノ門創建以前の整地・造成の状況が確認できた。整地土の対応関係は、断面図を作成したものに関しては現場で土質の類似性を確認しているが、面的な広がりについては、断面図で確認した土層を断面写真で1層ずつ追いかけ判断した（第37図）。その結果、地山の傾斜を反映して、遺構面が西から東、南から北へ若干傾斜しているものの、平坦な面となっていることが判明した。

遺構の掘り込みが確認された整地土上面を「面」とし、「面」を構築するために造成された整地土をその面に属する「層」とした。面は確認できなかったが、面の存在を推測させる遺構や整地土を考慮し、近現代を合わせて1面とすると計11面が確認され、地山を含め13層を確認したが、部分的な造成面も含まれており5層に大別した。

I層 近現代。公園期・大学期・軍隊期の層に細分できるが、一括してI層とした。

II層 二ノ門創建以降。II a層（文化修築期）、II b層（宝曆修築期）、II c層（寛永創建期）に細分できるが、ほとんどが近現代に削平され、遺構の掘り込み面は確認できなかった。

III～V層 二ノ門創建以前。上層をIII層、下層をIV層、地山をV層とした。III層はIII a～III c層に、IV層はIV a～IV c層に細分できる。黒ボク上面（V a層上面）で確認された遺構はV a面とし

た。16世紀末以降が主要な時期とみられるが、V a面は、平成9年（1997）に行われた二ノ丸内堀の調査成果（『金沢城跡・二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓II』）[石川県金沢城調査研究所 2012a]）から、古代～中世の遺構もこの面から掘り込まれた可能性がある。I・II区の中央付近の東西方向の整地状況を第34図で模式的に示した。各層の特徴と面の標高は以下の通りである。

## I層

**I層・面** 近現代の整地層。黒褐色または暗褐色の粘質土・砂質土が中心である。黒褐色粘質土を中心に海砂や碎石で整地される。軍隊期にI-C区で標高43.4m前後、II区では43.5m前後まで削平している。その後、大学期にI-C区・II区で44.0m前後まで、公園期にはII-A区で44.3m前後、II-B・D区で45.3m以上に盛土されている。平成22年度の調査では1～4層に細分しており、1・3・4層は近現代の盛土、2-1～3層は近代石垣下に沿って走る溝埋土、2-4層は近代石垣掘方埋土として遺物を取り上げている。

## II層

**IIa層・面** 文化期の二ノ丸火災後の整地層。橋爪門再建にあたり寛永期の整地層に達する深さまでいったん削平し、宝暦期の遺構を黒褐色または暗褐色粘質土で埋め戻し、最終的に黒褐色または灰黄褐色砂質土で整地する。削平面の標高は近代の通用門掘方付近で44.8m程であるが、東へ向けて5～10cmの段差で段状に削平したことがうかがえ、文化期の木蓋付溝・背面葛石付近で44.50mまで確認している。続櫓台石垣南面の痕跡から、二ノ門の敷石上面の標高は44.83mと考えられる。

**IIb層・面** 宝暦大火後の整地層。文化期に削平されたとみられ、整地土の存在や詳細は不明である。面の標高は、続櫓台石垣南面の背面葛石痕跡が文化期とほぼ同じ高さであり、同等と推測される。

**IIc層・面** 寛永大火後の整地層。黒褐色または暗褐色粘質土が中心である。二ノ丸側から整地土が搬入されており、全般に西から東へ傾斜している。下層に寛永大火の片付け層と考えられる瓦層がみられる。続櫓台石垣南面の地表面の痕跡から、面の標高は44.7m程度と考えられる。平成22年度の調査では5層として遺物を取り上げている。

## III層

III層は全体に整地土が厚く、何度も大規模に造成を行っている。

**IIIa層・面** 大量の黄褐色系の粘土・シルトまたは、黒褐色砂質土・褐灰色粘質土などを、西側から搬入して整地を行っている。近現代の削平や、寛永期以降の整地土に覆われ、上面の状況は不明である。

**IIIb層・面** 暗褐色砂質土・粘質土、黄褐色砂質土・シルト、黒褐色粘質土・シルトの順に、南西から北東方向に、土を搬入し整地する。そのため南西側・北側の整地土は厚く、東側は薄くなっています。面に傾斜がみられ、東側ではIIIc面と重複している。部分的にII-C区で、標高43.46mに面を確認しているが、IIIa層と同様に詳細は不明である。

**IIIc層・面** 主に黄褐色系の砂質土を3～10cmの厚さで、調査区全面にわたって水平を意識して版築状に丁寧に整地し、最大27cmの厚さまで盛土する。小蝶が多く混じり、戸室チップが混じる層もある。面の標高は43.2～43.3m前後である。

## IV層

IV層は、最下層のIVc層で旧地形の高低差を平坦にするため大規模に造成を行うが、その後は小規模にとどまる。

**IVa層・面** 東端と西側は黒褐色粘質土または黒ボク由来土が中心で、その間は黄褐色系砂質土で整地する。面の標高は43.0~43.1mで、部分的にIVb面と重複する。

**IVb層・面** 黄褐色砂質土またはシルトを全面に搬入し、北側・西側に黒褐色粘質土、次いで北側・南側・東側に灰黄褐色砂質土の順に搬入している様にみえる。面の標高は42.8~43.0mで、部分的にIVc面と同一面となる。

**IVc層・面** 地山の黒ボク土または黄褐色シルトで互層状に整地される。地山の高低差を解消するようく造成を行っているため、厚さが地点によって異なっている。完全に水平になるまで造成されず、旧地形の影響を受けた高低差がみられる。面の標高は42.6~43.0mで、部分的にVa・Vb面と同一面となる。

## V層

遺構が確認されるのは、Va面のみである。本調査では時期を比定することはできなかったが、鶴ノ丸第2次調査や二ノ丸内堀の調査では、近世初期の遺構のほか古代の遺構も確認されている。

I区中央付近で、Vc層が高まり、それより東側は北東方向に傾斜している。Vb層はVc層の傾斜に従って堆積し、その上にVa層が堆積している。Va層は、中央部に近い南西側は43.0m弱の標高を測るが、北東側では、標高42.5~42.6mで平坦面が形成されている。一方西側ではVc層下部の礫層は西に向かって傾斜するものの、その上部に砂層、砂礫層が堆積し、さらにその上には礫まじりのローム層が堆積する。

Va層・面 黒ボク土。面の標高は42.5~43.0mを測る。

Vb層 黄褐色シルト。ローム層。最も高い地点で標高42.94mを測る。

Vc層 褐色砂質土・シルト混じりの礫層。最も高い地点で標高43mを測る。

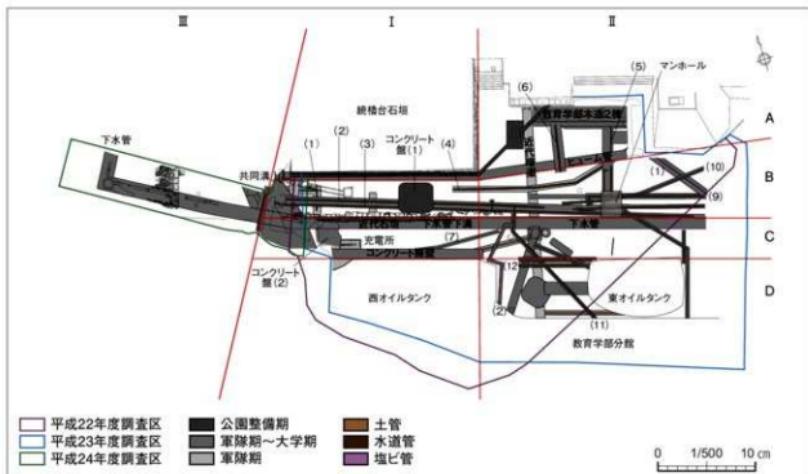
## 遺構名・セクションNo.・遺物の取り上げ [第35・36図、第7・8表]

調査時、主要な遺構や遺物が出土した遺構に通しNo.を付けて遺構名としていたが、本報告では改めて遺構の性格に応じて、略記号を用いて番号を付け直した。遺物が出土していない遺構についても、平面で検出した遺構は全て、壁面でのみ検出した遺構は必要に応じて新たに付けた。略記号は、SW：石垣、P：柱穴、SK：土坑・枡、SD：溝、SX：その他（全体の形状や性格が不明のもの）、T：トレンチとした。近代以降の遺構はその性格等が不明のものは搅乱の通し番号を付けて表した。

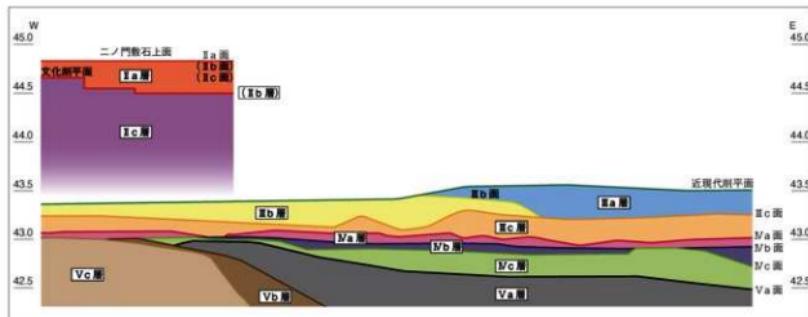
続櫓台石垣など、近世後期の絵図に描かれた石垣には、金沢城内で統一したID番号が付けられており、石垣の遺構略記号として付した。

セクションNo.は、調査年度-図面番号-枝番号で表示している。

遺物の取り上げは、出土した日付と遺構ごとに平成22年度から24年度まで通しNo.を付けて取り上げた。



年次調査区・調査区割図・近現代遺構模式図 (S=1/500)

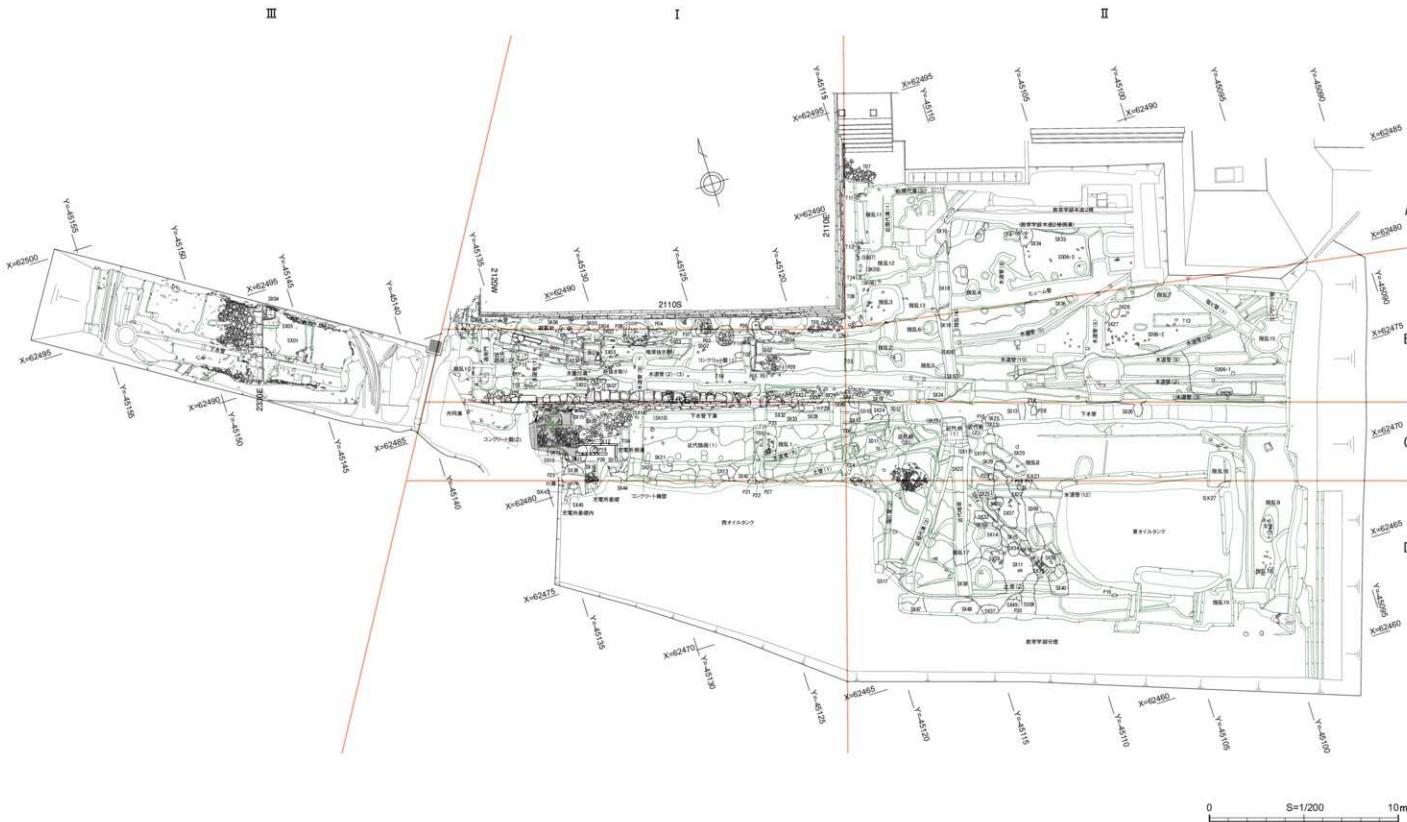


橋爪門基本層序 模式図

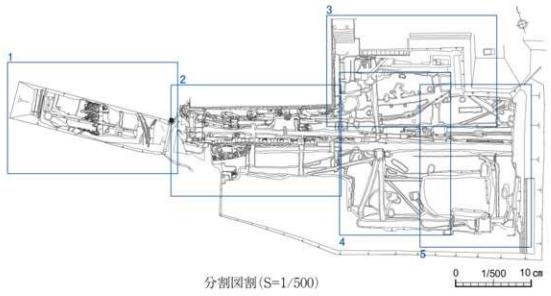
第6表 橋爪門基本層序 時期区分

	層	標高(m)	層
I層	I		近現代
	IIa	44.83	文化6年(1809)
II層	IIb	(44.83)	宝曆12年(1762)
	IIc	(44.66)	寛永8年(1631)
III層	IIIa	-	
	IIIb	(43.46)	元和年間頃~寛永8年
	IIIc	43.2~43.3	
IV層	IVa	43.0~43.1	
	IVb	42.8~43.0	文禄~慶長年間頃
	IVc	42.6~43.0	
V層	Va	42.5~43.0	(~中世)
	Vb	~43.0	地山(黒ボク土)
	Vc	~43.0	地山(黄褐色土)
			地山(裸層)

第34図 橋爪門調査区概要



第35図 橋爪門調査区全体図(遺構配置図) (S=1/200)



0 10m  
1:300

第37図 檢出面整地土層分布図 (S=1/300)

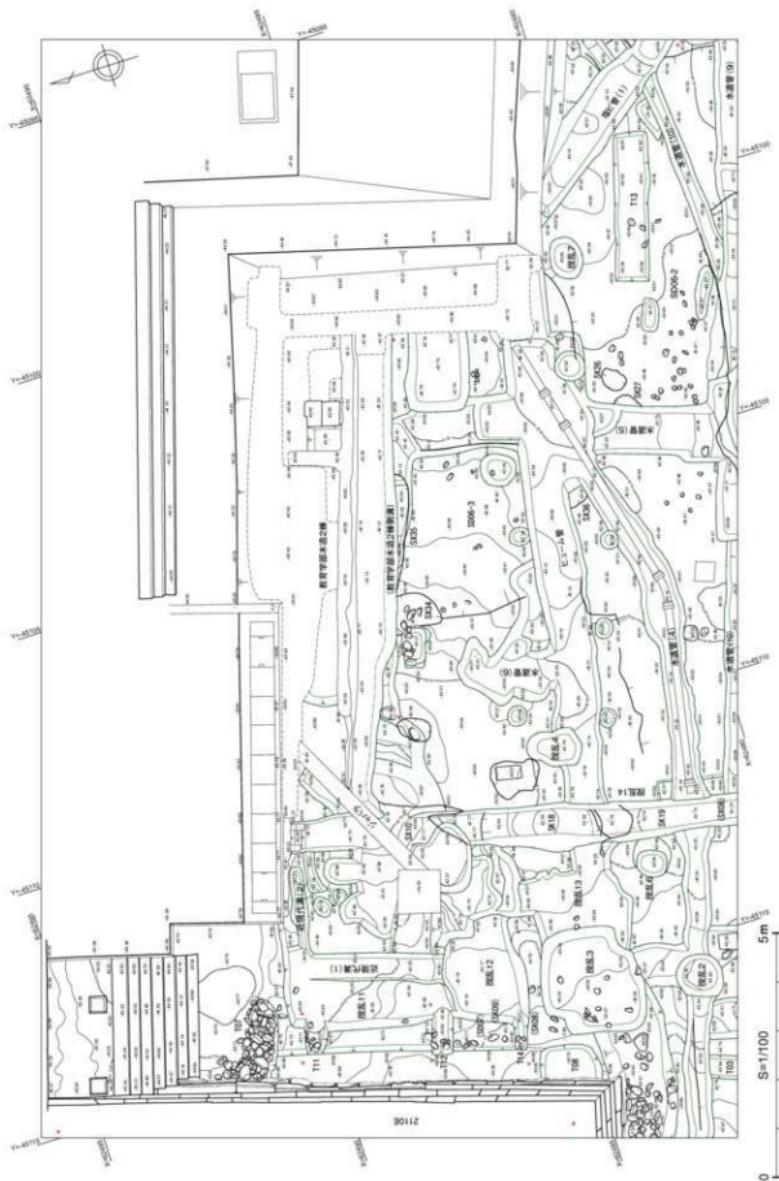




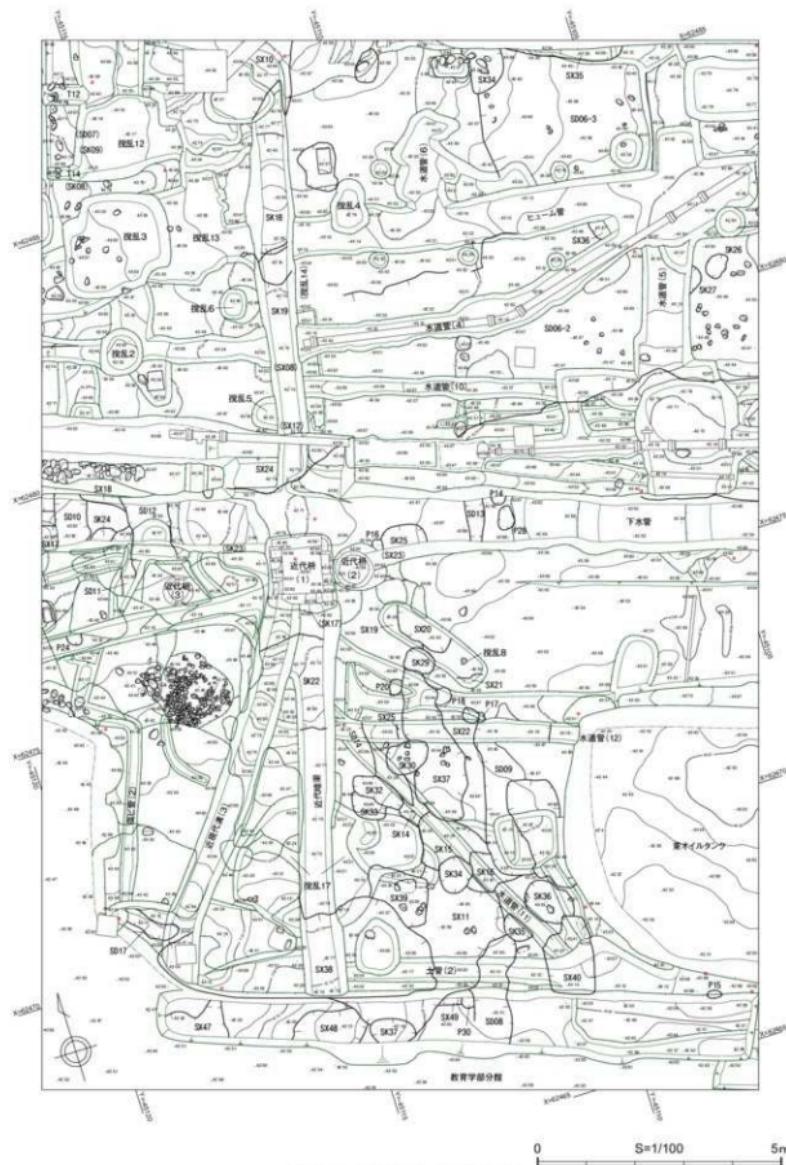
第38回 分割図 1 (S=1/100)



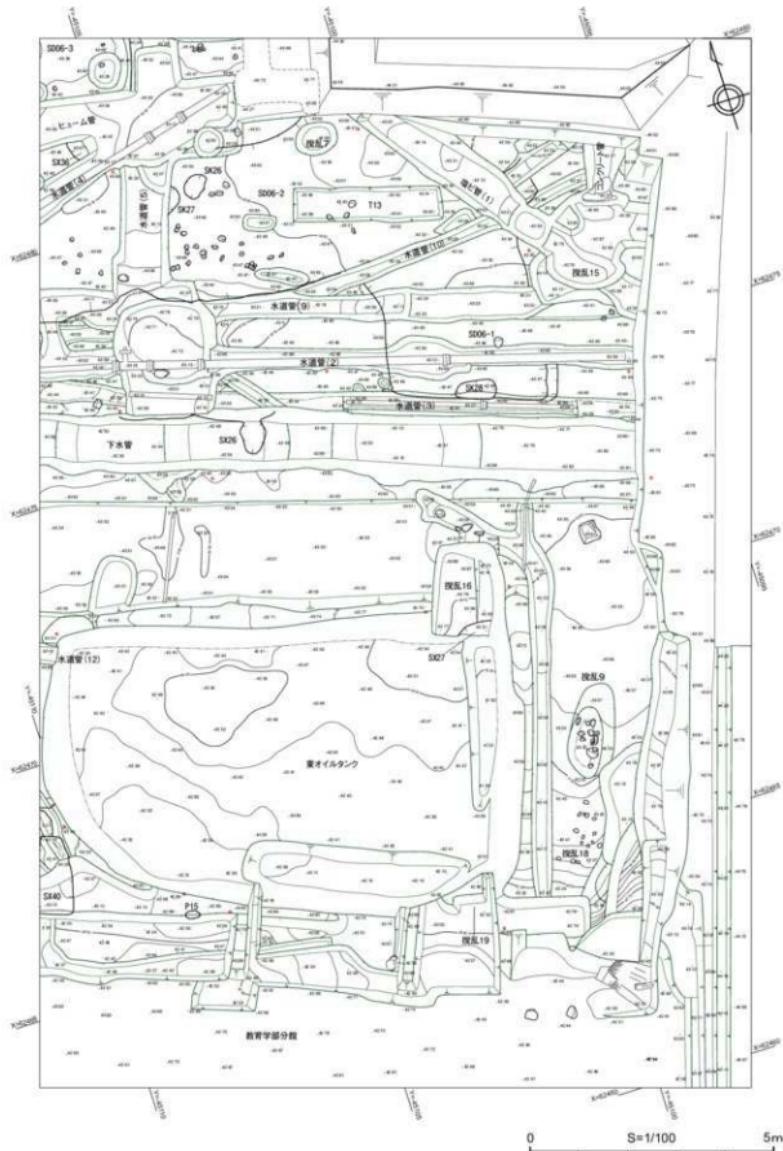
第39回 分割図2 (S=1/100)



第40図 分割図3 (S=1/100)



第41図 分割図4 (S=1/100)



第42図 分割図5 (S=1/100)

第7表 橋爪門造構一覧

造機名	ダリフ	面	備考	造機名	ダリフ	面	備考	造機名	
2120W	I-A		鏡禮右石頭面	SX21	I-C	IIe			
2120S	I-A		鏡禮右石頭面	SX22	II-C	IIa	2012-34 : 172-190層		
2110E	I-A		鏡禮右石頭面	SX23	II-C	IIa	2012-33 : 367-376層		
2330W	II		左側面	SX24	II-C	IIa	2012-33 : 377-379層		
P01	I-B	IIa	文化 鏡禮顎方	017	SX25	II-C	IIe	2012-33 : 413層	
P02	I-B	IIa	文化 鏡禮・透性顎方	021	SX26	II-B	I-IIa		
P03	I-B	IIa	文化 中央大顎方	014	SX27	II-B	I-IIa		
P04	I-B	IIa	文化 背後大顎方	013	SX28	II-B	I-IIa		
P05	I-B	IIb	文部 鏡禮・透性顎	018	SX29	II-C	I-IIa		
P06	I-B	IIb	文部 鏡禮・透性顎	022	SX30	II-D	I-IIa		
P07	I-B	IIb	文部 中央大顎方	020	SX31	I-C	I-IIa-IIb		
P08	I-B	IIb	文部 背後大顎方	015	SX32	II-D	I-IIa-IIb		
P09	I-B	IIIc	東北 鏡禮顎方	019	SX33	II-D	I-IIa-IIb		
P10	I-B	IIIc	東北 鏡禮・透性顎	023	SX34	II-D	I-IIa-IIb		
P11	I-B	IIIc	東北 小中央顎方	010	SX35	II-D	I-IIa-IIb	SX32と同一構造	
P12	I-B	IIIc	東北 背後大顎方	016	SX36	II-D	I-IIa-IIb	SX33と同一構造	
P13	I-B	IIa-IIc		072	SX37	II-D	I-IIa-IIb		
P14	II-C	IIIc	下脣骨内	SX38	II-C	I-IIa-IIa	史跡所蔵顎方内		
P15	II-D	IIIb-Na	2012-21-2 : 118層	SX39	II	I-IIa	距根		
P16	II-D	IIIc	2012-33 : 412層						
P17	I-C	IIa		SX02	I-B	IIa			
P18	I-C	IIa						文化 大齒顎顎方 2012-7-3 : 9-12層 2011-8-9 : 38-41層	
P19	I-C	IIa-IIb		SX03	I-B	IIa			
P20	I-C	IIa-IIb		SX04	II	IIa	土壇板抜き取り面 6ヶ月長尾層 二ノ丸跡段		
P21	I-C	IIa-IIc	2012-23-1 : 125-129層	SX05	II	IIa	歯石?		
P22	I-C	IIa-IIc	2012-23-1 : 124層						
P23	I-C	I-IIa	2012-9, 2012-33 : 160層 2012-6-1-2 : 90層	SX06	I-B	IIa-IIb	近代耕作面は不水質下溝		
P24	II-C	I-IIa	土(1) 内	SX07	I-A-B	IIc	鏡禮右石頭面		
P25	I-C	I-IIa	史跡所蔵顎方内	SX08	II-B	IIa	2012-34 : 51-77層		
P26	I-C	I-IIa	史跡所蔵顎方内	SX09	I-C	IIa	埋藏		
P27	I-C	I-IIa-Nb	2012-23-1 : 137-139層 2012-6-1-2 : 81-82層	SX10	II-A	IIa	2012-34 : 19-27層 2012-25-36 : 15-15層		
P28	II-C	I-IIa-Nc	下脣骨内	SX11	II-D	IIb	2012-21-2 : 35-45層	115	
P29	I-C	I-IIa-Va	下脣骨内	SX12	II-B	IIa-IIb	2012-34 : 80-90層		
P30	II-D	I-IIa-Va	教書部所蔵顎方内	SX13	I-C	IIa-IIc			
SD101	I-B	IIb	右顎顎方	008	SX14	I-C	IIa-Na		
SD102	I-B	IIa	文化 喰歎顎方	005	SX15	I-C	IIa-Nb	2012-9-2-2012-10 -2012-11-2 : 93-102層	
SD103	I-B	IIa	宝物 鏡禮抜き取り痕		SX16	I-C	IIa	史跡所蔵顎方内	
SD104	I-B	IIb	宝物 鏡禮顎方	004	SX17	I-C	IIe	2012-33 : 283-295層	
SD105	I-B	IIb	明治復原顎方		SX18	I-C	IIe	下脣骨内	
SD106	II-A-D	IIIa	2012-33 : 369-387層 集	SX19	I-C	IIe	埋れ石 8内	122	
SD107	II-A	IIIa-IIb	2012-7-1 : 4-5層	SX20	I-C	IIe	埋れ石 8内		
SD108	II-D	IIIb	212-2-2 : 49-54層	SX21	I-C	IIe	埋れ石 8内		
SD109	II-D	IIIb		SX22	I-C	IIe	水道管 (12) 内		
SD110	I-C	IIIc	2012-23 : 277-280層	SX23	II-B-C	IIc	2012-33 : 239-243層		
SD111	I-C	IIIc	2012-33 : 268-276層	SX24	II-B-C	IIa	2012-31 : 171層		
SD112	I-C	IIIc	2012-33 : 251-267層	SX25	II-B-D	IIa	水道管 (12) 内		
SD113	I-C	IIIc	2012-33 : 244-249層	SX26	II-B-C	IIa	下水管内		
SD114	I-D	IIIc	2012-34 : 352-354層	SX27	II-D	IIc	下水管内		
SD115	I-C	IIIc	T04H	SX28	I-C	IIe-Va	2012-9 : 44-52層		
SD116	I-C	IIa	1-IIa-Na	SX29	I-C	IIe-Va			
SD117	I-D	IIa	2012-21-2 : 87層	SX30	I-C	IIe-Va			
SK001	I-B	IIa	右顎顎	002	SX31	I-C	IIe-Va		
SK002	I-B	IIa	文化 顎顎方 (新)		SX32	I-C	IIe-Va		
SK003	I-B	IIa	文化 顎顎方 (改)	012	SX33	I-C	IIe-Va		
SK004	I-B	IIa	文化 顎顎方 (古)		SX34	I-C	IIe-Va		
SK005	I-B	IIa	宝物 鏡禮抜き取り痕		SX35	I-C	IIa	2012-25-26 : 4層	
SK006	I-B	IIb	宝物 鏡禮顎方	028	SX36	II-B	I-IIa	2012-25-26 : 5層	114
SK007	I-B	IIa-IIc	2012-8-9 : 89-90層	071	SX37	II-C-D	I-IIa		
SK008	II-A	IIIa-IIb	2012-16 : 69層	SX38	II-D	I-IIa-IIb	2012-21-2 : 27-33層	033	
SK009	II-A	IIIa-IIb	2012-16 : 10層	SX39	II-D	I-IIa-IIb	2012-34 : 29-30層	117	
SK10	I-C	IIIa-IIb	2012-11-2, 2012-9-2 : 68-92層	SX40	II-D	I-IIa-IIb	2012-21-2 : 34層		
SKC11	I-C	IIIa-IIb	2012-33 : 299-325層	SX41	II-B-C	I-IIa-IIb	2012-21-1 : 127層		
SKC12	I-C	IIIa-IIb		SX42	I-C	I-IIa-IIb	2012-22-1 : 143層		
SKC13	I-C	IIIa-IIb		SX43	I-C	I-IIa-IIa			
SKC14	I-D	IIIb		SX44	I-C	I-IIa-IIa	2012-22 : 141層		
SKC15	I-D	IIIb		SX45	I-C	I-IIa-IIa	2012-21-1 : 140層		
SKC16	I-D	IIIb		SX46	I-C	I-IIa-Va			
SKC17	I-D	IIIb	2012-34 : 89-91層	SX47	I-D	I-IIa-Va			
SKC18	I-E	IIIc	2012-34 : 129-151層	045	SX48	I-D	I-IIa-Va		
SKC19	I-E	IIIc	2012-34 : 119-127層	SX49	I-D	I-IIa-Va			
SKC20	I-C	IIIc	2012-22 : 153-162層						

第8表 橋爪門搅乱一覧

遺構名	グリッド	面	遺構	遺構No.	遺構名	グリッド	面	遺構	遺構No.
近代石垣	I-B	I			近代路幅(1)	I-C	I		096
昭和抹き取り	I-B	I	文化昭和抹き取り塗	005	近代路幅(2)	I-B	I		
昭和抹き取り	I-B	I	文化昭和抹き取り塗	002	近代塀	I-C	I		045
昭和抹き取り	I-B	I	文化昭和抹き取り塗		近代塀(3)	I-C	I	レンガ塗	046
光宗内相手	I-C	I		024	近代塀(2)	I-C	I	レンガ岩	063
通用門	I-B	I			近代耕(3)	I-C	I	レンガ岩	064
避難井	I-B	I			土管(1)	I-B-C	I		030
水道管(1)	I-B	I		001	土管(2)	I-B-D	I		
水道管(2)	I-B-B	I			複瓦1	I-C	I	2011-6-1-2・6-12層	025-027
水道管(3)	I-B-B	I			複瓦2	I-B	I		091
水道管(4)	I-B-B	I		080	複瓦3	I-A	I		
水道管(5)	B-A	I		069	複瓦4	I-A	I		099
水道管(6)	B-A	I			複瓦5	I-B	I	複土坑	066
水道管(7)	I-B-C	I			複瓦6	I-B	I		067
水道管(8)	I-B	I		007	複瓦7	I-B	I		103
水道管(9)	I-B	I		074E	複瓦8	I-C	I		066
水道管(10)	I-B	I		074W	複瓦9	I-D	I		
水道管(11)	I-C-D	I	水道管(2)に接続	043	複瓦10	I-B	I	水道管(2)・(3)上の鉄板	060
水道管(12)	I-D	I		048	複瓦11	I-A	I		077
塙(1)	B-B	I		076	複瓦12	I-A	I		078
塙(2)	I-C-D	I	水道管(2)に接続	062	複瓦13	I-A	I		088
ヒューム管	I-B-A	I		070	複瓦14	I-B	I	塙地層・塙地層上の復層	014
コンクリート管	B-B	I		085	複瓦15	I-B	I		067
ジッパラ	I-B-A	I			複瓦16	I-C	I		113
下水管	I-B	I	F層に別機底(No.029)あり	029	複瓦17	I-D	I	近代耕より西は下水管下溝	
共用溝	I-B	I			複瓦18	I-D	I	複道り	058
VS排水溝	B	I			複瓦19	I-D	I		052
近現代溝(1)	B-A	I		079	T01	I-B	I		
近現代溝(2)	B-A	I		083	T02	I-B	I		
近現代溝(3)	B-C-D	I		040	T03	I-B	I		
日溝	I-C	I			T04	I-C	I		
光宗内基礎	I-C	I		031	T05	I-C	I		
光宗内基礎内	I-C	I		110	T06	I-C	I		
東サイドランク	I-D	I			T07	I-A	I	H10-11調査時のトレンチ	
西サイドランク	I-D	I			T08	I-A	I	H10-11調査時のトレンチ	
教育学部分館	I-D	I			T09	I-A	I	H10-11調査時のトレンチ	
教育学部本造2種側溝	B-A	I			T10	I-B	I	水道管(2)・(3)内	
教育学部本造2種	I-A	I		084	T11	I-A	I		
コンクリート溝	I-C	I			T12	I-A	I		
コンクリート盤(1)	I-B	I			T13	I-B	I		
コンクリート盤(2)	I-C	I			T14	I-A	I		
				115	I-A-B	I		H10公掘整備時のトレンチ	

## 第2節 二ノ門

二ノ門は、明治期に北側が二ノ丸へ上る通路に、南側が充電所や厨房等の敷地として一段低い平坦面に改変されている。発掘調査で確認された本章第5節第92図「歩兵第百七連隊図」に描かれる「70号充電所」が「旧軍金沢城関係文書」の「建造物履歴表」等によれば、明治15年（1882）11月新設となっており、橋爪門周辺の改変がこの頃に行われたことがわかる。二ノ門に係る遺構は通路部分で、北鏡柱・脇柱・添柱、中央大柱、背面大柱の礎石根固めと、石組の暗渠・枠等を検出したが、上部は削平を受け、礎石・石組枠の上部は撤去され、石組暗渠は石組枠より東側が失われていた。南側の平坦面は、文化期の敷石面より約1.3m掘り下げられていたため、遺構は残っていないかった。さらに通路部分では、明治期の通用門設置や水道管の埋設、大学時代の共同溝やヒューム管の敷設、公園整備時代のコンクリート盤（1）や避雷針などの埋設により、平坦面では先の明治期の充電所、金沢大学時代の校舎等により大きく壊されていた。

### 1. 磂石根固め [第43・44図、第9表]

北鏡柱・脇柱・添柱、中央大柱、背面大柱の礎石根固めをそれぞれ3組確認した。文献史料からは、二ノ門は寛永創建期・宝暦再建期・文化再建期の3段階存在することを知り得るが、出土遺物がほとんどなく、遺物による時期の判定はできなかった。そのため検出した遺構の切り合いや位置関係、後述する続櫓台石垣南面に残る加工痕跡と遺構の位置を対応させてそれぞれの時期を比定した。文化期のそれは、遺構の重複関係から最も新しいものを文化期とした。宝暦期のそれは、続櫓台石垣南面の背面葛石痕のうち東側のものが文化期の石組枠と対応することから、西側の背面葛石痕を宝暦期と推測し、遺構も文化期の遺構の北西に位置するものを宝暦期とした。従って、残りの文化期の掘方南東に位置するものが寛永期であると判断した。

礎石根固めの深さは、推定される敷石下面を遺構構築時整地土上面と設定し、そこからの深さを算出した。敷石下面の標高は、文化期・宝暦期の敷石下面標高は44.68mとした。寛永期の敷石下面標高は、鏡柱・脇柱・添柱の南北ラインで44.46m、中央大柱付近で44.49m、背面大柱付近で44.56mと、やや東へ傾斜しているため、それぞれの位置での下面標高から計測した。

### 鏡柱 [第43・45図]

I区東側で、石垣面から2.5m程の所で検出された。東側に寛永期（P09）、西側に宝暦期（P05）、中央に文化期の礎石根固め（P01）が位置する。南側を軍隊期の水道管（水道管（2）（3））によりすべてが、西側はコンクリート盤（1）により宝暦期、文化期の遺構が壊されている。寛永期の掘方、文化期の掘方では根固め石が残っていたものの、宝暦期の掘方は大部分が文化期の掘方と重複しているためか検出部分では礫の集中は見られない。

### P01（文化期）

東側が弧状となる不正方形を呈する。東西辺86cm、南北辺80cmを測る。土層断面では深さ26cmを測り、底面標高は43.62mで、敷石下面からの深さは106cm、本来は110cm程度と推測される。褐色粘質土で充填されるが、中央付近に黄褐色粘土ブロックと、10~20cmの礫が集中するが、削平のためか他の礎石根固め遺構に比べ礫の集中度は低い。

### P05（宝暦期）

P01同様南・東側が壊され、北側を文化暗渠掘方（SD02）に切られ、断面等からの現存値は東西58cm、南北108cmである。大部分が文化期の礎石根固めと重複しており、平面では文化期礎石根固めの西側で帶状に検出したにとどまる。根固め石は確認できなかった。底面標高は43.55mで、敷石下面

からの深さは113cm、本来は110cm程度と推測される。黒褐色粘質土に黄褐色粘土が少し混じる。

#### P09（寛永期）

南側を軍隊期の水道管に、西側は文化期礎石根固めに壊されている。北東側が弧状を呈し、東西110cm、南北76cmを測る。断面での深さは31cmを測り、底面標高は43.50mである。敷石下面からの深さは96cm、本来100cm前後と推測される。断面では、黄褐色粘土が多く混じる黒褐色粘質土を入れ、中央に黒褐色粘質土と褐色砂質土を交互に充填し、その上に根固め石を入れている。

3時期とも軍隊期の水道管掘方に壊されているが、掘方南壁に確認できることから、南北幅は寛永期で最大150cm、宝暦期で最大180cm、文化期で160cm以上と推測される。

#### 脇柱・添柱〔第43・46図〕

後述する続櫓台石垣整直下で検出された。東側に寛永期、やや北西側に宝暦期、その間に文化期の遺構が位置する。平成10年（1998）の確認調査トレント（T09）で北東側が失われ、北側上部はヒューム管により壊されている。宝暦期、文化期の遺構はコンクリート盤（1）基礎により南西側も失われている。いずれも根固め石は確認できなかった。

#### P02（文化期）

確認した平面形は北東側を欠く方形を呈し、東西114cm、南北103cmを測る。中心である整切ラインで対称形とはなっていない。T09断面で見る底面標高は43.63mを測り、敷石下面からの深さは105cm、本来は110cm程度であったと推測される。覆土は全体に黄褐色土が点在し、中央東寄りの東西約57cmの幅で、方形状に褐色粘土がみられる。

#### P06（宝暦期）

鏡柱と同様に、文化期の柱穴と大部分が重複している。検出した部分は不正方形を呈し、南北辺116cm、東西辺104cmを測る。断面で見る底面標高は43.55mを測り、敷石下面からの深さは113cm、本来120cmであったと推測される。

#### P10（寛永期）

T09により北側を大きく失い、西側は文化期の礎石根固めに、南側は文化期の石組暗渠に壊されている。検出部分は東西105cm、南北50cmを測る。断面で見る底面標高は43.66mを測り、敷石下面からの深さは80cmである。根固め石は確認できなかった。

#### 中央大柱〔第43・46図〕

I区中央やや東寄り、続櫓台石垣直下に位置する。東側に寛永期、北西にやや離れた位置で宝暦期、文化期の礎石根固めを検出した。北側上部はヒューム管、南側はコンクリート盤（1）で壊されている。

#### P03（文化期）

平面形は略方形を呈し、東西114cm、南北103cmを測る。中央やや東寄り、東西66cm、南北74cmの梢円形に5～10cmの礫を充填し、その中央部には礫の間に黄褐色粘土が入れられている。粘土は断面で14cmの厚さを確認できる。

#### P07（宝暦期）

大部分が文化期の掘方と重複し、根固め石は確認できなかった。方形と推定されるプランを検出した。東西辺107cm、南北辺95cmを測る。底面標高は43.70mまで確認しており、敷石下面からの深さは98cm、本来は100cmを超える程度と推測される。

#### P11（寛永期）

文化期礎石根固めの南東側で隅丸長方形を呈するプランを検出した。南側はコンクリート盤（1）

で上面を壊されている。東西100cm、南北104cmを測る。平面形のやや南側に寄った形で、東西82cm、南北85cmの略円形の範囲に、5~25cmの礫が埋め込まれ、隙間には褐色粘土が入り込んでいる。

#### 背面大柱〔第43・46・54図〕

I区中央やや西より続檜台石垣直下に位置する。東側に寛永期、西側に宝暦期、文化期の礎石根固めを検出した。北側上部をヒューム管によって壊され、南側も部分的に搅乱を受けている。

#### P04（文化期）

東西辺126cm、南北辺116cmの方形を呈する。平面形の北東に寄った形で東西辺100cm、南北辺90cmの不正方形の範囲に黄褐色粘土がみられ、南東側に寄りに14~25cmの礫が、その他の部分では5~14cmの礫が黄褐色粘土とともに充填されている。小型の礫は根固めではなく、覆土中に含まれるものかもしれない。

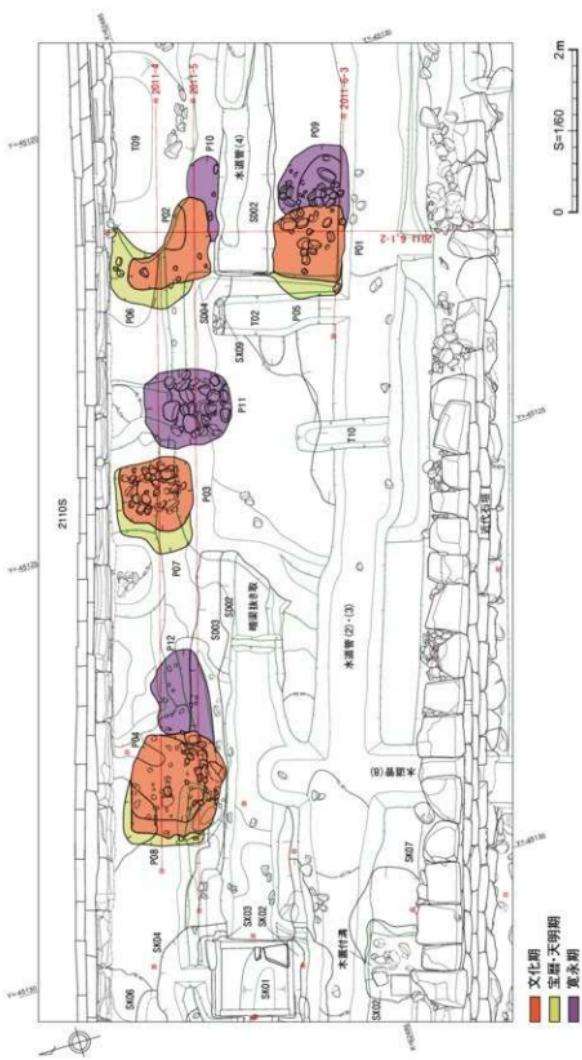
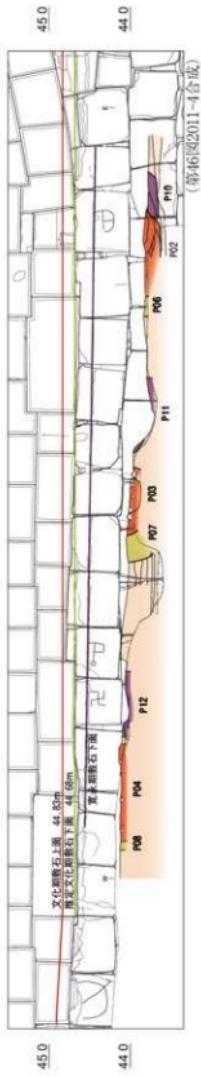
#### P08（宝暦期）

大部分が文化期の掘方と重複している。南北辺96cm、東西辺84cmの方形を呈する。褐色粘土が多く混じる状況が確認できたが、根固め石は見られない。

#### P12（寛永期）

西側を文化期の礎石根固めに、南側は宝暦期暗渠抜き取り痕（SD03）に大きく壊されている。検出した部分は半円状を呈し、東西122cm、南北78cmを測る。東側の東西60cmの範囲に黄褐色粘土が多く混じる状況が確認されたものの、明確な根固め石等は確認できなかった。

検出された礎石根固めは、同一の遺構においても検出面の高さが異なっており、遺構の平面形状は本来の姿をとどめているとは言い難い。絵図から方形の礎石が置かれたと思われる中央大柱、背面大柱は、掘方の中央部に礫と黄褐色粘土が充填されるのが本来の姿で、掘方の形状も方形を基調としたものかもしれない。寛永期も同様と想定されるが、検出されたものについて言えば、形状は判然とせず、褐色粘土の充填もあまり顕著ではない。宝暦期の遺構は、文化期の遺構に壊されているためか根固めの礫が確認されていない。中央大柱のようにある程度宝暦期の遺構が残っている部分でも根固め石が確認できない状況からすると、文化期の礎石根固め遺構の構築にあたって根固め石を一度抜き取っているかもしれない。これら遺構に基づく橋爪門二ノ門の構造等については第7章で述べる。



第43図 遺構平面図 (S=1/60)

文化期  
宝曆·天明期  
寛永期

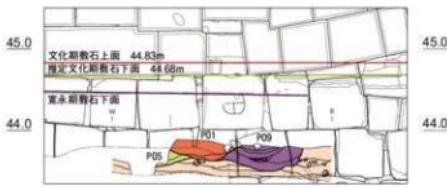


第9表 ニノ門礫石根固め計測表

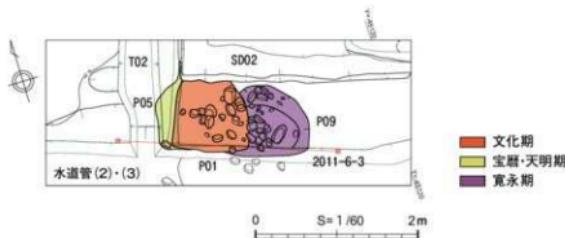
「遺存物」

時期	礫石根固め	遺構名	検出寸法			推定礫石下面からの深さ （cm）
			標高 (m)	最大径 (cm)	深さ (cm)	
文化 鏡柱・添柱	P01	43.88 [86]	114 [90]	103 [26]	—	43.62 [96]
中央大柱	P02	43.89 [86]	90	86	—	43.63 [105]
背面大柱	P03	44.05 [86]	126	116	—	—
跳柱	P04	44.34 [86]	126	116	—	—
室櫛	P05	43.76 [86]	58	108 [21]	—	43.55 [113]
室櫛	P06	43.89 [104]	116	34	44.68	43.55 [113]
中央大柱	P07	44.05 [86]	107	95 [35]	—	43.70 [98]
背面大柱	P08	44.36 [86]	84	96	—	—
鏡柱	P09	43.81 [110]	110	76 [31]	44.46	43.50 [96]
室櫛柱・添柱	P10	43.81 [105]	105	50 [15]	44.46	43.66 [80]
窓水	P11	43.97 [122]	100	104	—	44.49 —
背面大柱	P12	44.15 [78]	122	—	44.56	—

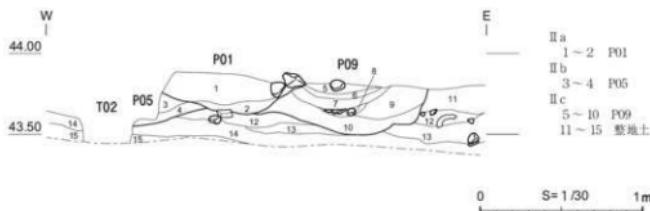
第44図 磐石根固め全景



(第45図2011-6-3合成)



### 2011-6-3 鏡柱



- 1 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土大量、1~10cmの礫多く、炭少しうる)
- 2 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・1~3cmの礫少し混じる)
- 3 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR3/3暗褐色砂質土 (粗粒) 多く、約1cmの礫少しうる)
- 4 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色粘土・1~5cmの礫少しうる)
- 5 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR3/2 黑褐色粘質土少し、1~10cmの礫大量混じる)
- 6 10YR4/4 岩色砂質土 (やや細砂、硬い、7層土・1~3cmの礫少しうる)
- 7 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、しまり弱い、10YR3/3暗褐色砂質土 (細粒) ・約1cmの礫少しうる)
- 8 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土少し、1~5cmの礫多く混じる)
- 9 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土多く、約1cmの礫少しうる)
- 10 10YR5/1 黑褐色粘質土 (粘性小、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・1~5cmの礫少しうる、炭多く混じる)
- 11 10YR5/2 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・1~5cmの礫多く、炭少しうる)
- 12 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土少し、1~5cmの礫少しうる、炭多く混じる)
- 13 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR4/4 岩色粘土・焼土少し、1~6cmの礫・炭多く混じる)
- 14 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR4/4 岩色粘土少し、1~10cmの礫・炭多く混じる)
- 15 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、硬い、10YR4/4 粘土・1~10cmの礫・炭多く混じる)

第45図 遺構平面図・土層断面図 鏡柱 (S=1/60、1/30)

2011-6-1 : 2 南北柱列

2012-6-1 · 2、2011-4、2011-5 共 3

**5-1-2 南北柱列**

1 溝 (2010-2 畳に相当)  
2 下水管下溝  
3 水道管 (7)  
4-5、13、22、  
30、31 挿乱 1  
6-12 揿乱 1  
23-29 近代石垣  
IIa  
32-33 SD02  
34 P01  
35-40 P02  
41-42 P03  
43-44 P04

IIb  
45 P06  
46-47 P07  
48 P08  
49 P09  
50-51 P10  
52-53 P11  
54-55 P12  
56-66 SD07  
67-76 整地土  
V  
Vb  
Vc  
Vd  
Vb  
V8

I-IIa ~ IIb  
77-79 通構  
I-IIa ~ IIc  
80 P23  
I-IIa ~ IVb  
81-82 P27  
IVb  
83-84 整地土  
Vb  
85-87 地山  
Vb  
88 地山

45.00

44.00

43.00

N S

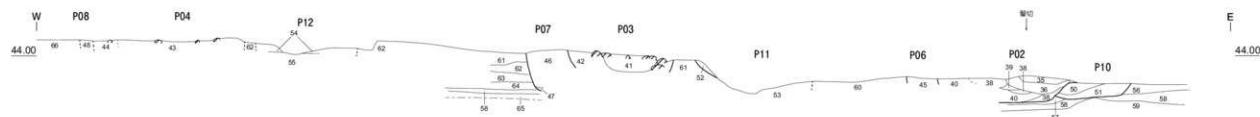
P10  
P02 SD04 SD02  
P01  
P09  
水道管 (2)・(3)

近代石垣

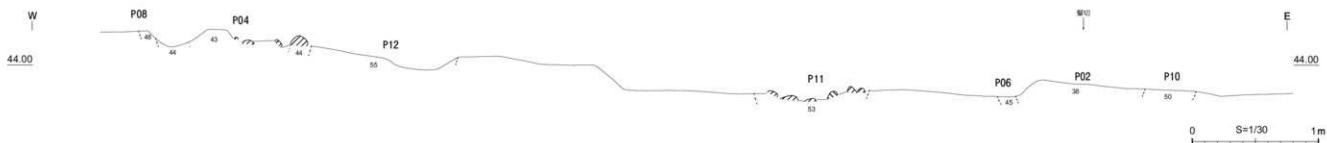
溝  
下水管下溝  
挿乱 1  
水道管 (7)  
コンクリート擁壁  
西オイルタンク

P23  
P27  
43.0m

2011-4 東西柱列（文化）



2011-5 東西柱列（寛永）



第46図 土層断面図 南北・東西柱列 ( $S=1/30$ )

- 1 25Y3/1 黒褐色粘質土（粗砂、軟くもろい。0.5～5cmの砂利・雜大量混じる）
- 2 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、砂利・1～10cmの雜・礫石を混じる。乾電池取出）
- 3 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、1～5cmの雜大量混じる）
- 4 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5-6 黄褐色粘質土、1～3cmの雜混じる）
- 5 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、IOYR5-6 黄褐色粘質土・燒土・炭少し、1～5cmの雜多く混じる）
- 6 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粗砂、硬い、IOYR4/6 黄褐色粘質土少し、1～15cmの雜大量、炭多く混じる）
- 7 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、IOYR4/6 黄褐色粘質土、1～15cmの雜多く混じる）
- 8 25Y3/3 黄褐色シルト土（粘性小、硬い、7層土多く混じる）
- 9 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、1～3cmの雜多く混じる）
- 10 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、やや軟い、IOYR4/6 黄褐色粘質土少し、1～5cmの雜多く混じる）
- 11 IOYR3/3 増褐色粘質土（粘性小、硬い、1～3cmの雜や多く、炭少しだけ）
- 12 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性大、やや硬い、IOYR4/6 黄褐色粘質土、30cm以下に多くの炭・燒土・木少し混じる）
- 13 IOYR3/3 增褐色粘質土（粘性小、やや軟い、IOYR4/6 黄褐色粘質土、1～3cmの雜少しだけ）
- 14 IOYR3/3 增褐色粘質土（粘性小、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘質土ごく少量、1～3cmの雜少しだけ）
- 15 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、やや軟い、IOYR4/6 黄褐色粘質土、1～5cmの雜・炭少しだけ）
- 16 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、10YR4/6 黄褐色粘質土ごく少量、1～5cmの雜・炭少しだけ）
- 17 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、IOYR4/4 黄褐色粘質土、1cm程の雜少し、燒土ごく少量混じる）
- 18 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、10YR4/4 黄褐色粘質土ごく少量、1～2cmの雜多く、炭少しだけ）
- 19 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、25Y4/1 黄褐色粘質土ごく、1cm以下の雜少しだけ）
- 20 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、やや硬い、IOYR4/4 黄褐色粘質土多く、1～5cmの雜大量、炭少しだけ）
- 21 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性大、硬い、25Y4/3 オリーブ褐色砂質土・炭少し、3～15cmの雜大量混じる）
- 22 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性大、やや軟い、IOYR4/4 黄褐色粘質土大量、1～15cmの雜多く、炭少しだけ）
- 23 IOYR4/1 黑褐色粘質土
- 24 IOYR4/1 黑褐色砂質土（下部に黄褐色シルト含む）
- 25 IOYR4/1 黑褐色シルト
- 26 IOYR4/1 黑褐色粘質土（戻、戸室チップ含む）
- 27 IOYR3/2 增褐色粘質土（粘性中、軟い）
- 28 2012-9-2: 7層土に対応
- 29 2012-9-2: 7層土に対応
- 30 IOYR3/3 增褐色粘質土（粘性小、硬い、88 層土小ブロック・1～3cmの雜少しだけ）
- 31 IOYR4/2 増黄褐色粘質土（粘性小、硬い、1～5cmの雜大量、土管片混じる）
- 32 25Y4/2 増黄褐色粘土（粘性小、硬い、1～10cmの雜多く、炭少しだけ）
- 33 IOYR4/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、1～5cmの雜多く、炭少しだけ）
- 34 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5-6 黄褐色粘土大量、1～10cmの雜多く、炭少しだけ）
- 35 IOYR4/6 黄褐色粘土（粘性小、硬い、10YR3/2 黑褐色粘質土大量、1～2cmの雜少しだけ）
- 36 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、黒ボクブロック・1～2cmの雜少しだけ）
- 37 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、IOYR4/3 に於いて黄褐色砂質土（やや粗砂）。1～5cmの雜多く混じる）
- 38 IOYR3/3 增褐色粘質土（しまりやや粗砂、硬い、40層ブロック少し、1～6cmの雜多く混じる）
- 39 IOYR4/4 黄褐色砂質土（やや粗砂、軟い）
- 40 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、IOYR4/6 黄褐色粘土・1～3cmの雜多く混じる）
- 41 25Y4/4 オリーブ褐色粘土（粘性小、硬い、10YR5/8 黄褐色粘土・1～20cmの雜少しだけ）
- 42 IOYR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/8 黄褐色粘土少し、1～5cmの雜多く混じる）
- 43 25Y4/2 増黄褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・炭少し、1～15cmの雜大量混じる）
- 44 IOYR3/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・炭少し、1～5cmの雜多く混じる）
- 45 IOYR3/2 黑褐色砂質土（やや粗砂、やや軟い、10YR3/1 黑褐色粘質土・1～5cmの雜多く混じる）
- 46 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、やや硬い、10YR5-3 に於いて黄褐色粘土少し、1～6cmの雜多く混じる）
- 47 IOYR2/1 黑褐色粘土（粘性小、やや硬い、黒ボク由来か、25YR4/2 増灰黄色粘土（粘性中）、2～5cmの雜少し混じる）
- 48 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、25Y4/6 明黄褐色粘土・1～3cmの小塊、炭少し、10YR2/1 黑色粘土くぼみ混じる）
- 49 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・1～4cmの雜大量混じる）
- 50 25Y4/2 増黄褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色プロック少し、1～4cmの雜大量混じる）
- 51 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・黒ボクプロック少し、1～5cmの雜多く混じる）
- 52 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・炭少し、1～3cmの雜多く混じる）
- 53 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR5-6 黄褐色粘土・55層土・1～6cmの雜多く、炭少しだけ）
- 54 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土少し、1～10cmの雜多く混じる）
- 55 IOYR2/1 黑褐色粘土（粘性中、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1～4cmの雜多く、炭少しだけ）
- 56 IOYR2/1 黑褐色粘質土（硬い、10YR4/4 黄褐色砂質土（やや細砂）・1～4cmの雜多く、黒ボクプロック少しだけ）
- 57 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、軟い、1～3cmの雜多く混じる）
- 58 IOYR3/4 に於いて黄褐色砂質土（軟い、細砂・戸室チップ層）
- 59 硅石層
- 60 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土多く、1～10cmの雜多く混じる）
- 61 IOYR2/1 黑褐色粘土（粘性小、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土少し、1～3cmの雜多く混じる）
- 62 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土多く、黒ボクプロック・1～3cmの雜少しだけ）
- 63 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、やや軟い、10YR5/6 黄褐色粘土・黒ボクプロック・1～10cmの雜多く混じる）
- 64 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、軟い、10YR5/6 黄褐色粘土・1～3cmの雜少し、黒ボクプロック大量混じる）
- 65 25Y3/2 黄褐色砂質土（粗砂、軟い、10YR5/6 黄褐色粘土・黒ボクプロック少し混じる）
- 66 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土・炭少し、1～3cmの雜多く混じる）
- 67 IOYR4/4 黄褐色粘土（粘性小、やや軟、1～5cmの雜少しだけ）
- 68 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、やや硬い、黒ボク由来、10YR4/6 黄褐色小ブロック・炭少しだけ）
- 69 IOYR2/2 黑褐色粘質土（粘性小、軟い、10YR4/6 黄褐色小ブロック多く、燒土・炭少しだけ）
- 70 IOYR2/1 黑褐色粘土（粘性中、やや軟、黒ボク由来、10YR4/6 黄褐色小ブロック多く、1～3cmの雜少しだけ）
- 71 IOYR4/4 に於いて黄褐色色土（粘性なし、軟い）
- 72 IOYR2/3 增褐色粘質土（粘性小、やや硬い、1～3cmの雜少しだけ）
- 73 2011-8-9: 12層土に対応
- 74 IOYR2/2 增褐色粘質土（粘性小、硬い、10YR4/6 黄褐色小ブロック多く、1～3cmの雜大量、炭少しだけ）
- 75 IOYR2/2 增褐色粘質土（粘性中、硬い、1～10cmの雜・炭・燒土土多く混じる）
- 76 IOYR4/1 黑褐色粘土（粘性大、やや軟い、燒瓦混じる）
- 77 2011-8-9: 12層土に対応
- 78 IOYR4/2 黄褐色粘質土（粘性小、硬い、1～2cmの雜少し、78層土多く混じる）
- 79 IOYR5/6 黄褐色砂質土（粗い、硬い、1～5cmの雜大量混じる）
- 80 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、やや硬い、1～10cmの雜・炭・燒土土多く混じる）
- 81 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、軟い、1～5cmの雜・炭少しだけ）
- 82 2012-23-1: 137層土に対応
- 83 IOYR2/3 增褐色粘質土（粘性大、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土大量、約5mmの雜多く混じる）
- 84 IOYR3/3 增褐色粘質土（粘性大、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土（粘性大）大量、炭・燒土やや多く混じる）
- 85 IOYR2/1 黑色粘質土（粘性大、やや軟い、黒ボク由来か）
- 86 IOYR2/2 增褐色粘質土（粘性中、やや硬い、廻移層か）
- 87 IOYR2/1 黑褐色粘質土（粘性大、軟い、黒ボク由来か）
- 88 IOYR4/6 黄褐色粘質土（粘性小、硬い）

## 2. 暗渠・枠・木蓋付溝

二ノ丸からの排水、二ノ門背面の雨水等を内堀に排水するための施設である。絵図では暗渠が埋植として二ノ丸雁木坂までのルートを描いているが、そこから先についての記載はない。一ノ門下から内堀に排水していたと考えられる。一方、石組枠・木蓋付溝は描かれている。調査では石組暗渠(SD01)や石組枠(SK01)および、それらに関わる掘方・改修痕・抜き取り痕、木蓋付溝の掘方・抜き取り痕等が検出された。しかし上部は大きく壊され、枠は内部まで近代以降の土が入り込み、暗渠は枠より西側では一部を残し側板上部がのぞく深さまで、二ノ門下は掘方のみが残り、それにより東は全てが壊されている。木蓋付溝は近代石垣の背面にわずかに掘方が残存するのみであった。検出した遺構の多くは文化期の遺構であり、宝暦期の遺構は文化期に改修、据え直しされている。寛永期の遺構は確認できなかった。

石組暗渠・枠の石材は凝灰岩（鷹巣石）が主体で、一部に安山岩（戸室石）が使用される。城内のこれまでの調査によれば、石組溝の鷹巣石使用は宝暦頃とされていることから、橋爪門での使用も宝暦頃と考えられ、文化期に改修され、継続して使用されている。明治14年（1881）の火災時で機能を失い、堆積した砂質土の上部には、鉛塊や銅釘、炭化物、漆喰等が堆積していた。暗渠内には水平堆積した土層がみられ、枠内堆積土とともに花粉分析を行っている。暗渠内は上層・中層・下層の3層でサンプルを採取しているが、下層は暗渠であることから使用時の堆積と思われ、中層・上層は枠が完全に埋没して以降の堆積土と考えている。

### 枠関連遺構

#### SK01（文化石組枠）〔第47～49図、第11表〕

文化期の石組枠で、3段組みと考えられるが、上段・中段は抜き取られており、下段のみ遺存していた。外寸で東西91cm、南北99cm、内寸で東西75cm、南北84cmを測る。側板の長さは東西辺が84cm、南北辺は91cmの部材を使用し、南北辺の両端に受け部を造り出し東西辺を嵌め込んでいる。高さは39.2cm、厚さは7～8cmを測る。底面に石組等は見られず、浸透樹構造となっている。前述したように枠内には砂質土が互層状に堆積し、その上部に明治14年の火災の際に溶け落ちた鉛瓦と思われる鉛塊等を含む層が堆積している。これら堆積層は、枠が管理されなくなつてからのものと想定される。

平成22年度の調査で、東側板の上で、枠内に倒れるように中段の側板と考えられる部材（第119図S8）が出土している。受け部がみられることから、中段は東西辺に南北辺を嵌め込んでいたと推測され、下段と組み合わせ方を変えている可能性がある。石材は鷹巣石を使用しており、内面は平滑に仕上げるが、外面は調整痕が残る。

#### SK02・04（文化石組枠掘方）〔第47・49・58図〕

文化石組枠(SK01)の掘方は2段階確認しており、東西140cm、南北210cmの長方形の掘方(SK04)を掘削後、埋め戻して暗渠延長部の掘方(SK03)を掘削し、その後東西110cm、南北130cmの長方形に再掘削(SK02)している。SK04は一旦38層（第49図 2012-7-2）まで掘削し、黒褐色粘質土（同11層）で整地したのち枠側板を設置したと考えられる。SK02の埋土は、黒褐色または灰黄褐色粘質土を主体として埋め戻されており、SK04をはじめ文化期の他の遺構埋土が黒褐色粘質土を主体としている点で異なっている。

#### SK05（宝暦枠抜き取り痕）・SK06（宝暦枠掘方）〔第47・51・58図〕

宝暦期の枠は、掘方(SK06)及び文化期に枠を抜き取った痕跡(SK05)のみ確認した。掘方は、東西170cm、南北240cmの長方形を呈する。抜き取り痕は、掘方から40～50cm内側で検出した。掘方・抜き取り痕は、文化期の枠掘方・石組枠より北西に位置し、文化期に枠が南東に移設されたと考えられる。埋土はともに黒褐色粘質土が主体である。

### SX03 (文化土留板抜き取り痕) [第47・49図]

橋を廻るよう石材から1～3cmの幅で砂質土が堆積していた。暗渠と枠の接合部に1cmの隙間が存在することから、厚さ1cm程度の土留板を使用し、その抜き取りの隙間に砂質土が堆積したと推定した。

### 暗渠関連遺構

#### SD01 (石組暗渠) [第47・48・50～53図、第10表]

明治期に設置された通用門のため、一部が完全に破壊されている。蓋板は、近現代の削平によって大部分が取り払われ、残った部分も水道管(1)やヒューム管、共同溝敷設の際に壊されていた。暗渠のルートは、雁木坂下ではほぼ直角に東へ折れたのち、二ノ門背面の石組枠に接続し、二ノ門内は北鏡柱と脇柱・添柱間を抜ける状況が確認された(SD02)。

検出した石組暗渠は東西方向に6.9m、それに続く南北方向に1.3mを測るが、文化期の暗渠改修部分と通用門掘方の東側・西側の3箇所で様相が異なり、SK03内にあたる文化期の改修部分を改修部、通用門掘方以東を直線部、以西を屈折部とした。

**改修部** 文化期の二ノ門再建時に石組枠の移動に伴い、宝曆期の暗渠を一部改修・延長して使用している箇所である。宝曆枠を抜き取った後の文化石組枠までの約90cmを延長している。側板は南北それぞれ2枚、底板2枚を検出した。宝曆暗渠をほぼ直線的に延長しているが、側板は水平方向で下に5°、宝曆暗渠からは下に2°傾斜している。底板は水平方向で5.5°下に傾斜している。幅は枠との接続部で外寸50cm、内寸34cm、深さは内寸で25cmを測る。直線部のものよりやや狭く浅い。

石材は鷹巣石が主体であり、宝曆暗渠部材の転用とも考えられるが、北側の側板に赤戸室石が使用されている。この赤戸室石は織ぎ手の向きが逆で、隣の側板と組み合わさっておらず、全体に宝曆期のものより粗雑な作りになっている。

**直線部** 宝曆期の暗渠である。外寸幅53cm、内寸幅36～38cm、深さは内寸で26～28cmを測る。北側板4枚、南側板5枚、底板4枚、蓋板3枚遺存していた。南側板は1枚多いが、北側板と底板がほぼ対応しており、水平方向で底板は上流2枚が1°下、下流2枚が3°下に傾き、2枚ごとに角度を調整している状況が確認できた。側板は厚さ8cm、高さは計測できるもので34cm、長さは90～92cmが基本であるが52cmの短いものもみられる。北側の側板は通用門側の2枚が西側に下がっており、通用門側では左右に顯著な差が生じている・底板は短辺36cm、厚さは測れるもので8cm、長辺は88～92cmと様々である。蓋板は63cm四方の赤戸室石2枚(第117図S1・S2)と、短辺56cm、長辺91cmの鷹巣石(第118図S3)が残っていた。蓋板(第117図S2)はヒビが入り折れた状態になっていた。石材は鷹巣石が主体で、蓋板の一部に赤戸室石が使用されるが、鷹巣石に見るような蓋の加工はなされておらず規格も異なり転用と考えられる。赤戸室石は、文化期の暗渠改修時の側板にも使用されており、文化期に置き替えられた可能性も考えられるが、トレンチ1断面(第52図 2010-6)より文化期の削平面が蓋板に及ばないことから宝曆期と判断した。

**屈折部** 外寸幅56cm、内寸幅36cm、深さは内寸で28cmを測る。雁木坂から下る南北方向の側板2枚と底板1枚、二ノ門へと向かう東西方向の側板2枚と底板1枚、蓋板1枚が遺存していた。ほぼ直角に折れている。二ノ門へと向かう東西方向の底板の上に、二ノ丸から下る南北方向の底板が載っている。東西方向の底板・側板は水平方向で2°下に傾斜し、南北方向の底板は3°下、側板は5.5°下に傾斜している。側板は、厚さ9cm、高さ36cmと若干ではあるが直線部より大型になる。長さは直線部と同様に90～92cmが基本であるが82cmのものもみられる。東西方向の北側側板では、ほぼ中央、南側側板は先端に、ちょうど残っていた蓋板東端の部分で段差を設け高さを下げている。底板は短辺36cm、長辺90cm、厚さは東西方向の底板は直線部と同じ8cmであるが、東西方向の底板の上に載る

南北方向の底板は6.4cmと薄い。蓋板は短辺56cmの鷹巣石（第118図S4）が出土しており、コーナーまでカバーしていたとして復元すると、長辺は約92cmであったと推測される。また東西方向の軸は、直線部の軸から南へ6°傾いている。

約90°に屈折していることから、二ノ丸階段の暗渠ルートは、一旦続檜台石垣西面に沿うルートであったと推測されるが、「御城中壇分堀絵図」（天保元年（1830））や「御城分間御絵図」（嘉永3年（1850））に描かれる暗渠は、二ノ丸階段を一旦、階段西側の縁石に沿うように降り、その後、斜めに下るよう描かれている。直線部とした宝暦期石組暗渠を西側に延長すると絵図に描かれたこのラインに繋がり、宝暦期の暗渠はこのルートと思われる。文化期続檜台石垣の改修は雁木坂階段部分にまでおよんでいることからすると階段も改修されたこととなり、絵図とは異なるがこの時期に改修された可能性が浮かび上がる。しかし、宝暦期暗渠と石垣改修の影響、雁木坂階段の改修がどの程度の範囲で行われたのかは不明であり、改修されなかつた可能性も否定できない。いずれにせよ、前述のとおり明治14年（1881）の火災後には、石組暗渠も撤去され機能を失ったと考えられる。調査では、屈折部の掘方以外改修に関わる遺構は確認できず、近代の通用門掘方で寸断されてしまったため、宝暦期～明治14年であることを以外に時期の特定はできなかった。

#### SK03（文化暗渠改修痕）〔第47・51・58図〕

石組暗渠改修部の掘方にある。幅は南北140～155cm、東西115cmを測る。埋土は黒褐色粘質土が主体である。暗渠南側の様相は不明であるが、暗渠北側は側板の外側に5～20cmの礫が混じる埋土中に板石2枚を側板に添うように寝かせて据え置いている。この2枚の板石は厚さや大きさだけでなく、置かれる高さが異なっており、接してもいい。側板の固定を補強する押え石と推測されるが、接する暗渠側板2枚の縫ぎ手も噛み合っていないことから、暗渠の改修が全体的に粗雑に行われているような印象である。

#### SD02（文化暗渠掘方）〔第43・46・47・54図〕

二ノ門内で暗渠の掘方を検出している。幅は70～85cm、深さは推定二ノ門敷石下面（標高44.68m）から背面大柱付近で77cm、鏡柱付近で87cmを測る。水道管（8）壁面（第54図2012-10、2012-9-2）では、暗渠掘方掘削後、黒褐色粘質土で整地し（15層）、灰黄褐色粘土を敷く（14層）状況が確認できた。コンクリート盤（1）以東では深さ4cm程度しか遺存していなかったが、粘土層を確認している。宝暦暗渠の抜き取り痕の南に重複しており、文化期の二ノ門内の暗渠も、枠とともに新たに設置し直されたと考えられる。部材は近現代に抜き取られ遺存していなかったが、抜き取り痕は続檜台石垣南面にほぼ平行して走っており、暗渠も同様であったと推測される。

#### SD03（宝暦暗渠抜き取り痕）〔第43・47・54図〕

コンクリート盤（1）掘方以西の二ノ門内で検出した。埋土は黒褐色粘質土で、礫が多く混じり文化期の埋土よりやや軟らかい。南側がSD02（文化暗渠掘方）と重複しているため、北側の幅30～40cmのみ検出した。

#### SD04（宝暦暗渠掘方）〔第43・46・47・52・53図〕

コンクリート盤（1）以東の二ノ門内と、石組暗渠直線部で検出した。  
コンクリート盤（1）以東の二ノ門内では、鏡柱と脇柱・添柱の間で検出した。SD02（文化暗渠掘方）と大部分が重複し、近現代に大きく削平を受けたため、幅48cm、深さは4cm程度しか遺存していないかった。石組暗渠直線部では、掘方の幅は100～110cmを測る。埋土は黒褐色粘質土の上に、灰黄褐色粘質土を入れている。

#### SD05（暗渠屈折部掘方）〔第47・48・50・53図〕

暗渠側板に沿って東西方向で幅85cm、南北方向で80cmを測る。埋土の上層はSD04（宝暦暗渠掘方）と同様、黒褐色粘質土と灰黄褐色粘質土が主体である。近代の通用門掘方で寸断されており、宝暦期

暗渠との関係は確認できなかった。

### 木蓋付溝

#### SX02（文化木蓋付溝）〔第47・56・58図〕

近代石垣の背面で検出した。掘方の幅は約100cmを測り、埋土は暗褐色粘質土が主体である。抜き取り痕は、幅約60cmを測る。上部の砂質土には鉛塊が混じっており、底板抜き取りの際に底板上部に堆積していた砂が残されたものと思われる。西端・東端は一段掘り下げられており、河北門で検出された木蓋付溝と同じく側板下端が底板より低くなるような形で造られたものと考えられる。第56・57図（2012-7-3, 2011-8・9）をみると左右の深さが異なっていたり、上端が大きく開いていたりすることから、側板または押え石の抜き取りの際に側板の掘方が変形しているものと思われる。石組溝の部材は抜き取られて遺存していなかったが、押え石とみられる凝灰岩の板石が残っていた。厚さ約8cm、一辺25cmの正方形を呈する。同様の板石（第122図S23）が北隣で確認されており、石組溝の側板に沿って据えられていたと考えられる。

続櫓台石垣南面にみられる文化期の背面葛石痕跡やSK01（文化石組枡）と位置が対応することから、「御城分間御絵図」（嘉永3年（1850））に描かれる木蓋付溝と考えられる。

#### SX06（宝曆木蓋付溝）〔第47・56・58図〕

平面では検出できなかったが、水道管（2）・（3）（第58図2012-8・9）、近代石垣北壁（第56図2012-7-3）断面で、SX02の西側に幅約80cmの掘方または抜き取り痕とみられる構造を確認した。続櫓台石垣南面にみられる天明期の背面葛石痕跡の位置と対応しており、宝曆期の溝の掘方もしくは抜き取り痕と考えられる。文化期に上面を標高44.50mまで削平されたため部材は遺存しておらず、断面でも構造に関する初見は得られなかったが、河北門二ノ門背面で検出された石組溝が宝曆の大火後に改修されたと考えられていることから、橋爪門も同様に石組溝であったと推測される。

近代石垣北壁では、西側の幅約40cmの範囲の底面標高が44.44mであるのに対し、東側は底面標高44.37mと約7cm低くなっている。東側の一段低い箇所は、続櫓台石垣南面にみられる天明期の背面葛石痕跡と位置が対応しており、葛石または押え石の掘方、または抜き取り痕の可能性が考えられる。埋土は黒褐色または黄褐色系のシルトである。宝曆大火前の金沢城を描いた「金沢御城中絵図」に木蓋とみられる表現があることから、宝曆期も木蓋付溝であったと思われる。

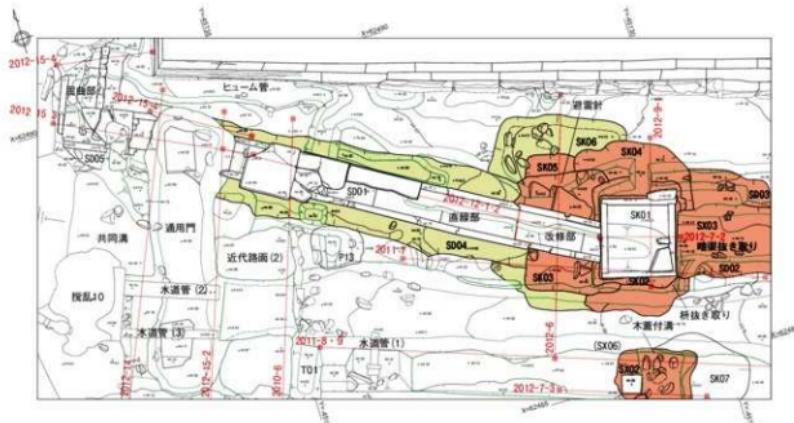
### その他の遺構

#### SK07〔第47・56・58図〕

水道管（2）・（3）掘方南壁・北壁、近代石垣北壁で検出した。水道管（2）・（3）に分断され、文化期の暗渠や木蓋付溝の掘方、近代石垣に切られており、部分的にしか検出できなかったが、東西116cm程度、南北160cm以上、深さ72cm以上の大型の土坑である。寛永期の枡の掘方または抜き取り痕の可能性も考えられるが、東西方向の掘方の幅が底面付近で約60cmと狭くなる点や、枡に附属する暗渠等の遺構が検出できなかったため、特定には至らなかった。

#### P13〔第47図〕

SD04（宝曆暗渠掘方）の南側でSD04に切られるように検出した。1辺が32cm程度の方形のピットと推測される。深さは第58図2011-7の153層上面まで確認しており、検出面から55cm程度と推測される。埋土は黒褐色土で礫が多く混じり、埴瓦もみられる。寛永期もしくは宝曆期の遺構とみられるが、時期や性格の特定には至らなかった。



石組暗渠・枡平面図（蓋あり）



石組暗渠・枡平面図（蓋なし）

■ 文化期  
■ 宝層

暗渠推定ルート



「御城分間御絵図」((財)前田育徳会)嘉永3年(1850)

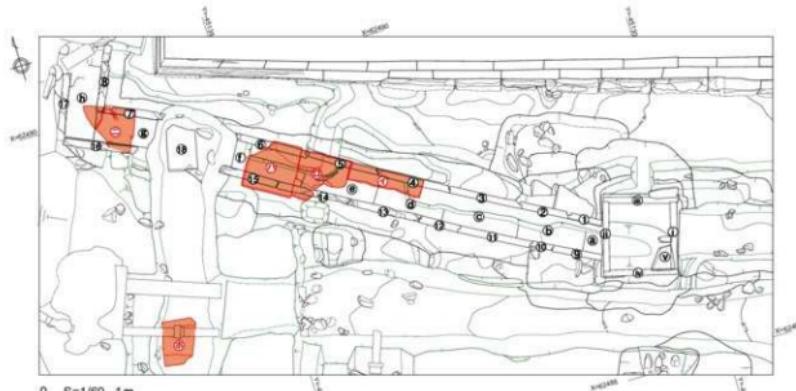
第47図 遺構平面図 石組暗渠・枡 (S=1/60)

第10表 石組暗渠石材寸法表

	寸法 (cm) 横幅 長さ 高さ 厚さ				寸法 (cm) 横幅 長さ 高さ 厚さ				寸法 (cm) 横幅 長さ 高さ 厚さ				寸法 (cm) 横幅 長さ 高さ 厚さ				備考		
	横幅	長さ	高さ	厚さ	横幅	長さ	高さ	厚さ	横幅	長さ	高さ	厚さ	横幅	長さ	高さ	厚さ	横幅		
文化 南北 東西 南北	① 43	8	-3'	片	赤印原	⑤ 62	8	片	⑥ 18 - 25	34	-5.5'								
	② 60	8	29	7		⑩ 29	7	両	⑦ 84	36									
	③ 89	8	90	8	両	⑧ 88	36												
	④ 91	8	-3'	両		⑨ 52	8	両	⑩ 90	36	-3'		⑦ 91	562	9.2	S3			
	⑤ 90	8	-0.5'	両		⑩ 92	8	両	⑥ 90	36	-1'		⑧ 632	625	9.6	S1 赤印原			
	⑥ 90	34	8	両		⑩ (75)	34	8	⑦ 92	38	8		⑨ 63	641	9.6	S2 赤印原			
	⑦ 75	36	9	-4.2'	片	⑩ 92	36	9	-2'	片	⑧ (75)	36	8	⑩ 636	567	9.5	S4		
	⑧ 82	9	-5.5'	片		⑩ (74)	9	-5.5'	片	⑤ 90	36	6.4	-3'						
通用門						⑩ (58)	36.9	9.9	(11)	59				⑩ 422	398	9.2	S5		

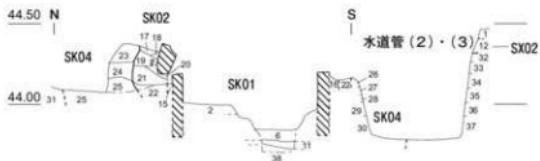
第11表 石組橋石材寸法表

種	寸法 (cm) 下段 長さ 高さ 厚さ				寸法 (cm) 中段 長さ 高さ 厚さ				寸法 (cm) 上段 長さ 高さ 厚さ				備考	
	下段	中段	上段	備考	下段	中段	上段	備考	下段	中段	上段	備考		
文化 南北 東西	① 84	40	8	なし		v (325)	(312)	8.0	(片)	S8				
	② 84	40	8	なし										
	③ 91	(39)	8	両										
	④ 91	(39)	8	両										

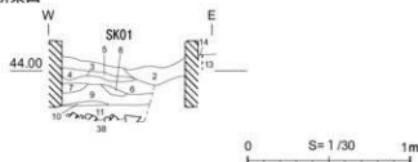


第48図 石組暗渠・橋石材寸法 (S=1/60)

2012-9-1 石組橋南北



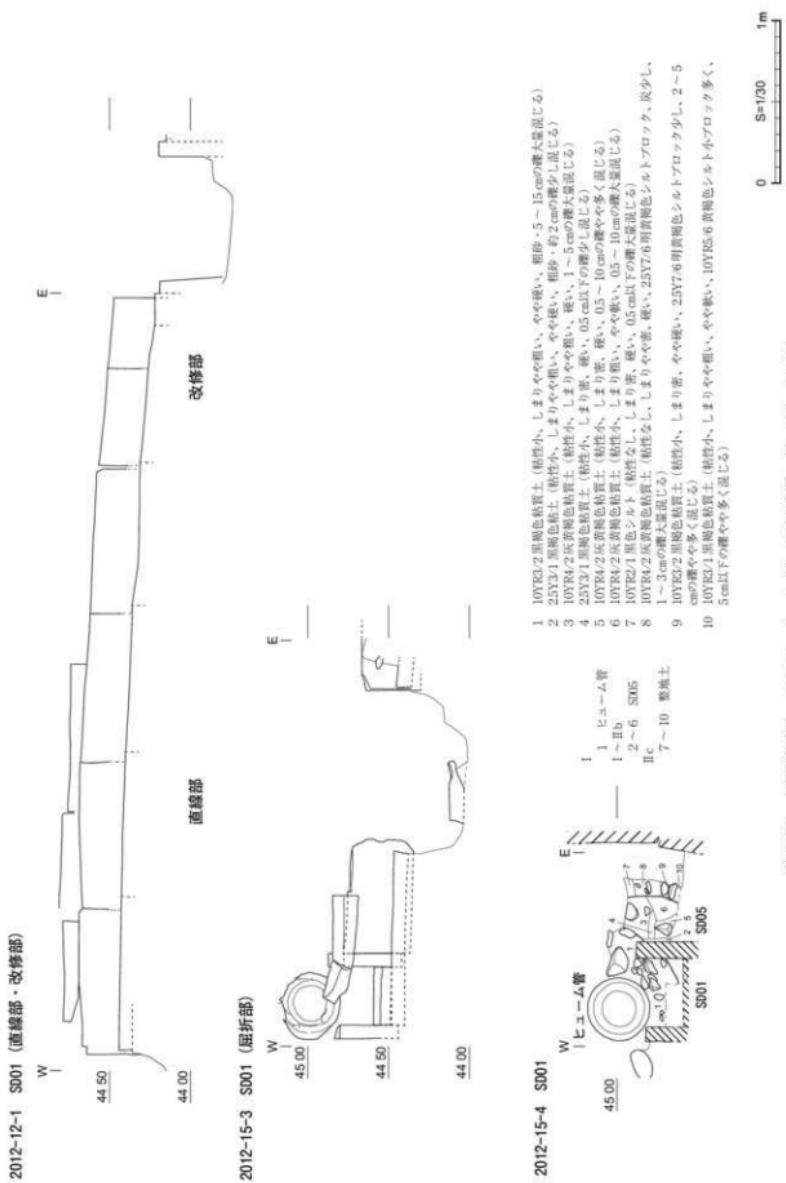
2012-7-2 石組橋東西



2012-7-2, 2012-9-1 共通

- | I                | II a       | II c      |
|------------------|------------|-----------|
| 1 文化鋪瀝抜取         | 11 整地土     | 31 SK07   |
| 2~3 明治 14 年前後堆積土 | 12 SK02    | 32~38 整地土 |
| I~II a           | 13 SK02    |           |
| 4~10 堆積土         | 14~16 SK03 |           |
|                  | 17~22 SK02 |           |
|                  | 23~30 SK04 |           |
- ※2012-7-2, 2012-9-1 共通
- 2011-8・9: 16 番, 2012-7-3: 2 番に対応
  - 10YR4/3暗褐色砂質土（粗砂、しまり粗い、硬い。0.5 ~ 10 cm の礫大量、鈎縫・鋼釘多く、漆喰か大量混じる）
  - 10YR3/2 黒褐色砂質土（粗砂、しまり密、硬い、約 0.5 cm の礫・焼土・炭大量混じる）
  - 10YR3/1 黑褐色砂質土（粗砂、しまり密、硬い、約 0.5 cm の礫大量混じる）
  - 10YE3/1 黒褐色砂質土（粗砂、しまり密、硬い、約 0.5 cm の礫・炭少しある）
  - 25Y4/2 鞍灰黃褐色砂質土（粗砂、しまり密、軟い）
  - 25Y3/1 黑褐色砂質土（粗砂、しまりや粗い、軟い。0.5 cm 以下の礫大量混じる）
  - 25Y4/1 黄灰色砂質土（粗砂、しまり密、軟い、2 cm 以下の礫ごく少量混じる）
  - 25Y4/2 剛灰黃褐色砂質土（粗砂、しまり密、軟い）
  - 25Y4/2 剛灰黃褐色砂質土（やや粗砂、しまり密、軟い）
  - 10YE3/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密。硬い。粗砂多く混じる）
  - 2011-8・9: 41 番に対応
  - 10YR4/2 黑褐色砂質土（粘性小、しまり粗い、硬い。燒土・炭ごく少量混じる）
  - 10YR4/2 黄褐色砂質土（粗砂、しまりや粗い、軟い。2 cm 以下の礫多く混じる）
  - 10YR4/2 黄褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまりやや密、軟い。西側で 10YR4/2 黄褐色色シルトブロック・1 ~ 5 cm の礫少しある）
  - 10YE3/2 黑褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまり粗い、軟い。西側で 10YR4/2 黄褐色色シルトブロック多く、1 ~ 3 cm の礫・炭や多く混じる）
  - 10YR4/2 黄褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまりやや密、軟い。1 cm 以下の礫多く混じる）
  - 10YR4/2 黄褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまり密、やや硬い、鉄分大量混じる）
  - 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い。10 cm 以下の礫大量、粗瓦多く、底少しある）
  - 2011-8・9: 48 番に対応
  - 2011-8・9: 50 番に対応
  - 2011-8・9: 51 番に対応
  - 2011-8・9: 57 番に対応
  - 2011-8・9: 58 番に対応
  - 10YR2/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い。10YR5/4 に比べ黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、1 ~ 7 cm の礫・粗砂大量、炭・燒土やや多く混じる）
  - 2011-8・9: 108 番、2012-6: 15 番に対応
  - 2011-8・9: 146 番、2012-6: 16 番に対応
  - 2011-8・9: 164 番に対応
  - 2011-8・9: 165 番に対応
  - 2011-8・9: 166 番、2012-6: 19 番に対応
  - 2011-8・9: 167 番、2012-6: 20 番に対応
  - 10YR2/3 黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い。10 cm 以下の礫大量、粗瓦多く、底少しある）

第49図 土層断面図 石組橋 (S=1/30)



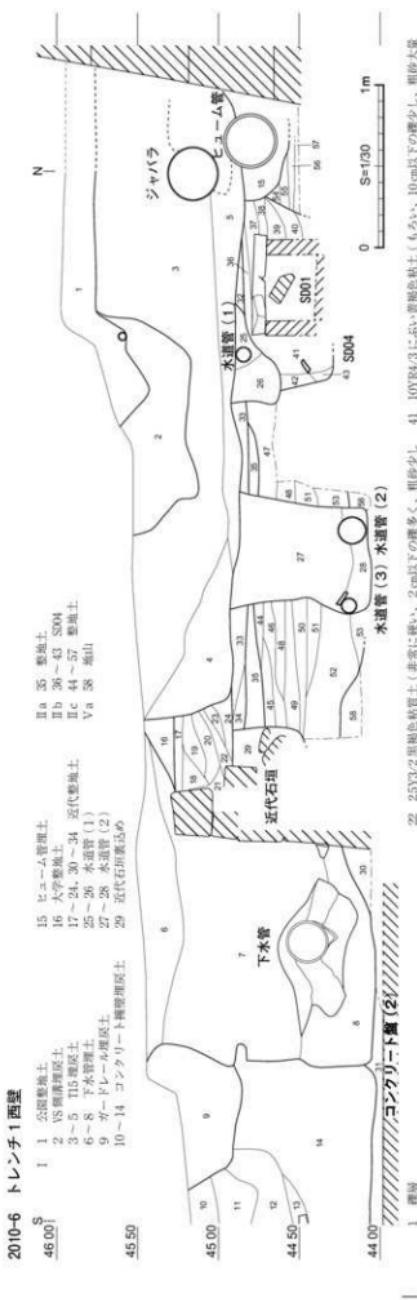
## 2012-6 暗渠・枠改修痕



暗渠改修痕（北から）

- 1 10YR3-1 黒褐色砂質土 (細粒、粘性なし、しまり密、軟い、10YR4-2 黑褐色シルトブロック多く、炭大量、焼土少し混じる)
- 2 10YR3-2 黒褐色砂質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、1cm以下の礫大量、約5cmの礫・沙少し混じる)  
2011-8-9 : 45層に対応
- 3 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、5~20cmの礫大量、1cm以下の礫・炭多く混じる)
- 4 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロック少し、1~3cmの礫多く、炭やや多く混じる)
- 5 10YR3-2 黑褐色砂質土 (細粒、しまり密、やや軟い、1~2cmの礫多く、炭少し混じる)  
2011-8-9 : 63層に対応
- 6 10YR4-2 黄褐色砂質土 (やや細粒、粘性なし、しまり密、軟い、10YR5-8 明黄褐色シルトブロック・炭・焼土少し、1~8cmの礫大量、赤P3変化有り)  
2011-8-9 : 66層、2012-7-3 : 13層に対応
- 7 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、2cm以下の礫・10YR5-8 黄褐色シルトやや多く混じる)  
2011-8-9 : 70層に対応
- 8 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性なし、しまり密、硬い、5cm以下の礫やや多く、沙少し混じる)  
2011-8-9 : 73層に対応
- 9 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、3cm以下の礫・炭・焼土・焼瓦多く混じる)  
2011-8-9 : 76層に対応
- 10 10YR3-1 黑褐色砂質土 (粘性中、しまり密、硬い、3cm以下の礫・炭・焼瓦少し、炭・焼土大量混じる)  
2011-8-9 : 78層に対応
- 11 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロック少し、3~30cmの礫多く混じる)
- 12 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロック・10YR2-1 黑色シルトブロック大量、1~5cmの礫多く、炭やや多く混じる)
- 13 10YR3-1 黑褐色砂質土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、1~5cmの礫多く、炭ごく少量混じる)  
2011-8-9 : 105層、2012-9-2 : 30層に対応
- 14 10YR2-1 黑色ルート (粘性小、しまりやや密、硬い、25Y5/4 黄褐色シルト・炭ごく少量、1~5cmの礫多く混じる)  
2011-8-9 : 106層に対応
- 15 10YR3-1 黑褐色砂質土 (粘性中、しまり密、硬い、1~3cmの礫少し混じる)  
2011-8-9 : 108層、2012-9-1 : 33層に対応
- 16 10YR3-1 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、約2cmの礫・粗砂多く混じる)  
2011-8-9 : 146層、2012-9-1 : 33層に対応
- 17 10YR4-1 黑褐色砂質土 (粘性なし、しまり密、硬い、25Y5/3 黄褐色粘土・1~3cmの礫・炭少し混じる)  
2011-8-9 : 149層に対応
- 18 10YR4-1 黑褐色砂質土 (粘性中、しまり密、硬い、25Y5/3 黄褐色粘土・1~10cmの礫少し、炭多く混じる)  
2011-8-9 : 152層に対応
- 19 10YR3-1 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、1~3cmの礫多く、炭・焼土・焼瓦少し混じる)  
2011-8-9 : 166層、2012-9-1 : 36層に対応
- 20 10YR2-1 黑褐色砂質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、5~10cmの礫少し、1~2cmの礫・炭多く混じる)  
2011-8-9 : 167層、2012-9-1 : 37層に対応
- 21 10YR3-2 黑褐色砂質土 (粘性小、しまり粗い、軟い、焼瓦・炭・焼土多く混じる)  
2011-8-9 : 170層に対応

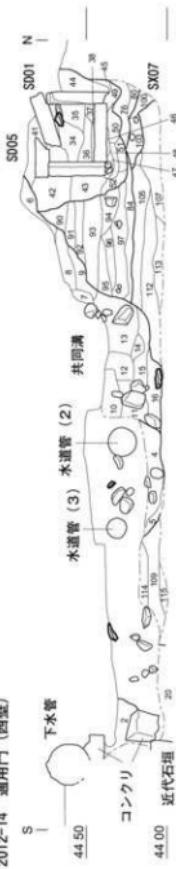
第51図 土層断面図 暗渠・枠改修痕 (S=1/30)



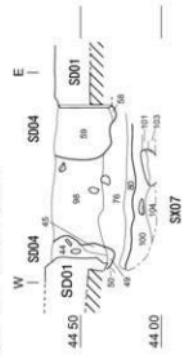
第52回 王層断面図 トレスチ1西壁 (S=1/30)

第52回 王層断面図 トレスチ1西壁 (S=1/30)

2012-14 通用門（西壁）

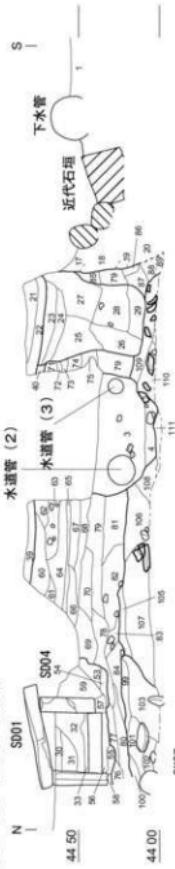


2012-15-1 通用門（北壁）



2012-14, 2012-15-1, 2012-15-2 共通

1	1 ~ 2 下水管	II a	39 ~ 40 整地土
3 ~ 5	水道管 (2) (3)	II b	1 ~ 11a 整地土
6 ~ 16	共用溝土	II c	41 ~ 52 SD05
17 ~ 20	近代石垣 (5)	II d	53 ~ 59 SD04
21 ~ 22	整地土	II e	30 ~ 38 SD07
23 ~ 29	道路		90 ~ 104 SD07
30 ~ 38	地盤土		



2012-15-2 通用門（東壁）

0 S=1/30 1m

第53図 土層断面図 通用門 (S=1/30)

※2012-14、2012-15-1、2012-15-2 共通

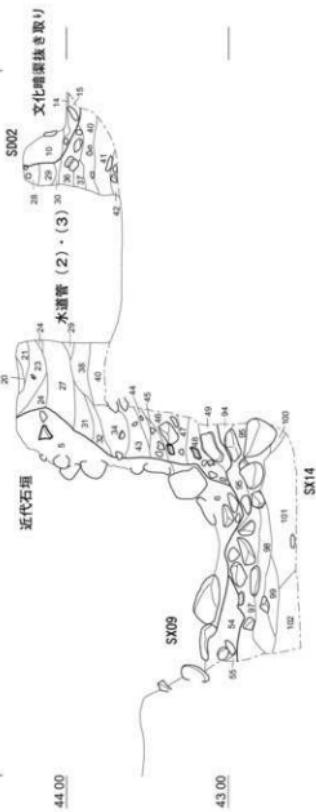
- 1 25Y5/6 黄褐色シルト (粘性なし、しまりや密、硬い)
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、1~2cmの繩大量、底少し、粗砂少し混じる)
- 3 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや粗い、硬い、約0.5cmの繩大量、1~5cmの繩多く、鉢分多く、粗砂瓦少し混じる)
- 4 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりや密、やや硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少々、1~7cmの繩多く混じる)
- 5 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりや密、軟い、1~2cmの繩多く混じる)
- 6 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまりやや粗い、軟い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック多く、0.5~1cmの繩や多く、2~10cmの繩少し、瓦混じる)
- 7 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少々、1~2cmの繩や多く、0.5cm以下の繩多く混じる)
- 8 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少々、約0.5cmの繩大量、2~5cmの繩多く混じる)
- 9 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりや密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少々、1~2cmの繩少し、10YR2/1 黑色シルトブロック・0.5cm以下の繩多く混じる)
- 10 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりや密、硬い、25Y6/6 明黄褐色シルトブロック、底・鉢分少し、1~5cmの繩多く混じる)
- 11 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり粗い、軟い、2~15cmの繩大量混じる)
- 12 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、软い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少々、0.5cm以下の繩多く、2~5cmの繩や多く混じる)
- 13 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、1cm以下の繩大量、2~15cmの繩多く混じる)
- 14 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、粗砂大量、約1cmの繩少し混じる)
- 15 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック少々、1~5cmの繩大量、底・土炒少々、瓦混じる)
- 16 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、1~5cmの繩大量、底少し混じる)
- 17 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、软い、粗砂・1cm以下の繩大量、約5cmの繩少し混じる)
- 18 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや软い、約0.5cmの繩・底・鉢分や多く混じる)
- 19 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、软い、1~5cmの繩大量混じる)
- 20 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗、软い、1~5cmの繩大量混じる)
- 21 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、0.5cm以下の繩大量、1~2cmの繩多く混じる)
- 22 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、0.5cm以下の繩多く、1~2cmの繩や多く、鉢分多く混じる)
- 23 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック・2cm以下の繩大量混じる)
- 24 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少々、0.5cm以下の繩少し混じる)
- 25 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、0.5cm以下の繩や多く、1~5cmの繩少し混じる)
- 26 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、やや硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少々、0.5cm以下の繩、1~5cmの繩や多く混じる)
- 27 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少々、0.5cm以下の繩・1~5cmの繩多く混じる)
- 28 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、0.5cm以下の繩や多く、1~5cmの繩少し混じる)
- 29 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりや粗、软い、10YR2/1 黑色シルトブロック・0.5cm以下の繩、1~3cmの繩少し混じる)
- 30 10YR4/1 黄褐色砂質土 (粗砂、粘性なし、しまり粗い、やや硬い、約0.5cmの繩大量、2~3cmの繩多く混じる)
- 31 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、0.5cm以下の繩・2~15cmの繩、底少し混じる)
- 32 10YR3/2 黄褐色粘質土 (粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、0.5cm以下の繩多く、約1cmの繩・底・土炒少し混じる)
- 33 10YR4/1 黄褐色粘土 (粘性中、しまり密、やや软い、1~5cmの繩少し、底や多く混じる)
- 34 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、0.5~3cmの繩大量混じる)
- 35 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、約0.5cmの繩少し、約1cmの繩少し混じる)
- 36 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、約0.5cmの繩大量、1~3cmの繩多く混じる)
- 37 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、約0.5cmの繩少し、粗砂大量に混じる)
- 38 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、やや软い、0.5cm以下の繩や多く、底・土炒少し混じる)
- 39 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、0.5以下cmの繩大量、1~3cmの繩多く混じる、39層以上に鉢が溶けた層あり)
- 40 10YR3/2 黑褐色シルト (粘性なし、しまり粗、硬い、粗砂大量、層状の10YR2/1 黑色土層、1~5cmの繩多く混じる)  
301~8 9~62層、2010.6 39層に対応
- 41 10YR4/2 黄褐色砂質土 (粗砂、粘性なし、しまり粗い、软い、約0.5cmの繩・1~4cmの繩・鉢分大量に混じる)
- 42 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、約0.5cmの繩・1~4cmの繩大量に混じる)
- 43 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、約0.5cmの繩多く、1~5cmの繩・底少し混じる)
- 44 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小プロック少層、1cm以下の繩大量、3~5cmの繩少し、鉢分多く、瓦混じる)
- 45 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり粗い、软い、10YR3/1 黑褐色シルトプロック少量、1~3cmの繩多く混じる)
- 46 25Y4/1 黄褐色土 (粘性中、しまりやや密、やや软い、10YR5/6 黄褐色シルト小プロック・底・土炒・約0.5cmの繩多く混じる)
- 47 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、1~5cmの繩多く、底・鉢分少し混じる)
- 48 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小プロックや多く、0.5~1cmの繩・底少し混じる)
- 49 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/4 に5cmの黄色色シルトプロック大量、底や多く混じる)
- 50 10YR3/1 黑褐色粘土 (粘性大、しまりやや粗い、やや软い、10TR2/1 黑色シルトプロック・1~3cmの繩少し、粗砂多く混じる)
- 51 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小プロックや多く、0.5~1cmの繩・底少し混じる)
- 52 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、软い、10YR5/6 黄褐色シルト小プロック、10YR2/1 黑色シルトプロック少量、0.5~2cmの繩少し混じる)
- 53 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや软い、1~3cmの繩多く混じる)
- 54 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトプロック・0.5cm以下の繩少し、鉢分や多く、底ごく小量混じる)
- 55 10YR3/1 黑褐色シルト (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR6/6 明黄褐色シルトプロックや多く、粗砂少し混じる)
- 56 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性小、しまり密、非常に硬い、10YR5/6 6明黄褐色シルトプロック・底少し、1cm以下の繩多く混じる)
- 57 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、1cm以下の繩・鉢分やなく、粗砂量混じる)
- 58 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性小、しまり密、硬い、2cm以下の繩少し混じる)
- 59 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、25Y6/1 に5cmの黄色色シルトプロック少量、約0.5cmの繩大量、1~2cmの繩・鉢分多く混じる)
- 60 10YR4/1 黄褐色シルト (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR3/1 黑褐色粘土粘質土プロック少し、2cm以下の繩・粗砂大量混じる)
- 61 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、0.5cm以下底や多く混じる)
- 62 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、1~2cmの繩大量混じる)
- 63 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、1~5cmの繩大量混じる)
- 64 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、1~3cmの繩少し混じる)
- 65 10YR4/1 黄褐色シルト (粘性なし、しまり密、やや软い、1~2cmの繩少し混じる)
- 66 10YR4/1 黄褐色シルト (粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトプロック少し、1cm以下の繩多く混じる)
- 67 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトプロック多く、10YR2/1 黑色シルトプロック・0.5cmの繩少し、約0.5cmの繩や多く混じる)
- 68 10YR4/4 黄褐色シルト (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/1 黄褐色粘質土大量、10YR2/1 黑色シルト・1~3cmの繩少し混じる)  
2010.6~51層、2011.8~9: 107層に対応

2012-14、2012-15-1、2012-15-2 通用門 土層記述 1

- 69 I0YR2/1 黒色シルト (粘性中、しまりやや粗い、やや軟い、10YR4/2  
灰黄褐色シルト多く、1~3cmの繊少し、底少量混じる)
- 70 I0YR2/2 黒褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、  
I0YR3/1 黑褐色粘土質土ブロック大量、10YR5/6 黄褐色シルトブロ  
ック少し、1~2cmの繊多く混じる)
- 71 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、約 0.5 cm  
の繊大量、1~5 cmの繊多く、底少し混じる) 2010-6: 46 帳に付記
- 72 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性なし、しまり密、硬い、0.5 cm以下の  
繊多く、鉄分少し混じる) 2010-6: 48 帳に付記
- 73 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粗砂、粘性なし、しまり密、硬い、  
I0YR2/1 黑色シルトごく少量、0.5 cm以下の繊多く、約 1 cmの繊少  
し混じる)
- 74 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/1  
褐灰色粘土質土ブロック・1~2cmの繊少し、0.5 cm以下の繊大量混  
じる)
- 75 I0YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/6 褐色  
シルトブロック・1~2cmの繊少し、0.5 cm以下の繊多く混じる)
- 76 I0YR2/1 黑色シルト (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/4 褐色  
シルト小ブロック・1~5 cmの繊、底少し混じる)
- 77 I0YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、  
I0YR2/1 黑色シルトブロック・1~5 cmの繊少し、鉄分や多く混  
じる)
- 78 I0YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR2/4 褐色シ  
ルトブロック少し、10YR2/1 黑色シルトブロックやや多く、0.5~5 cm  
の繊少し混じる)
- 79 I0YR2/1 黑色シルト (粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR4/4  
褐色シルトブロック・10YR4/2 灰黄褐色粘土質土ブロック少し、  
1~2 cmの繊、底少量混じる)
- 80 I0YR3/1 黑褐色シルト (粘性小、しまり粗い、やや軟い、0.5~1 cm  
の戸室チップ (青) 大量、約 5 cmの繊少し混じる)
- 81 I0YR4/1 褐灰色粘土質土 (粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6  
褐灰色シルトブロック・1~3 cmの繊多く混じる)
- 82 I0YR4/1 褐灰色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色  
シルトブロック大量、1~5 cmの繊多く混じる)
- 83 I0YR4/1 褐灰色粘土質土 (粘性なし、しまり密、軟い、1~5 cmの繊多く、  
底少量混じる)
- 84 I0YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、  
0.5 cm以下の繊、鉄分多く、約 5 cmの繊、底少量混じる)
- 85 I0YR4/4 褐色シルト (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/1 褐灰色粘  
土質土ブロックやや多く、0.5 cm以下の繊大量、1~2 cmの繊少し混  
じる)
- 86 I0YR2/1 黑色シルト (粘性なし、しまり密、やや硬い、10YR5/4 にぶ  
い黄褐色シルトブロック・0.5 cm以下の繊少し混じる)
- 87 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性なし、しまりやや粗い、軟い、粗砂、  
0.5 cm以下の繊大量、1~2 cmの繊少し混じる)
- 88 I0YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性なし、しまり密、やや硬い、  
10YR4/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6 褐色  
シルトブロック・瓦多く、0.5~1 cmの繊少し混じる)
- 90 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性なし、しまり密、硬い、粗砂、  
0.5~1 cmの繊大量、2~6 cmの繊少し混じる)
- 91 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性なし、しまり密、硬い、25Y6/4 にぶ  
い黄色紗質土 (粗砂) の約 4~5 層の互層、0.5~1 cmの繊少し混じる)
- 92 I0YR5/6 黄褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルト  
ブロック大量、0.5~2 cmの繊多く混じる)
- 93 I0YR4/1 褐灰色粘土質土 (粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR2/1  
黑色シルトブロック大量、25Y6/4 にぶい黄色シルトブロック少し、  
0.5 cm以下の繊大量、1~3 cmの繊少し混じる)
- 94 I0YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シ  
ルトブロックやや多く、25Y6/4 にぶい黄色シルトブロック少量、  
10YR4/4 褐色シルトブロック・1~6 cmの繊少し混じる)
- 95 I0YR2/1 黑色シルト (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4  
褐色シルトブロック少し、0.5~2 cmの繊やや多く混じる)
- 96 I0YR3/1 黑褐色シルト (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4  
褐色シルトブロック少量、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、  
0.5~1 cmの繊少し、燒土少量混じる)
- 97 I0YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性なし、しまり粗い、軟い、約 0.5 cmの  
繊大量、1~5 cmの繊やや多く、戸室チップ (赤) 少量混じる)
- 98 I0YR4/2 灰黄褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、25Y6/4 にぶい  
黄色シルトブロック少量、約 0.5 cmの繊大量、1~2 cmの繊、鉄分  
多く、焼瓦混じる) 50 帳に付記
- 99 I0YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、1~3 cmの  
繊少し、底少量混じる)
- 100 I0YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや密、軟い、10YR5/6  
黄褐色シルトブロック・1~7 cmの繊少し、10YR2/1 黑色シルトブロ  
ックごく少量、粗砂大量、燒土少量混じる)

2012-10 水道管 (8) 西壁

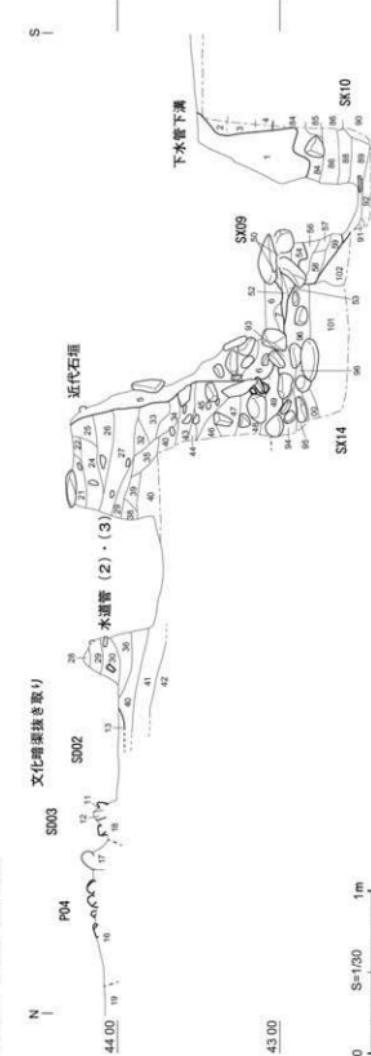
N  
——  
S



2012-9-2, 2012-10, 2012-11-1, 2012-11-2 共通

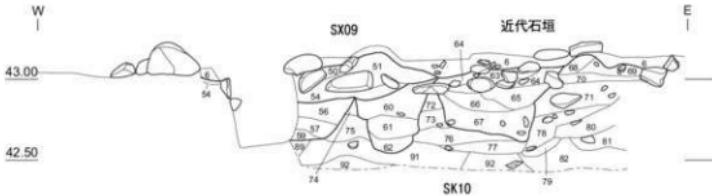
- 1 下水管置土
- 2~4 道槽
- 5~7 活化石石灰层
- 8~9 通气孔?
- IIa 10~15 SD02
- 16~17 P04
- IIb 18 SD03
- IIc 19 SD07 砖
- 20~49 砂质土
- 50~55 黏质土 (SN09)
- IIIa~IIIb 56~59, 60~62, 63~67 通气孔
- 68~72 SD10
- 93~92 SD14

2012-9-2 水道管 (8) 東壁

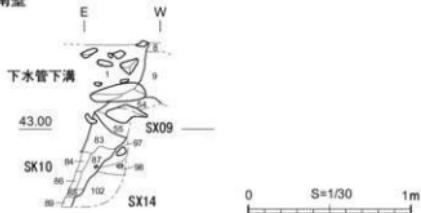


第54図 土層断面図 水道管(8) (S=1/30)

2012-11-1 下水管下溝北壁



2012-11-2 下水管下溝アゼ南壁



※2012-9-2、2012-10、2012-11-1、2012-11-2 共通

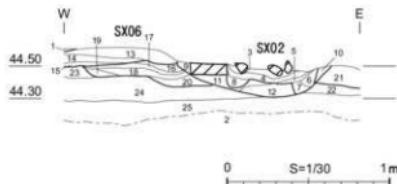
- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/1 黒褐色砂質土 (粗粒) ブロック・炭・鉄分多く、1~3cmの礫大量混じる)
- 2 2012-9: 114層に対応
- 3 2012-33: 115層に対応
- 4 2012-33: 116層に対応
- 5 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少し、10~20cmの礫大量混じる)
- 6 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり密、硬い、25Y5/4 黄褐色シルトブロック少し、10~30cmの礫多く、炭・焼土大量混じる)
- 7 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性中、しまり密、やや硬い、焼土・炭少しづつ混じる)
- 8 10YR2/2 黑褐色粘土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック多く、炭少しづつ混じる)
- 9 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・炭・焼土多く、1~3cmの礫やや多く混じる)
- 10 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少し、約0.5cmの礫、2~12cmの礫多く、鉄分や多く、炭少量化混じる)
- 11 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性小、しまりやや密、やや軟い、1~3cmの礫多く、10~18cmの礫少量、炭・焼土・鉄分少し混じる)
- 12 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR4/2 黄褐色粘土 (1~5cmの礫・焼土・炭少しづつ混じる))
- 13 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性中、しまり密、硬い、炭少し、鉄分やや多く混じる)
- 14 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性小、しまり密、硬い、鉄分多く混じる)
- 15 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少量、1~10cmの礫・炭・焼土・鉄分少し混じる)
- 16 25Y7/6 明黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、硬い、10YR4/3/にぶい黄褐色粘土や多く、1~25cmの礫大量、炭・焼土少しづつ混じる)
- 17 10YR2/1 黑褐色粘土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック・1~3cmの礫大量、炭・焼土少しづつ混じる)
- 18 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性中、しまり密、やや硬い、1~10cmの礫やや多く混じる)
- 19 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック・10YR5/6 黄褐色シルトブロック大量、1~3cmの礫多く、炭少しづつ混じる)
- 20 10YR3/3 黄褐色粘土 (粘性なし、しまりやや密、やや軟い、1~4cmの礫大量混じる) 2011-8-9: 104層に対応
- 21 10YR2/1 黑褐色粘土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、1~5cmの礫多く、炭ごく少量化混じる)
- 22 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・1~3cmの礫多く、炭・焼土少しづつ混じる)
- 23 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、25Y7/4 黄褐色粘土ごく少量化混じる)
- 24 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、約1cmの礫・焼土・炭少しづつ混じる) 2011-8-9: 142層に対応
- 25 10YR3/3 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・約1cmの礫・炭少しづつ混じる)
- 26 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロック大量、1~5cmの礫少しづつ混じる)
- 27 10YR2/1 黑色粘質土 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色土多く、0.5~1cmの礫少しづつ混じる) 2011-8-9: 144層に対応
- 28 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、10YR4/3 にぶい黄褐色粘土・1~5cmの礫・炭少し、約0.5cmの礫大量混じる) 2011-8-9: 158層に対応
- 29 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/3 にぶい黄褐色粘土・約0.5cmの礫・炭少しづつ混じる) 2011-8-9: 159層に対応
- 30 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、1~5cmの礫・焼土・炭少しづつ混じる) 2011-8-9: 161層に対応
- 31 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック大量、25Y7/4 にぶい黄色粘土ブロック多く、鉄分や多く、約1cmの礫少しづつ混じる)
- 32 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小ブロックごく少量化、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、鉄分多く混じる)
- 33 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小ブロックごく少量化、33層土ブロック少し、3cm以上の礫多く、炭やや多く混じる)
- 34 10YR3/3 黑褐色粘質土 (粘性小、しまり密、硬い、25Y5/3 黄褐色シルトブロック・25Y5/2 黄褐色砂質土 (細粒) 大量、1~3cmの礫少しおよびごく少量化混じる)
- 35 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小ブロックごく少量化、33層土ブロック・1~6cmの礫・炭少しづつ混じる)
- 36 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、1~3cmの礫多く、炭・漆黒か少しづつ混じる) 2011-8-9: 162層に対応

第55図 土層断面図 下水管下溝北壁・アゼ南壁 (S=1/30)

- 37) 10YR3/2 黒褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロックごく少量、1~5cmの繊多く、炭・焼土やや多く、焼瓦混じる)
- 38) 10YR4/1 暗灰褐色粘土質土 (粘性大、しまりやや密、やや軟い、0.5~1cmの繊やや多く、約10cmの繊・炭・焼土少し混じる)  
2011-6-9: 163層に対応
- 39) 10YR4/3 に似る黄褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロックが多く、10YR3/2 黑褐色粘土質土ブロック、約1cm繊、炭少しうまぐ)
- 40) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、1~3cmの繊多く、炭・焼土、焼瓦少しうまぐ)  
2011-8-9: 166層、2012-9-1: 36層、2012-6: 19層に対応
- 41) 10YR2/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、やや軟い、1~2cmの繊・炭少しうまぐ)  
2011-8-9: 167層、2012-9-1: 37層、2012-6: 20層に対応
- 42) 10YR2/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、やや軟い、5~10cmの繊少しうまぐ)  
10YR4/6 黄褐色土・炭少しうまぐ)  
2011-8-9: 168層に対応
- 43) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロック少しうまぐ、1~5cmの繊・炭・焼土、炭やや多く、鉄分多く混じる)
- 44) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR3/3暗褐色砂質土 (やや細緻) 大量、約3cmの繊ごく少量、焼土、炭少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 45) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR3/3暗褐色砂質土 (やや細緻) 少し、3~10cmの繊・炭・焼土、炭少しうまぐ混じる)
- 46) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4に似る黄褐色土少しうまぐ、3~10cmの繊やや多く、炭大量、鉄分多く、焼土少しうまぐ、焼瓦混じる)  
505/5 1緑色砂質土少しうまぐ混じる)
- 47) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色土少しうまぐ、3~10cmの繊少しうまぐ、焼土、炭やや多く混じる)
- 48) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色土・ブロック、5~15cmの繊・炭・焼土少しうまぐ混じる)
- 49) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色土少しうまぐ、5~15cmの繊・炭・鉄分少しうまぐ混じる)
- 50) 25Y5/3 黄褐色砂質土 (織緻、粘性なし、しまり密、硬い、粗砂少しうまぐ、鉄分やや多く、約20cmの繊混じる)
- 51) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、2.5Y7/4 浅黄色シルトブロックやや多く、10YR2/1 黑色シルトブロック・焼土少しうまぐ、5~30cmの繊多く混じる)
- 52) 10YR4/2 暗黄褐色シルト (粘性なし、しまり密、軟い、10YR6/6 明黄色シルトブロック・炭少しうまぐ混じる)
- 53) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性なし、しまり密、软い、10YR6/6 明黄色シルト・ブロック大量、鉄分多く混じる)
- 54) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4に似る黄褐色シルト・鉄分多く、焼土・炭少しうまぐ混じる)
- 55) 10YR4/2 黄褐色砂質土 (粘性、粘性なし、しまり密、軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロックごく少量、10YR4/3に似る黄褐色シルト大量、鉄分少しうまぐ混じる)
- 56) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性大、しまりやや密、硬い、10YR6/6 明黄色シルト・鉄分多く、1~3cmの繊少しうまぐ、鉄分大量混じる)
- 57) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR6/6 明黄色シルト・鉄分少しうまぐ、1~2cmの繊少しうまぐ混じる)
- 58) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、2.5Y5/4 黄褐色シルトブロック・鉄分多く、炭やや多く混じる)
- 59) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、鉄分大量、焼土少しうまぐ混じる)
- 60) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR6/6 明黄色シルトブロック・10YR2/1 黑色粘土質土ブロック大量、1~3cmの繊少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 61) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR6/6 明黄色粘土質土・ブロック、1~3cmの繊少しうまぐ、鉄分大量混じる)
- 62) 10YR4/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR6/6 明黄色シルト・鉄分少しうまぐ混じる)
- 63) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり相い、硬い、10YR3/3暗褐色粘土ブロック・10~20cmの繊多く、炭・焼土少しうまぐ混じる)
- 64) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、2~15cmの繊少しうまぐ、焼土、炭少しうまぐ混じる)
- 65) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色シルトブロック大量、1~3cmの繊・炭・鉄分少しうまぐ混じる)
- 66) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色シルトブロック大量、1~5cmの繊少しうまぐ、鉄分やや多く混じる)
- 67) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや相い、軟い、25Y6/4 に似る黄褐色シルト・鉄分少しうまぐ、10YR2/1 黑色シルトブロック少しうまぐ、2~5cmの繊少しうまぐ混じる)
- 68) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、粗砂多く、10YR6/6 明黄色砂質土シルト少しうまぐ混じる)
- 69) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR3/3暗褐色粘土質土・ブロック多く、10YR6/6 明黄色シルト・小ブロック・炭少しうまぐ混じる)
- 70) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、鉄分少しうまぐ混じる)
- 71) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5-6 黄褐色シルトブロック大量、3~15cmの繊・鉄分や多く、炭少しうまぐ混じる)
- 72) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色シルトブロック少しうまぐ混じる)
- 73) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色シルトブロック少しうまぐ混じる)
- 74) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR6/4 に似る黄褐色シルト・ブロック、1cm以下の繊少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 75) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、10YR6/6 黄褐色シルト・ブロック、炭少しうまぐ、1cm以下の繊少しうまぐ混じる)
- 76) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 77) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 78) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色砂質土シルト・ブロック多く、3~5cmの繊・鉄分やや多く混じる)
- 79) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4 に似る黄褐色粘土少しうまぐ、2.5Y5/2 暗褐色シルト・ブロック・鉄分大量混じる)
- 80) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性小、しまりやや密、やや硬い、2.5Y5/6 黄褐色シルト・ブロック多く、約3cmの繊・炭少しうまぐ、鉄分多く混じる)
- 81) 10YR3/2 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、2.5Y5/6 黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ混じる)
- 82) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性大、しまり密、やや硬い、2.5Y5/6 黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ、3~5cmの繊・鉄分やや多く混じる)
- 83) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4 に似る黄褐色粘土少しうまぐ、炭少しうまぐ混じる)
- 84) 2012-33: 218層に対応
- 85) 2012-33: 219層に対応
- 86) 2012-33: 222層に対応
- 87) 10YR3/1 黑褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ、10YR4/2 黄褐色粘土質土・ブロック多く、0.5~3cmの繊・炭少しうまぐ、焼土やや多く混じる)
- 88) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性小、しまり密、软い、粗砂大量、2~10cmの繊多く、鉄分少しうまぐ混じる)
- 89) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/2 黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ、3~10cmの繊多く、鉄分やや多く、炭少しうまぐ混じる)
- 90) 2012-33: 225層に対応
- 91) 10YR4/1 暗褐色シルト (粘性大、しまり密、硬い、10YR5/4 に似る黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ、2~5cmの繊少しうまぐ、鉄分ごく少量混じる)
- 92) 25Y4/1 黄褐色シルト (粘性中、しまり密、やや硬い、2.5Y5/1 黑褐色シルト・ブロック少しうまぐ、1~10cmの繊少しうまぐ、炭ごく少しうまぐ混じる)
- 93) 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性大、しまり密、やや硬い、7層と同一か) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性中、しまりやや粗い、やや軟い、5~10cmの粗大量、粗砂・炭・瓦少しうまぐ混じる)
- 94) 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、软い、10~20cmの繊大量混じる)
- 95) 10YR4/2 黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、软い、10~20cmの繊大量混じる)
- 96) 10YR4/2 黄褐色シルト (粘性大、しまり密、やや硬い、10~20cmの繊多く、鉄分少しうまぐ混じる)
- 97) 10YR3/3暗褐色粘土質土 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/3に似る黄褐色シルト・ブロック少しうまぐ、10~20cmの繊・鉄分少しうまぐ混じる)
- 98) 10YR4/2 黄褐色粘土質土 (粘性中、しまりやや密、やや硬い、2.5Y5/2 黄褐色シルト・ブロック・3~10cmの繊・炭少しうまぐ、鉄分大量混じる)
- 99) 25Y3/2 黑褐色粘土 (粘性中、しまりやや密、やや軟い、5Y5/3 黄褐色シルト・ブロック・2~3cmの繊少しうまぐ混じる)
- 100) 10YR4/1 暗褐色シルト (粘性大、しまり密、やや硬い、粗砂・炭少しうまぐ混じる)
- 101) 25Y4/1 黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、やや硬い、5Y5/2 黄褐色シルト・ブロック・2~3cmの繊少しうまぐ、10~20cmの繊・鉄分少しうまぐ混じる)
- 102) 25Y4/1 黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、硬い、粗砂・炭少しうまぐ混じる)

2012-9-2、2012-10、2012-11-1、2012-11-2 水道管 (8)・下水管下溝北壁・アゼ南壁 土層記述

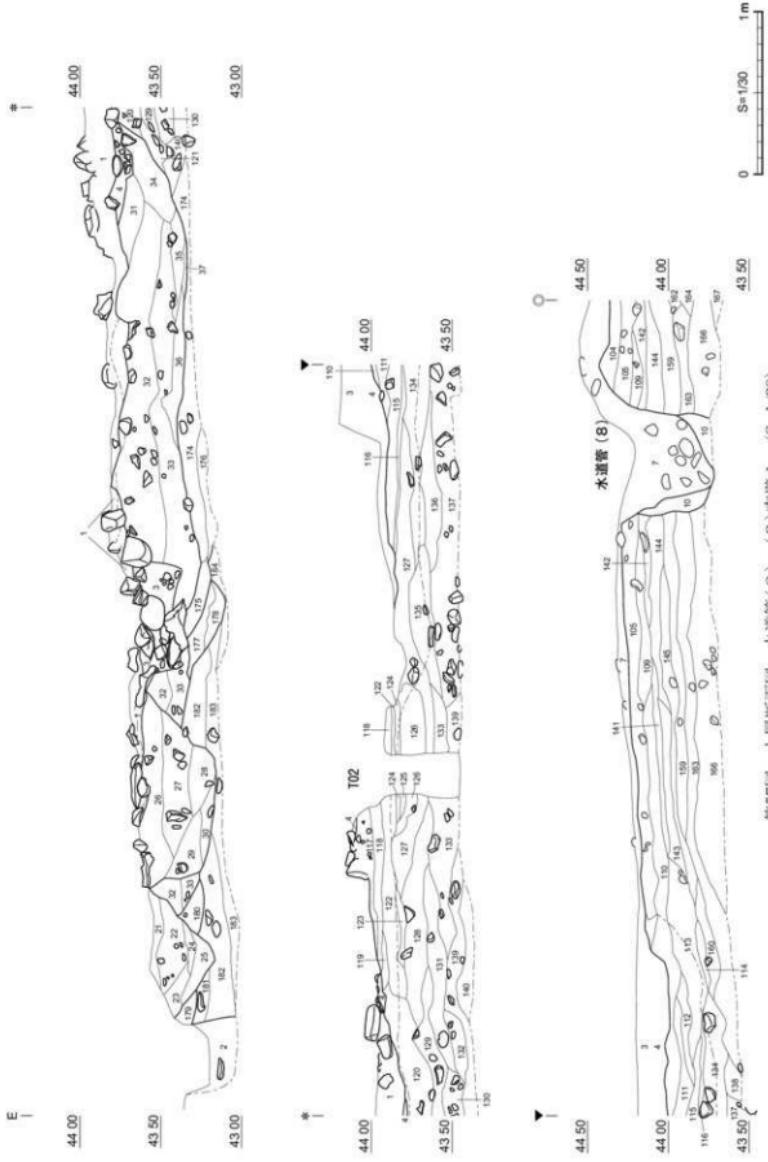
2012-7-3 近代石垣北壁（木蓋付溝掘方）



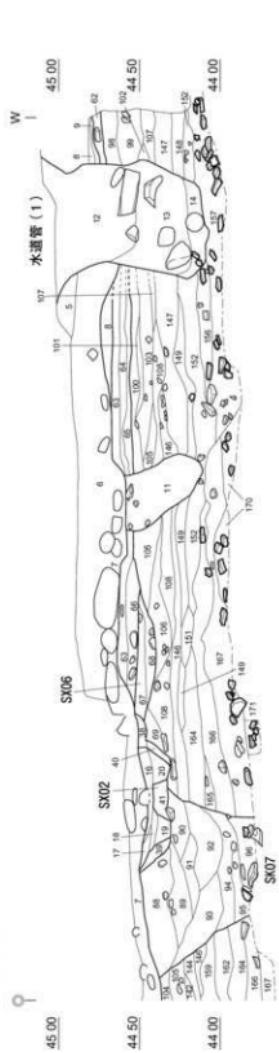
	I	IIa · IIb
1	1 ~ 2 近代石垣裏込め	16 ~ 20 SX06
3 ~ 8	文化木蓋付溝抜き取り	IIa · IIc
IIa	9 ~ 12 SX02	21 SX07
13 ~ 15	整地土	IIc
		22 ~ 25 整地土

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質土（粘性なし、しまり粗い、やや軟い、1~5cmの繩、鉄分大量、炭・焼土少し混じる）
- 2 10YR2/2 黃褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黒色シルトブロック少し。10~30cmの繩大量混じる）
- 3 10YR4/2 黄褐色紗質土（細紗、粘性なし、しまりやや粗い、軟い、10YR3/2 黃褐色粘質土ブロック多く、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少し、鉄分混じる。1~20cmの繩大量、炭少しだけ混じる）
- 4 10YR4/2 黄褐色紗質土（やや細紗、粘性なし、しまりやや密、軟い、1cm以下の繩多く、炭・焼土少し混じる）
- 5 10YR4/2 黄褐色シルト（粘性なし、しまり密、硬い、1~3cmの繩少しだけ混じる）
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、1~2cmの繩、鉄分大量混じる）2011-6-9: 17層に対応
- 7 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック・0.5~1cmの繩少しだけ混じる）
- 8 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、0.5~1cmの繩大量、鉄分多く混じる）
- 9 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（細紗）、1~3cmの繩大量混じる）2011-6-9: 38層に対応
- 10 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、25Y4/3 にぶい黄褐色シルト・10YR7/8 黄褐色シルトブロック・3cm以下の繩、炭・焼土少し混じる）2011-6-9: 39層に対応
- 11 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少量、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、2cm以下の繩多く混じる）
- 12 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック・0.5~3cmの繩多く、炭少しだけ混じる）
- 13 10YR3/2 黑褐色紗質土（粗紗、しまり密、やや軟い、1~2cmの繩多く、炭少しだけ混じる）2011-8-9: 66層、2012-6-7 6層に対応
- 14 10YR3/1 黑褐色紗質土（粘性小、しまり密、硬い、鉄分大量、約0.5cmの繩多く、炭・焼土少しだけ混じる）
- 15 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、25Y5/3 黄褐色シルトブロック少し、0.5~3cmの繩少しだけ混じる）
- 16 25Y4/2 布灰黄褐色シルト（粘性なし、しまり密、硬い、0.5~1cmの繩多く混じる）
- 17 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繩少し、鉄分大量混じる）
- 18 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、約0.5cmの繩、炭少、鉄分や多く混じる）
- 19 10YR3/1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、粗紗や多く、炭少、鉄分少しだけ混じる）
- 20 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少量、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・1~2cmの繩少しだけ混じる）
- 21 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土多く、10YR2/1 黑色シルト少し、1~4cmの繩大量、炭少しだけ混じる）2011-8-9: 88層に対応
- 22 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック大量、1~3cmの繩やや多く混じる）
- 23 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・炭少し、1~3cmの繩、鉄分多く混じる）
- 24 10YR3/2 黄褐色粘質土（粘性小、しまり粗い、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック・炭少し、1~5cmの繩大量、鉄分多く混じる）
- 25 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少し、10YR2/1 黑色シルトブロック少量、1~7cmの繩・焼土、炭や多く、鉄分多く混じる）
- 第116 図 M79 (201203-M8) 出土 (搅乱残土)

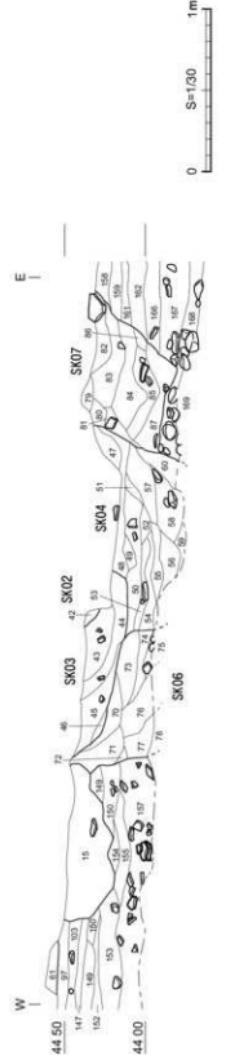
第56図 土層断面図 近代石垣北壁 (S=1/30)



2011-8·9 水道管(2)·(3) 南壁 2



2011-7 水道管(2)·(3) 北壁



2011-7, 2011-8·9 共通  
 1 下水管带土  
 2 水道管带土  
 3~7 泥化石层带砂砾  
 8~9 砂质土  
 10 水道管  
 11~14 水道管  
 15 水道管带(2)·(3)文化堆积带(取样)  
 43~46 S003  
 47~60 S004  
 61~66 S005  
 67~68 S006  
 70~78 S006  
 79~96 S007  
 IIa~IIb  
 IIIc, 97~176 整地土  
 IIIa~IIIc  
 177~178 通耕  
 IIIb  
 179~180 整地土

第58图 土层断面图 水道管(2)·(3)南壁 2·北壁 (S=1/30)

### ※2011-7、2011-8・9 共通

- 1 25Y6/6 明黄褐色粘土質土（粘性なし。しまり密、硬い、やや細砂、碎石・栗木大層など混じる）
- 2 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや粗、やや硬い、181層土少し、約0.5cmの礫大量、3~10cmの礫多く混じる）
- 3 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり粗い、硬い、1~5cmの礫大量に混じる）
- 4 乾燥ため不明
- 5 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、1~3cmの礫大量混じる）
- 6 10YR3/3 暗褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、1~5cmの礫、砂粒大量混じる）
- 7 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり粗い、硬い、10~40cmの礫大量混じる）
- 8 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粗砂、しまりやや粗い、硬い、0.5~3cmの礫大量混じる）
- 9 10YR3/2 黑褐色砂質土（粗砂、しまり密、硬い、0.5cm以下の礫少し混じる）
- 10 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや粗い、やや軟、砂粒大量、5cm以下の大層多く、炭少しだけ混じる）
- 11 10YR4/1 黄褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや粗い、硬い、0.5~10cmの礫大量混じる）
- 12 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、1~2cmの礫大量、5~10cmの礫少しだけ混じる）
- 13 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、やや硬い、砂粒・10~20cmの礫多く、炭少しだけ混じる）
- 14 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、1~5cmの礫大量、砂粗瓦・礫混じる）
- 15 10YR3/3 黄褐色砂質土（硬い、しまり粗い、1~10cmの礫大量混じる）
- 16 10YR4/2 黄褐色砂質土（細砂、粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少く、1~3cmの礫多く混じる）
- 17 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少く、1~3cmの礫多く混じる）
- 3012-7-3 層、2012-9-1 層に対応
- 18 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック大層、1~2cmの礫やや多く、硬土・炭少しだけ混じる）
- 19 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少く、1~3cmの礫多く、硬土・炭少しだけ混じる）
- 20 10YR3/3 暗褐色粘土質土（やや細砂、粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色シルト少く、1~3cmの礫多く混じる）
- 21 10YR4/1 黄褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、約0.5cmの礫大量、炭少しだけ混じる）
- 22 10YR4/1 黄褐色粘土質土（粘性中、しまりやや密、硬い、1~3cmの礫多く、炭少しだけ混じる）
- 23 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性中、しまり密、硬い、181層土多く、黒ボク由来土・1~3cmの礫少しだけ混じる）
- 24 25YS/2 喀黃褐色粘土（粘性中、しまり密、やや硬い、25層土多く、約2cmの礫少しだけ混じる）
- 25 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、やや軟い、181層土・1~3cmの礫少しだけ混じる）
- 26 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土・炭少しだけ、1~3cmの礫大量混じる）
- 27 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土・1~1cmの礫多く、炭少しだけ混じる）
- 28 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、やや軟い、10YR4/6 黄褐色粘土・1~1cmの礫多く、1~5cmの礫少しだけ混じる）
- 29 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土・やや多く、1~5cmの礫少しだけ混じる）
- 30 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土・1~5cmの礫少しだけ混じる）
- 31 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、やや軟い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~5cmの礫少しだけ混じる）
- 32 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~10cmの礫多く、黒ボク由来土やや多く、炭少しだけ混じる）
- 33 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・黒ボク由来土少し、1~10cmの礫多く、硬土・炭少しだけ混じる）
- 34 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・2~10cmの礫多く、黒ボク由来土少し、0.5cm以下の白色礫多く混じる）
- 35 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・やや多く、1~3cmの礫少しだけ混じる）
- 36 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~3cmの礫少しだけ混じる）
- 37 10YR4/2 黄褐色砂質土（細砂、粘性小、しまり密、硬い、25Y6/2 黄褐色シルト多く混じる）
- 38 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/3 にぶい 黄褐色砂質土（細砂）・1~3cmの礫大量混じる）
- 39 2012-7-3 1層に対応
- 39 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、25Y4/3 にぶい 黄褐色シルト・10YR7/8 黄褐色シルトブロック・3cm以下の礫・炭・燒土少し混じる）
- 39 3012-7-3 10層に対応
- 40 10YR4/2 黄褐色砂質土（やや細砂、粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルト少く、1~3cmの礫大量混じる）
- 41 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色シルト少く、1~2cmの礫・炭・炭少しだけ混じる）
- 42 10YR5/1 黄褐色粘土（粘性なし、しまり密、硬い、1cm以下の礫少し混じる）
- 43 10YR3/3 暗褐色粘土質土（粘性なし、やや硬い、1cm以下の礫大量、燒土・約3cmの礫・炭少しだけ・燒土・炭少しだけ混じる）
- 44 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、硬い、1cm以下の礫・焼土多く、燒土・約3cmの礫・炭少しだけ混じる）
- 45 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり粗い、硬い、1cm以下の礫大量、約3cmの礫・炭少しだけ混じる）
- 46 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、1cm以下の礫ごく少量、燒土少しだけ混じる）
- 47 10YR3/2 黑褐色砂質土（やや粗砂、やや軟い、3cm以下の礫・炭・燒土少しだけ混じる）
- 48 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、やや硬い、3cm以下の礫・炭・炭少しだけ多く混じる）
- 49 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、炭・燒土少しだけ混じる）
- 50 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、3cm以下の礫・燒土・炭・燒土多く混じる）
- 51 2012-9-1 28層に対応
- 52 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり密、硬い、炭・燒土少しだけ混じる）
- 53 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、10cm以下の礫・燒土・炭・燒土少しだけ混じる）
- 54 10YR3/2 黄褐色粘土質土（粘性なし、しまり少しだけ混じる）
- 55 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、3cm以下の礫・燒土・炭少しだけ混じる）
- 56 10YR3/1 黄褐色粘土質土（粘性中、しまり密、硬い、1cm以下の礫・炭少しだけ多く、5~10cmの礫・燒土少しだけ混じる）
- 57 10YR3/2 黄褐色粘土質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、3cm以下の礫大量、燒土・炭少しだけ混じる）
- 58 2012-9-1 29層に対応
- 59 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、硬い、5~10cmの礫・燒土少しだけ混じる）
- 60 10YR3/1 黑褐色粘土質土（粘性中、しまり密、やや硬い、5cm以下の礫・焼土・炭少しだけ混じる）
- 61 25YS/4 黄褐色シルト（粘性なし、しまり密、やや軟い、5Y7/3 黄褐色シルト・約0.5cm・約3cm程の礫の繩少しだけ混じる）
- 62 10YR3/2 黄褐色砂質土（細砂、しまり密、やや硬い、3~6cmの礫少しだけ混じる）
- 2012-9-1 30層に対応
- 63 10YR3/2 黑褐色砂質土（粗砂、しまり密、やや軟い、1~2cmの礫多く、炭少しだけ混じる）
- 2012-6-7 5層に対応
- 64 10YR3/2 黑褐色砂質土（粗砂、しまり密、硬い、0.5~1cmの礫少しだけ混じる）
- 65 10YR4/2 黄褐色砂質土（やや細砂、しまり密、硬い、0.5cm以下の礫ごく少量混じる）
- 66 10YR3/1 黑褐色粘土質土（やや細砂、粘性なし、しまり密、硬い、10YR6/8 明黄褐色シルトブロック・炭・燒土少しだけ、1~8cmの礫大量、炭室混じる）
- 2012-7-3 13層、2012-6-16層に対応
- 67 10YR4/2 黄褐色砂質土（細砂、粘性なし、しまり粗い、硬い、10YR6/8 明黄褐色シルト少く、1~5cmの礫多く混じる）
- 68 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR6/8 明黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック・炭少しだけ、1~5cmの礫多く混じる）
- 69 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性小、しまり密、やや軟い、1~5cmの礫・炭・燒土少しだけ混じる）
- 70 10YR3/2 黑褐色粘土質土（粘性なし、しまり粗い、硬い、2cm以下の礫・10YR5/8 黄褐色シルトやや多く混じる）
- 2012-6-7 1層に対応

- 71 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、3cm以下の繊・10YR5/5 黄褐色シルト少し混じる)
- 72 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、軟い、粗鈍多く、燒土少し混じる)
- 73 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、5cm以下の繊や多く、焼少しふてじる) 2012-6: 10層に対応
- 74 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、やや硬い、10YR3/3 細褐色粗砂多く、焼少しふてじる)
- 75 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性少、しまり密、やや軟、5cm以下の繊多く、燒土、炭少しふてじる)
- 76 10YR3/2 黒褐色粘質土 (粘性少、しまりやや粗、やや硬い、3cm以下の繊・10YR5/5 黃褐色炭少しふてじる) 2012-6: 10層に対応
- 77 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、やや硬い、3cm以下の繊・炭少しふてじる)
- 78 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、硬い、3cm以下の繊・燒少しふてじる) 2012-6: 10層に対応
- 79 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、5cm以下の繊・10YR6/6 明黄色土少しふてじる)
- 80 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繊・10YR6/6 明黄色土少しふてじる)
- 81 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、約1cmの繊多く、炭、燒少しふてじる)
- 82 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、2cm以下の繊少し、炭・燒少しふてじる) 2012-6: 10層に対応
- 83 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、5cm以下の繊・10YR6/6 明黄色土少しふてじる)
- 84 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、1~5cmの繊・10YR4/6 黄褐色シルト多く混じる)
- 85 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繊・10YR4/6 黄褐色シルト多く、炭、燒少しふてじる)
- 86 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、やや軟い、10YR4/6 黄褐色シルト多く、燒少しふてじる)
- 87 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、硬い、5cm以下の繊・燒土多く、瓦少しふてじる)
- 88 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、1~4cmの繊・10YR4/6 黄褐色粘土多く、10YR2/1 黑色シルト・焼少しふてじる) 2012-2-7: 21層に対応
- 89 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや粗い、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土多く、10YR2/1 黑色シルト・約4cmの繊少し、約0.5cmの繊多く混じる)
- 90 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少し、10YR2/1 黑色シルト・約4cmの繊少し、約0.5cmの繊多く混じる)
- 91 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少し、燒土、炭少く少しふてじる)
- 92 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、燒少しふてじる)
- 93 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少し、燒土、炭少く少しふてじる)
- 94 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色粘土少し、1~3cmの繊多く混じる)
- 95 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR4/6 黄褐色粘土少し、1~3cmの繊・燒土、炭・燒少しふてじる)
- 96 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性少、しまりやや粗い、软い、粗鈍、約5cmの繊・燒土、燒少しふてじる)
- 97 10YR2/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、硬い、約5cmの繊・燒土、燒少しふてじる)
- 98 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繊・10cmの繊多く混じる)
- 99 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繊・燒土、燒少しふてじる) 2010-6: 10層に対応
- 100 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、65層土多く、1~2cmの繊少しふてじる)
- 101 25Y5/4 黄褐色シルト (粘性なし、しまり密、硬い、1~4cmの繊多く混じる)
- 102 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、約1cmの繊・黑褐色ブロック少しふてじる)
- 103 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり粗い、软い、10YR2/3 細褐色粘質土・1~5cmの繊・黑褐色土少し、約0.5cmの繊多く混じる)
- 104 10YR3/3 細褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、やや軟い、1~4cmの繊少しふてじる) 2012-6: 10層に対応
- 105 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、やや粗い、1~5cmの繊・燒少しふてじる) 2012-10-20: 21層に対応
- 106 10YR2/1 黑色シルト (粘性少、しまりやや密、硬い、25Y5/4 黄褐色シルト・炭ごく少しつ、1~5cmの繊多く混じる) 2012-6: 14層に対応
- 107 10YR4/4 黄褐色粘土 (粘性大、しまり密、やや硬い、107層土・黒ボックロック・約1cmの繊少しふてじる) 2010-6-1: 21層・2012-5-2: 68層に対応
- 108 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、硬い、1~3cmの繊少しふてじる) 2012-9-1: 32層・2012-6: 15層に対応
- 109 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、2.5Y7/4 浅褐色粘土ごく少量・0.5~3cmの繊少しふてじる) 2012-10: 23層に対応
- 110 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR2/3 黑褐色粘土多く、1~3cmの繊少しふてじる)
- 111 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、やや軟い、110層土少し、10YR4/4 黄褐色粘土・1~6cmの繊多く混じる)
- 112 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・0.5~2cmの繊・燒少しふてじる)
- 113 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑褐色粘土・10YR4/6 黄褐色粘土大量、1~3cmの繊多く混じる)
- 114 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、软い、10YR3/2 黑褐色粘土多く、約0.5cmの繊少しふてじる)
- 115 10YR2/1 黑色粘質土 (粘性大、しまりやや密、软い、10YR4/4 黄褐色粘土多く、1~6cmの繊少しふてじる、黒ボク由来)
- 116 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、软い、約0.5cmの繊少しふてじる)
- 117 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土少し、1~5cmの繊多く混じる)
- 118 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/4 黄褐色粘土少し、0.5~2cmの繊少しふてじる) 2011-6-1: 20層に対応
- 119 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、1~5cmの繊や多く、10YR7/6 明黄色粘土ごく少量混じる)
- 120 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~7cmの繊多く、炭・燒土や多く混じる)
- 121 10YR3/2 黑褐色粘土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・燒少しふてじる、2~6cmの繊多く混じる)
- 122 10YR2/1 黑色粘質土 (粘性なし、しまりやや粗い、硬い、10YR5/4 黄褐色粘土少し、0.5~2cmの繊大量混じる) 2011-6-1: 20層に対応
- 123 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR7/6 明黄色粘土・1~5cmの繊・燒少しふてじる)
- 124 25Y5/2 硫化黄褐色土 (粘性なし、しまり密、硬い) 2011-6-1: 21層・27層に対応
- 125 10YR4/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、約1cmの繊少しふてじる) 2011-6-1: 22層に対応
- 126 10YR4/3 に付い 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、25Y6/6 明黄色粘土・1~5cmの繊多く、燒少しふてじる) 2011-6-1: 23層に対応
- 127 10YR2/2 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、25Y6/6 明黄色粘土多く、1~5cmの繊少し、黒ボク由来土ごく少量混じる) 2011-6-1: 27層に対応
- 128 10YR4/1 黄褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~5cmの繊少し、燒少しふてじる、鉛大量混じる)
- 129 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土多く、1~10cmの繊少し、燒少しふてじる)
- 130 10YR2/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・燒少しふてじる、炭やや多く混じる)
- 131 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・1~10cmの繊・燒少しふてじる, 10YR7/1 黄褐色粘土ごく少量混じる) 2011-6-1: 27層に対応
- 132 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・燒少しふてじる、1~5cmの繊多く混じる)
- 133 10YR4/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、硬い、25Y6/6 明黄色粘土・燒少しふてじる、2~10cmの繊・燒少しふてじる) 2011-6-1: 25層
- 134 10YR3/1 黑褐色粘質土 (粘性大、しまり密、硬い、5Y7/2 黄褐色粘土・1~10cmの繊・燒少しふてじる、燒瓦少しふてじる)
- 135 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土大量、燒少しふてじる、燒瓦少しふてじる)
- 136 10YR5/6 黄褐色粘土 (粘性少、しまりやや密、やや硬い、137層土多く、1~5cmの繊少しふてじる)
- 137 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまり密、硬い、136層土少し、1~10cmの繊・燒少しふてじる、燒瓦や多く混じる)
- 138 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性大、しまり密、硬い、0.5~2cmの繊・燒少しふてじる)
- 139 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性中、しまり密、硬い、5~10cmの繊・燒少しふてじる) 2011-6-1: 26層
- 140 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、やや軟い、10YR4/4 黄褐色粘土少し、1~5cmの繊やや多く、燒少しふてじる)
- 141 10YR2/1 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土・10YR5/6 黄褐色粘土大量、1~5cmの繊少しふてじる)
- 142 10YR3/2 黑褐色粘質土 (粘性少、しまりやや密、硬い、約1cmの繊・燒少しふてじる) 2012-10-20: 21層・2012-9-2: 31層に対応

- 143 10YR3-2 黒褐色粘質土（粘性小、しまり悪い、やや軟い、10YR4/4 黄褐色  
粘土ごく少量、粗砂大量、約 2cm の繊少し混じる）
- 144 10VR2/1 黑褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
粘土多く、0.5 ~ 1cm の繊少し混じる） 2012-10-2012-9-2 27 帯に応
- 145 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR3-1 黑褐色  
粘質土・0.5 ~ 5cm の繊少し混じる）
- 146 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、約 2cm の繊、  
粗砂多く混じる） 2012-9-1 に応、2012-6-16 帯に応
- 147 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや悪い、やや軟い、  
約 0.5cm の繊多く、1 ~ 2cm の繊少し混じる） 2010-6-15 帯に応
- 148 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/3 に応  
黄褐色粘土少し混じる） 2010-6-15 帯に応
- 149 10YR4/1 黄褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、2.5Y5/3  
黄褐色粘土・1 ~ 3cm の繊、炭少し混じる） 2012-6-17 帯に応
- 150 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、10YR5-6 粘土・  
1cm 以下の繊・炭少し混じる）
- 151 10YR3-3 褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6  
黄褐色シルト・黒ボク土ごく少量、0.5 ~ 1cm の繊少し混じる）
- 152 10YR4/1 黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、2.5Y5/3 黄褐色  
粘土・1 ~ 10cm の繊少し、炭多く混じる） 2012-6-18 帯に応
- 153 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6  
黄褐色粘土少し、1 ~ 10cm の繊、堆多く、炭大量混じる）
- 154 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土  
少し、1 ~ 3cm の繊、鉄分多く混じる）
- 155 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、1 ~ 3cm の繊、  
燒土少し、炭多く混じる）
- 156 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり粗い、硬い、燒瓦・燒土、  
炭大量混じる）
- 157 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや悪い、やや軟い、瓦・  
燒土大量混じる） 2010-6-15 帶に応
- 158 10YR4/2 灰黃褐色粘質土（粘性なし、しまりやや粗い、やや硬い、  
10YR4/3 に応、黄褐色粘土・1 ~ 5cm の繊、炭少し、約 0.5cm の繊  
大量混じる） 2012-10-2012-9-2 28 帯に応
- 159 10YR4/1 黄褐色粘質土（粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/3 に応  
黄褐色粘土多く、約 0.5cm の繊、約 1cm の繊、炭少し混じる）  
2012-10-2012-9-2 29 帯に応
- 160 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR2/1 黑色  
粘土・10YR4/6 褐色粘土・1 ~ 5cm の繊少し混じる）
- 161 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや粗い、硬い、1 ~ 5  
cm の繊、燒土・炭少し混じる） 2012-10-2012-9-2 30 帯に応
- 162 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまり粗い、硬い、1 ~ 3cm の  
繊多く、炭・漆少し混じる） 2012-10-2012-9-2 36 帯に応
- 163 10YR4/1 黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや軟い、  
0.5 ~ 1cm の繊やや多く、約 10cm の繊、炭・燒土少し混じる）  
2012-10-2012-9-2 38 帯に応
- 164 10YR3-2 褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6  
黄褐色シルト多く、1 ~ 3cm の繊、炭少し混じる）  
2012-9-1 34 帯に応
- 165 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、  
約 0.5cm の繊やや多く、約 5cm の繊、炭少し混じる）  
2012-9-1 35 帯に応
- 166 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、1 ~ 3cm の  
繊多く、炭・燒瓦・燒瓦少し混じる）
- 167 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、硬い、1 ~ 5  
cm の繊、燒土・炭少し混じる） 2012-10-2012-9-2 40 帶、2012-6-19 帯に応
- 168 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、やや硬い、  
5 ~ 10cm の繊少し、1 ~ 2cm の繊、炭多く混じる）  
2012-9-1 37 帶、2012-10-2012-9-2 41 帶、2012-6-20 帯に応
- 169 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、やや硬い、  
約 10cm の繊大量混じる）
- 170 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり粗い、軟い、燒瓦・炭、  
燒土多く混じる） 2012-6-21 帯に応
- 171 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや密、軟い、燒瓦・炭、  
燒土多く混じる）
- 172 10YR3-3 褐色粘質土（粘性なし、しまりやや粗、やや硬い、  
0.5 ~ 1cm の繊大量混じる）
- 173 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性なし、しまりやや密、硬い、10YR5/6  
黄褐色シルト・1 ~ 3cm の繊多く混じる）
- 174 10YR3-2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土  
ごく少量、1 ~ 5cm の繊やや多く、黒ボク由来土・燒土・炭ごく  
少量混じる）
- 175 10YR3-1 黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6  
褐色粘土・約 5cm の繊少し混じる）
- 176 10YR4/1 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6  
黄褐色粘土ごく少量、1 ~ 5cm の繊少し混じる）

### 3. 続櫓台石垣南面の痕跡

橋爪門続櫓台石垣は、寛永期に構築され、文献によると天明8年（1788）・文化5年（1808）に修築が行われている。その後、平成10～11年に五十間長屋・菱櫓・橋爪門続櫓の復元整備に伴って、安全や修景等の観点から解体・積み直しが行われている。その際、上部造構面だけでなく石垣内部の発掘調査も行われており、続櫓台石垣南面では寛永期構築時の石垣が根石から3段目まで遺存し、その上段は全て文化期の石垣であることが確認されている。天明期の石垣は文化期の修築範囲と重複したため、寛永期の石垣に痕跡が残るのみであった。この平成の修築で南面は、文化期の石垣を両隅角付近の敷石を除いて解体し、破損している築石を新材に交換して積み直しが行われ、情報が失われた箇所も少なくない。

本報告で使用する立面図は今回の調査で測量・図化したもので、平成の修築後の状態である。修築によって築石の位置が若干変わっている箇所があるものの、痕跡が残る寛永期の石垣直上の文化期の築石の位置は修築前と殆ど変化していないことから、本報告では修築後の立面図を基準としている。修築前の立面図等は「金沢城跡－二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓I－」〔石川県金沢城調査研究所 2011c〕（以下「五十間長屋I」）に掲載されており参照されたい。

寛永期の石垣は、中央部に孕みがみられ、全体に南側へ緩い曲線を描いている。本調査で確認した石垣の大部分は平成10～11年の調査と重複しているが、石垣際に敷設されていたヒューム管の撤去等により、東西端で新たに寛永期の石垣石を数点検出した。その結果、平成10～11年の解体調査で確認された刻印は5石であったが、新たに9石で確認している。その他、敷石痕跡等の痕跡を確認した。

天明期の石垣は遺存していないが、寛永期の石垣に敷石痕跡、背面葛石痕跡と考えられる加工を確認した。

文化期の石垣は直線的に構築され、孕みがみられる寛永期の石垣最上段角より最大約20cm（第61図 垂直断面9）北側に構築されている。敷石痕跡・地表面の痕跡・正面葛石痕跡・背面葛石痕跡・整切・木蓋付溝あたり痕のほか、明治14年の火災による被熱痕跡を確認した。

石垣痕跡の寸法は、石垣面に平行する東西方向の長さを「幅」、石垣面から垂直方向の掘り込みの深さを「奥行き」、天明期・文化期の葛石痕跡については文化期の敷石上面痕跡からの深さを「高さ」とした。

#### 整切・礎石痕跡 [第60・62・130図]

文化期の石垣最下段、東隅から6石目に、添柱の中心を示す整切を確認した。石面下端、西端近くに外寸17×14cm、内寸15×8cmの範囲を方形に削り込み、その上辺の中央にノミで縱方向に長さ3.5cmの線を入れている。削り込み上辺の標高は44.87mで、ここを礎石上端とすると、二ノ門の平面図を描いた「橋爪ニ之御門下舗石貳拾分一之圖」に「御柱下石場舗面宍寸三分上ル」とあることから、敷石面の標高は44.83mと推定され、後述する文化期敷石上面痕跡の標高と親和的である。

また、周囲は下端から整切の頂点（標高44.91m）付近まで平滑に仕上げられており、文化期の添柱礎石のあたり痕と考えられる。東へ約36cmまで確認できることから、文化期の添柱礎石の東西辺は72cm以上と推測される。

#### 背面葛石痕跡 [第60・62図]

二ノ門西側で、背面葛石の痕跡を2箇所確認した。ともに寛永期の築石を削り込んでおり、東側の痕跡が文化期の枠と位置が対応していることから、東側を文化期の葛石痕跡と推測し、西側の葛石痕跡は宝暦期の枠の抜き取り痕跡が文化期の西側に位置することから、天明期と判断した。

文化期の背面葛石痕は、幅が上端で約42cm、下端で29～32cmを測り、石垣面側が若干狭くなる。

高さは14~18.5cmで削り込み奥側が浅く、奥行きは石面より約8cmである。

天明期の背面葛石痕跡は、幅が上端で35~39cm、下端で約31.5~33.5cmを測り、文化期の痕跡と同様削り込み奥側が若干狭くなる。高さは12.5~17.5cmで削り込み奥側が浅く、奥行きは寛永期の石垣面より6.3~8cmである（第61図 垂直断面6）。

天明期の背面葛石痕跡や敷石痕跡は、文化期の痕跡と同様に寛永期の石垣を掘り込んでおり、寛永期の石垣面より北側に石垣面が構築されたことがうかがわれる。宝暦期の二ノ門再建時は続櫓台石垣修理の記録がなく寛永期の石垣であったと考えられるため、確認した痕跡は、天明期の石垣修築後に宝暦期の葛石や敷石を据え直した痕跡と推測される。

#### 正面葛石痕跡・木蓋付溝あたり痕跡〔第60・62図〕

鑿切り東側で、文化期の正面葛石痕跡を確認した。痕跡は幅45~49cm、奥行き約1cm、高さ15~17cmを測る。築石の左上部は石面が剥離しており痕跡は失われている。加工は石面の反りを垂直に修正するような形で行われ、下部は工具痕を残すものの上部は平滑に仕上げられている。痕跡左側は石面左端まで達しており、修築以前の写真をみると、隣の薄い築石面と連続しているように見える。また、この削り込みの下側にも、平面を意識したような加工が10cm弱の範囲に施され、その下部は段差を生じている・段差下はやや粗い加工となっている。

これらの痕跡の右側には7cm程の段差を以て、平滑に仕上げられた面が石面右端の縁取り加工まで続く。下端はほぼ同じでわずかな段差を有するのも同じである。加工の状態により上下にわけられるもののその差は少ない。葛石痕跡上段の加工程平滑ではない。木蓋付溝端に置かれる側板等のあたり痕と考えている。

正面葛石痕跡と木蓋付溝あたり痕跡下端の標高は約44.53~44.56mで、後述する西側の寛永期の築石面に連続する。

#### 敷石痕跡〔第60・62図〕

文化期・天明黄・寛永期の敷石痕跡を確認した。

文化期の敷石痕跡は、正・背面葛石痕跡の間、平成の修築で新材に交換されなかった築石面に遺存していた。鑿切りの残る築石より西の2石は下端から15cmほどの範囲が平滑に加工されている。痕跡上端の標高は44.8mをやや超える程であるが、前述したように鑿切りの高さからすると敷石上面の高さは44.83mと推定される。一方、鑿切りより東の2石は寛永期の築石を上端から最大18cm、奥行き3cm程削り込んでいる。鑿切りから1石目は2段に削り込まれているが、上段の下端は正面蔓石痕跡の下端とほぼ同じ高さとなっている。下端44.54~44.67mを測る。

天明期の敷石痕跡は、南面中央やや東寄りの寛永期の築石2石で確認された。築石の上端から15cm程度を8~10cm削り込んでいる（第61図 垂直断面11）。この削り込みは、上の文化期築石面まで達していないことから、天明期の修築された石垣に伴う加工と判断した。下面の標高は44.7m前後を測る。

寛永期の敷石痕跡は、東側は遺存する寛永期の築石最上段東端から2石目、西側は文化期背面葛石痕跡を残す築石の手前までの範囲に築石に残されている。1石目は判然とせず、石面東端に縁取り加工が施されている。また、西側の文化期および天明期の背面葛石痕跡が残る2石については削り込みと重なるためこちらも判然としない。

築石上端から25cmほどの範囲に縦方向のノミを入れ、奥行き約4cmまで削り込む（第61図 垂直断面9）。下面の標高は、鏡柱・脇柱・添柱の南北ラインで44.46m、中央大柱付近で44.49m、背面大柱付近で44.56mと、約1°の傾斜でやや東へ下がる。

### 地表面の痕跡 [第60・62図]

文化期・寛永期の地表面の痕跡を確認した。

文化期の地表面の痕跡は、二ノ門西側で標高44.88~45.07m、二ノ門東側で標高44.3m前後に石面に段差があり、これを地表面痕跡と考えた。段差より上は丁寧な調査がなされ、上面の石垣石と一緒に平坦面を形成しているが、段差より下は周間に縁取り加工を施すものの、面を平らにするような調整は施されず凹凸が激しい。二ノ門西側では加工痕の上方の標高44.9~45.2mを境として石面の風化度合いが異なっているように見える。下方の痕跡は、続櫓台石垣西面の雁木坂階段の痕跡へと続く。一旦下方の旧地表面を形成したのち盛土が行われ、上方の地表面が形成されたと推測される。最終的な地表面の傾斜は3°程度で、二ノ門から二ノ丸側へ上ると推測される。同様に、二ノ門東側の標高44.3m前後で確認した痕跡も、木蓋付溝の痕跡と標高差がみられることから旧地表面と考えられ、また先に正面葛石痕跡、木蓋付溝あたり痕跡で述べた下側の加工についても、二ノ門西側で文化期石垣構築の際の最初の削平が階段状になされていることから、これも同様の地表面痕跡と思われる。続櫓台石垣東面にも石垣階段に続く地表面の痕跡が確認されており、木蓋付溝の痕跡から傾斜は約10.5°を測り、木蓋付溝の東側に縁石が設置されているとすると、さらに傾斜は急となる。

寛永期の地表面の痕跡は、文化期・宝曆期の背面葛石痕石の西側4石で確認している。4石目の石面には上端に縁取り加工がなされている。敷石痕跡と同様にノミによる縱方向の筋状の加工を施すが、やや粗く、奥行き約3.5cmまで掘り込んでいる箇所もみられるものの、大部分は浅い。標高約44.66mで約2.3mの平坦面を形成したのち、一旦44.60mまで下がっているが、それ以西の寛永期の石垣には痕跡がみられない。

### 被熱痕 [第60・63・130図]

文化期に再建された二ノ門は、明治14年（1881）の火災により焼失したが、石垣面に添柱や、庇の出桁・垂木等の焼痕跡が確認できる。木材の外側にあたる箇所が赤く焼けており、修築前の写真では、鉛瓦が溶けたものも付着していたようである。

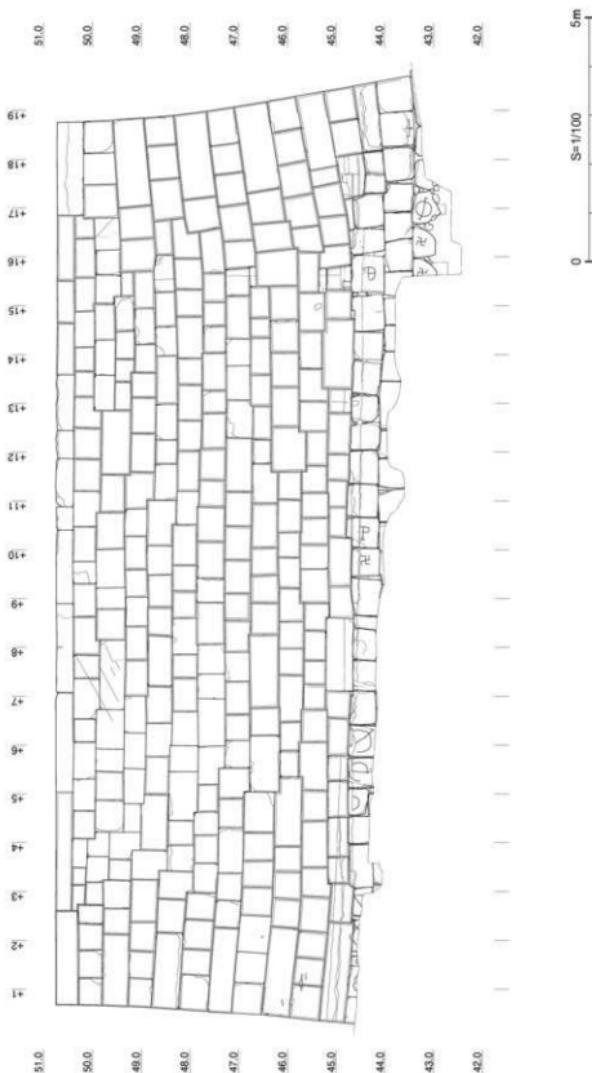
整切痕跡から約20cm東でも被熱痕跡を確認している。添柱の北面東端の位置を示すと考えされることから、文化期の添柱の東西辺は約40cmと推測される。

### SX07（続櫓台石垣掘方） [第46・53・64・65図]

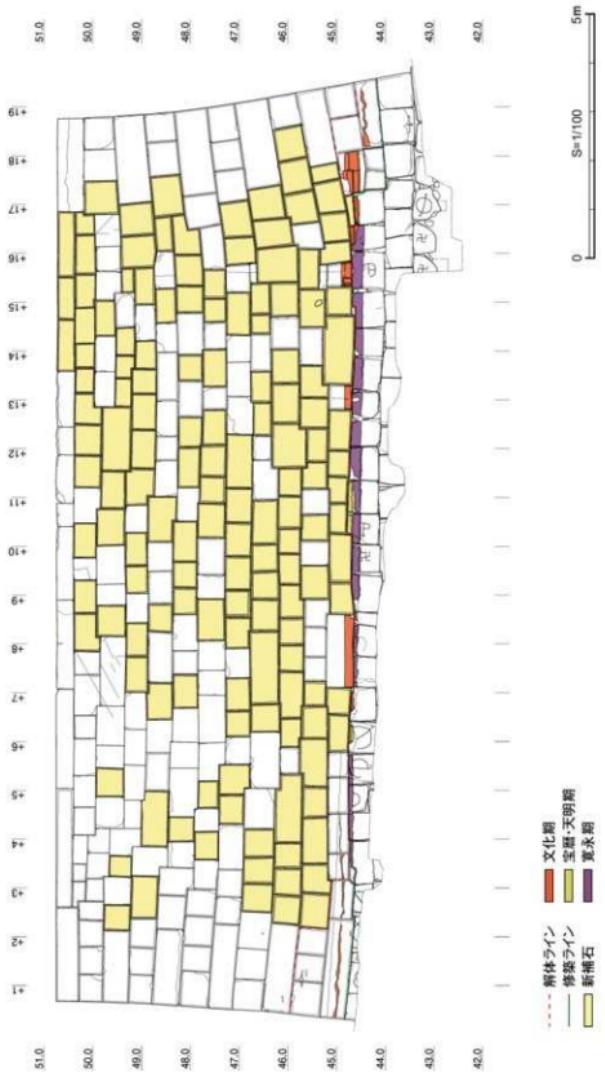
トレンチ2・11・12・14、近代の通用門掘方の底面及び壁面で検出した。検出した石垣最下部からの距離は、トレンチ11で96cm、トレンチ12で106cm、トレンチ14で118cm、トレンチ2で約150cmを測る。近代の通用門底面で検出した掘方は、東側の距離が約145cmに対し、西側が約98cmであり、続櫓台石垣南面・西面の角の掘方が狭くなっている。

近代の通用門掘方壁面では掘方の掘り込みの上端に続く平坦面があり、掘方の掘り込み面の可能性が考えられる。標高は44.17~44.24mを測る。切り込み面まで一旦整地し、石垣を構築したあと、盛土したと推測されるものの、トレンチ2・11・12・14で確認されている戸室チップ層が見当たらず、造成に伴う削平面の可能性を否定しきれない。その他の地点では、切り込み面は確認できなかった。

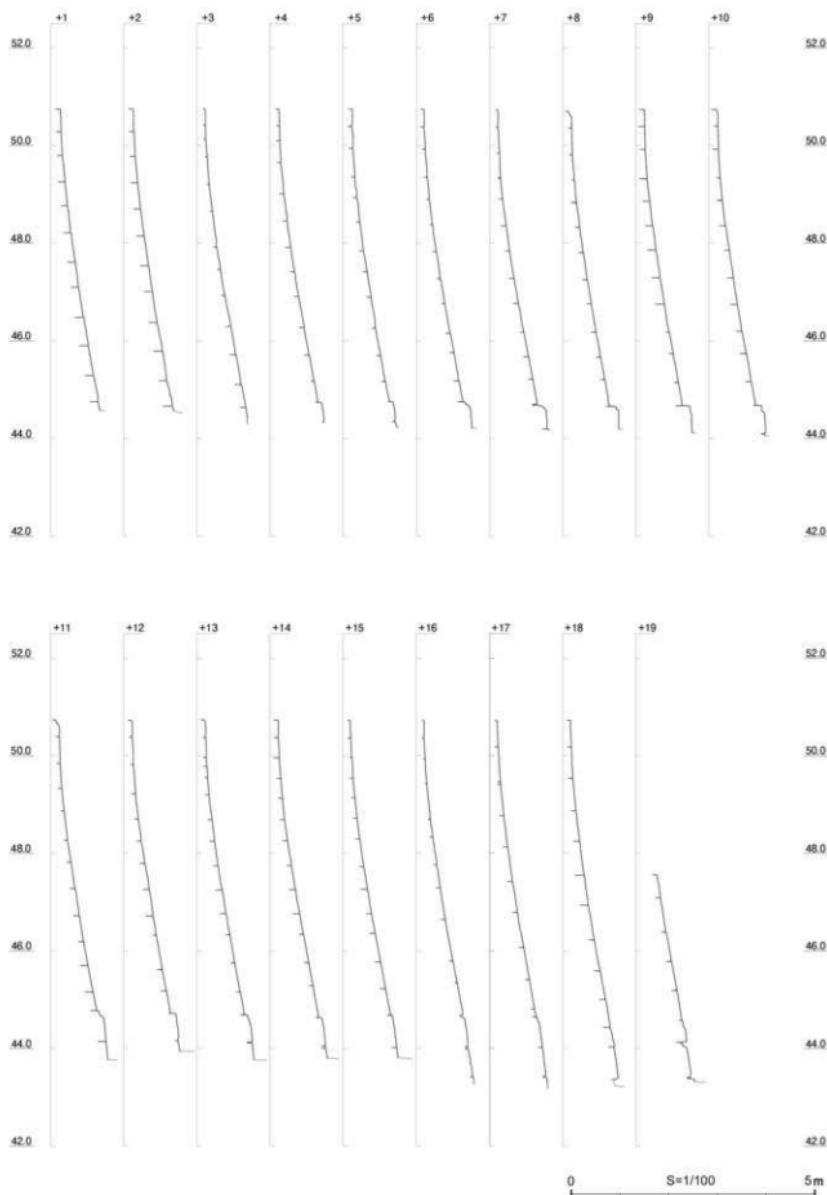
掘方埋土は、平成10~11年度の調査でも確認されており（『五十間長屋Ⅰ』第160図）、厚さ約40cmの栗石層の上に、戸室チップ混じりのにぶい黄褐色砂質土が覆い、黒褐色粘質土で埋め戻される（第53図 2012-14・15-1・15-2：99~104層、第46図 2011-4：56~66層）。



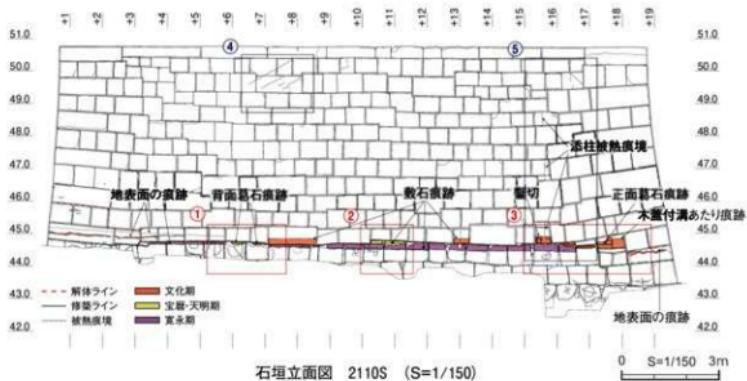
第59図 石垣立面図 2110S (S=1/100)



第60図 石垣立面図(改修範囲・加工箇所) 2110S (S=1/100)



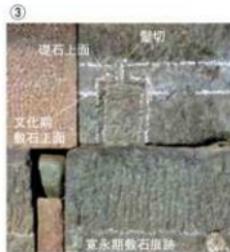
第61図 石垣垂直断面図 2110S (S=1/100)



背面葛石・敷石痕跡



敷石痕跡

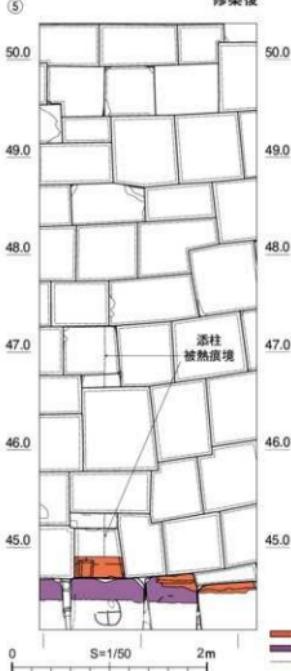
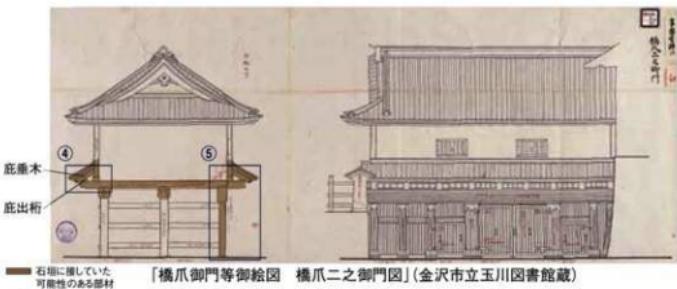


縫切・敷石痕跡

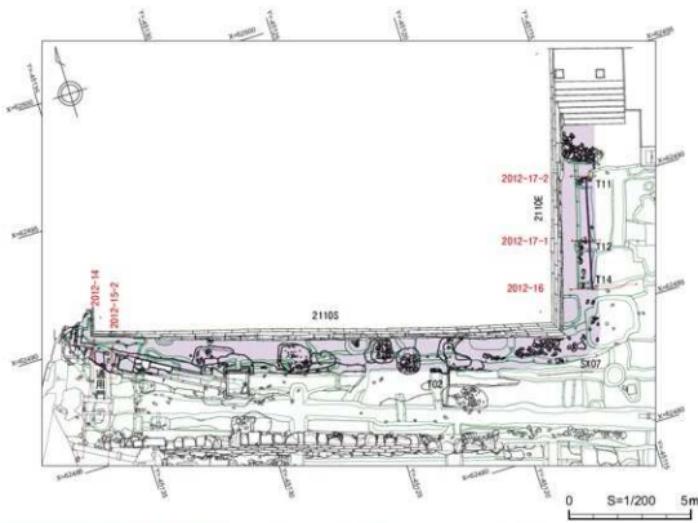


正面葛石・敷石・木蓋・地表面の痕跡

第62図 石垣痕跡 1 2110S 加工痕

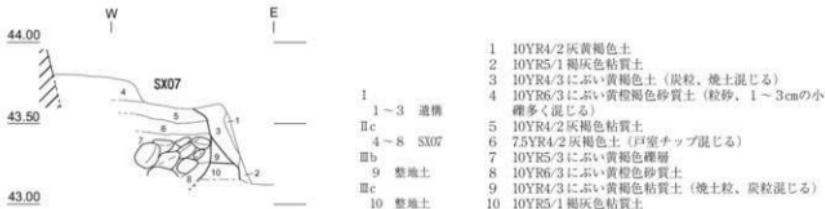


第63図 石垣痕跡2 2110S 被熱痕

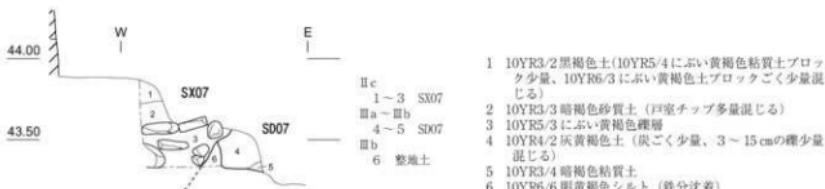


第64図 統櫓台石垣掘方 SX07 (S=1/200)

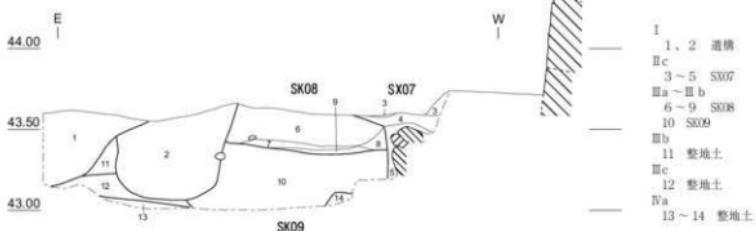
### 2012-17-2 トレンチ 11



### 2012-17-1 トレンチ 12



### 2012-16 トレンチ 14



- 1 10YR2/3 黑褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土チップ・ブロックまばらに、約2~20cmの難、砂大量、コンクリート片・炭化物混じる）
- 2 10YR2/3 黑褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土チップ・ブロックまばらに、約2~10cmの難、砂大量、混じる）
- 3 10YR4/4 黄褐色粘土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック大量、約2~5cmの難混じる）
- 4 10YR2/3 黑褐色土（ややしまる、戸室フレイク・チップ大量混じる）
- 5 10YR3/3 黄褐色粘土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1 黄褐色シルトチップ大量、2~cmの難、炭少量混じる）
- 6 10YR3/3 黄褐色粘土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1 黄褐色シルトチップ、約15~30cmの難混じる）
- 7 10YR5/1 黄褐色シルト（ややしまる、約1~10cmの難混じる）
- 8 10YR3/3 黄褐色粘土（10YR5/6 黄褐色粘土チップ・ブロック多く混じる）
- 9 10YR5/2 黄褐色粘土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック、10YR6/1 黄褐色シルトブロック・チップ、炭少量混じる）
- 10 10YR3/4 黄褐色粘土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1 黄褐色シルトチップ大量、2~cmの難、炭少量混じる）
- 11 10YR5/6 黄褐色粘土（10YR3/4 黄褐色粘土ブロック多く混じる）
- 12 10層より 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少ない
- 13 10YR5/6 黄褐色粘土（ややしまる、炭混じる）
- 14 10YR2/4 黄褐色粘土（ややしまる、約10cmの難、戸室フレイク・チップ、炭混じる）

0 S=1/30 1m

第65図 土層断面図 トレンチ (S=1/30)

## 第3節 枝形等

平成23年（2011）度調査では、枝形関連の遺構確認を目的とした調査を実施したが、明治以降の改変により枝形土壠石垣の根石下まで削平がおよび遺構は確認できなかった。しかし、続檜台石垣東面に、枝形に関連する加工痕が残されていた。平成24年度は、二ノ丸園路切下げに伴う確認調査を実施したが、続檜台石垣西面端で雁木坂階段痕跡を、園路部分では雁木坂西側に位置した石垣台の下部とこの石垣台前面において近世の路盤面と考えられる玉砂利を含む整地面が確認された。続檜台石垣および雁木坂については『金沢城跡-二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓I-』〔石川県金沢城調査研究所 2011〕を参照されたい。

### 1. 続檜台石垣東面の痕跡

#### 枝形地表面の痕跡 [第66図]

文化修築石垣最下段の築石石面には段差があり、段差下部は上部より飛び出している。上部は、それより上の石面と同様、細かい調整が施され平坦であるが、段差となる部分は粗い調整痕を残し、下部についても上部に比べ粗い調整となっている所が多い。枝形の最終仕上げ整地土は、この段差部分を覆い隠すように仕上げられたものと考えられることから地表面の痕跡とした。

この段差は、石垣西端で標高44.6m程から東側に2石（約3m）緩く傾斜した状態で連続する。3石目ではこれが標高44.3m程で水平となり、4石目からは築石の目地となるためか確認できないが、7石目からは再び標高44.3mで続く（約11m）。9石目からは再び緩く下り、11石目の頬当石垣階段の取り付き痕跡と繋がり（約3.8m）標高44.2mとなる。平成9年度調査時の写真を見るとこの段差は階段痕跡下で収束し、それより北側には見当たらない。

#### 頬当石垣痕跡 [第66図]

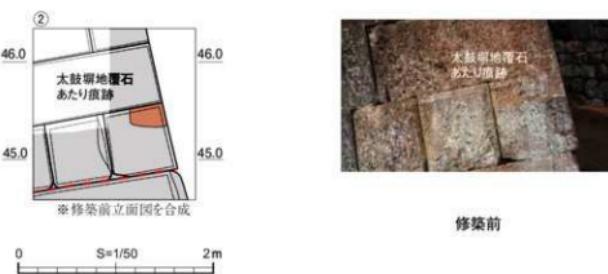
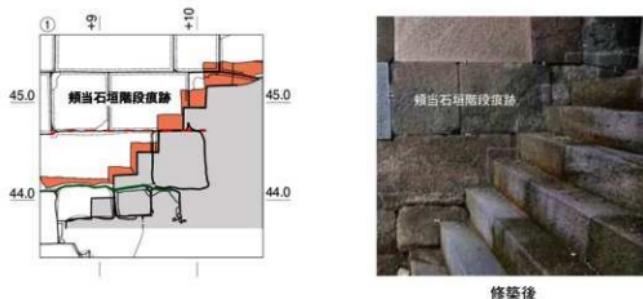
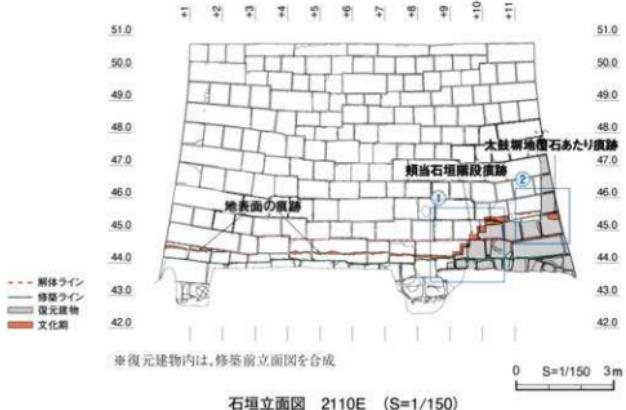
前述の地表面痕跡から続く形で頬当石垣の階段痕跡を5段分確認した。下から1段目の標高が44.32m、最上段は45.40mである。蹴上の高さは28cm前後、踏面は25cm前後である。階段痕跡は、他の部分に比べ平滑に仕上げられている。復元された石段と重なるため判然とはしないが、上段の加工が下段の加工の前面に延びるようである。

最上段の東側にはこれに続く地表面痕跡が緩く上がるよう連続している。現状では復元された太鼓塀に隠れた部分についてはそれが続くのかはわからないが、内堀沿いの角石石面に、太鼓塀の地覆石のあたり痕跡が残っている。地覆石の厚さを15cmとすると上面の標高は45.55mとなる。

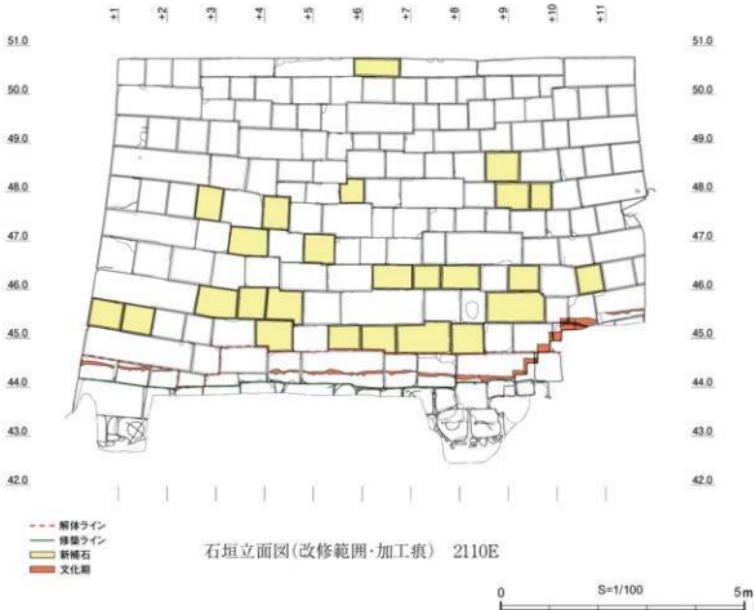
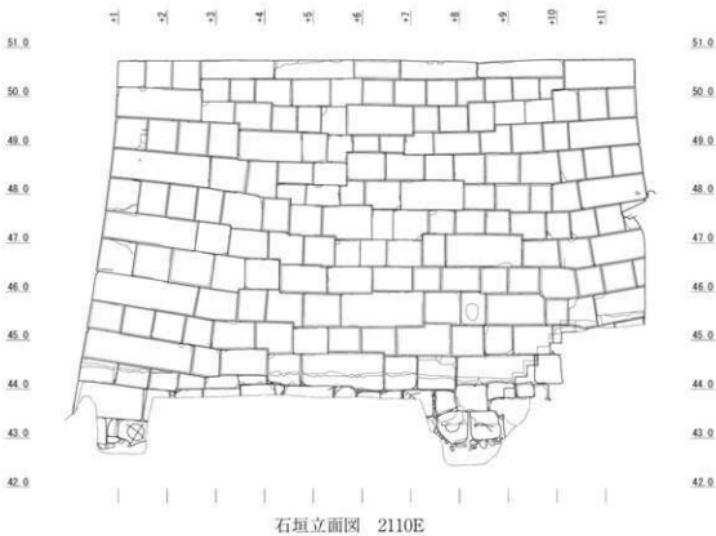
### 2. 続檜台西面の痕跡 [第72図]

続檜台西面南隅角で雁木坂階段縁石の取付痕跡を確認した。この部分はI区の延長として、集水樹がこの付近に設置される予定で、遺構深度の確認を目的として調査している。平成10年（1998）に雁木坂の調査が行われているが、それにより金沢大学時代の分厚い擁壁基礎が残っていることが判明しており、削岩機によりこれを除去した。基礎の下は前節の通り石組暗渠が一部残っていたが、階段等は削平されていた。この縁石痕跡も平成10年度調査の際にその延長が確認されているものの、今回調査した部分については、擁壁基礎のため調査できていなかった。

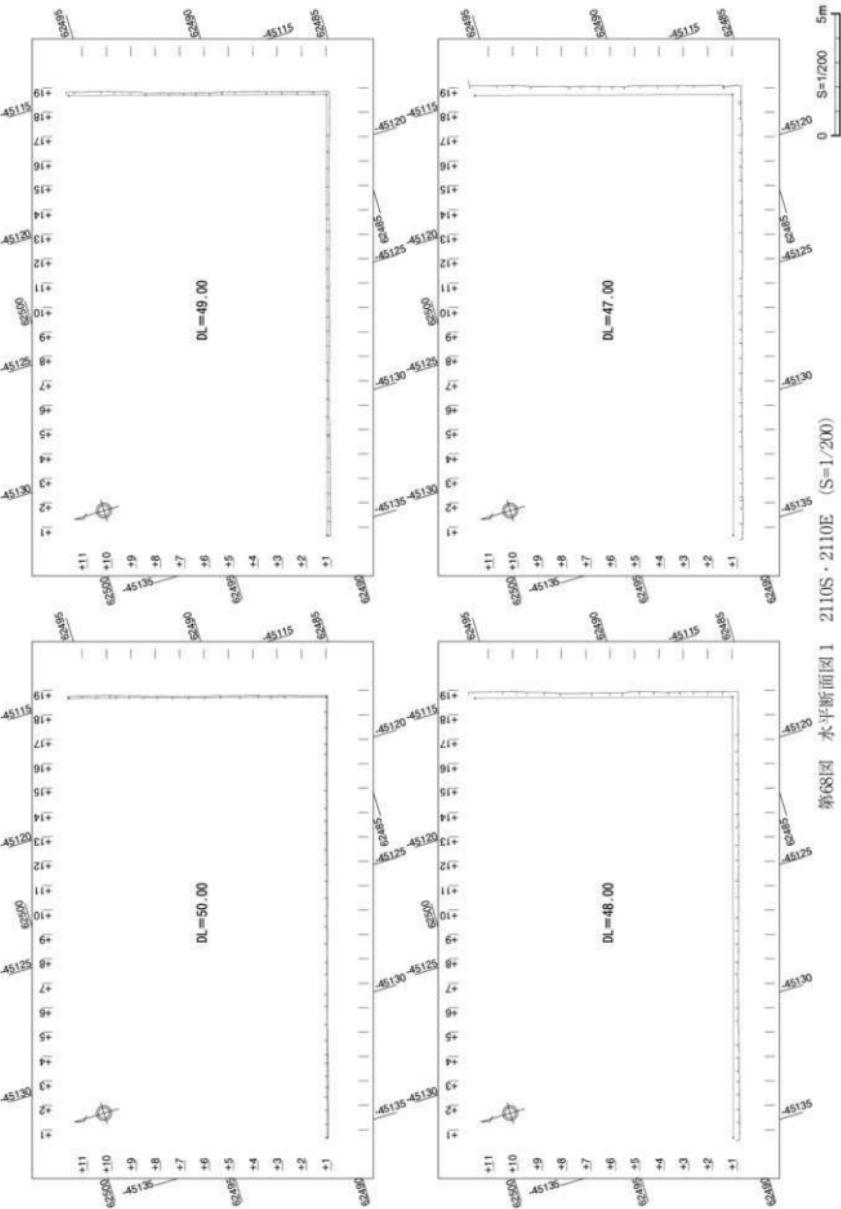
縁石痕跡は幅5cm程で、角石石面の南側下付近から緩く上り、延長1m程でとぎれ、平成10年に確認された痕跡とは連続しない。平刃状工具で平滑に仕上げられている。また、縁石痕跡を残す角石の下の角石石面にも平滑に仕上げられた部分が確認できる。隅角の縁石痕跡上端の標高は45.46mで、後述する石垣台前面に残る縁石上端の標高とほぼ同じである。



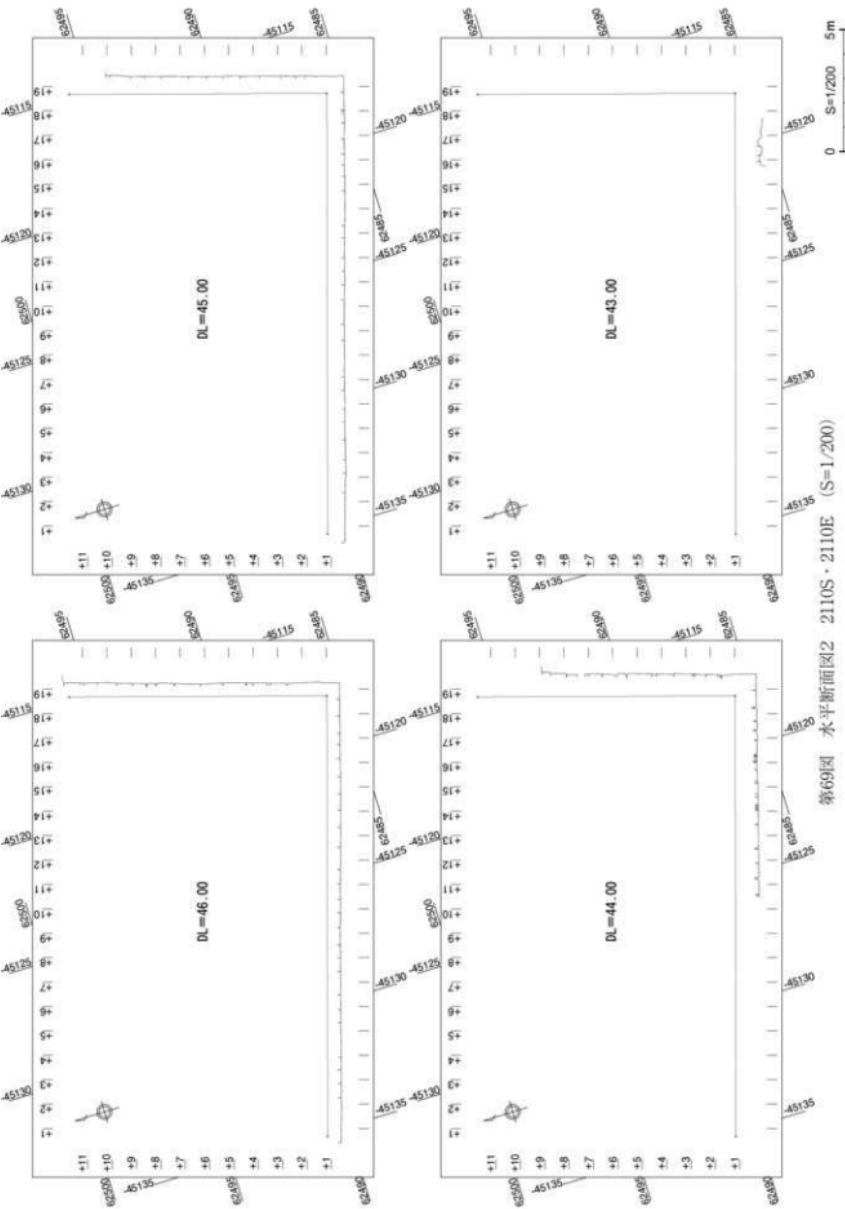
第66図 石垣痕跡 2110E



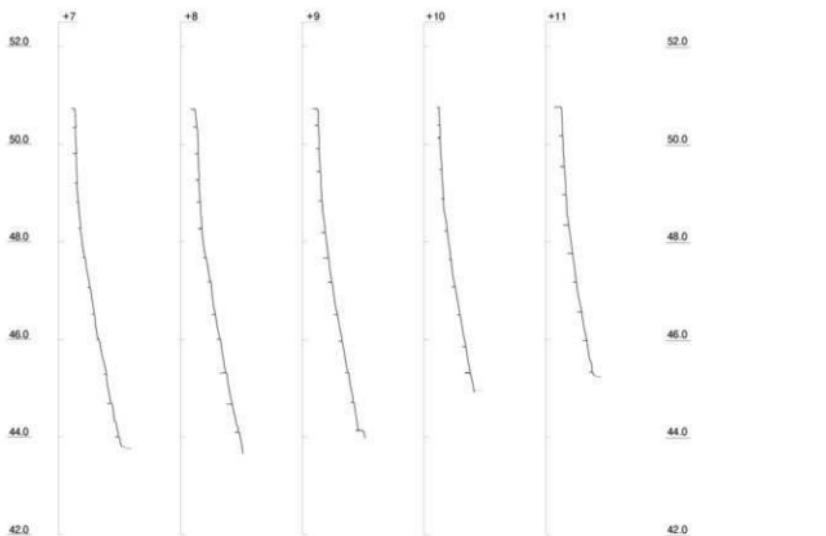
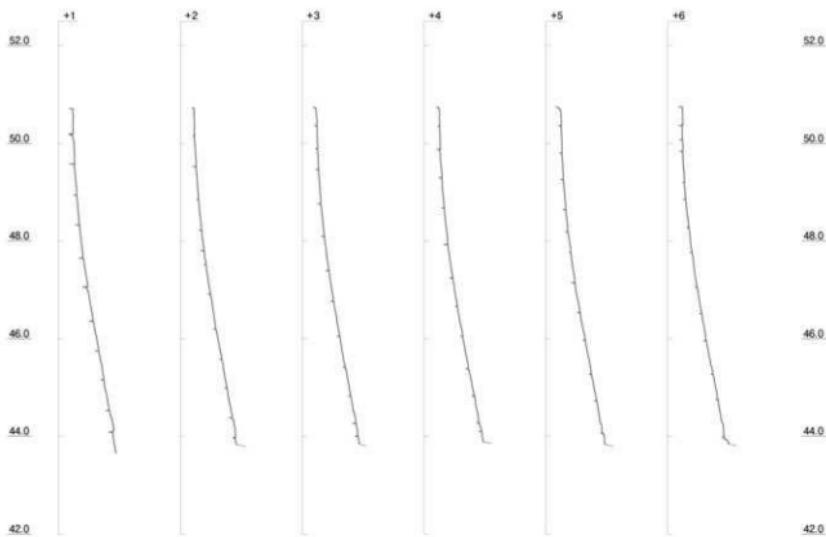
第67図 石垣立面図 2110E (S=1/100)



第68图 水平断面图 1 2110S - 2110E (S=1/200)

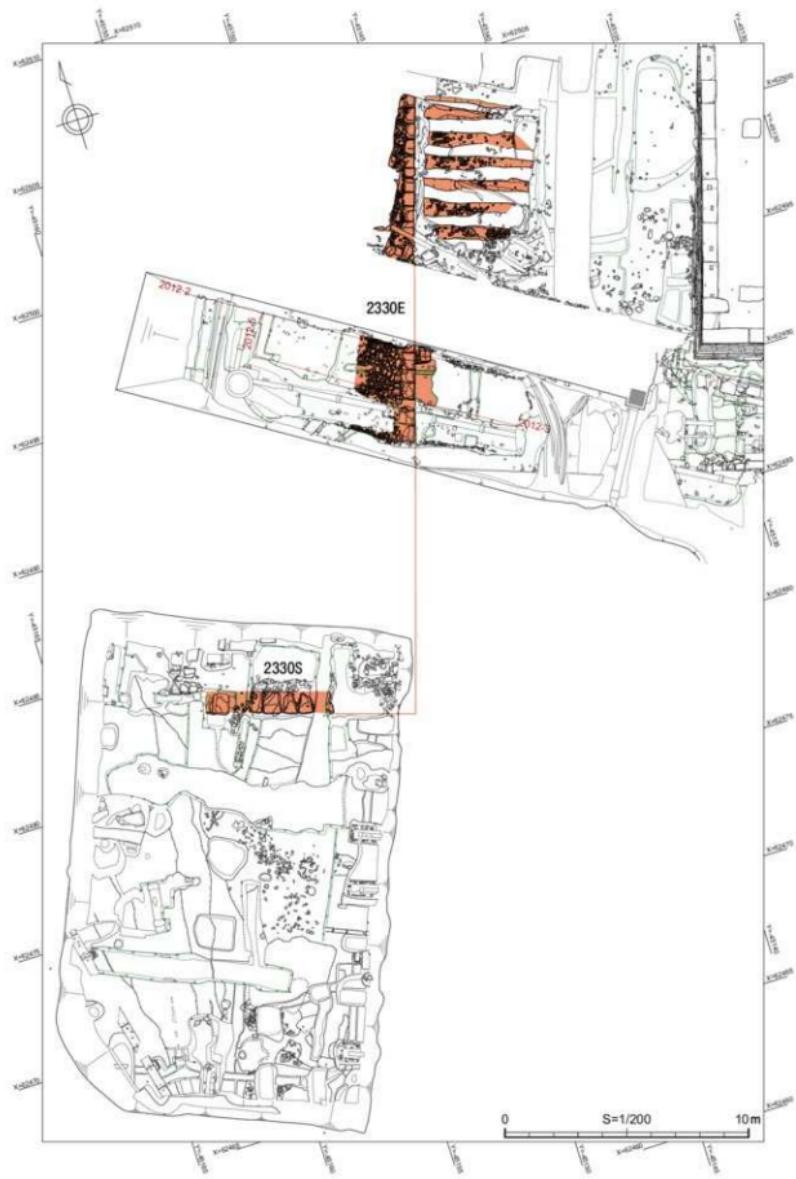


第69图 水平断面图2 2110S·2110E ( $S=1/200$ )

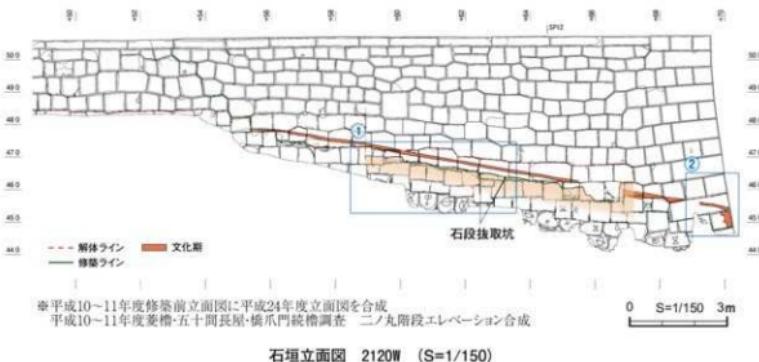


0 S=1/100 5m

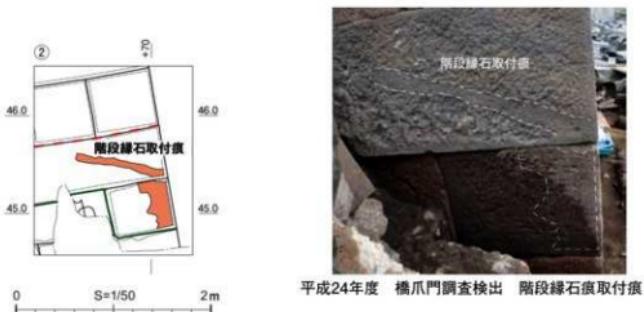
第70図 石垣垂直断面図 2110E (S=1/100)



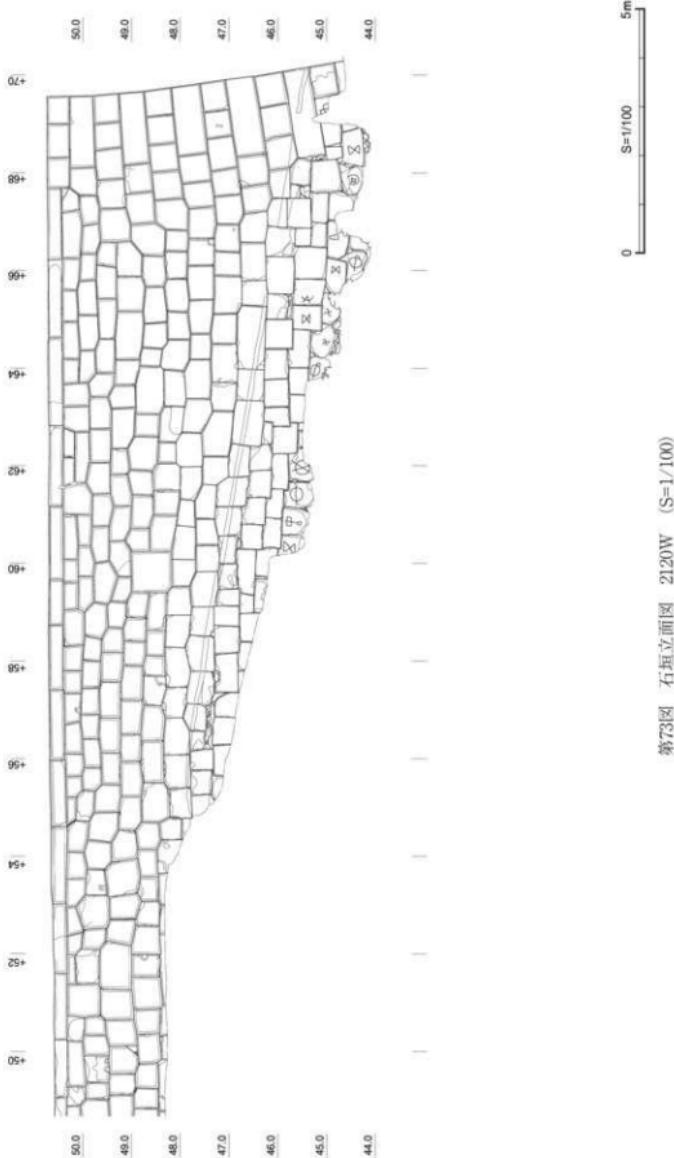
第71図 石垣平面図 2330E・2330S (S=1/200)



平成10～11年度 菱楓・五十間長屋・橋爪門統檜調査検出 階段縁石取付痕

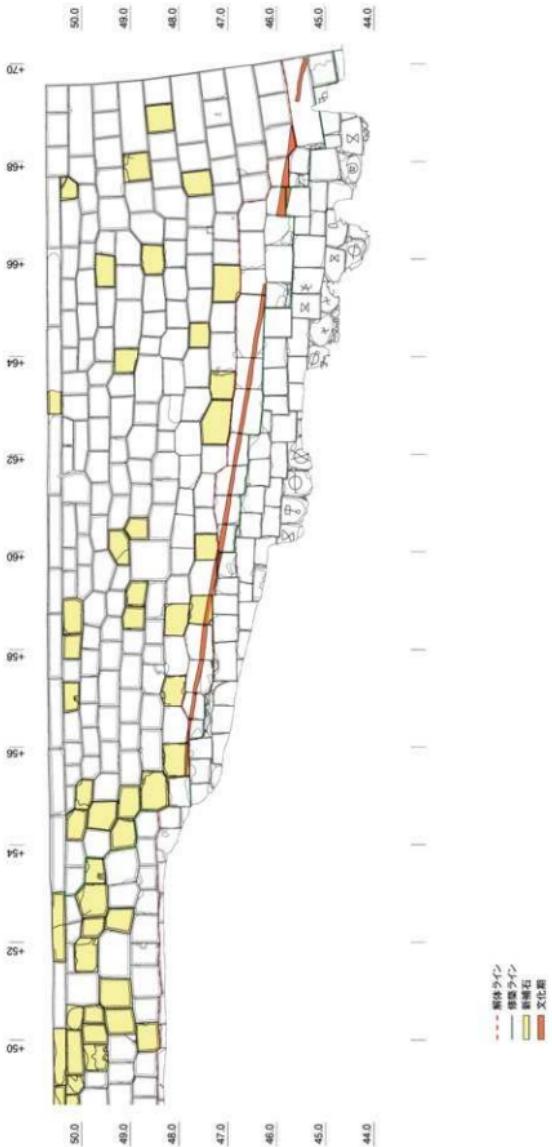


第72図 石垣痕跡 2120W



第73图 石垣立面圖 2120W ( $S=1/100$ )

0 S=1/100 5m



第74図 石垣立面図(改修範囲・加工範)

### 3. 石垣台および近世路盤面

石垣台および近世路盤面は平成24年（2012）度の二ノ丸園路調査区（Ⅲ区）のはば中央で確認された。石垣台は、絵図には宝曆大火以前から描かれ、近世路盤面は、この石垣台と五正建既御門、御番所、二ノ門に閉まれた雁木坂下の空間である。

Ⅲ区は上部を軍隊期に削平され、南側は二ノ丸園路の中央付近に敷設された下水管とその西に走る金沢大学時代の共同講により、東側は同じく金沢大学共同溝および各種配管等により、西端は、中央部の下水管のハンドホールおよびそこから北に延びる下水管等により壊されている。

Ⅲ区の基本土層は現況園路路盤の下に軍隊期の整地土（遺構面）があり、その下層は石垣台北側が石垣台あるいは二ノ丸造成土、石垣台上部から前面は石垣台を崩した際の栗石層が堆積している。石垣台前面では栗石層の下に戸室石碎片層があり、薄い砂層を挟んで玉砂利を多量に含む路盤面となる。

#### 石垣台〔第75~77図〕

石垣台は、下水管より北側で下部を路盤面に覆われた切石を築石とする1段4石を、下水管掘方底および西側で北側石垣の1段下となる1段3石を確認した。この石垣台は雁木坂西に接しており、本丸附段と二ノ丸の間の空堀を目隠しし、平成10年（1998）度調査で北側延長が、平成11年度調査で南端が確認されている。

北側の4石は石面の加工が続櫛台文化修築石垣の石面に比べ粗く、あまり明瞭でなく図化されていないが周開加工が施される。続櫛台石垣東面で見られたような地表面痕跡があり、北端には階段縁石（SX04）が取り付いている。合端の取り方が短く、下水管掘方で側面の観察できる築石は、横方向に筋状に走るノミ痕が見られ、背面は自然面を持つ。金沢城石垣編年第6期〔滝川2012〕の所産と考えられ、宝曆大火（宝曆9年（1759））後に改修された石垣と思われる。

石垣背面の栗石層（第77図 2012-3: 17層）は下に戸室石碎片を多量に含む層（同18・19層）があり、下部層と区別される。この栗石層の上部にも戸室石碎片を含む層（同14層）があり、さらにその上部が栗石層（同13層）となる。この上部層については一連のものか、それ以降かは不明であるが、背面の盛土層を掘り込んだように立ち上がる。ちなみに築石の上に乗る栗石を多量に含む層（同5層）は石垣取り外し後の盛土層である。また、石垣前面にはこの築石を設置した際の掘方が確認できる（同20~24層）。

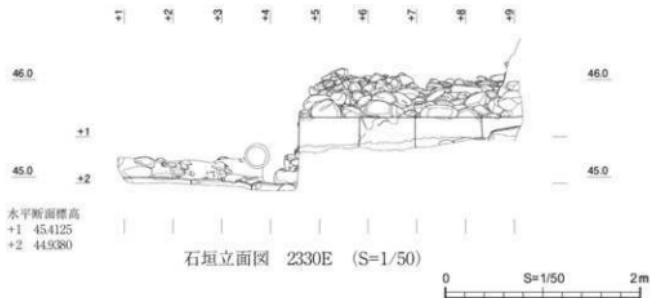
一方南側の3石については、上部を確認したにとどまる。北側から続くはずの上段は、下水管設置の際に撤去されたと考えられる。石面の加工はほとんど見えないため不明だが、築石上面の標高は45mをやや超える高さで、平成11年度調査で確認された石垣台南端の寛永期とされた根石の高さとほぼ同じである。下水管土層断面では前面に掘方と考えられる掘り込みが確認でき、上段の石垣とは別に構築されていることから寛永大火後の創建時のものと考えられる。石垣背面の整地土を見ると45~49層の石垣裏込土を挟み、上位の38~44層と下位の50~61層に分かれる。このことから、石垣の構築と石垣台の盛土は同時に進んでいたと考えられる。

石垣台西側の石垣は確認できなかった。想定される位置には下水管のハンドホールとそこから伸びる南北方向の下水管が設置され、さらに上位には塙ビ管や電気配線が走っている。下水管掘方を一部掘り下げたものの確認には至らなかった。おそらく壊されているものと思われる。これより西側では、二ノ丸園路路盤の下、標高47m程で近世整地土が現れる。

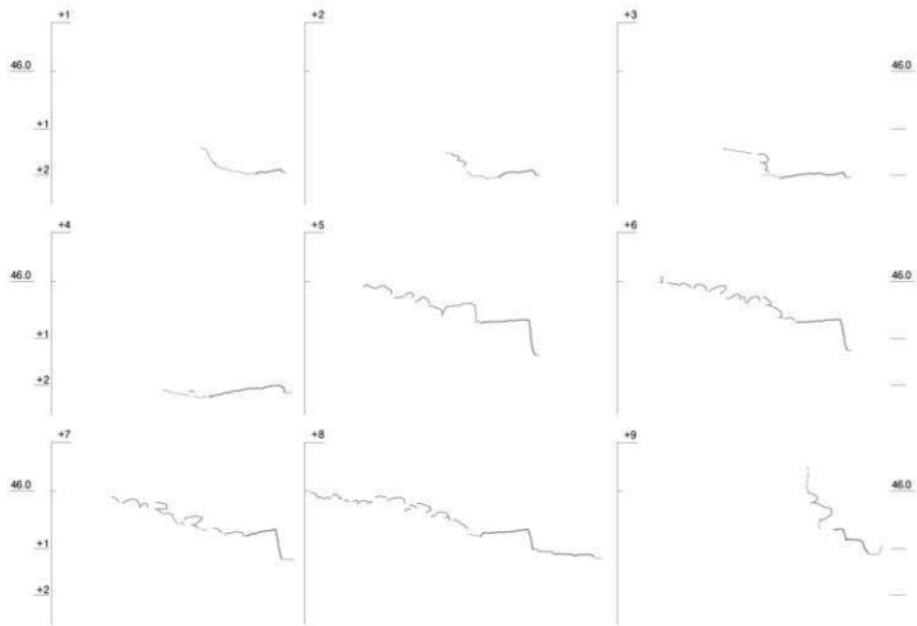
石垣背面の整地土層は西から東に傾斜し、東側石垣の構築と同時に造成が進められたと考えられる。下水管の南北方向の土層断面では判然としないものの北から南に傾斜しているように見える。調査地点は絵図によれば北側が二ノ丸面、南側が堀に向かって傾斜が始まる場所にあたる。西側の石垣は東側の石垣の構築がある程度進んだ段階で開始されたと思われる。



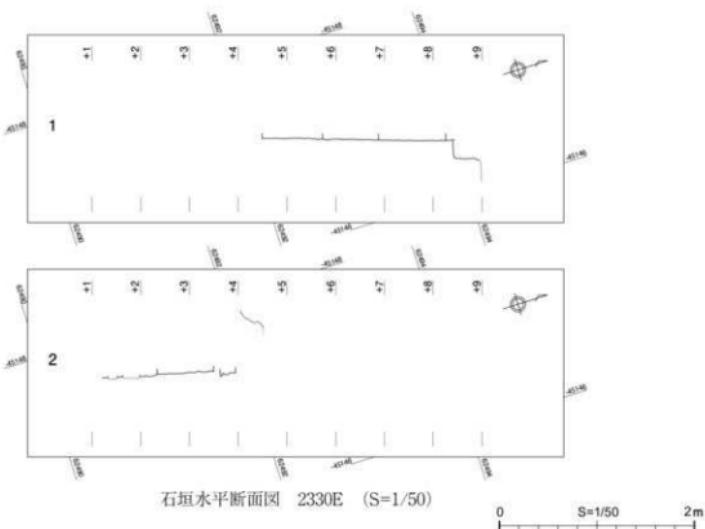
石垣平面图 2330E (S=1/50)



第75图 石垣平面图·立面图 2330E (S=1/50)



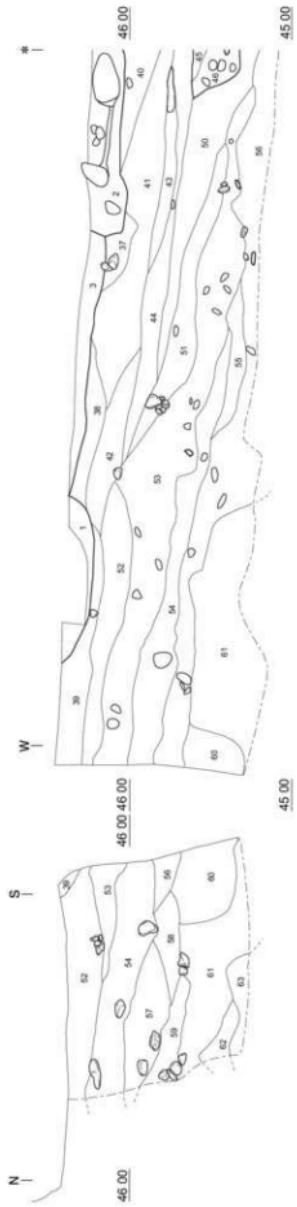
石垣垂直断面図 2330E (S=1/50)



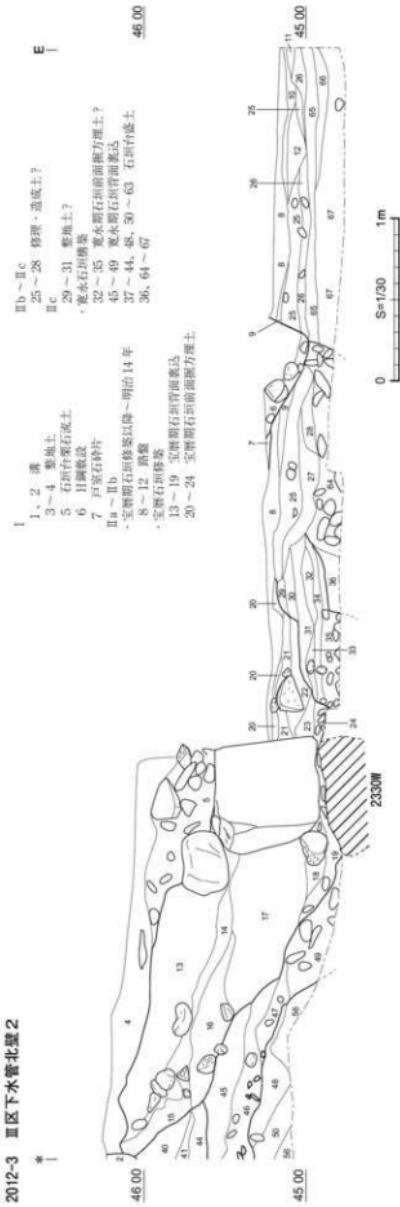
第76図 垂直断面図・水平断面図 2330E (S=1/50)

2012-5 III区下水管 東壁

2012-3 III区下水管北壁1



2012-3 III区下水管北壁2



第77图 土层断面图 III区下水管 (S=1/30)

- 1 10YR2/2 黒褐色粘質土(ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘質土チップ少量、2~3cmの繩、炭混じる)
- 2 10YR2/2 黒褐色粘質土(ややしまる、0.1~0.2cmの粗砂、1~2cmの繩、5~10cmの繩混じる)
- 3 10YR2/2 黒褐色粘質土(ややしまる、2~5cmの繩、炭少量混じる)
- 4 10YR2/2 黒褐色粘質土(ややしまる、2~3cmの繩、5~10cmの繩大量、(非吸水混じる)、塗喰泥にて炭層、上に割石層の破片層あり、單隊系網出土)
- 5 10YR2/3 黑褐色粘質土(ややしまる、10~20cmの繩混じる)
- 6 10YR2/3 黑褐色粘質土(ややしまる、1~20cmの繩大量混じる)
- 7 10YR2/2 黑褐色土(ややしまる、約1cmの赤玉室内チップ大量混じる)
- 8 10YR5/1 黑褐色粘質土(しまる、1~3cmの玉砂利大量混じる)
- 9 10YR5/6 黄褐色粘質土(ややしまる、約1cmの繩、0.2~0.3cmの粗砂大量混じる)
- 10 10YR5/1 黑褐色粘質土(しまる、1~3cmの玉砂利大量混じる、鉄分付着か)
- 11 10YR5/1 黑褐色粘質土(しまる、1~3cmの玉砂利まばらに混じる、鉄分付着か)
- 12 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、1~3cmの玉砂利まばらに混じる)
- 13 10YR3/2 黑褐色粘質土(ややしまる、10~30cmの繩混じる)
- 14 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまりなし、1~10cmの赤玉室・青玉室チップでifik大量混じる)
- 15 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、10~20cmの繩大量混じる)
- 16 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、1~2cm繩、10~15cmの繩、炭少量混じる)
- 17 10~30cmの繩層
- 18 10YR2/3 黑褐色粘質土(ややしまる、1~2cmの赤玉室・青玉室チップ大量、1~3cmの繩混じる)
- 19 10YR2/3 黑褐色粘質土(ややしまる、5~10cm赤玉室・青玉室のチップでifik大量、5~10cmの繩混じる)
- 20 10YR5/6 黄褐色粘質土(ややしまる、0.2~0.3cmの砂少量混じる)
- 21 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、1~3cmの赤玉室のチップ大量混じる)
- 22 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、2~3cmの繩、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、炭、赤褐色チップ(焼土か)わずかに混じる)
- 23 10YR3/6 黄褐色粘質土(ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・チップ、炭、赤褐色チップ(焼土か)わずかに、繩大量混じる)
- 24 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックわずかに、約5cmの繩大量混じる)
- 25 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、2~10cmの繩大量、赤褐色チップ(焼土か)大大量、炭混じる)
- 26 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、2~10cmの繩、赤褐色チップ(焼土か)大大量、炭混じる)
- 27 10YR3/4 黑褐色粘質土(ややしまる、2~3cmの繩、赤褐色のチップ(焼土か) 大量、炭混じる)
- 28 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、2~5cmの繩少量、赤褐色のチップ(焼土か) 混じる)
- 29 10YR2/2 黑褐色粘質土(しまる、約5cmの繩混じる)
- 30 10YR2/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、2~3cmの繩、炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 31 10YR2/2 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、2~3cmの繩・炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 32 10YR2/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、0.1~0.2cmの粗砂・2~3cmの繩・炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 33 10YR5/6 黄褐色粘質土(しまる、2~3cmの繩混じる)
- 34 10YR2/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、炭混じる)
- 35 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、5~10cmの繩大量、上面に3~5cmの赤玉室内チップフレイクがまだら状に並ぶ)
- 36 10YR3/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、9~15cmの繩大量混じる)
- 37 10YR2/3 黑褐色粘質土(ややしまる、2~5cmの繩混じる)
- 38 10YR4/6 褐色粘質土(ややしまる、2~5cmの繩、炭少量混じる)
- 39 10YR2/3 黑褐色粘質土(粘性やや弱、少し強、2~4cmの黄褐色ブロック10%、1~2cmの砂、炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 40 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、1~2cmの繩・炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 41 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、2~5cmの繩・炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 42 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、1~2cmの繩・炭・少量混じる)
- 43 10YR4/4 黑褐色土(しまりなし、塗喰一部混じる)
- 44 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ微量、1~2cmの繩大量、炭少量混じる)
- 45 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ微量、炭・赤褐色チップ(焼土か) 少量混じる)
- 46 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ微量、炭少量、10~15cmの繩大量、炭無混じる)
- 47 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ微量、炭混じる)
- 48 10YR4/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ大量、炭少量混じる)
- 49 10YR4/1 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ微量、10~20cmの繩大量混じる)
- 50 10YR3/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ・ブロック、炭少量混じる)
- 51 10YR3/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック、炭少量、5~10cmの繩混じる)
- 52 10YR3/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ・ブロック大量、1~5cmの繩、炭少量混じる)
- 53 10YR3/3 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック大量、炭少量、5~10cmの繩混じる)
- 54 10YR3/4 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック大量、炭少量、5~10cmの繩混じる)
- 55 10YR4/1 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少量混じる)
- 56 10YR4/1 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック微量混じる)
- 57 10YR5/4 にふく黒褐色粘質土(粘性普通、しまり強、黄褐色・橙色ブロックの混合土、5~10cmの繩5%,白色粘微量、約0.1cmの炭混じる)
- 58 10YR4/2 黄褐色粘質土(粘性普通、しまり強、橙色土を帶状に5%、約3cmの繩3%、約0.2cmの白色粘・炭微混じる)
- 59 10YR2/2 黑褐色粘質土(粘性やや強、しまり強、海色土の混合土、橙色ブロック3%,約5cmの繩3%，約1cmの白色粘微量混じる)
- 60 10YR4/1 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックまばらに、2~5cmの繩少量混じる)
- 61 10YR4/2 黄褐色粘質土(粘性やや強、しまりやや強、約0.5cmの橙色ブロック15%, 3~5cmの繩3%, 約0.1cmの炭微混じる)
- 62 10YR4/2 黄褐色粘質土(粘性普通、しまり強、約3cmの黄褐色ブロック5%, 約5cmの黒褐色土ブロック1%, 約3cmの繩1%混じる)
- 63 10YR6/6 黄褐色粘質土(粘性強、しまりやや弱、明黄色粘ブロックとの混合土、約3cmの黒褐色土3%, 2~3cm繩2%混じる)
- 64 10YR3/3 黑褐色粘質土(ややしまる、10~20cmの繩大量混じる)
- 65 10YR2/2 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1 黑褐色粘土チップ混じる)
- 66 10YR3/2 黑褐色粘質土(しまる、2~3cmの繩多量混じる)
- 67 10YR2/2 黑褐色粘質土(しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1 黑褐色粘土チップ、2~3cmの繩混じる)

### Ⅲ区下水管 土層注記

## 近世路盤面（SX01）〔第78・79図〕

石垣台の前面に広がりを持ち、玉石を含む整地土で仕上げられた平坦面である。石垣台北裾で、雁木坂の階段縁石（SX04）を確認している。橋爪門二ノ門を通り二ノ丸に上がる際の階段下の踊場的な空間となる。南側は下水管掘方により壊されており、東側については延長を配管等により確認できていないが、続櫓台下まで広がっていたことは間違いない。

路盤面の標高は45.2~45.3mで石垣台側がやや高く二ノ門側に緩く傾斜している。上面には薄い砂層を挟み、戸室石碎片層が広がり、その上部は石垣台を崩した際の栗石で石垣台上面の栗石上面から緩い傾斜をとれる高さにまで盛り上げている。その上面から明治31年頃の様子が描かれていると考えられる第2章第22図中の木構と思われる遺構が掘り込まれている。さらにその上位は盛土され、大正15年頃の測量図である第2章第23図中の金沢衛戍拘禁所の進入路側溝と思われる溝が構築されている。明治11年の天皇行幸に際して撮影された写真には橋爪門一ノ門、二ノ門が写っており、この時金沢屯営歩兵第七連隊に行幸していることから明治14年（1881）の火災直前まではこの路盤面が機能していたと思われるが、後述するように（第4章第5節近代路面（2））削平されていった可能性もある。路盤面直上に戸室石碎片層が見られることから、火災後、明治15年頃までに石垣台や雁木、枠形土塀石垣等を取り壊し、この空間で石材の加工等を行い、厨房や浴室等のある敷地を開く石垣を構築したものと思われる。また、その後この路盤面は栗石等で盛土され、雁木坂には師司令所に向かうための斜めに上がる階段が作られ、門、木構が設置されたと考えられる。

路盤面には石垣台に接して雁木坂階段の縁石が据えられている。上端南隅の高さは標高45.47mと続櫓台縁取り付き痕跡とはほぼ同じである。縁石の内側角は欠損しており、石段は取り外されているが、石段とのあたりの部分は平滑に加工されている。石段抜き取り痕の底より深く埋められており、どのような形状を成すのかわからぬが、南端で20cm以上の高さを持つ。側面は直立しておらず石段の木口は若干外に開く形状となるものと思われる。

縁石の南にはSX05とした石組遺構が作られている。長さ10~20cm程の扁平な川原石を縁石の幅に3ないし5個を側面を立てて並べ1列とし、それを3列縱に据えている。その東側には44×24cm、24×16cm、18×16cmの方形の戸室石板を3枚組合せ方形に敷き、その南側に横の川原石列と端を合わせるように、横方向に互い違いに並べて据えている。長い戸室石板には中央に線が彫られている。石組は東側に緩く傾斜している。

石垣面には続櫓台東面と同様な地表面痕跡が確認できるが緩く南側に傾斜している。絵図では御番所前に溝が設けられることから水勾配をとっているとも考えられる。川原石上端もこれに合わせるかのように傾斜しているが、地表面痕跡からはわずかに低い。階段縁石の取り付け部下端はこの地表面痕跡ラインの下部となる。

路盤面は長径3~10cmの玉砂利を混ぜられた褐色の粘質土（第78図 2012-2：8層）で、厚さは10cm前後、たたき締められたような感がある。直上には砂が薄く堆積していたが、河北門で路面とされたものとは様相が異なる。石垣台に残る地表面痕跡より若干低いことから、河北門の事例に従い路盤面とした。石垣台前面に広がるが、宝暦期石垣掘方上面ははがれてしまったのか玉砂利の含み具合が少なく、下に石垣掘方を覆う黄褐色の整地土（同20層）が敷かれる。下水管土層断面ではこれ以外の部分は、玉砂利を含む層が重層となる部分（同9~12層）もあり、修理を繰り返しながら維持されていたものと思われる。また、宝暦期石垣掘方より古く、寛永期石垣掘方上部の整地土（同29~31層）を掘り込むような形での整地土（同25~28層）もみられる。これが寛永期以降の修理であるのか、あるいは宝暦大火後の造成に伴うものかは、遺物等の判断材料が少ないため確証は得られないが、細かい焼土と思われる赤褐色チップを多量に含んでいることから、宝暦大火後の造成を考えた。また、寛永期石垣掘方東側に栗石を多量に含む部分が確認されている（同64層）が、こちらも

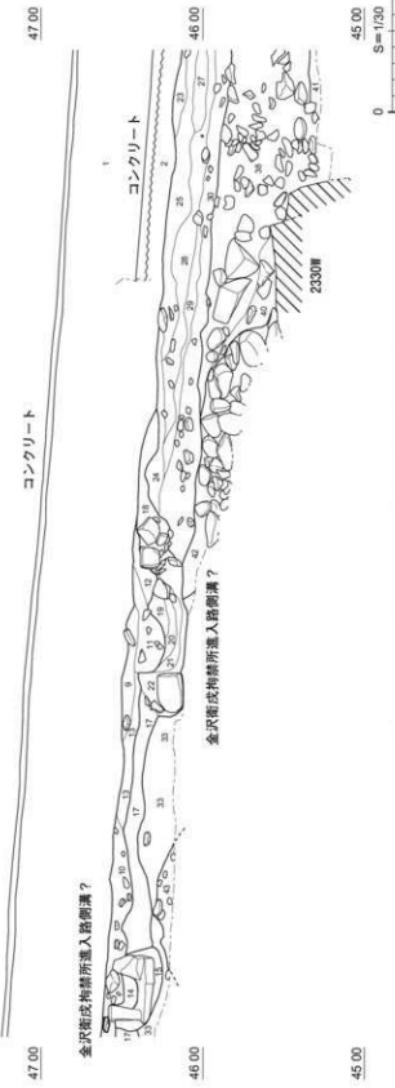
その性格は不明である。

路盤面に係る遺構の時期については、路盤層が宝暦期構築の石垣下半を覆っていることから宝暦大火以降であることは間違いないが、詳細な時期は判断が難しい。続櫓台石垣が文化二ノ丸火災後に修築されていることから、雁木坂、路盤面とも一緒に修築された可能性があるものの、階段縁石の取付き方からすると、宝暦石垣の地表面痕跡に合っており、上面の加工が第6期の加工であることから階段縁石は文化修築時には動いていないとも考えられる。宝暦期、文化期とも火災記録では上に構築されていた塀が失われたことを記しているもの、石垣に関しては記載がない。また、「御造営方日並記」にも石垣修理の記載は見当たらず、文化期に修築があったかどうかは不明と言わざるを得ない。このことからすると、全面的に雁木坂や路盤面が修築されたという確証は得られず、雁木坂は宝暦大火後のものが部分的にそのまま使用されていた可能性が残る。ただし、路面や路盤面については修理なしには維持できないものと思われ、文化再建期以降へ下る可能性が高い。

第2章第4節で少し触れたが、一ノ門、二ノ門、枡形、御番所、五正建脣、諸方土蔵役所は一連のものと考えられる。2つの方形の区画が二ノ門を挟んで連続し、その南側の一ノ門側枡形背後には諸方土蔵の区画があり、雁木坂側には御番所と五正建脣の区画がある。ただ、諸方土蔵役所については、絵図を見る限り、その他の区画との間にほっきりとした出入り口が見当たらないため、その関係性は薄いのかもしれない。

今回調査した二ノ門内側の空間は、雁木坂下と二ノ丸との比高差が3m程あり、二ノ門、五十間長屋、塀を載せる石垣台、御番所、御脣入口御門で一応枡形と遜色なく周囲を仕切られることになる。しかし、雁木坂側は通路であり解放され、御番所は前方が土塀等で仕切られているわけではなく、一ノ門側の枡形のように防御を目的としたものとは考えにくい。この構成は前述したとおり石川門、河北門も同じで、一ノ門側は枡形で防御性が高いが、二ノ門内側は与力番所、塀等で三方を仕切るのみでこちらはさらに防御を目的としたものとは考えにくい。三者ともこの空間が果たしている役割は動線を一方向に限定することと考えられる。

城内の城門の内、付近に御番所を置くのは金谷出丸、薪ノ丸、三ノ丸、東ノ丸に限られるが、動線は塀により仕切る場合もあれば、御番所を置きながら動線を限定しない場合もある。この三御門に限っては二ノ門内側正面方向を仕切って動線を遮り、御番所、あるいは与力番所を置き通行を管理していると考えられる。ただ、同じ二度折れながら石川門、河北門が内枡形で石川門が右折れ→左折れ、河北門が左折れ→右折れとクランク状としているのに対して、橋爪門は外枡形とすることで右折れ→右折れのコの字状とし、御殿への上り口としている。さらに二ノ門前方正面に塀を載せる石垣台を、左手に御番所を置き、一ノ門側の枡形と遜色ない高さで囲うことで二ノ丸御殿の入口としてふさわしいものとしていたと考えられる。



第78図 土層断面図 III区調査区北壁1 (S=1/30)

21 10YR3.2 黒褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、約0.1cmの2.57v8.8

細則色、粒度中等から、原の砂質粘土)

22 10YR3.1 黒褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、1~3cmの10YR6.4 明黄褐色土) しまり強

23 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、1~3cmの10YR6.4 明黄褐色粘土) 多い

24 10YR2.1 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、1~3cmの10YR6.4 明黄褐色土) 1~5cmの薄少量、0.5~1cmの厚多量混じる。

25 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、1~3cmの10YR6.4 明黄褐色土) 鉄管、ゴム管、コンクリート、約4cmの層、0.1~0.2cmの砂少量混じる。

26 10YR2.1 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、0.1~0.2cmの砂との混合土、約0.5cmの厚、約3cmの薄少量) しまり強、0.1~0.2cmの砂との混合土、約0.5cmの厚、約3cmの薄少量、(地表上) 厚度じる。

27 10YR4.3 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまりやや強、0.1~0.2cmの層少量、約0.5cmの鉄

微量混じる) 0.2cmの10YR8.4浅黄色粘質土、2~4cmの薄少量、約0.5cmの鉄

28 10YR3.4 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、約0.2cmの10YR5.4

細則色粘質土との混合土、3~10cmの薄少量。約0.2cmの鉄

29 10YR4.4 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、10YR6.4に近い黄

色少量少量、約0.1cmの5R4.8 黑褐色土 (地表上) 厚度じる)。

30 10YR3.4 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、3~10cmの層少量、約0.5cmの鉄) 10YR7.1 明赤色ブロッカーブロック、約0.1cmの鉄の吸収剤混じる。

31 10YR3.3 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、0.1~0.2cmの砂と

約0.4cmの薄少量、約0.3cmの鉄の層少量、約0.2cmの貝微量混

じる) 32 10YR4.2 黑褐色粘質土 (粘性やや強、約3cmの薄少量、約0.2cmの貝微量混

じる) 33 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、2~5cmの層、1~

5cmの鉄少量混じる) 0.1cmの層、約0.2cmの薄少量混じる。

34 10YR4.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、約3cmの層、約0.5cmの鉄少量混じる)

35 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、約3cmの層、約0.3cmの貝微量混

じる) 36 10YR3.3 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量、約0.1cmの貝微量混じる) 0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量、約0.1cmの貝微量混じる。

37 10YR6.8 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、約0.5cmの層少量) 0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量混じる。

38 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、約1cmの層少量) 0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量混じる。

39 10YR3.4 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、約0.5cmの層少量) 0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量混じる。

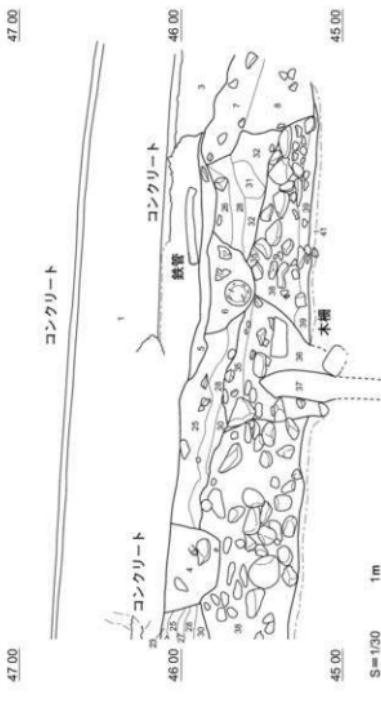
40 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、約0.5cmの層少量) 0.1~0.2cmの薄少量、約0.1cmの鉄少量混じる。

41 10YR5.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、1~3cmの層少量) 0.2cmの砂多く混じる。

42 10YR6.8 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、約0.3cmの層少量) 0.1~0.2cmの砂との混合土、約0.3cmの層少量、約0.1cmの貝微量混じる。

43 10YR3.3 黑褐色粘質土 (粘性やや強、しまり強、約0.3cmの層少量) アーブロック、1~5cmの層少量、約0.1cmの貝微量混じる。

44 10YR3.2 黑褐色粘質土 (粘性強、しまり強、3~5cmの層少量) 3cmの小石多量、5TR4.8 黑褐色土 (粘性強、しまり強、3~5cmの層少量混じる) 第79回 土壌断面図 III区調査区北壁2 (S=1/30)



## 第4節 下層の遺構

二ノ門創建以前は、概要で述べたように、大別して3層（Ⅲ～V層）が存在する（第34図）。下層遺構は、検出面や搅乱底面で平面的に検出できたものもあるが、大部分は搅乱壁面で確認した。時期は、出土遺物が少ないとから、他の遺構との先後関係や遺構の切り込み面の標高、切り込んでいる整地土の土質などで判断した。大別層内の細分層は部分的な造成のため面が重複している箇所もあり、遺構が所属する細分層が判断できないものも多い。

### Ⅲ層の遺構

#### Ⅲa面

遺構の主体は、II区で検出したSD06である。SX09も、SD06と一連の遺構である可能性があり、調査区を区画するような大型の溝状遺構が走っていたと考えられる。その他の遺構は少なく、主に南をSD06-2、東をSD06-3で区画される地区と、SX09南側で検出している。

##### SD06〔第80図〕

調査所見や土層断面図から、調査区の東で大型の溝状遺構が南北方向に走ることが確認されている。当初、枡形土壙に関する遺構の可能性が考えられたが、続櫛台石垣東面の軸がN-17°-Eに対し、溝状遺構の軸がN-7.5°-Eであったため別の遺構と判断した。調査終了後、調査所見及び土層断面や平面写真から、検出面を整地土とそうでないものに区別していくと、南北方向の溝状遺構が北端で西に折れて延び、東端から約7.6m西に入った地点で、北に枝分かれしている状況が浮かび上がってきた。南北方向の溝状遺構をSD06-1、東西方向の溝状遺構をSD06-2、SD06-2から北へ分歧する溝状遺構をSD06-3とした。

##### SD06-1〔第81図 2012-17-3:1～17層・2012-17-4:1～9層、第83図 2012-33:169～187層、第89図 2012-19:9・10層〕

幅約3.2m、深さは底面標高で42.75～43.0mを測り、北へ向かって若干低く傾斜している。埋土は黒褐色または褐灰色粘質土を主体とするが、西側から中央に向かって径20cm程度の礫が大量に入れられており、その上面の中央付近に褐灰色粘土層が混じる。断面では明確に確認できなかったが、検出面で戸室チップがみられた。また、第81図 2012-17-4第8層のような戸室チップの目立つ部分も確認される。第81図 2012-17-3に見るように複数の溝状遺構が重なっている可能性もうかがえる。東オイルタンク東壁でも同一遺構と考えられる層が確認されており、少なくとも15m南へ延びる。

##### SD06-2〔第82図 2012-18:7～35層〕

SD06-1からほぼ直角に西へ折れる。平面上で遺構と整地土の境を部分的に検出しており、水道管（4）の掘方断面でも礫の集中が続いている。幅約3.1mと推測される。深さは不明である。掲載した土層断面ではうまくとらえていないが、埋土は暗褐色粘質土が主体で、全体に径10cm程度の礫が大量に混じる。近代暗渠東壁では、SX08が同じⅢa期の遺構で、覆土中位に礫を挟むものの、レベルが異なり積極的に延長とは評価しにくい。

##### SD06-3

SD06-2から、ほぼ直角に北に折れる。ヒューム管（4）の断面では礫を多量に含む落ち込みが確認できるものの、教育学部木造2棟（第86図 2012-25・26）南壁では、SX34・SX35など時期不明の遺構が複数切り込んでおり、明確にSD06-3を確認できなかった。しかし、42層はⅣa面の遺構を埋没しているⅢc層と土質が異なっており、底面標高も42.78mとSD06-1と類似していることから、SD06-3の残存かもしれない。少なくとも平成9年（1997）の二ノ丸内堀調査区の内堀東部南岸土層断面図（第137図）に確認できないことから、最大でも7m程度と考えられる。幅は3.4m程度と推測される。

埋土はSD06-2とはほぼ同様であるが、中央やや東寄りに地山（Vb層）由来の土層が西へ落ち込むようにならぶ。

**SX09** [第39図、第54図 2012-9-2・2012-10：20~55層]

I-C区で検出した。面としては礫層を検出し、水道管(8)壁面で礫層が寛永大火直前であることが確認されている。礫層南端の軸はSD06-2と同じW-7.5°-Nであり、SD06-2の延長である可能性も考えられる。底面標高は42.9mを測る。

SX09のように、SD06-2の延長線上にあり軸を同じくする遺構は、プランは不明であるが、I-B区水道管(4)の底面やトレーナー2の底面でも確認している(第80図写真3・4)。これらの遺構が、SD06-2と一緒に連続的であるとすると、幅3.1~3.4m、東西の長さは途中途切れるもの38m以上の遺構となる。深さは底面標高で42.7~43.0m程度であるが、平成10~11年に行われた五十間長屋の調査では、橋爪門統槽台内部で寛永大火直前の整地土上面が標高43.70mで確認されており、深さ70~100cm程度になると推測される。

**SX08** [第40・41図、第85図 2012-34：51~77層]

II-B区近代暗渠東壁で検出した。幅2.58mを測り、底面標高は42.68mまで確認している。西壁でも断面を検出しておらず、西側へ伸びるとみられるが、I層やIIc層に覆われ、平面上で確認できなかつた。埋土は暗褐色のシルト～砂質土を中心とするが、上層に粘土層(53層)を含む。標高43.1m以下では礫が多く混じり、掘り返したような痕跡もみられることから、前段階の遺構が埋没する過程で再利用された可能性も考えられる。

**SX10** [第40図、第85図 2012-34：19~27層、第86図 2012-25-26：8~15層]

II-A区近代暗渠と教育学部木造2棟の交点で検出した。近代暗渠の底面でも一部平面的に検出している。西側は搅乱によって壊されているが、南北辺約180cmの大型の方形遺構と考えられる。

### IIIb面

大型の土坑や溝状遺構が多く、II-D区で切り合うように集中して検出した。遺構埋土は整地土を反映した黄褐色系土で、SK17・SD08は砂質土～シルト、SX11は粘質土が主体となっている。

**SK14・15・16** [第41図]

II-D区で検出した。SK14は複数の遺構と重複しているため全容は不明であるが、南北幅80cm以上と考えられる。水道管(11)壁面でなだらかに落ち込んでいることが確認でき、深さ20cm程度の浅い土坑と推測される。SK15は長辺1.36m程度、短辺約1.07mの長方形状の土坑、SK16は南北幅約1mの長方形の土坑と推測される。

**SK17** [第41図、第85図 2012-34：88~94層]

II-C区近代暗渠東壁で検出した。底面標高は42.82mを測り、深さは60cm程度である。89層から越前陶器窯(第105図P96)が出土している。

**SD08** [第41図、第87図 2012-21-2：49~54層]

II-D区で検出した。教育学部分館北壁で断面を確認している。西側が一段浅く広くなつており幅1.2mを超えるが、東側は壁を抉るように斜めに掘り込み、幅約90cmとなつてている。溝としたが大型土坑の可能性もある。

**SD09** [第41図]

II-D区で検出した。IIIa層で東側・北側を覆われているが、水道管(12)底面で東端を検出しており、東西約1.5m、南北3.5m以上の溝状遺構または土坑と考えられる。軸はN-15°-Eを測る。

**SX11** [第41図、第87図 2012-21-2：35~48層]

II-D区で検出した。短辺約2m、長辺3.5mを超える大型の方形遺構である。SD08より新しく、

SK15・16より古い。軸はN-50.5° -Eを測る。

### IIIc面

大型の土坑、溝、ピットが調査区中央から西側を中心に関連している。埋土は、土坑は黄褐色系の砂質土が主体であるが、その他の遺構は黒褐色粘質土が主体となっている。

**SK18** [第40・41図、第85図 2012-34 : 128~151層]

II-A区近代暗渠東壁で検出した。幅3.3mを超える大型の土坑で、深さは78cm、底面標高で42.396mを測る。1630年前後の土師器皿（第106図 P133~135）が出土している。搅乱4西壁で東側の立ち上がりを確認した（第80図 写真1）。壁の立ち上がりは緩やかで、SK19と重複しているため不確実だが、南側に大小3段の段差がみられるようである。意図して構築されたものであるかは現況では判断できなかった。

**SK19** [第40・41図、第85図 2012-34 : 110~127層]

II-A区近代暗渠東壁で検出した。大半がSX08と重複しているが、SK18と同様の遺構と推測される。

**SK20** [第39図、第90図 2012-22 : 153~162層]

I-C区西オイルタンク北壁で検出した。平面でも検出しており、1辺2.5m以上、軸はE-18° -Sの方形遺構である。深さは78cm、底面標高で42.46mを測る。

**SK21** [第39図]

I-C区で検出した。SK20より新しく、直径71cmの円形の遺構と推測される。

**SD10** [第41図、第83図 2012-33 : 277~281層]

II-C区下水管内で検出した。幅66cm、軸はN-15.5° -Eを測る。深さは43cmまで確認した。南端は搅乱に切れ目があるが、北端は水道管（2）・（3）南壁で同一とみられる遺構が確認できないため、近代石垣掘方内に収まる長さと推測される。

**SD11** [第41図、第83図 2012-33 : 268~276層]

II-C区下水管内で検出した。SD12に先行して平行して走る。幅は60cmまで、深さは44cmまで確認した。

**SD12** [第41図、第83図 2012-33 : 251~267層]

II-C区下水管内で検出した。幅約106cmを測り、軸はN-6° -Eである。深さは70cmまで検出した。SD10同様、水道管（2）・（3）南壁で確認できないため、北端は近代石垣掘方内で収まる長さと推測される。東側を再掘削している可能性がある。SD10→SD11→SD12の順に西から東へ移動していくとみられる。

**SD13** [第41図、第83図 2012-33 : 244~246層]

II-C区下水管内で検出した。幅は切り込み面で60cm以上と推測されるが、底面へ向けて狭くなり、検出した下水管掘方底面で26cmを測る。深さは45cmまで検出している。下水管北壁でも延長部分の断面を確認している。軸はN-4° -Eを測る。

**SD14** [第41図、第85図 2012-34 : 152~156層]

II-D区近代暗渠東壁で確認した。水道管（11）・（12）内で東側の立ち上がりを検出している。幅は最大でも1.1m程度、深さは20~30cmを測る。軸はN-2.2° -Eを測る。

IIIc面で検出した溝は南北方向に軸をほぼ合わせており、規模や断面形態にやや違いがみられるものの、同様の性格を持つ溝と推測される。

**P14** [第41図]

II-C区下水管内で検出した。下水管北壁で確認したところ、P14→SD13の切り合いが確認された。

**SK16** [第39図]

I-C区充電所基礎内で検出した。軸はN-17° -Eを測る。コンクリート擁壁西壁で確認できないこ

とから溝状遺構の可能性が考えられるが、西オイルタンク壁面でも確認できず、北側へ延びると推測される。

**SX17** [第41図、第83図 2012-33 : 238 ~ 291層]

II-C区下水管内で検出した。幅62cm、深さ65cmまで確認している。東に重複するSD10との切り合いや位置関係が、SD12・11と類似することから溝状遺構の可能性が考えられる。

**SX18** [第41図]

II-C区下水管北壁で検出した。切り合い関係からSD11と同時期の遺構と考えられる。水道管(2)・(3)南壁では確認できず、長さは近代石垣掘方内までに収まると推測される。

**SX19・20・21** [第41図]

II-C区搅乱8内の底面で検出した。プラン等は不明である。SX20は長さ1.3m程度の土坑状遺構、SX19も同様の遺構と推測したが、整地土の切れ目の可能性がある。

**SX22** [第41図]

II-C区水道管(12)内で検出した。Ⅲb層に覆われ、東西をSD09・SX37に切られているため全容は不明である。SX21と近接することから、SX21と同一の遺構である可能性も考えられる。

**SX23** [第41図、第83図 2012-33 : 239 ~ 243層]

II-C区下水管南壁で検出した。北壁でも同一の遺構とみられる断面を確認している。軸は溝状遺構と同様であると推測される。

### III層の遺構

**SK08** [第40・41図、第65図 2012-16 : 6 ~ 9層]

II-A区トレンチ14で検出した。Ⅲa面もしくはⅢb面の遺構である。底面標高は43.35m、幅1mを超える遺構であるが、寛永期の石垣掘方や近現代の搅乱に切られ、平面では検出できなかった。

**SK09** [第40・41図、第65図 2012-16 : 10層]

II-A区トレンチ14で検出した。Ⅲa面もしくはⅢb面の遺構である。寛永期の石垣掘方やSK08・SD07に切られ、東西約1.2m検出した。北側は搅乱12北壁で立ち上がりを確認している。

**SK10** [第39図、第55図 2012-11-1・2、第54図 2012-9-2 : 68 ~ 92層、第84図 2012-33 : 199 ~ 225層]

I-C区下水管南壁・北壁、水道管(8)東壁断面で確認した。東西幅は約3.34m、床面標高42.44m、深さ72cmの大型の土坑である。北側は近代石垣内で収まるが、南側の範囲は不明である。Ⅲa面のSX09（礫層）より古く、埋土はSX38と類似している。Ⅲ層の遺構と考えられるが、面の判断はできなかった。一つの遺構としたがいくつかの遺構が切りあっている可能性もある。埋没した後にピットや土坑状の遺構が複数掘り込まれている。

**SK11~13** [第39図]

I-C区SX09南側で検出した。Ⅲa～Ⅲb面の遺構である。SK11は比較的の遺存状態が良く、径120cm程度の円形の土坑とみられる。同様の遺構がSK11→SK13→SK12の順に変遷していったとみられる。検出面はⅢb層であるが、SX09以前に構築された可能性もあり、Ⅲa～Ⅲb面の遺構とした。

**SD07** [第40・41・64図、第65図 2012-17-1 : 4・5層]

II-A区トレンチ12と14の間で検出した。Ⅲa面もしくはⅢb面の遺構である。搅乱12西壁で南北方向に延びることを確認しているが、南はSK08に、北はトレンチ11断面で検出した遺構（第65図 2012-17-2 : 1 ~ 3層）に切られており、長さは不明である。

**SX12** [第41図、第85図 2012-34 : 80 ~ 86層]

II-B区近代暗渠東壁で検出した。Ⅲa面もしくはⅢb面の遺構である。北側をSX08、南側を水道管(2)(3)に切られているため全容は不明であるが、埋土がSX08と類似していることから、同一の遺

構である可能性がある。

#### SX13 [第39図]

I-C区コンクリート擁壁掘方内で検出した。Ⅲa～Ⅲc面の遺構である。長さ2m、幅70cm程度の土坑状の遺構とみられるが、多くの搅乱と重複しており詳細は不明である。検出面はⅢc層であるが、上層から切り込んでいる可能性があり、Ⅲa～Ⅲc面の遺構とした。

### IV層の遺構

#### IVa面

調査区全域で確認した。II区で大型の土坑が多く、特に東側の下水管周辺に遺構が集中している。埋土は、SK22など上層に黄褐色系の砂質土～シルトがみられる遺構もあるが、地山のVa層由来の黒褐色粘質土または黒色シルトが主体で、Vb層由来の黄褐色土が多く混じる。

#### SK22 [第41図、第85図 2012-34 : 172～190層]

II-C区近代暗渠・近現代溝(3)内で検出した。径2mを超える土坑であるが、二度再掘削したようない痕跡もみられ、南から北へ3つの遺構が切り合っている可能性もある。近現代溝(3)底面で検出した標高から、深さ75cm程度と推測される。

#### SK23 [第41図、第83図 2012-33 : 367～376層]

II-C区下水管南壁で検出した。深さ約46cmの土坑であるが、深さ31cm程度まで埋没したのちにⅢc層で覆われている。376層から1610年前後の土師器皿(第106図 P109)が出土している。

#### SK24 [第41図、第83図 2012-33 : 377～379層]

II-C区下水管内で検出した。直径60cm程の円形土坑とみられる。深さは30cmまで確認した。

#### SD15 [第39図]

I-C区トレチ4底面で検出した。軸N-54°-Eの溝の中央付近から、西側にはほぼ直交するように枝分かれするT字状の溝である。幅は約20cmを測る。

#### SX24 [第41図、第85図 2012-34 : 171層か]

II-B区近代暗渠内で検出した。水道管(2)・(3)やSX12などに切られ、全体の形状等は不明である。

#### SX25 [第41図]

II-D区水道管(12)内で検出した。東側をSX37に切られ、詳細は不明である。

#### SX26 [第42図]

II-C区下水管内および下水管北壁で検出した。断面図は作成していないが、南壁と整地土の対応関係を確認しており、時期を判断した。西側で同時期の浅い土坑を切っている。同地点の南壁で複数の遺構(第83図 2012-33 : 338～365層)を確認しているが、関連は不明である。

### IVb面

ピット(第83図 2012-33 : 394～396層、第85図 2012-34 : 194・195層)や小型の土坑(第87図 2012-21-3 : 103・104層、第88図 2012-20 : 105層、第89図 2012-19 : 21・22層、23～29層)が少し、I・II区-D区に展開する。平面検出した遺構ではなく、全て断面で確認している。埋土は、Va層由来土が主体で、Vb層土が混じる。

### IVc面

調査区全域で確認している。大型の遺構は教育学部木造2棟(第86図 2012-25・26 : 77～81層)や東オイルタンク東壁(SX28)のみで、他はピットまたは径1m以下の土坑である。埋土は、Va層由来土が主体で、Vb層土が混じる。

**SK25** [第41図、第83図 2012-33 : 413層]  
II-C区下水管底面で検出した。東西1m程の隅丸方形と推測される。

**P16** [第41図、第83図 2012-33 : 412層]  
II-C区下水管底面で検出した。東西幅約20cmの方形のピットと推測される。

**SX27** [第42図、第89図 2012-19 : 44~52層]  
II-D区東オイルタンク東壁、搅乱16底面で検出した。約幅3.6m、深さ84cmを超える。平面的には僅かにしか検出できなかったが、東西南北に軸をとった方形の遺構と推測される。

#### IV層遺構

**P15** [第41図、第87図 2012-21-2 : 118層]  
II-D区で検出した。IVb~IVc面の遺構である。径29cm、深さ16cm遺存していた。埋土は黒褐色シルトで軟らかく、IVc層整地土に類似する。

#### V層の遺構

##### Va面

平面で検出した遺構はなく、搅乱壁面にII-A~C区にごく僅かにみられる。ピット2基（第83図2012-33 : 440層、第86図 2012-25・26 : 90層）、土坑1基（第86図 2012-25・26 : 91層）のみ検出した。埋土はVb層が少し混じるが、ほぼVa層土である。

#### 時期の特定できない遺構

遺構掘り込み面の確認ができず、検出した面の整地土（第37図）や他の遺構との先後関係から可能性のある面を推定した。橋爪門や枠形創建以降のIIa~IIc面については、二ノ門内に遺構を構築することは不可能であり、枠形内にも遺構を構築することはないと想定し除外している。

##### III層もしくはIV層の遺構

**SX14** [第39図、第54図 2012-9-2、2012-10、第55図 2012-11-2 : 93~102層]  
I-C区水道管（8）壁面で確認した。上層の埋土は礫層で、SX09の礫層との境界は判然とし難いが、埋土の主体がSX09は黒褐色粘質土なのにに対して、SX14は灰黄褐色シルトまたは黄灰色粘質土やシルトである。IIIa面のSX09やIII期のSK10に切られており面の判断はできなかつたが、検出した最高点の標高が43.07mと下水管掘方南壁西側で確認したIVa面の標高と近似していることから、IIIa~IVa面の遺構と考えられる。底面標高は42.56mを測る。

**SX15** [第39図]  
I-C区SX09の下層、IVb層で検出した。IVb面~IIIa面の遺構と考えられる。

##### IV層もしくはV層の遺構

**SX28-33** [第39図]  
I-C区下水管内で検出した。SX28は、長軸68cm以上の楕円形の遺構と推測される。SX29~32は東西幅40cm以上のピットまたは土坑状遺構とみられ、東から西へ変遷していったことが窺われる。SX33はトレチ5内まで伸びることを確認しており、浅い溝状の遺構と推測される。

遺構の切り込み面は、下水管南壁断面（第84図 2012-33）の443層上面に対応する。443層はVa層上面であるが、その上層にはIVc層がみられずIVb層（410層）が存在することから、443層上面はIVc面とVa面とが重複している可能性があり、IVcもしくはIVa面の遺構と推測される。埋土は黒褐色土にVa層土やVb層土がやや多く混じる。

### I面もしくはⅢa面の遺構

SK26~28、SX34~36はSD06より新しく、P17・P18・SK29・SX37はⅢa層を切り込み、SK30はSX37より新しいことからⅢa面以上の遺構であると判断した。

#### P17・18 [第41図]

II-C区で検出した。P17は直径19cm程度の円形の遺構で、P18は長軸34cm、短軸29cmの楕円形の遺構である。P17はP18に先行し、P18の深さは37cm程度で、P17はP18よりやや浅い。

#### SK26~28 [第40~42図]

II-B区で検出した。SK26は長軸53cm、短軸40cmの楕円形を呈する。SK27は南北57cmのみ遺存していたがSK26と同様の遺構と推測される。どちらも埋土は暗褐色土に礫と黄褐色土が多く混じる。SK28は水道管(3)北壁で東西85cm遺存していた。埋土には礫が大量に混じり、底面には径26cmを超える礫が置かれるようにみられた。

#### SK29・30 [第41図]

SK29はII-C区、SK30はII-D区で検出した。SK29は長軸62cm、SK30は長軸91cm、短軸64cm程度の楕円形の遺構と推測される。

#### SX34・35 [第40・41図、第86図 2012-25・26:4層(SX34)、5層(SX35)]

II-A区SD06内で検出した。SX34は短軸88cm、長軸は92cm以上の楕円形状の遺構である。SX35は東西2.4m遺存していた。独立した遺構としたが、SD06-3埋土の一部である可能性も否定できない。その場合、SD06-3で埋土の可能性を指摘した42層は、Ⅲc層となる。

#### SX36 [第40~42図]

II-B区で検出した。ヒューム管や水道管(4)に大部分を切られ、形状等は不明である。

#### SK37 [第41図]

II-C・D区で検出した。長軸3.15m、短軸1.15mの溝状の遺構である。埋土はSK30と類似しており、黒褐色土に礫が多く混じる。

### I面もしくはⅢa~Ⅲb面の遺構

P19・P20、SK31~33・35・36、SX38~40は検出面がⅢb層であることから、SK34・37はⅢb面の遺構を切ることからⅢb面以降の遺構であると判断した。

#### P19 [第39図]

I-C区で検出した。東西41cm、南北38cmの円形の遺構である。

#### P20 [第41図]

II-C区で検出した。南北33cm、東西26cm程度の方形の遺構とみられる。

#### SK31 [第39図]

I-C区で検出した。長辺97cmの方形の遺構である。

#### SK32~37 [第41図]

II-D区で検出した。SK32は長軸116cmの楕円形状の遺構である。短軸は51cm遺存していた。軸はおおよそN-48°-Wを測る。SK33はSK32に切られる遺構で、東西72cmを測る。SK34は東西68cm、南北76cmを測る。SK35は円形とみられる遺構で、水道管(11)壁面で66cm遺存していた。SK36は長軸110cm、短軸78cmの楕円形の遺構である。軸はおおよそN-43°-Wを測る。SK37は長軸93cmの楕円形の遺構である。教育学部分館北壁下のトレント面で検出しており、深さ1m以上と推測される。

#### SX38 [第41図、第85図 2012-34:29-50層、第87図 2012-21-2:27-33層]

II-D区で検出した。多くの擾乱に切られ不明瞭であるが、東西5.4m以上、南北2.5m以上の方形に近いプランと推測される。深さは約94cm、底面標高で約42.27mを測る。埋土は黄褐色系の粘質土

が主体で10cm以上の礫が多く混じり、Ⅲb面の遺構埋土にやや似ている。

**SX39・40** [第41図、第87図 2012-21-2 : 34層(SX40)]

II-D区で検出した。SX39は東西136.5cm、南北107.4cm程度の方形の遺構である。軸はおおよそN-56°-Wを測る。SX40は幅89~97cmの溝状の遺構または方形の土坑である。深さは検出面から38cmを測る。

軸を西へ40~60°振る遺構や、またはそれに直交するような軸の遺構が多くみられるが、同一の時期を示すものなのか特定には至らなかった。

**I面もしくはⅢa~Ⅲc面の遺構**

P24・SX42はⅢc面で検出し、P23はⅢc層を切っていることから、P21・22はSX42より、SX41はⅢc面の遺構より新しいことからⅢc面以上の遺構であると判断した。

**P21・22** [第39図、第91図 2012-23-1 : 125・126層(P21)、124層(P22)]

I-C区西オイルタンク北壁で検出した。P21は南北38cm、東西47cm、P22は東西22.4cm、南北12cmを測る。

**P23** [第39図、第84図 2012-33 : 166層、2011-6-1・2 : 80層]

I-C区トレーナー5底面で検出した。下水管南壁で確認できた長さは東西42cmを測る。

**P24** [第41図]

I-C区土管(1)底面で検出した。東西29cmを測る。

**SX41** [第39図]

II-B・C区で検出した。東西幅53cmを測る。北側の水道管(2)・(3)南壁で確認できないことから、南北幅は1m以下と推測される。

**SX42** [第39図、第91図 2012-23-1 : 127層]

I-C区で検出した。1辺が108cmを超える方形の遺構と推測される。

**I面もしくはⅢa~Ⅳa面の遺構**

P25・26、SD16・17、SK38、SX44は検出面がⅣa層であり、SX43はSK38より新しいことからⅣa面以上の遺構であると判断した。

**P25・26** [第39図]

I-C区で検出した。P25は周囲を多くの遺構や搅乱に切られ、遺存状態が悪く南北32.4cmのみ検出した。P26は東西辺39cmの方形の遺構である。

**SD16** [第39図]

I-C区で検出した。幅25~28cm、軸はおおよそN-16°-Eを測る。

**SD17** [第41図、第87図 2012-21-2 : 87層]

II-D区で検出した。幅32cm程度、軸はおおよそN-44°-Wを測る。

**SK38** [第39図]

I-C区で検出した。充電所のコンクリート基礎に分断されているが、南北134cm程度、東西104cm程度の梢円状の遺構である。

**SX43・44** [第39図、第90図 2012-22 : 141層(SX44)]

I-C区で検出した。SX43は軸N-39°-Eの溝状遺構が南で東に折れるような遺構であるが、土坑状遺構とピットが重なり合った遺構の可能性もある。埋土はSK38に似た黒褐色土で黄褐色土と礫が少し混じる。SX44は方形の遺構とみられ、東西約89cm、南北約50cm検出した。

### I面もしくはⅢa～Ⅳb面の遺構

検出面がⅣb層であることから、Ⅳb面以上の遺構であると判断した。

P27 [第39図、第91図 2012-23-1 : 137～139層]

I-C区で検出した。平面ではごく僅かしか検出できなかつたが、東西44cmを超える遺構である。

SX45 [第39図、第90図 2012-21-1 : 140層]

I-C区で検出した。東西で31cmを検出したが、遺存状態が悪く詳細は不明である。

### I面もしくはⅢa～Ⅳc面の遺構

検出面がⅣc層であることからⅣc面以上の遺構であると判断した。

P28 [第41図]

II-C区下水管内で検出した。長軸45cm、短軸44cmの梢円形状の遺構である。埋土はVa層土やVb層土で、Ⅳc面の遺構埋土に類似する。

### I面もしくはⅢa～Va面の遺構

P29・SX46は検出面がVa層、SX47・48は検出面がVb層であることからVa面以上の遺構であると判断した。

P29 [第39図]

I-C区下水管内で検出した。長軸16cm、短軸12cmの梢円形の遺構である。埋土はVa層土が主体で、Vb層土が混じる。

SX46 [第39図]

I-C区下水管内で検出した。南北方向に伸びるラインを検出したが、部分的にしか検出できずブラン等は不明である。埋土はVb層土が主体で、Va層土が混じる。

SX47・48 [第41図]

II-D区で検出した。とともに不整形な遺構で、SX47は複数の遺構が重複している可能性もある。

### I面もしくはⅢb～Va面の遺構

検出面がVb層で、Ⅲb面の遺構に切られることからVa面以上Ⅲb面以下の遺構であると判断した。

P30 [第41図]

II-D区教育学部分館北壁下のトレンチ底面で検出した。直径30cm程度の遺構と推測される。

SX49 [第41図]

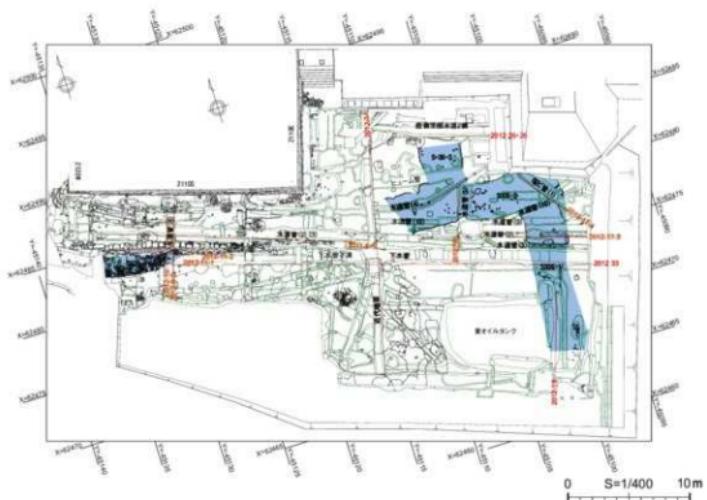
II-D区教育学部分館北壁下のトレンチ底面で検出した。東西に伸びるラインを確認したが、部分的な検出のため詳細は不明である。P30とともに教育学部分館北壁での立ち上がりは不明瞭で、確認できなかつた。

第12表 土層No.対応表1

面	水道管(2)(3)	近代石飾北壁	井	樹・蘿蔓改修後	南北割	鏡柱	西オイルタンク	トレントン	通用門	水道管(8)	下水管	近代塀裏	水道管(5)	教育学部分施 東オイルタンク	教育学部 木造2棟
	2011-7 2011-8 2012-8	2012-7-3 2012-7-21 2012-9-1	2012-6	2011-6-1 2011-6-2	2011-6-3 2012-21-2 2012-23-1 2012-23-2	2010-6	2012-14 2012-15-1 2012-15-2	2012-9-2 2012-11-1 2012-11-2	2012-33	2012-34	2012-18 2012-19-2 2012-21-3	2012-20 2012-21-2 2012-26			
I	16	3	1												
I	17	6													
I			13								68				
I			14								70				
I			30								73				
I			30								76				
I			31		37										
I											2	114			
I											3	115			
I											4	116			
II a	38	9													
II a	39	10													
II a	41		12												
II a	45		2												
II a	48		26												
II a	50		27												
II a	51		28												
II a	57		29												
II a	58		30												
II a	63		5												
II a	66	13	6												
II b	70		7												
II b	73		8												
II b	76		9												
II b	78		10												
II a-II c	88	21													
II c	98							44							
II c								46	71						
II c								48	72						
II c	104										20				
II c	105		13								21				
II c	106		14												
II c	107							51	68						
II c	108	32	15												
II c	109										23				
II c	118		69												
II c	122		70												
II c	124		71												
II c	125		72												
II c	126		73												
II c	127		74												
II c	129						117								
II c	133					75	143								
II c	139					26	157								
II c	142										24				
II c	144										22				
II c	146	33	16												
II c	147							52							
II c	148							52							
II c	149		17												
II c	152		18												
II c	157							53							
II c	158										28				
II c	159										29				
II c	161										30				
II c	162										36				
II c	163										38				
II c	164		34												
II c	165		35												
II c	166		36	19							40				
II c	167		37	20							41				
II c	168										42				
II c	170			21									19		8
I・II a・II b															

第13表 土層No.対応表2

面	木造管 (2)(3)	近代石塀 北壁	橋	橋・暗渠 改修直	南北柱列	縦柱	西オイル タンク	トレンチ 1	通用門	木造管(8)	下水管	近代塀張	木造管 (5)	教育学部分担 東オイルタンク	教育学部 木造2棟
2011-7 2012-8	2012-7-3 2012-9-1	2012-7-21 2012-9-1	2012-6	2011-6-1 2011-6-2	2011-6-3 2012-6-2	2012-21-2 2012-23-1 2012-23-2	2010-6 2012-1-1 2012-1-2	2012-14 2012-11-1 2012-11-2	2012-9-2 2012-11-1	2012-33	2012-34	2012-18 2012-20 2012-21-2 2012-26	2012-20 2012-21-3	2012-25 2012-26	
I - IIIa - IIIb												20		9	
I - IIIa - IIIb												21		10	
I - IIIa - IIIb												22		11	
I - IIIa - IIIb												23		13	
I - IIIa - IIIb												26		15	
I - IIIa - IIIb												29		27	
I - IIIa - IIIb												30		29	
I - IIIa - IIIb												32		30	
I - IIIa - IIIb												34		31	
I - IIIa - IIIb												37		32	
I - IIIa - IIIb												48		33	
I - IIIa - IIIb												49		48	
I - IIIa~IIIc					80							166			
I - IIIa~IVa					81										
I - IIIa~IVa					82							137			
IIIa												196		37	
IIIb												84		238	
IIIb												85		219	
IIIb												86		222	
IIIb												90		225	
IIIc												294		68	
IIIc												296		69	
IIIc												307		163	
IIIc												308		164	
IVa												384		97	
IVb												402		101	
IVb												404		114	
IVc												427		216	
IVc												428		144	
IVc												429		147	
IVc												433		149	
Va												441		153	



① II-A・B区 SD06-2・3(南から)



② II-A・B区 SD06(南東から)



③ 水道管(4)床面 SD06-2か(西から)



⑤ 下水管南壁土層断面 SD06-1(北から)



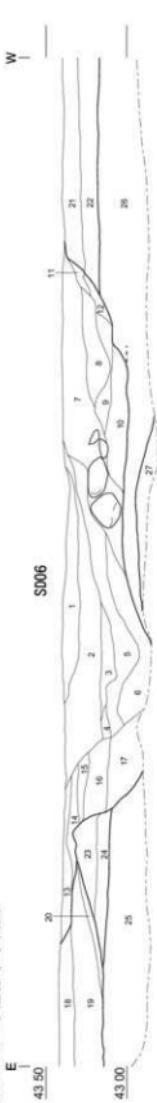
⑥ SX09 (北西から)



⑦ 水道管(9)・(10)周辺 SD06-2(北から)

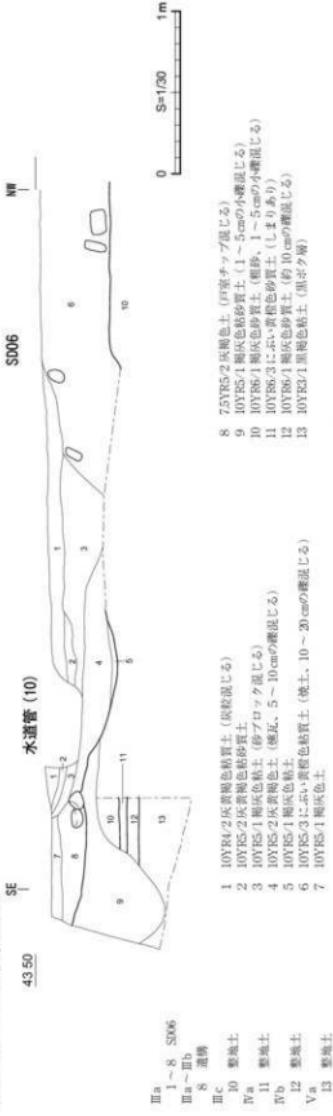
第80図 遺構平面図 SD06 (S=1/400)

2012-17-3 水道管(2) 南壁

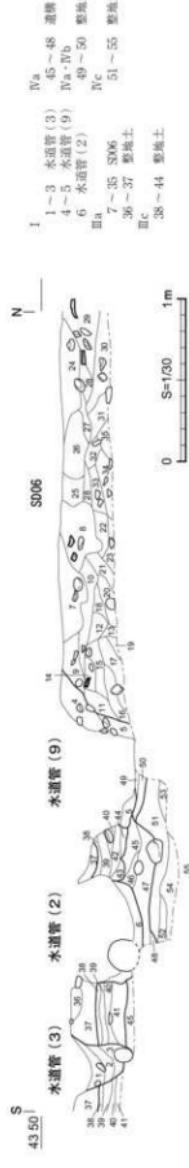


- IIIa  
1 ~ 17 SD06  
18 ~ 20 進跡  
21 ~ 24 整地土  
IIIc  
25 ~ 26 整地土  
Nb  
27 単地土  
9 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土 (砂質、粘性ややあり、1 ~ 5cmの小礫混じる)  
10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 10cmの礫混じる)  
11 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土 (5 ~ 10cmの礫混じる)  
12 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土 (砂質混じる)  
13 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (砂粒混じる)  
14 10<sup>7</sup>TR7/4 にい黄褐色砂質土  
1 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (砂質、粘性ややあり、1 ~ 5cmの小礫混じる)  
2 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 10cmの礫混じる)  
3 10<sup>7</sup>TR4/3 にい黄褐色粘土質土 (黒褐色粘土質土アロッケ足混じる)  
4 10<sup>7</sup>TR4/3 にい黄褐色粘土質土 (1層より砂質、1 ~ 5cmの礫混じる)  
5 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土 (砂質混じる)  
6 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (砂質混じる)  
7 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (約20cmの礫混じる)  
8 10<sup>7</sup>TR6/3 にい黄褐色砂質土 (礫混じる)  
9 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土  
10 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土質土 (5 ~ 10cmの礫混じる)  
11 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土 (砂粒混じる)  
12 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (砂粒混じる)  
13 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (砂粒混じる)  
14 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (砂粒混じる)  
15 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (1 ~ 5cmの小礫混じる)  
16 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (5 ~ 10cmの礫混じる)  
17 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (黄褐色粘土質土アロッケ足混じる)  
18 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 5cmの礫混じる)  
19 10<sup>7</sup>TR2/2 黄褐色土  
20 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (砂質混じる)  
21 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 5cmの礫混じる)  
22 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土  
23 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色砂質土  
24 10<sup>7</sup>TR4/2 黄褐色粘土質土 (砂質よりやや明るい)  
25 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (砂質混じる)  
26 10<sup>7</sup>TR5/2 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 10cmの礫混じる)  
27 10<sup>7</sup>TR6/3 黄褐色砂質土 (1層より砂質、1 ~ 10cmの礫混じる)

2012-17-4 塙ヒ管(1) 南西壁



第81図 土壌断面図 SD06 (S=1/30)

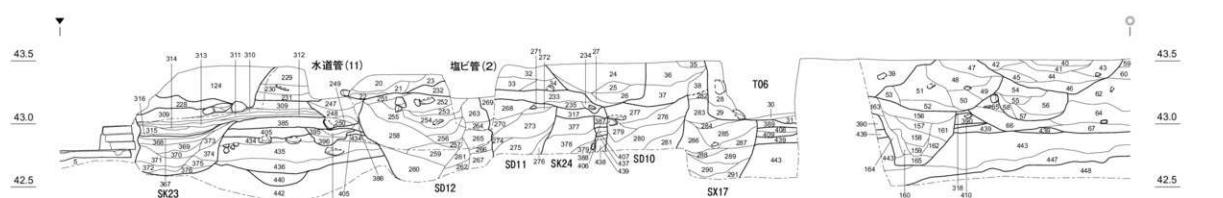
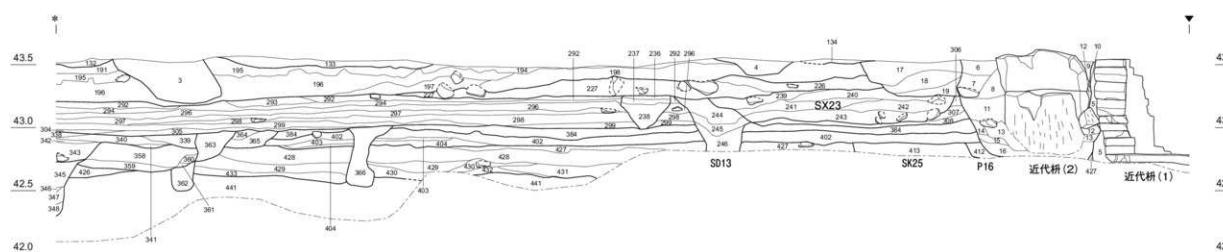
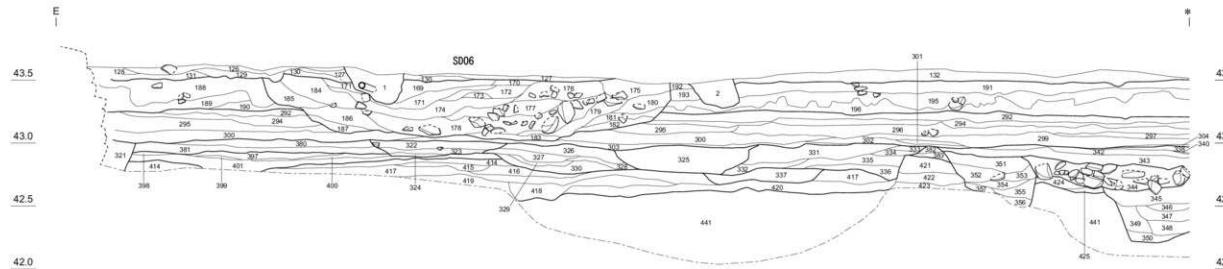


- 1 IORYE2/3 塩化物土 (しまりなし、IORYE4/1 黄褐色シルトチャップ、  
5~10cmの層、0.2~0.3cmの隙間混じる)、IORYE5/6 黄褐色粘土チャップ、  
2 IORYE2/3 塩化物土 (しまりなし、IORYE4/1 黄褐色シルトチャップ、  
0.2~0.3cmの隙間混じる)、  
3 IORYE2/3 塩化物土 (しまりなし、2~3cmの層、0.2~0.3cmの隙間  
混じる)  
4 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、2~5cmの層と土、0.2~  
0.3cmの隙間混じる)  
5 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、2~5cmの層と土、0.2~  
0.3cmの隙間、底面じる)、  
6 IORYE4/1 黄褐色シルトチャップ、  
7 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
プロック、1~10cmの層、底面じる)、  
8 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
0.3cmの隙間混じる)  
9 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
2~5cmの層、底面じる)、  
10 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ  
少量、10YR4/1 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
底面じる)  
11 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/1 黄褐色粘土チャップ、  
2~5cmの層少量、底面じる)  
12 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ、底面じる)  
13 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/3に近い黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ、底面じる)  
14 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ、底面じる)  
15 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
2~5cmの層少量、底面じる)  
16 IORYE5/6 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/3に近い黄褐色粘土チャップ、  
プロック少量混じる)  
17 IORYE4/1 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ  
少量、2~5cmの層と土、0.2~0.3cmの隙間混じる)  
18 IORYE5/6 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ、底少量混じる)

- 19 IORYE4/1 黄褐色粘土 (ややしまり、2~3cmの層と土、0.2~0.3cmの隙間混じる)  
20 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
IORYE4/1 黄褐色粘土チャップ、5~10cmの層と土、底面じる)  
21 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ少量混じる)  
22 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、2~5cmの層と土、0.2~  
0.3cmの隙間混じる)  
23 IORYE4/1 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
IORYE4/1 黄褐色粘土チャップ、5~10cmの層と土、底面じる)  
24 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、底面シルトチャップ少量、5~10  
cmの層、底面じる)、  
25 IORYE4/1 黄褐色土 (ややしまり、底面を隔てて)  
26 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、0.2cm~0.3cmの隙間、  
2~5cmの層少量、底面じる)、  
27 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、SYE2/2 水溶カリーブルドチャップ  
少量、底面シルトチャップ少量混じる)  
28 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ、1~2cmの層ごとに少量、底面  
じる)、  
29 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
5~10cmの層、底面じる)  
30 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
プロック、5~10cmの層、底面じる)  
31 IORYE4/1 黄褐色粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ少量、  
底面、底面シルトチャップ少量混じる)  
32 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR4/1 黄褐色粘土チャップ、  
底面シルトチャップ少量混じる)  
33 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
プロック少量混じる)  
34 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまり、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ、  
少量、底面を隔てて)  
35 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまる、IORYE4/1 黄褐色粘土チャップ  
大層、底面を隔てて)、  
36 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまる、2~3cmの層少量、底面  
色チャップ少量混じる)  
37 IORYE2/3 塩化物粘土 (ややしまる、2~5cmの層少量混じる)  
38 2012-33 198cmの位置に、  
39 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
40 IORYE2/3 塩化物粘土 (しまる、IORYE4/1 黄褐色粘土チャップ、  
2~5cmの隙間少量、底面を隔てて)  
41 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
42 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
43 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
44 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
45 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、IORYE5/6 黄褐色粘土チャップ少量  
少量混じる)  
46 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チャップ少量  
少量混じる)  
47 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じる)  
48 IORYE4/1 黄褐色粘土 (しまる、IORYE5/6 黄褐色粘土チャップ少量  
2~3cmの層少量、底面を隔てて)  
49 IORYE5/6 黄褐色粘土 (しまる、0.2~0.3cmの隙間少量混じ  
る)  
50 IORYE5/3に近い黄褐色粘土 (しまる、底面を隔てて)  
51 IORYE5/6 黄褐色粘土 (しまる、底面を隔てて)  
52 IORYE2/3 塩化物粘土 (しまる、2~5cmの層、半  
プロック少量混じる)  
53 IORYE5/6 黄褐色粘土 (しまる、底面を隔てて)  
54 IORYE2/3 塩化物粘土 (しまる、底面を隔てて)  
55 IORYE5/4に近い黄褐色粘土 (しまる、底少量混じる)

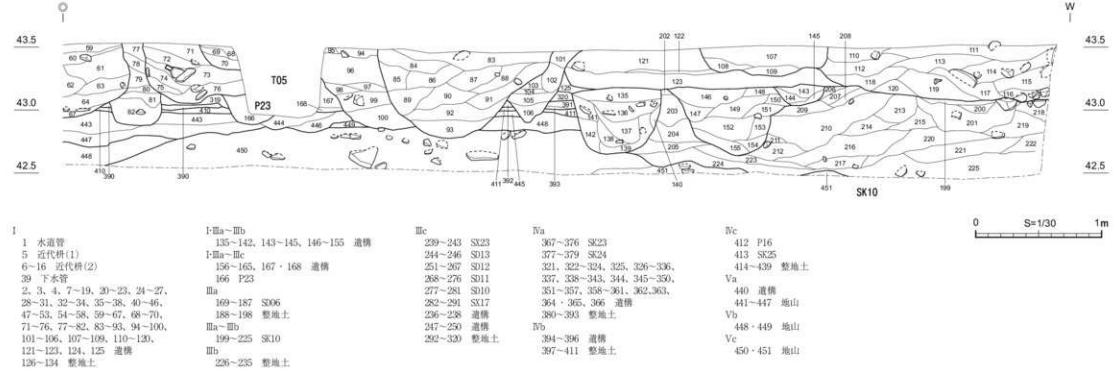
第82回 土層断面図 水道管(5) (S=1/30)

2012-33 下水管南壁 1



第83図 土層断面図 下水管南壁 1 (S=1/30)

0 S=1/30 1m



第84図 土層断面図 下水管南壁2 (S=1/30)

- 69) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックごく少量、1cm以下の繩・灰・燒土少し混じる)  
70) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・約3cmの繩少し、約0.5cmの繩多く混じる)  
2011-6-1・2: 3回に対応
- 71) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・灰・焼土少し、約0.5cmの繩多く混じる)  
72) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少し、約0.5cmの繩多く、1～3cmの繩やや多く混じる)  
73) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・約0.5cmの繩多く、1～12cmの繩やや多く、灰少し、種々瓦・赤土窓石混じる) 2011-6-1・2: 3回に対応  
74) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少量、約0.5cmの繩少し、1～6cmの繩多く混じる)  
75) 10YR3-1黒褐色粘質土(粘性中、しまりや密、10YR4/4褐色シリトブロックごく少量、約0.5cmの繩少し、灰やや多く混じる)  
76) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・約0.5cmの繩多く、1～13cmの繩やや多く混じる)  
2011-6-1・2: 3回に対応  
77) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/6褐色シリトブロック・約1cmの繩・灰少し混じる)  
78) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/6褐色シリトブロック大量、0.5～1cmの繩・灰・焼土少し混じる)  
79) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6褐色シリトブロック多く、10YR2/1黒色シリトブロック・0.5cm以下の繩やや多く、灰少し混じる)  
80) 10YR4/6褐色シリトブロック(粘性小、しまりや密、やや軟い、10YR3-2黒褐色粘質土・粗粒土少し、從量混じる)  
81) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性中、しまりや密、やや軟い、10YR4/6褐色シリトブロック少し、10YR2/1黒色シリトブロック・從量混じる)  
82) 10YR2/1黒色シリトブロック(粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR4/6褐色シリトブロック大量、1～10cmの繩・灰・燒土少量混じる)  
83) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性中、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック少量、約0.5cmの繩多く、1cm以下の繩やや多く混じる)  
84) 10YR3-2黒褐色粘質土(粘性大、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・焼少し、約0.5cmの繩・1～5cmの繩多く混じる)  
85) 10YR4/4黒褐色シリトブロック(粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR3-1黒褐色粘質土少しだけ混じる)  
86) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック・焼少し、1～2cmの繩多く混じる)  
87) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりや密、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・灰少し、1～5cmの繩やや多く混じる)  
88) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・焼少し、1～3cmの繩少し混じる)  
89) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性大、しまりやや粗い、やや硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少量、1～3cmの繩・灰・燒土少し混じる)  
90) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少量、約0.5cmの繩大量、1～3cmの繩多く、灰少し混じる)  
91) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック・1～3cmの繩・灰・燒土少し、約0.5cmの繩多く混じる)  
92) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR4/4褐色シリトブロック少し、10YR2/1黒色シリトブロックごく少量、約0.5cmの繩・1～5cmの繩多く混じる)  
93) 10YR3-3暗褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、やや软い、10YR4/4褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック多く、1～8cmの繩少し混じる)  
94) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック大量、0.5～1cmの繩少し混じる)  
95) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック多く、1～8cmの繩少し混じる)  
96) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロックや多く、10YR2/1黒色シリトブロック・1～2cmの繩・灰・燒土少し混じる)  
97) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりや粗い、やや硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック少し、1～3cmの繩少し混じる)  
98) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりや密、硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック少し、1～5cmの繩やや多く、灰量少し混じる)  
99) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性大、しまりや粗い、軟い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック・10YR2/1黒色シリトブロック少量、10cm以下の繩多く混じる)
- 100) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック多く、10YR2/1黒色シリトブロック大量、3cm以下の繩少し混じる)  
101) 10YR3/3暗褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR2/1黒色シリトブロック少し、1～10cmの繩やや多く、燒土混じる)  
102) 10YR4/4褐褐色粘質土(粘性大、しまりやや粗い、軟い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック・10YR2/3黒褐色シリトブロック多く混じる)  
103) 10YR4/2暗褐色粘質土(粘性中、しまりや粗い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック少し、1～4cmの繩・灰・燒土少し混じる)  
104) 10YR4/2灰褐色粘質土(粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック少し混じる)  
105) 10YR4/3灰褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR6/6明黃褐色シリトブロック少し混じる)  
106) 10YR4/2灰褐色粘質土(粘性大、しまりや密、やや軟い、10YR6/6明揚褐色シリトブロック・約0.5cmの繩大量、約3cmの繩少し混じる)  
107) 10YR3/2暗褐色粘質土(粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR6/6明揚褐色シリトブロック少し、燒土少しだけ混じる)  
108) 10YR3/2暗褐色粘質土(粘性大、しまりやや密、硬い、10YR5/6明揚褐色シリトブロック少し、燒土少しだけ混じる)  
109) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性中、しまりや粗い、軟い、1.7YS5/6明揚褐色シリトブロック・約1cmの繩・灰・燒土少しだけ混じる)  
110) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや粗い、軟い、2.5YS6/3にぶい黄色粘土・1～6cmの繩・灰やや多く混じる)  
111) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、やや軟い、2.5YS6/3にぶい黄色粘土・1～20cmの繩少しだけ混じる)  
112) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、软い、10YR5/6明揚褐色粘土・灰やや多く混じる)  
113) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、やや軟い、10YR5/6明揚褐色粘土・灰やや多く混じる)  
114) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、软い、10YR5/6明揚褐色粘土・灰やや多く混じる)  
2012-9-2・2月: 对応  
115) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや粗い、軟い、5～10cmの繩多く混じる)  
116) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや粗い、軟い、約10cmの繩大量混じる) 2012-9-2・3月: 对応  
117) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、やや软い、2～20cmの繩少しだけ混じる)  
118) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性中、しまりや密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土・灰・燒土少しだけ混じる)  
119) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりやや粗い、软い、10YR5/6黄褐色粘土・灰やや多く混じる)  
120) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性中、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色粘土大量、1～2cmの繩・灰少しだけ混じる)  
121) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土・灰・燒土少しだけ混じる)  
122) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性大、しまりや密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土やや多く、約1cmの繩ごく少量混じる)  
123) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性小、しまりや密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土多く、1～3cmの繩・灰少しだけ混じる)  
124) 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シリトブロック少しだけ、1～10cmの繩大量、燒土少しだけ混じる) 125) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR5/6黄褐色シリトブロックごく少量、10YR3/1黒褐色粘質土ブロック大量、灰少しだけ混じる)  
126) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色粘土・1～12cmの繩大量、灰少しだけ混じる)  
127) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまりや粗い、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック大量、3cm以下の繩少しだけ混じる)  
128) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、2.5YS6/6明揚褐色シリトブロック少し、1～3cmの繩多く混じる)  
129) 10YR4/4明揚褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少しだけ、0.5cmの繩・1～3cmの繩・灰分多く混じる)  
130) 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少しだけ、0.5cmの繩・灰・灰分多く混じる)  
131) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、10YR4/4褐色シリトブロック少しだけ、0.5cmの繩・約1cmの繩少しだけ混じる)  
132) 10YR4/2灰褐色粘質土(粘性小、しまりや密、硬い、2.5YS5/3明揚褐色シリトブロック少し、1～5cmの繩大量、約0.5cmの繩多く、灰少しだけ混じる、12月と同年層)  
133) 10YR3/2黑褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、硬い、2～10cmの繩や多く、灰少しだけ混じる)  
134) 10YR3/2黒褐色粘質土(粘性中、しまり密、硬い、2.5YS6/6にぶい黄色粘土(根鉢)ブロック・10YR2/1黒色シリトブロック大量、1～5cmの繩少しだけ混じる)

- 125 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・4～7cmの繩・粗砂多く、炭少し混じる）
- 126 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや軟い、10YR4/4褐色シルトブロック・炭少し、粗砂多く、約1cmの繩、5～9cmの繩大量混じる）
- 127 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・1～2cmの繩多く、粗砂大量、炭少しが混じる）
- 128 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック少し、3～5cmの繩大量、粗砂多く混じる）
- 129 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック少し、1～5cmの繩・粗砂多く、炭少しが混じる）
- 130 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・1～3cmの繩・炭少しが混じる）
- 131 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや軟い、10YR4/4褐色シルトブロック・3cm以上の繩少しが混じる）
- 132 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・炭少しが、5～10cmの繩少しが混じる）
- 133 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・炭少しが、1～7cmの繩や多くの炭少しが混じる）
- 134 10YR2/3黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6褐色粘土ごく少量、炭少しが混じる）
- 135 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、軟い、10YR4/6褐色粘土少しが混じる）
- 136 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、1～3cmの繩・炭少しが混じる）
- 137 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、1～3cmの繩・炭少しが混じる）
- 138 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック少し混じる）
- 139 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック多く、約1cmの繩大量混じる）
- 140 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまりやや粗い、軟い、10YR4/4褐色シルトブロック・3cm以上の繩少しが混じる）
- 141 10YR2/3黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6褐色粘土少しが混じる）
- 142 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・粗砂多く、1～7cmの繩や多くの炭少しが混じる）
- 143 10YR2/3黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、軟い、10YR4/6褐色粘土少しが混じる）
- 144 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6褐色粘土ごく少量、炭少しが混じる）
- 145 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、軟い、10YR4/6褐色粘土少しが混じる）
- 146 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、1～3cmの繩・炭少しが混じる）
- 147 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、1～3cmの繩・炭少しが混じる）
- 148 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック少し混じる）
- 149 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロックごく少量、25Y3/1黒褐色粘質土ブロック・炭少しが、約3cmの繩多く少しが混じる）
- 150 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、約1cmの繩少しが混じる）
- 151 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック大量、約1cmの繩少しが混じる）
- 152 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、軟い、10YR4/4褐色シルトブロック・粗砂大量、約1cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 153 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック大量、1～2cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 154 10YR4/3/にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR4/4褐色シルトブロック多く、約1cmの繩少しが混じる）
- 155 10YR2/1黒褐色土（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、約0.5cmの繩少しが混じる）
- 156 10YR2/1黒褐色土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 157 10YR2/1黒褐色土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 158 10YR2/1黒褐色土（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、約0.5cmの繩少しが混じる）
- 159 10YR2/1黒褐色土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少しが混じる）
- 160 10YR2/1黒褐色土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 161 10YR2/1黒褐色土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 162 10YR2/1黒褐色土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 163 10YR2/1黒褐色土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し、2cm以下の繩少しが混じる）
- 164 10YR2/1黒褐色土（粘性中、しまり密、软い、10YR5/6黄褐色シルトブロックや多く混じる）
- 165 10YR2/1黒褐色土（粘性小、しまりやや密、软い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 166 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまりやや粗い、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック・1cm以下の繩多く、炭・燒土少しが混じる）
- 167 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック・3cm以下の繩少しが、約0.5cmの繩や多く混じる）
- 168 10YR2/1黑色シルト（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量混じる）
- 169 10YR2/1黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3/にぶい黄褐色粘質土ブロック・1～5cmの繩・炭少しが、10YR2/1黑色シルトブロック多く混じる）
- 170 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/3/にぶい黄褐色粘土ブロック・10YR2/1黑色シルトブロック・1cm以下の繩少しが、炭や多くの炭少しが混じる）
- 171 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/3/にぶい黄褐色粘土ブロック・1～3cmの繩・炭多く、10YR2/1黑色シルトブロック多く混じる）
- 172 10YR2/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3/にぶい黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黑色シルトブロック・1～2cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 173 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、174層土ブロック・約2cmの繩少しが、炭多く混じる）
- 174 10YR4/1炭黑色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、1～3cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 175 10YR2/2黒褐色砂質土（やや細砂、粘性なし、しまり密、やや軟い、25Y4/3オーリー褐色砂質土（繩砂）少量、0.5cm以下の繩・炭大量、炭多く、燒土少しが混じる）
- 176 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色砂質土（繩砂）ブロック少量、3～10cmの繩大量・炭多く、燒土少しが混じる）
- 177 10YR4/1炭黑色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR4/4褐色砂質土（繩砂）ブロック・燒土少しが、炭大量混じる）
- 178 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、25Y7/2灰黃色粘土ブロックごく少量、5～20cmの繩大量・炭多く、赤玉空混じる）
- 179 10YR4/1炭黑色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、25Y7/2灰黃色粘土ブロック・炭少しが、2～15cmの繩少しが混じる）
- 180 10YR4/2灰黃色粘土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4/にぶい黄褐色粘土ブロック・炭少しが、10YR4/1炭黑色粘土・2～7cmの繩多く混じる）
- 181 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、10YR5/4/にぶい黄褐色粘土ブロックごく少量、10YR4/1褐色粘土多く、1～5cmの繩少しが混じる）
- 182 10YR4/1褐色粘土（粘性中、しまり密、やや硬い、25Y6/3/にぶい黄褐色シルトブロック多く、約2cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 183 10YR4/1褐色粘土（粘性中、しまり密、やや硬い、25Y6/3/にぶい黄褐色シルトブロック・約2cmの繩少しが、粗砂大量混じる）
- 184 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR3/2黒褐色粘質土ブロック・1～5cmの繩大量・炭多く混じる）
- 185 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/1褐色粘土シルトブロック・2～6cmの繩・炭・燒土少しが混じる）
- 186 10YR4/1褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR3/2黒褐色粘質土ブロック・1～10cmの繩多く、炭や多く混じる）
- 187 10YR4/1褐色粘土（やや細砂、粘性なし、しまり密、硬い、10YR3/2黒褐色粘質土ブロック少しが、1～3cmの繩多く、炭少しが混じる）
- 188 10YR3/1黒褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルト小ブロック・0.5cmの繩多く、10YR2/1黑色シルトブロック少量、5～9cmの繩や多く、炭・燒土少しが混じる）
- 189 10YR4/2灰黃色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色粘土ブロック・1～5cmの繩・炭・燒土少しが混じる）
- 190 10YR4/1褐色粘土（粘性中、しまり密、硬い、0.5～3cmの繩少しが、炭少しが混じる）
- 191 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック・2～10cmの繩多く、炭・燒土少しが混じる）
- 192 10YR4/1褐色粘土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・約5cmの繩・炭少しが、約0.5cmの繩大量混じる）
- 193 10YR4/1褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・約5cmの繩少しが、約0.5cmの繩大量混じる）
- 194 10YR4/1褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、やや硬い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、10YR4/4褐色砂質土（繩砂）・山砂・25Y6/2灰黃色粘土多く、約1cmの繩や炭少しが混じる）
- 195 10YR3/2黒褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまり密、硬い、25Y6/4/にぶい黄褐色シルトブロックや多く、1～5cmの繩大量混じる）
- 196 10YR4/2灰黃色粘質土（粗砂・山砂・25Y6/4/にぶい黄褐色シルト（粘性中、しまり密、やや軟い、10YR4/2灰黃色粘質土（粗砂）・1～5cmの繩多く混じる）

2011-6-1・2・80層に対応

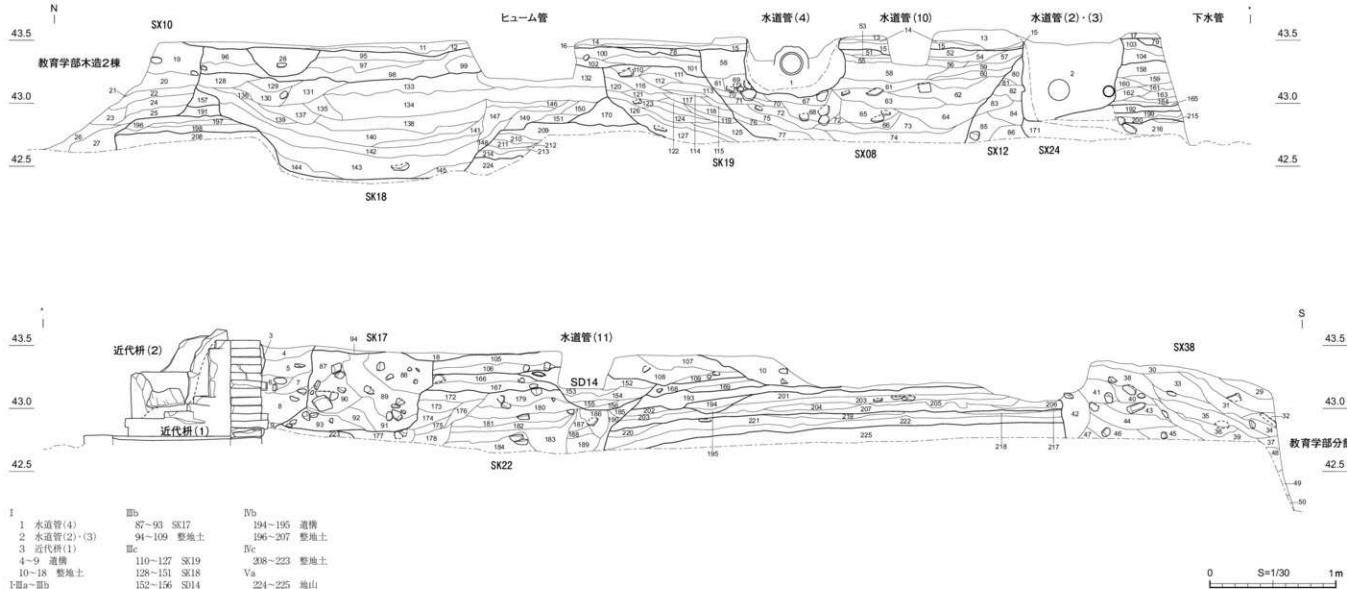
- 197 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、5Y7/3 黄褐色粘土）ロック大量、10YR2/1黒色シルトブロック少し。3~5 cmの繊多く混じる）
- 198 25Y7/3にぶい黒褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/1褐灰色粘質土（粗砂多）・2~7 cmの繊少し混じる）
- 199 10YR3/2褐褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い）
- 200 10YR3/2褐褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、約4 cmの繊混じる）
- 201 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6細粒粘土・3~15cmの繊やや多く混じる）
- 202 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 褐色シルトブロック・約1 cmの繊少し混じる）
- 203 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 褐色シルトブロック多く、約1 cmの繊、從少混じる）
- 204 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10TR4/4 褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロックごく少量、約1 cmの繊少し、粗砂多量混じる）
- 205 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 褐色シルトブロック大量、1~5 cmの繊、炭土、燒土少し混じる）
- 206 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、10YR4/6細粒色粘土）
- 207 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック少し、粗砂大量、炭、燒土ごく少量混じる）
- 208 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、軟い、25Y7/4浅黄色シルトブロック大量混じる）
- 209 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや軟い、25Y6/4にぶい黄褐色シルトブロック大量、1 cm以下の繊、炭少し混じる）
- 210 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・約0.5cmの繊大量、1~5 cmの繊、炭少し混じる）
- 211 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック少し混じる）
- 212 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや粗い、やや軟い、10YR6/6細粒褐色粘土ブロック・約0.5cmの繊・粗砂多く、炭少し混じる）
- 213 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性小、しまり粗い、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・約3 cmの繊多く、粗砂多量混じる）
- 214 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや硬い、25Y7/6灰黄褐色シルトブロック・鉢分、粗砂多く、約3 cmの繊、炭少し混じる）
- 215 10YR3/2褐褐色粘質土（粘性大、しまりやや粗い、やや硬い、10YR4/6褐色粘土ブロック大量、10YR3/1黑褐色シルトブロック多く、炭、燒土少し、約2 cmの繊少量混じる）
- 216 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR5/6褐色粘土ブロック・約1 cmの繊、鉢分多く、炭少し混じる）
- 217 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック・炭少し、1~5 cmの繊、鉢分多く混じる）
- 218 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・炭少し、5~10 cmの繊少し、鉢分多く混じる） 2012.9.2~8.8対応
- 219 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・鉢分少し、2~10 cmの繊少し、鉢分少し混じる） 2012.9.2~8.8対応
- 220 10YR3/2褐褐色粘土シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・1~7 cmの繊大量、粗砂、鉢分多く、炭少し混じる）
- 221 10YR4/2灰黄褐色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック少量、1~3 cmの繊、炭少し、鉢分多く混じる）
- 222 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~3 cmの繊、炭少し混じる） 2012.9.2~8.8対応
- 223 25Y6/3黄褐色シルト（粘性小、しまり密、やや硬い、約3 cmの繊少し混じる）
- 224 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、25Y6/3にぶい黄褐色シルトブロック大量、1~4 cmの繊多く混じる）
- 225 10YR4/1灰褐色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックごく少量、1~2 cmの繊、炭少し）
- 226 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・10YR2/1黑色シルトブロックや多く、198層土ブロック少し、1~9 cmの繊多く混じる）
- 227 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、25Y6/3にぶい黄褐色シルト少し、粗砂大量、15cm以下の繊多く混じる）
- 228 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・焼土、炭少し、1~5 cmの繊多く混じる）
- 229 10YR3/3暗褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・1~5 cmの繊大量、炭、燒土少し、混じる）
- 230 10YR3/3暗褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・炭少し、1~10 cmの繊多く混じる）
- 231 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR3/3暗褐色粘質土ブロック多く、1~5 cmの繊や多く混じる）
- 232 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・炭少し、1~10 cmの繊多く混じる）
- 233 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1黑色シルトブロック・炭少く、約0.5cmの繊少し、燒土少量混じる）
- 234 10YR3/2暗褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック・1~5 cmの繊多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量、炭少し混じる）
- 235 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、0.5~1 cmの繊大量混じる）
- 236 10YR4/1褐灰色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック多く、10YR5/6黄褐色シルトブロックごく少量、粗砂大量混じる）
- 237 10YR4/2灰黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック少し、10YR5/6黄褐色シルトブロック・約1 cmの繊少し、粗砂大量混じる）
- 238 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性小、しまり粗い、軟い、10YR2/1黑色シルトブロック・1~3 cmの繊、粗砂大量、25Y6/2灰黄褐色シルトブロック少し混じる）
- 239 10YR4/1褐灰色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、5Y6/3オリーブ 黄褐色シルトブロック・2~12 cmの繊少し混じる）
- 240 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロックや多く、1~8 cmの繊少し混じる）
- 241 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性中、しまり密、軟い、10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロックごく少量、1~6 cmの繊少し混じる）
- 242 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、軟い、10YR2/1黑色シルトブロック・10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック少し、1~5 cmの繊、炭やや多く混じる）
- 243 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、粗砂大量、1~13 cmの繊大量混じる）
- 244 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、硬い、2.5Y5/4 黄褐色シルトブロック・10YR2/1黑色シルトブロック大量、1~6 cmの繊の繊少し混じる）
- 245 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、25Y5/4灰褐色シルトブロック・10YR2/1黑色シルトブロック多く、約1 cmの繊やや多く混じる）
- 246 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまりやや密、硬い、2.5Y5/4灰褐色シルトブロック少し、10YR3/1黑褐色粘質土ブロック・2~6 cmの繊少し混じる）
- 247 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・炭、燒土少し、1~5 cmの繊多く混じる）
- 248 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・2 cm以下の繊少量、炭、燒土少し混じる）
- 249 10YR5/6黄褐色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR2/1黑色シルトブロックごく少量、約2 cmの繊ごく少量混じる）
- 250 10YR2/2黑褐色粘土シルト（粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロックやや多く、約10 cmの繊混じる）
- 251 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルト小ブロック多く、25Y5/3黄褐色シルトブロック少量、約5 cmの繊少し混じる）
- 252 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・5~12 cmの繊多く、炭少し混じる）
- 253 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・1~4 cmの繊、炭少し混じる）
- 254 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し、1~10 cmの繊少し、炭多く混じる）
- 255 10YR3/2黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックやや多く、10YR2/1黑色シルトブロック多く、1~2 cmの繊、炭少し混じる）
- 256 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルト小ブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量、炭少し混じる）
- 257 10YR3/2黑褐色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し、10YR2/1黑色シルトブロック、粗砂多く、炭少し混じる）

- 250 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまりや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・10YR2/1黒色シルトブロック大量、1～2cmの繩・減少し混じる）
- 259 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1黑色色シルトブロック多く、1～5cmの繩・焼土少し、灰やや多く混じる）
- 260 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまりや密、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黒色シルトブロック・3cm以下の繩・泥・焼土少し混じる）
- 261 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・2cm以下の繩少し、10YR2/1黑色色シルトブロック多く、灰少量混じる）
- 262 10YR2/1黒色シルト（粘性中、しまり密、軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、約1cmの繩・灰少し混じる）
- 263 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1黑色色シルトブロック少し、1～5cmの繩ごく少量、灰・焼土少な量混じる）
- 265 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色色シルトブロックごく少量、約3cmの繩少し、灰少量混じる）
- 266 10YR3/1黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色色シルトブロック多く、燒土・灰少しだけ混じる）
- 267 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックごく少量混じる）
- 268 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色色シルトブロックごく少量、約3cmの繩少し、灰少量混じる）
- 269 10YR4/2灰黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック多く、3～2cmの繩・灰・焼土少し混じる）
- 270 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1繩少し混じる）
- 271 25%6/4にぶい黒褐色砂質土（やや粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黒褐色粘質土ブロック多く、1～2cmの繩少し混じる）
- 272 10YR3/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し、10YR2/1黑色色シルトブロック大量、約2cmの繩少量混じる）
- 273 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまりやや密い、やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック・10YR3/2黒褐色粘質土ブロック大量、1cm以下の繩少しだけ混じる）
- 274 10YR2/1黑色色シルト（粘性中、しまりやや粗い、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック多く、10YR3/2黒褐色粘質土ブロック大量、焼土少し混じる）
- 275 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、10YR3/2黒褐色粘質土ブロック少し、灰少し混じる）
- 276 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、10YR3/2黑褐色粘質土ブロック・焼土少し混じる）
- 277 10YR3/1黒褐色シルト（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘質土ブロック・10YR2/1黑色色シルトブロック多く、約13cmの繩混じる）
- 278 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、軟い、10YR5/6黄褐色粘質土ブロックや多く、10YR3/1黒褐色シルト大量、約0.5cmの繩少し混じる）
- 279 10YR3/2黒褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロックや多く、10YR3/1黑褐色粘質土ブロック多く、約5cmの繩混じる）
- 280 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黑色色シルト・1～2cmの繩少し混じる）
- 281 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1黑色色シルト・1～2cmの繩少し混じる）
- 282 10YR3/3暗褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック・約1cmの繩少し、10YR3/1黑褐色粘質土ブロックごく少量混じる）
- 283 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック・1～3cmの繩多く、10YR3/3暗褐色粘質土ブロック少し、灰少量混じる）
- 284 10YR3/3暗褐色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・10YR2/1黑色色シルト・1～2cmの繩少し混じる）
- 285 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量、1～5cmの繩少し混じる）
- 286 10YR2/1黒褐色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック・10YR2/1黑色色シルトブロック大量、約1cmの繩少量混じる）
- 287 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック多く、約1cmの繩少量混じる）
- 288 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量混じる）
- 289 10YR2/2黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黑色色シルトブロック多く混じる）
- 290 10YR2/2黒褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黑色色シルトブロック少し、1～5cmの繩多く混じる）
- 291 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック少し、10YR3/3暗褐色粘土多く混じる）
- 292 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、0.5～2cmの繩大量、灰ごく少量混じる）
- 293 10YR4/1灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまりやや密、やや軟い、10YR2/1黑色色砂質土（粗緻）ブロック・1～3cmの繩多く混じる）
- 294 10YR4/2灰黒褐色砂質土（やや粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、1～3cmの繩多く混じる）2012/20～2012/21-2-3: 68mmに対応
- 295 10YR4/1灰黒褐色砂質土（やや粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、0.5～3cmの繩大量、灰ごく少量混じる）
- 296 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、1～5cmの繩大量、灰ごく少量混じる）2012/20～2012/21-2-3: 69mmに対応
- 297 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、2.55/3-5灰黒褐色砂質土（粗緻）ブロック多く、1～10cmの繩大量混じる）
- 298 2.55/4-2暗灰黄色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、やや軟い、1cm以下の繩多く、5～10cmの繩・灰少し混じる）
- 299 10YR4/2灰黒褐色砂質土（やや粗緻、粘性小、しまり密、やや軟い、1～3cmの繩多く、灰少し混じる）
- 300 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻）・0.5～1cmの繩大量、2～6cmの繩・焼分多く混じる）第10回P56 (201203-06) 出土
- 301 10YR4/1灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、やや軟い、約3cmの繩ごく少量混じる）
- 302 2.55/4-1灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、软い、2～5cmの繩ごく少量混じる）
- 303 10YR2/1黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、软い、10YR2/1黑色色シルトブロック少し、粗緻大量、1～5cmの繩やや多く混じる）
- 304 10YR2/1黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、软い、1～5cmの繩多く混じる）
- 305 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、软い、粗緻大量、1～5cmの繩少しだけ混じる）
- 306 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、粗緻大量、2cm以下以下の繩多く混じる）
- 307 10YR4/2灰黒褐色砂質土（粘性小、しまり密、软い、粗緻大量、2cmの繩少し混じる）2012/4～16mmに対応
- 308 10YR5/6黄色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/2灰黒褐色砂質土（粗緻）大量、1～3cmの繩やや多く混じる）2012/4～16mmに対応
- 309 10YR2/1黒褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・焼土、灰少し、1～17cmの繩大量混じる）
- 310 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（やや粗緻、粘性なし、しまり密、硬い、10YR4/1にぶい黄褐色砂質土（粗緻）・1～3cmの繩少し、灰・焼土やや多く混じる）
- 311 10YR5/6黄褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、1～3cmの繩やや多く混じる）
- 312 10YR2/1黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し、約3cmの繩ごく少量混じる）
- 313 10YR5/3にぶい黄褐色砂質土（粗緻、粘性なし、しまり密、软い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、1～3cmの繩少し混じる）
- 314 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少し混じる）
- 315 10YR5/6黄褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色砂質土ブロック少し、0.5～3cmの繩やや多く、焼分多く混じる）
- 316 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（やや粗緻、粘性なし、しまり密、软い、約1cmの繩ごく少量混じる）
- 317 10YR4/4褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/2灰黒褐色シルト小ブロック多く、灰やや多く混じる）
- 318 10YR4/4褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1黑色色シルト少しだけ混じる）
- 319 10YR2/1黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・10YR2/1黑色色シルト少しだけ混じる）

- 320 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く混じる)
- 321 10YR4/4にぶい黄褐色粘質土(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色砂質土アロック・0.5~2cmの礫多く、粗砂大量混じる)
- 322 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック・10YR2/1黒色シルトブロック・1~5cmの礫多く、灰少し混じる)
- 323 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性小、しまり密、硬い、砂粒大量、1cm以下の礫多く、灰少し混じる)
- 324 10YR2/1黑色粘質土(粘性中、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色粘土ブロック・1~3cmの礫少し混じる)
- 325 10YR2/1黒褐色粘質土(粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黒色シルトブロック多く、1~5cmの礫や多く、灰少し混じる)
- 326 10YR2/4灰黃褐色粘質土(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1黒色シルトブロック少し、0.5~3cmの礫少量混じる)
- 327 25Y4/2暗灰黃褐色砂質土(粗鈍、粘性なし、しまり密、軟い、5Y5/3に灰~灰褐色砂質土(粗鈍)、0.5cm以下の礫量、1~6cmの礫少し混じる)
- 328 10YR3/2黑褐色粘土(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック・10YR2/1黑色シルトブロック大量、約1cmの礫少し混じる)
- 329 10YR3/2黑褐色砂質土(粗鈍、粘性なし、しまり密、軟い、10YR2/1黑色シルトブロック少、1~2cmの礫少量混じる)
- 330 10YR2/1黑色シルト(粘性中、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック少、1~2cmの礫少し混じる)
- 331 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性中、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土大量、10YR5/6黄褐色シルトブロック・灰多く、1~3cmの礫少し混じる)
- 332 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑褐色砂質土大量、10YR5/6黄褐色シルトブロック・灰多く、約0.5cmの礫少量混じる)
- 333 10YR2/1黑色粘質土(粘性中、しまりや粗い、軟い、10YR4/4褐色シルトブロック大量、10YR2/1黑色シルト小ブロック多く混じる)
- 334 10YR2/1黑色粘質土(粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色砂質土(細鈍)・灰少し混じる)
- 335 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルト・3~5cmの礫・鉄分多く、灰少し混じる)
- 336 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック大量、1~10cmの礫少し混じる)
- 337 10YR2/1黑色粘土(粘性大、しまり密、硬い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック・約1cmの礫少し混じる)
- 338 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、灰土、灰少し混じる)
- 339 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック大量混じる)
- 340 10YR3/1黑色シルト(粘性中、しまり密、硬い、25Y5/3黄褐色シルトブロック・粗鈍多く、約1cmの礫少し混じる)
- 341 10YR4/2黄褐色シルト(粘性小、しまり難い、軟い、25Y5/3黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量混じる)
- 342 10YR2/1黑色シルト(粘性小、しまり密、軟い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、粗砂大量混じる)
- 343 10YR4/2灰黃褐色シルト(粘性小、しまり密、硬い、25Y5/3黄褐色砂質土(細鈍)・10YR2/1黑色シルト・灰多く、2~6cmの礫少し混じる)
- 344 10YR4/1灰色シルト(粘性小、しまり密、やや硬い、25Y7/4浅黄色シルトブロック・粗鈍少し混じる)
- 345 10YR4/2灰色シルト(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、約2cmの礫・灰少し混じる)
- 346 25Y5/2灰黃褐色シルト(粘性中、しまりやや密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック・1~5cmの礫多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量混じる)
- 347 10YR4/4灰色シルト(粘性小、しまり密、硬い、1cm以下の礫・灰・燒土ご少し混じる)
- 348 10YR3/2深褐色粘質土(粘性小、しまり粗い、軟い、粗砂大量、1~3cmの礫少し混じる)
- 349 10YR3/2深褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・灰少量化、0.5~3cmの礫少し、粗鈍多く混じる)
- 350 10YR3/2深褐色シルト(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックご少量化、粗砂多く、1~2cmの礫・灰少し混じる)
- 351 10YR3/3暗褐色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック・2.5Y6/3にぶい黄褐色シルト・10YR2/1黑色シルト・3~5cmの礫・鉄分多く、灰少し混じる)
- 352 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック大量、1~10cmの礫少し混じる)
- 353 10YR2/1黑色粘土(粘性大、しまり密、硬い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック・約1cmの礫少し混じる)
- 354 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック・1~4cmの礫・鉄分少し、10YR3/2黑褐色粘質土ブロック大量混じる)
- 355 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック・鉄分多く、1~2cmの礫少し混じる)
- 356 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、灰土、灰少し混じる)
- 357 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、软い、10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロックや多く、粗鈍多く混じる)
- 358 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、硬い、25Y5/3黄褐色シルトブロック大量、約0.5cmの礫多く、約5cmの礫・灰少し混じる)
- 359 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック大量混じる)
- 360 10YR3/1黑色シルト(粘性中、しまり密、软い、25Y5/3黄褐色シルトブロック・粗鈍大量、約1cmの礫少し混じる)
- 361 10YR4/2黄褐色シルト(粘性小、しまり難い、軟い、25Y5/3黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量混じる)
- 362 10YR2/1黑色シルト(粘性小、しまり密、软い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、粗砂大量混じる)
- 363 10YR4/2灰黃褐色シルト(粘性小、しまり密、やや硬い、25Y5/3黄褐色砂質土(細鈍)・10YR2/1黑色シルトブロック・2~6cmの礫少し混じる)
- 364 10YR4/1灰色シルト(粘性小、しまり密、やや硬い、25Y7/4浅黄色シルトブロック・粗鈍少し混じる)
- 365 10YR4/2灰色シルト(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、約2cmの礫・灰少し混じる)
- 366 25Y5/2灰黃褐色シルト(粘性中、しまりやや密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック・1~5cmの礫多く、10YR2/1黑色シルトブロック大量混じる)
- 367 10YR4/4灰色シルト(粘性小、しまり密、硬い、1cm以下の礫・灰・燒土ご少し混じる)
- 368 10YR3/2深褐色粘質土(粘性小、しまり粗い、軟い、粗砂大量、1~3cmの礫少し混じる)
- 369 10YR3/2深褐色粘質土(粘性中、しまりやや粗い、軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・灰少量化、0.5~3cmの礫少し、粗鈍多く混じる)
- 370 10YR3/2深褐色シルト(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックご少量化、粗砂多く、約1cmの礫少し、灰少し混じる)
- 371 10YR3/2深褐色シルト(粘性小、しまりやや密、软い、10YR5/6黄褐色シルトブロックご少量化、粗砂多く、1~2cmの礫・灰少し混じる)
- 372 10YR3/2深褐色シルト(粘性なし、しまりやや密、软い、25Y6/4にぶい黄褐色シルト少量、3cm以下の礫少量、灰少し混じる)
- 373 10YR3/2深褐色粘質土(粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色粘土ブロック少量、0.5cm以下の礫や多く、灰少し混じる)
- 374 10YR3/2深褐色粘質土(粘性大、しまり密、やや軟い、10YR4/4褐色粘土ブロック多く、0.5cm以下の礫・灰・燒土ご少し混じる)
- 375 10YR3/2深褐色シルト(粘性小、しまりやや密、软い、10YR4/4褐色粘土ブロック多く、灰少し混じる)
- 376 10YR3/2深褐色粘質土(粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4褐色粘土ブロック大量、10YR2/1黑色シルト多く、粗砂や多く、2cm以下の礫少し混じる)第106回D109 (201106-D100) 出土
- 377 10YR2/1黑色シルト(粘性中、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック多く、粗鈍少し混じる)
- 378 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック大量、2~6cmの礫・粗砂少し混じる)
- 379 10YR2/1黑色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック多く、2~6cmの礫・粗砂少し混じる)
- 380 10YR3/1黒褐色粘質土(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR3/2黑褐色粘質土ブロック、10YR4/3にぶい黄褐色粘土小ブロック・鉄分多く、1~7cmの礫・灰・燒土ご少し混じる)
- 381 10YR4/1暗灰褐色砂質土(粗鈍、粘性なし、しまり密、硬い、25Y7/6明黄褐色砂質土・7.5Y9/2/1暗褐色シルト(粗砂大量)層状に、0.5~3cmの礫や多く、鉄分大量混じる)
- 382 10YR3/1暗褐色シルト(粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック少、0.5cmの礫少し、25Y6/4にぶい黄色シルトブロック多く混じる)

- 385 25Y3/3暗褐色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR2/1黒色シルトブロックごく少量、2.5Y6/4にぶい黄色シルトブロック大量、約2cmの難少し混じる）
- 384 25Y4/2暗灰褐色粘土（粘性小、しまり密、軟い、2.5Y6/3にぶい黄色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルト・約2cmの難少し、粗粒大差混じる）2012-34: 193mm, 2012-20: 2012-21-2-3: 97mmに対応
- 385 10YR2/1黒色シルト（粘性中、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、1~3cmの難少し混じる）
- 386 10YR3/2黒褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、10YR2/1黒色シルトブロック少しだけ混じる）
- 387 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR5/6黄褐色粘土ブロック多く、約2cmの難少し混じる）
- 388 10YR3/2黒褐色粘土（粘性大、しまり密、軟い、10YR4/3にぶい黄褐色粘土大差混じる）
- 389 10YR17/1黑色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・2cm以下の難・少混じる）
- 390 10YR2/1黒色シルト（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックごく少量混じる）
- 391 10YR3/1黒褐色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大差、約1cmの難少く量混じる）
- 392 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 393 10YR3/2黒褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック・10YR2/1黑色シルトブロック・難少し混じる）
- 394 10YR4/2暗褐色シルト（粘性大、しまり密、やや軟い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック少しだけ、底・底土ごく少量混じる）
- 395 10YR3/2黒褐色粘土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック大差、底少し混じる）
- 396 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（粘性小、しまり密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・粗砂大量、1~2cmの難少し、底少く量混じる）
- 397 5Y5/2暗オリーブ色砂質土（粘性、しまり密、硬い、10YR6/6明黄色粗砂粘土大量、0.5~3cmの難多く、底少く量混じる）
- 398 10YR3/1黒褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルト小ブロックが多く、0.5cm以下の難少し混じる）
- 399 10YR4/2暗褐色粘土（粘性小、しまり密、やや軟い、10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（粗砂）、1~2cmの難多く混じる）
- 400 10YR3/2黒褐色粘土（粘性中、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック・貧少多く、粗砂大量、約1cmの難少し混じる）
- 401 25Y4/1黄褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色砂質土・粗砂、難少し、5Y5/3暗オリーブシルトブロック多く、3cm以下の難や多く、鉄分大量混じる）
- 402 10YR4/1褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~3cmの難やや多く混じる）2012-20: 21-2-3: 14番に対応
- 403 10YR4/1褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（粗砂）、1~2cmの難多く混じる）
- 404 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色シルト・粗砂少しだけ、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、2cm以下の難少し混じる）
- 405 10YR4/1褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~3cmの難やや多く混じる）
- 406 10YR4/1褐色砂質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~3cmの難やや多く混じる）
- 407 10YR3/2黒褐色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロックごく少量、10YR2/1黑色シルトブロック少量化混じる）
- 408 10YR3/2黒褐色粘土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック大量、0.5cm以下の難・底少く量混じる）
- 409 10YR3/2黒褐色粘土（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック多く、10YR2/1黑色シルトブロック少しだけ混じる）
- 410 10YR2/1黑色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック大量混じる）
- 411 10YR3/2黒褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1黑色シルトブロック多く混じる）
- 412 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまりやや密、軟い、10YR5/6黄褐色シルトブロック大量、1~6cmの難少く量混じる）
- 413 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック多く、1~6cmの難少し混じる）
- 414 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや软い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土大差、1~2cmの難少し混じる）
- 415 25Y5/3黄褐色シルト（粘性小、しまり密、やや软い、10YR2/1黑色シルトブロックや多く、粗砂大量、約2cmの難少し混じる）
- 416 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土（粗砂、粘性小、しまりやや粗い、硬い、5Y5/2灰褐色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR2/1黑色シルトブロック大量、約1cmの難少し混じる）
- 417 10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR2/1黑色シルトブロック大量、約1cmの難少し混じる）
- 418 10YR2/1黑色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック大量、0.5~2cmの難少し混じる）
- 419 10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルトブロック大量混じる）
- 420 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、7.5YR3/2黄褐色粘質土シルトブロック多く、約2cmの難少し混じる）
- 421 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~3cmの難少し混じる）
- 422 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（粘性大、しまり密、软い、10YR2/1黑色シルトブロック少しだけ、1~5cmの難多く混じる）
- 423 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック大差、1~3cmの難少し混じる）
- 424 10YR5/4にぶい黄褐色粘土（粘性大、しまり密、やや软い、10YR2/1黑色シルトブロック多く、約1cmの難少し混じる）
- 425 10YR2/1黑色粘土（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 426 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 427 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4褐色粘土ブロック大量、3~12cmの難少し混じる）2012-34: 216番に対応
- 428 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック多く、約1cmの難少し、鉄分やや多く混じる）
- 429 10YR2/1黑色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 430 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルト・鉄分少し混じる）
- 431 10YR2/1黑色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色粘土大量、鉄分少し混じる）
- 432 10YR5/3にぶい黄褐色粘土（粘性大、しまり密、やや软い、10YR2/1黑色シルトブロックや多く、1~3cmの難少し混じる）
- 433 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、約1cmの難少し混じる）2012-20: 21-2-3: 14番に対応
- 434 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック多く、1~10cmの難少し混じる、やや青味あり）
- 435 10YR2/1黑色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・2~15cmの難少し混じる）10YR3/2黒褐色粘土ブロック大量混じる
- 436 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、やや软い、10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック・約1cmの難ごく少量化混じる）
- 437 10YR5/6黄褐色粘土（粘性大、しまり密、软い、10YR3/2黒褐色粘土小ブロック大量混じる）
- 438 10YR2/2黑褐色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/6黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 439 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4黄褐色シルト小ブロック大量混じる）
- 440 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや软い）10YR2/1黑色シルト・鉄分少し混じる
- 441 10YR2/1黑色シルト（粘性大、しまり密、やや软い）2012-20: 21-2-3: 153番に対応
- 442 10YR1/7黑色シルト（粘性小、しまり密、硬い、砂粒（やや細砂）多く混じる）
- 443 10YR2/1黑色シルト（粘性中、しまり密、やや软い、約1cmの難ごく少量化混じる）
- 444 10YR2/1黑色シルト（粘性小、しまり密、やや软い、1cm以下の難ごく少量化混じる）
- 445 10YR2/1黑色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック多く混じる）
- 446 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 447 10YR2/1黑色粘土（粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1黑色シルト大量混じる）
- 448 10YR4/4褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、粗砂少し混じる）
- 449 10YR4/6褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、約0.5cmの難少し混じる）
- 450 10YR4/4褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、2.5cm以下の難大量混じる）
- 451 25Y5/2灰褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10cm以下の難大量、粗砂、鉄分多く混じる）

2012-34 近代暗渠東壁



I	IIb	IIb
1 水道管(4)	87~93 SK17	194~195 道傍
2 水道管(2)・(3)	94~109 整地土	196~207 整地土
3 近代耕(1)	IIc	IIc
4~5 道傍	110~127 SK19	208~223 整地土
10~18 整地土	128~131 SK18	Va
IIa~IIb 整地土	152~156 SD14	224~225 地山
28 道傍	157~169 整地土	
29~50 SX38	IIIa~Va	
IIIa~IIIb	170 道傍?	
19~27 SK10	Na	
51~77 SK08	171 SK24	
78~79 整地土	172~190 SK22	
IIIa~IIIb	191~193 整地土	
80~86 SK12		

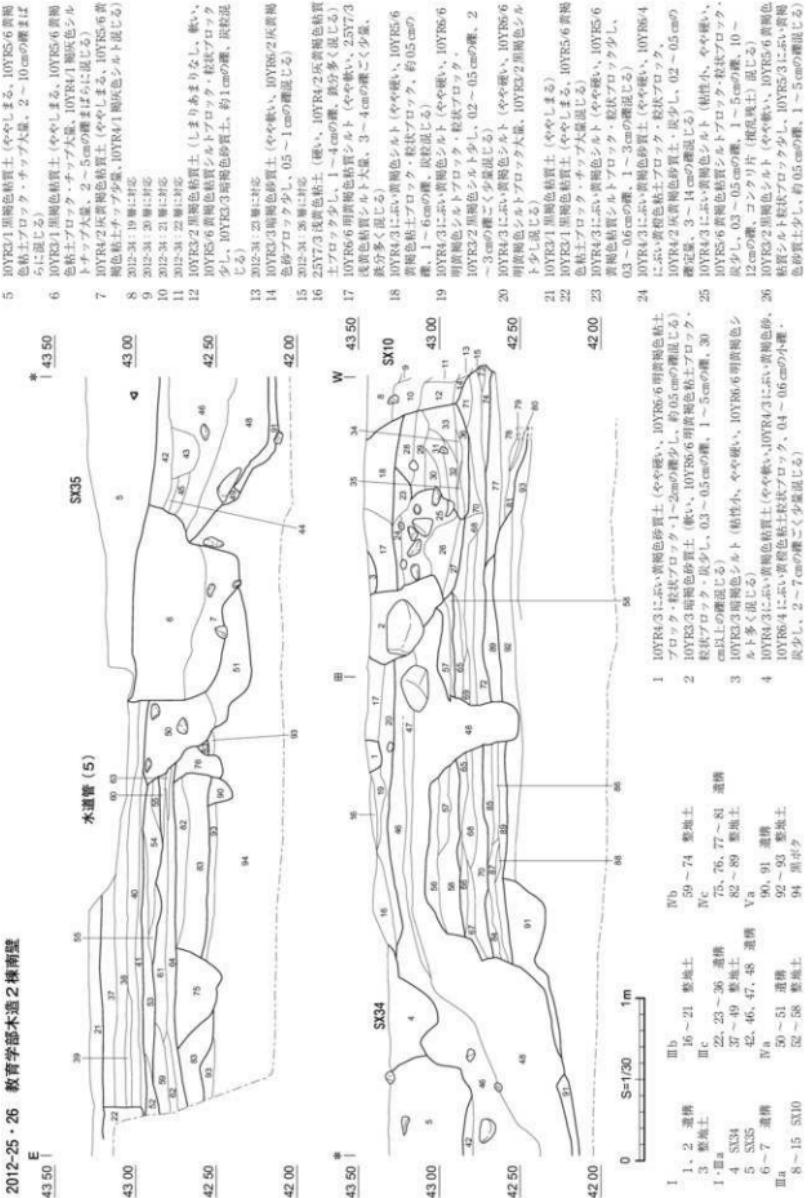
- 1 IOYR6-3に似る黄褐色砂質土。(IOYR3-3暗褐色砂質土大量、IOYR6-6明褐色砂質土シルトブロック、IOYR4-2灰褐色砂質土ブロック、灰粒、鉄分混じる)
- 2 IOYR3-3暗褐色砂質土。(しまりあまりなし、IOYR2-1黒褐色砂質土、IOYR6-4に似る黄褐色土？シルトブロック、25Y6-3に似る黄褐色少し、1~5cmの塊、約10cmの塊、灰粒、鉄分混じる)
- 3 IOYR4-2灰褐色砂土。(やや軟い、IOYR3-2暗褐色砂質土大量、IOYR5-4に似る黄褐色砂質土少し、灰粒、鉄分混じる)
- 4 IOYR3-3暗褐色砂質土。(やや硬い、IOYR3-2暗褐色砂質土、IOYR5-3に似る黄褐色砂質土、灰粒少し、2~3cmの塊、約10cmの塊、鉄分混じる)
- 5 IOYR3-3暗褐色砂質土。(やや軟い、IOYR4-2暗褐色砂質土、IOYR3-1黒褐色シルト、1~2cmの塊、10cm以上の塊、鉄、鉄分混じる)
- 6 IOYR3-1黑褐色砂質土。(軟い、IOYR6-1黑色シルト粘状ブロック少し、約5cmの塊多く混じる)
- 7 IOYR4-2深灰褐色砂土(軟い、IOYR6-3に似る黄褐色砂質シルトブロック、鉄分少し、3~4cmの塊、鉄粒混じる)
- 8 IOYR4-2深灰褐色砂質土(やや軟い、IOYR5-6黄褐色シルト粘状ブロック、IOYR3-1黒褐色シルト粘状ブロック、に似る黄褐色砂質土、鉄粒少し混じる)
- 9 IOYR3-3深灰褐色砂質土(軟い、鉄分少し。コンクリート塊、植葉瓦混じる)
- 10 IOYR2-3深灰褐色砂質土(やや硬い、IOYR5-4に似る黄褐色シルト粘状ブロック、1~2cmの塊、約5cmの塊、鉄分、鉄粒混じる)
- 11 IOYR4-2灰褐色土。(IOYR5-6黄褐色砂質土混じる)
- 12 IOYR3-3深灰褐色土。(IOYR3-2黒褐色砂質土、IOYR5-6黄褐色シルト、0.5cm以下)の鉄粒混じる)
- 13 IOYR2-1黑色シルト(しまる、硬い、IOYR6-6明褐色シルト少し、0.5~1cmの塊、5cm以上の塊混じる)
- 14 IOYR4-4褐褐色質土(硬い、IOYR5-6黄褐色砂質土大量、IOYR6-6明褐色シルト、1~2cmの塊混じる)
- 15 IOYR4-2灰褐色砂質土シルト(10YRS-6黄褐色シルト粘状ブロック、1cm以下の塊少し、混じる)
- 16 IOYR4-2灰褐色砂質土シルト(10YRS-6黄褐色シルト粘状ブロック、少く混じる)
- 17 IOYR4-3深灰褐色シルト(しまる、硬い、25Y7-3浅黄褐色砂質土挟まるよう混じる)
- 18 IOYR4-3に似る黄褐色土(やや硬い、IOYR2-2黒褐色シルト、10YRS-6黄褐色砂質シルトブロック、約1cmの塊、約5cmの塊混じる)

第85図 土層断面図 近代暗渠 (S=1/30)

- 19) I0YR3-3暗褐色土 (しまりあまりなし、やや軟い、I0YR5-6黄褐色  
粘質シルトロック、10cm以上の繩、3~5cmの繩、炭粒少し混じる)  
2012-25-26 8輪に対応
- 20) I0YR3-3暗褐色弱粘質土 (やや軟い、I0YR6/4にびい黄褐色シルト、  
I0YR5-6黄褐色シルト、炭粒少し、2~4cmの繩混じる)  
2012-25-26 9輪に対応
- 21) I0YR4-2灰褐色弱粘質土 (軟い、I0YR6/6明黄褐色シルト少し混じる)  
2012-25-26 10輪に対応
- 22) I0YR3-2黒褐色弱粘質土 (軟い、I0YR4/4褐色シルトロック少し、  
I0YR6/4にびい黄褐色砂質土、1~2cmの繩、炭粒少し混じる)  
2012-25-26 11輪に対応
- 23) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (やや軟い、I0YR2/2黒褐色シルトロック、  
I0YR5-6黄褐色シルト、鉄分混じる) 2012-25-26 13輪に対応
- 24) I0YR3-4にびい黄褐色シルト (しまりあまりなし、軟い、I0YR4/4  
褐色砂土量、I0YR2/2黒褐色シルト、約1cmの繩混じる)
- 25) I0YR3-3暗褐色弱粘質土 (軟い、I0YR2/2黒褐色シルト、2~3cmの繩  
少し、I0YR5-6黄褐色シルト混じる)
- 26) I0YR3-3暗褐色弱粘質土 (やや軟い、I0YR4/3にびい黄褐色弱粘質土  
大量、I0YR2/2黒褐色シルト、鉄分少し混じる)  
2012-25-26 15輪に対応
- 27) I0YR3-3暗褐色弱粘質土 (軟い、I0YR2/2黒褐色シルト、I0YR4/2  
灰褐色砂質土、約0.5~1cmの繩少し混じる)
- 28) I0YR4-3にびい黄褐色砂質土 (I0YR5-6黄褐色シルト、鉄分少し、  
1~2cmの繩、6cm以上の繩混じる)
- 29) I0YR4-2灰褐色弱粘土 (I0YR5-3にびい黄褐色シルトロック少し、  
2~5cmの繩、10~15cmの繩、炭粒、鉄分混じる)  
2012-20 2012-21-23-3 27輪に対応
- 30) I0YR4-2深灰褐色土 (I0YR3-2にびい黄褐色砂質土ロック、10YR6/3  
にびい黄褐色シルトロック、1~5cmの繩、10cm以上の繩、炭粒、  
鉄分混じる) 2012-20 2012-21-23-3 29輪に対応
- 31) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (やや軟い、I0YR6/3にびい黄褐色シルトロック、  
1~2cmの繩少し、鉄分、炭粒混じる)
- 32) I0YR3-2黑褐色弱粘土 (I0YR5-2にびい黄褐色シルト、鉄分少し混じる)  
2012-20 2012-21-23-3 30輪に対応
- 33) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (やや軟い、I0YR6/3にびい黄褐色シルト、  
I0YR4/4褐色砂少し、2~5cmの繩少し、鉄分、炭粒混じる)
- 34) I0YR5-3暗褐色砂質土 (粘性小、I0YR4/2灰褐色砂質土、  
I0YR6/3にびい黄褐色シルトロック、約2cmの繩少し、鉄分混じる)  
2012-20 2012-21-23-3 31輪に対応
- 35) I0YR3-2黑褐色シルト (粘性小、I0YR6/3にびい黄褐色シルト、約2  
cmの繩少し、鉄分、炭粒混じる)
- 36) I0YR3-2黑褐色シルト (粘性小、I0YR6/3にびい黄褐色砂質土シルト  
トロック少し、鉄分、炭粒混じる)
- 37) I0YR3-2灰褐色弱粘土 (軟い、I0YR6/3にびい黄褐色シルトロック  
少し、I0YR4/4褐色砂質土、2~5cmの繩、10cm以上の繩定積、鉄分、  
炭粒混じる) 2012-20 2012-21-23-3 32輪に対応
- 38) I0YR4-2深灰褐色土 (软い、I0YR6/3にびい黄褐色シルト少し、  
1~2cmの繩、約5cmの繩、鉄分、炭粒混じる)
- 39) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (I0YR4/4褐色砂質土、やや軟い、I0YR2/1  
黑色シルト少し、鉄分混じる)
- 40) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (I0YR5-3にびい黄褐色シルト少し、鉄分、  
炭粒混じる)
- 41) I0YR4-2灰褐色弱粘質土 (I0YR5/4にびい黄褐色砂質土、I0YR2/1  
黑色シルト粘状ロック少し、5~6cmの繩、鉄分混じる)
- 42) I0YR3-3暗褐色弱粘質土 (I0YR6/4褐色土、I0YR3/2黒褐色弱粘質  
少し、I0YR5/4にびい黄褐色シルトロック少し、約3cmの繩混じる)
- 43) I0YR4-2灰褐色弱粘質土 (I0YR6/3にびい黄褐色シルトロック、  
I0YR2/1黑色シルト粘状ロック、鉄分混じる)
- 44) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (I0YR6/3にびい黄褐色砂質土、3~5cm  
の繩、炭粒、鉄分混じる)
- 45) I0YR4-2深灰褐色土 (I0YR5/3にびい黄褐色シルト (軟い、I0YR6/3  
にびい黄褐色シルトロック少し、I0YR2/1黑色シルト粘状ロック  
少し、約5cmの繩混じる))
- 46) I0YR4-2深灰褐色弱粘質土 (I0YR4/4褐色砂質土、I0YR6/3にびい黄  
褐色シルト少し、I0YR2/1黑色シルト粘状ロック少し混じる)
- 47) I0YR4-2灰褐色弱粘質土 (軟い、I0YR4-2灰褐色砂質土、  
I0YR5/4にびい黄褐色シルトロック、3~5cmの繩混じる)  
2012-20 2012-21-23-3 33輪に対応
- 48) I0YR3-2-2/2黑褐色弱粘質土 (軟い、I0YR6/3にびい黄褐色シルト  
ロック、I0YR5/4にびい黄褐色シルトロック、2~5cmの繩少し  
混じる) 2012-20 2012-21-23-3 48輪に対応
- 49) I0YR4-4暗褐色砂質土シルト (粘性小、軟い、I0YR4-2灰褐色  
シルト、10cm以上の繩、約5cmの繩混じる)
- 50) I0YR4-3にびい黄褐色砂質土 (やや軟い、I0YR7/2にびい黄褐色シル  
トロック、I0YR5/6黄褐色シルトロック、約1cmの繩少し、炭粒  
混じる)
- 51) I0YR3-3暗褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR5-6黄褐色シルト  
ロック、1~2cmの繩、炭粒少し混じる)
- 52) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR5-6黄褐色シルト  
ロック、1~2cmの繩、炭粒少し混じる)
- 53) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (しまる、やや硬い、炭粒、鉄分少し混じる)
- 54) I0YR3-3暗褐色色土 (硬い、I0YR5/6黄褐色シルト多く、  
炭粒混じる)
- 55) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (しまる、硬い、I0YR5-6黄褐色シルト、  
炭粒、鉄分少し混じる)
- 56) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (しまる、硬い、炭粒微細混じる)
- 57) I0YR4/4暗褐色砂質土 (やや細砂、硬い、I0YR5/6黄褐色シルト、  
I0YR5-6黄褐色シルトが互層に、I0YR6/4にびい黄褐色シルト粒状ア  
ロック少し混じる)
- 58) I0YR3-3暗褐色砂質土 (やや硬い、I0YR4/4褐色砂質土、I0YR6/6  
明黄褐色シルト粒状ブロック少し、1~2cmの繩、約10cmの繩、炭  
粒混じる)
- 59) I0YR3-3暗褐色色土 (硬い、I0YR5/6黄褐色砂土大量、I0YR6/4にび  
い黄褐色シルト粒状アロック、約1cmの繩少し、炭粒混じる)
- 60) I0YR3/3暗褐色色土 (硬い、I0YR4/4褐色色土、I0YR6/4にびい黄  
褐色シルト粒状アロック、約0.5cmの繩少し、炭粒混じる)
- 61) I0YR4/2灰褐色弱粘質土シルト (やや硬い、I0YR6/6明黄褐色砂質土,  
I0YR6/4にびい黄褐色シルトプロック少し、炭粒混じる)
- 62) I0YR3-3暗褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR5/6黄褐色砂質土、  
1~2cmの繩少し、10cm以上の繩、炭粒混じる)
- 63) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土シルト (しまりあまりなし、軟い、  
I0YR4/4褐色砂土シルトロック、2~3cmの繩少し、12cm以上の繩、炭  
粒や多く混じる)
- 64) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (しまりあまりなし、やや軟い、  
I0YR5/6黄褐色シルト粒状ブロック少し、炭粒、燒土少し混じる)
- 65) I0YR3-3暗褐色砂質土シルト (やや軟い、I0YR5-6黄褐色シルト粒  
状アロック、炭粒、燒土粒少し混じる)
- 66) I0YR3-3暗褐色砂質土シルト (硬い、I0YR5/6黄褐色シルト少しあ、  
炭粒混じる)
- 67) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (しまりあまりなし、やや軟い、  
I0YR4/4褐色シルトアロック、I0YR5/6黄褐色シルトブロック少し、  
炭粒混じる)
- 68) I0YR3/3暗褐色砂質土 (やや軟い、I0YR5/6黄褐色シルト粒状アロック、  
燒土粒少し、約10cmの繩、炭粒混じる)
- 69) I0YR3/3暗褐色砂質土シルト (I0YR5/6黄褐色シルト、8cm以上の繩、  
炭粒、燒土粒少し、燒瓦混じる)
- 70) I0YR3-3暗褐色砂質土 (やや細砂、軟い、I0YR5/6黄褐色シルト少し  
混じる)
- 71) I0YR3-3暗褐色砂質土 (粘性小、軟い、I0YR5/6黄褐色シルト少し  
混じる)
- 72) I0YR3-3暗褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR4/4褐色砂少し、  
炭粒混じる、少々混じる)
- 73) I0YR3/2黑褐色砂質土シルト (粘性小、やや軟い、I0YR5/6黄褐色  
シルト粒状ブロック微量、約1cmの繩少し、炭粒、燒土粒少し混じる)
- 74) I0YR3/3暗褐色砂質土シルト (軟い、I0YR5/6黄褐色シルト粒状ア  
ロック少し、2~3cmの繩少し、炭粒混じる)
- 75) I0YR3/3暗褐色砂質土 (やや軟い、やや粗砂、I0YR6/4にびい黄褐色  
色土プロック微量、約1cmの繩少し、炭粒混じる)
- 76) I0YR3/3暗褐色砂質土 (やや粗砂、I0YR5/6黄褐色シルト粒状アロ  
ック微量、約3cmの繩少し混じる)
- 77) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (粘性小、軟い、I0YR4/4褐色砂質土、  
I0YR5/6黄褐色シルト小ブロック少し、炭多く混じる)
- 78) I0YR5/6黄褐色シルト (粘性小、やや硬い、I0YR4/2灰褐色シルト  
少し混じる)
- 79) I0YR3/3暗褐色色土 (硬い、I0YR6/4にびい黄褐色シルト少しあ、  
0.5~1cmの繩、約5cmの繩混じる)
- 80) I0YR4/3にびい黄褐色シルト (硬い、I0YR5/6黄褐色シルト粒状アロ  
ック、約1cmの繩、炭粒少し混じる)
- 81) I0YR5/6黄褐色シルト (粘性小、鉄分混じる)
- 82) I0YR3/3暗褐色色土 (やや硬い、細砂多く、I0YR5/6黄褐色シル  
ト粒状アロック少し、1~2cmの繩、4cm以上の繩混じる)
- 83) I0YR4/2灰褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR6/4にびい黄褐色  
シルト、3~4cmの繩少し、鉄分、炭粒混じる)
- 84) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土シルト (やや硬い、I0YR5/6黄褐色シルト粒状アロ  
ック、約1cmの繩、炭粒少し混じる)
- 85) I0YR5/6黄褐色シルト (粘性小、鉄分混じる)
- 86) I0YR3/3暗褐色色土 (やや硬い、I0YR4/4褐色シルトアロック少し、  
5~10cmの繩、炭粒混じる)
- 87) I0YR4/2灰褐色砂質土 (I0YR6/3にびい黄褐色シルト少しあ、  
1~2cmの繩定積、約10cmの繩、鉄分混じる)
- 88) I0YR4/3にびい黄褐色砂質土 (I0YR2/1黑色シルトプロック、  
7.5YR4/4褐色シルト・I0YR5/4にびい黄褐色シルト少しあ、1~5cmの  
繩、約10cmの繩、炭粒混じる)

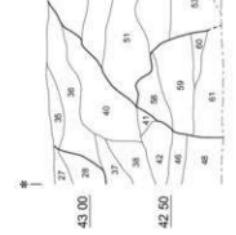
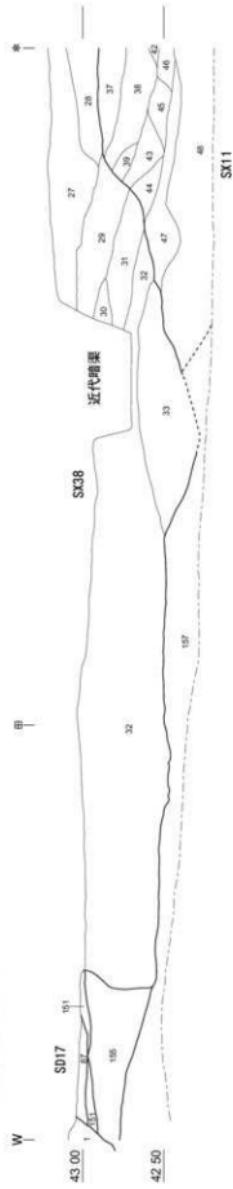
- 88 10YR4/4 黄褐色砂質土 (軟い、10YR4/2 底黄褐色剖面粘土少し。鉄分、5cm以上の難混じる) 第103回 P96 (2012G4) 出土
- 90 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (10YR5/2 底黄褐色砂質土少量、10YR3/2 黄褐色剖面粘土ブロック、5~8cmの躍、15cm以上の躍、鉄分、底粒混じる)
- 91 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (しまりなし、軟い、10YR3/1 黑褐色シルトブロック、10YR4/4 黄褐色砂質土少し混じる)
- 92 10YR3/3 黄褐色砂質土 (しまりなし、軟い、10YR6/3 にびい 黄褐色シルトブロック、鉄分混じる)
- 93 10YR3/2 黑褐色シルト (やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック、鉄分少し、約5cmの躍、約10cmの難混じる)
- 94 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや硬い、1~2cmの難定常、鉄分多く混じる)
- 95 10YR3/2 黑褐色シルト (やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック、1~2cmの難少し混じる)
- 96 10YR3/3 黄褐色砂質土 (約1cmの難混じる)
- 97 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (粘性小、しまりあまりなし、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック、10YR3/2 黑褐色シルト、約3cmの難少し混じる)
- 98 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土・シルト (やや軟い、10YR5/6 黄褐色砂質土・シルト大量、10YR6/4 にびい 黄褐色砂質土・シルト混合混じる)
- 99 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (10YR6/4 にびい 黄褐色シルトブロック、10YR6/6 明黄褐色砂質土、15~2cmの躍、底粒少し混じる)
- 100 10YR4/2 黄褐色砂質土 (10YR2/2 黑褐色シルト大量、10YR5/6 黄褐色シルト、約1cmの難少し、5cm以上の難混じる)
- 101 10YR3/3 黄褐色砂質土 (しまりあまりなし、0.5~1cmの難定常、約5cmの難少しだけ混じる)
- 102 10YR3/3 黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト小ブロック、底粒少し混じる)
- 103 10YR3/3 黄褐色シルト (硬い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト少し、鉄分、0.5~15cmの躍、7~8cmの難混じる)
- 104 10YR3/2 黑褐色シルト (やや硬い、25Y6/3 にびい 黄褐色細部ブロック、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック、約5cmの難、底粒、鉄分混じる)
- 105 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR2/2 黑褐色大量、10YR5/6 黄褐色粒状ブロック、1~5cmの難、鉄分、底粒少し混じる)
- 106 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR5/4 にびい 黄褐色砂質土、10YR6/3 にびい 黄褐色砂質土、3~5cmの難定常、5cm以上の難、鉄分、底粒混じる)
- 107 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR5/4 にびい 黄褐色シルトブロック、1~2cmの難少し、鉄分多く、底粒混じる)
- 108 10YR3/3 黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR6/3 にびい 黄褐色シルト、10YR3/2 黑褐色シルト・1~5cmの難混じる)
- 109 10YR3/2 黑褐色砂質土・シルト (10YR5/3 にびい 黄褐色シルト、約5cmの難の難少し、底粒混じる)
- 110 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土・シルト (やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト、10cm以上的難、底粒少し混じる)
- 111 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土・シルト (粘性小、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック少しだけ混じる)
- 112 10YR3/3 黄褐色砂質土 (粘性小、軟い、底粒混じる)
- 113 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土 (粘性小、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト多少混じる)
- 114 10YR4/2 にびい 黄褐色シルト (粘性小、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック少し混じる)
- 115 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (粘性小、軟い、底粒混じる)
- 116 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (やや硬い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック少し混じる)
- 117 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (粘性小、軟い、砂性や勝つ、10YR6/8 明黄褐色シルト粒状ブロック微量、底混じる)
- 118 10YR3/3 黄褐色シルト (軟い、10YR5/6 黄褐色シルト混じる)
- 119 10YR3/3 黄褐色シルト (軟い、10YR5/3 にびい 黄褐色砂質土、10YR5/6 黄褐色シルト少し混じる)
- 120 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (やや軟い、10YR5/6 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック少し混じる)
- 121 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (粘性小、やや硬い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック少し、底粒混じる)
- 122 10YR3/3 黄褐色砂質土・シルト (やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルト少し混じる)
- 123 10YR3/3 黄褐色砂質土・シルト (粘性小、10YR5/6 黄褐色シルト微量、1~2cmの難少し、約5cmの難、底粒混じる)
- 124 10YR4/2 にびい 黄褐色シルト (粘性小、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルト少し混じる)
- 125 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土 (10YR5/2 底黄褐色シルト大量、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト少し、鉄分混じる)
- 126 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土・シルト (软い、10YR5/6 黄褐色シルト少し、2.5Y6/6 底黄褐色シルト微量、約1cmの難混じる)
- 127 10YR4/3 にびい 黄褐色シルト (10YR4/2 底黄褐色砂質土大量、2.5Y6/2 底黄褐色シルトブロック、2~4cmの難、7cm以上の難、鉄分混じる)
- 128 10YR3/3 黄褐色砂質土 (10YR2/2 黑褐色細部少し、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック、約1cmの難少し、混じる)
- 129 10YR4/2 底黄褐色砂質土・シルト (しまりあまりなし、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルトブロック、10YR2/2 黑褐色シルト少し、鉄分混じる)
- 130 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (粘性小、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルトブロック、底粒少し、5cm以上の難、鉄分混じる、129番より砂質少)
- 131 10YR4/2 にびい 黄褐色砂質土 (しまりあまりなし、软い、10YR5/6 黄褐色シルト・底粒少しだけ混じる)
- 132 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (粘性小、しまりあまりなし、軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト、約0.5~1cmの難、2~3cmの難少し、底粒混る)
- 133 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (底粒少しだけ混じる)
- 134 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト、底粒少しだけ混じる)
- 135 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (やや硬い、約1cmの難混じる)
- 136 10YR4/4 黄褐色砂質土 (10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック少し、2~4cmの難、底粒混じる)
- 137 10YR3/3 黄褐色砂質土 (软い、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック少し、4cm以上の難、底粒混じる)
- 138 10YR4/2 底黄褐色砂質土・シルト (粘性あり、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルト・約5cmの難混じる)
- 139 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (软い、10YR5/6 黄褐色シルト少し、3cm以上の難混じる)
- 140 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (しまりあまりなし、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト、約5cmの難混じる)
- 141 10YR3/3 黄褐色砂質土 (やや硬い、10YR5/6 黄褐色シルト粒状ブロック、底粒少しだけ、2~3cmの難混じる)
- 142 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (やや粗鈍、しまりあまりなし、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト粒状ブロック少し、1~2cmの難、約4cmの難混じる)
- 143 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土・シルト (しまりなし、软い、10YR6/4 にびい 黄褐色砂質土少しだけ混じる)
- 144 10YR4/3 にびい 黄褐色砂質土 (粘性あり、しまりあまりなし、软い、10YR4/4 黄褐色シルト大量混じる)
- 145 10YR2/2 黑褐色シルト (粘性小、やや軟い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック少し混じる)
- 146 10YR3/3 黄褐色砂質土 (やや粗鈍、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色砂質土・シルト微量混じる)
- 147 10YR4/4 黄褐色砂質土 (しまりなし、软い、10YR6/4 にびい 黄褐色砂質土、1~2cmの難混じる)
- 148 10YR3/3 黄褐色砂質土 (软い、10YR2/2 黑褐色シルト、10YR5/6 黄褐色砂質土、約2cmの難混じる)
- 149 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや软い、10YR5/6 黄褐色砂質土・シルト、約1cmの難少し混じる)
- 150 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (やや粗鈍、しまりあまりなし、やや軟い、10YR6/4 にびい 黄褐色砂質土・シルト少しだけ混じる)
- 151 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (10YR4/2 底黄褐色シルト・10YR2/2 黑褐色シルト・10YR5/6 黄褐色砂質土、約2cmの難混じる)
- 152 10YR3/3 黄褐色砂質土 (软い、10YR5/4 にびい 黄褐色シルト、10YR3/2 黑褐色砂質土、約2~4cmの難少し混じる)
- 153 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (10YR5/4 にびい 黄褐色シルト少しだけ混じる)
- 154 10YR3/2 黑褐色シルト (2~3cmの難混じる)
- 155 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (10YR6/3 にびい 黄褐色砂質土、10YR2/2 黑褐色シルト・10YR5/6 黄褐色砂質土、約5cmの難、鉄分、底粒混じる)
- 156 10YR3/2 黑褐色砂質土 (10YR4/4 黄褐色砂質土、約3cmの難少し、鉄分混じる)
- 157 10YR5/2 底黄褐色砂質土 (やや软い、底粒、鉄分、1~2cmの難混じる)
- 158 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (粘性小)
- 159 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (软い、10YR6/4 にびい 黄褐色シルト、約0.5cmの難、2~3cmの難定常、鉄分混じる)
- 160 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (软い、4cmの難、鉄分混じる)
- 161 10YR2/2 黑褐色シルト (软い、10YR5/3 にびい 黄褐色砂質土、2~3cmの難混じる)
- 162 10YR4/2 底黄褐色砂質土 (软い、10YR5/3 にびい 黄褐色砂質土大量、1~3cmの難、鉄分 (硬化) 混じる)

- 165 10YR4/2灰黃褐色砂質土～シルト（やや硬い、10YR5/3に似る黄褐色砂質土、約1cmの塊、2～3cmの塊少し、鉄分（硬化）混じる）  
2012-33: 308番に対応
- 166 10YR4/2灰黃褐色砂質土～シルト（硬い、10YR5/3に似る黄褐色砂質土少し、約0.5cmの塊定量、10cm以上の塊、鉄分（硬化）混じる）  
2012-33: 308番に対応
- 167 25Y6/2灰黃色シルト（硬い、10YR4/2灰黃褐色砂質土、約0.5cmの塊、1～2cmの塊、鉄分やや多く混じる）
- 168 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルト、2～5cmの塊、約10cmの塊、鉄分、炭粒少し混じる）
- 169 10YR4/2灰黃褐色砂質土（粘性小、やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色シルト、2～5cmの塊少し、鉄分多く混じる）
- 170 10YR4/3に似る黄褐色砂質土（10YR4/2灰黃褐色砂質土大量、2～5cmの塊、鉄分混じる）
- 171 10YR5/2灰黃褐色砂質土（10YR4/3に似る黄褐色シルト少し、10cm以上の塊、炭粒混じる、下部皆あり）
- 172 10YR3/3暗褐色砂質土（10YR5/3に似る黄褐色シルト少し、3～4cmの塊、鉄分混じる）
- 173 10YR4/2灰黃褐色砂質土（しまりあまりなし、10YR5/3に似る黄褐色砂質土、3～4cmの塊、鉄分多く混じる）
- 174 10YR4/3に似る黄褐色砂質土（しまりなし、軟い、10YR5/6灰褐色シルト少し、3～4cmの塊、鉄分やや多く混じる）
- 175 10YR3/3暗褐色砂質土（しまりなし、軟い、10YR5/6灰褐色シルト粘状ブロック・鉄分少し、約2cmの塊、鉄分混じる）
- 176 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルト大量、10YR5/4に似る黄褐色シルト粘状ブロック、2～3cmの塊、鉄分混じる）
- 177 10YR5/3に似る黄褐色土（しまりなし、軟い、10YR4/2灰黃褐色土大量、10YR2/2黑褐色シルト・10YR6/3に似る黄褐色シルト少し、約5cmの塊、鉄分混じる）
- 178 10YR3/2黑褐色粘土質土（しまりなし、軟い、10YR4/2灰黃褐色土大量、10YR5/4に似る黄褐色シルト粘状ブロック、約2cmの塊混じる）
- 179 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック多く、10YR2/2黑褐色シルト・炭少し、5～10cmの塊、鉄分混じる）
- 180 10YR4/2灰黃褐色砂質土（10YR6/3に似る黄褐色シルトブロックやや多く、10YR2/2黑褐色シルト、3～5cmの塊少し、炭粒、鉄分多く混じる）
- 181 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや軟い、少し、砂粒が強い、10YR4/4褐色砂質土、10YR6/3に似る黄褐色シルト粘状ブロック少し、2～3cmの塊、7cmの塊、炭粒、鉄分混じる）
- 182 10YR4/3に似る黄褐色砂質土（硬い、10YR3/2黑褐色シルト、炭粒、鉄分やや多く、2～3cmの塊少し混じる）
- 183 10YR2/6褐色砂質土（しまりあまりなし、軟い、10YR2/2黑褐色シルト、10YR5/4に似る黄褐色シルト少し、10YR6/3に似る黄褐色シルト、2～4cmの塊混じる）
- 184 10YR3/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/4に似る黄褐色シルト粘状ブロック、10YR2/2黑褐色シルト粘状ブロック少し、10cm以上の塊、礁瓦混じる）
- 185 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（軟い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック、10YR2/2黑褐色シルト少し）
- 186 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（軟い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック、2～3cmの塊、7cm以上の塊、炭粒、鉄分混じる）
- 187 10YR3/2黑褐色砂質土（やや軟い、10YR6/3に似る黄褐色シルト粘状ブロック少し、炭粒、鉄分混じる）
- 188 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（やや軟い、10YR4/4褐色砂少し、鉄分混じる）
- 189 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（軟い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック、鉄分多く、炭混じる）
- 190 10YR2/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/3に似る黄褐色砂、10YR6/3に似る黄褐色シルト少し混じる）
- 191 10YR4/4褐色砂質土（10YR5/6灰褐色シルトやや多く混じる）  
2012-33: 384番に対応
- 192 25Y6/2灰黃色シルト（粘性小、やや硬い、1～2cmの塊少し、鉄分多く、炭混じる）
- 193 10YR5/2灰黃褐色砂質土～シルト（10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック、2～3cmの塊少し、炭粒、鉄分混じる）
- 194 10YR3/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/4に似る黄褐色シルト粘状ブロック、鉄分少し、炭粒少し混じる）
- 195 10YR3/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/4に似る黄褐色シルト少し混じる）
- 196 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR5/6灰褐色シルト少し、10YR2/2黑褐色シルト混じる）
- 197 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR5/6灰褐色シルト少し、10YR2/2黑褐色シルト混じる）
- 198 10YR4/2灰黃褐色砂質土（やや硬い、10YR6/6明黃褐色砂質土、約1cmの塊少し混じる）
- 199 10YR5/3灰褐色砂質土～シルト（硬い、約0.5cmの塊、約2cmの塊少し、鉄分少し混じる）
- 200 10YR4/2灰黃褐色砂質土～シルト（やや軟い、10YR2/2黑褐色粘土シルト少し少し、約0.5cmの塊少し、6cm以上の塊混じる）  
2012-33: 402番に対応
- 201 10YR5/3漏に似る黄褐色シルト（やや軟い、10YR3/2灰褐色シルト少し、10YR6/3に似る黄褐色シルト少し混じる）
- 202 10YR5/2灰黃褐色砂質土（やや軟い、10YR6/3に似る黄褐色シルト、炭粒少し混じる）
- 203 10YR5/3に似る黄褐色砂質土～シルト（硬い、2～4cmの塊少し、炭粒、鉄分混じる）
- 204 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック少し、炭粒やや多く混じる）
- 205 10YR5/3に似る黄褐色砂質土（硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルトブロック少し、1～2cmの塊混じる）
- 206 10YR4/2灰黃褐色砂質土～シルト（硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルト少し、鉄分混じる）
- 207 10YR4/2灰黃褐色砂質土～シルト（硬い、10YR6/3に似る黄褐色シルト少し、炭粒少し混じる、鉄分沈着）
- 208 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、やや軟い、10YR5/6灰褐色シルトブロック少し少し混じる）
- 209 10YR5/6灰褐色シルト（やや軟い）
- 210 10YR2/2黑褐色シルト（やや軟い、10YR5/6灰褐色シルト粘状ブロック微量混じる）
- 211 10YR5/6灰褐色シルト（10YR2/2黑褐色シルトブロック混じる）
- 212 10YR2/1黑褐色シルト（10YR5/6灰褐色シルト粘状ブロック混じる）
- 213 10YR3/1黑褐色シルト（やや硬い、10YR2/1黑褐色シルト混じる）
- 214 10YR3/2黑褐色シルト（軟い、10YR4/2灰褐色シルト少し混じる）
- 215 10YR3/2黑褐色シルト（硬い、0.5～1cmの塊少し混じる）
- 216 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、やや硬い、10YR5/6灰褐色粘土少し少し、5cm以上の塊混じる）  
2012-33: 427番に対応
- 217 10YR2/2黑褐色シルト（やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色シルト少し混じる）
- 218 10YR5/4に似る黄褐色シルト（硬くしまっている、10YR2/2黑褐色シルト少し混じる）
- 219 10YR5/4に似る黄褐色シルト（硬い、10YR2/2黑褐色シルト混じる）
- 220 10YR5/2灰黃褐色砂質土～シルト（2～3cmの塊、5cm以上の塊混じる）
- 221 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、硬い、10YR5/4に似る黄褐色粘土シルトブロック、約10cmの塊混じる）
- 222 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、やや硬い、10YR5/4に似る黄褐色粘土シルトブロック少しあり、約5cmの塊混じる）
- 223 10YR2/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/6灰褐色シルト少し混じる）
- 224 10YR2/2黑褐色シルト（軟い、10YR5/6灰褐色シルト少し混じる）
- 225 10YR2/2黑褐色シルト（粘性小、軟い、10YR5/4に似る黄褐色粘土シルト少し混じる）

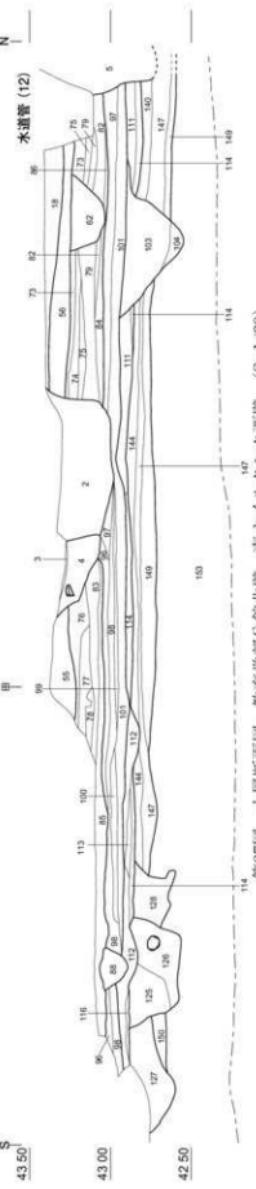


- 27 IOYR4/2灰褐色色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR6/6明黄褐色粘土ブロック・粒状ブロックやや少し、約0.5cmの繩、3~5cmの繩、炭粒少し、鉄分混じる)
- 28 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや硬い、IOYR6/4にびい黄褐色粘土ブロック・粒状ブロック、IOYR4/2灰褐色色砂質土・炭少し、0.2~0.5cmの繩定量、3~14cmの繩混じる)
- 29 IOYR4/3にびい黄褐色色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、1~5cmの繩、炭、焼土粒混じる)
- 30 IOYR4/3にびい黄褐色色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、0.2~0.5cmの繩、約1cmの繩、炭粒少し混じる)
- 31 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロックやや多く、IOYR6/2灰褐色色砂質土、0.3~0.5cmの繩、1~4cmの繩、炭粒少し混じる)
- 32 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土シルト(やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、約1cmの繩、炭少し、0.3~0.6cmの繩混じる)
- 33 IOYR4/3にびい黄褐色色シルト(粘性あり、軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック/IOYR5/3にびい黄褐色色砂質土やや多く、3~5cmの繩、約1cmの繩混じる)
- 34 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや硬い、IOYR6/2灰褐色色砂質土少し、0.2~0.8cmの繩混じる)
- 35 IOYR2/2黑褐色シルト(やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック・1~2cmの繩少し混じる)
- 36 IOYR3/3褐褐色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック・IOYR4/4褐色砂質土、1~2cmの繩少し、0.3~0.6cmの繩混じる)
- 37 IOYR5/6黄褐色粘質土(ややまろ、IOYR4/1褐灰色シルトブロック・チップ、2~3cmの繩混じる)
- 38 IOYR5/1褐灰色粘質土(ややまろ、IOYR4/1褐灰色シルトチップ、0.2~0.3cmの繩少量、2~3cmの繩混じる)
- 39 IOYR4/2灰褐色色砂質土(ややまろ、2~3cmの繩、鉄分混じる)
- 40 IOYR5/3にびい黄褐色色砂質土(10YR6/3にびい黄褐色ブロック、1~2cmの繩、炭少し混じる)
- 41 IOYR4/2灰褐色色砂(軟い、IOYR5/2灰褐色色砂質土、にびい黄褐色シルトブロック・炭粒少し、鉄分混じる)
- 42 IOYR3/2黑褐色粘質シルト(粘性小、やや軟い、IOYR4/3にびい黄褐色色砂・10YR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、2~3cmの繩少し混じる)
- 43 IOYR3/2黑褐色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト、0.2~0.5cmの繩、炭混じる)
- 44 IOYR4/2灰褐色色砂質土(軟い、IOYR3/2黑褐色シルト・10YR5/6黄褐色粘質シルトブロック少し、3.5cmの繩ごく少量混じる)
- 45 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(軟い、0.2~0.5cmの繩定量、約2cmの繩ごく少量混じる)
- 46 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや硬い、10YR6/4にびい黄褐色粘土ブロック・粒状ブロック、IOYR4/2灰褐色色砂質土・炭少し、0.2~0.5cmの繩定量、3~14cmの繩混じる)
- 47 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや硬い、IOYR3/2黑褐色シルト少し、10YR5/6黄褐色色シルト粒状ブロック、0.3~0.4cmの繩、1~3cmの繩、鉄分混じる)
- 48 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや硬い、IOYR5/4にびい黄褐色色シルトブロック・10YR3/2黑褐色粘質シルトブロック少し、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、3~7cmの繩、20cm以上の繩、炭少し混じる)
- 49 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック混じる)
- 50 IOYR3/2黑褐色シルト(粘性小、軟い、IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土大量、10YR5/4黄褐色粘質シルトブロック、0.5cm、約2cm、10cm以上上の繩混じる)
- 51 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック混じる)
- 52 IOYR5/3にびい黄褐色色砂質土(しまる、10YR4/3にびい黄褐色色砂質土大量、10YR5/6黄褐色色シルトブロック少し、鉄分混じる)
- 53 IOYR4/1褐灰色シルト(粘性小、ややまろ、IOYR3/4暗褐色粘質、IOYR5/6黄褐色粘質、IOYR6/3にびい黄褐色色シルトブロック・粒状ブロック、鉄分、約5cmの繩混じる)
- 54 IOYR4/2灰褐色色砂質土シルト(やや軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック少し、鉄分混じる)
- 55 IOYR4/4褐色粘質土(ややまろ、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック、鉄分混じる)
- 56 IOYR5/3にびい黄褐色色砂質土(やや軟い、しまりあまりなし、IOYR6/6明黄褐色粘質シルトブロック・炭少し、0.3~0.6cmの繩、1~2cmの繩混じる)
- 57 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土(やや軟い、IOYR3/2黑褐色シルト粒状ブロック微量、0.3~0.4cmの繩、1~3cmの繩ごく少量混じる)
- 58 IOYR4/4褐色粘質土(やや粗粗、IOYR4/3にびい黄褐色色シルトブロック混じる)
- 59 IOYR4/2灰褐色色砂質土(しまりなし、IOYR4/4褐色シルト、1~1.5cmの繩多く、鉄分混じる)
- 60 IOYR4/3にびい黄褐色粘質土(軟い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック少し混じる)
- 61 IOYR4/2灰褐色色シルト(粘性小、ややまろ、IOYR5/4にびい黄褐色色砂・2.5YS/6黄褐色粘質少し、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、1~2cmの繩少し混じる、鉄分沈着)
- 62 IOYR4/4褐色シルト(しまる、IOYR4/4褐色粗砂、IOYR6/3にびい黄褐色色シルトブロック、鉄分混じる)
- 63 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、軟い、IOYR4/4褐色シルト粒状ブロック少し混じる)
- 64 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR5/4にびい黄褐色色砂・IOYR4/4褐色シルト粒状ブロック、鉄分混じる)
- 65 IOYR3/2褐褐色シルト(硬い、IOYR5/2灰褐色色砂多く、IOYR4/4褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック・10YR3/2黑褐色シルト粒状ブロック少し、1~3cmの繩混じる)
- 66 IOYR4/4褐色砂質土(硬い、IOYR4/2黑褐色シルト、炭粒少し、0.3~0.5cmの繩、1~2cmの繩混じる)
- 67 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや軟い、IOYR4/4褐色砂質土、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック混じる)
- 68 IOYR4/3にびい黄褐色色シルト(硬い、IOYR2/2灰褐色色砂質土、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック・10YR3/2黑褐色シルト少し、約0.5cmの繩、1~3cmの繩混じる)
- 69 IOYR4/3にびい黄褐色色シルト(硬い、IOYR6/2灰褐色色砂質土、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック・10YR3/2黑褐色シルト少し、炭粒少し、0.3~0.5cmの繩、1~3cmの繩混じる)
- 70 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土シルト(やや硬い、IOYR5/4にびい黄褐色色砂質土、IOYR6/6明黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、0.2~0.5cmの繩、1~5cmの繩混じる)
- 71 IOYR3/3暗褐色シルト(やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック、0.5~2cmの繩混じる)
- 72 IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土シルト(やや硬い、IOYR4/4にびい黄褐色色砂質土、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック・10YR3/2黑褐色シルト少し、炭粒少し、0.2~0.5cmの繩、1~5cmの繩混じる)
- 73 IOYR3/3暗褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR4/5にびい黄褐色色砂質土、0.5~1cmの繩混じる)
- 74 IOYR3/3暗褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR2/2黑褐色粘質シルトブロック少し、0.3~0.5cmの繩、1~4cmの繩混じる)
- 75 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・5~6cmの繩少し混じる)
- 76 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、軟い、IOYR4/3にびい黄褐色色砂・IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少し、炭粒少し混じる)
- 77 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少し、1~2cmの繩少し混じる)
- 78 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少く、1~2cmの繩ごく少量混じる)
- 79 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロック混じる)
- 80 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い)
- 81 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック混じる)
- 82 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック多く、炭混じる)
- 83 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・2~4cmの繩ごく少量混じる)
- 84 IOYR3/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR4/3にびい黄褐色色砂質土多く、約0.5cmの繩、1~3cmの繩混じる)
- 85 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色シルトブロック・粒状ブロック少し、炭粒少し混じる)
- 86 IOYR4/3にびい黄褐色色砂(やや軟い、IOYR5/6黄褐色シルトブロック、IOYR2/2黑褐色シルト少し混じる)
- 87 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック多く、0.5~0.6cmの繩ごく少量混じる)
- 88 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、軟い)
- 89 IOYR3/2黑褐色シルト(粘性小、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少し混じる)
- 90 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性小、軟い、IOYR4/3にびい黄褐色色砂少し混じる)
- 91 IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少し混じる)
- 92 黒ボタル
- 93 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性あり、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルト粒状ブロックごく少量混じる)
- 94 IOYR2/2黑褐色シルト(粘性少、やや硬い、IOYR5/6黄褐色粘質シルトブロック・粒状ブロック少し混じる)

2012-21-2 教育学部分館北壁

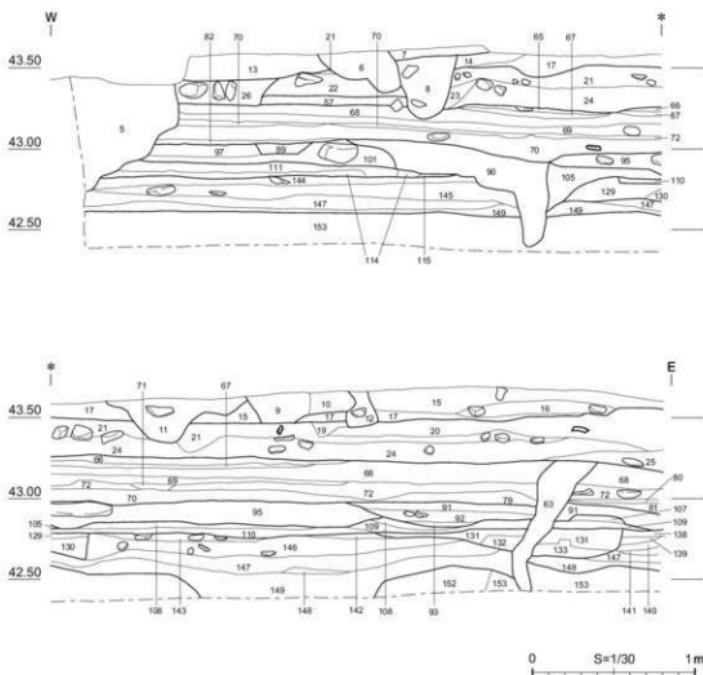


2012-21-3 東オイルタンク西壁



第87図 土層断面図 教育学部分館北壁、東オイルタンク西壁 (S=1/30)

2012-20 東オイルタンク北壁



2012-20, 2012-21-2, 2012-21-3 共通

I	Ⅲb ~ Ⅳc	Ⅳb ~ Ⅴc
1, 2, 3 ~ 4, 5,	58 ~ 61 道情	118 P15
6, 7, 8, 9 ~ 10,	Ⅳc	Ⅳc
11, 12 道標	62, 63 道標	119 ~ 123, 124,
13 ~ 17 整地土	64 ~ 86 整地土	125 ~ 126, 127,
Ⅲa	I ~ Ⅳa	128, 129 ~ 130,
18 ~ 25 整地土	87 SD17	131 ~ 132 道標
I ~ Ⅲa ~ Ⅲb	Ⅳa	134 ~ 150 整地土
26 道標	88, 89, 90,	Va
27 ~ 33 SK38	91 ~ 93 道標	151 ~ 154 地山
34 SM40	94 ~ 101 整地土	Vb
Ⅲb	Ⅳb	155 ~ 156 地山
35 ~ 48 SK11	102, 103 ~ 104,	Vc
49 ~ 54 SD08	105 道標	157 地山
55 ~ 57 整地土	106 ~ 117 整地土	

第88図 土層断面図 東オイルタンク北壁 (S=1/30)

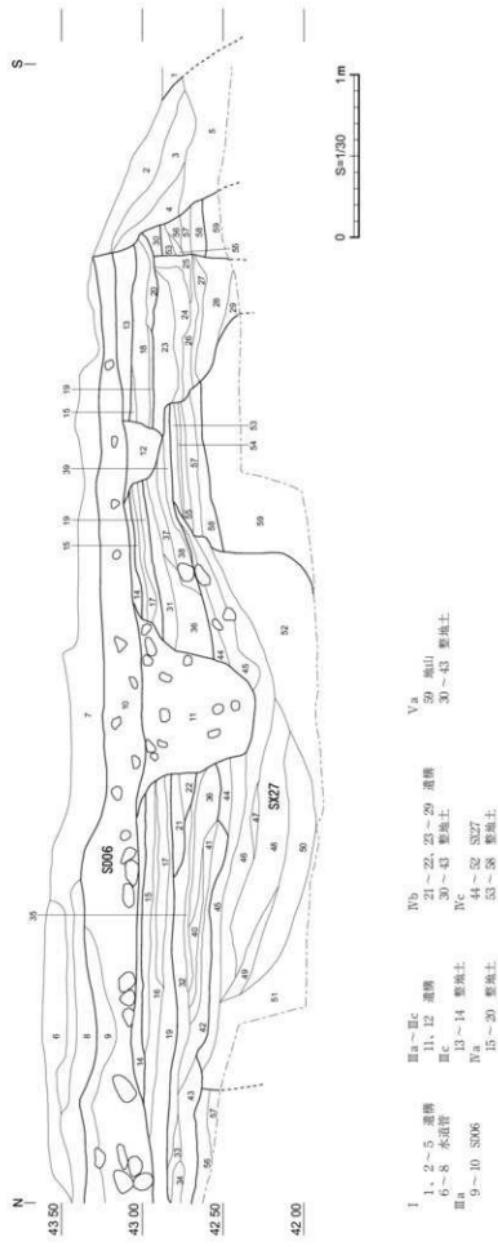
\*2012-20、2012-21-2、2012-21-3 共通

- 1 IORYR4/2 潟底黄褐色土（軟い、IORYR2/2 黒褐色土、IORYR4/4 黑褐色粘質土プロック混じる）
- 2 IORYR3/2 黑褐色シルト（硬い、IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック、1 ~ 10 cm の繊多く、炭粒、コンクリート片、繊維混じる）
- 3 IORYR3/2 黑褐色砂質土（硬い、約 1 cm の繊、鉄分混じる）
- 4 IORYR3/2 黑褐色砂質土シルト（硬い、1 ~ 3 cm の繊混じる）
- 5 IORYR4/2 砂黄褐色土（1 ~ 10 cm の繊、特に 1 ~ 2 cm の繊多く、鉄分混じる）
- 6 IORYR3/3 喀褐色土（硬い、IORYR5/6 黄褐色粘質土プロック、1 ~ 2 cm の繊混じる）
- 7 IORYR6/6 明黄褐色細粒質土
- 8 IORYR3/3 喀褐色土（1 ~ 2 cm の繊多く、約 0.5 cm の繊、コンクリート片混じる）
- 9 IORYR3/3 にぶい黄褐色砂質土（2.5Y6/3 にぶい黄色シルトプロック、IORYR5/6 黄褐色シルトプロック少し、1 cm 以下の繊混じる）
- 10 IORYR4/4 黄褐色砂質土（硬い、IORYR6/3 にぶい黄褐色粘質土プロック、約 1 cm の繊多く、炭粒少し混じる）
- 11 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土（軟い、IORYR4/4 黄褐色砂質土大量混じる）
- 12 IORYR4/4 黄褐色砂質土（IORYR4/4 黄褐色粘質土プロック少し、IORYR2/3 黑褐色シルトプロック少し、1 cm 以下の繊混じる）
- 13 IORYR3/3 喀褐色砂質土（やや軟い、1 ~ 2 cm の繊多く混じる）
- 14 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土（約 2 cm の繊混じる）
- 15 IORYR4/4 黄褐色砂質土（硬い、IORYR6/3 にぶい黄褐色粘質土プロック、約 1 cm の繊多く、炭粒少し混じる）
- 16 IORYR3/3 喀褐色シルト（硬い、IORYR5/6 黄褐色シルトプロック多く、3 ~ 5 cm の繊定混じる）
- 17 IORYR4/4 黄褐色砂質土（硬い、IORYR6/3 にぶい黄褐色粘質土プロック、約 1 cm の繊、炭粒少し混じる）
- 18 2.5Y5/4 黄褐色砂質土（硬い、IORYR3/2 黑褐色シルト筋状、1 ~ 5 cm の繊定混、特に 1 ~ 2 cm の繊多く混じる）
- 19 IORYR3/3 喀褐色シルト（埴粒状プロック少し、炭粒少し混じる）
- 20 IORYR4/2 黄褐色シルト（硬い、IORYR2/3 黑褐色シルトプロック、IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、炭粒多く、埴粒状プロック混じる）
- 21 IORYR3/3 喀褐色砂質土（硬い、2.5Y6/3 にぶい黄色シルトプロック少し、埴粒状プロック混じる）
- 22 IORYR3/3 にぶい黄褐色砂質土（硬い、IORYR5/3 にぶい黄褐色粘質土プロック定量、4 ~ 5 cm の繊、炭粒、鉄分少し混じる）
- 23 IORYR3/3 喀褐色土（硬い、IORYR5/3 にぶい黄褐色粘質土プロック少し混じる）
- 24 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土（やや軟い、IORYR5/3 にぶい黄褐色粘質土プロック定量、IORYR6/3 にぶい黄色粘質土シルトプロック（粘性弱）、4 ~ 5 cm の繊、炭粒、鉄分少し混じる）  
2012-31: 196 番、2012-18: 37 番に対応
- 25 IORYR3/3 喀褐色シルト（硬い、IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック、鉄分、紡少し混じる）
- 26 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土（やや軟い、2 ~ 3 cm の繊混じる）
- 27 IORYR4/2 潟底黄褐色土（IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、2 ~ 5 cm の繊、10 ~ 15 cm の繊、炭粒、鉄分混じる）  
2012-31: 29 番に対応
- 28 IORYR4/2 潟底黄褐色土（IORYR4/3 にぶい黄褐色シルトプロック、2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土プロック、約 5 cm ~ 約 15 cm の繊、炭粒、鉄分分混じる）
- 29 IORYR4/2 潟底黄褐色土（IORYR3/2 黑褐色粘質土プロック、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、1 ~ 5 cm の繊、10 cm 以上の繊、炭粒、鉄分分混じる）  
2012-31: 30 番に対応
- 30 IORYR3/2 黑褐色砂質土（IORYR6/3 にぶい黄褐色シルト、鉄分少し混じる）  
2012-31: 30 番に対応
- 31 IORYR5/3 潟底黄褐色砂質土シルト（粘性小、IORYR4/4 黄褐色砂質土、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、約 2 cm の繊少し、鉄分混じる）  
2012-31: 34 番に対応
- 32 IORYR3/2 黑褐色砂質土（硬い、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、IORYR4/4 黄褐色砂質土、2 ~ 5 cm の繊、10 cm 以上の繊定混、鉄分、炭粒混じる）  
2012-31: 34 番に対応
- 33 IORYR4/2 黄褐色粘質土（軟い、IORYR4/2 黄褐色砂質土、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、3 ~ 5 cm の繊混じる）  
2012-31: 48 番に対応
- 34 IORYR4/2 黄褐色砂質土（やや軟い、0.5 cm 以下の小繊多く、1 ~ 5 cm の繊定混じる）
- 35 IORYR4/3 にぶい黄褐色土（IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、1 ~ 2 cm の繊、炭粒少し、10 cm 以上の繊混じる）
- 36 IORYR4/3 にぶい黄褐色土（IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、IORYR5/4 にぶい黄褐色土少し、約 5 cm の繊、炭粒、鉄分混じる）
- 37 IORYR4/2 黄褐色砂質土（やや軟い、IORYR4/3 にぶい黄褐色シルトプロック、3 ~ 5 cm の繊少し、炭粒、鉄分混じる）
- 38 IORYR4/2 黄褐色粘質土（軟い、IORYR3/2 黑褐色粘質シルト大量、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、約 2 ~ 5 cm の繊、炭粒、鉄分混じる）
- 39 IORYR4/2 黄褐色粘質土（IORYR5/6 黄褐色砂質土、約 1 cm の繊少し、炭粒、鉄分混じる）
- 40 IORYR4/3 黑褐色粘質土（IORYR4/4 黑褐色シルト少し、約 10 cm の繊、1 ~ 2 cm の繊、炭粒、鉄分混じる）
- 41 IORYR4/2 黄褐色砂質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、鉄分大量混じる）
- 42 IORYR4/2 黄褐色粘質土（IORYR5/4 にぶい黄褐色粘質土プロック、炭粒混じる）
- 43 IORYR5/6 黄褐色砂質土（軟い、IORYR4/2 黄褐色粘質土プロック、鉄分多く混じる）
- 44 IORYR2/2 黑褐色粘質土（粘性あり、硬い、1 ~ 2 cm の繊、炭粒混じる）
- 45 IORYR4/2 黄褐色粘質土（IORYR4/4 黄褐色シルトプロック、炭粒混じる、約 5 cm の繊、鉄分混じる）
- 46 IORYR4/2 黄褐色粘質土（IORYR4/4 黄褐色砂質土、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、炭粒少し、鉄分混じる）
- 47 IORYR4/2 潟底黄褐色粘質シルト（粘性あり、やや軟い、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、IORYR3/2 黑褐色砂質土、少し、炭粒、鉄分混じる）
- 48 IORYR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性あり、軟い、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック少し、1 ~ 5 cm の繊混じる）  
2012-31: 49 番に対応
- 49 IORYR4/2 黄褐色粘質土（しまりややなし、やや軟い、IORYR4/4 黄褐色砂質土（しまりややなし、やや軟い、IORYR5/4 にぶい黄褐色砂質土、鉄分少し、1 ~ 4 cm の繊混じる）
- 50 IORYR3/3 喀褐色砂質土（しまりややなし、やや軟い、IORYR2/2 黑褐色砂質土大量、IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、2 ~ 5 cm の繊混じる）
- 51 IORYR2/2 潟底黄褐色砂質土（しまりややなし、やや軟い、IORYR2/2 黑褐色シルトプロック、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、2 ~ 5 cm の繊少し混じる）
- 52 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土（しまりややなし、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、1 ~ 5 cm の繊混じる）
- 53 IORYR4/2 黄褐色粘質土シルト（しまりややなし、IORYR2/2 黑褐色シルト大量、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック、1 ~ 2 cm の繊、10 ~ 15 cm の繊、鉄分混じる）
- 54 IORYR4/2 潟底黄褐色砂質土シルト（下方ほど粘性が強い、鉄分、炭粒、2 ~ 3 cm の繊少し混じる）
- 55 IORYR4/2 潟底黄褐色砂質土シルト（硬い、IORYR2/2 黑褐色シルト、1 ~ 3 cm の繊定混、鉄分混じる）
- 56 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土シルト（硬い、IORYR3/2 黑褐色シルトプロック、1 ~ 5 cm の繊定混、鉄分混じる）
- 57 IORYR3/3 喀褐色砂質土（硬い、3 ~ 5 cm の繊混じる）
- 58 IORYR4/4 潟底黄褐色砂質土（やや軟い、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、約 10 ~ 15 cm の繊、鉄分混じる）
- 59 IORYR4/2 黄褐色砂質土エュシルト（粘性小、軟い、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、IORYR2/2 黑褐色シルト少し、鉄分混じる）
- 60 IORYR4/2 黄褐色砂質土エュシルト（粘性少、IORYR6/3 にぶい黄褐色シルト少し混じる）
- 61 IORYR3/3 喀褐色砂質土シルト（粘性あり、しまりややなし、軟い、IORYR2/2 黑褐色シルトプロック、IORYR5/4 にぶい黄褐色シルトプロック）  
2012-31: 29 番に対応
- 62 IORYR4/6 黄褐色砂質土（10YR3/2 黑褐色シルト粒状プロック、1 ~ 2 cm の繊混じる）
- 63 IORYR5/3 にぶい黄褐色砂質土（软い、下手分に根張る）
- 64 IORYR4/4 黄褐色砂質土（しまりややなし、やや軟い、0.5 cm 以下の小繊多く、1 ~ 5 cm の繊、鉄分混じる）
- 65 IORYR3/3 にぶい黄褐色砂質土（硬い、2.5Y6/3 にぶい黄褐色シルトプロック、鉄分混じる）
- 66 IORYR3/3 にぶい黄褐色砂質土（硬い、2.5Y6/3 にぶい黄褐色シルト多く、鉄分混じる）
- 67 IORYR4/3 にぶい黄褐色シルト（硬い）
- 68 IORYR4/3 にぶい黄褐色砂質土シルト（硬い、1 ~ 2 cm の繊定混、鉄分混じる）  
2012-31: 29 番に対応
- 69 IORYR5/3 にぶい黄褐色砂質土シルト（硬い、1 ~ 3 cm の繊定混じる）  
2012-31: 29 番に対応
- 70 IORYR4/2 黄褐色砂質土シルト（やや硬い、炭粒微量、1 ~ 2 cm の繊混じる）
- 71 IORYR3/3 喀褐色シルト（IORYR5/3 にぶい黄褐色シルトプロック少し、鉄分混じる）
- 72 IORYR4/2 黄褐色砂質土シルト（硬い、喀褐色シルトプロック少し、鉄分少し、炭粒、2 ~ 3 cm の繊混じる）
- 73 IORYR5/4 にぶい黄褐色砂質土シルト（硬い、10 cm の繊少し混じる）
- 74 IORYR5/4 にぶい黄褐色砂質土シルト（粒子細かめ、やや硬い、IORYR3/2 黑褐色シルト混じる）

2012-20、2012-21-2、2012-21-3 教育学部分館、東オイルタンク西壁・北壁 土層注記 1

- 75 10YRA/4 黄褐色砂質土  
 76 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土（硬い、1～2cmの難定量、鉄分混じる）  
 77 10YR5/6 黄褐色砂質土（硬い、4～5cmの難混じる）  
 78 10YR3/3 砂褐色シルト（硬い、約2cmの難混じる）  
 79 10YR5/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬い、約1cmの難多く、2～3cmの難定量混じる）  
 80 10YR4/4 黄褐色シルト（硬い）  
 81 10YR4/2 黄褐色砂質土～シルト（硬い、10YR4/3にふい黄褐色シルトプロック少し混じる）  
 82 10YR4/2 黄褐色砂質土～シルト（硬い、2～5cmの難定量、鉄分、炭酸混じる）  
 83 10YR5/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬く硬化している、2～3cmの難多く、鉄分混じる）  
 84 10YR5/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬い、10YR5/4にふい黄褐色粘質シルトプロック少し、約1～2cmの難混じる）  
 85 10YR2/2 黑褐色シルト（硬い、10YR5/3にふい黄褐色シルトプロック、1～2cm・約5cmの難混じる）  
 86 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土（硬い、鉄分混じる）  
 87 10YR4/2 黄褐色土色土（10YR2/2 黑褐色土大量、10YR4/6 黄褐色シルト、鉄分混じる）  
 88 10YR4/3 にふい黄褐色シルト（10YR5/2 黄褐色シルトプロック、鉄分混じる）  
 89 25Y3/2 にふい黄褐色シルト（やや軟い、25Y6/2 黄褐色シルトプロック、2～3cmの難混じる）  
 90 10YR4/3 にふい黄褐色シルト（やや軟い、10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック、10YR2/2 黄褐色粘質シルトプロック、10YR3/2 黑褐色シルトプロック、2～5cmの難定量混じる）  
 91 10YR3/2 黑褐色シルト（硬い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、2～5cmの難少し混じる）  
 92 25Y3/2 黑褐色シルト（硬い、25Y6/2 黄褐色シルトプロック、10YR4/4 黄褐色シルトプロック少し、炭酸少し混じる）  
 93 25Y3/2 黑褐色シルト（やや軟い、10YR4/3 にふい黄褐色シルト混じる）  
 94 10YR4/4 黄褐色砂質土（やや軟い、0.5cm以下の小難多く、1～2cmの難少し混じる）  
 95 10YR3/3 黄褐色シルト（硬い、10YR5/3 にふい黄褐色シルトプロック少し、2～5cmの難少し、炭酸、鉄分少し混じる）  
 96 25Y3/3 黄褐色砂質土～シルト（硬く硬化している、1～2cm・約5cmの難、1～2cmの難混じる）  
 97 25Y3/3 黄褐色砂質土～シルト（硬い、25Y6/3 にふい黄褐色シルトプロック、1～2cmの難少し混じる）  
 2012-33-384層、2012-34-192層に対応  
 98 10YR4/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬い、1～2cmの難、鉄分、炭酸少し混じる）  
 99 10YR3/2 黑褐色砂質土～シルト（硬い、1～2cmの難混じる）  
 100 10YR2/2 黑褐色シルト（硬い、10YR4/3 にふい黄褐色砂質土、鉄分混じる）  
 101 10YR4/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬い、1～3cmの難、鉄分混じる）  
 2013-33-402層、2013-34-200層に対応  
 102 10YR2/2 黑褐色シルト（硬い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、鉄分少し混じる）  
 103 10YR2/2 黑褐色シルト（软い、10YR4/4 黄褐色シルトプロック混じる）  
 104 10YR2/2 黑褐色シルト（软い、10YR4/4 黄褐色シルトプロック少し混じる）  
 105 10YR4/3 にふい黄褐色シルト（10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック、10YR5/4 にふい黄褐色砂質土、鉄分少し混じる）  
 106 10YR4/4 黄褐色砂質土（やや軟い、10YR2/2 黑褐色シルトプロック、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、1～2cmの難少し混じる）  
 107 25Y6/3 にふい黄褐色砂質土（少し粗粒い、硬い）  
 108 10YR4/3 にふい黄褐色シルト（鉄分少し混じる）  
 109 10YR4/3 にふい黄褐色シルト（やや軟い、10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック、鉄分少し混じる）  
 110 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性あり、硬い、10YR2/2 黑褐色シルト、鉄分少し混じる）  
 111 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土～シルト（硬い、10YR2/2 黑褐色シルト構成、10YR5/3 にふい黄褐色砂、2～3cmの難、炭酸少し、鉄分構成に混じる）  
 112 10YR4/3 黄褐色シルト（硬い、10YR2/2 黑褐色シルト少し、10YR5/3 にふい黄褐色シルト、約0.5cmの難混じる）  
 113 10YR2/1 黑褐色シルト（粘性小、しまり感、硬い、10YR5/4 にふい黄褐色粘土、10YR3/2 黑褐色砂質土、鉄分少し混じる）  
 114 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性あり、硬い、10YR2/2 黑褐色シルト混じる）  
 2012-33-404層に対応  
 115 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性あり、10YR2/2 黑褐色シルト混じる）  
 116 10YR4/3 にふい黄褐色砂質土～シルト（やや軟い、10YR2/2 黑褐色シルト少し混じる）
- 117 10YR4/3 漢黄褐色シルト（硬い、10YR2/2 黑褐色シルト多く、10YR5/3 にふい黄褐色シルト、約0.5cmの難混じる）  
 118 10YR2/2 黑褐色シルト（软い、10YR4/4 黄褐色シルト、1～2cmの難少しうる）  
 119 10YR2/2 黑褐色シルト（软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック少し混じる）  
 120 10YR2/2 黑褐色シルト（软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック混じる）  
 121 10YR5/4 漢にふい黄褐色シルト（软い、10YR2/2 黑褐色シルト・鉄分少し混じる）  
 122 10YR2/2 黑褐色シルト（しまりなし、非常に软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、炭酸少し混じる）  
 123 10YR5/4 漢にふい黄褐色シルト（しまりなし、非常に软い、10YR2/2 黑褐色シルト少し混じる）  
 124 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR4/2 黄褐色粘質シルトプロック多く、鉄分混じる）  
 125 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック多く混じる）  
 126 10YR2/2 黄褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック少し、25Y5/4 黄褐色細砂質土プロック多く混じる）  
 127 10YR2/2 黄褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック多く混じる）  
 128 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、鉄分混じる）  
 129 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック、約10cmの難、2～3cmの難少し混じる）  
 130 10YR5/3 にふい黄褐色砂～シルト  
 131 10YR2/2 黑褐色シルト（粘性小、10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック、10YR2/2 黑褐色シルトプロック、炭酸少し、鉄分混じる）  
 132 10YR2/2 黑褐色シルト（粘性小、10YR5/4 にふい黄褐色砂、10YR2/2 黑褐色シルト粘粒土プロック少し、鉄分混じる）  
 133 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土（10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック、10YR2/2 黑褐色シルトプロック、鉄分混じる）  
 134 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック多く混じる）  
 135 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 136 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック多く混じる）  
 137 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 138 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（硬い、粘性あり、10YR2/2 黑褐色粘質シルト多く混じる）  
 139 25Y6/3 にふい黄褐色砂質土（鉄分混じる）  
 140 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性あり、鉄分混じる）  
 141 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性あり、10YR2/2 黑褐色シルト粘粒土プロック少し、鉄分混じる）  
 142 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルトプロック少し混じる）  
 143 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 144 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 145 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 146 10YR2/1 黑褐色シルト（やや软い、10YR2/1 黑褐色シルトプロック少し、1～3cmの難混じる）  
 147 10YR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性小、やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト大量、鉄分混じる）  
 2012-33-429層に対応  
 148 10YR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性小、やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック少し、鉄分混じる）  
 149 10YR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性あり、软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト混じる）  
 150 10YR2/2 黑褐色シルト（やや软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルトプロック少し混じる）  
 151 10YR2/2 黑褐色シルト（10YR4/6 黄褐色シルトプロック少し混じる）  
 152 10YR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性あり、软い）  
 153 10YR2/2 黑褐色粘質シルト（粘性あり、やや软い、10YR4/4 黄褐色シルト混じる）  
 2012-33-441層に対応  
 154 10YR4/2 漢灰黒褐色砂質シルト（粘性あり、软い、10YR5/4 にふい黄褐色シルト、鉄分混じる）  
 155 10YR4/6 漢黄褐色シルト（10YR2/2 黑褐色シルト、約10cmの難混じる）  
 156 10YR5/4 にふい黄褐色粘質シルト（粘性小、软い、10YR4/2 黄褐色シルト、10cm以上の難、約5cmの難混じる）  
 157 10YR4/4 漢黄褐色砂質～シルト（粘性小、软い、10YR4/2 黄褐色シルト少し混じる）

2012-19 東オイルタンク東壁



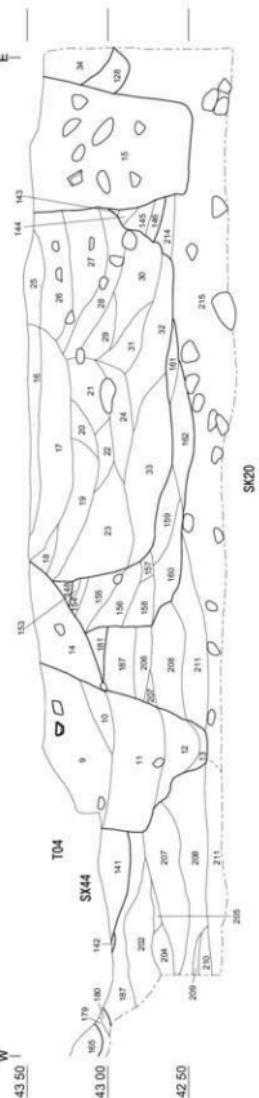
第89図 土層断面図 東オイルタンク東壁 (S=1/30)

- 1 10YR2/1 黒色土（しまりなし、10YR5/4 に近い黄褐色砂、1~5cmの  
礫少量混じる）
- 2 10YR4/1 黑褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックまばらに、  
5~15cmの礫混じる）
- 3 10YR4/4 黑褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックまばらに、  
5~15cmの礫少量、炭泥じる）
- 4 10YR5/4 に近い黄褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、  
約5cmの礫少混じる）
- 5 10YR5/4 に近い黄褐色土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、  
10YR5/2 黄褐色粘土チップ、約1~5cmの礫混じる）
- 6 10YR5/4 に近い黄褐色砂質土（しまりなし、1~10cmの礫、コンクリー  
ト大量、瓦少量混じる）
- 7 10YR4/4 黑褐色土（しまりなし、1~10cmの礫部分的に、コンクリー  
ト大量、瓦・レンガ片大量混じる）
- 8 10YR5/4 に近い黄褐色砂質土（しまりなし、10YR5/6 黄褐色粘土ブロッ  
クまばらに、5~10cmの礫大量、瓦、レンガ片大量混じる）
- 9 10YR4/4 黄褐色粘土質土（ややしまる、瓦、灰瓦まばらに混じる。）
- 10 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、5~20cmの礫大量、焼瓦  
まばらに、炭泥じる）
- 11 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、5~20cmの礫大量、焼瓦、  
炭泥じる）
- 12 10YR4/2 黄褐色土（ややしまる、約5cmの礫、炭少量混じる）
- 13 10YR4/6 黑褐色土（ややしまる、1~5cmの礫、炭混じる）
- 14 10YR4/6 黄褐色砂質土（ややしまる、約0.5~1cmの粗砂大量、焼瓦混  
じる）
- 15 10YR5/2 黄褐色土（ややしまる、2~4cmの礫、炭少量混じる）
- 16 10YR5/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、約0.2~0.4cmの粗砂  
混じる）
- 17 10YR4/6 黄褐色砂質土（ややしまる、約2~10cmの礫、約0.2  
~0.4cmの粗砂混じる）
- 18 10YR5/2 黄褐色土（ややしまる、約5~10cmの礫、0.2~  
0.4cmの粗砂、炭混じる）
- 19 10YR6/2 黄褐色土（ややしまる、2~5cmの礫、炭少量混じる）
- 20 10YR6/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、2~5cmの礫少量、  
0.2~0.4cmの粗砂混じる）
- 21 10YR5/6 黄褐色粘土質土（しまる、炭少量混じる）
- 22 10YR5/6 黄褐色粘土質土（しまる）
- 23 10YR3/1 黑褐色シルト（ややしまる、10YR5/6 黄褐色シルトブロック  
多く混じる）
- 24 10YR3/1 黑褐色シルト（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土少し、約2  
cmの礫や多く混じる）
- 25 10YR6/1 黑褐色シルト（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土少量混じる）
- 26 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、  
2~5cmの礫少し、粗砂多々混じる）
- 27 10YR3/1 黑褐色シルト（ややしまる、10YR5/6 黄褐色シルトチップ、  
粘土チップ混じる）
- 28 10YR3/2 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色シルトチップ、  
粘土チップ、1~5cmの礫少量混じる）
- 29 10YR2/2 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色シルトチップ、  
粘土チップ少量混じる）
- 30 10YR2/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR6/1 黑褐色シルトブロック、  
10YR5/6 黄褐色粘土少量混じる）
- 31 10YR3/1 黑褐色シルト（ややしまる、10YR5/6 黄褐色シルトブロック、  
粘土ブロック混じる）
- 32 10YR5/6 黄褐色粘土質土（しまる、炭少量混じる）
- 33 10YR4/2 黄褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色シルトブロック、  
10YR5/6 黄褐色粘土ブロック混じる）
- 34 10YR5/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ少  
量混じる）
- 35 10YR6/6 明黄褐色粘土（しまる）
- 36 10YR5/2 黄褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色シルトチップ、粘  
土ブロック、約5cmの礫少量混じる）
- 37 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、  
約2~5cmの礫少量混じる）
- 38 10YR4/2 黄褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ少し、  
10YR2/1 黑褐色シルトブロック多く混じる）
- 39 10YR6/6 明黄褐色粘土（しまる）
- 40 10YR6/1 黑褐色粘土質土（しまる、10YR6/1 黑褐色シルトブロック混じる）
- 41 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR6/1 黑褐色シルトブロック、  
チップ少量混じる）
- 42 10YR6/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR6/1 黑褐色シルトブロッ  
ク多量、2~5cmの礫多量、灰瓦まばらに混じる）
- 43 10YR6/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR2/1 黑褐色シルトブロック多く、  
2~5cmの礫多く混じる）
- 44 10YR4/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR6/1 黑褐色シルトブロック  
少量、炭少量混じる）
- 45 10YR3/2 黑褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ、10YR6/1  
黑褐色シルトブロック多量、2~5cmの礫、炭少量混じる）
- 46 10YR3/2 黑褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップ・チップ、  
10YR6/1 黑褐色シルトブロック・チップ多量混じる）
- 47 10YR4/6 黑褐色砂質土（ややしまる、0.5~1cmの粗砂大量混じる）
- 48 10YR3/2 黑褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・チップ、  
10YR5/3 に近い黄褐色粘土質土（しまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック  
大大量混じる）
- 49 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック  
まばらに混じる）
- 50 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック  
まばらに混じる）
- 51 10YR4/2 黄褐色粘土質土（粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/4 に  
近い黄褐色粘土・10YR4/1 黑褐色粘土少し、10YR2/1 黑色シルトブロッ  
ク多く、1~5cmの礫、鉄分多く混じる）
- 52 10YR4/4 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック、  
10YR6/1 黑褐色シルトブロック、炭少量混じる）
- 53 10YR4/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・  
チップ多量混じる）
- 54 10YR2/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック混じる）
- 55 10YR5/2 黄褐色粘土質土（ややしまる、0.5~1cmの粗砂大量混じる）
- 56 10YR3/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック、  
10YR6/1 黑褐色シルトブロック大量、約2~5cmの礫少量混じる）
- 57 10YR2/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・チ  
ップ混じる）
- 58 10YR2/1 黑褐色粘土質土（ややしまる、10YR5/6 黄褐色粘土チップまば  
らに少量混じる）
- 59 10YR1/7/1 黑色粘土（粘性大、しまり密、硬い、鉄分ごく少量混じる）

2012-21-1 西オイルタンク北壁①

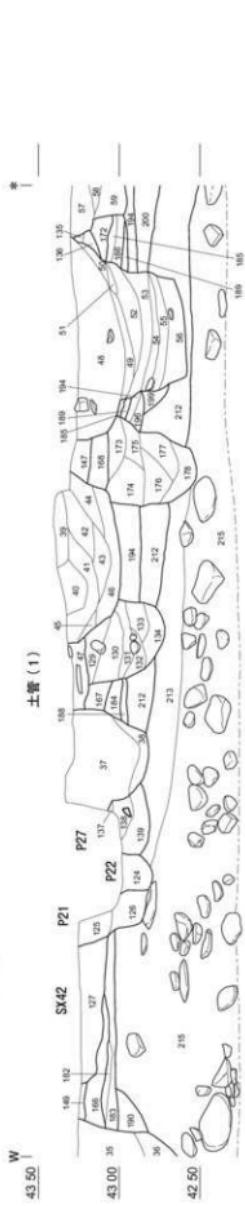


2012-22 西オイルタンク北壁②

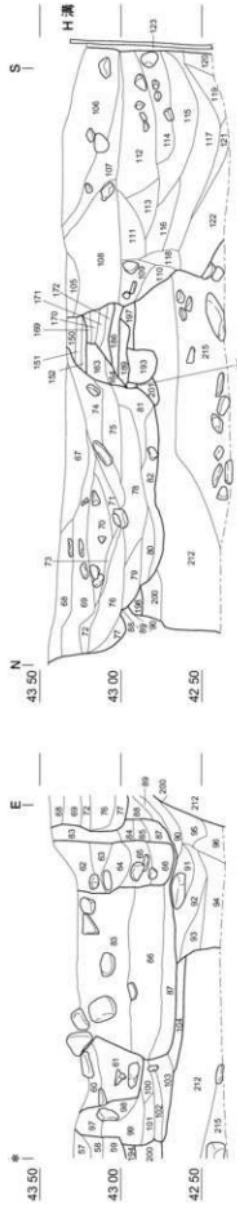


第90回 土層断面図 西オイルタンク北壁 1 (S=1/30)

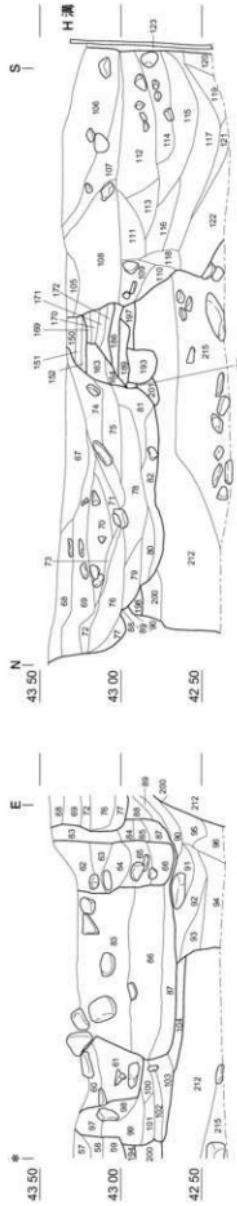
2012-23-1 西オイルタンク北壁③



2012-23-1 西オイルタンク北壁③ 2



2012-23-2 西オイルタンク東壁



2012-21-1, 2012-22, 2012-23-1, 2012-23-2 共通

- 1 10YR3-3 黒褐色粘土 (粘土質、  
しまり密、硬い、10YR4-4 黑褐色シルト  
粘土質多く混じる)
- 2 10YR2-1 黑褐色シルト (粘土質大、  
しまり密、硬い、10YR4-6 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 3 10YR3-1 黑褐色粘土 (粘土質、  
しまりやや密、硬い、10YR4-6 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 4 10YR4-6 黑褐色粘土 (粘土質少、  
しまりやや密、硬い、10YR4-6 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 5 10YR3-1 黑褐色粘土 (粘土質大、  
しまりやや密、硬い、10YR4-6 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 6 10YR4-4 黑褐色粘土 (粘土質小、  
しまり密、硬い、10YR4-2 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 7 10YR3-2 黑褐色粘土 (粘土質少、  
しまり密、硬い、10YR4-2 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 8 10YR3-2 黑褐色粘土 (粘土質少、  
しまり密、硬い、10YR2-1 黑褐色粘土シルト  
多く混じる)
- 9 10YR2-2 黑褐色粘土 (硬少量混じる)
- 10 10YR3-3 黑褐色粘土 (硬少量混じる)
- 11 10YR4-4 黑褐色粘土 (10YR5-6 黑褐色シルト  
粘土質多く混じる)
- 12 10YR4-4 黑褐色粘土 (黄褐色粘土シルト少、  
約2～3cmの層少量混じる)
- 13 10YR4-4 黑褐色粘土 (10YR5-6 黄褐色粘土シルト  
少、底少量混じる)
- 14 10YR3-3 黑褐色粘土 (粘土質少、  
しまり密、10YR4-6 黑褐色粘土少、  
1～2cmの層少量混じる)
- 15 10YR3-3 黑褐色粘土 (10YR4-3 黑褐色粘土少、  
1～2cmの層少量混じる)
- 16 10YR3-3 黑褐色粘土 (10YR4-3 黑褐色粘土少、  
1～2cmの層少量混じる)
- 17 10YR3-3 黑褐色粘土 (10YR4-3 黑褐色粘土少、  
1～2cmの層少量混じる)
- 18 10YR3-3 黑褐色粘土 (10YR4-3 黑褐色粘土少、  
1～2cmの層少量混じる)
- 19 10YR3-4 黑褐色粘土 (10YR5-6 黄褐色粘土シルト  
少、底少量混じる)
- 20 10YR3-4 黑褐色粘土 (10YR5-6 黄褐色粘土シルト少、  
底少量混じる)

第91図 土層断面図 西オイルタンク北壁 2・東壁 (S=1/30)

- 21 10YR3/4暗褐色粘土質 (10YR5/6 黄褐色粘土ブロック、約1~5cmの塊混じる)
- 22 10YR3/4暗褐色粘土質 (10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・10YR7/1灰白色シルトブロック少量混じる)
- 23 10YR3/4暗褐色粘土質 (10YR5/6 黄褐色粘土ブロック多量、約1~4cmの塊、炭多量混じる)
- 24 10YR3/3暗褐色粘土質 (10YR5/6 黄褐色粘土ブロック多量、約1~4cmの塊、黄褐色シルト・1~3cmの塊、炭少しだけ混じる)
- 25 10YR3/2黒褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/2灰黃褐色砂質土量、1~3cmの塊多く混じる)
- 26 10YR3/2黒褐色粘土質 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/2灰黃褐色砂質土量、炭少しだけ、1~15cmの塊多く混じる)
- 27 10YR3/2黒褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、硬い、7.5YR4/6褐色粘土ごく少量、10YR3/1 黑褐色シルトブロック多く、1~10cmの塊、炭やや多く混じる)
- 28 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、やや硬い、7.5YR4/6褐色粘土ごく少量、3~10cmの塊多く混じる)
- 29 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック、1~5cmの塊少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 30 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性大、しまりやや粗い、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、1~5cmの塊少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 31 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック・1~8cmの塊多く混じる)
- 32 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、1~3cmの塊、炭少しだけ混じる)
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質 (粘性大、しまり密、やや硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、1~10cmの塊、炭少しだけ混じる)
- 34 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、0.5cm以下の塊大量、1~9cmの塊大量混じる)
- 35 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック・1~10cmの塊多く混じる)
- 36 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまりや粗い、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック・5YR2/8灰白粘土ブロック・炭少しだけ、1~5cmの塊大量混じる)
- 37 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色粘土ブロック少し、215層土・1~5cmの塊大量混じる)
- 2011-6-1・2・31層に對応
- 38 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、やや軟い、10YR4/4褐色砂質土・約1cmの塊多く混じる)
- 39 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックごく少量、約2cmの塊大量混じる)
- 40 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・約2cmの塊少しだけ混じる)
- 41 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロックごく少量、1~6cmの塊多く、炭・灰・土ごく少量混じる)
- 42 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック・1~3cmの塊少しだけ、10YR2/1 黑褐色シルトブロックごく少量混じる)
- 43 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少し、1~3cmの塊多く混じる)
- 44 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1 黑褐色シルトブロック少し、1~2cmの塊やや多く混じる)
- 45 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや軟い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少し、1cm以下の塊、炭ごく少量混じる)
- 46 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック大量、2cm以下での塊、炭ごく少量混じる)
- 47 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまりやや粗い、軟い、1~3cmの塊多く混じる)
- 48 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや粗い、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少しだけ、5YR2/8灰白粘土ブロック多く、10cm以下の塊大量、炭ごく少量混じる)
- 49 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑褐色シルトブロック・1~5cmの塊少しだけ混じる)
- 50 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック多く、炭少しだけ混じる)
- 51 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック多く、炭少しだけ混じる)
- 52 25Y5/2 黄褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、10YR3/2 黑褐色粘土ブロックごく少量、1cm以下の塊ごく少量混じる)
- 53 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4褐色粘土ブロック少しだけ、10YR2/1 黑褐色シルトブロック少しだけ混じる)
- 54 10YR4/2 黄褐色粘土質 (やや細緻、粘性なし、しまり密、軟い、10YR3/2 黑褐色粘土ブロック少し、1~5cmの塊ごく少量混じる)
- 55 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック、約3cmの塊多く混じる)
- 56 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまりやや密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック大量、1~6cmの塊、炭少しだけ混じる)
- 57 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、1~5cmの塊少しだけ、炭・灰・土ごく少量混じる)
- 58 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、1~5cmの塊や多く、炭・灰・土少しだけ混じる)
- 59 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック多く、約3cmの塊、炭少しだけ、炭土ごく少量混じる)
- 60 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、7~20cmの塊大量、炭ごく少量混じる)
- 61 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、2~15cmの塊大量、炭ごく少量混じる)
- 62 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック多く、1~10cmの塊・炭少しだけ、褐瓦混じる)
- 63 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6褐色シルトブロック多く、約1cmの塊・炭少しだけ、褐瓦混じる)
- 64 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまりやや密、やや軟い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、6~12cmの塊少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 65 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや軟い、10YR4/6褐色シルトブロック・炭少しだけ、2~10cmの塊大量混じる)
- 66 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、約5cmの塊ごく少量混じる)
- 67 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6褐色シルトブロック大量、約1cmの塊・炭ごく少量混じる)
- 68 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまりやや密、やや軟い、10YR4/6褐色シルトブロック少しだけ、炭少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 69 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黑褐色シルトブロック・3~10cmの塊多く、0.5cmの塊大量、炭少しだけ混じる)
- 70 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、硬い、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック、炭少しだけ、0.5cmの塊大量、3~10cmの塊多く混じる)
- 71 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・2~12cmの塊多く、0.5cmの塊大量混じる)
- 72 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性小、しまり密、硬い、10YR7/3にぶい黄褐色シルトブロック少しだけ、10YR3/1 黑褐色粘土ブロック大量、0.5cmの塊やや多く混じる)
- 73 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性大、しまりやや粗い、やや軟い、10YR7/3にぶい黄褐色粘土ブロック少しだけ、0.5cmの塊多く混じる)
- 74 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまりやや密、硬い、10YR4/3褐色粘土小ブロック大量、5YR2/2 黄褐色粘土ブロック・0.5cmの塊・炭少しだけ、3~22cmの塊やや多く混じる)
- 75 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/3褐色粘土小ブロック多く、0.5cmの塊少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 76 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色粘土ブロック・0.5cmの塊多く、10YR3/1 黑褐色粘土ブロック・炭少しだけ、約9cmの塊混じる)
- 77 75Y3/2 黄褐色粘土質 (粘性小、しまりやや粗い、やや軟い、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、10YR3/1 黑褐色粘土ブロック大量、0.5cmの塊やや多く混じる)
- 78 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/3褐色粘土小ブロック大量、10YR2/1 黑褐色シルトブロック多く、1~4cmの塊少しだけ、炭ごく少量混じる)
- 79 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、25Y7/4 浅黄色粘土ブロック・約1cmの塊少しだけ、10YR3/3暗褐色粘土ブロックやや多く混じる)
- 80 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR7/4にぶい黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑褐色シルトブロック・1cm以下の塊少しだけ混じる)
- 81 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6褐色粘土ブロック大量、10YR2/1 黑褐色シルトブロック多く、1~6cmの塊やや多く混じる)
- 82 10YR3/1 黑褐色粘土質 (粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4褐色シルトブロック・10YR2/1 黑褐色シルトブロック大量、約8cmの塊混じる)
- 83 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、硬い、25Y6/6 明黄色粘土ブロック大量、10YR2/1 黑褐色シルトブロック少しだけ、1~20cmの塊大量混じる)
- 84 10YR3/3暗褐色粘土質 (粘性中、しまり密、やや硬い、25Y7/4 浅黄色粘土ブロック少しだけ、10YR2/1 黑褐色シルトブロックごく少量、約1cmの塊・炭少しだけ混じる)
- 85 10YR3/2 黑褐色粘土質 (粘性大、しまり密、やや軟い、25Y6/6 明黄色粘土ブロック多く、約1cmの塊少しだけ混じる)

- 86 10YR3/1 黒褐色粘質土。(粘性大、しまり密、硬い、25Y6/6 明黄褐色  
粘土ブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック大量、1~10cmの繩、  
燒土、炭少く混じる)
- 87 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、やや硬い、25Y6/6 明黄褐色  
粘土ブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック多く、1~5cmの繩、  
燒土、炭少く混じる)
- 88 10YR3/3 嫌褐色粘質土。(粘性小、しまり密、やや硬い、25Y6/4 にぶい  
黄色粘土多く、1~3cmの繩少し混じる)
- 89 10YR2/1 黑色シルト。(粘性小、しまりやや粗い、やや軟い、25Y6/4  
にぶい黄色粘土大量混じる)
- 90 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまりやや粗い、軟い、25Y6/4  
にぶい黄色粘土・89層ブロック多く、約3cmの繩少し混じる)
- 91 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、20cmの繩混じ  
る)
- 92 10YR3/1 黑褐色粘質土。(粘性大、しまりやや粗い、やや軟い、  
10YR4/6 黄褐色シルトブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック大量混じ  
る)
- 93 10YR2/1 黑色シルト。(粘性中、しまりやや粗い、やや硬い、10YR4/6  
黄褐色シルトブロック大量混じる)
- 94 10YR3/1 黑褐色粘質土。(粘性中、しまりやや粗い、やや軟い、  
10YR4/6 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、  
約20cmの繩ごく少量混じる)
- 95 10YR2/1 黑色シルト。(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色  
シルトブロック多く混じる)
- 96 10YR4/6 黄褐色土。(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR3/1 黑褐色  
粘質土・10YR2/1 黑色シルトブロック多く混じる)
- 97 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、25Y5/4 黄褐色  
粘質土ブロックごく少な、5cm以下の繩少し混じる)
- 98 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック少し、燒土、炭少く少量混じる)
- 99 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック多く混じる)
- 100 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック少し、燒土、炭少く少量混じる)
- 101 10YR3/1 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、やや軟い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロック少し混じる)
- 102 10YR4/6 黄褐色シルト。(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR3/1 黑褐色  
粘質土ブロック少し、燒土、炭少く少量混じる)
- 103 10YR2/1 黑褐色シルト。(粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック多く、燒土、炭少く少量混じる)
- 104 10YR3/1 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック大、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、約5cmの繩少  
し混じる)
- 105 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色  
粘土ブロック・1~2cmの繩多く、10YR3/2 黑褐色粘質土ブロック  
大量混じる)
- 106 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性小、しまりやや密、硬い、所々酸化  
して10YR4/2 黄褐色、25Y8/2 黄褐色粘土少し、0.5cmの繩、  
1~5cmの繩多量、炭少し混じる)
- 107 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性小、しまりやや粗い、硬い、所々酸化  
して10YR4/2 黄褐色、25Y8/2 黄褐色粘土少し、0.5cmの繩、  
1~5cmの繩多量、炭少し混じる)
- 108 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや密、やや硬い、10YR4/6  
黄褐色シルトブロック・0.5cmの繩大量、1~12cmの繩やや多く、炭  
少し混じる)
- 109 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまりやや密、やや軟い、10YR5/4  
にぶい黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック少  
し、5~13cmの繩多く混じる)
- 110 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック大量、約1cmの繩、炭、燒土ごく少量混じる)
- 111 10YR4/3 にぶい黄褐色土。(粘性中、しまりや粗い、軟い、10YR2/1  
黑色シルトブロックごく少な、0.5cmの繩多く、1~5cmの繩大量  
混じる)
- 112 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性中、しまりやや粗い、硬い、10YR5/4 にぶい  
黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロックごく少  
量、0.5cmの繩、2~12cmの繩大量混じる)
- 113 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや粗い、軟い、10YR5/4  
にぶい黄褐色粘土ブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロックごく  
少な、約7cmの繩混じる)
- 114 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4 にぶい  
黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロックごく少  
量、0.5cmの繩、2~13cmの繩の繩大量混じる)
- 115 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック大量、約0.5cmの繩少し、1~2cmの繩、炭ごく少  
量混じる) 116 10YR2/3 嫌褐色粘質土。(粘性中、しまり粗い、軟い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック大量、約0.5cmの繩少し、約2cmの繩多く混じる)
- 117 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性大、しまりやや粗い、やや軟い,  
10YR4/6 黄褐色粘土ブロック・10YR4/4 黄褐色シルトブロック・1~5cm  
の繩少し、炭ごく少量混じる)
- 118 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、やや硬い、25Y6/6  
明黄褐色シルト少し混じる)
- 119 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土。(粘性大、しまり密、軟い、10YR5/4  
にぶい黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック、  
1~2cmの繩少し混じる)
- 120 10YR4/1 黄褐色粘質土。(粘性大、しまり密、やや硬い、10YR3/3  
黄褐色粘土ブロック少し、約3cmの繩混じる)
- 121 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり粗い、やや硬い、10YR4/4  
黄褐色シルトブロック大量、1~2cmの繩多く混じる)
- 122 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性大、しまりやや密、硬い、10YR5/6  
黄褐色シルトブロック・0.5cmの繩少し、炭ごく少  
量混じる)
- 123 25Y5/3 黄褐色砂質土。(細緻、粘性なし、しまり密、軟い、10YR4/1  
黄褐色粘土ブロック多く混じる)
- 124 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや粗い、やや軟い,  
10YR5/4 にぶい黄褐色粘土ブロック・10YR3/1 黄褐色粘土ブロック  
ごく少、約1cmの繩大量混じる)
- 125 10YR4/2 黄褐色粘質土。(粘性大、しまり密、硬い、10YR5/4 にぶい  
黄褐色粘土ブロックや多く、1~3cmの繩多く混じる)
- 126 10YR3/1 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロックや多く、1~3cmの繩大量混じる)
- 127 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR2/1 黑色  
シルトブロックや多く、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、1~4  
cmの繩大量混じる)
- 128 10YR4/2 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色  
粘土ブロック大量、10YR3/1 黄褐色シルトブロック  
ごく少、1~7cmの繩少し混じる)
- 129 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロックごく少、1~8cmの繩多く混じる)
- 130 10YR2/2 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック少し、1~3cmの繩多く  
混じる)
- 131 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロック大量、1~5cmの  
繩少し混じる)
- 132 10YR2/2 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック少し混じる)
- 133 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルトブロック大量、約1cmの繩少  
し混じる)
- 134 10YR4/2 黄褐色粘質土。(粘性中、しまりやや粗い、やや軟い、  
10YR4/6 黄褐色粘土ブロック・10YR2/1 黑色シルトブロック、1~3  
cmの繩少し混じる)
- 135 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、約0.5cmの繩多く、  
約2cmの繩ごく少量混じる)
- 136 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
シルトブロック少し、10YR2/1 黑色シルトブロック、約1cmの繩ごく少  
量混じる)
- 137 10YR3/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色  
シルトブロック、1~15cmの繩多く、炭ごく少量混じる)  
2014-1~2、81層に対応
- 138 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、やや硬い、10YR5/6 黄褐色  
シルトブロック大量、約6cmの繩、炭少し、燒土多く混じる)  
2014-1~2、82層に対応
- 139 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色  
シルトブロック・10YR3/4 嫌褐色粘質土多く、約1cmの繩少し混じる)
- 140 10YR2/2 黑褐色粘質土。(粘性小、しまりやや密、硬い、10YR4/4 黄褐色  
粘土大量、炭、燒土や多く混じる)
- 141 10YR4/2 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4 にぶい  
黄褐色粘土大量、1~3cmの繩や多く、炭少し混じる)
- 142 10YR4/2 黄褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR5/4 にぶい  
黄褐色粘土少し混じる)
- 143 10YR3/2 黄褐色粘質土。(粘性小、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロックごく少量混じる)
- 144 10YR2/3 嫌褐色粘質土。(粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック多く混じる)
- 145 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土。(粘性中、しまり密、硬い、10YR4/6  
黄褐色粘土ブロック大量、1~4cmの繩多く、炭ごく少量混じる)
- 146 10YR2/3 嫌褐色粘質土。(粘性大、しまり密、硬い、10YR4/6 黄褐色  
粘土ブロック・約2cmの繩少し混じる)

2012-21~1、2012-22、2012-23~1、2012-23~2 西オイルタンク 土層注記2

- 147 10YR3/2 黒褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3 に似る）  
黄褐色粘質土ブロックごく少量、1~3cmの繊維状混じる）
- 148 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック少し、約2cmの繊維ごく少量混じる）
- 149 10YR3/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック少し、1~4cmの繊維多く、灰少しく混じる）
- 150 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロック少し、1cm以下の繊維少量混じる）
- 151 10YR2/1 黒色シルト（粘性大、しまり密、硬い、25Y7/4 浅黄色粘土ブロック少し、10YR3/2 黑褐色粘質土ブロック大量、約2cmの繊維混じる）
- 152 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、軟い、25Y5/4 黄褐色シルトブロック少し、1cm以下の繊維ごく少量混じる）
- 153 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、軟い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック多く、灰少しく混じる）
- 154 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、軟い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック大量、約1cmの繊維少しだけ混じる）
- 155 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック多く、1~2cmの繊維少しだけ混じる）
- 156 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック大量、10YR3/1 黑褐色シルトブロック多く混じる）
- 157 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、  
10YR5/4 に似る 黄褐色粘土ブロック大量混じる）
- 158 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR5/4に似る）  
黄褐色粘土ブロック少し、10YR3/1 黑褐色シルトブロック大量混じる）
- 159 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4  
に似る 黄褐色粘土ブロック大量、1~3cmの繊維多く、灰少しく混じる）
- 160 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4  
に似る 黄褐色粘土ブロック大量、約1cmの繊維や多く、灰少しく混じる）
- 161 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまりや密、やや硬い、10YR5/4  
に似る 黄褐色粘土ブロック、約1cmの繊維少し、10YR3/1 黑褐色シルトブロックごく少量混じる）
- 162 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや硬い、  
10YR3/1 黑褐色シルトブロック少し、1~2cmの繊維多く混じる）
- 163 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/6 黄褐色シルトブロック大量、約2cmの繊維少しだけ混じる）
- 164 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR3/1 黑褐色粘質土ブロック多く、1cm以下の繊維ごく少量混じる）
- 165 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック大量、1~6cmの繊維ごく少量、灰多く混じる）
- 166 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR3/1 黑褐色粘質土ブロック、1~5cmの繊維少し、0.5cmの繊維大量混じる）
- 167 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR5/4 に似る）  
黄褐色粘土ブロック多く、0.5cm以下の繊維少しだけ混じる）
- 168 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/3 に似る）  
黄褐色粘土ブロック少し、灰ごく少量混じる）
- 169 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック・0.5cm以下の繊維ごく少量混じる）
- 170 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR3/2 黑褐色粘質土ブロック、1~5cmの繊維少し、灰ごく少量混じる）
- 171 10YR5/6 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルトブロックごく少量、0.5cm以下の繊維多く混じる）
- 172 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロックごく少し、約6cmの繊維混じる）
- 173 10YR3/3 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、約1cmの繊維少しだけ混じる）
- 174 10YR3/1 黑褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや硬い、  
10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック多く、1~5cmの繊維少しだけ混じる）
- 175 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、10YR4/4  
黄褐色シルトブロック、約0.5cmの繊維、約2cmの繊維少しだけ混じる）
- 176 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや硬い、  
10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、1~6cmの繊維多く混じる）
- 177 10YR3/1 黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや密、硬い、25Y6/4 に似る）  
黄褐色粘質土ブロックごく少量、1~3cmの繊維大量混じる）
- 178 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや硬い、  
25Y6/4 に似る 黄褐色シルトブロック大量、10YR3/2 黑褐色粘質土  
ブロック多く、約1cmの繊維少しだけ混じる）
- 179 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック多く、10YR2/1 黑色シルト少し。炭灰ごく少量混じる）
- 180 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック少しだけ混じる）
- 181 10YR4/6 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、硬い、1~2cmの繊維大量混じる）
- 182 10YR2/1 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロックごく少量混じる）
- 183 10YR2/1 黄褐色粘質土（粘性中、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘土ブロック少しだけ混じる）
- 184 10YR2/1 黑褐色粘質土（粘性小、しまり密、軟い、10YR4/6 黄褐色シルトブロック・2~5cmの繊維少しだけ混じる）
- 185 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまり密、やや軽い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 186 10YR2/1 黑色シルト（粘性小、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 187 10YR5/3 に似る 黄褐色粘質土（やや粗砂、粘性小、しまり密、軟い、  
0.5~2cmの繊維少しだけ混じる）
- 188 10YR3/2 黑褐色シルト（粘性小、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色粘質土ブロック大量、約3cmの繊維少しだけ混じる）
- 189 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、10YR2/1 黑色シルトブロック少しだけ混じる）
- 190 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、約2cmの繊維多く混じる）
- 191 10YR4/2 黄褐色粘質土（粘性大、しまりやや密、やや軟い、  
10YR2/1 黑褐色粘質土ブロック、粗砂大量、1~10cmの繊維多く混じる）
- 192 10YR4/2 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり粗い、軟い、  
10YR3/1 黑褐色粘質土ブロック多く、1~5cmの繊維大量に混じる）
- 193 10YR2/1 黑色シルト（粘性中、しまり密、やや軽い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ多く、約2cmの繊維混じる）
- 194 10YR2/1 黑色シルト（粘性大、しまり密、やや軽い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量、1~3cmの繊維少しだけ混じる）
- 195 10YR2/1 黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 196 10YR2/1 黑色シルト（粘性大、しまり密、やや軽い、10YR4/4 黄褐色シルトブロックごく少量混じる）
- 197 10YR2/1 黑色シルト（粘性大、しまり密、やや硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック大量混じる）
- 198 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘性中、しまりやや密、やや軽い、  
10YR6/6 明黄褐色粘土（粗砂、粘性大、しまり密、約2cmの繊維大量混じる）
- 199 10YR3/2 黑褐色シルト（粘性大、しまり密、やや軽い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 200 10YR2/1 黑褐色シルト（粘性中、しまり密、軟い、10YR4/4 黄褐色シルトブロックやや多く混じる）
- 201 10YR2/2 黑褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック多く混じる）
- 202 10YR4/2 黄褐色シルト（粘性大、しまり密、硬い、10YR4/4 黄褐色シルトブロック少しだけ混じる）
- 203 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり粗い、軟い、  
1~5cmの繊維大量混じる）
- 204 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、  
1~3cmの繊維少しだけ混じる）
- 205 10YR4/2 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、粗砂少しだけ混じる）
- 206 10YR4/2 黄褐色粘質土（やや粗砂、粘性なし、しまり密、やや硬い、  
约1cmの繊維大量混じる）
- 207 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性小、しまり密、やや軽い、10YR4/3 に似る）  
黄褐色粘土（粗砂、粘性小、しまりやや粗い、軟い、  
1~10cmの繊維大量混じる）
- 208 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり粗い、軟い、  
1~5cmの繊維大量混じる）
- 209 10YR4/2 黄褐色粘質土（やや粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、  
1~3cmの繊維少しだけ混じる）
- 210 10YR4/2 黄褐色粘質土（やや粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、  
1~3cmの繊維大量混じる）
- 211 10YR4/3 に似る 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、軟い、  
約2cmの繊維少しだけ混じる）
- 212 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、硬い、10YR2/1 黑色シルト  
ブロックごく少量、1~2cmの繊維少しだけ混じる）
- 213 10YR5/4 に似る 黄褐色粘質土（粘性小、しまりやや粗い、硬い、  
やや粗い粒状大量、1~5cmの繊維多く混じる）
- 214 10YR4/4 黄褐色粘質土（粘性大、しまり密、やや軽い、1~5cmの繊  
維大量混じる）
- 215 10YR4/4 黄褐色粘質土（粗砂、粘性なし、しまり密、硬い、1~2cm  
の繊維大量混じる）

## 第5節 近代の遺構

金沢城は、明治4年（1871）に兵部省（のちの陸軍省）の所管となって以降、大きく変更を受けている。二ノ丸は当初、旧藩政時代の建物をそのまま利用していたようであるが、明治14年（1881）の二ノ丸火災により、橋爪門を含め火災により焼失した。検出した石組枠内等にこの時溶けた鉛瓦と思われる鉛塊等が含まれていた。石川県立歴史博物館所蔵の「旧軍金沢城関係文書」の「建造物履歴表」等（以下「建造物一覧表」等）によれば、発掘調査で確認した昭和20年（1945）の絵図「歩兵第百七連隊図」に描かれた充電所は、元は浴室で、明治15年に新設され、同じく描かれている薪炭庫物庫、暖爐庫も明治15年に新設されている。これらからすると、ここに描かれた敷地造成が明治14年の火災後に行われ、近代石垣とした石垣の造成もこの頃と思われる。

明治31年（1898）頃の姿を描いていると考えられる図「歩兵第七聯隊構外木柵解除之圖」（以下「第七連隊図」）では、敷地造成された石垣二ノ門南側が大きく削平され、北側を石垣によって土留めした坂道に改変された様子が窺える。また、雁木坂を取り払われ、二ノ丸に上がる斜めの階段状の通路と雁木坂下に門、これに続く木柵や、先に述べた充電所の前身である浴室も描かれている。大正15年（1926）の測量図「金澤旧城郭」、第九師團司令部、歩兵第七聯隊、歩兵第六旅團司令部、第九師團城内被服庫、金澤憲兵隊配置図（以下「旧城郭配置図」）では浴室はそのままに、検出した通用門が描かれ、二ノ丸へのルート変更とともに門の位置も変更されたとみられる。「建造物履歴表」によれば、昭和12年（1937）に、陸軍第九師團所属の歩兵第七連隊の兵舎が、コンクリート基礎の木造建築として一ノ門附近に竣工している。この建物は戦後の昭和24年（1949）から金沢大学教養部の教室となり、昭和27年（1952）の改築を経て、平成7年（1995）のキャンパス移転まで教育学部木造2棟として利用されていた。金沢大学では昭和37年（1962）から城内キャンパスの整備が開始され、昭和41年（1966）には、教育学部分館が完成している。

### 近代石垣・通路 [第92図]

近代石垣は平成22年度から24年度にかけて、東西約22mを検出した。そのうち、下水管埋設の際に西側約2mを残し上部が抜き取られ、東側約6mは栗石のみ遺存していた。また、西端は根石まで調査していない。布目積みで積まれているが、根石を据える段階から傾斜を意識し、石の大きさを大、小、大、小と変えて積むことで段数を調整し通路の傾斜を造り出している。最も高い二ノ丸側で6段を数える。石垣下の平場では、根石上面付近の標高43.54m前後で玉砂利面を検出しておらず、後述する近代の路面と考えられる。

トレチ1断面（第52図2010-6）では、一旦近世面を切り下げる際に掘方を掘削して石垣を構築し、のちに最上段を積み増して、標高45.27mまで嵩上げしたことなどが確認できた。裏込めには、黒褐色粘質土や10~30cmの栗石を充填しているが薄い。石材は、主に戸室石が使用されており、根石には自然石や、その半割材が主に用いられ、坪野石が1石含まれていた。近場の石垣石などを再加工したと考えられる。天端に使用されている解体No.1（写真図版38）は葛石ないしは階段踏石とみられ、88×33×29cmを測る。解体No.57・58（写真図版38）は中央に直径16cm、深さ約9cmの円形の柄穴が穿たれている。同一個体の礎石とみられていたものの、解体後接合を試みたが、分割面が加工されているためか接合できなかった。色調もわずかに異なる。接合すれば一辺約60cm、高さ40cmの方形となる。石垣石とみられる石材には、刻印（解体No.87）や矢穴（解体No.93等）が確認できるものもみられる。

なお、平成22・23年度に検出した石垣は、平成23年度にトレチ5延長部分の一部を取り外して断面を実測し、立面図測量後に全てを解体しており、平成24年度に検出した西側延長部分は、図上

で合成を行っている。解体中、解体No.35の築石隙間から、ライフル弾の薬莢（第116図M85）が出土している。

通路は、大学時代に拡幅・嵩上げされ、コンクリート擁壁が設置されており、公園整備期に再度削平されている（トレンチ15 第52図 2010-6：3～5層）。

#### 路面 [第92図]

##### 近代路面(1)

I-C区の近代石垣下の標高43.56m前後で玉砂利層を検出した。充電所の側溝上面の標高が43.5mであるので、近代の路面と推定した。平場全面に玉砂利を敷かなかったのか、もしくは削平を受けたのか、トレンチ5以東では確認できなかった。

##### 近代路面(2)

I-B区の近代の通用門東側の標高44.88mで鉛層を検出した。明治14年（1881）の火災に伴うものと考えられる。トレンチ1付近の続櫓台石垣南面の文化期の石垣修築時地表面の痕跡は、標高45.1m、Ⅲ区で確認された雁木坂下の平坦面の標高が、45.2～45.3mであるので、文化期の路面を削平していると考えられる。後に先述のように、石垣を1段積み増して標高45.27mまで嵩上げを行っている。

#### 通用門 [第93図]

通路上に建てられた通用門の掘方である。掘方底面には、暗渠の側板（第120図S9）・蓋板（第119図S5）が据えられており、近世の暗渠を壊した際に出てきた部材を側板として転用したとみられる。側板の中心間の距離は、約2.35mを測る。埋土からは多くの遺物が出土しており、上層・中層・下層に分けて取り上げた。埋土は上層が暗褐色粘質土で、下層・中層は黒褐色粘質土であり、下層・中層を北側から搬入したのち、上層で中層・下層を覆っていた。上層は炭や焼土が多く混じており、下層からは破壊された暗渠部材や大礫が多く出土した。先述のように明治31年（1898）頃の姿を描く「第七連隊図」では、二ノ丸階段下に続櫓台石垣西面に直交するように描かれており、「建造物履歴表」等によれば大正11年（1922）には検出した位置に存在していたようである。

#### 水道管 [第34図]

調査区内を縦横に、近現代の水道管が走っていた。鉄管が主体であるが、塩ビ管が鉄管に接続するものもみられた。水道管(2)・水道管(11)・塩ビ管(2)は、下水管掘方内に設けられた止水栓で接続していた。鉄管は直径が約7cm、約10cm、約18cmの3種類を確認した。「建造物履歴表」等には明治44年に雑用水道付属鉄管が存在し、大正11年に上用水道付属鉄管・金属製止水栓が竣工したと記されているが、大学期も軍隊期のものを改修しつつ使用しており、水道管の時期を判別するのは困難である。また土管もみられたが、「建造物履歴表」等には排水用工作物として土管の名称が確認でき、排水管の可能性が考えられる。

#### 暗渠・枠 [第93図]

凝灰岩の枠や、レンガ組の暗渠・枠を検出した。レンガは縦約6cm、幅約11cm、長さ約22cmのものが共通して使用されている。

##### 近代暗渠（レンガ組暗渠）

Ⅱ区を南北に継断しており、Ⅱ-A・B区で約10m、Ⅱ-C・D区で約8m検出した。側壁は、1段ごとにレンガをすらしてモルタルで接着しつつ、4段積み上げる。幅は外寸で約54cm、内寸で約31

cm、底面標高は北端で42.89mを測る。底面は枠と同様にモルタルが敷かれる。蓋板は笏谷石とみられる石材が使用されるが、近代枠(1)より北側では同様の規格の部材を整然と並べてモルタルで固定されるのに対し、南側は様々な寸法の部材が固定されずに雑然と置かれていた。

#### 近代枠(1)（レンガ組枠）

II-C区で近代枠(2)と並んで検出した。外寸で東西約122cm、南北約142cm、内寸で東西約78cm、南北約92cmを測り、1段ごとにレンガの向きを90°変えて、セメントで接着しつつ13段積み上げている。内側の面は揃えるが、外側の面は不揃いで凹凸が目立つ。上面の標高は43.60m前後、底面標高は42.81mで、深さ約80cmを測る。レンガ最下段の上面までコンクリートを流し固め、底面を形成している。枠南側では、枠底面から1段上のレンガ上面の高さが暗渠の底面になるように、レンガ組暗渠と接続していた。

#### 近代枠(2)（凝灰岩枠）

凝灰岩を円形に削り抜いたもので、直径が外寸で径76~79cm、内寸で径約61cm、厚さ約8cmを測る。2段積で、上段の高さは約30cmであるが、下段の高さは50cm以上である。底面に礫を確認したが、敷いたものであるかは不明である。

近代枠(2)と近代枠(1)は、近代枠(1)の底面直上に置かれた鉄管が、近代枠(2)を削り抜いて繋がっており、近代枠(1)から近代枠(2)へ水が流れようになっている。近代暗渠から近代枠(1)に水を送り、最終的に近代枠(1)から近代枠(2)に水が溜まるような構造と推測される。

#### 近代枠(3)（凝灰岩枠）

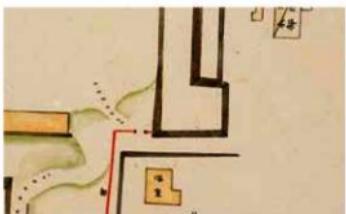
I-C区で検出した。凝灰岩を円形に削り抜いたもので、直径が外径で約61cm、内径で約41cm、厚さ約10cmを測る。水道管敷設の際に壊されている。段数や用途は不明である。

#### 充電所関連遺構〔第93図〕

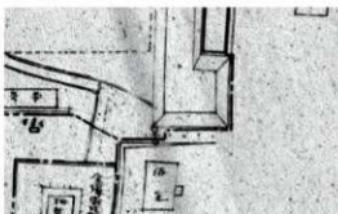
I-C区で笏谷石の雨落ち溝と、その内側にコンクリート基礎を検出した。コンクリート基礎の外側には礫を充填している。溝は東西方向から東で南に折れるが、南北方向は大学期のコンクリート擁壁とオイルタンク設置の際に壊されている。

溝の幅は、東西方向で外寸60cm、内寸38cm、南北方向で内寸40cmを測る。継13cm、幅9cm、長さ62.5~94cmの笏谷石製の部材を並べるが、建物側の内側列はその上に継が9cmになるように寝かせた状態でもう一段積んでいる。そのため、外側の上面標高は43.5m前後であるが、内側の上面標高は43.6m前後と高くなっている。内側列の上段と下段の隙間や、ヒビ割れた箇所はセメントで接着・補修されている。上面・内側は丁寧な加工が施されるが、土に埋まる部分には加工痕が残る。溝の底面には薄い板石を2列に、中央がやや凹むように並べて敷いている。溝部材は近代路面(1)と同様に、平成20年度の調査で確認した近代整地土(4層)上面に設置されており、3層土で埋没していた。

充電所は昭和20年の「歩兵第百七連隊図」に描かれており、明治31年の「第七連隊図」、大正15年の「旧城郭配置図」には、同じ場所に浴室が描かれている。「建造物履歴表」等の記述と照らし合わせると、明治15年に浴室として新築され、昭和12年に充電所に改築されたとみられる。



「歩兵第七聯隊構外木柵解除之圖」  
(防衛研究所戦史研究センター蔵)明治 31 年(1898)頃



「金澤旧城郭、第九師團司令部、歩兵第七聯隊、歩兵第六旅團司令部、第九師團城内被服庫、金澤憲兵隊配置圖」  
(防衛研究所戦史研究センター蔵) 大正 15 年(1926)頃



「歩兵第百七連隊図」  
(石川県立歴史博物館蔵) 昭和 20 年(1945)



近代路面 (1) (西から)



近代路面 (2) (南東から)



近代石垣 全景 (南西から)



近代石垣解体後 全景 (南西から)

第92図 近代の遺構 1



通用門 石板（南から）



レンガ組暗渠 左：北側、中・右：南側（南から）



近代枠（1）・近代枠（2）（北から）



上：近代枠（2）（南から）  
下：近代枠（1）（西から）

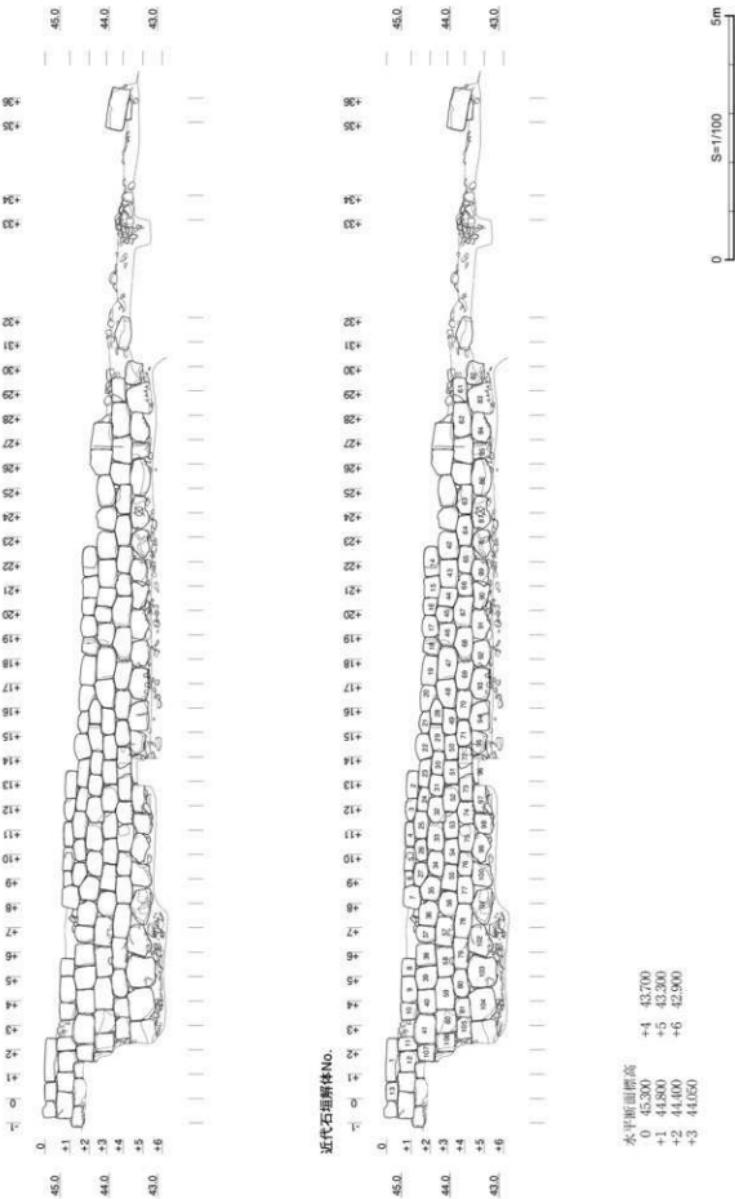


充電所関連遺構（東から）

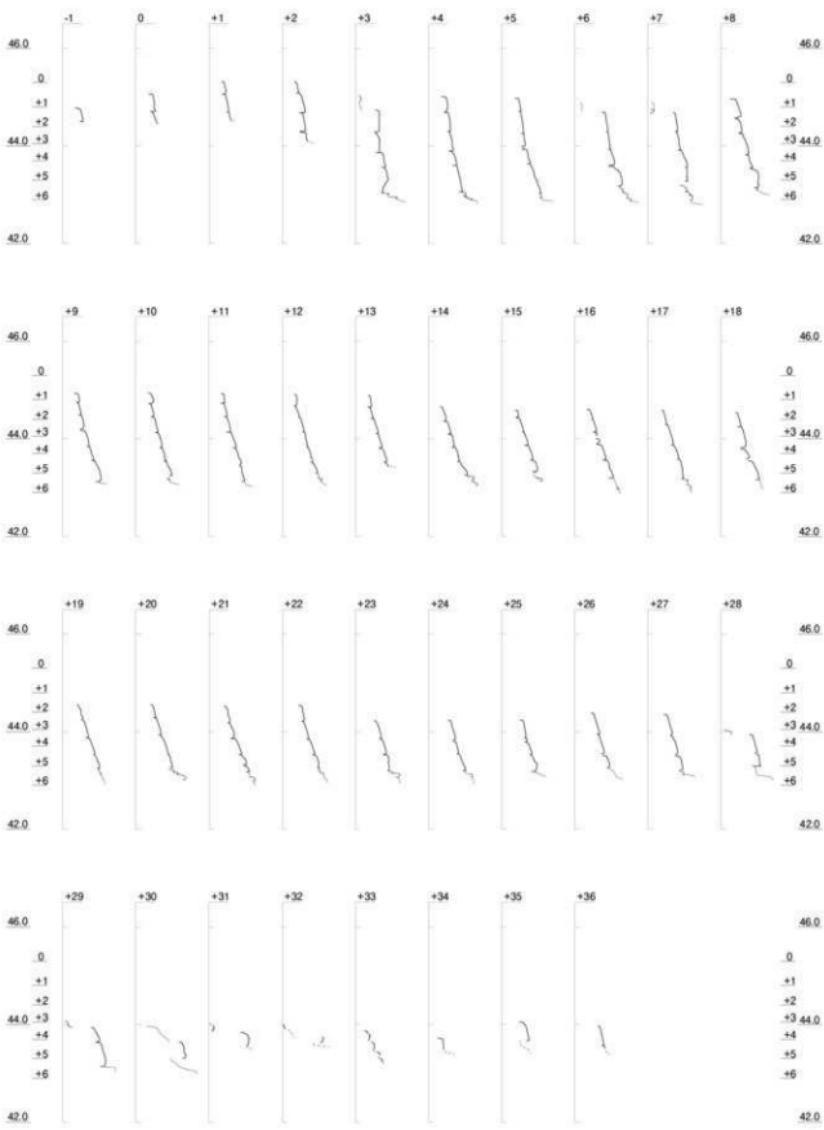


溝断面（西から）

第93図 近代の遺構 2



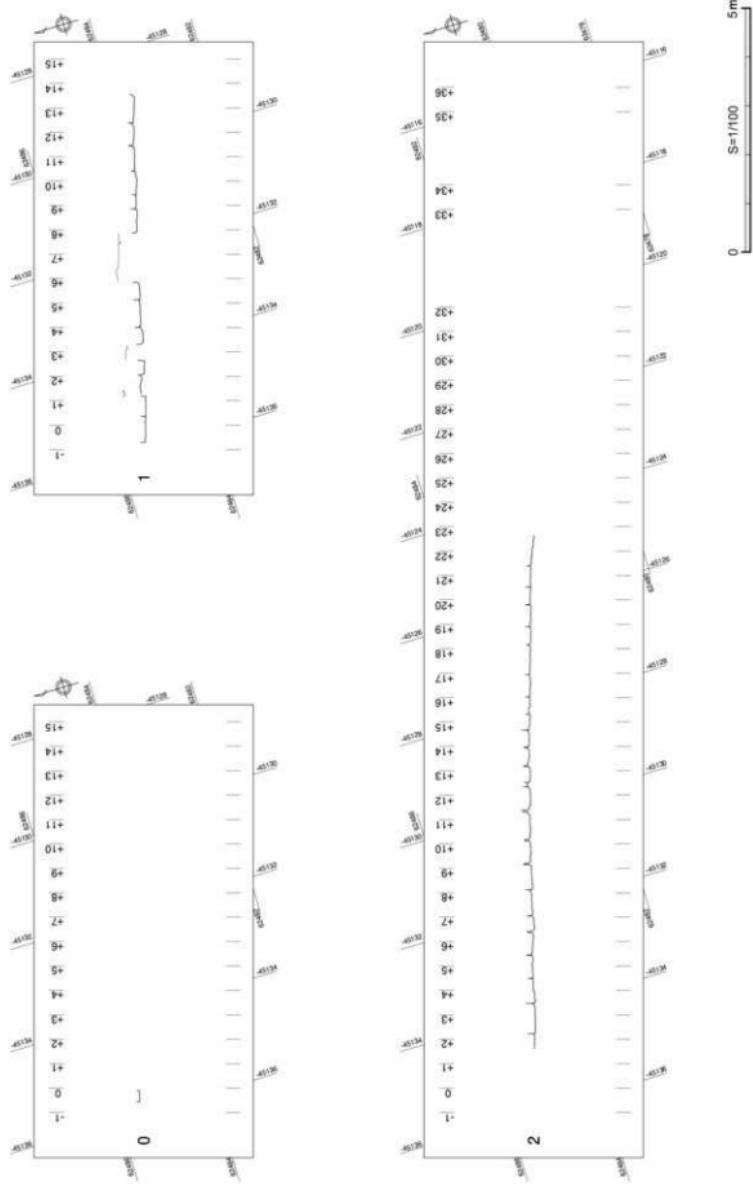
第94图 石垣立面图 近代石垣 ( $S=1/100$ )



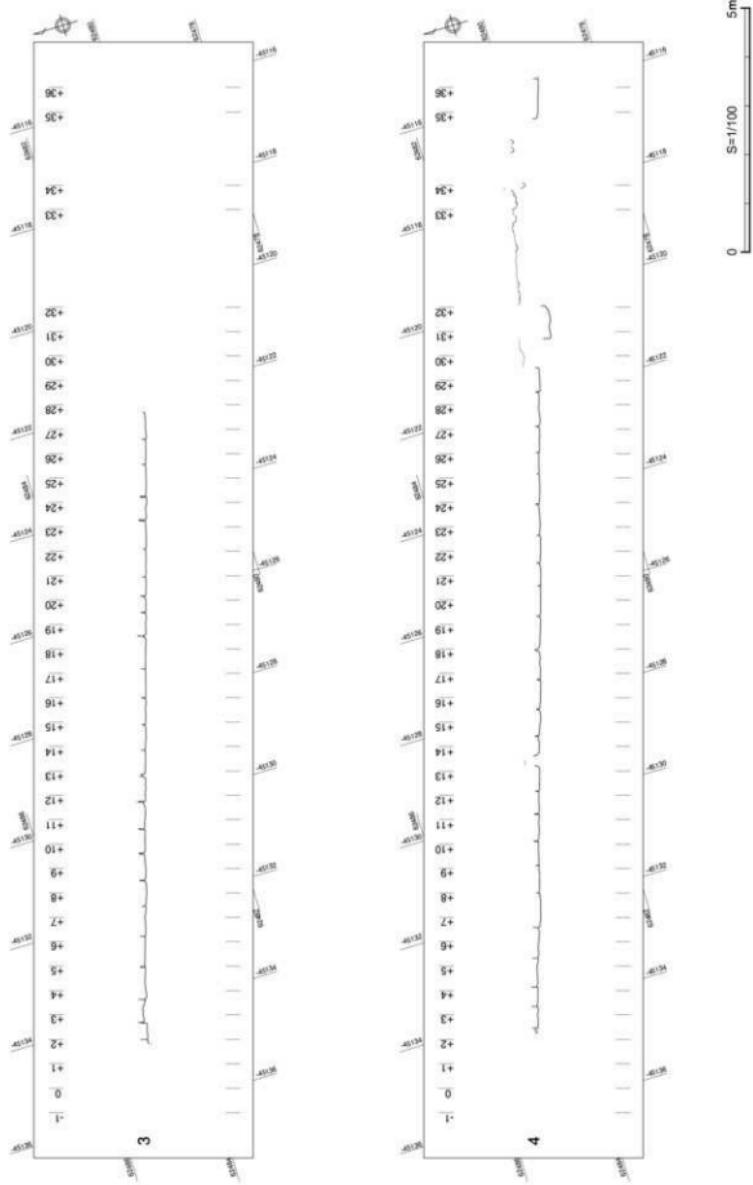
第95図 垂直断面図 近代石垣 (S=1/100)

0 S=1/100 5m

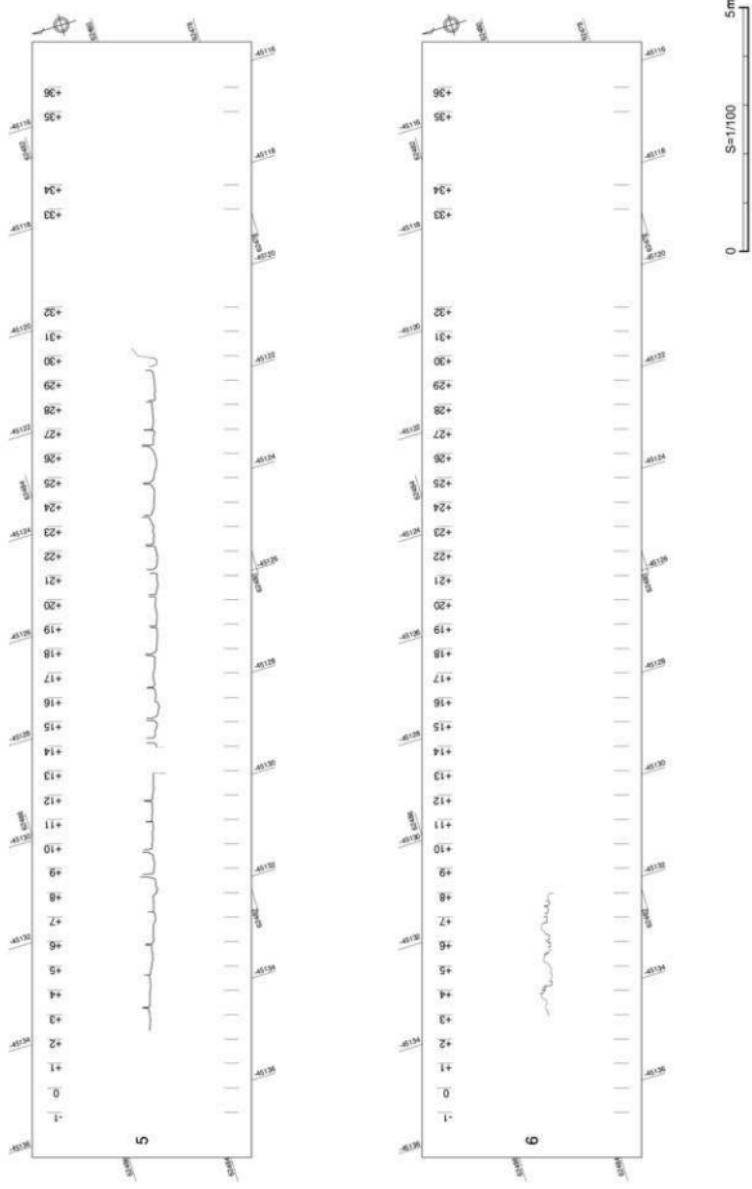
第96图 水平断面图 近代石柱1 (S=1/100)



第97図 水平断面図 近代石垣2 (S=1/100)



第98图 水平断面图 近代石垣3 (S=1/100)



## 第6節　まとめ

本調査では、文化期・宝暦期・寛永期の二ノ門関連の遺構や石垣台、二ノ門創建以前の整地土や下層遺構を検出し、続檜台石垣で橋爪門に係る文化期・天明期・寛永期の加工痕跡を確認した。

文化期の二ノ門については、石組枠と葛石痕跡から門敷石の東西幅を、礎石根固めから礎石の位置を、鑿切から鏡柱列の中心位置を、敷石痕跡から敷石高さを特定することができた。また、石組暗渠・枠を検出し、宝暦期の石組暗渠を文化期も改修しつつ使用している状況が確認できた。

枠形については近現代の削平により関連する遺構は確認できなかつたが、一ノ門西側頃当石垣の太鼓辯地覆石位置や階段の位置・段数が判明し、二ノ門内側では雁木坂西側の石垣台の改修状況や二ノ丸階段最下段の位置についても特定することができた。

宝暦期の二ノ門については、文化期同様の情報を得ることができた。また、礎石根固めや枠抜き取り痕・背面葛石の位置から、文化期の二ノ門よりやや北西に位置していたことが確認できた。

寛永期の二ノ門については、宝暦期・天明期や文化期の再建・修築のため、遺構や石垣痕跡の遺存状態は良くなかったが、敷石痕跡から地表面のおおよその高さを、礎石根固めから礎石の位置を推測することができた。また、礎石掘方から二ノ門が文化期より南東に位置することが確認できた。

しかしながら、二ノ門に関しては、宝暦期の二ノ門再建と天明期の続檜台石垣の修築について、天明期の石垣痕跡を宝暦期に再建した葛石や敷石を延長したと解釈したが、二ノ門の建物を残したまま石垣の修築が可能であるのか、実際にどのように修築が行われたかなど疑問点も残されている。また、暗渠ルートが絵図とは異なる点についても、明確な結論が得られていない。二ノ門の規模や位置がどのように変遷していくかについては、第7章第1節で検討を試みた。また第7章第2節で石組暗渠・枠の構造を復元し、いつどのように構築されたか文献との対比を行った。

整地土・下層遺構については、Ⅲ層～V層（Ⅲa～Va面）に細分でき、二ノ門創建以前に橋爪門内でどのように整地が行われたかについての資料を得ることができたが、出土遺物による時期の比定は困難で、遺構についても攪乱壁面を中心とした部分的な検出であり、遺構の性格を把握するには至らなかった。そのため第7章第4節で、隣接する鶴ノ丸第2次調査区や二ノ丸内堀調査区、五十間長屋台調査区の整地土や下層遺構との時期や対応関係の比定を試み、遺構の性格についての検討を行った。

# 第5章 出土遺物

## 第1節 概要

橋爪門調査区および鶴ノ丸第2次調査区において出土した遺物は、瓦・陶磁器類が多く確認されており、その他に土器や金属製品・石製品がある。このうち鶴ノ丸第2次調査の遺構出土遺物については、ある程度まとまりがあり、次節にて遺構ごとに報告する。それ以外については一括して種類ごとに報告する。

これら遺物の実測図および観察表を第100～124図・第14～27表にて掲載した。

## 第2節 鶴ノ丸第2次調査区遺構出土遺物 [第100～101図、第14、18、25表]

鶴ノ丸第2次調査区の近世以前の遺構から出土した遺物は、多くを土師器皿が占めており、その他に陶磁器や瓦、金属製品等が出土している。遺物は遺構ごとにまとめ、検出順に報告する。

なお土師器皿の分類については、「金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書II」[石川県金沢城調査研究所 2014c]における年代観等の器形分類案(第99図)および「金沢城跡－二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓II－」[石川県金沢城調査研究所 2012a]に依拠する。

### B層

#### SK5 [第100図、P1～P2]

土師器皿（B類）が出土している。P1は遺構上半から出土したもので、口縁部内面にやや水平気味に端面が形成されている。P2は遺構下半から出土したもので、全体的に厚く、わずかながら口縁部内面に端面が認められる。

### C層

#### SK1 [第100図、P3]

土師器皿（B類）が出土している。P3は全体的に表面剥離がみられるが、油煙痕が部分的に付着しており、灯明皿として利用されていたことがうかがえる。器壁にやや厚みがあり、口縁内面に端面を形成している。

#### SK4・SK7・SK10 [第100図、P4～P11]

SK4・SK7・SK10は同一の遺構であり、陶器・土師器皿が出土している。P4は16世紀末ごろのものとみられる瀬戸・美濃陶器残皿である。P5は越前陶器擂鉢である。P6～P11は土師器皿である。京都系（B類）に類され、いずれにも油煙痕が認められる。P6は全体的に磨滅が著しいものの、内面に「の」の字状のナデが認められる。P7は口縁端部が内屈する。P8は器壁が薄く、口縁部は大きく外反する。口縁内面には顕著な端面を形成しており、能登産の製品とみられる。P9～P11は器壁にやや厚みがあり、口縁内面に明瞭な端面を有している。

### D層

#### SK3 [第100～101図、P12～P18、T1～T9、M1～M2]

遺構出土遺物の中では出土量が最も多く、土器・陶磁器や瓦、金属製品が出土している。

P12は越前陶器壺の口縁部である。P13は遺構上半から出土したもので、瀬戸・美濃陶器天目茶碗

である。底部から体部にかけて遺存しており、体部外面下半は露胎である。P14は遺構上半から出土した越中瀬戸陶器皿で、見込に菊花印が認められる。1590～1610年の間に操業していた山下窯で生産された製品である。P15は遺構下半から出土したもので、瀬戸・美濃陶器鉢である。全体に灰釉が、見込には暗灰色の銅緑釉が施されている（黄瀬戸）。P16は越前陶器擂鉢で、体部下半を欠く。P17とP18は土師器皿である。P17は底部のみが遺存している。P18は底部を欠損しているが、開き気味に立ち上がる体部と、口縁内部に緩やかに端面が形成されている。

T1～T9は瓦である。T1・T2は軒丸瓦、T3～T6は丸瓦、T7～T9は平瓦である。

T1は瓦当部の一部で、左回り巴文であることが確認できる。T2は体部のみである。T7～T9では各端部に平均して2.5cm前後の面取りが確認できる。SK3から出土した軒丸瓦および丸瓦の粘土切り離し痕は全てコビキAであった。

M1・M2はともに遺構上面より出土したものである。M1は径1.2cmほどの鉛玉で、形状から火縄銃で使用された銃弾とみられる。M2は全体を厚い錆が覆っているが、大型の鉄釘である。頭部が「L」字状に曲がっており、貝折れ釘と考えられる。

#### SK2〔第101図、P19～P26、M3～M4〕

土器・陶磁器のほかに金属製品が出土している。

P19は遺構上面から出土したもので、越前陶器壺とみられる。底部から体部下半にかけて遺存しており、外面には自然釉が、内面には炭化物が付着している。P20～P25は土師器皿である。P20・P21は遺構上半から出土したもので、2点とも器壁にやや厚みがある。口縁内面に端面をもち、体部は開き気味に立ち上がる。P22・P23は遺構上面から出土したものである。どちらも磨滅が著しく、油煙痕や調整痕等は不明である。やや直線的に開き気味に立ち上がる体部と、口縁内部に僅かながら形成された端面を有する。P24・P25はSK2の肩部から出土した土師器皿で、体部は開き気味に立ち上がり、口縁内部に端面を持つ。P26はP20・P21と同じ遺構上半から出土した小型の壺で、焼塙壺とみられる。

M3・M4は遺構上半から出土した鉄製品である。M3は頭部を管のように巻く頭巻釘、M4は鎧である。

#### SK9〔第101図、P27〕

P27は遺構上半から出土したもので、中国磁器白磁皿である。

### 黒ボク層

#### SK14〔第101図、P28〕

P28は古代の土師器壺の小片であり、二ノ丸内堀調査区で確認された掘立柱建物等に関連するものと考えられる。

### 小結

各遺構は検出面の差により4段階に分かれるが、出土遺物の主体である土師器皿は全てB類（京都系）で、基本的に齊一的な特徴を有し、形態・組成とともに明確な差異を見出し難い。ただし、後述する整地層出土資料も含めると、D層・C層を基盤とする遺構SK2・SK3、SK4・SK7・SK10、SK1とB層を基盤とする遺構SK5とに細別され、前者は1590～1600年代、後者は1610年前後に属すると考えられる。

## 第3節 鶴ノ丸第2次調査区遺構外出土遺物・橋爪門調査区出土遺物

本節では、鶴ノ丸第2次調査区の遺構外および橋爪門調査区から出土した遺物を報告する。このうち鶴ノ丸第2次調査区出土遺物は、整地層から出土したものが一定量あるものの、橋爪門調査区出土遺物の多くは遺構以外から出土している。

遺物は近世初期から近代までといった幅広い時期の遺物を確認しているが、両調査区周辺は度重なる火災を受けているためか、二次的に熱を受けているものが多い。

### 1. 土器・陶磁器 [第102~106図、第14~18表]

#### 磁器 [第102~103図、P29~P64]

P29~P39は碗類である。このうちP29~P38は橋爪門調査区からの出土である。P29~P32は肥前磁器染付皿である。P29は胴部に宝寿字文が施されており、18世紀末頃のものとみられる。P32は口縁部のみの遺存であるが、蓋物の可能性が考えられる。外面には熱を受けた際に付着したと見られる溶着物が確認できる。P33~P35は瀬戸・美濃磁器染付碗である。口縁部に端反・口サビ等の19世紀以降の製品の特徴が確認でき、幕末から近代にかけてのころのものとみられる。

P36~P39是中国磁器碗である。P36は漳州窯系の青花碗、P37は龍泉窯系の青磁碗である。P38は白磁碗で、見込みを蛇の目釉剥ぎとする。P39は鶴ノ丸第2次調査区から出土した青花碗である。

P40~P58は皿類である。P40~P42は肥前磁器染付皿である。P40は口縁部のみ遺存する小型の製品である。P41はやや外側に屈曲する口縁部をもち、内面には花らしきものが描かれている。P42は鶴ノ丸第2次調査区から出土したもので、内面には瑞雲と吉祥文と思しき文様が施されている。他の製品と比べてかなり厚みのある製品であり、大皿と考えられる。P43は九谷の染付製品とみられる。見込みに僅かであるが花らしきものが描かれている。P58は橋爪門調査区近世路盤面(SX01)の直上から出土した染付皿で、瀬戸・美濃の製品の可能性がある。

P44~P57是中国磁器皿である。P44~P49は漳州窯系の青花皿である。P48は体部外面および高台内側の3箇所に赤の上絵で囲線が1本ずつ描かれている。P49は鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。P50は龍泉窯系の青磁皿である。2次的に熱を受けている為か、釉薬が変色・気泡立っている。15世紀前半頃の製品とみられ、胎土に複数の刻みをいれており、蓮弁を表す影蓮弁文が施されている。P51~P56は景德鎮窯系の製品で、うちP51~P53は鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。P51・P56は白磁、P52~P55は青花である。P55は内外面ともに熱を受け釉薬が気泡立っている。P56は橋爪門調査区下水管南壁Ⅲc層(第83図 2012-33:300層)から出土した中国磁器白磁皿である。P57も中国磁器白磁皿で、見込には施釉前に線刻状に刻み付けた模様らしきものを見る。

P59・P60は鉢類である。P59は鶴ノ丸第2次調査区から出土した瀬戸・美濃磁器染付鉢である。内外面に型紙模様での染付が施されており、近代に属する。P60は橋爪門調査区から出土した肥前磁器染付鉢である。小片だが角形の鉢とみられ、外面には青味かかる釉薬が施されている。

P61~P64はその他の器種を一括した。P61は肥前磁器染付製品で、内面に釉薬が施されておらず、火入れと考えられる。P62は瀬戸・美濃磁器白磁製品で、小型の壺の可能性がある。P63は鶴ノ丸第2次調査区からの出土した中国の青白磁瓶である。P64は瀬戸・美濃産出の磁器(散)蓮華である。柄から匙部分にかけての破片で、全体的に釉薬が施されており、底部のみ露胎である。

#### 陶器 [第103~105図、P65~P104]

P65~P68は全て橋爪門調査区から出土した碗類である。P65・P66はともに16世紀代の瀬戸・美濃陶器天目茶碗である。体部の厚みや開き具合に若干の差があり、P66がやや古い時期に相当するものとみられる。P67・P68は肥前陶器碗である。P67は灰釉碗、P68は陶胎染付碗である。

P69~P82は皿類である。P69~P71は肥前陶器皿である。P69は見込に鉄絵が施されている。P70・P71は灰釉が施され、底部は削り高台で高台内部に兜巾が確認できる。P72・P73は瀬戸・美濃陶器皿である。P72は全体に灰釉(黄瀬戸釉)が施され、見込には放射線状の線刻がみられる。P73は灰釉丸皿である。P74・P75は越中瀬戸陶器皿である。P74は明赤褐色の胎土に鉄釉が施され、P75は見込

に菊花を象った印花文が施されている。2点とも鶴ノ丸第2次調査区から出土した越中瀬戸（第100図P14）よりは新しい時期に属するものとみられる。P76は白泥を施した上から染付を行っており、产地は不明である。P77～P81は鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。P77は肥前陶器皿で、見込に鉄絵が施されている。P78～80は瀬戸・美濃陶器灰釉皿である。P78は全体に灰釉（黄瀬戸釉）が施されており、見込には放射線状の線刻が施されていることからP72と同一個体もしくは同一種類の製品とみられる。口縁部端にはくびれとみられる箇所も確認できることから、輪花の可能性を考えられる。P81は備前陶器皿である。

P82は中国陶器皿（盤）である。16世紀末～17世紀初頭頃の華南三彩とみられ、内面には線刻で雲形の文様が施されている。

P83～P94は鉢類である。P83は瀬戸・美濃陶器鉢で、全体的に鉄釉が施されている。P84は備前陶器鉢、P85～P88は肥前陶器鉢である。このうちP85は平鉢で、内面に刷毛目の模様が施されており、17世紀後半から18世紀頃の刷毛目唐津と考えられる。P86～P88は擂鉢である。P89～P91は越前陶器で、P89は擂鉢、P90は広口の鉢である。P92～P94は鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。P92は肥前陶器鉢で、内外面に灰釉が施されている。P93・P94は越前陶器擂鉢である。口縁部の形状からともに16世紀末～17世紀初頭頃の製品と考えられる。

P95～P104は甕・壺・瓶類等である。P95～P96は越前陶器甕である。P95は自然釉が胴部から底部にかけて垂れている。P96は橋爪門調査区近代暗渠東壁Ⅲb層上面で検出した遺構SK17（第85図2012-34:89層）から出土したものである。P97は鶴ノ丸第2次調査区から出土した備前陶器壺の底部である。P98は瀬戸・美濃陶器瓶である。全体に鉄釉が施されており、内面に同心円状の条痕がみられる。P99は瀬戸・美濃陶器の筒型容器である。胴部中程に沈線が1本めぐり、鉄釉がかけられている。形状等から茶道具の1つである茶入れの一種とみられる。P100は土瓶の蓋で、外面に白泥および灰釉を施している。产地については不明である。P101は土瓶の口縁部で、灰釉が施されている。P102は瀬戸・美濃陶器の製品で、土瓶の底部である。P103は信楽系陶器土鍋とみられる。内面に鉄釉が施されており、底部外面は露胎である。

P104は中国陶器片で、外面には線刻による模様が施されているが、小片のため器種は不明である。

## 土器 [第105～106図、P105～P135]

土器では焜炉や土鍤等が出土しているが、多くは土師器皿である。土師器皿については、鶴ノ丸第2次調査区遺構出土遺物と同様、土師器皿の器形分類案（第99図）に依拠した分類ごとに掲載している。

P105～P107は土師器皿以外の製品を一括した。P105は火鉢の口縁部で、口縁部内側が肥厚している。P106は焜炉でP105と類似した形状をしているものの、口縁内面に独立した突起を有する。外面には透明釉が施される。P107は土鍤である。

P108～P135は土師器皿である。

P108～P120は開き気味に立ち上がる体部と口縁内面に端面を有しており、京都系（B類）とした。

P108～P110は橋爪門調査区からの出土である。P109は橋爪門調査区下水管南壁で検出したIVa面の遺構SK23（第83図2012-33:376層）から出土したものである。

P111～P120は鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。P111・P112はA層、P113～P119はB層、P120はC層（B層出土破片と接合）から出土しているが、下層にあたるC層出土のP120が京都系の典型とは言い難い等、変遷を考える上で、器形の特徴と出土層位は必ずしも整合していない。ただし、京都系の特徴を基本的に保持するものの、底部が厚いP117のようなタイプは、肥前陶器と共伴する事例が知られる（本丸附段調査区2004-1地点SK15「金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書1」[石川県金沢城調査研究所 2008a]）。またP118・P119はB類の範疇と判断したが、C1類との差異は明確にし

難く、これらの年代については、1610年前後まで下る可能性がある。

P121～P135は橋爪門調査区から出土したもので、すべて京都系の要素が顕著でないC類である。P121～P123はC1類で、口縁端部を尖り気味におさめる。P124～P135はC2I1類で、面取状になる口縁外面・内屈する口縁端部・平坦な底部から急に立ち上がる体部等の特徴が認められる。このうちP132～P134は圧痕のないC2I1a類、P135は底部外面に板目状の圧痕があるC2I1b類である。

## 小結

ここでは鶴ノ丸第2次調査区および橋爪門調査区から出土した土器・陶磁器の内、近世の遺構・整地土から出土した遺物をいくつか取り上げ、年代観について改めて整理を行った。

### 鶴ノ丸第2次調査区

A層では遺構が確認されておらず、A層中から出土した遺物のみとなる。このうち土師器皿2点(P111・P112)はB類であるが、明確に新しい傾向を持つとは言えず、また1620年前後から盛行するC2I類は出土していない。その一方で肥前陶器が出土している。

B層遺構(SK5)から出土した遺物(P1・P2)はB類の土師器皿のみで、遺物単体としてはB層出土遺物よりも古い印象を受ける。

B層から出土した遺物として土師器皿が若干認められる。土師器皿では典型的なB類の他に、C1類に近いタイプがみられる。また、B類の中でも底部に厚みがあるタイプが確認されており、これは、城内の別の調査区で同様の物が肥前陶器と共に共存している事例がある。本調査区内ではB層から肥前陶器は出土していないが1610年前後の年代が考えられる。

C層遺構(SK4・7・10・SK1)から出土した遺物では、土師器皿の特徴からD層遺構と近接した時期が考えられる。

C層から出土した遺物としては土師器皿B類(P119)等があるが、年代的な特徴は明確ではない。D層遺構から出土した遺物は土師器皿の他に、越中瀬戸や黄瀬戸を伴う。土師器皿に見られる特徴やそれらの共存する遺物からD層は1590～1600年代とした橋爪門一ノ門下層資料(SK02等)と対比することができる(『金沢城跡－二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓II－』[石川県金沢城調査研究所 2012a])。

D層からは遺物は出土しておらず、全てD層遺構(SK2・SK3)から出土した遺物のみとなる。

以上のことから、D～C層は1590～1600年代、B層は1610年前後、A層はB層に後続し、1620年頃まで下らないと考えられる。

### 橋爪門調査区

IIIb層から出土した遺物は確認しておらず、IIIb層遺構(SK17)から出土した越前陶器壺(P56)のみである。

IIIc層遺構(SK18)から出土した遺物は土師器皿(P133～P135)ではC2I1a類・C2I1b類がみられ、全体として1630年前後の年代を示す。

IIIc層から出土した遺物として中国磁器白磁端反皿(P56)がある。

IVa層から出土した遺物は確認しておらず、IVa層遺構(SK23)から出土した遺物として土師器皿B類(P109)がある。土師器皿の特徴から1610年前後の年代が考えられる。

以上のことから、IIIc層遺構は1630年前後、IVa層遺構は1610年前後の年代が考えられる。しかし、これらは遺構から出土した遺物をもとにしたもので、IIIc層およびIIIb層遺構から出土した遺物については年代の絞り込みが困難である。

このように橋爪門調査区については、全般的に近世の遺構・整地層からの出土遺物自体が乏しいこ

ともあり、遺物の年代観と層序との対応については、鶴ノ丸第2次調査区に比べて明確ではない。

## 2. 瓦 [第107~114図、第19~24表]

鶴ノ丸第2次調査区および橋爪門調査区から出土した瓦は全て粘土瓦である。種類としては軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・軒棧瓦・棧瓦・腰瓦・熨斗瓦・面戸瓦・鬼瓦等を確認しており、それぞれの表面処理については、掲載遺物番号の後ろに「焼」「釉」等と表示した。また、軒丸瓦（巴文）および腰瓦（側邊中央凹部）については『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書Ⅱ』[石川県金沢城調査研究所 2014c]における分類案（第99図）に依拠する。

### 軒丸瓦 [第107図、T10 ~ T43]

T10 ~ T43は軒丸瓦である。このうち瓦当文様から巴文（T10 ~ T35）と梅鉢文（T36 ~ T42）の2種に大別した。さらに表面処理の別をもって掲載している。全体的に小片となっているものが多く、やや大型の破片が数点確認できた程度であり、文様の細分類については、可能なものに限り行った。

T10 ~ T35は巴文である。このうちT33のみ鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。数点程、文様の上面が平坦になっているものが確認でき、金箔が貼られた金箔瓦として使用されていたと想定できるが、その痕跡は確認できなかった。巴文の向きについては、尾の向きを基準とする（第99図参照）。

T10 ~ T33は焼瓦である。瓦当部のみ遺存しているものが多く、確認できる範囲でT10・T14・T17・T18・T21・T22・T25・T27 ~ T31は右回りT16・T24は左回りにめぐる。T13・T23は左回りにめぐる巴文と、体部凹面にて確認した粘土切り離し痕は粗い斜線状を呈するコビキAである。T26は瓦当部の欠損が著しく巴の向きは不明で、体部凹面の粘土切り離し痕は焼瓦の中では唯一滑らかな水平状を呈するコビキBである。T33は巴が左回りにめぐる他、文様の上面が平坦になっている（IV類）。

T34 ~ T35は釉薬瓦で、全て橋爪門調査区からの出土である。どちらも巴の向き、粘土切り離し痕については不明である。T34の胎土は全体的に赤褐色を呈するが、瓦当部と体部とで胎土の様相が異なる。釉薬は光沢のある暗茶褐～暗紫色の色調を呈する。T35の胎土は細砂を含む橙色を呈し、一部で縞状をなす。

T36 ~ T42は橋爪門調査区から出土した梅鉢文で、全て釉薬瓦である。その大半が瓦当部のみの遺存である。T36・T38 ~ T42はわずかに遺存している瓦当部から梅鉢文とした。T37は梅鉢文の中で唯一瓦当部が完形で出土しており、花芯と花弁の間に軸と剣を確認することができる（III類）。

T39は体部が遺存しており、凹面の粘土切り離し痕はコビキBである。

T43は瓦当部がわずかに遺存しているものの、小片のため文様をうかがうことができない。

### 軒平瓦 [第108図、T44 ~ T79]

T44 ~ T79は軒平瓦である。こちらも瓦当文様から桐・花・三葉・菊・桜・梅鉢・玉文の7種に大別し、文様の細分類については、可能なものに限り行った。

T44は橋爪門調査区から、T45は鶴ノ丸第2次調査区から出土したものである。2点とも瓦当の左側が欠損しているが、遺存している中央飾りから桐をモチーフとした桐文とした。T45では上端部に2cm程の幅の大きな面取りが確認できる。

T46は瓦当部の上半分が欠損しているが、遺存している文様から牡丹の花弁をモチーフとした花文（II類）とした。

T47 ~ T64は中央に三枚の葉を配する三葉文で、中央飾りの葉と両脇の唐草の様相からI ~ VII類の7種と、垂下型の計8種に細分できる。

それぞれT47 ~ T50は中央部下半にみられる唐草が2本下向きに巻き、さらに唐草外側末端部上部

が枝毛状になるタイプ（Ⅰ類）、T51～T57は中心飾り脇から下向き・上向き・下向きの弧状唐草文を派生させるタイプ（Ⅱ類）である。さらにT58は唐草が「川」字状を呈し、外側上方先端下部が枝毛状に分かれるタイプ（Ⅲ類）、T59は中央飾りの三葉がやや上方にずれ、唐草が葉の下に入り込んでいるタイプ（Ⅳ類）である。T60は体部が著しく歪曲し、瓦当部は大きく欠損しているが、わざかに残った文様区からは唐草が1対上下方向に巻いている様が確認できる。このことから短い唐草が上下交互に巻くタイプ（Ⅵ類）とした。T61はT45と同様に、文様区上端に面取りが施されている。文様は中央飾りの葉が下向きになり、大きく「S」字状にうねる唐草を主軸として、そこから派生する上向きの子葉と外側末端の蕾状の膨らみが確認できることから、「垂下型三葉文」と呼ばれるタイプである。T62・T63は確認できる唐草の様相から三葉文であるとしたが、細かい分類については不明である。T64～T69は文様区の遺存が悪く、文様を把握することができなかった。

T70・T71は菊文である。T70は部分的に遺存している中央飾りが10弁の菊の花になっており、唐草が短く上に跳ね上がっているタイプ（Ⅰ類）、T71は唐草外側末端部のみの遺存だが、唐草の様から花弁が8枚で唐草外側が屈曲するタイプ（Ⅱ類）とした。2点とも明赤褐色の胎土に光沢のある黒色の釉が施されている。

T72・T73は中央飾りに桜花を配する桜文（Ⅰ類）である。2点とも橙～にぶい橙色を呈する胎土、一部で縞状になっている。釉薬は黒褐色～黒色の釉薬を確認しているが、T72では艶のある釉薬が厚く、T73では艶のない釉薬が薄く施されており、若干の差異が見受けられる。

T74～T78は中央飾りに丸ないし擬宝珠状の玉とそれを抱く唐草で構成された玉文である。3点とも末端部の唐草の様相からⅡ類とした。

T79はトレンチ4から出土したもので、遺存している文様区から唐草と思しき痕跡が確認できる。

#### 軒棧瓦 [第109図、T80～T84]

T80～T84は全て橋爪門調査区から出土された軒棧瓦である。T80のみ焼製の軒棧瓦である。T81は平部が遺存しており、唐草の様相から玉文（Ⅱ類）とした。T82・T83は丸部が遺存しており、花弁・花芯間に軸・劍を有する梅鉢文（Ⅲ類）を確認することができる。T84は軒棧瓦の中では丸・平両部分が遺存しており、それぞれ丸部は梅鉢文（Ⅲ類）、平部は玉文（Ⅱ類）となっている。

#### 丸瓦 [第109～110図、T85～T96]

丸瓦のうちT85～T92は焼瓦である。粘土切り離し痕については、橋爪門調査区から出土した瓦（T85～T88）ではコビキBが確認され、対して鶴ノ丸第2次調査区から出土した瓦（T90～T92）ではコビキAが確認されている。

T93～T96は釉薬瓦である。全て橋爪門調査区からの出土であり、凹面の粘土切り離し痕はT94にのみコビキBを確認することができたが、残りの3点については不明である。釉薬は外面全体に施されており、内面は下端まで露胎している。

#### 平瓦 [第110図、T97～T105]

平瓦のうちT97～T102が焼瓦である。T98は裏面に穿孔のようなものが1つ確認できる。T100～T102は鶴ノ丸第2次調査区から出土したものである。この中でT101は厚みが3.2cmと今回確認した瓦の中では最も厚いものとなっている。前面端部は欠損しており、面取りの有無は確認できなかった。

T103～T105は釉薬瓦で、3点とも両面全体に釉薬が施されている。

## 棟瓦 [第111図、T106～T120]

棟瓦は全て橋爪門調査区からの出土である。T106は焼瓦であるが、形状から棟瓦とした。T120は棟瓦に面戸瓦が一体化した面戸付棟瓦となっている。

## 腰瓦・棟瓦・棟込瓦等 [第112～113図、T121～T157]

T121～T125は腰瓦である。腰瓦の側部中央凹部（腰瓦を固定する際に釘で打ち留める箇所にみられる凹み）の形状は、T121～T123では平面形および側辺が方形をなすタイプ（方形四）のもの、T124では平面形が円形・側辺が方形をなすタイプ（円形四A）のものを確認している（第99図参照）。

T126～T131は棟瓦。T132～T140は棟込瓦（輪違い）とした。T141～T144は面戸瓦である。T142では両面全体に黒色の釉薬が施されているのに対し、T141・T143・T144では暗赤褐色～黒褐色の釉薬が片面にのみ施されている。

T145～T148は熨斗瓦である。このうちT148のみ鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。

T149は隅瓦、T150は谷瓦である。一部縮状を呈するにぶい黄橙色の胎土に、光沢のある黒色の釉薬が全体に施されている。T151は形状から袖瓦とした。T152、T153は厚み・形状ともに他の瓦と異なる様相をしており鬼瓦などの飾り瓦とみられる。

T154～T157は不明品とした。T156は胎土が明赤褐色を呈しており、光沢のある黒色の釉薬を施す。T120のように面戸付の瓦のようにも見えるが、T120とも異なる形状をしている。T157も袖瓦や谷瓦等のような垂れ部分が確認できるものの、全形をうかがうことができず不明品とした。

## 刻印 [第114図、T158～T177]

鶴ノ丸第2次調査区および橋爪門調査区にて出土した瓦からは、刻印を有するものが数点確認されている。T158～T177は刻印の拓本を掲載した。刻印を確認した瓦の大半を袖瓦が占めており、焼瓦では数点にとどまる。

T158～T162は「〇」の刻印である。図示した遺物の中では、棟瓦のT113・T117（第111図）でも確認されており、比較的よく確認される刻印の1つである。

T163～T165は「〇大」の刻印である。図示した遺物の中では棟瓦T112（第111図）にみられる。

T166～T169は「〇カ」の刻印である。図示した遺物では、丸瓦（第110図 T95）・棟瓦（第111図 T108・T115・T118）・棟瓦（第112図 T127）にも見られ、今回確認した刻印の中では最も数量が多い。

T170は「〇八」の刻印である。図示した遺物では、軒丸瓦（第107図T37・第110図T43）・軒平瓦（第108図 T78）・棟瓦（第111図 T110・T119、第114図 T170）にもみられる。

T171は「〇上」の刻印である。図示した遺物では平瓦（第110図 T97）にもみられ、文字が陽刻になる他、「上」の第2画目が線ではなく丸になっているのが特徴である。「上」字の刻印には、T171の他に、文字の開みが丸ではなく方形になっているもの（第109図 T86）もある。

この他の刻印として、丸瓦（第110図 T96）では「〇二」の刻印を、棟瓦ではT109（第111図）で「〇□」・T114（第111図）で「〇イ」のような刻印、T116（第111図）では棟部上面に「〇平」の刻印を確認している。T114は印がずれており詳細は不明である。T116は他の刻印よりも大きいのが特徴である。腰瓦（第112図 T125）でも丸枠に閉まれた篆刻のような刻印を確認している。T172では、「四つ菱」の刻印が確認されている。T173は「〇十」の刻印がみられる。同様の刻印は輪違い（第113図 T144）の体部中央でも確認されているが、T144の刻印は他の刻印よりもやや大きなものとなっている。T174では「L」字状の刻印を、T175では「車輪型」・「松皮菱」の2種の刻印を確認している。T176・T177は刻印らしき痕跡を確認することができたが、欠損や釉薬により不明とした。

### 3. 金属 [第115～116図、第～表]

鶴ノ丸第2次調査区および橋爪門調査区から出土した金属製品は、その多くを釘が占めており、その他に弾丸や銅錢、煙管等が出土している。大きく建築部材・武器類・日用品類・他不明品の4種にわけて掲載した。

#### 建築部材 [第115～116図、M5～M75]

M5～M75は建築部材である。全て釘であり、材質から鉄釘と銅釘に分けることができる。

M5～M15は鉄釘である。M15のみ鶴ノ丸第2次調査区からの出土となっている。M5～M12、M15は頭巻釘と呼ばれるもので、断面が不整四角形の体部に頭部を環状にまく。M13・M14は貝折釘と呼ばれるもので、同じく断面が不整四角形の体部で、頭部は「L」字状に曲げられる。

M16～75は銅釘である。鉄釘にみられるような頭巻釘や貝折釘は確認されず、断面が不整四角形の体部に梢円形の頭部が取りつく形状を呈しているが、M40のみ頭部が方形になっている。

#### 武器類 [第116図、M76～M88]

M76～M88は武器類である。その大半が弾丸や薬莢等の銃器に関する遺物となっている。

M76～M83は火縄銃に関連した製品である。M76～M80は鉛玉である。このうちM80のみ鶴ノ丸第2次調査区からの出土である。形状から火縄銃等の弾丸として使用されたものとみられる。M81、M82は引き金である。M81は先端の指をかける部分が欠損している。M82では滴形の引き金である。M83は鶴ノ丸第2次調査区から出土したもので、火皿と銃身の間に嵌め、火皿から銃身を保護する雨覆である。

M84は鶴ノ丸第2次調査区から出土した鉄製の鎌である。鎌による劣化が著しいため全形をうかがうことはできないが、先端部は円錐形の形状を呈していたとみられる。

M85～M88は橋爪門調査区から出土された銃弾の薬莢と弾丸である。形状からともに軍隊期に使用されたとみられるライフル銃の薬莢とその弾丸とみられる。

#### 日用品類 [第116図、M89～M93]

M89～M92は日用品類である。

M89は鶴ノ丸第2次調査区から出土した煙管の雁首部である。火皿からのびる脂返しの湾曲が小さいものの、火皿と脂返しの間に僅かながら火皿補強帶が確認できることや、肩部が頗著であることから煙管の中でも古相がうかがえる。M90・M91は管状の製品である。M89の肩部と似ており、煙管の可能性がある。M92は蝶番である。大半が欠損しているものの、固定用の釘穴などが確認できる。M93は銅錢である。全体的に鎌が著しく判読しにくいが、「寛永通宝」の文字を読むことができる。

#### その他の製品 [第116図、M94～M104]

M94～M104はその他の製品である。

M96～M98は金具類である。M94は銅製の金具で、美錠のような形状を呈しているが、全体的に平らにつぶされている。M95は鉄製の金具で、小型の鎌のような形状をしている。M96は銅製の金具で、環状を呈している。

M97は方柱状に成形された炭化物と思しきものの上部に金属製の棒が付随している。遺物の構造から乾電池とみられるが、現在の規格とは異なる形状をしていることから、乾電池の量産が開始されてから規格が統一されるまでの間に製造されたものとみられる。

M98は近代路面から出土したボタンである。学生服等でよくみられるようなドーム型の形状をしており、裏面には衣服に縫い付けるための足金具が付隨している。軍隊～大学期のころに使用されたも

のとみられる。

M99～M104は製品の同定ができず不明品とした。M99、M100は歪曲した板状の鉛である。2点とも似たような歪曲の仕方をしており、同製品もしくは同一個体であった可能性が考えられる。M101は先端がやや「L」字状に屈曲した細い棒状鉛である。M102～M104は扁平な棒状の銅製品である。

#### 4. 石製品 [第117～124図、第27表]

出土石製品は全て橋爪門調査区からの出土である。石垣石や近代の敷石なども出土しているが、二ノ門に関連する暗渠・枠等の部材を中心に図化を行った。

石材は、主に「戸室石」「鷹巣石」である。戸室石は岩石名「黒雲母角閃石安山岩」で、金沢城から東南東へ約8kmに位置する、戸室山・キゴ山に由来する火山岩である。色調から青灰色の「青戸室石」と赤褐色の「赤戸室石」と呼び分けられており、本調査では、赤戸室石は暗渠部材に、青戸室石は敷石や葛石とみられる部材に使用されていた。鷹巣石は戸室山から約4km南西に位置する金沢市瀬領や相合谷、鶯原一帯で採石される火山礫凝灰岩で、本調査で検出・出土した石組暗渠・枠の石材のほとんどを占める。

暗渠・枠部材は、水が流れる面を表面とし、土に接する面を裏面とした。寸法は観察表に記載しており、調整痕など観察表に記載していない事柄を中心に記述した。

##### 暗渠・枠部材 (S1～22)

S1～7は暗渠蓋板、S9～11は暗渠側板、S13～19は暗渠底板である。S20～22は種類を特定できなかつたが、暗渠・枠関連の部材と考えられる。S8・12は枠側板の可能性がある。石材は、蓋板S1・S2のみ赤戸室石で、他は全て鷹巣石である。赤戸室石の部材は他に、文化期の石組暗渠の側板に1枚使用されている。

##### 暗渠蓋板 (S1～7) [第117～119図]

S1・S2は赤戸室石製である。一辺が62～64cm、厚さ9.6cmの正方形を呈する。暗渠直線部の近代の通用門掘方東側に2枚並んで設置されていた。東側のS1は水道管(1)埋設により、西側のS2は近現代の削平により壊されていた。側板との受け部が作られず、一辺の寸法が暗渠の外寸53cmに対して広いことから、蓋板に転用された可能性も考えられる。どちらも表面の暗渠内にあたる箇所が灰色または暗褐色に変色している。

S3～7は鷹巣石製である。S3は赤戸室石製の蓋板S1の東側に位置し、水道管(1)埋設の際に壊されていた。S4は屈折部の東西方向の暗渠を覆っていた蓋板で、共同溝埋設の際に壊されている。S5は近代の通用門設置の際に、南側門柱の礎板として転用されていた。S6は文化暗渠の抜き取り痕から、S7は文化枠の抜き取り痕と文化暗渠の抜き取り痕が重なる地点から出土した。

S3・S4は長辺の両側に、長辺と平行に幅9.2cm、深さ1.2～1.3cmの側板との受け部を削り込む。暗渠蓋板の規格はS3・4のように長辺91cm、短辺56cm、厚さ9cm程の長方形が主体と推測されるが、S7のように受け部が辺と平行にならない例や、S5のように平行な短辺に長辺が斜交し、短辺側に削り込まれた受け部が辺と平行ではない例もみられる。S5の長辺は、それぞれ暗渠直線部と屈折部の軸に対してほぼ直角になるように作られており、直線部と屈折部の交点にあたる近代の通用門掘方内で使用されていたと推測される。S7は受け部の段とそれに斜交する辺の角度が、文化暗渠東西軸と枠西側板との角度に整合することから、文化暗渠の開口部で枠側板に接して置かれていたと推測される。またS7の側面には再加工した痕跡がみられ、1辺25cmのやや歪な方形に成形し直している。SX02で検出した木蓋付溝の押え石と寸法が類似しており、出土地点からも木蓋付溝の押え石に転用した可能性がある。全体に褐色に変色しているが、裏面の約19～22cm四方の範囲が元の色を留めて

おり、S23程度の大きさの石と接していたと考えられる。

#### 枠側板（S8・S12）〔第119・120図〕

S8は枠下段東側の側板の上で、枠内に倒れるように出土していたことから、枠中段東側の側板の可能性がある。短辺（高さ）は31.2cm遺存していた。受け部が削り込まれており、枠下段と組み合せ方を変えていると推測される。

S12は文化枠の抜き取り痕から出土した。継ぎ手がみられず暗渠底板・木蓋付溝底板の可能性も考えられるが、S12の短辺が28.6cmであるのに対し、暗渠底板の短辺が36～38cmであり、木蓋付溝の底板の短辺が21cm程度と推測されることから（第7章第2節参照）、これらの可能性は低いと考えられる。出土地点から枠側板の可能性が推測され、S8が枠中段の側板とすると枠上段の側板と考えられる。

S8が枠中段、S12が枠上段の側板とすると、枠下段上面の標高が44.19m、統檜台石垣南面にみられる二ノ門敷石上面痕跡の標高が44.83m、枠上段（S12）の高さが28.6cmであることから、枠中段（S8）の高さは35.4cm以下（標高44.544m以下）と推測される。また、枠中段の高さは暗渠蓋板の厚さの中に収まると推測されることから、暗渠側板東端の標高44.467mと蓋板の厚さを8cmとした時の暗渠蓋板上面標高44.547mの間と考えられる。S8の高さは31.2～35.4cm（標高44.467～44.544m）と推測され、以上の条件を満たす木蓋の厚さは最大1寸（3cm）であり、その場合S8の高さは32.4cm（標高44.514m）となる。

#### 暗渠側板（S9～11）〔第120図〕

S9は近代の通用門設置の際に、門柱の北側壁板に転用されていた。S10・S11も近代の通用門埋土から出土した。検出した暗渠遺構も参考にすると、側板の規格は、長辺90～92cm、短辺約37cm、厚さ9～10cmの長方形とみられる。短辺に幅1～2cmで厚さの半分程度の深さに継ぎ手を、1辺は表面側から、もう1辺は裏面側から互い違いになるように削り込む。相欠継と呼ばれる継ぎ方である。

#### 暗渠底板（S13～19）〔第120～122図〕

全て近代の通用門掘方から出土している。近代の通用門掘方によって壊されている部分の底板を充填するには点数が多いことから、他の地点のもの、もしくは枠側板も含まれると考えられる。底板の規格は検出した遺構から、長辺88～92cm、短辺36～38cm、厚さ8cm程度の長方形とみられる。S16は側面が斜めに成形されており、側板や底板と隙間なく接するためと考えられる。

#### 調整

戸室石・鷹巣石とともに、線状加工痕と幅広加工痕がみられる。前者はツルなどを用い、後者はチョウナ等平刃状工具を用いたと考えられる。凝灰岩は部材に関わらず同様の調整が行われており、戸室石も鷹巣石に類似する。ただし、戸室石は蓋板のみ取り上げているため、全体の傾向を示しているとは限らない。

#### 戸室石

ツルによる調整は面に関わらず、相対する辺の端から中央へ垂直または斜め方向に2方向に施すものが主体であるが、1方向のものもある。裏面はチョウナ状工具による調整があまり施されないため、ツル痕の幅・深さ・長さ・間隔が表面・側面より広く深く長い。

チョウナ状工具による調整は面ごとに方法が異なっている。表面は全体に丁寧に施す。中央部でツル痕が明瞭に残るが、端部は辺に対して平行に連続して施し平滑に仕上げられる。側面は表面側のみ

平滑に仕上げる。表面側はツル痕の底まで削りを施すためほとんどツル痕は残らないが、裏面側はツル痕を部分的に削るのみでツル痕やチョウナ状工具痕の凹凸が目立つ。全体にやや斜めに施すが、平滑部分は辺に対して平行に施す。裏面は端部を平滑に仕上げ、中央部はツル痕の間を削る。ツル痕の間を削る場合はツル痕に対して直角に施し、全体に丁寧な削りが行われ平滑な印象である。端部の平滑部分は辺に対して平行に連続して施す。

### 鷹巣石

ツルによる調整は戸室石同様、面に関わらず、相対する辺（多くは長辺）の端から中央へ垂直または斜め方向に2方向に施すものが主体であるが、1方向のものもある。表面・側面は、その後のチョウナ状工具による調整が丁寧にしっかりと施されるため、ツル痕はあまり残らない。ツル痕の長さには戸室石との違いはみられないが、幅・深さ・間隔は鷹巣石の方がやや広く深い。また、戸室石と同様に裏面はチョウナ状工具による調整があり施されないため、ツル痕の幅・深さ・長さ・間隔が表面・側面より広く深く長い。S17の裏面には、幅17cm程の加工の単位が窺える。

チョウナ状工具による調整は面ごとに方法が異なるが、戸室石と共通点が多くみられる。表面は戸室石と同様に全体に丁寧に施す。とりわけ鷹巣石の場合はツル痕があまり残らないように平滑に仕上げられる。S14・S16のように、角を頂点として弧を描くように奥から手前に施し、部分的に90°角度を変えて施す例が多いとみられるが、丁寧に施されるため不明瞭である。蓋板の受け部は辺に対して平行に、側板の継ぎ手部は辺に対して直角に施すものが多い。側面は、戸室石と同様に継ぎ手の有無に関わらずS3のように表面側のみ平滑に仕上げる。全体にチョウナ状工具による調整が施されツル痕はほとんど残らないが、裏面側の加工は深く粗く施され凹凸が目立つ。裏面は、戸室石と同様に端部を平滑に仕上げ、中央部はツル痕の間を削る。ツル痕の間を削る場合はツル痕に対して直角に施すが、戸室石では全体に丁寧に施されるのに対して鷹巣石は部分的で、特に中央部を大きく削って最大3.0cm凹ませる。凹みの深さは、暗渠や枠の側板は1.5～1.8cmであるが、暗渠底板は1.6～3.0cmとやや深く抉られる。端部の平滑部分は辺に対して平行に連続して施す。

### その他の部材（S23～31） [第122～124図]

S23はSX02（文化期木蓋付溝掘方）で検出した押え石の北側で出土した。削平面直上で出土しており原位置を保っていなかったが、木蓋付溝の押え石の可能性があるものとした。青戸室石製で、1辺が18～19cm、厚さ3.45cmを測る。表面は磨滅のため非常に平滑で、裏面も風化により磨滅しているため、両面とも加工痕が殆ど観察できなかった。先述のように暗渠蓋板S7も、木蓋付溝の押え石に転用された可能性がある。

S25は赤と青が混じる戸室石製の石製品である。表面と側面の1面は、タタキ調整を細かく連続して斜めに施したのち、ごくわずかに90°角度を変えて施し平坦に仕上げる。特に表面は磨滅のため非常に平滑である。裏面と側面の残りの1面は、ツルによる調整を施した後チョウナ状工具でツル痕の間を削り、比較的平滑に仕上げる。葛石の可能性が考えられる。

S26～29は、表面が磨滅のため非常に平滑であることから、敷石の可能性がある石製品である。S27～29は青戸室石製、S26は凝灰岩製である。S26の凝灰岩は福井県福井市足羽山で産出する「笏谷石」に似るが、橋爪門調査区で出土した他の笏谷石よりも色調が濃く、堅く緻密であり産地は判然としない。固化していないが、コンクリート擁壁掘方内から同様の大きさの笏谷石製の敷石が出土しており、近代の充電所の敷石の可能性も考えられる。

S26の調整はおむね鷹巣石製暗渠部材と類似するが、鷹巣石製暗渠部材に比べツル痕がやや長く、チョウナ状工具痕の幅が1～2cm狭い。裏面はツル痕が残るもの、全体にチョウナ状工具による調整が丁寧に施され平滑な印象である。

S29は両短辺に段が作られる。右側の辺から辺の中央付近まで階段状に削り、左側の辺までさらにやや斜めに削る。そのため、右側の辺の長さが59.2cm遺存しているのに対し、左側の辺は最終的に約48.6cmの長さとなっている。

S27～29の調整痕は、チョウナ状工具痕を確認した。S27・S28は、表面・裏面・側面の表面側は細かな凹凸がみられるものの全体に平滑に仕上げ、側面の裏面側に面取りを施す。S29は表面・裏面ともに複数の段差がみられるが、ともに最上面は磨滅のため平滑である。側面も調整痕の凹凸はみられるが、平滑に仕上げられる。特に図上右側の辺の側面中央に、幅7.5～8.0cmの範囲で磨滅による平滑面がみられ、短辺側面の最上段も平滑に仕上げられる。

S30は鷹巣石製である。端部9.1cmを残して全体を1.5cm削り下げる。ツルの後チョウナ状工具による調整が施され、鷹巣石製の暗渠部材に類似するが、どの面も風化によって磨滅しており、調整痕は不明瞭である。何に用いられたものであるかは不明である。

S31は近現代の赤戸室石製の橋受け石である。長辺側の側面は鋭角が77°の平行四辺形となっており、裏面の鈍角を削り取っている。表面には、屋根の軒樋から続く豊橋の雨水を受ける円形の窪みと雨水を流す直線の溝が掘られる。溝の長さは39.8cmで、幅は上面で9.1cm、底部で約5.2cm、窪みの径は約8.9cmを測る。深さは窪みが浅く4.1cmで、溝の端で6.0cmと傾斜をつけて掘られる。調整はツル痕とチョウナ状工具痕がみられ、ツル痕は浅く不明瞭である。表面と溝の開口部側面・溝内をチョウナ状工具で平滑に仕上げるが、溝内の調整はやや粗い。表面は磨滅しており非常に平滑である。裏面は、溝開口部側の1/3をやや平滑に仕上げる。溝開口部側以外の側面は、裏面側の調整がやや粗い。表面にタール状の付着物がみられる。

#### その他（S32・33） [第124図]

S32は砾石である。トレンチ1の近世整地土（IIc層）内から出土した。

S33は硯である。I-C区の近現代の側溝埋土（2層）から出土した。近代以降の製品である。

### 土師器皿 器形分類

A 在地系 京都系流行以前からの系統を引くもの					13 (文獻1 Fig.307)	~16C末
B 京都系				(薄手)		~17C初
<ul style="list-style-type: none"> <li>体部が開き気味に立ち上がる</li> <li>口縁部は緩やかに外反</li> <li>口縁内面に溝面形成</li> <li>内面「の」の字状ナデ（小型品）</li> <li>内面見込み一方向ナデ→体部コナデ（大型品）</li> <li>（「2」の字状ナデが典型）</li> </ul>				(厚手)		~17C初
C 京都系の要素が顕著でないもの				1 京都系と共に、17世紀初期以後衰退 形状多様、細分の余地大きい		17C初 腰長頸
2	17世紀前半 以後～近頃	I	a	底部平坦、体部立ち上がり急。 口縁端内屈		17C初～ 元和頃
		b		底部内面 不定方向ナデ 底部外側 板（様）目状 压痕		17C前半 寛永頃
	17世紀前半以後 の主たる系統 (文獻3: I類に相当)	II		底部中央が凹んだへそ風の土師器皿 体部の立ち上がり、口縁の調整はC2 11類 に類似。(文獻3: Ⅲ類に相当)		17C初～ 寛永頃
		III		底部内面 圓錐状ナデ強く、中央未調整 底部外側 指押さえ痕		17C初～ 寛永頃

石川県立古墳・城柵考古研究所 2006a・2012aを一部改変。

文獻1：石川県立古墳・城柵考古研究所 1998

文獻2：石川県立古墳・城柵考古研究所 2002

文獻3：石川県立古墳・城柵考古研究所 2002

文獻4：石川県立古墳・城柵考古研究所 2012a

### 軒丸瓦 巴瓦分類表

分類名	珠文数	径 (cm)	巴の尾の向き	特記事項
I-1	12	16	左回り	
II-1a	14	14～15前半	右回り	中心に円形突起あり
II-1b	14	14～15前半	左回り	中心に円形突起あり
II-2a	14	14～15前半	右回り	
II-2b	14	14～15前半	左回り	尾が次の巴に繋がらないものを含む
III-1a	16	14後半～16	右回り	
III-1b	16	14後半～16	左回り	尾が次の巴に繋がらないものを含む
III-2	16	17～19	右回り	巴の間に鉤型や十字の突起あり
IV	不明	不明	左回り	巴の上面が平坦

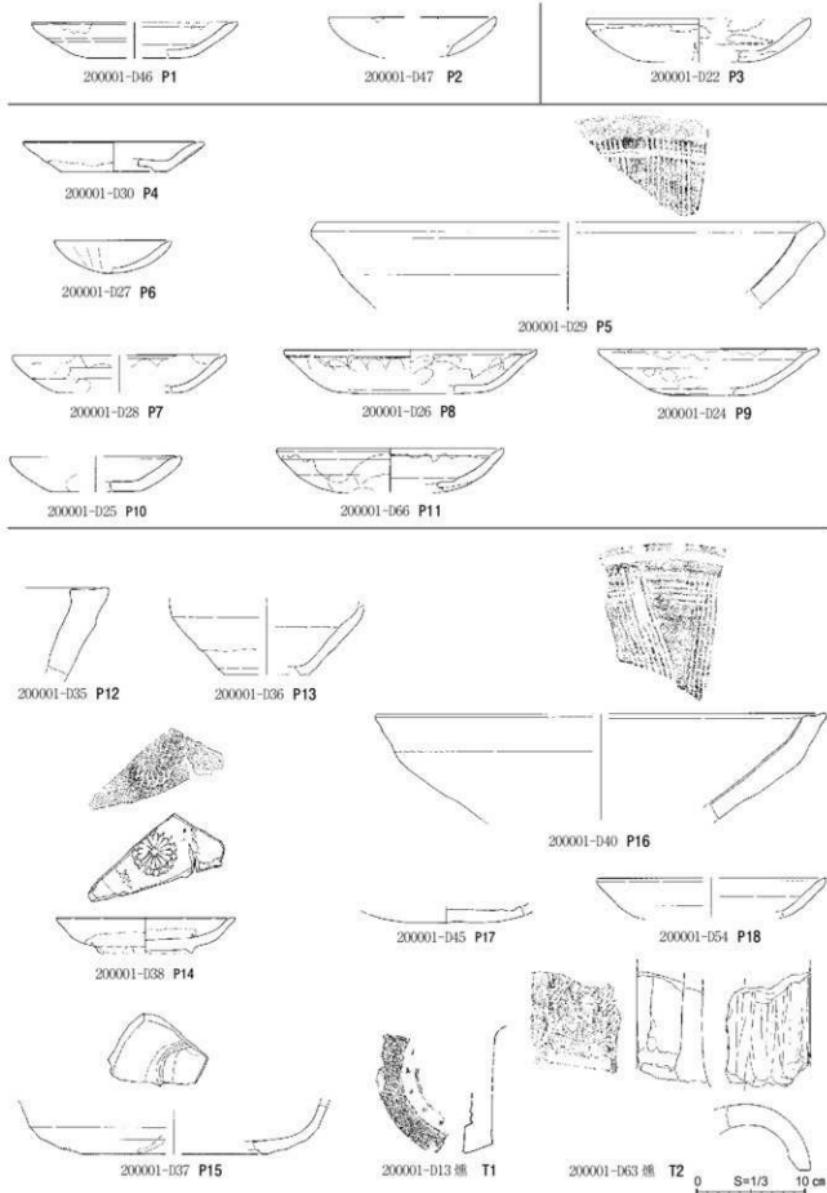
### 腰瓦個別中央門部分類表

タイプ	平面	側邊(断面)
円形凹A		
円形凹B		
円形凹C		
方形凹		
タイプ	特徴	
円形凹A	底が平らに調整されている	
円形凹B	Aのような調整なし	
円形凹C	小型で断面は浅い扇形を呈する	
方形凹	底が平らに調整されている	

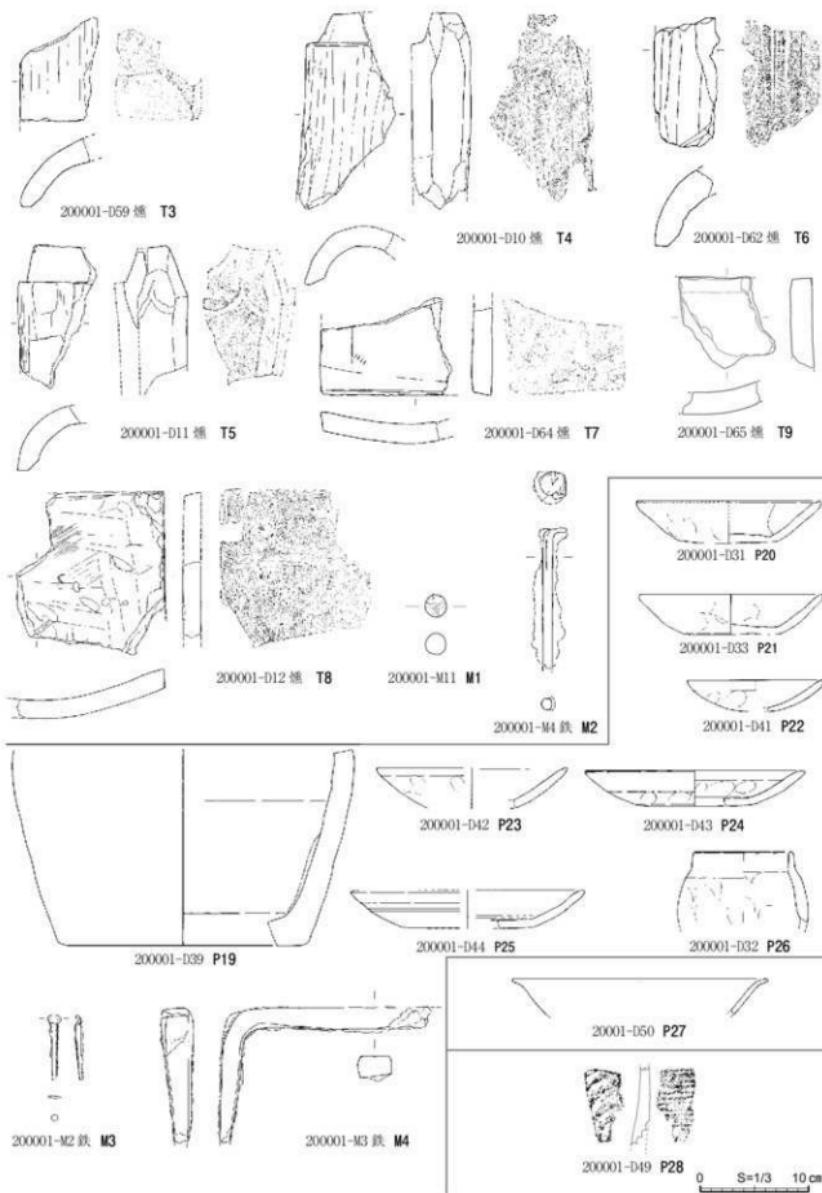
石川県立古墳・城柵考古研究所 2012aを一部改変。



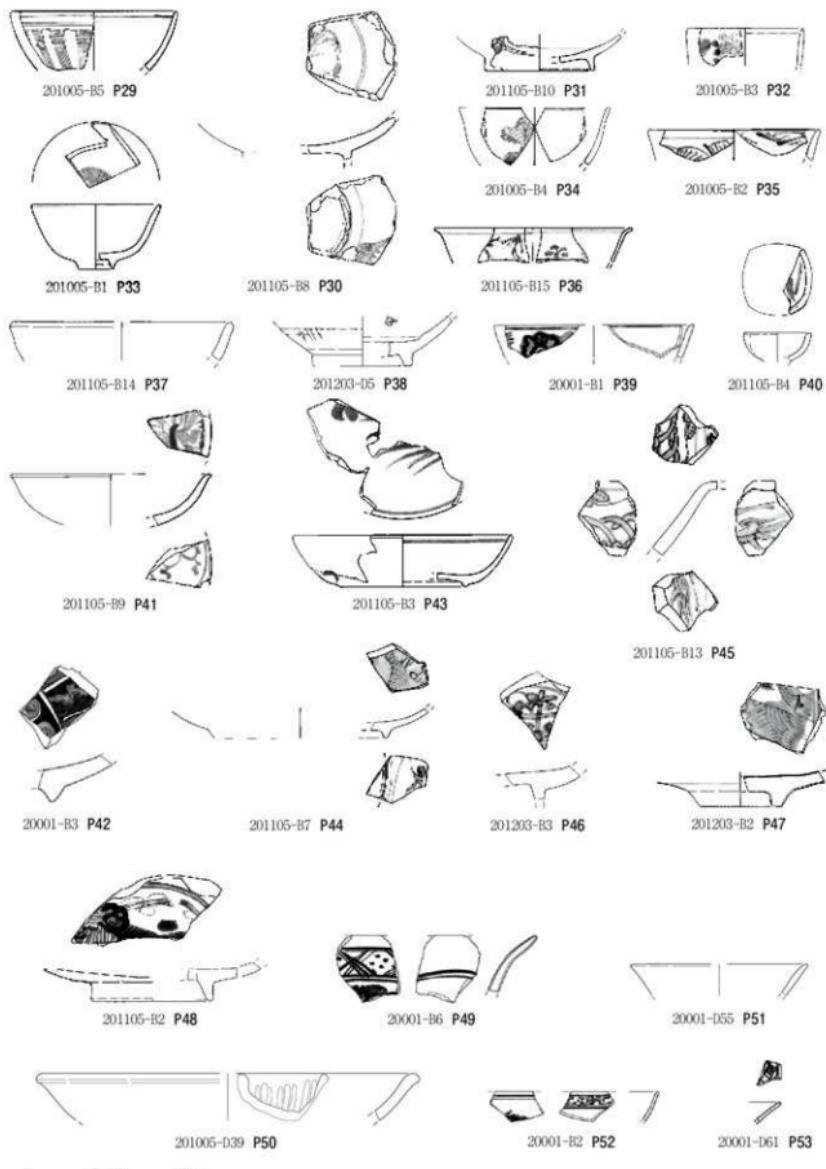
第 99 図 土師器皿・軒丸・腰瓦分類



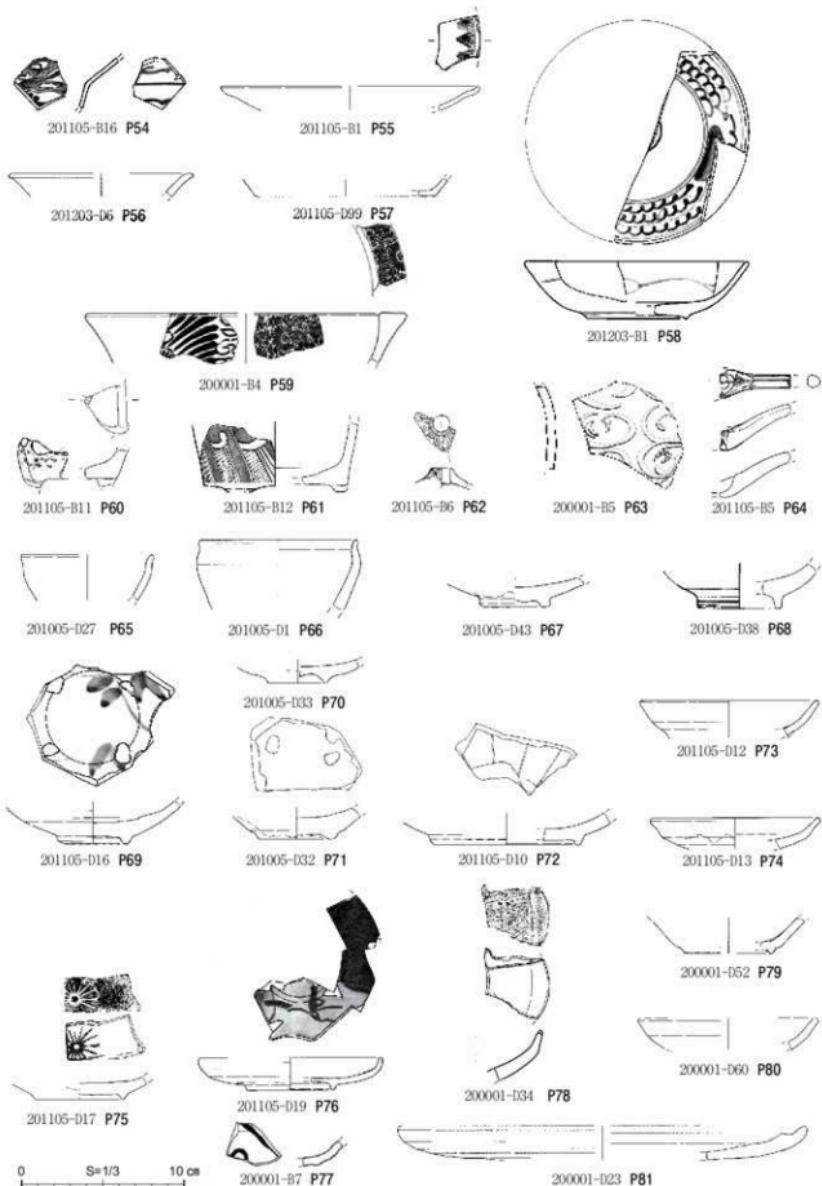
第100図 遺物実測図 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物1 (S=1/3)



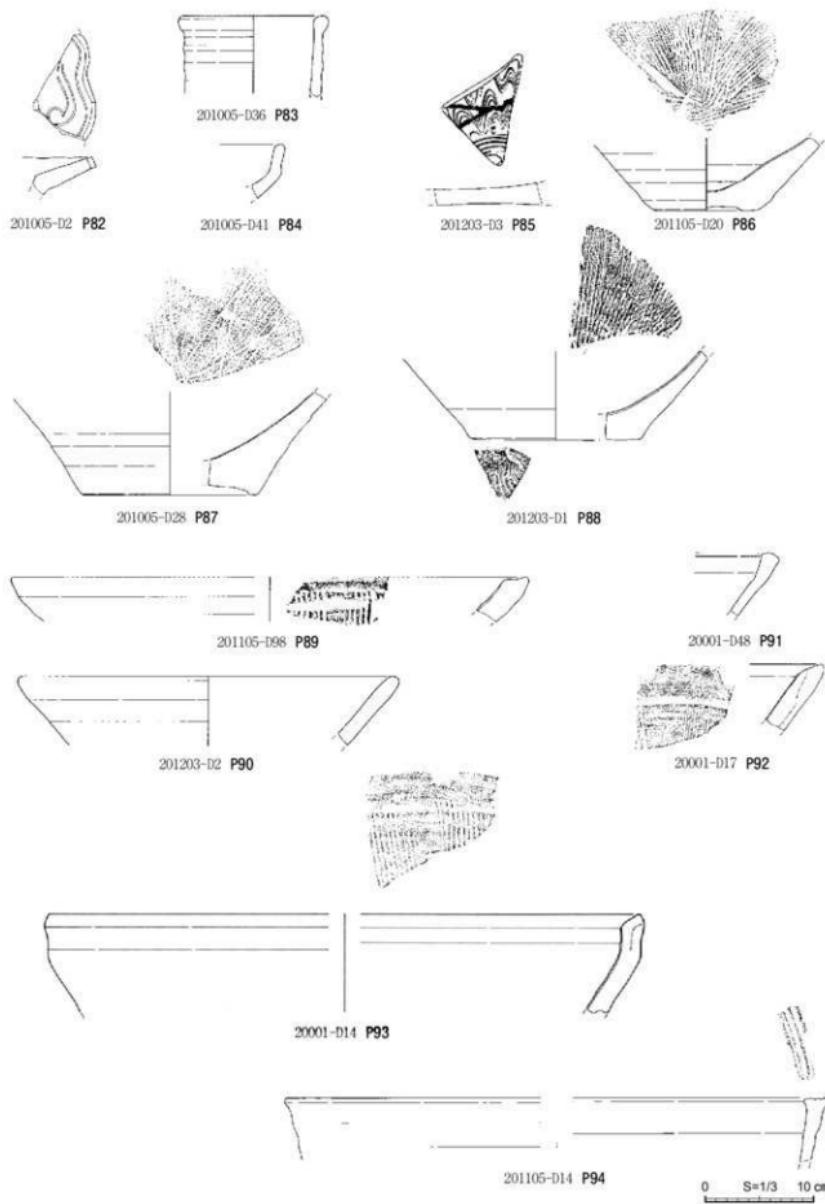
第101図 遺物実測図 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物2 (S=1/3)



第102図 遺物実測図 土器・陶磁器1 (S=1/3)



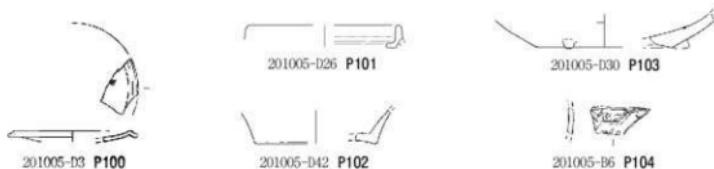
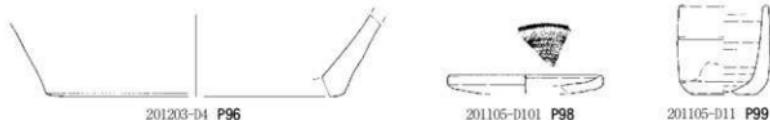
第103図 遺物実測図 土器・陶磁器2 (S=1/3)



第104図 遺物実測図 土器・陶磁器3 (S=1/3)

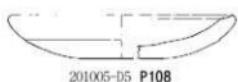


20001-058 P97

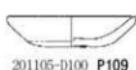


0 S=1/3 10 cm

第105図 遺物実測図 土器・陶磁器4 (S=1/3)



20105-D5 P108



201105-D100 P109



201105-D4 P110



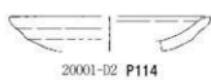
20001-D56 P111



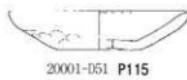
20001-D57 P112



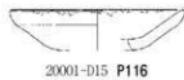
20001-D53 P113



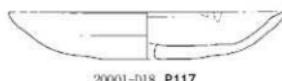
20001-D2 P114



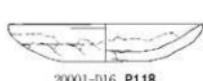
20001-D51 P115



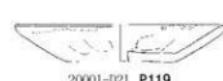
20001-D15 P116



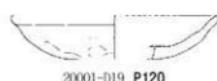
20001-D18 P117



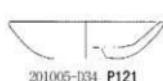
20001-D16 P118



20001-D21 P119



20001-D19 P120



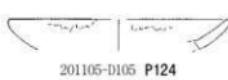
20105-D34 P121



201105-D1 P122



20105-D37 P123



201105-D105 P124



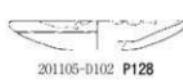
201105-D7 P125



201105-D3 P126



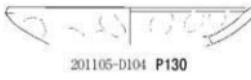
20105-D31 P127



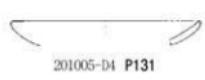
201105-D102 P128



201105-D103 P129



201105-D104 P130



20105-D4 P131



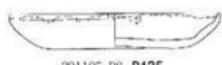
201105-D2 P132



201105-D5 P133



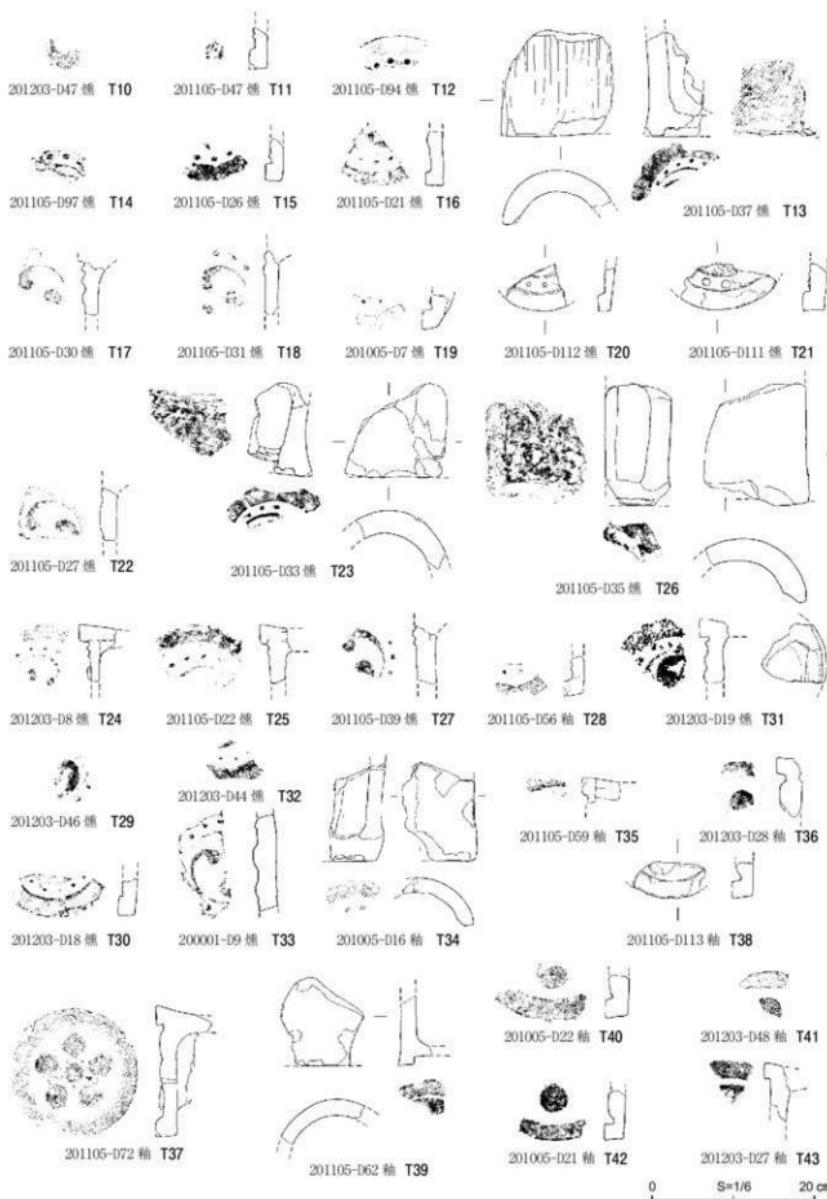
201105-D9 P134



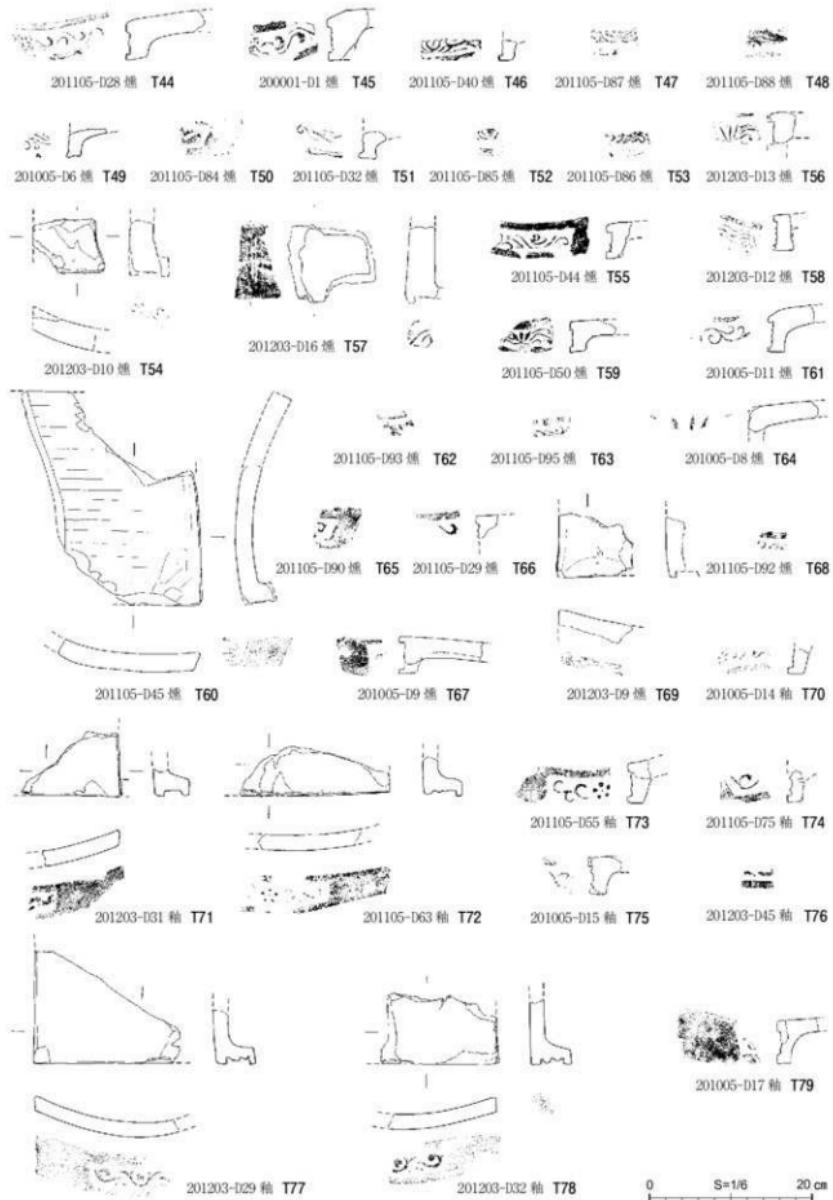
201105-D8 P135

0 S=1/3 10 cm

第106図 遺物実測図 土器・陶磁器5 (S=1/3)

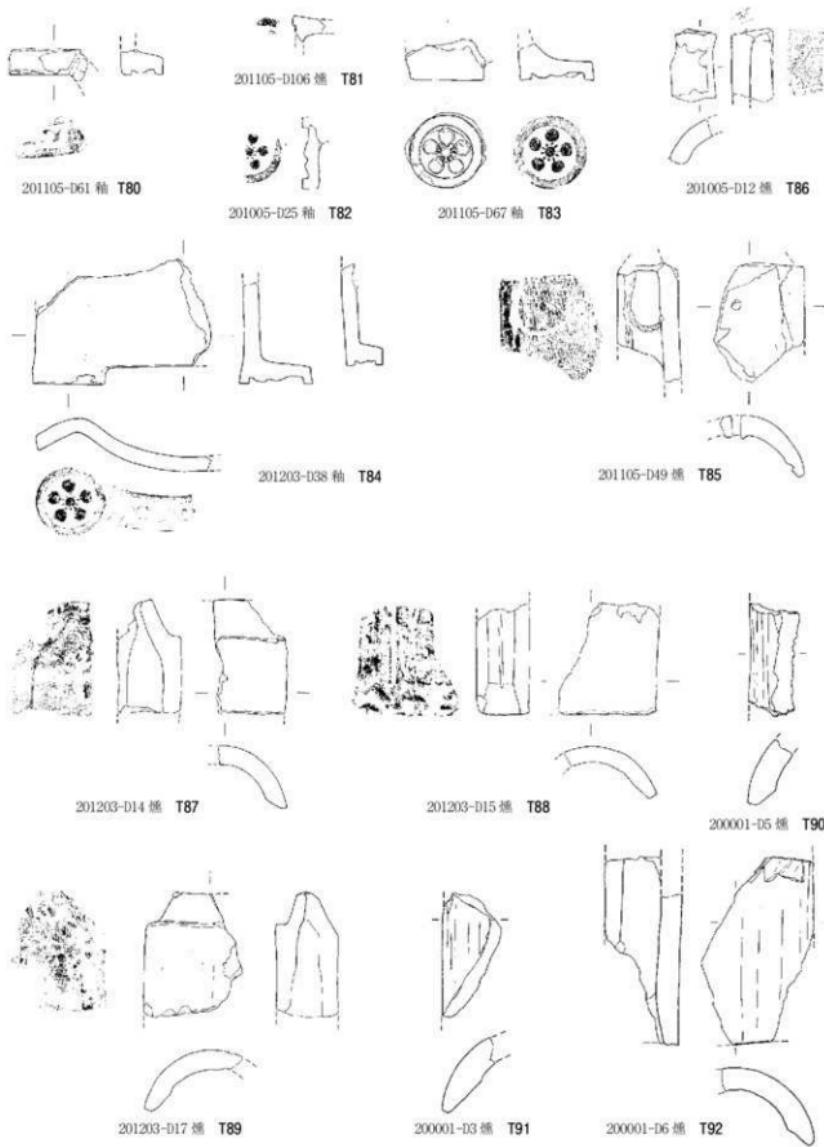


第107図 遺物実測図 瓦 1 (S=1/6)



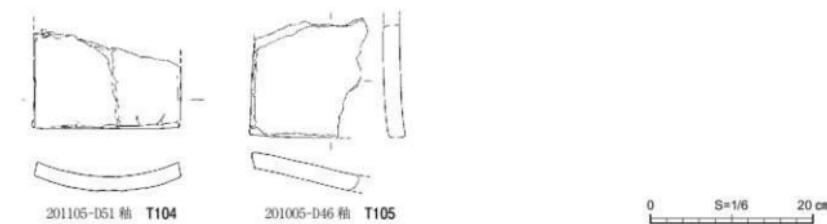
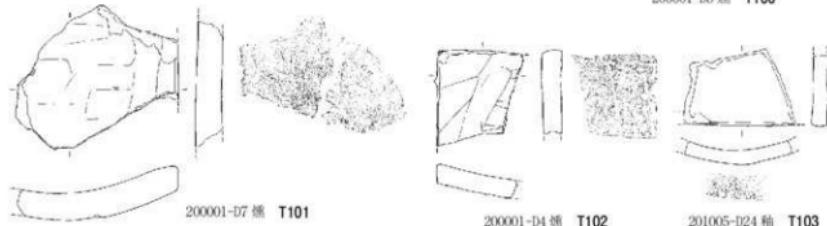
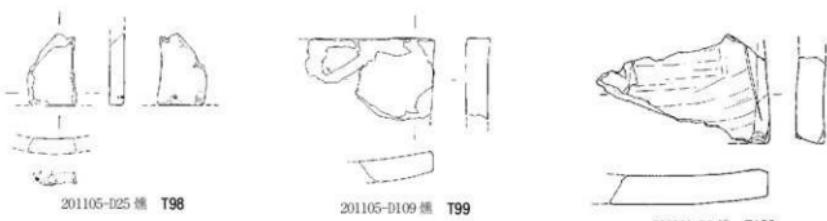
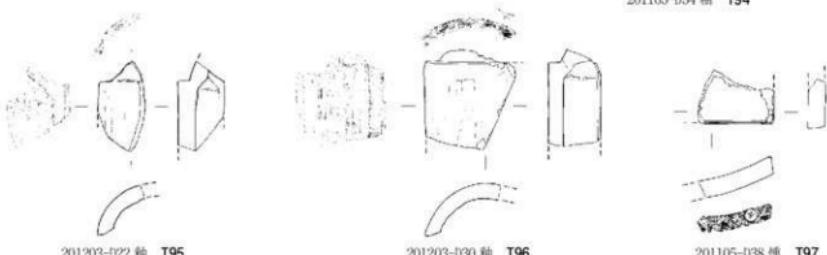
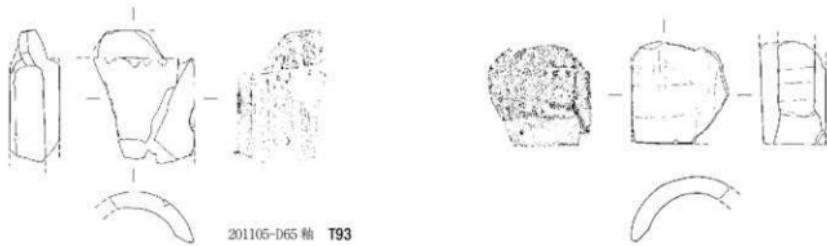
第108図 遺物実測図 瓦2 (S=1/6)

0 S=1/6 20 cm



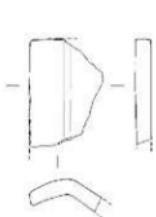
第109図 遺物実測図 瓦 3 (S=1/6)

0 S=1/6 20 cm

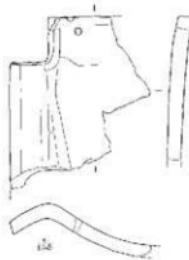


第110图 遗物实测图 瓦4 (S=1/6)

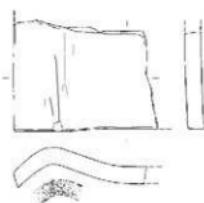
0 S=1/6 20 cm



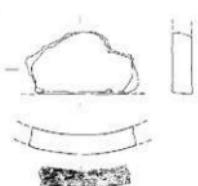
201105-D110 瓢 T106



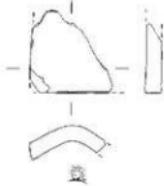
201005-D19 瓢 T107



201005-D45 瓢 T108



201203-D25 瓢 T109



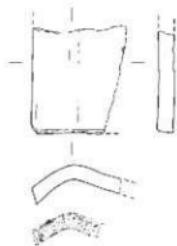
201105-D71 瓢 T110



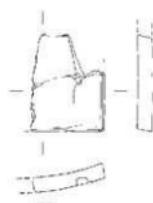
201005-D44 瓢 T111



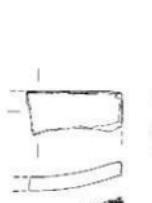
201105-D58 瓢 T112



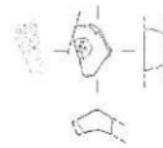
201105-D68 瓢 T113



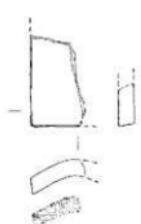
201105-D69 瓢 T114



201203-D26 瓢 T115



201203-D35 瓢 T116



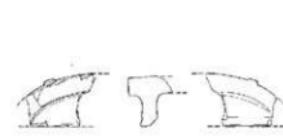
201203-D36 瓢 T117



201005-D13 瓢 T118



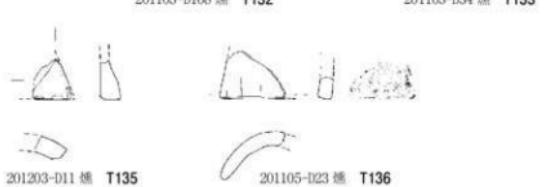
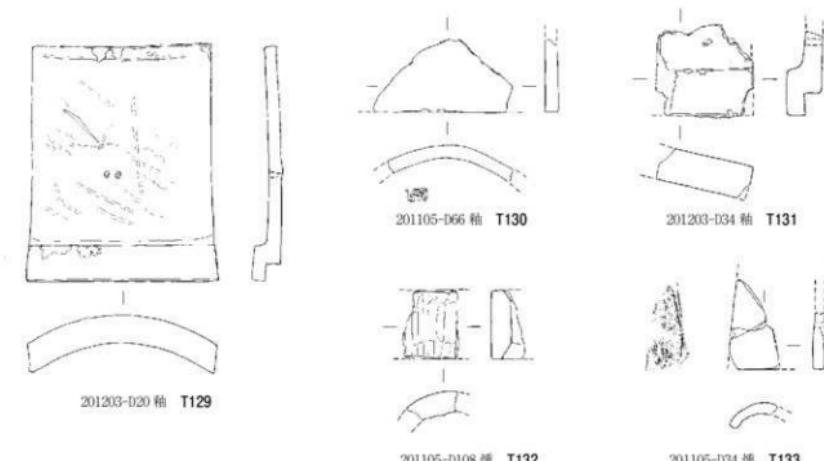
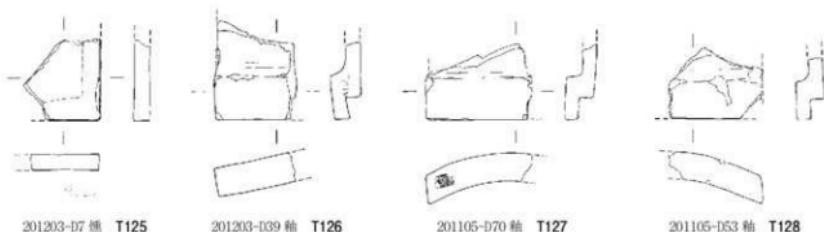
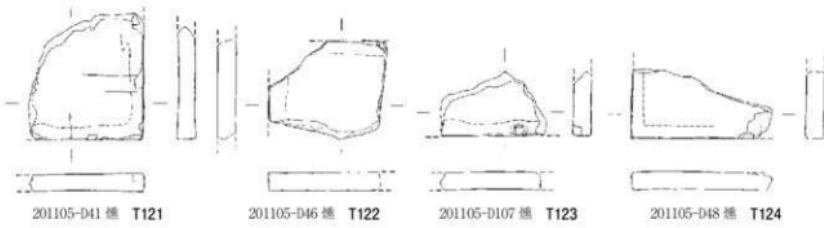
201203-D37 瓢 T119



201105-D57 瓢 T120

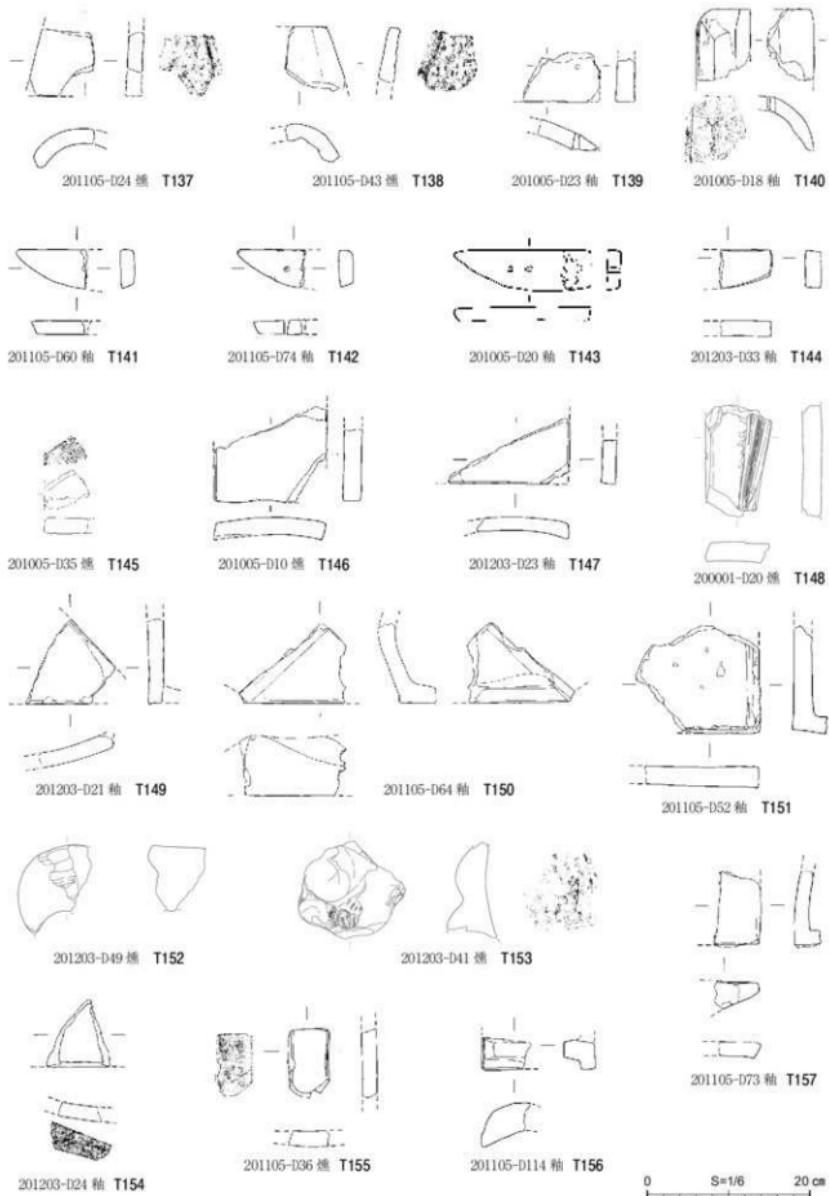
0 S=1/6 20 cm

第111図 遺物実測図 瓦5 (S=1/6)

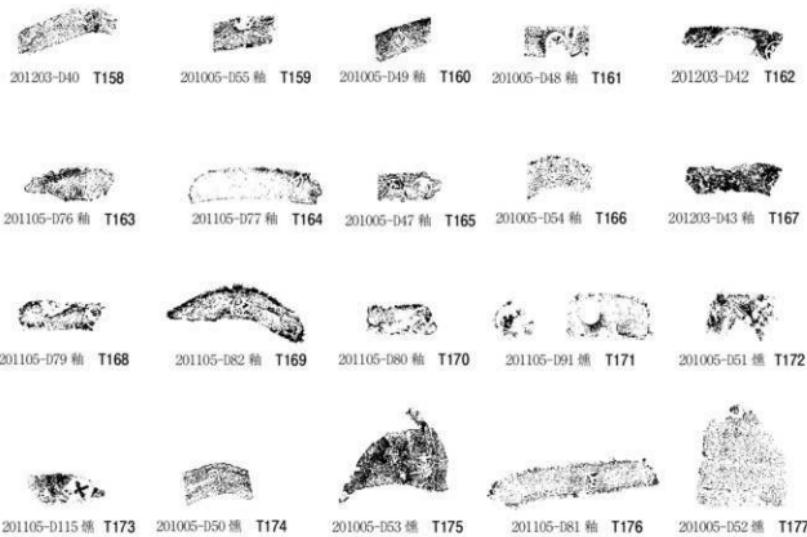


0 S=1/6 20 cm

第112図 遺物実測図 瓦 6 (S=1/6)

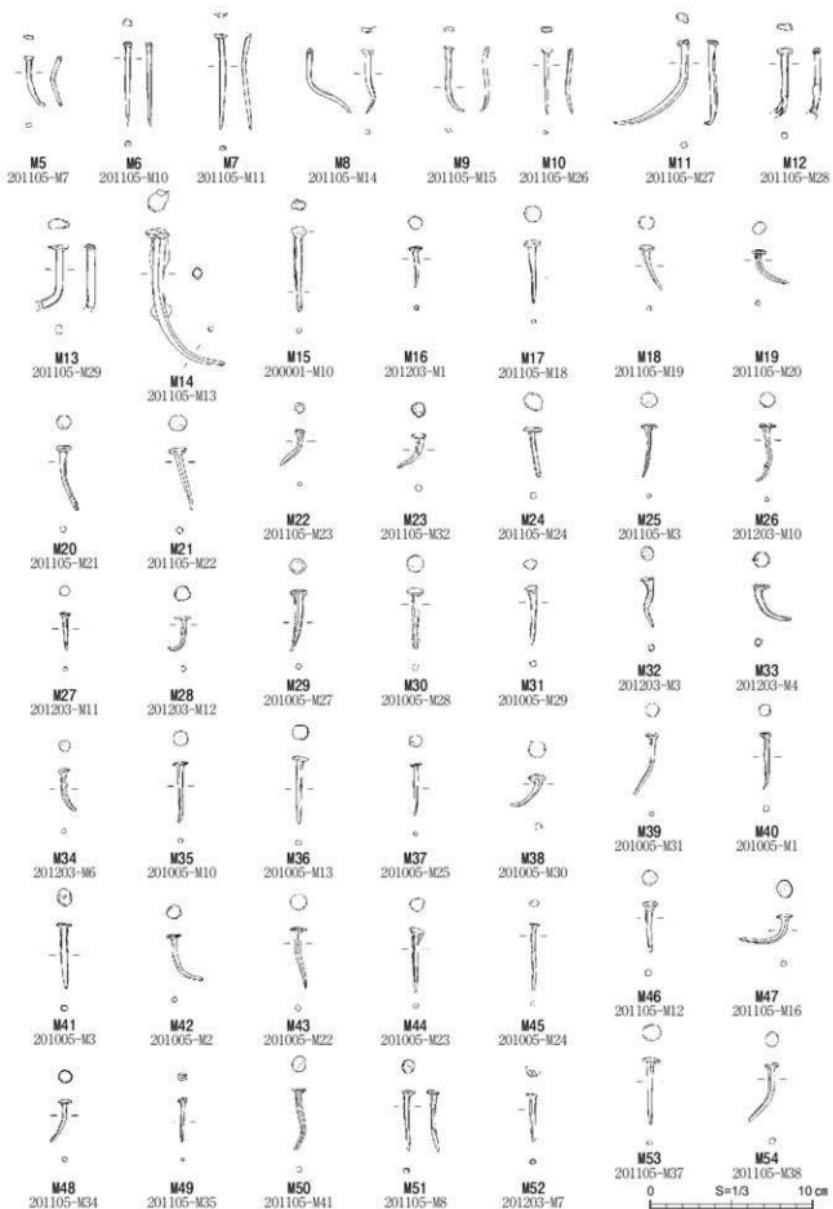


第113図 遺物実測図 瓦7 (S=1/6)

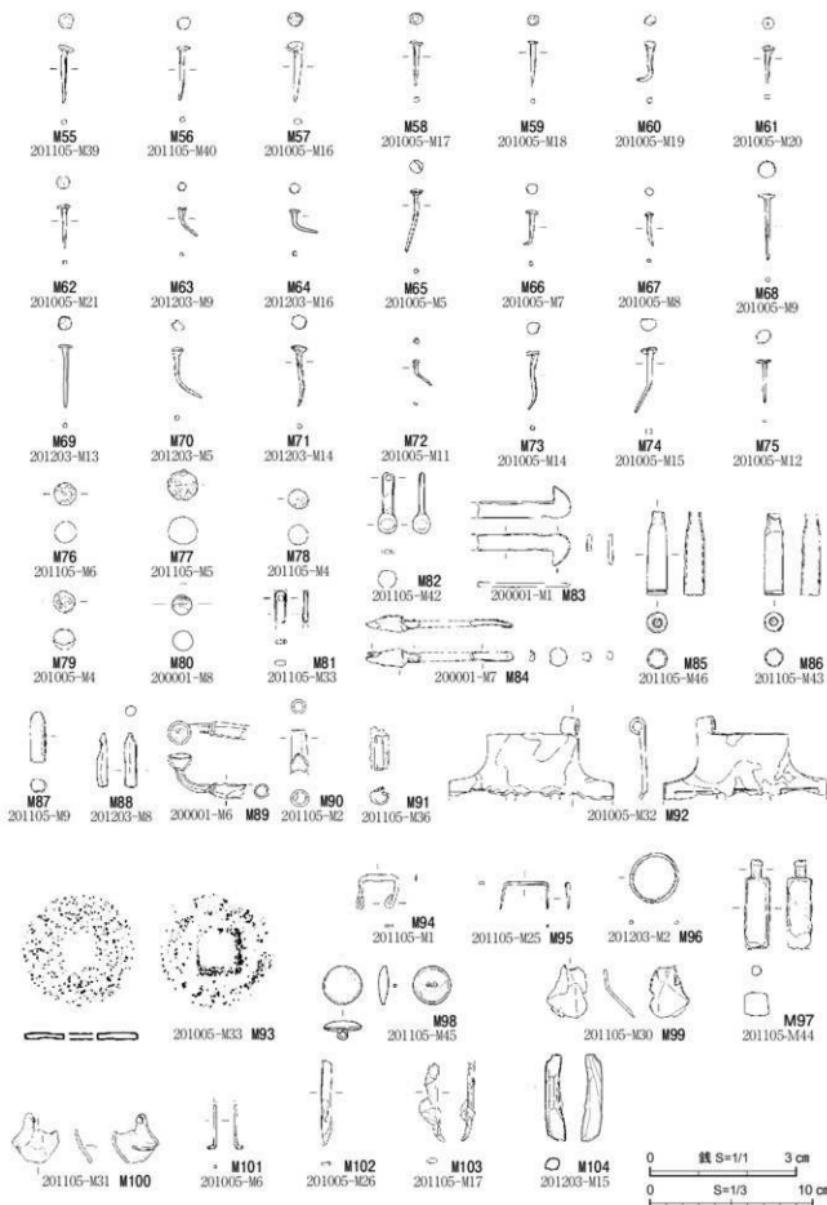


0 S=1/6 20 cm

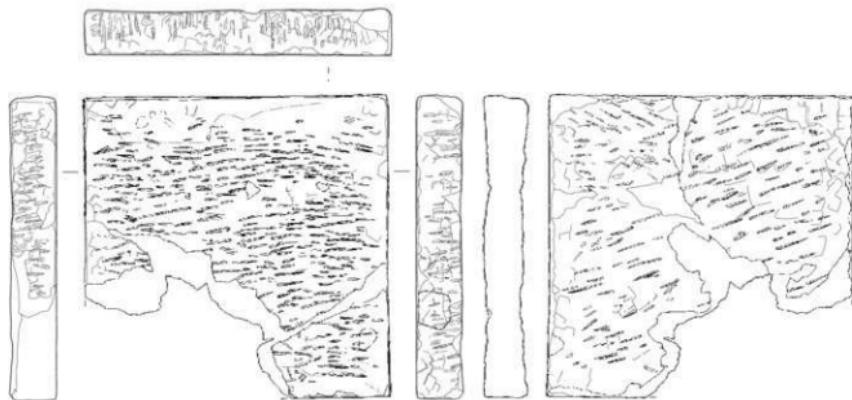
第114図 遺物実測図 瓦8 (S=1/6)



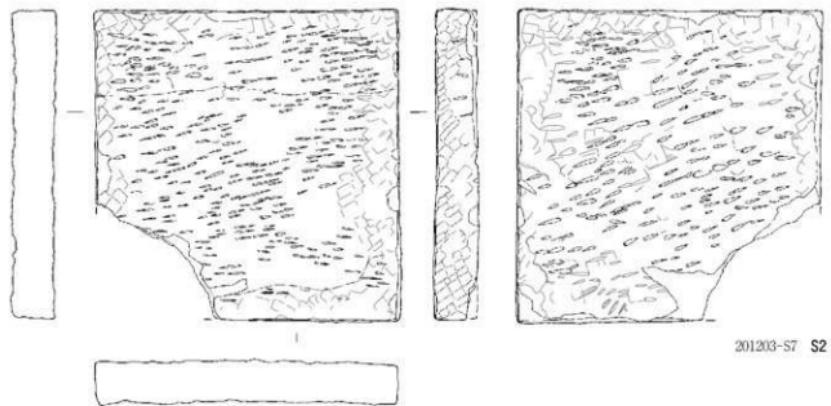
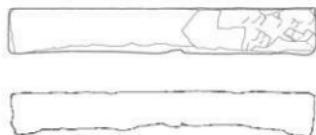
第115図 遺物実測図 金属製品1 (S=1/3)



第116図 遺物実測図 金属製品2 (S=1/3)



201005-S9 S1

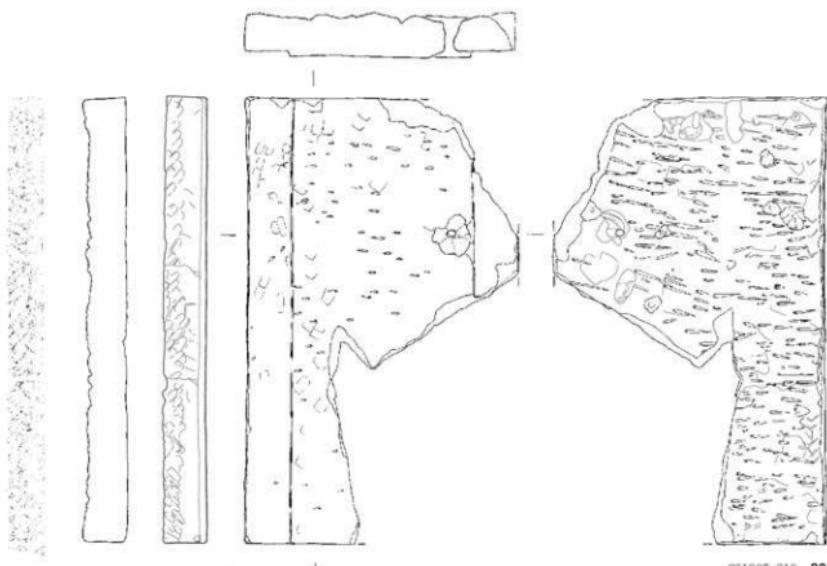


201203-S7 S2

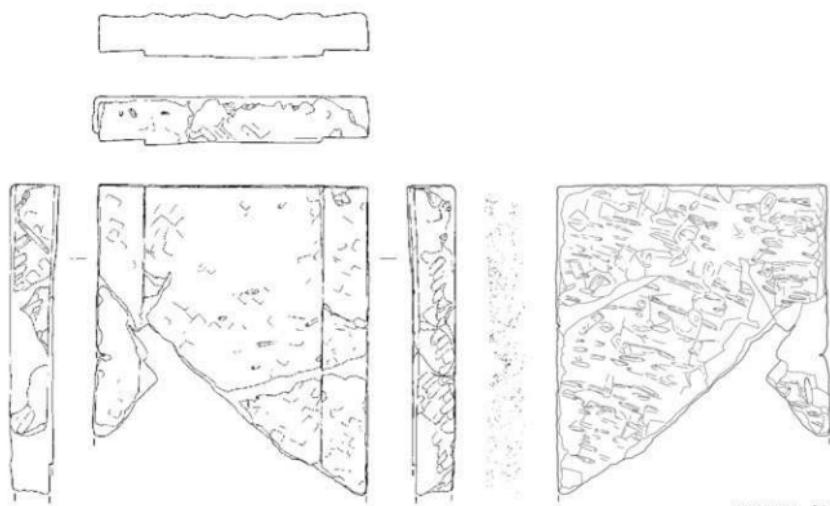


0 S=1/10 20 cm

第117図 遺物実測図 石製品1 (S=1/10)



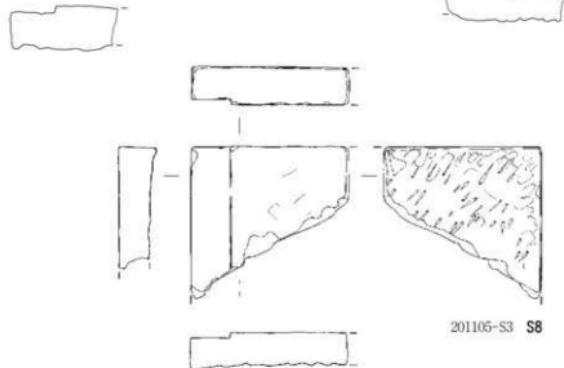
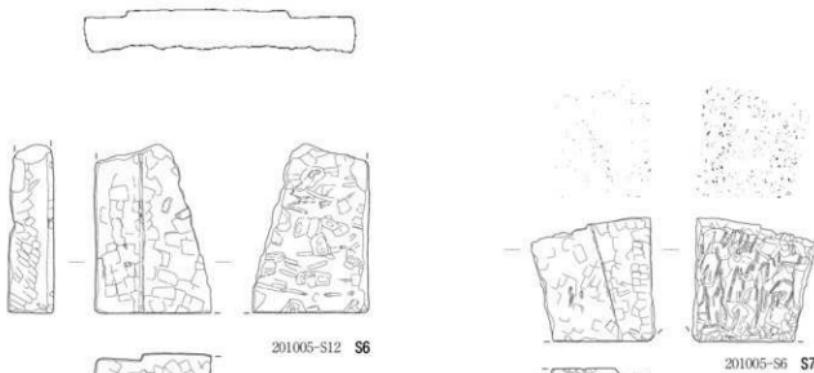
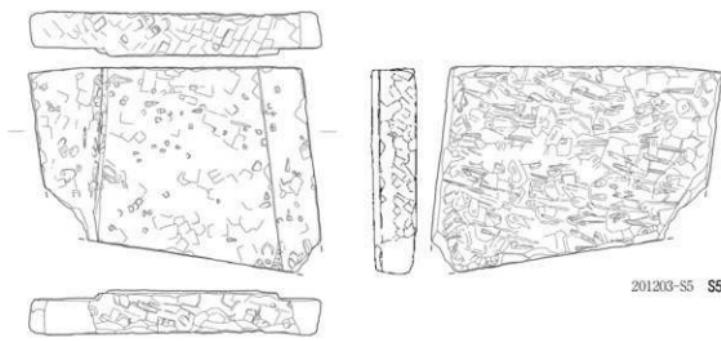
201005-S10 S3



201203-S6 S4

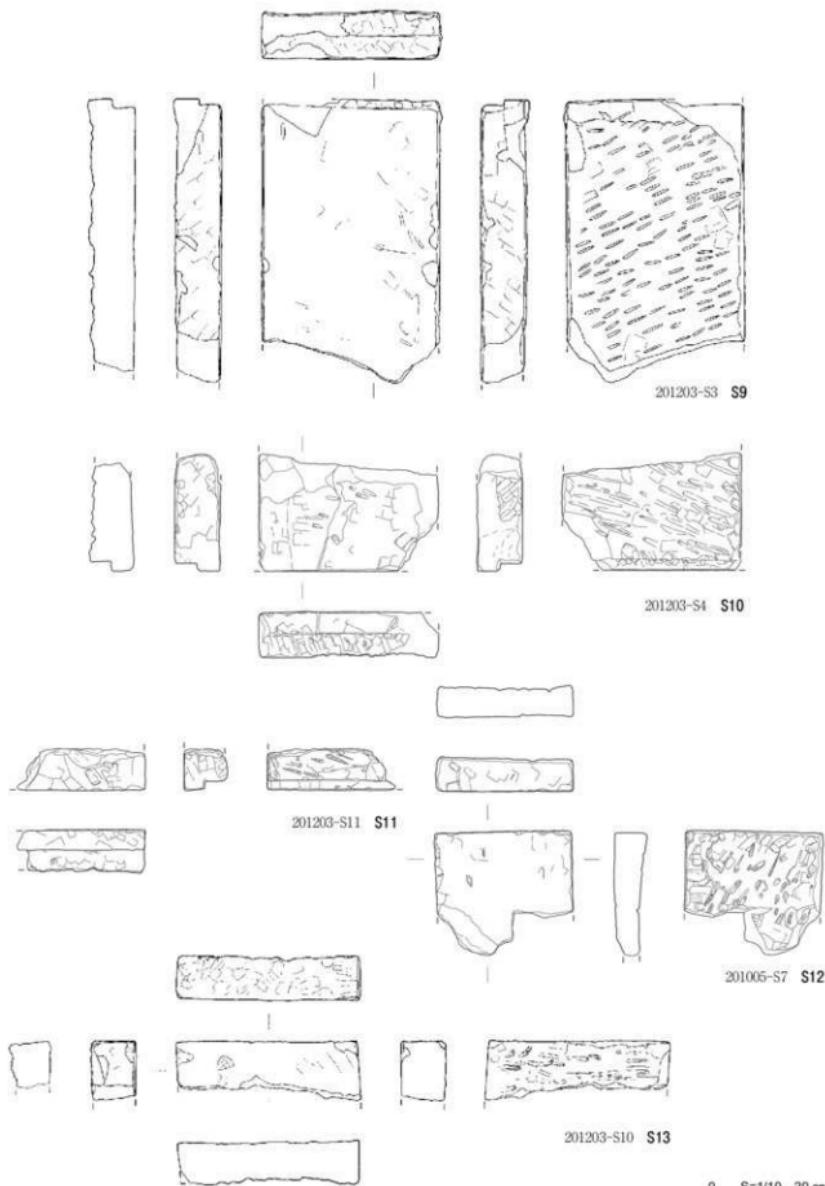
0 S=1/10 20 cm

第118図 遺物実測図 石製品2 (S=1/10)

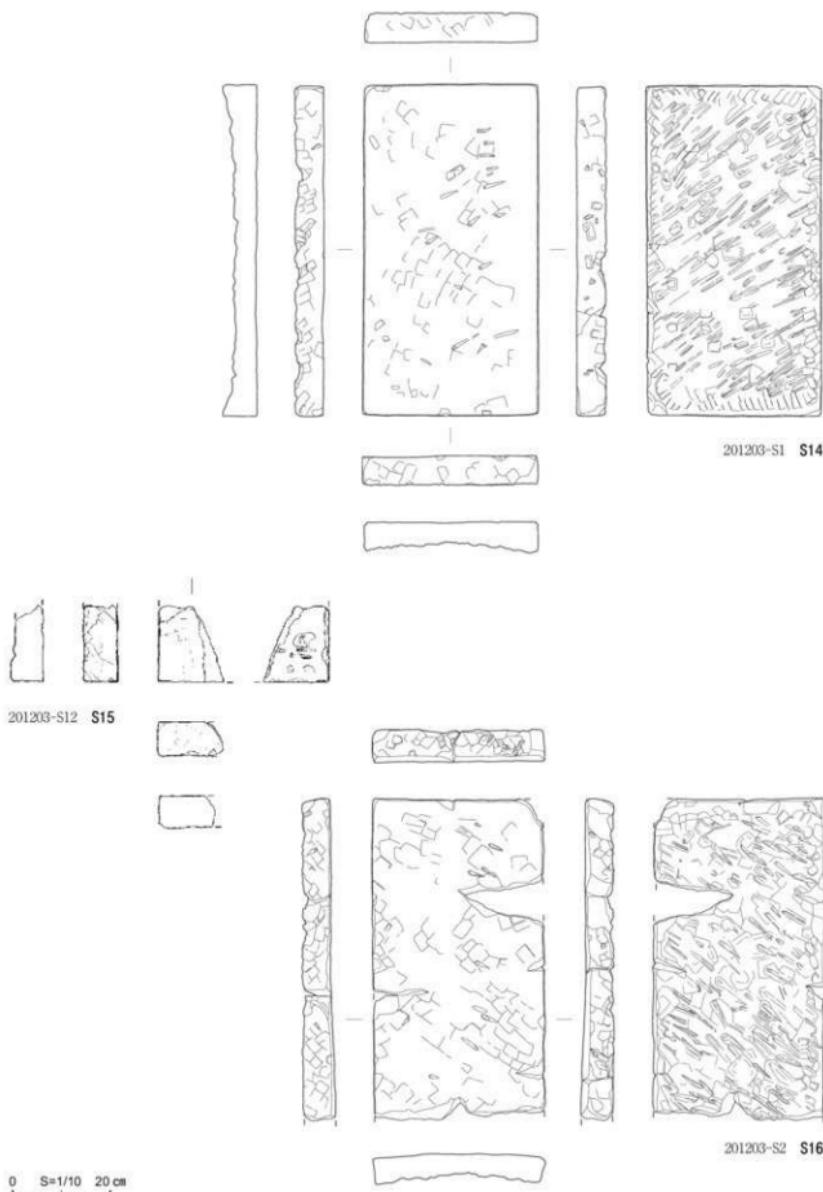


0 S=1/10 20 cm

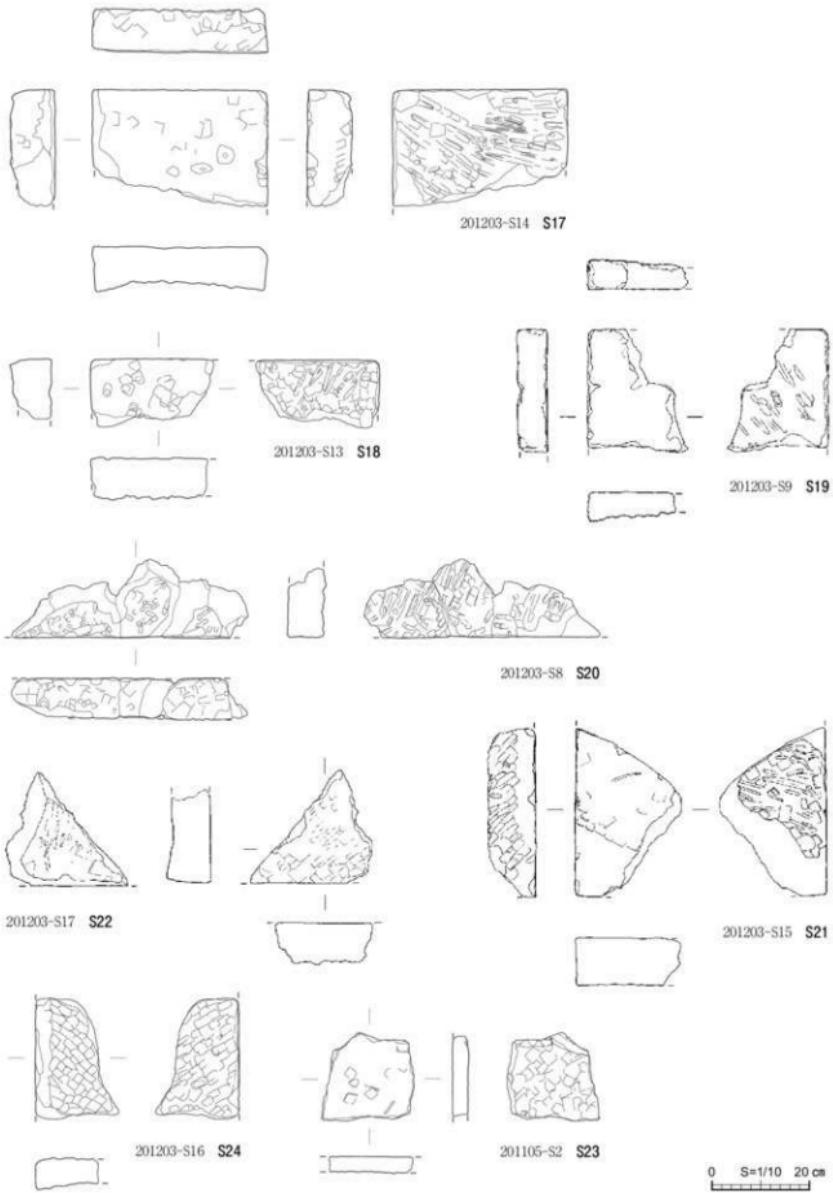
第119図 遺物実測図 石製品3 (S=1/10)



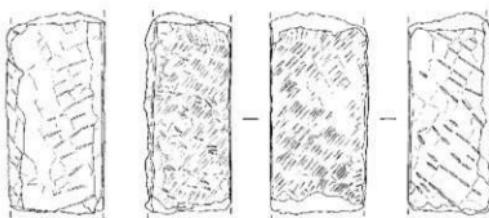
第120図 遺物実測図 石製品4 (S=1/10)



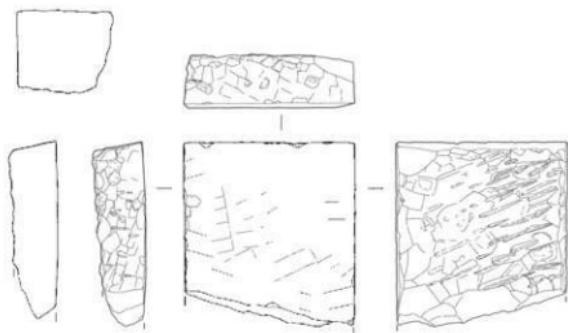
第121図 遺物図版 石製品5 (S=1/10)



第122図 遺物図版 石製品6 (S=1/10)



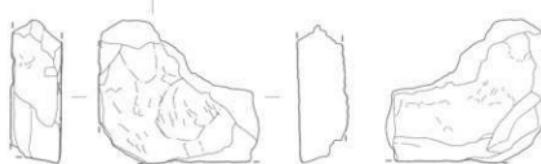
201005-S8 S25



201005-S1 S26



201005-S2 S27

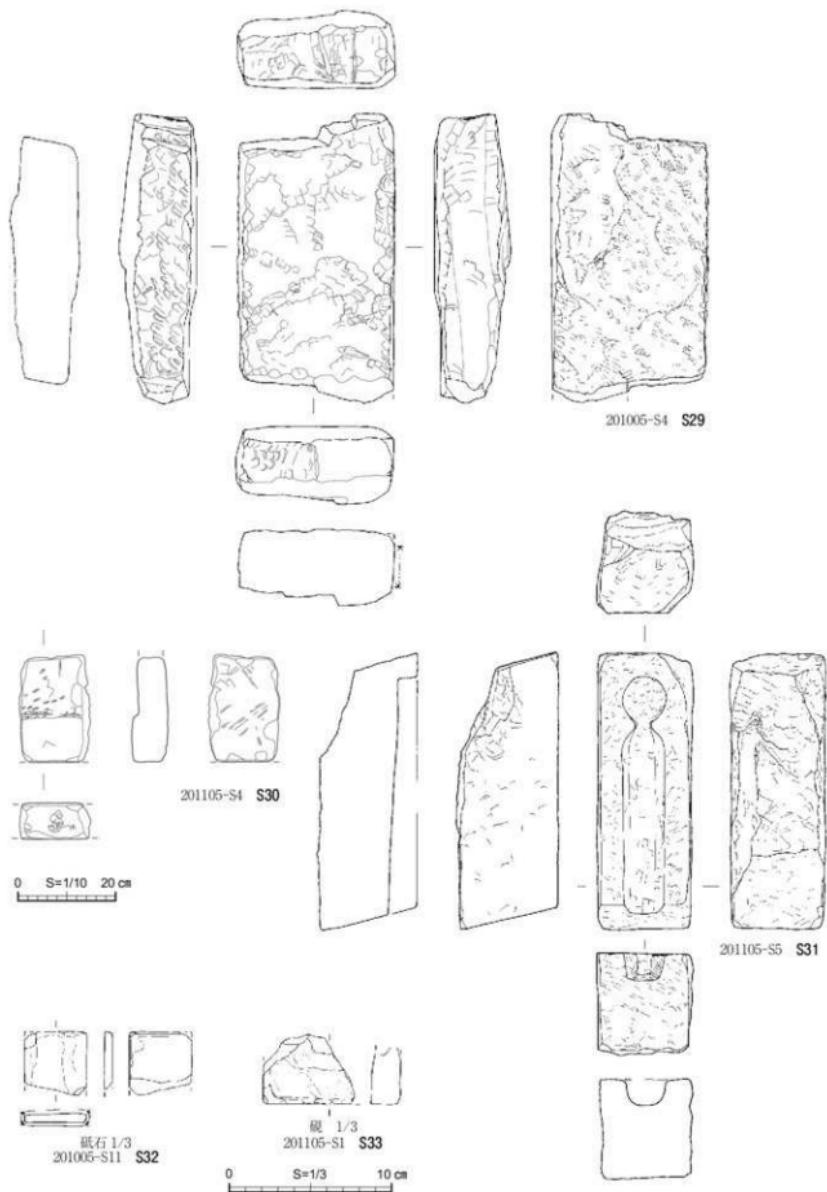


201005-S3 S28



0 S=1/10 20 cm

第123図 遺物図版 石製品 7 (S=1/10)



第124図 遺物図版 石製品8 (S=1/3, 1/10)

第14表 出土遺物観察表 陶磁器 1

回収番号	種別	基盤	測定区	測定区	出土地点	口径	底径	高さ	形状	表面	胎土	色調等	产地	出土No.	特記事項	II No.		
100 P1	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4S 上平	[22.6] (6.1)	2.2	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2006		
100 P2	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4S 下平	[20.2]	2.4	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2007		
100 P3	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S3	S3S	[21.7] (7.9)	2.7	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2022		
100 P4	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4T	[11.0]	6.2	1.9	口クロ	直筒	灰質	深灰	在地		B型・油焼窯	20001-2030		
100 P5	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2T	[20.7] (5.1)	2.2	手 $\times$ 手	浅杯	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2029		
100 P6	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4T	[22] (1.2)	2.0	手 $\times$ 手	浅杯	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2027		
100 P7	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4T	[13.0]	2.3	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2028		
100 P8	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S4	S4T	[15.6]	7.0	2.8	手 $\times$ 手	直筒	灰質	深灰	在地		B型・油焼窯	20001-2025		
100 P9	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2T	[13.5] (4.5) (2.9)	2.9	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2024		
100 P10	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2T	[10.4] (5.4)	2.2	手 $\times$ 手	直筒	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2025		
100 P11	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2T	[12.8] (8.4)	2.7	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2026		
100 P12	陶器	要	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	(5)	4.5	口クロ	直筒	灰質	灰質	灰白	在地			20001-2015		
100 P13	陶器	天目系柄	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	上平			直筒	灰質	灰質	灰白	在地			20001-2016		
100 P14	陶器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	16.8	5.6	2.2	口クロ	直筒	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2017		
100 P15	陶器	球	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	111.7] (3.3)	11.7	口クロ	直筒	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2017		
100 P16	陶器	球体	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	[27.6] (6.6)	6.6	口クロ	直筒	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2010		
100 P17	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	上平	8.0	1.0	手 $\times$ 手	浅杯	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2015		
100 P18	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	上平	[11.1]	2.4	手 $\times$ 手	浅杯	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2014		
101 P19	陶器	球	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	上平	14.6	[12.1]	手 $\times$ 手	直筒	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	在地			20001-2019	
101 P20	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	[11.3] (6.1)	2.6	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2011		
101 P21	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	[11.2] (6.0)	2.5	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2013		
101 P22	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	邊縁上凹	[8.5]	1.4	1.9	手 $\times$ 手	浅杯	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型	20001-2011
101 P23	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	邊縁上凹	11.8	[2.5]	手 $\times$ 手	直筒	灰質	浅灰・白色(少)	在地		B型	20001-2012		
101 P24	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	斜	[10.6]	[5.2]	2.2	手 $\times$ 手	直筒	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型	20001-2013
101 P25	土器	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	斜	[7.2]	[4.0]	2.4	手 $\times$ 手	直筒	灰白	粘土・鉱物等	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2014
101 P26	土器	燒成斑	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	[5.9]	[4.4]	[2.2]	口クロ	直筒	灰質	浅灰・白色(少)	在地		B型・油焼窯	20001-2012		
101 P27	細管	三	刷 / 天文磨 2 次	S2	S2S	[12.6]	[2.2]	口クロ	直筒	灰質	灰質	浅灰・白色(少)	中間			既世遺存	20001-2010	

第15表 出土遺物観察表 陶磁器2

回数	番号	器種	調査区	地区	出土地点	口径	底径	高さ	形状・輪郭等	胎土	釉土・色調等	产地	出土No.	特記事項	HNNo.
101	P28	土器	美	瓶ノ友2次	N4	S3.4	(8.1)	(4.5)	口アロ?	無	1.25×1.45(白色灰少)	肥前	26	内面下部 外面タキ	2000/01-0049
102	P29	土器	綱	帆立門	B	表土	(6.7)	(2.1)	口アロ?	無	白	肥前	685	宝寿文	2001/05-0005
102	P30	土器	綱	帆立門	古	輪泊作業	(6.6)	(2.3)	口アロ?	無	白	肥前	708	矢追多	2011/05-0008
102	P31	土器	綱	帆立門	B-C	船(?)曾(?)	(7.0)	(2.3)	口アロ?	無	白	肥前	725	萬物寺?	2011/05-0010
102	P32	土器	綱	帆立門	1-B	文化昭和初期	(7.8)	(2.2)	口アロ?	無	白	肥前	725	内面打削物	2010/05-0003
102	P33	土器	綱	帆立門	1-A-B	ヒミツムシ?文化昭和初期	(7.8)	(2.2)	4.0	口アロ?	無	白	725-232		2010/05-0001
102	P34	磁器	綱	帆立門	1-C	1-櫛	(9.2)	(4.6)	口アロ?	無	白	肥前	765	面付・光面?	2010/05-0004
102	P35	磁器	綱	帆立門	1-B	文化昭和初期	(10.4)	(1.9)	口アロ?	無	白	肥前	790	面付・光面?	2010/05-0002
102	P36	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊作業	(12.0)	(2.1)	口アロ?	青花	白	肥前	913	肥前系	2011/05-0015
102	P37	磁器	綱	帆立門	B-D	鰐島15	(13.4)	(2.4)	口アロ?	青花	白	肥前	879	肥前系	2011/05-0014
102	P38	磁器	綱	帆立門	1-B	通貝門(通貝門2)(3)	(6.2)	(3.1)	口アロ?	白	白	肥前	1108	桙ノ輪御?	2012/03-0005
102	P39	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊作業(2)	(12.4)	(2.0)	口アロ?	青花	白	肥前	1108	青花(薄青较少)	2000/01-0001
102	P40	磁器	綱	帆立門	1-C	輪泊作業	(4.1)	(11.8)	口アロ?	青花	白	肥前	511	青花	2011/05-0004
102	P41	磁器	綱	帆立門	1-B	輪泊作業(輪泊地面F)	(12.2)	(2.9)	口アロ?	青花	白	肥前	688	肥前	2011/05-0009
102	P42	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊作業2次	(19.4)	(2.8)	口アロ?	青花	白	肥前	1075	肥前系	2000/03-0003
102	P43	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊作業	(11.6)	(7.7)	3.2	口アロ?	青花	白	179	九谷?	2011/05-0003
102	P44	磁器	綱	帆立門	B-B	輪泊作業	(10.6)	(1.9)	口アロ?	青花	白	肥前	682	肥前系	2011/05-0007
102	P45	磁器	綱	帆立門	1-C	コシケリ-トントク(2)?)?	(4.6)	(2.0)	口アロ?	青花	白	肥前	790	肥前系	2011/05-0013
102	P46	磁器	綱	帆立門	1-B	輪泊(?)青	(2.0)	(2.0)	口アロ?	青花	白	肥前	1075	肥前系	2012/03-0003
102	P47	磁器	綱	帆立門	1-B	通貝門(下)	(5.0)	(2.2)	口アロ?	青花	白	肥前	1105	肥前系	2012/03-0002
102	P48	磁器	綱	帆立門	1-C	1-櫛	(7.2)	(2.6)	口アロ?	青花	色焼	肥前	941	肥前系	2011/05-0002
102	P49	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊(?)2次	(2.1)	(2.1)	口アロ?	青花	白	肥前	1105	肥前系	2000/03-0006
102	P50	磁器	綱	帆立門	1-B	T01(水道管2)(3)	(22.2)	(2.9)	口アロ?	青花	白	肥前	83	纈	2010/05-0019
102	P51	磁器	綱	帆立門	B-C	A標(?)輪泊地土	(59.8)	(1.9)	口アロ?	白	白	肥前	683	輪泊系	2000/05-0005
102	P52	磁器	綱	帆立門	B-C	輪泊(?)土質?	(1.8)	(1.8)	口アロ?	青花	白	肥前	684	輪泊系	2000/05-0002
102	P53	磁器	綱	帆立門	B-C	C標(?)輪泊	(1.2)	(1.2)	口アロ?	青花	白	肥前	685	輪泊系	2000/05-0001
103	P54	磁器	綱(?)	帆立門	1-B	通貝(?)	(3.4)	(3.4)	口アロ?	青花	白	肥前	580	輪泊系	2011/05-0016

第16表 出土遺物観察表 陶磁器3

回収番号	種類	調査区	地区	出土地点	口径	底径	高さ	幅形・盤形・輪形	鉢形・筒形等	胎土	胎土・色調等	产地	出土No.	特記事項	出土地点
103 P55 陶器 直 備品門	1-C	1-2階	備品門	(12.8)	(1.5)	ロクロ	背平	直口	直口	灰白	灰白	中国	E38	炭化跡有	2011/05-2011
103 P56 陶器 直 備品門	B-C	下水溝内壁 等；壁面等	備品門	(11.0)	(1.4)	ロクロ	直口	直口	直口	灰白	灰白	中国	I03	炭化跡有	2011/03-2006
103 P57 陶器 直 備品門	1-C	通水溝(2)(3)	備品門	(11.0)	(1.1)	ロクロ	直口	直口	直口	白	直口	中国	I58		2011/05-2009
103 P58 陶器 直 備品門	壁	S301底上	備品門	11.6	6.2	3.55	ロクロ	直口	直口	直口	直口	中国	I05	直口；炭化？	2011/03-2001
103 P59 陶器 直 備品門	井	瓶／丸底2次	備品門	(11.8)	(3.0)	ロクロ	直口	直口	直口	直口	直口	中国	I05	直口；炭化少	2000/03-2004
103 P60 陶器 直 備品門	井-B	コシクリード管	備品門	(13.1)	ロクロ	直口	直口	直口	直口	白	直口	中国	768	角形；直口少少心	2011/05-2011
103 P61 陶器 水入 備品門	井-B	瓶15-	備品門	(8.8)	(4.2)	ロクロ	直口	直口	直口	灰白	直口	中国	779	内面黒斑	2011/05-2012
103 P62 陶器 小口±	備品門	1-C	コシクリード管(2)Y	1.1	(1.2)	ロクロ	直口	直口	直口	白	直口	中国	567	直口；炭化？	2011/05-2006
103 P63 陶器 瓶	瓶／丸底2次	瓶	瓶	(5.0)	ロクロ	直口	直口	直口	直口	直口	直口	中国	520		2000/01-2005
103 P64 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	(1-D)	瓶17					直口	直口	中国	363	炭化跡有	2011/05-2005
103 P65 陶器 天目茶碗 備品門	1-A	ビエム-1管	備品門	(8.0)	(2.8)	ロクロ	直口	直口	直口	灰白	直口	中国	179	直口；炭化	2010/05-2007
103 P66 陶器 天目茶碗 備品門	1-C	ビエム-1管	備品門	(9.6)	(4.2)	ロクロ	直口	直口	直口	灰白	直口	中国	567	直口；炭化？	2011/05-2006
103 P67 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-A	教育学部2階	2.0	ロクロ	直口	直口	直口	直口	中国	363		2010/05-2003
103 P68 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-C	1-D	教育学部2階	(5.0)	(2.8)	ロクロ	直口	直口	中国	106		2010/05-2008
103 P69 陶器 天目茶碗 備品門	1-A	教育学部2階	備品門	2.4	(2.6)	ロクロ	直口	直口	直口	灰白	直口	中国	774	粘土	2011/05-2016
103 P70 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-A	ビエム-1管	3.7	(1.5)	ロクロ	直口	直口	直口	中国	235		2010/05-2003
103 P71 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-C	萬葉谷貢寮	2010-6/8	4.5	(1.9)	ロクロ	直口	直口	中国	8	粘土	2010/05-2002
103 P72 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-D	瓶19	(9.0)	(2.0)	直口	直口	直口	直口	中国	547	気泡多 見込み；燒痕	2011/05-2010
103 P73 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-E	萬葉谷貢寮	(10.8)	(2.4)	ロクロ	直口	直口	直口	中国	630		2011/05-2012
103 P74 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-F	D	教育学部分館窓下	(10.2)	(1.9)	ロクロ	直口	直口	中国	660		2011/05-2013
103 P75 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-G	C	下水溝	(5.5)	(1.4)	ロクロ	直口	直口	中国	827		2011/05-2017
103 P76 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	1-H	A-B	水道管(4) 蓋(3)	(11.1)	(5.3)	2.0	ロクロ	直口	中国	558-581		2011/05-2019
103 P77 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	2-C	S1	水道管(4) 蓋(3)	(11.6)	ロクロ	直口	直口	直口	中国	882-888		2000/03-2007
103 P78 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	2-D	S2	水道管	(11.6)	ロクロ	直口	直口	直口	中国	889	見込み；口縁削 離。	2000/01-2004
103 P79 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	2-E	S3	水道管	(11.5)	ロクロ	直口	直口	直口	中国	900	直口；炭化？	2000/01-2002
103 P80 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	2-F	S4	日輪	(5.0)	(2.2)	ロクロ	直口	直口	中国	901	直口；炭化？	2000/01-2000
103 P81 陶器 瓶	瓶	瓶	瓶	2-G	S1	C輪付	(10.8)	(1.9)	ロクロ	直口	直口	中国	902	直口；炭化少	2000/01-2003

第17表 出土遺物観察表 陶磁器4

回収番号	種別	調査区	地区	出土地点	口径	底径	厚さ	外形・断面	釉色・質地等	胎土	施上No.	特記事項	HSNs
104	P02	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-C 壁	1-1-7-308	(9.9)	(2.3) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	10	2010/05-0002
104	P03	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-C 壁	1-1-7-308	(4.8)	口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	302	2010/05-0006
104	P04	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-A 壁	1-1-7-308	(3.3)	口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	308	2010/05-0014
104	P05	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(1.4)	口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	105	2010/05-0013
104	P06	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(4.5)	口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	306	2010/05-0020
104	P07	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-A 壁	1-1-7-308	(10.9)	(6.8) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	191	2010/05-0028
104	P08	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(10.6)	(5.5) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	105	2010/05-0001
104	P09	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-A 壁	1-1-7-308	(31.8)	(2.7) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	847	2010/05-0008
104	P10	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(35.1)	(3.9) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	690	2010/05-0014
104	P11	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(22.6)	(4.2) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	1071	2010/05-0002
104	P12	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-A 壁	1-1-7-308	(29.4)	(8.5) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	2000/03-0008	
104	P13	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(4.1)	口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	2000/03-0017	
104	P14	陶器	五(廻)	廻瓦門	1-B 壁	1-1-7-308	(37.0)	(6.1) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	2000/03-0014	
105	P05	陶器	要	廻瓦門	1-A 壁	教育学部本館2階	(26.0)	(9.5) 口自然 ?	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	757	2010/05-0015
105	P06	陶器	要	廻瓦門	1-C 壁	教育学部本館2階	(18.5)	(5.0) 口クロ 底鉢	素面	灰白(黑色)・薄	中粗	1028	気泡多
105	P07	陶器	要	廻瓦門	1-C 壁	教育学部本館2階	(7.3)	(3.7) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	2000/03-0008	
105	P08	陶器	要	廻瓦門	1-C 壁	教育学部本館2階	(9.6)	(1.2) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	567	2010/05-0010
105	P09	陶器	要	廻瓦門	1-C 壁	教育学部本館2階	(4.1)	(5.5) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	2010/05-0014	
105	P10	陶器	要	廻瓦門	1-B 壁	教育学部本館1階	(7.4)	(0.65) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	216	土壤污染
105	P11	陶器	主板	廻瓦門	1-C 壁	教育学部本館1階	(10.0)	(1.45) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	120	口掛鉢
105	P12	陶器	主板	廻瓦門	1-B 壁	教育学部本館2階	(7.3)	(2.1) 口クロ 底鉢	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	2010/05-0012	
105	P13	陶器	土壤	廻瓦門	1-B 壁	教育学部本館	(8.4)	(2.1) 口自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	331	乾燥
105	P14	陶器	不明	廻瓦門	1-B 壁	教育学部	(2.7)	口クロ ?自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	333	表面二重化?
105	P15	土器	火鉢	廻瓦門	1-A 壁	教育学部	(25.0)	(4.0) 口自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	214	2010/05-0029
105	P16	土器	火鉢	廻瓦門	1-C 壁	教育学部	(15.3)	(3.7) 口自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	393	2010/05-0040
105	P17	土器	土鍋	廻瓦門	1-C 壁	教育学部	(4.1)	(2.5) 口自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	791	2010/05-0016
106	P18	土器	土鍋	廻瓦門	1-C 壁	教育学部	(13.7)	(2.6) 口自然 ?	光澤	灰白(黑色)・薄	中粗	103	日輪

第18表 出土遺物觀察表 陶磁器5

遺物番号	種別	調査区	地区	出土地点	口径	底径	高さ	形状・範囲等	粘土	出土・色調等	产地	出土No.	特征参引	HNNo.
106 P109 土器 直 備品	備品	備品	1-C	下水道管	2012-33-376	7.8	3.0	1.9 手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	983	B型	2011/05-2010
106 P110 土器 直 備品	備品	備品	B-C	下水道管	(11.0)	(4.5)	2.7	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	656	B型 油漆質	2011/05-2004
106 P111 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(12.8)	(2.25)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地				
106 P112 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(8.8)	(3.4)	2.3	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P113 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(11.8)	(6.4)	2.7	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P114 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(12.4)	(2.1)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地				
106 P115 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(11.2)	(5.2)	2.4	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P116 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(10.8)		2.5	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	626	B型 油漆質	2000/01-2015
106 P117 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	16.8	5.6	2.9	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P118 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	11.8	5.0	2.4	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P119 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	12.8	6.4	2.3	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地			
106 P120 土器 直 備品	備品	備品	備品	備品	(12.5)	(2.7)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地				
106 P121 土器 直 備品	備品	備品	B-A	下水道管	(9.4)	(2.3)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	225	C1型	2010/05-2014	
106 P122 土器 直 備品	備品	備品	B-D	下水道管	(12.6)	(6.4)	2.2	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	415	C1型 油漆質	2011/05-2016
106 P123 土器 直 備品	備品	備品	B-E	下水道管	(11.0)	(1.6)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	279	C1型	2010/05-2017	
106 P124 土器 直 備品	備品	備品	B-F	下水道管	(12.6)	(1.7)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	836	C2II型 油漆質	2011/05-2015	
106 P125 土器 直 備品	備品	備品	C-G	下水道管	(11.5)	(9.0)	2.4	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	828	C2II型 油漆質	2011/05-2007
106 P126 土器 直 備品	備品	備品	D-H	下水道管	(11.0)	(1.0)	2.1	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	886	C2II型 油漆質	2011/05-2013
106 P127 土器 直 備品	備品	備品	E-I	下水道管	(14.3)	(1.7)	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	225	C2II型	2010/05-2011	
106 P128 土器 直 備品	備品	備品	F-J	下水道管	(11.0)	(4.0)	1.7	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	749	C2II型	2011/05-2012
106 P129 土器 直 備品	備品	備品	G-K	下水道管	(12.0)	(7.0)	2.0	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	722	C2II型	2011/05-2013
106 P130 土器 直 備品	備品	備品	H-L	下水道管	(11.0)	(4.9)	2.2	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	478	C2II型	2011/05-2014
106 P131 土器 直 備品	備品	備品	I-Q	下水道管	(11.4)		1.5	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	156	C2II型	2010/05-2014
106 P132 土器 直 備品	備品	備品	J-R	下水道管	(14.0)	(11.2)	2.2	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	654	C2II型	2011/05-2012
106 P133 土器 直 備品	備品	備品	K-S	下水道管	(13.0)	(11.3)	2.7	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	731	C2II型	2011/05-2015
106 P134 土器 直 備品	備品	備品	L-U	下水道管	9.4	5.0	2.0	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	4892	C2II型 油漆質	2011/05-2009
106 P135 土器 直 備品	備品	備品	M-W	下水道管	12.8	9.4	2.2	手平・直	手平・直	1.7-3.5 黄褐色・赤褐色 底面(底面)	在地	8491	C2II型 油漆質	2011/05-2008

第19表 出土遺物観察表 E.1

分類	番号	器形	施区	出土地点	基部 高さ	R.当	寸法及 寸法基準	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	記述事項	IDNo.	
100	T1	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3	無	巴文	(4.8) (2.3) (1.4)	2.7	0.75	(13.6) (10.0)							底白(黒色斑・鉛移多)		200001-013	
100	T2	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 上半	無	不明												底白(黒色斑・鉛移少)		200001-063
101	T3	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 上半	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-059	
101	T4	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 上半	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-010	
101	T5	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-011	
101	T6	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 下半	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-062	
101	T7	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 下半	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-064	
101	T8	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3 上半	無	—											底白(黒色斑・鉛移少)		200001-012	
101	T9	手1. 鋼／丸窓2枚	S2	S3	無	—											底白(黒色斑)		200001-065	
107	T10	手1. 鋼/円筒	I	丸土	無	巴文	(3.7)										底白(黒色斑・鉛移少)		201203-047	
107	T11	手1. 鋼/円筒	II-A	施工作業	無	巴文	(5.0)	(2.9)	1.2	2.6	底白						底白(黒色斑少)		20105-047	
107	T12	手1. 鋼/円筒	II-B	施工作業	無	巴文	(4.6)	(2.2)	1.8	底白	0.9						底白(黒色斑少)		20105-044	
107	T13	手1. 鋼/円筒	II-C	施工作業	無	巴文	(4.6)	(6.3)	(7.4)	底白	0.6	(13.0)	(13.9)				底白(黒色斑少)		20105-057	
107	T14	手1. 鋼/円筒	II-D	施工作業	無	巴文	(3.7)			底白	1.0	(2.2)					底白(黒色斑少)		20105-056	
107	T15	手1. 鋼/円筒	II-E	施工作業	無	巴文	(4.7)	(6.5)	(7.1)	底白	2.3	底白	1.1			底白(黒色斑少)		20105-058		
107	T16	手1. 鋼/円筒	II-F	木管(2)(3)	無	巴文	18.2	16.4		底白	0.6					底白(黒色斑多)		20105-021		
107	T17	手1. 鋼/円筒	II-G	木管(2)(3)	無	巴文	(6.3)	(6.3)		底白	0.6					底白(黒色斑多)		20105-038		
107	T18	手1. 鋼/円筒	II-H	木管(2)(3)	無	巴文	(7.7)	(7.7)		底白	0.6					底白(黒色斑多・黒 移少), ジヤマ		20105-031		
107	T19	手1. 鋼/円筒	II-I	木管(2)(3)	無	巴文	(6.2)	(11.4)	2.0	底白	0.7					底白(黒色斑少), ジヤ マ		20105-057		
107	T20	手1. 鋼/円筒	II-J	木管(5)	無	巴文	(5.6)	(3.5)	(1.7)	1.5	底白	0.6				底白(黒色斑多)		20105-012		
107	T21	手1. 鋼/円筒	II-K	木管(9)	無	巴文	(5.8)	(3.5)	(1.6)	2.7	底白	0.9				底白(黒色斑多)		20105-011		
107	T22	手1. 鋼/円筒	II-L	木管(1)	無	巴文	(6.4)			底白	0.6					底白(黒色斑多)		20105-022		
107	T23	手1. 鋼/円筒	II-M	木管(3)	無	巴文	(7.9)	(2.0)	(0.8)	底白	0.75					底白(黒色斑多)		20105-033		
107	T24	手1. 鋼/円筒	III	ZCWWW面(1個)	無	巴文	(13.6)	(9.6)		底白	0.6					底白(黒色斑少)		201203-048		
107	T25	手1. 鋼/円筒	IV-C	1-2-3#	無	巴文	(16.4)	(14.0)		底白	0.8					底白(黒色斑・鉛移多)		20105-022		
107	T26	手1. 鋼/円筒	IV-D	1-2-3#	無	巴文	(1.5)			底白	0.5	(15.0)	(13.0)			底白(黒色斑)		20105-035		
107	T27	手1. 鋼/円筒	IV-E	1-2-3#	無	巴文	(6.1)			底白	0.9					底白(黒色斑多)		20105-039		
107	T28	手1. 鋼/円筒	IV-F	1-2-3#	無	巴文	(17.0)	(13.8)	(9.0)	2.4						底白(黒色斑多)		20105-050		

第20表 出土遺物觀察表 E.2

地點番号	形質分類	測量区	施区	出土地点	名目	瓦当	a	b	c	柱上部(軸)		a	b	c	柱下部(軸)		d	e	f	g	施上部	内面調査	施上部	内面調査	新証事項	IDNo.
										横文	直文				横文	直文										
107 T29 斧A 墓石門	1-B	T09	施	巴形	巴形	(4.6)	(5.2)	2.1	直文	0.6	0.55													1.133	201203-046	
107 T30 斧A 墓石門	1-B	通田門(土壁)	施	巴形	巴形	(8.0)	(5.7)	(3.9)	直文	0.6	0.55													1.105	201203-048	
107 T31 斧A 墓石門	1-B	通田門(土壁)	施	巴形	巴形	(5.7)	(3.0)	(2.0)	直文	0.6	0.55													1.105	201203-049	
107 T32 斧A 墓石門	1-B	通田門(土壁)	施	巴形	巴形	(8.6)	(6.8)	2.2	直文	0.75	0.75													1.106	201203-044	
107 T33 斧A 墓石門	1-C	陶瓦2枚	-	陶瓦	陶瓦	(6.6)	(12.0)	1.4	横文	(12.1)	(6.7)													1.106	200001-049	
107 T34 斧A 墓石門	1-A	ヒューム管	施	巴形	巴形	(17.4)	(13.2)	0.8	横文	(11.0)	(10.3)													1.221	201205-046	
107 T35 斧A 墓石門	II-D	東オルタシタの裏蓋	施	巴形	巴形	(14.0)	(9.6)	3.5	横文	(11.0)	(10.3)													1.668	201205-052	
107 T36 斧A 墓石門	III	土	施	巴形	巴形	(15.9)	11.8	2.7	横文	3.5	3.5													1.053	201203-028	
107 T37 斧A 墓石門	II-B	板状作業	施	巴形	巴形	(8.4)	(2.3)	2.6	横文	3.5	3.5													1.847	201205-072	
107 T38 斧A 墓石門	II-C	板状作業	施	巴形	巴形	(6.0)	(2.0)	1.6	横文	3.5	3.5													1.021	201205-0113	
107 T39 斧A 墓石門	II-A	陶瓦3-11	施	巴形	巴形	(6.0)	(4.3)	2.6	横文	3.3	3.3													1.274	201205-062	
107 T40 斧A 墓石門	II-A	近代鐵器	施	巴形	巴形	(16.8)	(11.0)	2.6	横文	3.3	3.3													1.322	201205-022	
107 T41 斧A 墓石門	II-C	下水道	施	巴形	巴形	(6.0)	(2.0)	2.1	横文	3.5	3.5													1.069	201203-048	
107 T42 斧A 墓石門	II-A	ヒューム管	施	巴形	巴形	(15.4)	(11.4)	2.4	横文	3.5	3.5													1.291	201205-042	
107 T43 斧A 墓石門	III	2300年陶器窯跡(II)	施	巴形	巴形	(17.6)	(13.6)	1.9	横文	(11.0)	(10.3)													1.054	201203-027	
108 T14 斧A 墓石門	II-C	土管(1)	施	横文	横文	(11.2)	(8.0)	2.6	横文	3.3	3.3													1.523	201205-028	
108 T15 斧A 墓石門	II-C	陶瓦2枚	-	陶瓦	陶瓦	(5.7)	(7.0)	2.1	横文	3.5	3.5													1.20003-01	200001-048	
108 T16 斧A 墓石門	II-A	陶瓦3-11	施	巴形	巴形	(7.1)	(7.2)	2.4	横文	3.5	3.5													1.724	201205-040	
108 T17 斧A 墓石門	II-B	板状作業	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.917	201205-067	
108 T18 斧A 墓石門	II-B	板状作業	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.947	201205-068	
108 T19 斧A 墓石門	II-B	水道管(1)	施	三重文	三重文	(4.9)		3.7	横文	(4.3)	(3.3)													1.322	201205-026	
108 T20 斧A 墓石門	II-D	東オルタシタの西壁	施	三重文	三重文	(7.6)	(5.9)	2.5	横文	3.5	3.5													1.526	201205-084	
108 T21 斧A 墓石門	II-D	陶瓦9	施	三重文	三重文	6.0			横文	3.5	3.5													1.595	201205-022	
108 T22 斧A 墓石門	II-B	板状作業	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.966	201205-065	
108 T23 斧A 墓石門	II-B	板状作業	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.966	201205-066	
108 T24 斧A 墓石門	II-B	瓦河岸	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.066	201203-010	
108 T25 斧A 墓石門	II-A	教育保水池	施	三重文	三重文	(11.5)	(11.5)	2.2	横文	3.5	3.5													1.757	201205-044	
108 T26 斧A 墓石門	II-B	通田門	施	三重文	三重文				横文	3.5	3.5													1.100	201203-013	

第21表 出土遺物觀察表 瓦3

学年	学区	地区	旧土名	新町名	戸数	面積	地主地代		中古地代		地主	中古者	内田面積	板木-Lm	特許事項	登記番号
							里	丁目	戸	地	間					
108	1757 年子	板木門	板木門上	板木門上	1-B	畠田門(1)	無	三重文Ⅱ	(9.1)	(10.7)	28	(4.1)	瓦質屋(板木少・櫻樹)	1.03	2012/3/16	
108	1758 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(2)(3)	無	三重文Ⅲ	(6.0)	(6.9)	1073	瓦白(板木少)	2012/3/12			
108	1759 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	近代石垣(裏木門)	無	三重文Ⅳ	(6.0)	(6.9)	976.2	瓦白(板木少)	2011/6/150			
108	1760 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	教育省立水道2種	無	三重文Ⅴ	(22.4)	(22.4)	774	瓦白(板木少)	2011/6/145			
108	1761 年子	板木門	板木門	板木門	1-C	教育省立水道2種	無	重丁笠	(8.9)	(6.2)	359	瓦白(板木少)	2011/6/111			
108	1762 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	櫻樹7	無	三重文Ⅵ	(8.0)	(8.0)	880	瓦白(板木少)・シマ	2011/6/93			
108	1763 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(5)	無	三重文Ⅶ	(6.0)	(6.9)	874	瓦白(板木少)	2011/6/95			
108	1764 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	T15	無	三重文Ⅷ	(8.0)	(7.9)	187	瓦白(板木少)	2011/6/18			
108	1765 年子	板木門	板木門	板木門	1-C	水道管(1)水道アト	無	教育	(5.5)	(4.0)	450	瓦灰質(板木少)・シマ	2011/6/96			
108	1766 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(2)(3)	無	教育	(5.5)	(4.0)	572	瓦白(板木少)	2011/6/97			
108	1767 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(2)(3)	無	教育	(6.7)	(5.6)	183	瓦白(板木少)	2011/6/99			
108	1768 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	T13	無	教育	(8.2)	(7.1)	915	瓦灰質(板木少)	2011/6/92			
108	1769 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	2330面(1)	無	教育	(3.5)	(2.8)	1654	瓦白(板木少・櫻樹)	2011/3/9			
108	1770 年子	板木門	板木門	板木門	1-A	七ニヤニヤ管	無	教育	(6.1)	(5.5)	235	瓦白(板木少)	2011/6/14			
108	1771 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	2330面(1)	無	教育	(3.5)	(2.8)	1962	瓦白(板木少)	2011/3/31			
108	1772 年子	板木門	板木門	板木門	1-A	桜丸11	無	教育	(16.0)	(18.2)	724.2	瓦白(板木少)	2011/6/63			
108	1773 年子	板木門	板木門	板木門	1-D	近現代(3)	無	教育	(8.3)	(12.9)	408	瓦白(板木少・櫻樹)	2011/6/65			
108	1774 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	橋の作業	無	教育	(3.9)	(6.8)	951	瓦白(板木少・櫻樹)	2011/6/75			
108	1775 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(2)(3)	無	教育	(3.8)	(2.8)	200	瓦白(板木少)	2011/6/15			
108	1776 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	2330面(1)	無	教育	(4.3)	(4.3)	1962	瓦白(板木少)	2011/3/45			
108	1777 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	2330面(1)	無	教育	(13.8)	(18.2)	1654	瓦白(板木少・シマ)	2011/3/29			
108	1778 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	2330面(1)	無	教育	(14.4)	(13.0)	1862	瓦白(板木少)	2011/3/32			
108	1779 年子	板木門	板木門	板木門	1-C	Y水館	無	教育	(7.1)	(7.1)	40	瓦白(板木少)	2011/6/17			
109	1780 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	水道管(5)	無	教育	(3.8)	(3.8)	966	瓦白(板木少)	2011/6/16			
109	1781 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	木道管(5)	無	教育	(4.3)	(4.3)	700	瓦白(板木少)	2011/6/61			
109	1782 年子	板木門	板木門	板木門	1-A	木道管(5)	無	教育	(13.0)	(13.0)	383	瓦白(板木少)	2011/6/25			
109	1783 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	教育省立水道2種	無	教育	(14.4)	(14.4)	757	瓦白(板木少・シマ)	2011/6/67			
109	1784 年子	板木門	板木門	板木門	1-B	畠田門(1)	無	教育	(13.0)	(7.1)	1199	瓦白(板木少・櫻樹)	2012/3/18			

第22表 出土遺物観察表 E.4

分類	番号	器種	施区	出土点					寸法(体部)					地土	内面窓	窓上縁	特記事項	IDNo.
				a	b	c	d	e	f	g	h	i						
109	785	丸	楕円	II-B	楕円	(14.8)	(11.3)	2.5	(7.9)	2.5				灰白(細緻少)	コビキB	91	201005-249	
109	786	丸	楕円	II-A	楕円	(9.1)	(5.7)	2.3	(2.8)	(5.5)	2.3			灰白(細緻少)	コビキB	359	解印「□」	
109	787	丸	楕円	I-B	通田門	(10.2)	(9.1)	4.8	7.9	2.4	5.9			灰白(細緻少)	コビキB	1100	201005-212	
109	788	丸	楕円	I-B	通田門	(13.9)	(12.0)		6.5	1.9				灰白(細緻少)	コビキB	1103	201005-214	
109	789	丸	楕円	I-B	通田門(中段)	(15.2)	(12.2)	(3.6)	(8.3)	(7.7)	2.5	(5.1)		灰白(細緻少)	コビキB	1104	201005-215	
109	790	丸	楕円	II	通田門	(10.0)	(4.4)	(5.2)	(5.2)	2.2				灰白(細緻・繊維少)	コビキA	200001-15		
109	791	丸	楕円	II	通田門	(12.2)	(5.0)		(7.3)	2.6				灰白(細緻・繊維少)	コビキA	200001-13		
109	792	丸	楕円	II	通田門	(17.8)	(10.8)		7.4	2.2				灰白(細緻・繊維少)	コビキA	200001-16		
110	793	丸	楕円	II	通田門(1)	(16.4)	(12.4)	3.4	(8.3)	6.2	2.0	3.2		灰白(細緻少)、シラフ	コビキA	722	解印「○」	
110	794	丸	楕円	I-C	コノシロ—窓(2)Y	(12.6)	(11.9)		8.2	2.2				灰白(細緻少・繊維少)、コビキA	469	201005-158		
110	795	丸	楕円	III	1号(4縫上)	椭圆	(11.1)	(5.8)	(2.3)	(4.2)	(5.8)	2.2		灰白(細緻少)、シラフ	コビキA	1043	解印「△」?	
110	796	丸	楕円	III	2号(4縫下)	椭圆	(12.4)	(11.4)			1.9			灰白(細緻少)	コビキA	1054	解印「△」	
110	797	平	楕円	II-B	楕円	(18.6)	(9.5)							灰白(細緻少)	シラフ	685	解印「△」	
110	798	平	楕円	I-C	Y本管	(9.8)	(6.1)		(1.5)					黄灰(細緻少)、シラフ	シラフ	961	解印「○」	
110	799	平	楕円	II-B	水道管(5)	(10.1)	(15.8)	(2.8)						灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	700	201005-222	
110	800	平	楕円	II	丸窓(2次)	5A	B管	(9.8)	(14.0)		2.3			灰白(細緻少)	シラフ	200001-168		
110	801	平	楕円	II	丸窓(2次)	5L	B管	(17.8)	(20.1)		3.2			灰灰白色(26%)	シラフ	201005-208		
110	802	平	楕円	II	丸窓(2次)	5S1	B管	(19.8)	(10.6)		1.9	24		灰白(細緻・繊維少)	シラフ	201005-203		
110	803	平	楕円	II-A	楕円(17.7)1号	椭圆	(10.8)	(15.7)	2.1	(1.3)				灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	248	解印「△」	
110	804	平	楕円	II-B	水道管(2.1.3)	椭圆	(11.9)		(18.3)	1.8	1.8			灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	414	201005-153	
110	805	平	楕円	II-A	—/窓(1)1號	椭圆	(14.6)	(14.3)		2.2				灰白(細緻少)	シラフ	286	野村企み	
111	706	楕	楕円	II-A	楕(2.1)	椭圆	(13.4)	(9.2)		2.3	(2.3)	2		灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	723	201005-210	
111	707	楕	楕円	II	夷土	(21.1)	(17.5)		5.5	4.7	4.9	5.6	1.6	灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	29	201005-119	
111	708	楕	楕円	II	夷土	(13.7)	(17.8)		(2.7)		2.1			灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	1044	解印「△」	
111	709	楕	楕円	II	夷土	椭圆	(7.6)	(14.0)						灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	807	解印「△」	
111	710	楕	楕円	II-A	楕尾13	椭圆	(10.2)	(10.2)		2.3	(1.8)	1.9		灰白(細緻少)	シラフ	339	201005-244	
111	711	楕	楕円	II-A	教育省底本2種	(26.0)	(11.7)				(3.2)			灰白(細緻少)	シラフ	688	解印「△」	
111	712	楕	楕円	II-D	教育省底分類2種	(10.6)	(6.5)				1.8	2.2		灰白(細緻少)、シラフ	シラフ	777-1	201005-108	
111	713	楕	楕円	II-B	水道管(4)	(13.1)	(11.7)				2.9			灰白(細緻少)、粗筋	シラフ	777-2	201005-249	
111	714	楕	楕円	II-B	水道管(4)	(12.0)	(9.3)				1.8			灰白(細緻少)	シラフ	1053	解印「△」	
111	715	楕	楕円	II	2300番前窓(右)	椭圆	(5.5)	(11.8)				(1.8)	1.8	黄灰(細緻少)	シラフ	201005-108		

第23表 出土遺物観察表 E.5

部類	番号	器物名	地区	出土地点	表面	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	粘土	内面調査	出土場所	特定事由	II No.
	111 T116	杵	轆轳町	Ⅲ	S103(底上) (2穴チラフ)	槌面	(6.5)	(4.9)								粗(赤色・細筋少)		1078	鉢印「△」	20/203/105
	111 T117	杵	轆轳町	Ⅰ-B	S061(1管)	槌面	(11.3)	(6.8)								粗(赤色・細筋少)		1092	鉢印「G」	20/203/106
	111 T118	杵	轆轳町	Ⅰ-B	3位斜取	槌面	(16.0)	(8.7)								12.5cm(細筋少),△,□	217	鉢印「△」	20/205/103	
	111 T119	杵	轆轳町	Ⅰ-B	通用門	槌面	(9.5)	(6.5)								12.5cm(細筋少)	1100	鉢印「△」	20/203/107	
	111 T120	杵	轆轳町	Ⅱ-C	下木曾	槌面	(7.1)	(8.7)	2.2	(6.5)						12.5cm(細筋少)	522	鉢印「△」	20/105/167	
	112 T121	杵	轆轳町	Ⅱ-A	槌(3.11)	槌	(15.5)	(14.2)	2.3							灰白(細筋少),△,□	724-2	鉢印「方格」	20/105/241	
	112 T122	杵	轆轳町	Ⅱ-A	槌(4)	槌	(13.9)	(12.2)	2.4							灰黄(細筋少),△,□	859	鉢印「方格」	20/105/196	
	112 T123	杵	轆轳町	Ⅱ-D	古(筒毛)	槌	(7.9)	(13.0)	2.1	2.3						12.5cm(赤色・細筋少),△,□	531	鉢印「方格」	20/105/107	
	112 T124	杵	轆轳町	Ⅰ-C	先端所成内勾	槌	(17.5)	(8.6)	2.6							灰灰(細筋少),△,□	901	鉢印「△」	20/105/108	
	112 T125	杵	轆轳町	Ⅲ	Z30W(前田・磐石上)	槌	(10.2)	(9.5)	2.1							灰白(細筋少),△,□	1562	鉢印「△」	20/105/157	
	112 T126	杵	轆轳町	Ⅰ-B	槌(10)	槌面	(12.2)	(10.2)	5.5	(6.6)	1.8	1.8				粗(細筋少),△,□	1121		20/203/109	
	112 T127	杵	轆轳町	Ⅳ	教育学年記入2箇	槌面	(9.4)	(13.2)	5.3	(6.6)	1.7	1.7				粗(細筋少),△,□	730	鉢印「△」	20/105/100	
	112 T128	杵	轆轳町	Ⅰ-C	H漬	槌面	(18.8)	(11.6)	4.7	(5.1)	1.8	1.7				灰(細筋少)	462		20/105/163	
	112 T129	杵	轆轳町	Ⅰ-A	ヒエー-2管	槌面	(29.2)	(23.7)	4.2	36.8	1.6	1.4				粗(細筋少)	102-2044		20/203/103	
	112 T130	杵	轆轳町	Ⅰ-B	水道管(2)(3)	槌面	(9.1)	(17.2)	1.7							灰黄(細筋少),△,□	747		20/105/166	
	112 T131	杵	轆轳町	Ⅰ-B	S101-0255-6(5)	槌面	(11.6)	(12.0)	5.5	(7.3)	2.2	2.2				灰白(細筋少),△,□	1071		20/203/104	
	112 T132	杵	轆轳町	Ⅱ-D	柄(外茎)	槌	(8.5)	(6.9)	2.4	(4.2)						灰白(細筋少),△,□	578	コロナB	20/105/108	
	112 T133	杵	轆轳町	Ⅰ-C	T04	槌	(11.2)	(6.3)	1.3	3.3						灰白(細筋少)	607-2		20/105/104	
	112 T134	杵	轆轳町	Ⅰ-A	瓦成陶器(1)	槌	(8.3)	(10.1)	(9.5)	2.5	5.5	5.9				灰白(細筋少)	724-3	輪印「△」	20/105/105	
	112 T135	杵	轆轳町	Ⅰ-B	瓦成陶	槌	(5.0)	(14.7)	2.6	(2.8)						灰白(細筋少)	655	輪印「△」	20/203/01	
	112 T136	杵	轆轳町	Ⅰ-C	1-2鉗	槌	(5.9)	(17.9)	1.8	5.9						灰白(細筋少)	コロナA	682	輪印「△」	20/105/103
	113 T137	杵	轆轳町	Ⅰ-C	コングリート壁(2)	槌	(8.3)	(8.0)	1.8	5.1						灰(細筋少)	コロナB	866	輪印「△」	20/105/104
	113 T138	杵	轆轳町	Ⅰ-C	コングリート壁(2)	槌	(8.0)	(7.5)	(5.3)	2.0	(4.7)				灰白(細筋少),△,□	281	輪印「△」	20/105/1043		
	113 T139	杵	轆轳町	Ⅱ-A	教育学年記入2箇	槌	(6.2)	(9.3)	2.4							灰白(細筋少)	1062	輪印「△」	20/105/1023	
	113 T140	杵	轆轳町	Ⅰ-C	コングリート構造用	槌面	(8.8)	(5.7)	1.8							粗(細筋少)	291	輪印「△」	20/105/1026	
	113 T141	杵	轆轳町	Ⅰ-B	棒(作業)	槌面	(4.9)	(8.7)	1.8	1.7						粗(細筋少),△,□	195		20/105/106	
	113 T142	杵	轆轳町	Ⅱ-B	水道管(10)	槌面	(4.6)	(8.5)	1.8							灰黄(細筋少),△,□	1044		20/105/1014	
	113 T143	杵	轆轳町	Ⅰ-A	-7管(1管)	槌面	(5.1)	(16.8)	1.6							青(三重井色)・細筋少	737	無印	20/105/1030	
	113 T144	杵	轆轳町	Ⅲ	Z30W(前田・1管)	槌面	(4.8)	(16.5)	2.0	1.9						灰白(細筋少)	1065	無印	20/203/103	
	113 T145	杵	轆轳町	Ⅱ-A	ヒエー-2管	槌	(4.9)	(5.5)	(2.0)							12.5cm(細筋少)	458	灰白(細筋少)	20/105/100	
	113 T146	杵	轆轳町	Ⅰ-B	水道管(2)(3)	槌	(11.9)	(14.0)	2.2											

第24表 出土遺物観察表 瓦6

通番	番号	種類	地区	出土施設	表面	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	粘土	内面調査	出土箇所	特記事項	IDNo.
113	T147	瓦	篠丘町	直	瓦	板瓦	(8.1)	(14.9)	1.8							瓦(赤茶色・板瓦少)	54		201303-122	
113	T148	瓦	篠丘町	直	瓦	板瓦	(8.1)	(13.8)	2.3							瓦(白色・板瓦少)	750		200001-1230	
113	T149	瓦	篠丘町	直	1層(砂利層上)	板瓦	(10.5)	(11.4)	2.1							板(赤茶色・板瓦少)、 シラフ	161		201303-102	
113	T150	瓦	篠丘町	直-A	板瓦	(14.0)	(9.8)									板(板瓦少)	1043		201105-164	
113	T151	瓦	篠丘町	1-C	下水管	板瓦	(15.3)	(4.2)								瓦(板瓦少)	339		201105-152	
113	T152	瓦	篠丘町	直	瓦上	板瓦	(10.9)	(9.1)	(7.0)							瓦(板瓦少・板瓦薄)	1002		201303-149	
113	T153	瓦	篠丘町	1-B	瓦側溝	板瓦	(11.9)	(13.2)	(5.8)							瓦(板瓦少)	1066		201303-141	
113	T154	瓦	篠丘町	直	瓦上	板瓦										12.5cm重複面積P、シラフ	1044		201303-104	
113	T155	瓦	篠丘町	直-C	板瓦付窓	板瓦	(8.6)	(5.2)	2.0							瓦白(板瓦少)、シラフ	639-2		201105-108	
113	T156	瓦	篠丘町	直-B	板瓦付窓	板瓦	(4.0)	(6.1)	(5.4)	1.8						明帯(瓦白・板瓦少)	664		201105-114	
113	T157	瓦	篠丘町	直-A	板瓦4	板瓦	(9.2)	(10.8)	1.7	(3.4)	1.7					12.5cm重複面積P、シラフ	850		201105-102	
114	T158	瓦	篠丘町	直	瓦上	板瓦	(6.1)	(7.1)								12.5cm重複面積P、シラフ	1059		201303-140	
114	T159	瓦	篠丘町	直-A	斜字部瓦・2種類高さ	板瓦	(6.4)	(10.8)								12.5cm重複面積P、シラフ	339		201303-105	
114	T160	瓦	篠丘町	直-A	水道管(6)	板瓦	(8.6)	(7.2)								板(板瓦少)	364		201305-149	
114	T161	瓦	篠丘町	1-C	瓦面不直部・2種類高さ	板瓦	(10.0)	(6.8)								瓦(板瓦少)	8		201305-148	
114	T162	瓦	篠丘町	1-B	通気口(7個)	板瓦	(4.8)	(6.8)								板(板瓦少)	1165		201303-142	
114	T163	瓦	篠丘町	1-C	水道管(7)	板瓦	(5.6)	(7.6)								板(板瓦少)	457		201303-106	
114	T164	瓦	篠丘町	1-C	水道管(7)	板瓦	(7.0)	(10.1)								板(板瓦少)、シラフ	267		201105-107	
114	T165	瓦	篠丘町	1-C	1-C	板瓦	(5.2)	(5.0)								板(板瓦少)	382		201305-147	
114	T166	瓦	篠丘町	1-A	セメント管	板瓦	(10.8)	(8.2)								12.5cm重複面積P、板瓦少	214		201305-156	
114	T167	瓦	篠丘町	1-B	通気口(7個)	板瓦	(6.1)	(6.1)								板(板瓦少)	1105		201303-143	
114	T168	瓦	篠丘町	直-B	(2.1)×(2.1)の複合面積	板瓦	(5.8)	(5.7)								12.5cm重複面積P、板瓦少	663		201105-109	
114	T169	瓦	篠丘町	直-B	板瓦付窓	板瓦	(12.5)	(10.3)								瓦(板瓦少)	906		201105-185	
114	T170	瓦	篠丘町	直-B	(2.1)×(2.1)の複合面積	板瓦	(5.5)	(4.3)								瓦(板瓦少)	663		201105-180	
114	T171	瓦	篠丘町	II-C	板瓦付窓	板瓦	(5.0)	(5.6)	2.6							瓦(板瓦少)	474		201305-194	
114	T172	瓦	篠丘町	1-B	瓦片接合部	板瓦	(5.2)	(7.0)	(2.8)	(3.3)						瓦白(板瓦少)	217		201303-161	
114	T173	瓦	篠丘町	II-D	斜字部瓦	板瓦	(2.9)	(5.0)		(2.0)						瓦白(板瓦少)	568		201105-115	
114	T174	瓦	篠丘町	1-B	文書(改修)	板瓦	(10.9)	(11.1)								瓦(白色・板瓦少)、シラフ	250		201305-100	
114	T175	瓦	篠丘町	1-C	下水管	板瓦	(6.2)	(7.0)								瓦白(板瓦少)	7		201305-163	
114	T176	瓦	篠丘町	II-D	板瓦付窓	板瓦	(10.2)	(10.3)								板(板瓦少)、シラフ	554		201105-183	
114	T177	瓦	篠丘町	1-B	木造瓦管(2)(3)	板瓦	(7.4)	(6.1)								板(板瓦少)、シラフ	78		201303-162	

第25表 出土遺物觀察表 金属製品1

固版	番号	種別	器種	調査区	地区	出土地点	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	取上No	特記事項	IDNo.
101	M1	鉄	鍔ノ丸第2次	N2	SK3	邊機上面	1.3	1.2	1.3	8.3			200001-M1
101	M2	鉄	鍔ノ丸第2次	N2	SK3	邊機上面	(9.6)	(1.4)	0.7	33.0			200001-M4
101	M3	鉄	鍔ノ丸第2次	N3	SK2	上半	(4.0)	0.8	0.3	1.5			200001-M2
101	M4	鉄	鍔ノ丸第2次	N3	SK2	上半	8.3	(13.2)	2.1	171.3			200001-M3
115	M5	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛出作業	(3.4)	0.3	0.3	1.11	665-1		201105-M7
115	M6	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱5	5.1	0.5	0.3	2.06	672-1		201105-M10
115	M7	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱5	5.9	0.3	0.2	2.65	672-2		201105-M11
115	M8	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(5.6)	0.8	0.3	2.04	677-2		201105-M14
115	M9	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(4.5)	0.6	0.2	1.81	677-3		201105-M15
115	M10	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	4.5	0.3	0.2	1.08	753-3		201105-M26
115	M11	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(7.6)	0.3	0.3	4.71	753-7		201105-M27
115	M12	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(4.2)	0.3	0.3	2.73	753-9		201105-M28
115	M13	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(3.0)	0.4	0.5	6.06	753-11		201105-M29
115	M14	鉄	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱6	(11.0)	0.6	0.6	13.53	677-1		201105-M33
115	M15	鉄	鍔ノ丸第2次	N2	B層	集石器	5.3	0.3	0.3	2.2			200001-M10
115	M16	銅	鍔	櫛爪門	III	裏土	2.6	0.3	0.2	1.5	1014.0		201203-M1
115	M17	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	3.9	0.2	0.2	2.61	724-2		201105-M18
115	M18	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	(3.0)	0.2	0.3	1.87	724-3		201105-M19
115	M19	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	(3.5)	0.3	0.3	1.69	724-4		201105-M20
115	M20	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	(3.9)	0.4	0.4	2.77	724-5		201105-M21
115	M21	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	(3.9)	0.4	0.4	2.93	724-6		201105-M22
115	M22	銅	鍔	櫛爪門	II-A	櫛乱3-11	(2.7)	0.3	0.2	1.19	724-7		201105-M23
115	M23	銅	鍔	櫛爪門	II-B	櫛乱2	(2.8)	0.4	0.4	1.32	812		201105-M24
115	M24	銅	鍔	櫛爪門	II-A	近現代溝(2)	3.5	0.3	0.3	2.96	752		201105-M24
115	M25	銅	鍔	櫛爪門	I-C	近代路前(1)	3.2	0.2	0.3	1.77	426-1		201105-M3
115	M26	銅	鍔	櫛爪門	I-B	共同溝	(3.5)	1.2	1.0	2.3	1094		201203-M10
115	M27	銅	鍔	櫛爪門	I-B	共同溝	2.3	0.2	0.2	0.9	1094		201203-M11
115	M28	銅	鍔	櫛爪門	I-B	共同溝	(2.1)	1.4	0.9	1.6	1097		201203-M2
115	M29	銅	鍔	櫛爪門	I-A	ヒューム管	(3.5)	0.3	0.4	2.4	221		201005-M27
115	M30	銅	鍔	櫛爪門	I-A	ヒューム管	3.7	0.3	0.3	2.74	230		201005-M28
115	M31	銅	鍔	櫛爪門	I-A	ヒューム管	3.6	0.4	0.3	1.98	230		201005-M29
115	M32	銅	鍔	櫛爪門	I-A	ヒューム管	(3.2)	0.3	0.3	2.3	1057		201203-M3
115	M33	銅	鍔	櫛爪門	I-A	ヒューム管	(3.4)	0.4	0.3	2.9	1057		201203-M4
115	M34	銅	鍔	櫛爪門	III	下水管	(3.0)	0.3	0.3	1.7	1084		201203-M6
115	M35	銅	鍔	櫛爪門	I-B	水道管(1)	3.7	0.3	0.3	2.03	222		201005-M10
115	M36	銅	鍔	櫛爪門	I-B	水道管(8)	4.1	0.3	0.3	2.87	227		201005-M13
115	M37	銅	鍔	櫛爪門	I-B	水道管(2)(3)	3.2	0.2	0.2	1.31	201		201005-M25
115	M38	銅	鍔	櫛爪門	I-B	水道管(2)(3)	(1.9)	0.4	0.4	2.34	271		201005-M30
115	M39	銅	鍔	櫛爪門	II-A	教育学部本道2棟	(4.1)	0.2	0.2	1.80	339		201005-M31
115	M40	銅	鍔	櫛爪門	I-B	T03	3.5	0.3	0.4	2.05	41	剣頭形	202005-M1
115	M41	銅	鍔	櫛爪門	I-B	T03	4.0	0.3	0.3	3.09	77		201005-M3
115	M42	銅	鍔	櫛爪門	I-C	T05(1-3聯)	(2.8)	0.3	0.3	1.87	69		201005-M2
115	M43	銅	鍔	櫛爪門	I-B	T15	(3.7)	0.4	0.3	2.37	199		201005-M22
115	M44	銅	鍔	櫛爪門	I-B	T15	(3.7)	0.2	0.3	2.42	199		201005-M23
115	M45	銅	鍔	櫛爪門	I-B	T15	(3.9)	0.2	0.2	1.48	199		201005-M24
115	M46	銅	鍔	櫛爪門	I-B	櫛出作業	3.1	0.5	0.4	1.81	673		201105-M12
115	M47	銅	鍔	櫛爪門	I-A	櫛出作業	(4.1)	0.4	0.3	2.58	703-1		201105-M16
115	M48	銅	鍔	櫛爪門	I-A	櫛出作業	(2.8)	0.3	0.3	1.32	873-2		201105-M34
115	M49	銅	鍔	櫛爪門	I-A	櫛出作業	2.7	0.2	0.1	0.7	885		201105-M35
115	M50	銅	鍔	櫛爪門	II-C	櫛出作業	(3.8)	0.3	0.3	2.04	913		201105-M41
115	M51	銅	鍔	櫛爪門	II-B	櫛出作業	(3.7)	0.4	0.2	2.02	665-2		201105-M8
115	M52	銅	鍔	櫛爪門	I-B	櫛出作業	3.0	0.3	0.3	1.4	1086		201203-M7

第26表 出土遺物觀察表 金属製品2

IDNo.	番号	種別	器種	調査区	地区	出土地点	全長(cm)	全幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	取上№	特記事項	IDNo.
115	M53	銅	針	櫛爪門	I-B	S601(1層)	4.1	0.3	0.2	2.6	908-2		20105-937
115	M54	銅	針	櫛爪門	I-B	S601(1層)	(4.0)	0.3	0.3	2.26	908-3		20105-938
116	M55	銅	針	櫛爪門	I-B	S601(1層)	3.6	0.3	0.4	2.09	908-4		20105-939
116	M56	銅	針	櫛爪門	I-B	S601(1層)	3.3	0.3	0.4	1.5	908-5		20105-940
116	M57	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	3.6	0.4	0.4	2.35	255		20105-916
116	M58	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	(2.5)	0.2	0.3	1.44	255		20105-917
116	M59	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	(2.6)	0.3	0.3	0.97	255		20105-918
116	M60	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	(2.9)	0.3	0.3	1.53	257		20105-919
116	M61	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	(2.1)	0.2	0.3	0.95	257		20105-920
116	M62	銅	針	櫛爪門	I-B	S603	(2.5)	0.2	0.3	1.38	263		20105-921
116	M63	銅	針	櫛爪門	I-A	木造(解体)周辺	(2.3)	0.2	0.2	0.5	1091		201203-49
116	M64	銅	針	櫛爪門	I-B	S604	(2.4)	0.3	0.3	0.7	1150		201203-46
116	M65	銅	針	櫛爪門	I-B	株出面(ノ/門外西側)	(3.8)	0.2	0.3	1.99	304		20105-95
116	M66	銅	針	櫛爪門	I-B	株出面(ノ/門外西側)	(2.1)	0.2	0.3	0.93	210		20105-97
116	M67	銅	針	櫛爪門	I-B	株出面(ノ/門周辺)	2.1	0.2	0.2	0.36	210		20105-98
116	M68	銅	針	櫛爪門	I-B	株出面(ノ/門外西側)	4.1	0.3	0.3	250.0	211		20105-99
116	M69	銅	針	櫛爪門	I-B	通用門	2.8	0.9	0.8	2.0	1100		201203-413
116	M70	銅	針	櫛爪門	I-B	通用門	(4.0)	0.2	0.3	1.4	1074		201203-45
116	M71	銅	針	櫛爪門	I-B	通用門(上層)	3.7	0.9	0.9	1.8	1103		201203-414
116	M72	銅	針	櫛爪門	I-B	文化核取	(1.6)	0.2	0.2	0.24	223		20105-911
116	M73	銅	針	櫛爪門	I-B	文化核取	(3.6)	0.2	0.3	1.9	232		20105-914
116	M74	銅	針	櫛爪門	I-B	文化核取	(4.0)	0.4	0.3	2.31	250		20105-915
116	M75	銅	針	櫛爪門	I-B	文化核取	2.7	0.2	0.2	0.82	225		20105-912
116	M76	銅	鉗	櫛爪門	I-B	水道管(2)(3)	1.3	1.3	1.4	11.65	605		201105-96
116	M77	銅	鉗	櫛爪門	I-B	水道管(2)(3)	1.8	1.8	1.7	27.8	582		20105-95
116	M78	銅	鉗	櫛爪門	I-C	水道管(7)	1.2	1.2	1.2	8.15	464		20105-94
116	M79	銅	鉗	櫛爪門	I-C	T06(1-5層)	1.3	1.2		6.1	113		20105-944
116	M80	銅	鉗	櫛爪門	N2	B層 土坑	1.3	1.3	1.2	9.3			200001-98
116	M81	銅	引き金	櫛爪門	I-C	下水管	(2.0)	0.7	0.4	1.22	942		20105-933
116	M82	銅	引き金	櫛爪門	I-C	検出作業	3.7	1.1	1.1	8.30	829		20105-942
116	M83	銅	雨樋	櫛爪門	N2	B層 集石層上面	(5.7)	1.9	0.3	8.0			200001-91
116	M84	鉄	鉄錐	櫛爪門	N2	B層	(0.6)	0.5	0.5	6.7			200001-97
116	M85	銅	素夷	櫛爪門	I-B	近代石造(解体No.35上)	5.1	1.2	1.3	10.7	961-1		20105-946
116	M86	銅	素夷	櫛爪門	I-C	コマクリート下(2)F I-4層	(5.0)	1.2	1.2	7.6	424-1		20105-943
116	M87	銅	彈丸	櫛爪門	II-B	検出作業	3.1	0.9	0.9	15.58	665-3		20105-949
116	M88	銅	彈丸	櫛爪門	I-C	近石河北都 2012-7-3 T05(近世屋敷風流)	3.4	0.8	0.7	8.4	1090		201203-48
116	M89	銅	鐘錠	櫛爪門	I-C	ノルマ第2次	(4.8)	0.9	0.2	5.2			200001-96
116	M90	銅	筒状	櫛爪門	I-C	検出面	2.2	1.1	1.15*1.0	2.65	421-2		20105-942
116	M91	銅	筒状	櫛爪門	I-B	S601(1層)	2.1	1.0	0.9	5.39	908-1		20105-936
116	M92	銅	喉金	櫛爪門	不明	不明	(5.1)	10.0	0.3	62.53	398		20105-932
116	M93	銅	鍼	櫛爪門	I-B	T01(近世屋)	2.3	2.3	0.2	155	直木通 145~160mm 20~25mm		20105-933
116	M94	銅	電池	櫛爪門	I-C	コマクリート下(2)F I-4層	(5.5)	(1.6)	1.4	17.7	424-2		20105-944
116	M95	銅	ボタン	櫛爪門	I-C	近代路面(1)	2.4	2.4	1.2	4.0	426-3		20105-945
116	M96	銅	金具	櫛爪門	I-C	検出面	2.1	2.6	0.5	1.52	421-1		20105-941
116	M97	銅	金具	櫛爪門	I-B	規通6	1.6	0.3	0.3	1.13	753-1		20105-925
116	M98	銅	金具	櫛爪門	Ⅲ	武土(1層か)	3.1	3.0	0.3	2.1	1044	雄伏	201203-92
116	M99	銅	不明	櫛爪門	II-B	水道管(4)	(3.2)	(2.5)	(0.2)	11.77	786-1	板状製品	201105-930
116	M100	銅	不明	櫛爪門	II-B	水道管(4)	(3.0)	(2.8)	(0.2)	12.36	786-2	板状製品	201105-931
116	M101	銅	不明	櫛爪門	I-B	株出面(ノ/門外西側)	(2.7)	0.6	0.3	0.5	208	板状製品	20105-946
116	M102	銅	不明	櫛爪門	I-A	ヒューム管	5.2	0.7	0.3	4.13	214	板状製品	20105-926
116	M103	銅	不明	櫛爪門	I-B	S602	(5.1)	(1.6)	0.4	6.58	705-1	板状製品	201105-917
116	M104	銅	不明	櫛爪門	I-B	通用門(上層)	5.3	1.3	0.8	15.9	1105	板状製品	201203-915

第27表 出土遺物觀察表 石製品

編號	番号	器種	調查區	地區	出土地點	子代(件)			材質	表記番號	特記事項	IDNo.			
						①前大頭	②後小頭	③鉗子形頭							
117	S1	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	S001	63.2	62.5	9.6	54.65	安山岩	250-394-1128-1140	青口原石 G	201005-59		
117	S2	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	S001	63.0	64.1	9.6	56.2	安山岩	1128	青口原石 G	201203-57		
118	S3	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	S001, T15	91.0	56.2	9.2	8.0	燧灰岩	212-253-394	鐵來石	201005-55-53		
118	S4	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	S001, 鐵扒門	(63.6)	56.7	9.5	9.2	燧灰岩	116-1125	鐵來石	311203-56		
119	S5	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門	42.2	59.8	9.2	16.6-16.1	燧灰岩	1117	鐵來石	311203-55		
119	S6	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	支口鐵板頭	(34.7)	(24.2)	9.5	10.1	燧灰岩	6.3	鐵來石	201005-512		
119	S7	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	支口鐵板頭	(25.4)	(25.4)	7.4	7.5	6.3	3.83	鐵來石	310105-56		
119	S8	鉗頭鐵板	鐵扒門	1-B	S001(1-鹽)	(32.5)	(31.2)	8.0	8.3	燧灰岩	250	鐵來石	201105-53		
120	S9	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門	(58.0)	36.9	9.9	1.0	5.2	21.8	燧灰岩	764	鐵來石	311203-53
120	S10	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(24.0)	37.0	9.4	1.96	4.7	7.3	燧灰岩	1184-1109	鐵來石	311203-54
120	S11	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(8.6)	(26.3)	8.9	1.5	4.2	1.15	燧灰岩	1169	鐵來石	311203-511
120	S12	鉗頭鐵板	鐵扒門	1-B	支口鐵板頭	(25.5)	28.6	7.2	3.65	燧灰岩	259	鐵來石	201005-57		
120	S13	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(12.2)	38.0	9.4	3.5	燧灰岩	1169	鐵來石	201203-510		
121	S14	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	68.1	36.2	7.0	14.8	燧灰岩	1184-1106-1109-1100	鐵來石	201203-51		
121	S15	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門	(14.0)	(15.7)	(6.9)	1.2	燧灰岩	1100	鐵來石	201203-512		
121	S16	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門	(66.0)	35.5	6.8	11.65	燧灰岩	1180-1106-1109	鐵來石	201203-52		
122	S17	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(23.8)	36.0	9.2	7.75	燧灰岩	1116	鐵來石	201203-514		
122	S18	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(25.4)	(14.6)	8.9	2.5	燧灰岩	1105	鐵來石	201203-513		
122	S19	扁頭鐵板	鐵扒門	1-B	通門	(29.6)	(25.2)	6.4	2.15	燧灰岩	1100	鐵來石	201203-59		
122	S20	扁頭鐵板?	鐵扒門	1-B	通門	(15.0)	(68.4)	(8.7)	3.65	燧灰岩	1100	鐵來石	201203-58		
122	S21	扁頭鐵板?	鐵扒門	1-B	通門(少-鹽)	(34.4)	(22.1)	10.0	4.5	燧灰岩	1106	鐵來石	201203-515		
122	S22	扁頭鐵板?	鐵扒門	1-A	S001(1-鹽)(1-鹽)	(23.1)	(25.6)	(8.6)	2.55	燧灰岩	1098	鐵來石	201203-517		
122	S23	扁頭鐵板?	鐵扒門	1-B	通門(二ノ門-西側)	(18.1)	(19.6)	3.45	1.76	安山岩	596	青口原石 G	201105-52		
122	S24	不明	鐵扒門	1-B	通扒	(17.3)	6.8	2.7	2.7	燧灰岩	1143	鐵來石	201005-516		
123	S25	扁石?	鐵扒門	R-A	精字底部2.2層	(41.4)	20.2	18.0	24.4	安山岩	352	青口原石 G	201005-58		
123	S26	鐵石?	鐵扒門	1-B	T01(水道管(2)(1)(3))	35.3	(37.8)	10.9	26.35	燧灰岩	84	鐵來石	201005-51		
123	S27	扁石?	鐵扒門	1-B	T15	(28.0)	(27.4)	9.3	10.0	安山岩	180	青口原石 G	201005-52		
123	S28	鐵石?	鐵扒門	1-B	T15	(29.3)	(32.8)	10.5	9.75	安山岩	180	青口原石 G	201005-53		
124	S29	鐵石?	鐵扒門	1-B	水道管(2)(3)	(34.8)	32.5	15.9	39.0	安山岩	182	青口原石 G	201105-54		
124	S30	不明	鐵扒門	1-B	水道管(2)(3)	(22.0)	(14.6)	7.5	6.0	安山岩	580	鐵來石	311105-54		
124	S31	鐵石	鐵扒門	B-C	鐵頭	56.7	19.9	21.0	34.0	安山岩	693	青口原石 G	201105-55		
124	S32	鐵石	鐵扒門	1-B	T01(泥塑)	(3.9)	3.9	0.6	0.147	燧灰岩	175	鐵來石	201005-51		
124	S33	鐵	鐵扒門	1-C	1-泥塑	(4.3)	(5.7)	1.65	0.3682	燧灰岩	136	鐵來石	201105-51		

# 第6章 自然科学的調査

## 第1節 金沢城跡橋爪門の花粉分析

森 将志（パレオ・ラボ）

### 1.はじめに

寛永8年（1631）の大火後に創建された二ノ丸の正門である橋爪門の復元整備を進めるにあたり、古植生を調べるために、暗渠と溜枡から花粉分析用の試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、橋爪門周辺の古植生について検討した。

### 2. 試料と方法

分析試料は、文化6年（1809年）に再建された石組暗渠と石組枡（溜枡）内の堆積物から採取された計17試料である（第28表）。溜枡（SK01）の2層と3層が明治14年（1881）の火災前後層、4～10層は枡が管理されなくなつてからの堆積層、11層は枡構築時の整地土と考えられている。暗渠（SD01）の上層・中層は石組枡埋没以降の堆積土、下層は使用時の堆積土と考えられている。これらの試料から、次の手順で花粉化石を抽出した。

第28表 分析試料一覧表

試料No.	造構	層位	土質	備考
1	溜枡 SK01	2層1-1	10YR4/3暗褐色砂質土（粗砂）	明治14年の火災前後の堆積土層
2		2層1-2		
3		2層2		
4		3層		
5		4層		
6		5層		
7		6層		
8		6層下部	25Y4/2暗灰黄色砂質土（粗砂）	石組枡が管理されなくなつてからの堆積土
9		7層	25Y3/1黒褐色砂質土（粗砂）	
10		8層	25Y4/1黄灰色砂質土（粗砂）	
11		9層	25Y4/2暗灰黄色砂質土（粗砂）	
12		10-11層	25Y4/2暗灰黄色砂質土（やや細砂）	
13		11層	10YR3/1黒褐色粘質土	石組枡構築時の整地土
14	暗渠 SD01	上層	75Y4/3暗オリーブ色（細粒砂）	石組枡埋没以降の堆積土
15		中1層	5Y4/2灰オリーブ色（細粒砂）	
16		中2層	5Y3/2オリーブ黑色（疊混じり細粒砂）	
17		下層	5Y4/2灰オリーブ色（砂礫）	使用時の堆積土

\*層位・土質は第49回2012-7-2、2012-9-1参照

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトトリス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え10分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレバラートを作製して行った。花粉含有量の少ない試料についてはプレバラート全面を、花粉含有量の多い試料については樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本を作製した。図版に載せた分類群ごとの単体標本（PLC.546～551）は、パレオ・ラボに保管されている。

### 3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉28、草本花粉15、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計46である。花粉・胞子の一覧を第29表に示し、分布図を第25図に示した。分布図において、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基準とし、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基準とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(−)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものと示す。マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため便宜的に草本花粉に括して入れてある。

今回は計17試料の処理を行ったが、十分な量の花粉化石が含まれていたのは5試料（石組枡4層、石組枡10~11層、石組枡11層、石組暗渠中層、石組暗渠下層）のみであった。花粉化石が産出したいづれの試料においても、樹木花粉の産出割合が高く、草本花粉の産出割合が低い傾向にあるが、石組暗渠下層ではやや草本花粉の産出割合が高い。

樹木花粉では、マツ属複維管束亜属（ニヨウマツ類）が全ての試料において最も多く産出しており、29~70%の産出率を示す。次いでスギ属の産出が目立ち、8~44%の産出率を示す。ハンノキ属やコナラ属コナラ亜属は、暗渠下層でそれぞれ27%と12%でやや高い産出率を示しているが、その他の試料では5%~12%、1%~2%と低くなる。草本花粉ではイネ科の産出が最も目立ち、5%~14%の産出率を示す。アザケ科-ヒユ科は、石組暗渠下層で12%の産出率を示しているが、その他の試料では1%~3%と低くなる。さらに、栽培植物のソバ属が石組枡2層と石組枡11層、石組暗渠下層においてわずかに産出している。

### 4. 考察

今回分析した17試料の中で、十分な量の花粉化石を含んでいたのは5試料のみであった。一般的に花粉粒の大きさは直径0.02mm~0.06mmの範囲に入るものが多く、粘土粒子やシルト粒子とはほぼ同じ大きさである。よって、植物から散布された花粉粒は、陸域や水域に落下した場合、泥等の微細粒子と同じような挙動を示すと思われる。今回の分析試料は、砂や礫を主体とした堆積物であり、砂礫と花粉粒子は堆積環境における挙動が異なるため、大部分の分析試料に留まらなかつたと考えられる。以下では、十分な量の花粉化石が産出した試料から、当時の古植生について推測する。

今回の分析結果では、全体的に樹木花粉の産出割合が高く、草本花粉の産出割合が低い傾向が見られた。しかし、石組暗渠下層においてはやや草本花粉の産出割合が高い。よって、石組暗渠下層の堆積時期には、他の試料の時期に比べ、草本植生が分布を広げていた可能性がある。草本植生の構成種としては、イネ科やアザケ科-ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンボポアヤ科等が考えられる。暗渠下層の樹木花粉はニヨウマツ類の産出が多いため、少なくとも石組暗渠下層の堆積時期には、橋爪門周辺で二次林要素のアカマツ等のニヨウマツ類が目立つ存在であったと推測される。また、コナラ属コナラ亜属やクリ属等の二次林要素の産出も見られ、コナラやクリ等を含む二次林が橋爪門周辺に分布していた可能性がある。さらに、石組暗渠下層ではハンノキ属の産出が多く見られる。橋爪門周辺に水分条件の良好な場所があり、そこにハンノキ属が生育していたと思われる。その他では、針葉樹のスギ属や照葉樹のシノキ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属等の産出も見られ、こうした分類群も橋爪門周辺の樹木植生を構成していたと考えられる。

石組暗渠下層以外の試料では、樹木花粉の産出割合が高く、なかでもニヨウマツ類とスギ属の産出が目立つ。マツは城内や庭園等に觀賞用として植林される種類であり、スギもまた同様の目的で植林されたと考えられる。また、石組暗渠下層で、ある程度の産出が見られたハンノキ属の産出はやや少ないため、石組暗渠下層の時期に比べると、以降には橋爪門周辺において水分条件の良好な場所が減少していった可能性がある。さらに、草本花粉の産出割合が非常に低いという点から、橋爪門周辺では充分な手

入れがなされ、雑草等が刈り取られていたと考えられる。以上のように、ニヨウマツ類とスギ属の2種類の花粉の産出が突出し、草本花粉の産出が少ないという特徴から、石組暗渠下層以外の試料から産出する花粉化石群集は、橋爪門周辺の非常に整備された植生を反映している可能性が考えられる。

さらに、石組桿2層2と石組桿11層、石組暗渠下層ではソバ属花粉の産出が見られた。城内でソバ栽培を行っていたとは考え難く、城周辺に存在していたであろうソバの耕作地から花粉が供給されたものと思われる。

## 5.まとめ

石組暗渠下層の堆積時期には、イネ科やアザケ科ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンボボアキ科等からなる草本植生が橋爪門周辺に広がっていたと思われる。樹木花粉では、二次林要素のニヨウマツ類やコナラ属コナラ亜属、クリ属や、湿地林要素のハンノキ属、その他ではスギ属、シイノキ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属等の産出がある程度見られ、これらの分類群が橋爪門周辺の樹木植生を構成していたであろう。

石組暗渠下層以外の試料において目立つニヨウマツ類とスギ属は、城内に觀賞目的で植林されたと考えられる。また、暗渠下層に比べると、上層ではハンノキ属の産出が少ないため、橋爪門周辺で水分条件の良好な場所が減少していった可能性がある。

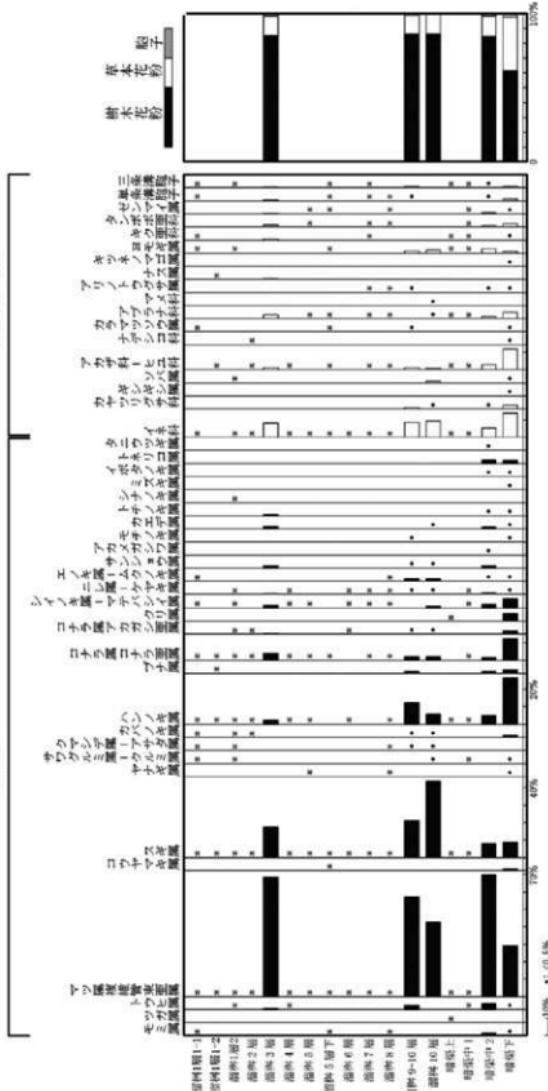
また、石組桿2層2と石組桿11層、石組暗渠下層ではソバ属花粉の産出が見られた。よって、城周辺においてソバの耕作地が存在したと考えられる。

第29表 産出花粉化石一覧

目	科名	種名	出現										相関			相関			
			196-1	196-2	196-2	196-3	196-4	196-5	196-6	196-7	196-8	196-9	196-10	196-11	196-12	196-13	196-14	196-15	
目			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Asteridae		セイゴ属 ツガヒ属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
Tulipa		トウヒ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Paeonia		マツカツラ属 オオバキ属	10	8	16	2	108	22	4	7	5	14	15	124	92	22	34	140	
Paulownia		コサギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	
Crotonaceae		ヤクモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
Saxifragaceae		サクラソウ属 カクレソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	
Primulaceae		ハナミズキ属 カタツムリソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	
Phytolaccaceae		ホウズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Portulacaceae		ホウズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Hedysaraceae		ホウズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Alismataceae		ホウズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Fagopyrum		ホウズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Quercus radiata	Liquidambar	コナラ属コナラ属	9	3	1	1	6	1	2	4	1	4	4	4	4	4	4	4	
Quercus radiata	Cyathocalyx	コナラ属カワシナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	
Cannabaceae		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
Cannabis-Spannula		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	
Ulmaceae-Zelkova		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	
Celtis-Afghanica		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
Zanthoxylaceae		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Melastomataceae		タリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Ilex		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Acer		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Thymelaeaceae		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Compositae		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Lamiaceae		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Plantaginaceae		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Veronica		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Violaceae		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Wogonidium		セイゴ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
目			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Gramineae		イネ科	1	1	2	1	16	7	3	4	2	4	13	21	23	7	12	13	45
Cyperaceae		カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Rubiaceae		キジカツ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Rapaceae		アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アブラナ科ヒユ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	
Caryophyllaceae		アチャクサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Thlaspiaceae		カブトグサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	
Brassicaceae		アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Lepidium		アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Malvaceae		アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Solanaceae		チヌク科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Juncaceae		チヌク科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Artemisia		チヌク科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Tridioneaceae		チヌク科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Liliaceae		チヌク科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Osmunda		ゼンマイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Musotima type species		三絆藻子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Trilete type species		三絆藻子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
Athyrium		聖木苔	64	19	30	11	136	31	11	11	15	22	36	217	226	65	201	202	
Polypodiaceae		シダ類	4	2	5	3	25	8	7	11	2	10	3	31	34	13	17	33	
Polypodium		シダ類	2	3	3	3	186	29	20	36	17	2	34	255	250	30	64	68	
Total Polyp. Spermat.		シダ類	70	21	38	14	186	20	20	36	17	2	34	255	250	30	64	68	
Urticaceae		アサガホ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	

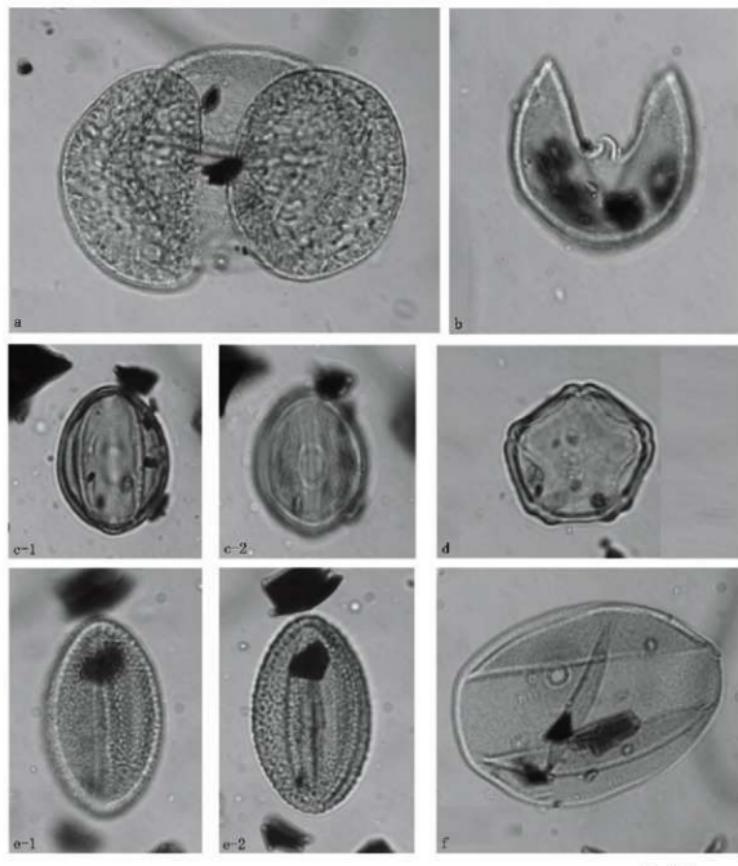
## 樹木花粉

## 草本花粉・胞子



樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基準として百分率で算出した。  
\* は樹木花粉 100 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

第125図 金沢城跡篠爪門における花粉分布図



- a. マツ属複維管束亞属 (9-10層 PLC.546)  
 b. スギ属 (10層 PLC.547)  
 c. カエデ属 (10層 PLC.548)  
 d. ハンノキ属 (9-10層 PLC.549)  
 e. ソバ属 (10層 PLC.550)  
 f. イネ科 (9-10層 PLC.551)

第126図 金沢城跡橋爪門石組樹から産出した花粉化石

## 第2節 金沢城跡橋爪門出土漆喰片・路盤構築土の自然科学分析

藤根 久・米田恭子・竹原弘展（バレオ・ラボ）

### 1. はじめに

金沢城跡橋爪門平成24年度調査区で検出された石垣台背面上部堆積土から検出した漆喰片と、石垣台前面路盤（以下路盤とする）の構築土について、薄片観察および蛍光X線分析による元素マッピング分析を行い、材質を調査した。

### 2. 試料と方法

分析試料は、漆喰片とされた材2点と路盤材2点である（第30表）。

第30表 薄片観察および元素マッピング分析を行った資料

分析No.	荷札No.	グリッド	層位	遺構	種類	現場荷札名称	備考
1	1119	Ⅲ	4層	石垣台	漆喰片	下水管掘方断面（北）	白色塊
2	1145		20層	路盤	路盤材	石垣台前面 路盤サンプル 上層	塊状、疊多く混じる
3	1146		21層	路盤	路盤材	石垣台前面 路盤サンプル 下層	塊状、疊多く混じる
4	1148		44層	石垣台	漆喰片	下水管北壁	脆くて塊状を保てず、細かく粉砕

※層位第77図 2012-3参照

#### 【薄片観察】

薄片作製は、(1) 試料は、はじめに岩石カッター等で整形し、恒温乾燥機により乾燥させた。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ、固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し、接着面と反対の面に平面を作製した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。(2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作製した後、スライドグラスに接着した。(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて試料を切断し、ガラス板等を用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作製した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

薄片は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面にみられた微化石類（珪藻化石、骨針化石等）と大型粒子の特徴およびその他の混和物について、観察と記載を行った。

なお、以下に、土器胎土中粒子を同定または分類する際の各分類群の特徴を示す。

#### 【放散虫化石】

放散虫は、放射假足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

#### 【珪藻化石】

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百μm程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉（1988）や安藤（1990）は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石（海水種、淡水種）を分類した。

#### 【骨針化石】

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状からなる。海綿動物の多くは海産であるが、淡水産としても23種程が知られ、湖や池あるいは川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

#### 【植物珪酸体化石】

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50μm前後である。一般にプラント・オ・パールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類等に存在する。

### [胞子化石]

胞子は、直径約10～30 μm程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壤中にも含まれる。

### [石英・長石類]

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶等のように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く、一括して扱う。

### [長石類]

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帶構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帶構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩等ケイ酸分の多い深成岩等に産出する。

### [雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい剥れ目）にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩等のケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

### [輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビール瓶のような淡褐色および淡緑色等の色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルス等の高溫で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類やケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

### [角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色等である。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類あるいは火山岩類に産出する。

### [ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く渦曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）等がある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

### [片理複合石英類]

石英、長石類、岩片類等の粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。

### [砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類等の粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

### [複合石英類]

複合石英類は、石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、個々の石英粒子の粒径が0.01mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.10mmのものを中型、0.10mm以上のものを大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャート等に見られる特徴がある。

### [石灰質類]

微小～小型～大型の方解石から構成され、結晶度は低いものから高いものまで見られる。結晶度、構成粒子の大きさ等の構造に基づいて分類される。

### [斑晶質・完晶質]

斜長石や輝石・角閃石等の結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。

### [流紋岩質]

石英や長石等の結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、流理構造を示す岩石である。

### [凝灰岩質]

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、結晶度が低く、直交ニコルで観察した際に全体的に暗い粒子である。

### [不明粒子]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

### [元素マッピング分析]

試料は、薄片作製の切断した残片を使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム(Rh)ターゲット、X線ビーム径が100 μmまたは10 μm、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)である。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析が可能である。

分析は、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、主にカルシウム(Ca)のマッピング図に基に特徴的な箇所を選び、点分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では50kV、1.00mA、ビーム径100 μm、測定時間2000sを5回走査、パルス処理時間P3に、点分析では50kV、0.10～0.46mA(自動設定)、ビーム径100 μm、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンデメンタル・バラメータ法で行っており、半定量値である。

## 3. 結果

以下に、薄片の顕微鏡観察および元素マッピング分析の各結果について述べる

### 3-1. 薄片の偏光顕微鏡観察

各試料中の粒子組成については、微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度組成や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成、計数も含めた微化石類等の記載を示す。なお、第31表における不等号は、おおまかな量比を示す。

第31表 漆喰・路盤材料中の微化石類と砂粒物の特徴

分析No.	種類	粒度		微化石類の特徴	砂粒物岩石・鉱物組成	
		最大粒径	粒径		鉱物質	鉱物組成
1	漆喰片	150 μm	-	750 μm 2.4mm	植物珪酸体化石	斑晶質：石灰質（石英・長石類、複合石英類、斜長石（仮晶）、角閃石類、ジルコン、ガラス質、流紋岩質）
2	路盤材	300 μm	-	3.5mm 8.25mm	植物珪酸体化石	流紋岩質：斑晶質（石英・長石類、斜長石（仮晶）、角閃石類、ガラス質、凝灰岩質、複合石英類（微細））
3	路盤材	250 μm	-	3.5mm 5.0mm	植物珪酸体化石、珪藻化石（陸域指標種群 <i>Hantzschia amphioxys</i> ）	石英・長石類：流紋岩質、複合石英類（微細）、斑晶質、斜長石（仮晶）、角閃石類、ガラス質、半鋼輝石、雲母類、文象岩質
4	漆喰片	500 μm	-	6.75mm 9.5mm	-	流紋岩質、斑晶質：角閃石類

第32表 漆喰・路盤材料中の粘土および砂粒組成の特徴

分析No.	種類	粘土の特徴						砂粒の特徴						鉱物の特徴						植物珪酸体化石	その他の特徴					
		種類	族数	珪藻珪化石	貝壳珪化石	海水珪化石	淡水珪化石	不明珪化石	骨針化石	孢子化石	分類	片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ	（花崗岩・斜長石・カリ・長石）	バーライト	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類		
1	漆喰片	石炭								D	△	●	△	△	○	○	○	△	○	△	○	△	△	△	△	
2	路盤材	その他								Df	△	△	○	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	
3	路盤材	その他								Df	△	△	○		○	△										
4	漆喰片	その他								Fd		△	○	○												粘土分少ない

**a). 粘土の特徴**

分析No. 1は壁材の一部であり、大きく3層からなり、中層において砂粒物を多く含む（第32図-1a, 1b）。また、分析No. 4は白色粒子からなる。

分析No. 3の粘土中には、陸域指標種群の珪藻化石 *Hantzschia amphioxys* が含まれていた。また、分析No. 1～No. 3の粘土中には、植物珪酸体化石が含まれていた。

**b). 砂粒組成**

分析No. 1は、主に火山岩類からなるD群、分析No. 2～No. 4は主に流紋岩類と火山岩類からなるFd群であった。なお、岩石の組み合わせは第4表に従った。

第33表 岩石片の起源と組み合わせ

第2出現群	片岩類	第1出現群						
		A	B	C	D	E	F	G
		深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ	
第2出現群	a	片岩類	Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab	Cb	Eb	Fb	Gb	
	c	堆積岩類	Ac	Bc	De	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd	Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De	Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef	Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg

**3-2. 元素マッピング分析**

試料のケイ素 (Si)、硫黄 (S)、カリウム (K)、カルシウム、鉄 (Fe) の各マッピング図を第128図および第129図に示す。各試料の点分析の結果を第34表に示す。元素マッピング図は、元素ごとに輝度を相対的に比較できるように、各試料のプライネットスとコントラストを調整してある。ただし、分析

No. 1 のカルシウムマッピング図についてはカルシウムの輝度が非常に高かったため、調整していない。

点分析によるカルシウム(Ca)は、分析No. 1の漆喰片が最大99.95%、分析No. 2の路盤材が最大18.84%、分析No. 3の路盤材が最大22.61%、分析No. 4の漆喰片とされたものが最大9.56%であった(第34表)。

ケイ素(Si)は、分析No. 1の漆喰片が最大78.49%、分析No. 2の路盤材が最大76.9%、分析No. 3の路盤材が最大82.44%、分析No. 4の漆喰片とされたものが最大77.29%であった(第34表)。

アルミニウム(Al)は、分析No. 1の漆喰片が最大13.49%、分析No. 2の路盤材が最大29.99%、分析No. 3の路盤材が最大21.28%、分析No. 4の漆喰片とされたものが最大27.2%であった(第34表)。

鉄(Fe)は、分析No. 1の漆喰片が最大1.75%、分析No. 2の路盤材が最大9.23%、分析No. 3の路盤材が最大13.29%、分析No. 4の漆喰片とされたものが最大10.45%であった(第34表)。

第34表 元素マッピングに基づく特徴的な部分の半定量分析結果 (mass%)

分析No.	種類	直	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>	PbO	Total	
1	漆喰片	a	-	-	-	-	-	99.93	-	-	-	-	0.07	-	-	-	100.00	
		b	-	-	-	-	-	99.71	-	-	-	0.17	-	0.12	-	-	100.00	
		c	-	13.49	78.49	-	2.98	3.02	0.22	-	-	1.75	-	0.04	-	-	99.99	
		d	-	-	-	-	-	99.88	-	-	-	-	-	0.12	-	-	100.00	
		e	-	-	-	-	-	99.95	-	-	-	-	-	0.05	-	-	100.00	
2	路盤材	a	-	29.99	51.23	-	-	17.49	0.09	-	-	1.08	-	0.13	-	-	100.01	
		b	13.53	4.17	53.00	-	-	18.84	0.80	0.23	0.19	9.23	-	-	-	-	99.99	
		c	-	13.12	76.90	-	2.84	2.77	0.42	-	-	3.80	0.02	0.04	-	0.08	99.99	
		d	-	16.07	74.25	-	2.30	4.45	0.19	-	0.09	2.61	-	0.05	-	-	100.01	
		e	-	17.14	68.97	-	1.29	5.44	0.47	-	0.18	6.38	-	0.05	-	0.07	99.99	
3	路盤材	a	-	21.28	42.21	-	-	22.61	0.09	-	0.42	13.29	-	0.10	-	-	-	100.00
		b	-	21.25	61.92	-	0.99	2.89	0.97	-	0.38	11.03	-	0.03	0.02	0.52	100.00	
		c	-	18.91	64.22	-	1.02	8.79	0.95	-	0.17	5.35	-	0.07	-	0.51	99.99	
		d	-	20.42	51.65	3.73	0.51	12.44	0.95	-	0.18	9.39	-	0.12	0.07	0.53	99.99	
		e	-	12.30	82.44	-	4.07	0.18	0.06	-	-	0.78	0.02	-	0.02	0.13	100.00	
4	漆喰片	a	-	24.15	65.67	-	0.28	9.56	-	-	-	0.22	-	0.12	-	-	100.00	
		b	-	27.20	60.71	-	1.44	8.43	0.36	-	-	1.80	-	0.07	-	-	100.01	
		c	-	20.33	62.77	-	3.39	1.62	1.15	-	0.22	10.45	-	-	0.07	-	100.00	
		d	-	26.85	61.16	-	6.93	0.41	0.52	-	0.05	4.03	-	-	0.06	-	100.01	
		e	-	13.61	77.29	-	8.57	0.26	0.15	-	-	0.11	0.02	-	-	-	100.01	

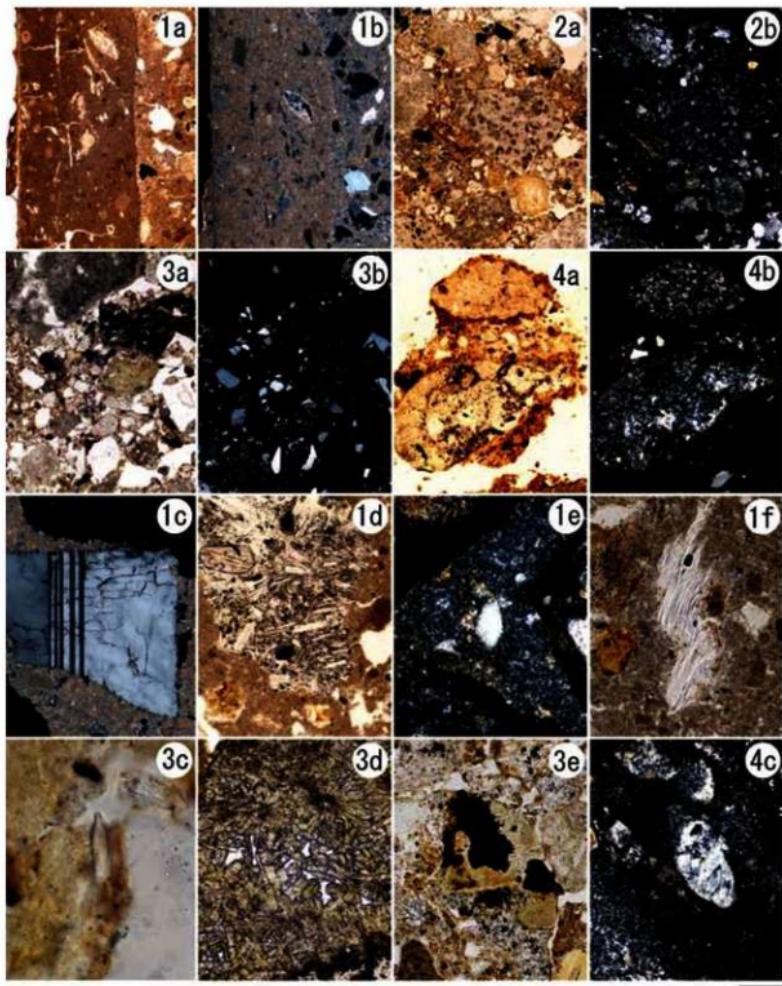
#### 4. 考察

薄片の偏光顕微鏡観察および切断面の元素マッピング分析を行った。

分析No. 1の漆喰片は、厚さ1mmの高純度の石灰層からなる表面層(1層)、砂礫を含み石灰基質からなる中間層(2層)、厚さ3~4mmの高純度の石灰層(3層)の3層構造からなる(第128図-1a~1f)。1層および3層は、カルシウムが99%以上の高純度層からなることから、壁に塗られた漆喰と考えられる。

分析No. 2およびNo. 3の路盤材について、元素マッピングでカルシウムの輝度の高い部分を薄片で観察すると、緑れん石( $\text{Ca}_2(\text{AlFe}^{3+})_3\text{Si}_3\text{O}_{10}(\text{OH})$ )やCaを含む普通角閃石等の鉱物である(第129図-3d,3e)。したがって、路盤材には、漆喰は混ぜられておらず、砂粒分として主にカルシウムを含む鉱物が見られた。

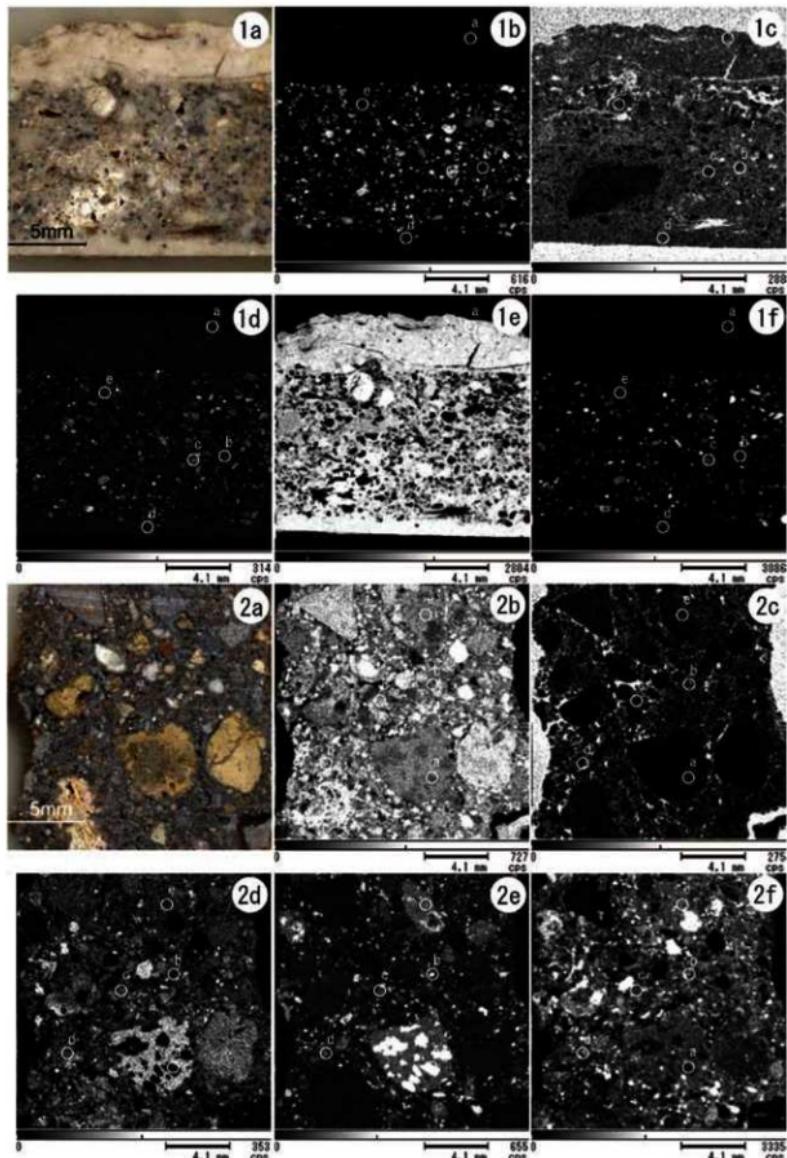
分析No. 4の漆喰片とされたものは、白色塊が多く含まれていたが、いずれも風化した流紋岩の岩片と考えられる。



(スケール : 1a-4b:500 μm, 1c, 1f, 3e:100 μm, 1d-1e, 3d, 4c:200 μm, 3c:20 μm.)

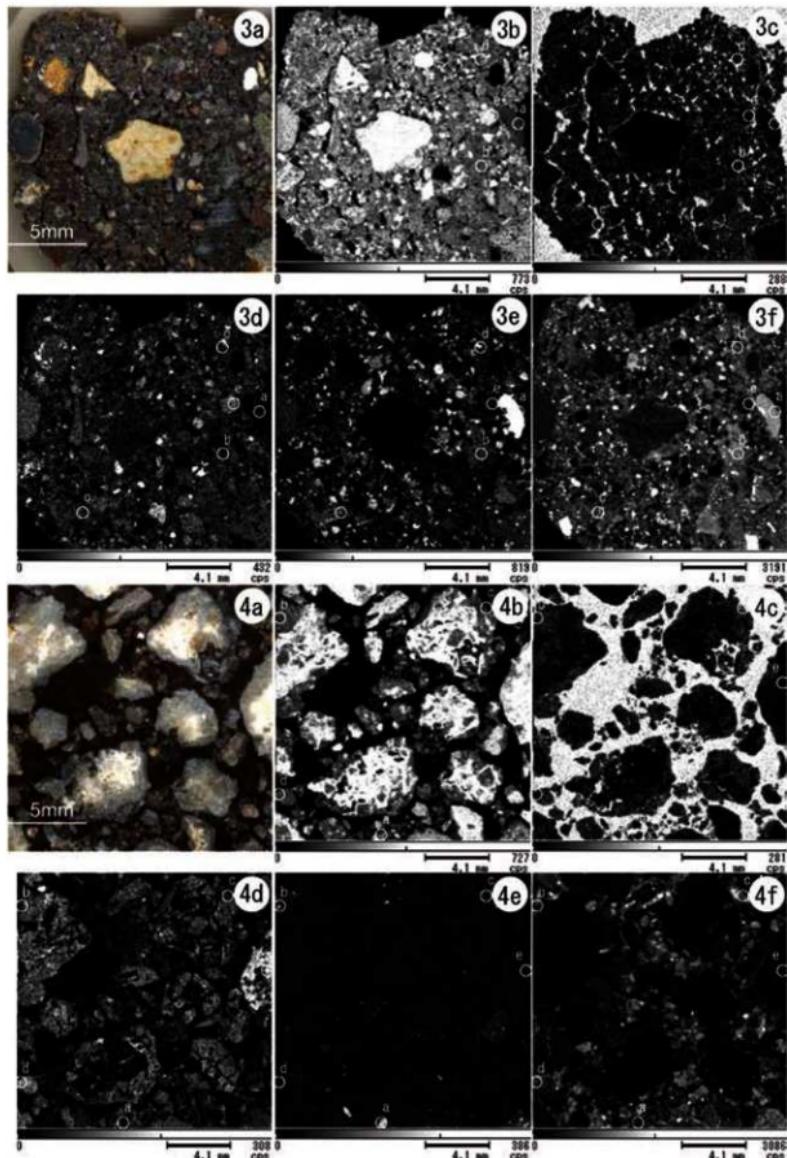
- 1a. 試料No1 (解放ニコ) 1b. 試料No1 (直交ニコ) 2a. 試料No2 (解放ニコ) 2b. 試料No2 (直交ニコ)  
 3a. 試料No3 (解放ニコ) 3b. 試料No3 (直交ニコ) 4a. 試料No4 (解放ニコ) 4b. 試料No4 (直交ニコ)  
 1c. 斜長石 (双晶) 1d. 斑晶質 1e. 流紋岩質 1f. ガラス質  
 3c. 珪藻化石 (陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*) 3d. 緑れん石 3e. 角閃石 4c. 流紋岩質

第127図 漆喰片・路盤材中の粒子の偏光顕微鏡写真



a. 試料 b. ケイ素 (Si) c. 硫黄 (S) d. カリウム (K) e. カルシウム (Ca) f. 鉄 (Fe)

第128図 包埋試料の元素マッピング図1 (番号は分析No.に対応)



a. 試料 b. ケイ素 (Si) c. 硫黄 (S) d. カリウム (K) e. カルシウム (Ca) f. 鉄 (Fe)

第129図 包埋試料の元素マッピング図2 (番号は分析No.に対応)

## 第7章 総括

### 第1節 二ノ門の変遷

本調査では、石組枡・石組暗渠といった二ノ門の地下構造に関する遺構を検出し、検出した礎石根固めや続檜台石垣南面に残る加工痕跡から二ノ門の平面規模に関する情報が得られた。これらは橋爪門復元整備にあたって発掘調査中から検討を進め、その根拠となったものである。報告にあたりそれらをまとめ、掲載するものである。ここでは二ノ門の平面規模を中心に復元を行い、寛永創建期から文化期にかけて二ノ門がどのように変遷していくかみた。

橋爪門二ノ門については、「金沢御城櫓等之図 橋爪御門唐舗図」(以下「唐舗図」)、「橋爪ニ之御門下舗石武拾分一之図」(以下「舗石図」)の2枚の平面図の他、「橋爪御門等御絵図 橋爪ニ之御門図」(以下「御門図」)等の立面図が残されており、記された寸法等を参照した。

#### 二ノ門の寸法 [第130図・第35表]

検出した遺構や石垣痕跡から、各時期の二ノ門の柱間寸法等の推定を行った。

北脇柱通りの石垣面からの距離は、文化期・寛永期はそれぞれの時期の石垣面を基準としたが、宝暦期に関しては、確認した敷石痕跡は天明期の石垣修築後と推定され、宝曆大火後の二ノ門再建時は寛永期の石垣であったと考えられるため、寛永期の石垣面を基準としている。柱通りは先の2枚の絵図の通り石垣に平行するものと考えている。脇柱列の中心ラインは3時期とも文化・寛永期の根固めの礎が良好に確認された中央大柱を基準としている。宝暦期は礎集中が確認できず掘方から求めたが、南側が大きく削平を受けており、南北幅を東西幅から復元し、その中心ラインを求めた。

文化期は第4章第2節で述べた通り、背面大柱、中央大柱とも礎集中や、根固め中心に入れられる黄褐色粘土の残りが良く、北脇柱・添柱は遺構の残りは悪いものの石垣面に残る整切から中心ラインは判明している。第35表の通り背面大柱・中央大柱が $361\text{cm} \cdot 11.9\text{尺}$ (11.914尺)、中央大柱 - 北脇柱が $318\text{cm} \cdot 10.5\text{尺}$ (10.495尺)となった。

寛永期は中央大柱礎石根固め礎集中の残りは良いものの、背面大柱、北脇柱は残りが悪く、比較的残りの良い北鏡柱の礎石根固めから中心を求め、鏡柱列のセンターーラインを復元し、北脇柱列、鏡柱列の交点を北脇柱の中心とした。背面大柱については残っている部分の半分を礎石根固めの南北のセンターーラインとし、中央大柱から求めた脇柱列との交点を中心として計測した。背面大柱 - 中央大柱は文化期と同じく $316\text{cm} \cdot 11.9\text{尺}$ 、中央大柱 - 北脇柱は $258\text{cm} \cdot 8.5\text{尺}$ (8.516尺)となった。

宝暦期はいずれも文化期の礎石根固めと大きく重なっており、中心点を求めることが難しい。背面大柱は脇柱列センターーラインから遺構北端までの距離を遺構西端からあてはめ、南北のセンターーラインとして中心を求めた。中央大柱は一応東西方向が遺構で推定できるのでそれと脇柱ラインの交点を中心として求めた。脇柱については、文化期の根固めの検出したプランは検出面が傾斜しているためか整切ラインから右側が狭くなってしまっており、整切ラインから文化期の遺構の西端までの距離を2倍し、これを文化期の掘方東端と考え、宝暦期の遺構は、最大これを超えないものとして復元し、この半分の距離を南北ラインとして脇柱列ラインとの交点を中心とした。これらから計測すると背面大柱 - 中央大柱は $365\text{cm} \cdot 12.046\text{尺}$ 、中央大柱 - 北脇柱は、 $344\text{cm} \cdot 11.353\text{尺}$ となる。しかしながら、文化・寛永期とも背面大柱 - 中央大柱が $11.9\text{尺}$ であること、中央大柱 - 北脇柱がそれぞれ $10.5\text{尺}$ と、 $8.5\text{尺}$ と $0.5\text{尺}$ を限とし、宝暦期根固めが全体の形状をうかがえないこと、根固め礎の抜き取りで遺構の形状が変形を受けている可能性を持つことから、背面大柱 - 中央大柱を $11.9\text{尺}$ 、中央大

柱 - 北脇柱を11.5尺と推定した。北鏡柱・北脇柱間の寸法は、北鏡柱が大きく削平を受けており、中心の推定が不可能なためもとめていない。

計測値を一覧表にまとめたのが第35表である。同時に絵図に描かれる寸法も記載した。寸法が記されている「唐舎図」はその数値を記載した。しかし石垣面から北脇柱通までの長さは記されておらず、また、絵図から計測した寸法と記されている寸法に違いがあり誤記ともみられるため、「唐舎図」と整合性が高く、かつ誤差も少ない「御門図」で計測を行った。「舎石図」は寸法が記されていないため、絵図から計測した数値を記載した。なお、北脇柱 - 正面葛石端、背面大柱 - 背面葛石端については、文化期は正面葛石痕跡、背面葛石痕跡と石組構東端から計測可能であった。宝暦期は、正面葛石痕跡は確認されず、背面葛石痕跡も厳密な位置を特定できないが、加工痕の西端を葛石端として計測した。多少の差はあるものの、文化期の遺構は「唐舎図」の要素を含みつつも比較的「舎石図」に近いことが見え、宝暦期の遺構は「唐舎図」と調和的である。

## 二ノ門の復元 [第131図]

検出した遺構や出土遺物、石垣痕跡や絵図等を参考に復元を試みた。平面図上で復元を行い、それをもとに下記の項で立面図上での復元を行っている。

礎石の位置は遺構から推定した数値を基に配置した。礎石の大きさは、石垣面の整切と礎石のあたり痕から、添柱礎石の東西辺は72cm以上と推測されている。「唐舎図」には脇柱礎石の東西幅が2.45尺(74cm)と記され、調査所見と調和的である。礎石の大きさは、宝暦期は「唐舎図」、文化期は「舎石図」、寛永期は「唐舎図」の寸法を採用した。また、「舎石図」には、「御柱下石場面高寸三分上ル」とあり、敷石上面から礎石上面までの高さを4cmとして復元した。遺構から推定できなかった北鏡柱・北脇柱間の寸法は、「唐舎図」の寸法を採用した。脇柱・添柱の礎石は、復元したものを配置した結果、文化期・宝暦期は1石となり、寛永期は石垣面との間が大きく開くため2石として復元している。

葛石は、石垣面にみられる葛石痕跡が、下端で東西幅約34cm、敷石上面の痕跡から深さが18.2cmであることから、幅34cm、厚さ18.2cmとして復元した。なお、宝暦期正面葛石の位置は、「唐舎図」の「柱間ヨリカツラ石面迄七尺八寸但前後共同断」という記述を基に、背面大柱から葛石までの長さと同じ幅で正面葛石を配置した。

敷石の厚さは、敷石の可能性のある4点の石製品(第123・124図S27~29)から、最大値を測るS29を参考に16cmとして復元した。敷石面の標高は文化期が続檜台石垣面の痕跡から44.83mと推測されるが、宝暦期は背面葛石痕跡が文化期の背面葛石痕と同じ高さにあることから、文化期と同等の高さとして復元した。寛永期は地表面の痕跡から44.66mとして復元した。

柱については、石垣面の整切と添柱の被熱痕跡から、添柱の東西辺は約40cmと推測されている。「御門図」の添柱の東西辺の計測値約39cmとも整合することから、柱の東西辺を40cmとして復元した。ちなみに、河北門二ノ門の脇柱・添柱の礎石(P005)上面には柱の周囲を巻いていた金具痕跡の銷が確認されており、そこから東西辺の長さは約39cmと推測されている。

## 二ノ門の変遷 [第131図]

平面図上で復元した二ノ門を基に、東西柱列・枠・暗渠のエレベーション図で立面の復元を行い、二ノ門の位置や規模の比較を行った。東西柱列エレベーションは文化期・宝暦期は第46図2011-4、寛永期は第46図2011-5を合成した。暗渠・枠エレベーションは第50図2012-12-1を合成したが、石垣面に対して斜の図面を、枠を基準としてそのまま合成しているため、西側が若干長くなっている。

復元立面図を検出したままの位置で並べることで、位置の比較を行った。文化期と宝暦期では正面側の正面葛石・鏡柱通りの位置はほぼ同じであるが、中央大柱・背面大柱・背面葛石は、文化期が宝

暦期の東側に位置している。検出した遺構からは文化期の二ノ門は全体に東へ移動して再建されたようみえたが、正面側の位置は宝暦期をほぼ踏襲しつつも、中央大柱・北脇柱間を詰め縮小して再建されたことがわかる。寛永期は全く位置を異にしている。

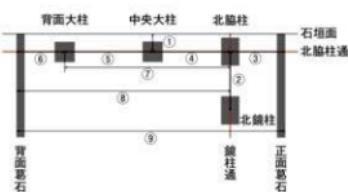
3時期を通して中央大柱・背面大柱間の寸法が同じであることから、両柱を基準として並べてみると、北脇柱・中央大柱間の寸法は、寛永期が最も短く、宝暦期が最も長い。背面大柱・背面葛石間の寸法も文化期より宝暦期の方が長いが、文化再建に際し柱間サイズが1尺短くなっているに対し、葛石間の間隔はそれ以上に縮まっている。柱列から葛石の距離を見る「唐敷図」では正面、背面とも同じ距離であるが、文化再建では正面側が10cm程短くなっているに対し、背面側が38cm短くなり、結果として文化期では27cm正面の方が長くなっている。このことは、木蓋付溝が雨落ちを受ける溝であるとすれば、文化期の橋爪門は柱列から軒先での距離が宝暦期のそれに比べ短くなると共に、前後で異なっていたことを示している。これらは、建物本体に関することであり、発掘調査からはこれ以上求めることはかなわない。

葛石間の距離と背面大柱 - 北脇柱間の距離に対する比率は、宝暦期で0.6、文化期で0.616である。これを基に寛永期の葛石間の距離を求める33.1尺～34尺(10.03m～10.3m)となるが、石垣面から葛石を特定することはできなかった。

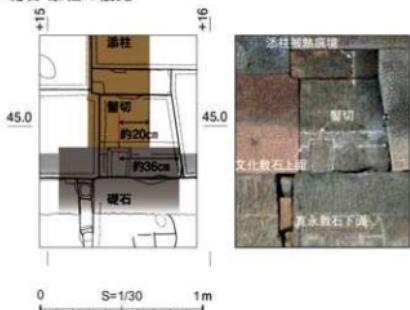
第35表 二ノ門の寸法

		発掘所見						唐舎図		鋪石図	
		寛永創建期		宝暦再建期		文化再建期		(宝暦再建期)		(文化再建期)	
		cm	尺	cm	尺	cm	尺	cm	尺	cm	尺
①	北脇柱通 - 石垣	115	3.80	70	2.31	73	2.40	70	2.31	73	2.40
②	北脇柱真 - 北脇柱真									242	8.00
③	正面葛石端 - 北脇柱真					225	7.43	236	7.80	227	7.50
④	北脇柱真 - 中央大柱真	258	8.50	348	11.50	318	10.50	348	11.50	351	11.60
⑤	中央大柱真 - 背面大柱真	361	11.90	361	11.90	361	11.90	361	11.90	355	11.70
⑥	背面大柱真 - 背面葛石端			236	7.80	198	6.53	236	7.80	203	6.70
⑦	北脇柱真 - 背面大柱真	618	20.40	709	23.40	679	22.40	709	23.40	706	23.30
⑧	北脇柱真 - 背面葛石端			945	31.20	877	28.93	945	31.20	909	30.00
⑨	正面葛石端 - 背面葛石端					1102	36.36	1182	39.00	1136	37.50

二ノ門寸法計測位置

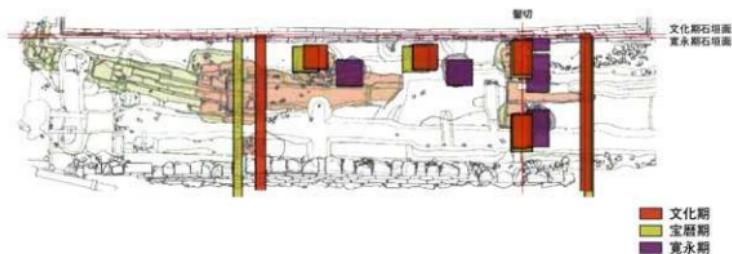


礎石・添柱の復元

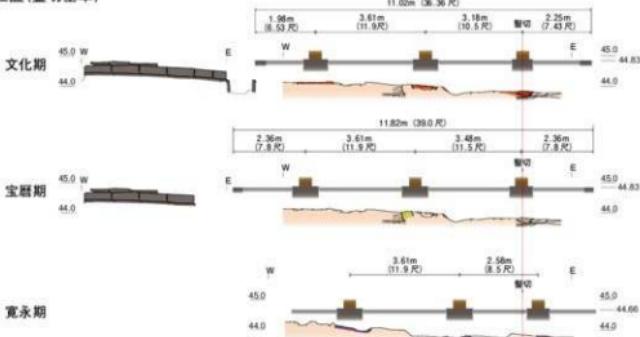


第130図 二ノ門の寸法

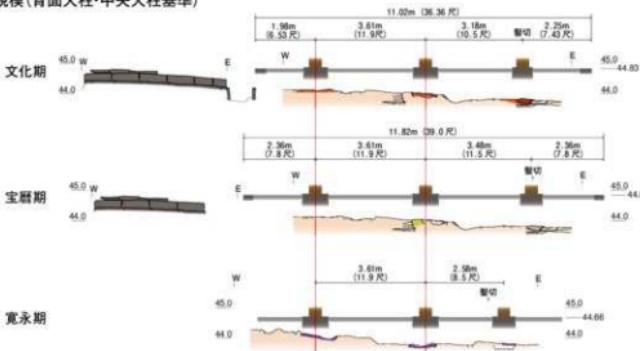
## 二ノ門の復元



## 二ノ門の位置(壁切基準)



## 二ノ門の規模(背面大柱・中央大柱基準)



0 S=1/160 5m

第131図 二ノ門の復元・変遷 (S=1/160)

## 第2節 石組暗渠・枠の構築過程

検出した遺構や続檜台石垣に残された痕跡から、石組暗渠・枠の構築順序および構造を復元し、「御造営方日並記」に記された橋爪門再建記録との対応関係の検討を行うことで、文化期の二ノ門の再建がどのように行われ、その中で石組暗渠・枠がどのように構築されていったか検討した。検討に際しては『金沢城跡－河北門－』[石川県金沢城調査研究所 2011b]（以下『河北門』）の類例も参考にした。

### 石組暗渠・枠関連遺構 [第132図]

本調査では、二ノ丸火災以後の二ノ門再建に関連する遺構を検出しており、とりわけ石組暗渠や枠の構築に関する遺構を多く確認した。①整地（整形）、②宝暦暗渠・枠の抜き取り痕（SD03・SK05）、③整地（旧地表面造成）、④礎石設置（PO4等）、⑤耕掘方（古）（SK04）、⑥暗渠（宝暦延長部）の改修痕（SK03）、⑦土留め板の抜き取り（SX03・SK02）、⑧暗渠（二ノ門内）の掘方（SD02）、⑨木蓋付溝掘方（SX02）を確認しており、先後関係は上記のように推定される。続檜台石垣の修築は②と③の間で、二ノ門本体の建て上げは④と⑤の間に行われたと考えられる。

②及び④～⑨の遺構については第4章第2節で述べたが、①及び③については第4章第1節で簡単に触れたのみであるため、詳細について記述する。

①の整地（整形）については、近代石垣北壁（第56図2012-7-3）等から、二ノ門構築以前に宝暦整地面の整形が行われていることがうがえる。整形面は近代の通用門付近では標高44.78mであるが、木蓋付溝・葛石付近で標高44.5mであり、その間が段状に整形される。段状に整形されている面は宝暦暗渠の蓋板の高さに相当し、標高44.5mは寛永期の敷石下面の高さに当たる。整形面は文化期の続檜台石垣修築面と比べて低くなっていることから、続檜台石垣修築の前に整形され、同時に宝暦期の敷石・木蓋付溝・葛石等を撤去したと推測されることから、最初に行われたと考えた。二ノ門東側では、同章第3節で述べたように続檜台石垣面に残る地表面痕跡からこちらも整形されている可能性が高い。ただ、二ノ門内は敷石面が水平であることから、東端を除いては標高44.5mからさほど低くなっていないと思われる。

③の整地（旧地表面造成）については、トレーナー1（第52図2010-6）や水道管（2）・（3）掘方南壁（第58図2011-8-9）から確認される。また、近代石垣北壁（第56図2012-7-3）から、整地後に木蓋付溝・葛石が設置されていることから、石垣修築終了後、石組暗渠や枠構築以前に整地されたと考えられる。整地面の高さは、トレーナー1付近では削平後少なくとも44.8m以上（第52図2010-6：35層上面）まで盛土されていることが確認され、同じ地点の続檜台石垣南面の旧地表面の痕跡は45m程度であり、天明葛石痕跡付近より西側はこの高さまで盛土されたと推測される。同様に二ノ門東側は二ノ門東端の地表面痕跡が44.6m強であり、推定文化期敷石下面の高さとはほぼ同じであることから、二ノ門内はこれくらいの高さに盛土・整形されたと思われる。これより先は44.3m付近に旧地表面痕跡があり、段差を持っていた可能性がある。

### 石組暗渠・枠、木蓋付溝の構造の復元 [第132図]

石組暗渠・枠、木蓋付溝がどのような構造をしていたのか、検出した枠下段と続檜台石垣の背面葛石痕跡、近代石垣北壁（第56図2012-7-3）、水道管（2）・（3）南壁（第58図2011-8-9）にみられる木蓋付溝の痕跡から復元を試みた。葛石の位置と大きさは第1節の二ノ門復元図（第131図）に準じた。枠側板の高さ・木蓋の厚さは、出土した都材から推測された下段39.2cm、中段32.4cm、上段28.6cm、木蓋3cmを用い、板石の厚さは一律8cmとして復元した。

二ノ門背面葛石と枠の位置関係は、絵図から枠東側板東面に接していたと思われる。続檜台石垣の

葛石痕跡と検出した枠下段の位置を平面図上であたると、ほぼ同じラインとなる。

木蓋付溝と枠の位置関係は、近代石垣北壁や水道管(2)・(3)掘方南壁で検出した木蓋付溝の側板抜き取りとみられる痕跡と枠の位置関係から確認した。木蓋付溝西側板の抜き取り痕については近代石垣背面に押え石が遺存しており、木蓋付溝西側板の西端が特定できる。木蓋付溝東側板の抜き取りとみられる痕跡については、第4章第2節で述べた通り、変形を受けており厳密な位置は特定できない。抜き取り痕の上幅からあたると、枠東側板の西端から最大28cm程の範囲となる。この範囲であると木蓋付溝は検出した枠の外側となるが、先の葛石とは矛盾を生じることとなる。積極的の外側にあたったとする根拠もないことから、木蓋付溝東側板は枠東側板の延長線上に並び、背面葛石西端と接していたと推定される。以上のことから、木蓋付溝底板の幅は21cm程度と推測される。河北門の例から側板以東の抜き取り痕には押え石が据えられていたと推測される。

また、河北門二ノ門で検出された石組溝(SD002)は押え石上に縁石を置く構造であり、橋爪門でも木蓋付溝西側の押え石上に縁石が存在したものと思われる。天保5~9年(1833~1838)の姿を描く「金沢御城内外御建物図」では、河北門二ノ門背面の枠の周囲に縁石が廻って描かれている(『河北北門』第4図)。関連する遺構は確認できなかったが、橋爪門でも宝曆大火以前の絵図には類似したものがあり、周囲の縁石を復元した。

以上のように推測したが、橋爪門での検出は、枠が上部を欠き、木蓋付溝は部分的な検出にとどまつており、可能性の一つとして復元を行った。

#### 文献史料にみられる橋爪門の再建 [第132図]

「御造當方日並記」(以下「日並記」)・「政隣記」等には、文化5年(1808)の二ノ丸火災や、焼失した二ノ丸御殿・五十間長屋・橋爪門等の再建について記されている。本章第3節で少し触れているが、その中で橋爪門に関する出来事を、礎石や敷石に関連する記事を中心に抜き出して年表を作成した。ただ一ノ門に関する記載がほとんどなく、「日並記」に最初に登場する橋爪門の記述が、枠形石垣に関するものであり、「橋爪一ノ門御門台並御櫓台御石垣積直指圖絵図」から一ノ門御門台が文化5年6月から11月頃に修築されていることから、一ノ門が先行して建てられた可能性が高いと考えられ、記述は二ノ門に関わるものと解釈している。

橋爪門再建は、文化5年1月15日の二ノ丸火災後、同5年2月7日に火災の後片付けが終了し、4月13日に二ノ丸御殿造営の主附が任命されスタートする(『政隣記』)。その後、「橋爪一御門台並御櫓台御石垣積直指圖絵図」によると、同年6月頃から11月頃に、橋爪門続櫓台石垣の修築が橋爪門の再建に先行して行われていることがわかる。「日並記」の文化6年2月26日条に上棟式の棟札の寸法や記載内容が記され、文化5年11月に橋爪門の再建が着手された記述がみられる。その他、文化6年2月11日に建上げ、24日には「日並記」に「今般御棟札、御屋形分与橋爪門与一集ニ御規式アリ、」とあり二ノ丸御殿と同じく上棟式が行われたとおもわれる。

「日並記」には礎石や敷石、石組暗渠等に使用したとみられる鷹巣(鷹栖)石に関する記述がみられる。詳細にみていくと、建上げ以前に礎石に関する記載があり、上棟式後の文化6年2月28日条に橋爪門内の敷石の一部を用意する記述がみられる。その後は4月以降に敷石や石組暗渠に関する記述が多くあり、とりわけ、5月4日条に「御土藏腰石、橋爪御門下樋蓋臥渡、(略)」(1貫222匁9分6厘)、「鷹巣石砂溜箱三口代、(略)」(71匁)と、石組暗渠や枠部材の支払い額が記されていることから、石組暗渠や枠が埋設されたのは5月頃のことと推測される。その後7月11日条に、4月26日に橋爪門下の敷石を3月16日から8月まで戸室山から運んだ場合に必要な日用人数の見積りに対する支払いについての記述がみられることから、敷石の敷設は遅くとも文化6年7月頃までに完了していたと推測される。

上屋の建設開始から暗渠・枠の構築まで間がみられるが、暗渠や枠等の地下構造は、上屋建設と同時並行では作業が困難であり、上屋がある程度完成した後に着手したと推測される。建上げから上棟式後のしばらくは、敷石等の準備をしつつも二ノ門の上屋を中心とした建設が行われ、建設に係る足場が外れた段階後に暗渠や枠等地下構造を構築し、最終的に敷石等地表面の整備が行われ完成したと考えられる。

#### 二ノ門の再建過程と石組暗渠・枠の構築過程の復元 [第133図]

文献史料から、続檜台石垣の修築→二ノ門の用材加工→上棟式→上屋建設→石組暗渠・枠の構築→敷石の敷設という順で二ノ門が再建されたと推定した。検出した遺構の時期は、続檜台石垣の修築前(①・②)、修築後(③)、上屋建て上げ以前(④)、上屋完成後(⑤～⑨)と推測されることから、続檜台石垣修築後の整地までをⅠ段階、整地から礎石設置をⅡ段階、二ノ門建上げから上屋の建設を中心となる時期をⅢ段階、上屋完成後をⅣ段階として、模式図で暗渠・枠の構築過程の復元を行った。

#### Ⅰ段階（文化5年4月13日～6月頃）

二ノ丸火災後、二ノ門の再建に先行する続檜台石垣の修築段階である。少なくとも二ノ丸御殿造営の主附が任命された4月13日以降と推測される。

続檜台石垣修築に係る整形(①)と同時に宝曆期の敷石や暗渠・枠等の構造物が撤去(②)される。礎石もこの時撤去されていると思われる。枠や暗渠は撤去後埋め戻されたと考えられるが、その際、暗渠開口部には土留板を当て、暗渠内への土砂の浸入を防いでいたと推測される(Ⅰ-a)。その後続檜台石垣が修築され、二ノ門建上げのため整地が行われる(Ⅰ-b)。

#### Ⅱ段階（文化5年11月～文化6年2月11日）

二ノ門の礎石を設置する段階である。1月22日に橋爪門の往来を禁止し、2月11日の建上げまでの間に礎石を設置(④)していると考えられる。

#### Ⅲ段階（文化6年2月11日～4月頃）

二ノ門建て上げ開始後、上屋を中心とした建設が行われる段階である。どの程度期間を要としたかは文献史料からは判然としないが、5月4日に暗渠蓋石臥渡の支払いに関する記事があることから、4月頃にはある程度完成していたと推測される。

#### Ⅳ段階（文化6年4月頃～7月頃）

上屋完成後、暗渠や枠・木蓋付溝等を構築し(⑤～⑨)、二ノ門が完成するまでの段階である。前述のように上棟式後は暗渠や敷石敷設のための準備をしつつ上屋の建設が行われ、足場撤去後、暗渠・枠の構築が行われたと考えられる。先にみたよう、5月頃までに石組暗渠や枠が埋設され、7月頃までは敷石の敷設が完了したと推測される。工程を遺構の構築順に7段階に分けて模式図を作成した。

**Ⅳ-a 枕掘方 (SK04)** を掘削し(⑤)、枠下段を設置する段階である。この付近の整地高さは、44.5m以上であり掘方の深さは80cm程度と想定される。枠北側がやや広くここに人が降りて作業したものと思われる。設置後は、枠下段の上端近くまで埋め戻し、枠中段の高さを超える程度の土留板を枠外側にあって、少なくとも、文化暗渠改修検査出面高さ(44.4m)までは埋め戻している。

**Ⅳ-b** 第4章第2節で改修部とした二ノ丸側暗渠の掘方 (SK03) を掘削し(⑥)、暗渠を延長して設置する段階である。掘方の深さは枠下段上端より深く、検査出面の標高が44.15mであることから50cmと想定される。暗渠設置後、枠中段を設置し、掘方を埋戻したと思われる。

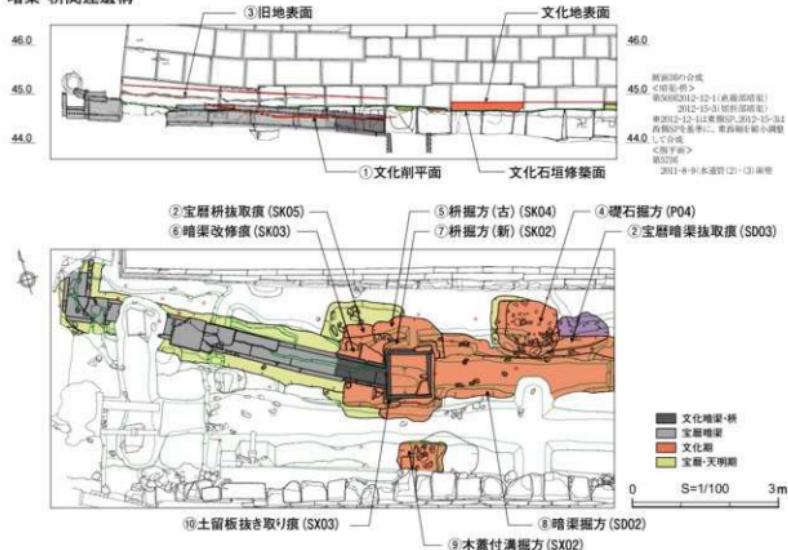
**IV-c** 桁周辺を再掘削（SK02）し（⑦）、土留め板を外す段階である。SK02は南北方向が長くなっていることから土留め板は桁東・西側板に沿うように長めの板を置き、間に桁南・北側板に沿って短い板入れ倒れこむのを防いでいたものと思われる。SX03は土留め板の抜き取り跡である。土留め板は上段まで覆う高さとも想定したが、上段まで覆うと 1 cm（厚さ）× 60cm（高さ）以上 × 100cm（幅）程となり、上段まで埋め戻した段階での抜き取りは困難と思われ、土留の板の高さは 1 段程度と想定される。IV-b段階の埋め戻しも中段程度と思われる。土留め板取り外し後、SK02は埋め戻される。

**IV-d** 二ノ門内の暗渠掘方（SD02）を掘削し（⑧）、二ノ門内の暗渠を設置する段階である。暗渠掘方SD02はSK02・SX03より新しく、暗渠はまず二ノ丸側の延長部と枠を先に作り始め、二ノ門下は枠中段設置後に設置されたことがわかる。少なくとも二ノ丸正面側まで暗渠は敷設したと思われる。

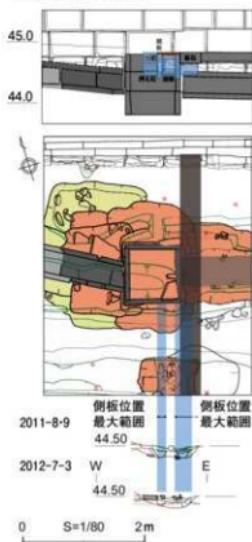
**IV-e** 木蓋付溝および押え石の掘方（SX02）を掘削し（⑨）、木蓋付溝と木蓋付溝に接続する枠上段を設置する段階である。背面葛石もこの時設置し、枠縁石も存在したとするなら、この段階で設置されたと推測される。縁石、葛石設置後は、二ノ門西側は後の路面構築分の高さを残した高さまで縁石は埋め戻され、葛石側は押え石が埋まる程度まで埋め戻されたと思われる。

**IV-f** 敷石敷設の段階である。敷設面の高さを調整しながら敷石を敷設し、敷石敷設完了後に正面側葛石が置かれたと思われる。その後、二ノ門東側の暗渠、木蓋付溝等が敷設となったと推定されるが、確証はない。また、二ノ門西側は路面を整備していると思われるが、最終の仕上げであり、間隙が生じていると思われる。

### 暗渠・橋関連遺構



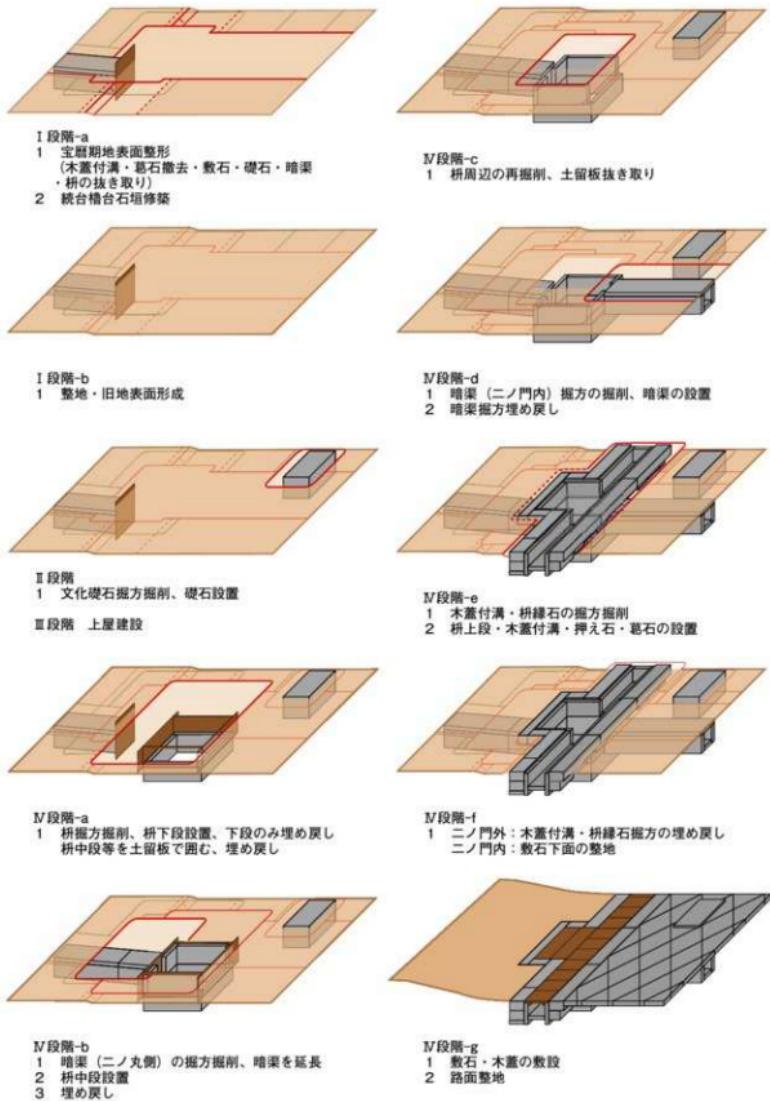
### 暗渠・橋構造の復元



### 橋爪門関連年表

文化5年(1808)	
1月15日	二ノ丸火災
2月7日	火災の片付け終了「政憲記」
4月13日	二ノ丸御殿造営の主附任命「政憲記」
6月頃～11月頃	橋爪門純檜台石垣修築 「橋爪一御門台並御檜台御石垣積直指図絵図」
11月	橋爪門再建着手「日並記」 (2月26日条「文化五年十一月始執斧」)
文化6年(1809)	
1月11日	「橋爪御門惣(礎)盤天はね脇切直段開届」(略) 「日並記」
1月12日	橋爪門上縫建設工取り掛かる「日並記」
1月22日	橋爪門通行止め「日並記」(1月20日条)
1月23日	「橋爪二御門惣(礎)盤天平均根石承届」(略) 「日並記」
2月4日	「橋爪御門内柱桟盤取替ニ付」(略) 「日並記」
2月11日	橋爪門建上日並記」
2月24日	上棟式「日並記」
2月28日	橋爪門の敷石の内、大小とりまぜ90枚用立てる「日並記」
4月26日	橋爪門下敷石、3月16日～8月までに戸室山から城中まで届ける日用入数の見積り(7月11日条)
5月4日	「御土藏腰石、橋爪御門下橋蓋附渡共、(略)、本勘」 「日並記」
6月4日	「橋爪二ノ御門下敷石、(略)、本勘」「日並記」
7月11日	4月26日記載事項の支払いについて「日並記」

第132図 暗渠・橋構築過程の復元



第133図 暗渠・橋構築過程模式図

### 第3節 絵図・文献にみる橋爪門改修履歴

平成22～24年度に実施した橋爪門確認調査では、橋爪門創建以前から現代までの遺構が確認されているが、本節では文献・絵図等の記録資料から、橋爪門創建から明治期に廃絶されるまでの修築記録について述べていくことにしたい。

#### 1. 橋爪門の創建

橋爪門は、金沢城の三ノ丸から二ノ丸御殿に至るルートに位置し、藩政期には「二ノ丸の正面」（『金沢古蹟志』）として城内のなかでも重要な門の一つであった。門は一ノ門に続いて、石垣の上に築かれた土塀に開まれた枠形を90°右に折れて二ノ門、再び90°右に折れ雁木坂を登り御殿へと至る構造となっている。藩主は江戸からの帰城にはこの門を通り御殿へ、江戸への出発もこの門を通過した。

この門の礎矢については不明なところも多い。おそらく御殿が本丸から二ノ丸へと移った寛永9年（1632）頃に創建されたものとされている。元和頃の景観を描くとされる主圖合結記系の『加州金沢之城図』（東京大学総合図書館南葵文庫蔵等）等をみると本丸の北側、二ノ丸と三之丸境に簡易な門がみえ、二ノ丸・三之丸境に位置する門という意味では原橋爪門とでも言えるかもしれない。もし、その前身に相当する門が存在するとすれば、二ノ丸御殿の誕生によって橋爪門の重要性はますます高まったと言ふべきであろう。

寛永創建時の具体的な状況については明らかではない。少し時代は下るが、万治から延宝4年の間の景観を描くとされる滋賀県安土考古博物館蔵「金沢城図絵図」では一ノ門、二ノ門を備えている門を描いており、絵図で見る限り橋爪門の形状は寛永期の創建当初から基本的に変化がなかった。

#### 2. 宝暦大火と橋爪門

その後、大きな普請を伴うような修築記事は見あたらない。橋爪門をめぐり大きな修築を必要としたのは、やはり宝暦の大火灾のことであった。宝暦9年（1759）に起こった火災は、金沢城をはじめ城下の多くの焼きつくし甚大な被害をもたらした。この火災で城の大半が被災し、中枢たる二ノ丸御殿とともに橋爪門も焼失した。「加賀国金沢城図」（石川県立歴史博物館蔵）は宝暦10年に幕府に提出した修補願の添図であるが、そこには一ノ門に関して「此門焼失」、二ノ門については「此門焼失」、枠形を形成する塀については「瓦崩拾八軒半不残焼失」とあり、この門も周辺を含め全面的に被害を受けたことがわかる。二ノ丸御殿が早急に修築されているが、幕府の許可を得て火災から2年経った宝暦11年2月に木作り初めを行い、同年4月に柱建て、翌12年に4月に上棟と進み、12年12月に一応の竣工を迎えた。完全なものではなかったがその後も手が加えられ、かつての威容がよみがえった。橋爪門については、明確な着工時期は分からぬが、二ノ丸御殿とは同時期に着工されたと思われる。金沢市立玉川図書館加越能文庫「諸事被仰付日記」をみると、宝暦12年9月段階で門と番所が竣工したとして番人が詰めたとの記事がみえるから、二ノ丸御殿と一体的に整備されたようである。そのことは三御門のなかでも早い着手・竣工といふべきで、河北門の竣工が安永元年（1772）、石川門の完成が天明8年（1788）であることからもうかがい知ることが出来るであろう。

さて、石川門が竣工した天明8年には橋爪門統槽再建にむけて動きだしており、石川門統槽が竣工したこの年の3月に普請をはじめ、同年6月に櫓台石垣の修覆が成り11月に竣工の運びとなつた。

#### 3. 文化的焼失と再建事業

橋爪門は文化5年（1808）正月、二ノ丸御殿からの出火で再び焼失した。当時金沢町奉行を勤めていた津田政隣はその記録（加越能文庫「政隣記」）のなかで次のように記している。御殿から菱櫓

に飛び火した炎が北風に煽られてか五十間長屋を伝って橋爪門続櫓をなめつくりし、橋爪門一ノ門・二ノ門等も焼失した。すなわち、早春の強風に煽られ大火となったということであろう。津田自身は町会所で諸事指示して甚右衛門坂より城内に入ったが、土橋門内に入ったときには女性たちの生活空間である御殿の広式は一面に燃え立っている状況で、式台にも火がかかるといふ状態であった。津田が赴いた時にはすでに大火の様相を呈し、菱櫓に火がかかるといふ、消火作業を行ってはいたがすでに手の施しようはなかった。実際その場に居合わせた津田の証言は、火災のすさまじさを今に伝えており、橋爪門の焼失を見届けた生き証人の一人であった。この火災は、夜八時（午前2時頃）に鎮火したというから、8時間ほど燃え続けたことになる。

当時藩主齊広は在府中であった。二ノ丸御殿の修築は3月28日の藩主帰国を待てて行われ、造営奉行を任命して6月28日に造営に着手した。あわせて幕府に対して普請の許可願を提出している。

「加賀国金沢城絵図」（石川県立図書館蔵）は文化再建時に幕府へ提出した修補願の添図であるが、橋爪門については、一ノ門「此門焼失、二ノ門については「此門焼失左右石垣高石垣高五尺破損」とあって、これについても早急な復興が必要となつた。文化6年2月橋爪門の棟札によれば、橋爪門の斧始めは文化5年11月で、翌6年2月に棟札が作成された。一般には棟札は上棟式の際に棟木に打ち付けられるものであったから（『国史大辞典』むなふだ項）、上棟は斧始めより3箇月後のことであった。なお、この棟札によって橋爪門の普請体制をみると表36のようになる。いわば金沢城の管理統括とでもいいくべき金沢城代以下造営奉行、普請・作事の両奉行、御大工・御塗壁等が関わっていたことがわかる。

造営奉行の1人、高畠厚定の職務日記「御造営方日並記」は、文化期の二ノ丸御殿再建を語るもともと詳細な文献史料であり、橋爪門や枱形の普請が一段落した橋爪門続櫓（橋爪櫓）に取りかかっている様子がうかがえる。文化5年の記述がないので具体的に橋爪門一ノ門・二ノ門の普請がどのように進められたのかについてはわからない。しかし、文化6年正月12日条によれば、橋爪二重櫓の普請にかかわっている大工が不足しており、新たに領内から大工9名が動員されている。橋爪門の普請が急ピッチで進められた状況がわかるであろう。

#### 4. 近代の橋爪門と威容復活

文化の再建以降、橋爪門の記述は文献史料からは見えなくなる。安政2年（1855）に金沢を襲った地震でも被害はなかったようで、そのまま明治維新を迎えたものと理解している。明治2年、旧藩主前田慶寧が城を去って重臣本多資松邸に居を移すと、城内は入れ替わりに軍隊が城内を占めるようになった。

明治2年10月には藩庁が旧八家、長家の屋敷と定められ、知藩事となっていた慶寧は藩庁に出仕して政務にあたっていた。明治3年になって、櫓等追々取り壊すようにと改革項目に取り上げられる等（「陸原備忘録」「加賀藩史料」藩末篇下巻 明治3年12月条）城の建物が取り壊される基調にあり、明治4年に城地が兵部省、翌5年に陸軍省の管轄下になると城内改変の速度は増したようである。一方、城下に所在した旧八家はじめ重臣屋敷等も軍隊の屯所になる等次第に軍都への色彩を帯びるようになつていった。

この間の橋爪門の様子については明確ではないが、明治10年に橋爪門枱形、三ノ丸・鶴ノ丸との境

第36表 文化的橋爪門建築体制

職	書士名
金沢城代	前田季友（伊勢守） 村井長徳（又兵衛）
物頭並作事方御用	浅川加藤（作左衛門）
作事奉行	江口守矩（繁人） 砂浦守政（虎角）
作事奉行加入	小幡源之（左内） 長谷川一久（三郎九郎）
造営奉行	岡原政良（中務） 高畠厚定（五郎兵衛） 三浦義昌（八郎右衛門） 永原景之（七郎右衛門） 加藤泰幸（三四郎）
作事所棟目	高山功定（伊左衛門） 村田源之（瀬八郎）
造営方内作事奉行	村田源升（三郎兵衛） 金谷登高（佐夫太） 中村直孟（武左衛門） 井上信光（清左衛門） 黒谷清富（少九郎） 岡 吉清（弥左衛門）
大工頭	高橋孝平（貞右衛門） 大西政時（左丸衛門） 井上明矩（庄右衛門）
大工	山上吉順（善右衛門） 山本源之（久藏）
櫓	黒崎保之（吉大夫） 橋本元（兵之助）

第37表 「御造當方日並記」に見る橋爪門・橋爪門統槽（橋爪槽）関係記事（抄）

文化	内 容
正月各日	橋爪門升形石頭に10日より町切口を10人あて雇う。
正月11日	橋爪門整頓大はね彫きりの施設は9匁5分
正月12日	橋爪門上屋に取り掛かる。材木の持ち運びは土横裏口門
正月22日	橋爪、一重廊に掛かる工不足につき新入りを了承する。
正月17日	橋爪升形石（橋方前院、添書とともに差し出す。控えが別來する。）
正月22日	橋爪門内に出来禁止。
正月23日	長甲聖甲の役小者橋爪丁場だけが
正月23日	橋爪二門の裡方の柱頭梁約2尺355匁、二門二重廊壁方約1貫664匁、二重廊升形石頭方約1貫41目
正月23日	二ノ門整頓平均概算石門上宿石らの用いることとする。
2月3日	橋爪柱下海紙かね、白輪かね等を取扱ひを許す。
2月3日	橋爪槽をかつての通りとするか否か城代へ仰ねる。
2月4日	橋爪門内の慶應の石頭取り替えについて書類奉行に申し通わす。
2月7日	11日に橋爪一ノ門達にあけに取り掛かる。
2月7日	橋爪門日々の練り直し。
2月11日	橋爪門打ち上げ。
2月24日	上棟式を行ひ、二ノ丸廻殿分とともに橋爪門の種札を納める。
2月26日	橋爪番所繰、掃除口に差し支えるため撤去される。
2月28日	橋爪門敵石のうち六代とよりまで用意する。
3月2日	橋爪門台輪金・生海坂金飾り立てる。
3月4日	橋爪升形石し、二ノ門廻殿のところは先代も1段高い。出し窓切り方にに関する紙面到来
4月3日	橋爪一ノ門段太波瀬鉄筋扶助鋼の配置の仕方、簾への例の通りと仰せ
4月3日	橋爪門段二重廊鉄筋扶助鋼の切削、作事所からの勘定図には下から1尺3寸3分あるが、下から8寸とし、太波瀬は扶助切形勘定の通りと仰せ
4月3日	裏口門2段への仰り口、前院でもわからないので、門番所のうちから橋爪門の通り上り口つけましょうかとの例に、幕主は無い通りにまとめて仰る。
4月6日	橋爪番所及び板附の取扱いにつき、垣根を振ったところ古銭金輪4つ出でた。
4月7日	橋爪門内板附筋使御の配置作事所から到來する。
4月8日	この日付で橋爪門下石販入。3月16日から8月まで丹波守から城中まで届ける日用数（522人）を割増に報告する。（7月1日参考参照）
5月4日	橋爪門下石廻置隊を渡渉し、土藏廻石費用の書類に奥印を捺えた（費用は1237匁3分）
5月18日	橋爪番所の原樹瓦葺に取り掛かる。
6月1日	橋爪門の費用見積り（82貫365匁8分1厘）
6月4日	橋爪二門の下戸石大義木白鐵冠の敷石等の費用に造営奉行永原好之が御印を捺えた。（この中にても橋爪門下石廻置の開口料や橋爪一ノ門板附下の石頭の日用数もみえる）
6月8日	橋爪槽、五十間長筋の手当押下ノ三番所の後ろにおく。
6月9日	橋爪門段一重廊屋根板、泥鰌包手脚料47匁5分を計上
6月15日	橋爪槽給金、東・平二枚、作事奉行江守寅人が持參
6月20日	橋爪五足廻石、町の方手合わせ始まる。
6月21日	橋爪槽の延板筋の付け工賃を計上
6月22日	橋爪座木及廻置板筋に造り取り掛かる。
6月23日	橋爪番所等板47の33手脚料50貫計上
7月1日	橋爪槽等をし忍板木・石材を用いるよう城代の返事
7月2日	橋爪槽、五十間長筋の白泊大義料、大工・日用立ち入り荒らすので、長屋荒営が済むまで砂利を取り除くよう城代へ郵告
7月2日	橋爪槽胸石、柱、柱取り先まで2尺2寸（ただし石面頭より出端2尺2寸内へ取り込み、5尺8寸）。石太さは1尺1寸、高さ1尺3寸5分
7月3日	橋爪槽出立、便箋等のことで生徒後藤十郎に話す。
7月3日	橋爪槽妻工船等のことで生徒後藤十郎に話す。
7月5日	橋爪槽木石3本仕上手脚料27匁、石尾伊左衛門分計上
7月5日	橋爪槽、五十間長筋の板・糸・草縄等諸手脚料（橋塙馬・三助等あて）計上
7月6日	橋爪槽建機
7月11日	橋爪門下戸石を頼いた日用の払方にについて後藤十郎に申し通わす（4月26日参考）
8月1日	橋爪槽、五十間長筋の費用の費用1237匁3分余（左官棧梁善助あて）計上
8月5日	橋爪槽の使用の衝程3000手脚料計上
9月7日	橋爪槽、五十間長筋の空綱包手脚料計上
9月10日	橋爪槽、妻板腕木切口だし御用として12日より穴方生が印室へ
9月13日	橋爪槽下石廻置工費、諸手脚料625匁を計上
9月14日	橋爪槽、五十間槽板木10石代渡費用105匁を計上
12月8日	橋爪門段一重廊等上石り費用計上
2月8日	交換・橋爪槽、奥口の種札。昨年末お渡したもの下書き（控え）を作事奉行小艇内に渡した
4月18日	橋爪槽の種札を清書した御手丁・頭大西久左衛門に裏表を下さるようにとの作事奉行の書類に添え書きして提出した
5月8日	橋爪槽出立等14口筋の費用17匁3分5厘を決定
5月20日	橋爪槽搬送（8）前石前檻12枚伏渡・費用18匁計上
6月18日	橋爪門一、二ノ門とも柱根台輪金化粧版打ち替え。明日より取り掛かる

界の土塀を取り除くとの検討はされたようである。しかしこれは計画倒れだったのか、翌11年の明治天皇行幸の際に撮影された写真にはそうした形跡はみられない。

明治14年1月、旧二ノ丸御殿内部から出し火し威容を誇った御殿が全焼した。このとき菱櫓や五十間長屋等も焼失し、あわせて橋爪門や統槽も灰燼に帰した。以降、軍隊時代、金沢大学時代を経て平成13年に一ノ門、平成27年3月に二ノ門が再建され、かつての姿が130年の時を経てよみがえった。

## 5. 「橋爪御門唐舗割之図」について

橋爪門二ノ門に関する重要な史料がある。敷石の姿を今にとどめる「橋爪御門唐舗割之図」である。ここでは、この絵図の書誌的な検討を行うことにしたい。「橋爪御門唐舗割之図」は、「金沢御城櫓等之図」(包紙を含め9点)の中の一枚である。「金沢御城櫓等之図」には、この唐舗図の他、菱櫓・五十間長屋・橋爪門の立面図等も含んでおり、特に橋爪門を描く基礎史料の一つとして注目されてきた。しかし、年代を明確に記していないことから、いつごろの景観を示しているものなのか、あるいはどのような性格を有している絵図であるのか検討が必要であり、十分な史料批判が求められた。今回の復元にあたっては、とくに現存する遺構と照らし合わせながら絵図史料としての性格を慎重に把握していくことが鍵となった。

ところで、これら9点の絵図は、現在、金沢市立玉川図書館大友文庫に架蔵されている（請求番号大1101）。大友文庫は、金沢市内で老舗の料亭を営んでいた大友奎堂氏のコレクションによるもので、いわば収集資料である。この図のほかにも金沢城をはじめ金沢城下町や加賀藩邸等加賀藩関連の絵図等多くの史料も確認されている。コレクションという性格上、もともと誰か所蔵していたのか、大友氏がどのような経緯でこの史料を入手したかについても今となっては明らかではない。

「金沢御城櫓等之図」の原本を確認すると、包紙に

「菱御櫓階子建所図 老枚、同指図 老枚 同屋根指引図 老枚入

同断東之方・北之方之図 老枚入

五拾間長屋之図 老枚入

橋爪御櫓前年之図 老枚入

橋爪御櫓前年之図 老枚入

橋爪御門唐舗割之図 老枚入

辰巳御櫓台石垣御普請仕形足代等之図 老枚入

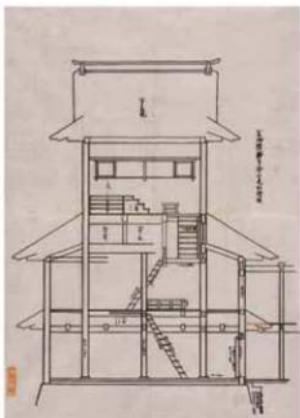
と記されていて、包紙以外に8点の絵図が確認でき、包紙に書かれた内容と実際の絵図はすべて対応できるので、絵図が描った段階でこの包紙が作成されたことも確認できる。

個別に絵図をみていくても、それぞれの絵図が同一の時期の景観を描いているものなのか、あるいは年代が異なるのか、年代を明記しないものがほとんどなので、一概には言えないが、「辰巳御櫓台石垣御普請仕形足代等之図」には「辰巳御櫓下石垣御普請出来、元文元年辰五月、同御櫓修覆当秋申付度と申儀相見江候得共、名前等相知レ不申事、元文元年より寛政五年迄五十八年也。」等とあって、この図については寛政5年頃のものようである。また、「橋爪御門唐舗割之図」に描かれた二ノ門北脇門の礎石配置は、発掘調査で宝暦期と推定された礎石根固め遺構の配置と親和的である。包紙には「文化十二年亥年正月 三宅」と年代と旧蔵者と思しき人物名が記されている。三宅については、断定まではいかないものの加賀藩士三宅政路（通称：権左衛門、はじめ判大夫・平太左衛門 四五〇石）を想定できるであろう。政路であるとすれば、彼は普請奉行を勤めた経歴を持っていた人物であり、こうした絵図類を保持していても不思議ではない。彼が普請奉行を勤めていたのは、寛政5年4月17日から翌6年4月20日のわずか1年ほどの期間であったが、「辰巳御櫓台石垣御普請仕形足代等之図」の年代と合致することになる。

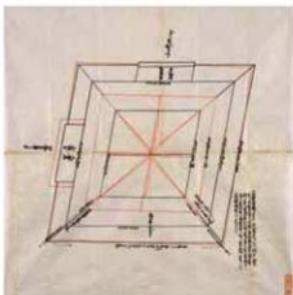
もしこれらの絵図が三宅政路所持のものとすれば、今度は何故すでに普請奉行の任にはなかった文化12年なのであろうかという点が疑問になる。すなわち、20年ほどの時差をどのように理解していくべきであるかが次に問われなくてはならない。そもそも文化12年という年代を考えた場合、金沢城内では辰巳櫓台の修覆等本丸エリアの整備にとりかかる時期と一致していることに注目したい。

加越能文庫「御用番方并御城方御用之覚」（全9冊）は、金沢城代も勤めた執政（年寄）奥村栄実の政務日記である。その詳細については、金沢城調査研究所『金沢城史料叢書22 奥村栄実御用番并

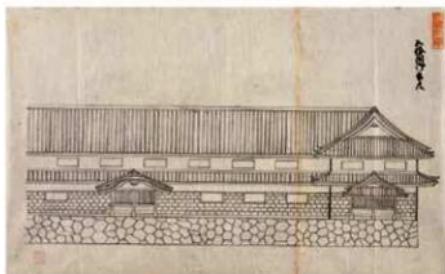
御城方日記（2015年）に譲るが、藩主前田斉広は、文化5年正月に焼失した二ノ丸御殿等の再建を同7年に終えると、次に本丸の普請を検討したようである。本丸エリアの普請を進めるにあたって事前に関連資料収集につとめなければならなかつたわけで、これを機に菱櫓、五十間長屋、橋爪門等の各絵図とともにこの時期整理し直したのではないか。いまはこのように考えたい。



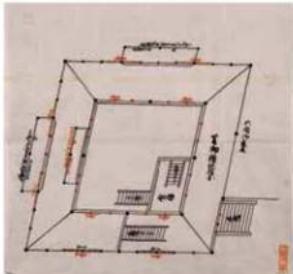
「菱御櫓階子建所図」



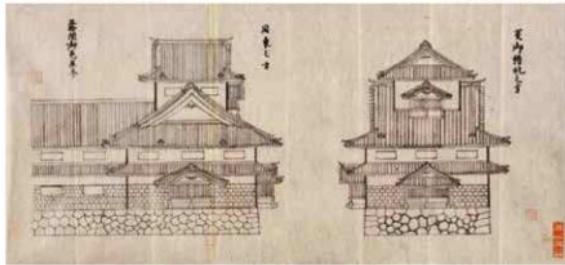
「菱御櫓階子建屋根指図」



「五拾間長屋図」

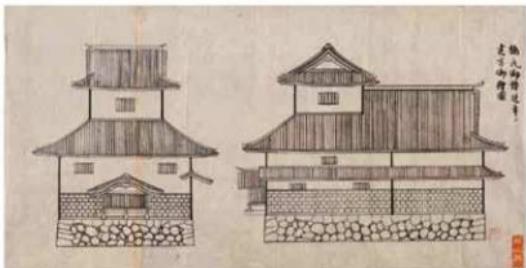


「菱御櫓階子建指図」



「菱御藏階子建東之方・北之方図」

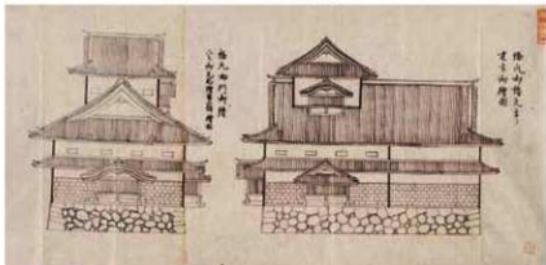
第134図 「金沢御城櫓等之図」1 （金沢市立玉川図書館蔵）  
※絵図の名称は袋に描かれたものを記載



「橋爪御橋近年建方図」



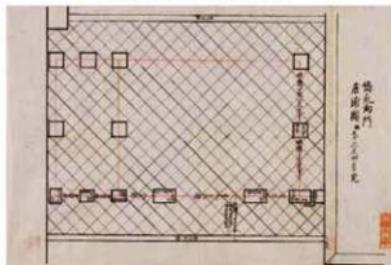
「金沢御城檣等之図 袋 表」



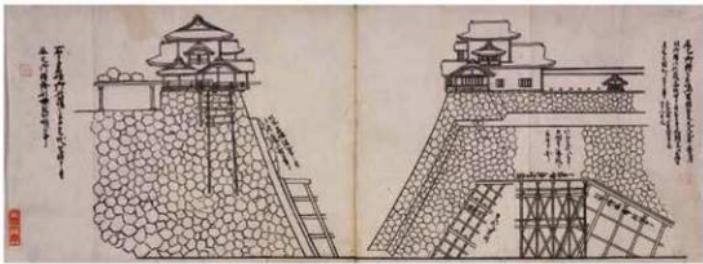
「橋爪御橋先年建方図」



「金沢御城檣等之図 袋 裏」



「橋爪御門唐鋪割図」



「辰巳御橋台石垣御普請仕方足代等之図」

第135図 「金沢御城檣等之図」2 (金沢市立玉川図書館蔵)  
※絵図の名称は袋に描かれたものを記載

## 第4節 橋爪門周辺の下層遺構

橋爪門枠形内の調査は、平成9年に一ノ門を含めた二ノ丸内堀・菱櫓の調査が行われ、平成12年には橋形土塹北端にあたる鶴ノ丸第2次調査が行われた。本調査と合わせると橋爪門枠形内のほぼ全域の調査が行われたことになる。そこで、橋爪門枠形に関わる調査区（二ノ丸内堀調査区・鶴ノ丸第2次調査区・橋爪門枠形調査区・橋爪門調査区）および、五十間長屋台調査区の整地土の対応関係と時期の比定を試み、それを基に各時期の下層遺構の分布や性格などの特徴から、金沢城初期の橋爪門周辺がどのように利用されていたかについて考察を行った。

### 整地土の対応関係と時期 [第136図、第38表]

第4章第1節で述べたよう遺構の掘り込み面を整地面（生活面）の上面と考え、整地面の標高や整地土の土質、整地の方法などから比定を行い、土層断面図や柱状図を用いて模式図で表した。橋爪門調査区を基準としているため、南北断面で各調査区との対応関係を確認した。層の整地状況や高低差を分かりやすくするため、縮尺は標高に対して距離を1/2で図化している。橋爪門と対応すると考えられる整地面や土層は、橋爪門基本層（第34図）と同じ色で示した。また、各調査区の対応関係を一覧表（第38表）で示したが、橋爪門調査区を基準として各調査区の対応する層を並べているため、近現代層下の空欄は削平された層を表す。欄に記載した遺構は、その層の上面から掘り込む遺構である。

### 模式図① [第136図]

橋爪門調査区と鶴ノ丸第2次調査区の整地土の対応関係を表している。橋爪門調査区は土層断面第図2012-19（第89図）、2012-33（第83図）、2012-17-3（第81図）、2012-17-4（第81図）を、鶴ノ丸第2次調査区は2000-3-1（第30図）、2000-1-2（第31図）を基にした。

上層は、橋爪門調査区ではⅢa面の遺構であるSD06に切られ、鶴ノ丸第2次調査区では近代に削平を受けたため遺存しておらず、標高43.0～43.2m前後までの対応関係を確認した。

鶴ノ丸第2次調査ではA～D層が確認されている。D層は白粘土層を挟んでDa層とDb層に細分でき、Da層はさらに細分できる可能性が指摘されている。各層の上面標高は、A層の上部は削平を受け遺存していないため不明であるが、B～D層上面は橋爪門IVa～IVc面とほぼ同じ高さである。土質は、A層と橋爪門IIIc層が砂質土を主体として、戸室チップが混じる層が存在するなど共通点がみられ、他の層もとりわけ近接する教育学部木造2棟（第86図 2012-25・26）と共に共通点がみられることから、A層は橋爪門IIIc層に対応し、以下の層も同様に対応すると考えた。

D層はDa層とDb層に細分されるが、Da層上面が橋爪門IVc面に対応する。鶴ノ丸第2次調査区のみで部分的な整地が行われた可能性が考えられる。あるいは橋爪門IVc層が細分できる可能性も考えられるが、橋爪門調査区では下層に明確な遺構面は確認できなかった。

また、橋爪門調査区で確認した地山Vb層は、調査区の南西から北東に下がるように確認されていて、鶴ノ丸第2次調査区2000-1-2北端では逆にわずかではあるが北から南へ下がっている。鶴ノ丸第2次調査区東側ではIVc層（Da層）の標高が他の地点より高く、IVb（C層）・IVa層（B層）を欠き、IVc層直上にIIIc層（A層）がみられる。橋爪門では近代暗渠東壁（第85図 2012-34）のIVc層上面の高さは、鶴ノ丸第2次調査区2000-1-2よりわずかに高く、教育学部木造2棟南壁（第86図 2012-25・26）ではほぼ同じ位である。窪地状になっているのかもしれない。

時期は、鶴ノ丸第2次調査ではA層の整地土は1610年代～1620年頃、B層の遺構・整地土は1610年前後、C～D層の遺構・整地土は1590～1600年代と推測されており、地表面には古代の遺構（SK14）もみられる。A層に対応する橋爪門IIIc層の最下層（第83図 2012-33：300層）からは16～17世紀初

頭の白磁皿（第103図P56）が、橋爪門Ⅲc面の遺構SK18からは1630年前後の土師器皿（第106図P133～135）が出土し、B層に対応する橋爪門Ⅳa面の遺構SK23からは1610年前後の遺物（第106図P109）が出土している。橋爪門調査区では遺構や整地土出土遺物がほとんどみられず、少ない遺物から年代を絞り込むことは非常に困難であり慎重さを要するが、近接地で土質が似ていることから同じ整地土と考えられ、面の時期もB層上面と橋爪門Ⅳa面はほぼ同じと考えた。A層については、対応する橋爪門Ⅲc層で整地土と面に時期差がみられ、A層上面が削平を受け遺存しておらず、遺構もみられないことから整合はとれていない。

#### 模式図②【第136図】

橋爪門調査区と平成9年の二ノ丸内堀調査区の整地土の対応関係を表している。橋爪門調査区は土層断面図2012-34（第85図）を、二ノ丸内堀調査区は『金沢城跡－二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓II-』〔石川県金沢城調査研究所 2012a〕（以下「五十間長屋II」）掲載の「内堀東部南岸土層断面図」（第137図に再録）を基にした。

二ノ丸内堀調査区ではI～IV層が確認されている。I層は近代以降の堆積土、II層は橋爪門枒形構築時の造成土、III層は中世末から近世初期の整地土とされており、IV層は地山であるが、断面図からはさらに細分が可能とみられる。II層は、II17層を埋土とする遺構からII18層上面に面が存在し、土質にまとまりがあるII5～19層下面にも面が存在すると推測される。II18層上面の整地土は4～10cmの厚さの砂質土で水平を意識して丁寧に造成され、橋爪門Ⅲc層と整地状況が類似している。標高からみても43.1～43.2mと、隣接する橋爪門2012-25・26（第86図）のⅢc面の標高43.20～43.32mに近いことから、Ⅲc面に対応すると推測される。II5～19層下面是、標高42.88～43.12mを測り、橋爪門2012-25・26のⅣa面の標高42.94～43.19mに近似することから、Ⅳa面に対応すると推測される。II層とⅢ層の境は西端で42.12～43.2mであるが、中央部は42.84～43.0m、東部は42.78～48.3mと東へ傾斜して下がっており、橋爪門2012-25・26に平行する中央部は橋爪門Ⅳb面（42.84～42.92m）、東部は隣接する鶴ノ丸第2次2000-1-2のC層上面（42.75～42.86m）に近似することから、Ⅳb面に対応すると考えられる。西端での様相は若干異なっており、橋爪門Ⅲb層に類似する黄灰色粘質土（II20）がみられることから、II23・24層上面にⅢc面が、標高からII層とⅢ層の境にⅣa面が続く可能性がある。橋爪門Ⅳc面に対応すると考えられる面は、明確な遺構切り込み面や土質の特徴がつかみきれず、対応関係を比定できなかった。

時期は、II層は枒形構築時の造成土を主体とした近世整地土とみられていたが、時期の比定が可能な遺物が出土していないこともあり、橋爪門Ⅲb～Ⅳa層に対応すると考えると、枒形構築以前の整地土である可能性が高い。Ⅲ層の地山（黒ボク土）直上の整地土01からは16世紀末葉の土師器皿がまとまって出土し、黒ボク層を切り込み面とする遺構のうち、P01からは16世紀代の陶磁器が、SB01・P02からは古代（8～9世紀）の遺物が出土している。Ⅲ層以下の時期は鶴ノ丸第2次調査区の年代観とほぼ整合していることが確認された。

また、平成13年の橋爪門枒形調査区は橋爪門調査区内にあり、西壁断面（第33図）は2012-34（第85図）北端の西側にある。模式図上には図化していないが、橋爪門調査区とほぼ同様の面と層が確認された。

P3の切り込み面であるJ層上面の標高が42.73mで、隣接する橋爪門2012-34のⅣc層上面標高が42.75～42.85mであることから、J層はⅣc層に対応すると考えられる。G層は上層のG1～3層と下層のG4～8層の土質にまとまりがみられ、境の標高も橋爪門Ⅳa面の43.0m付近であることから、上層がⅢc層、下層がⅣa層に対応する可能性がある。黒ボク層も上面標高が42.58mに対し橋爪門2012-34では42.55～42.58mと非常に近似している。C層は軍隊期の整地土とされているが、C6層が黄橙褐色土でⅢb層の2012-34：98層に類似している点や、大量の土を一度に搬入している点、標

高が43.4m前後と橋爪門Ⅲb層と近似している点から、Ⅲb層に対応すると考えられる。

#### 模式図④ [第136図]

橋爪門二ノ門・枱形内から範囲を広げ、平成10～11年の菱櫓・五十間長屋・橋爪門統櫓調査区の整地土との対応関係を検討した。『五十間長屋Ⅱ』掲載の「五十間長屋台南北土層断面図」(第138図に再録)を基本とし、橋爪門調査区ではそのライン付近で良好な南北断面図を作成できなかつたので、東西断面の2011-8・9(第57図)、2012-22(第90図)、2012-23-1(第91図)を基にした。

五十間長屋台調査区では下層の整地土がⅢ～V層に分類され、Ⅲ層が第V面、V・VI層が第VI面となっている。第V面のⅢ9～11層は砂質土で構成され、寛永期の統櫓台石垣構築直前に堆積した層とみられており、第VI面はIV層とV層の境に遺構面がみられ、V層はさらに細分が可能であるなど、橋爪門調査区と同じく部分的な整地が行われる。しかし距離が離れていることもあり、整地土の連続性からは対応関係を比定することができなかつた。

第V面は寛永8年以前、第VI面は元和年間頃とみられており、推測される時期からともに橋爪門Ⅲ層に対応すると考えたい。ただ、橋爪門Ⅲc層上面の年代観は出土遺物から寛永大火直前であり、橋爪門調査区第IV層が元和年間まで下らず、整地の状況に違いがあるのか、あるいは第Ⅲc門が元和年間から遺構面が継続していたのか、今回の調査では判断できていない。五十間長屋第調査区第VI面と一時期対応していた可能性も考えられるが、細分層まで比定するには至らなかつた。

以上のことから、整地土は、五十間長屋台調査区まで広がるかは確認できなかつたが、橋爪門二ノ門・枱形内では概ね一連の整地が行われていたと推測される。そこから橋爪門の時期をあてはめると地山V層最上面のVa面は古代や中世も含まれる可能性がある。鶴ノ丸第2次調査区との対比からIV層は文禄～慶長年間の整地土で、IVb・IVc面は1590～1600年代、Va面は1610年前後と推測される。Ⅲ層はそれ以降～寛永8年までの整地土で、Ⅲc面は元和期形成の可能生を残しつつも1630年頃まで下る可能性があり、Ⅲb・Ⅲa面は寛永8年直前に形成されたと推測される。このことからすると周辺では、文禄～慶長年間から寛永8年までの間に、何度も整地・造成が行われていることがうかがえる。

平面図模式図は、S=1/1000  
断面図模式図は、標高 S=1/150、距離 S=1/300  
(断面ライイン附近の土層断面図を合成して作成)

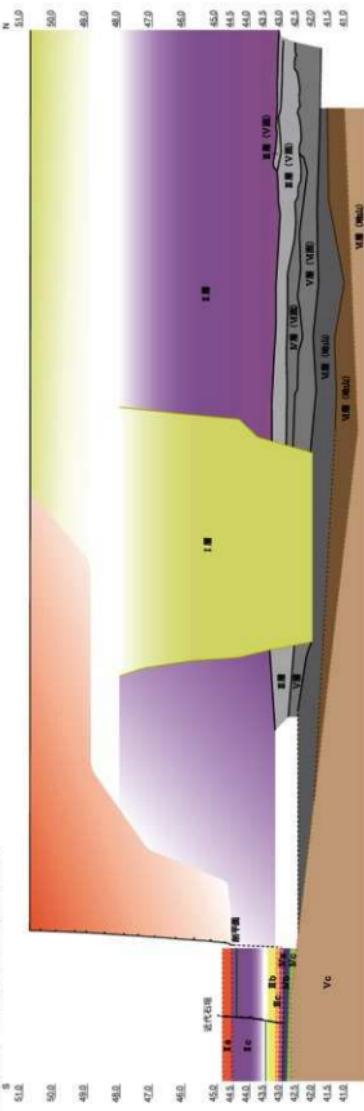
①櫛爪門・鶴ノ丸第2次



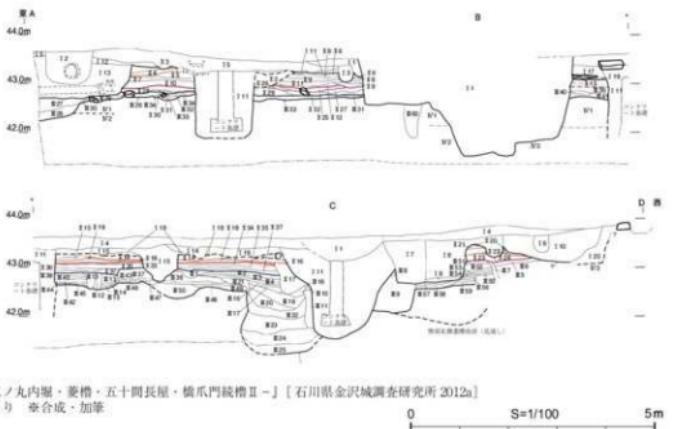
②櫛爪門・内堀東部南岸土層断面



③櫛爪門・五十間長屋台南北土層断面



第136図 櫛爪門周辺整地土対応模式図

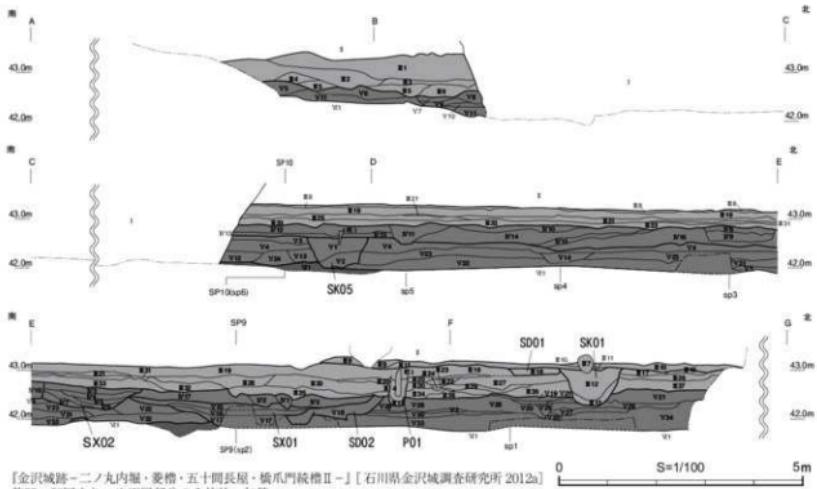


- I 近代以降
- 1.1 (最近年の) 残乱
  - 1.2 濁灰褐色砂質土 (土質)
  - 1.3 黒褐色砂質土
  - 1.4 濁褐色砂質土 (穀、礫灰岩多く含む)
  - 1.5 矽灰褐色砂質土
  - 1.6 (エニ - 菅原方) (風化)
  - 1.7 (風化)
  - 1.8 黄褐色質土
  - 1.9 濁灰褐色砂質土
  - 1.10 (風化)
  - 1.11 濁黃褐色粘質土
  - 1.12 黄褐色質土
  - 1.13 濁灰褐色砂質土 (ガス管?) 堆設土
  - 1.14 黑褐色粘質土
  - 1.15 濁褐色質土 (穀多く混じる)
  - 1.16 濁褐色質土 (小穀多く混じる)
  - 1.17 濁灰褐色砂質土
  - 1.18 黄褐色質土
  - 1.19 濁褐色質土 (黄色粘質土 小びっく混じる)
  - 1.20 黄褐色砂質土
- II 近世整地土 (室永期以後か)
- II.1 濁灰褐色砂質土
  - II.2 雜褐色砂質土
  - II.3 黑褐色質土 (粗砂混じる)
  - II.4 濁灰褐色砂質土 (粗砂混じる) 左側に(暗褐色地色) 実色。鉄分色
  - II.5 濁灰褐色砂質土 (右3より細い)
  - II.6 濁灰褐色砂質土
  - II.7 濁灰褐色砂質土 (左5より粘質。魔化式) 暗褐色粘質土混じる)
  - II.8 黄褐色質土
  - II.9 濁灰褐色砂質土
  - II.10 濁褐色砂質土 (暗褐色)
  - II.11 黄褐色質土
  - II.12 黄褐色砂質土
  - II.13 濁褐色砂質土 (分層可能か)
  - II.14 灰色砂質土
  - II.15 灰色砂質土
  - II.16 濁褐色砂質土
  - II.17 濁灰褐色色
  - II.18 黑褐色粘質土
  - II.19 濁灰褐色砂質土 (II.13と対応か)
  - II.20 濁灰褐色砂質土
  - II.21 灰色砂質土
  - II.22 濁褐色砂質土 (やわらかい)
  - II.23 灰色砂質土 (砂混じり)
  - II.24 黄褐色砂質土
- 古代の可燃性残灰
- 層間に酸化鉄層 褐鐵

- III 近世初期～古代 (室永期以前か)
- III.1 濁灰褐色砂質土 (黒褐色粘質土塊多く混じる) 風化じる
  - III.2 濁灰褐色砂質土
  - III.3 濁灰褐色砂質土 (壁くしまる)
  - III.4 黄褐色砂質土
  - III.5 濁灰褐色砂質土
  - III.6 黄褐色砂質土 (穀含む)
  - III.7 黄褐色砂質土 (粘性)
  - III.8 黄褐色砂質土
  - III.9 黄褐色砂質土
  - III.10 濁灰褐色砂質土
  - III.11 濁灰褐色砂質土
  - III.12 濁灰褐色砂質土
  - III.13 濁灰褐色砂質土
  - III.14 濁灰褐色砂質土
  - III.15 黄褐色砂質土
  - III.16 明黄褐色砂質土
  - III.17 黄褐色砂質土
  - III.18 濁灰褐色砂質土
  - III.19 濁灰褐色砂質土
  - III.20 濁灰褐色砂質土
  - III.21 暗黒褐色土 (黄褐色粘質土 壊滅じる)
  - III.22 黑褐色土
  - III.23 暗黒褐色土 (暗褐色粘質土 壊滅じる)
  - III.24 明淡褐色砂質土
  - III.25 濁褐色砂質土 (黄色砂質土 壊滅じる)
- 上層 地盤 地下構造
- 中層 地盤 地下構造
- III.26 濁褐色砂質土 (少し粘性あり)
- III.27 濁灰褐色砂質土 (灰白色土質) 小さい砂質多く含む
- III.28 濁灰褐色砂質土 (砂質及び珪 5～10cm大の複合む) 黄褐色地山が埋没じる。
- III.29 濁灰褐色砂質土 (黄色地山小塊混じる) 崩面に1つの黒褐色粘質土層がある
- III.30 濁灰褐色砂質土 (砂混じる) 黒褐色粘質土 (砂混じる)
- III.31 黑褐色砂質土
- III.32 濁褐色砂質土 (砂混じる) 黄褐色砂質土 (砂混じる)
- III.33 濁褐色砂質土
- III.34 濁褐色砂質土 (黒褐色粘質土 壊滅じる)
- III.35 濁褐色砂質土 (黒褐色粘質土 壊滅じる)
- III.36 濁褐色砂質土 (黄色地山小塊混じる) 黑色粘質土 (塊混じる)
- III.37 濁褐色砂質土 (灰褐色砂質少含む) 黄褐色粘質土
- III.38 濁褐色砂質土 (壁10～15cm大の複合む) 黄褐色粘質土
- III.39 濁褐色砂質土 (壁10～15cm大の複合む) 黄褐色粘質土
- III.40 濁褐色砂質土 (暗褐色粘質土 壊滅じる)
- III.41 濁灰褐色砂質土 (穀含む)
- III.42 濁灰褐色砂質土
- III.43 濁褐色砂質土
- III.44 濁灰褐色砂質土 (暗褐色粘質土 壊滅じる)
- III.45 濁灰褐色砂質土 (黒褐色地土01(GC 4))
- III.46 濁灰褐色砂質土
- III.47 濁褐色砂質土
- III.48 黄褐色砂質土
- III.49 濁褐色砂質土
- III.50 濁灰褐色土 (暗褐色砂質土小塊 多量に見る)
- III.51 濁褐色砂質土
- III.52 濁褐色砂質土
- III.53 黄褐色砂質土
- III.54 濁褐色砂質土
- III.55 明褐色砂質土
- III.56 暗褐色粘質土 (暗褐色砂質土 壊滅じる)
- III.57 灰色砂質土
- III.58 濁灰褐色砂質土
- III.59 明褐色砂質土
- III.60 (崩壊・ピット)

中下層  
整地土・  
下層地盤  
堆積層

第137図 内堀東部南岸土層断面図 (S=1/100)



「金沢城跡二ノ丸内盤、麥櫓・五十間長屋・換爪門続櫓II」[石川県金沢城調査研究所 2012a] 第33~38図より 東下層部分のみ抜粋、加筆

I: 宝曆 13 年 (1763) 修築

II: 寛永 8 年 (1631) 構築

III ~ V: 寛永 8 年 (1631) 構築以前

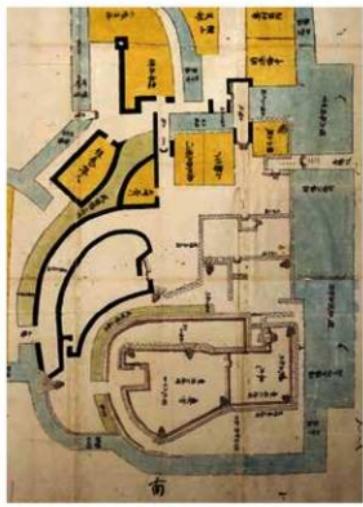
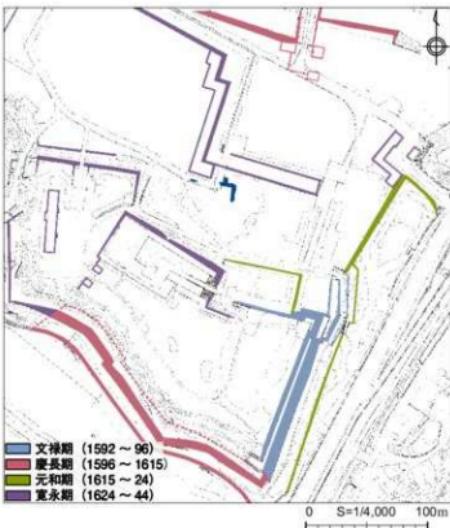
III: 第 V 面 N ~ V: 第 VI 面

- III-1 灰茶褐色粘質土
- III-2 褐色灰褐色砂質土 (小理多く混じる)
- III-3 青灰色粘質土
- III-4 灰褐色粘質土 (シルト)
- III-5 灰褐色粘砂質土
- III-6 灰褐色粘砂質土 (シルト) (上部薄灰色、下部黄灰色)
- III-7 (理)
- III-8 灰褐色粘質土 (薄緑灰色砂筋) (小理多く混じる。しまりあり)
- III-9 灰褐色粘質土 (褐色少しづつ混じる)
- III-10 灰青色粗砂 (径 5 ~ 10 cm) (理多く混じる)
- III-11 粗褐色粘質土 (木片多く混じる)
- III-12 灰褐色粘質土 (木片多く混じる)
- III-13 灰褐色粘質土 (上よりやや細い。径 3 ~ 5 cm の理少しつける)
- III-14 灰褐色粘質土
- III-15 理織 (径 1 ~ 5 cm) (理主として粗砂質土混じる)
- III-16 灰色粘土
- III-17 にぶく褐色青色砂質土 (径 10 ~ 20 cm の理と粗砂多く混じる)
- III-18 褐色粘質土 (青灰色と粗砂質土多く混じる) 第 V 面 SD01 地上
- III-19 褐色粘質土 (褐色少しつける)
- 加工木片若干含む)
- III-20 塗装灰色粘質土 (理、径 5 ~ 15 cm の理多く混じる)
- III-21 青灰色粘質土 (粘性あり)
- III-22 灰褐色粘質土
- III-23 该成褐色粘質土
- III-24 灰褐色粘土
- III-25 灰褐色粘質土 (灰褐色砂質土に混じる)
- III-26 灰褐色粘質土 (径 5 ~ 10 cm の理、利糸理多く混じる)
- III-27 灰褐色粘質土 (径 10 ~ 20 cm の理、粗砂多く混じる)
- III-28 褐 (青灰色粘質土は黒灰色粘質土すきじて入る。加工木片若干含む)
- III-29 塗装青灰色粘質土 (径 10 ~ 19 cm の理、粗砂多く混じる)
- III-30 にぶく褐色青色砂質土 (径 10 ~ 20 cm の理、粗砂多く混じる)
- III-31 漆青色粗砂 (灰色粘土状態に混じる)
- III-32 灰褐色粘質土 (木片混じる)
- III-33 灰褐色粘質土 (木片混じる)
- III-34 にぶく褐色青色砂質土 (理多い)
- III-35 褐褐色粘質土 (褐色砂少しつける。加工木片少し含む)
- III-36 塗装青灰色粘質土 (走査の弱りやや青く細い。炭化物多く混じる)
- III-37 灰褐色粘質土 (炭化物多く、利糸、理少しつける)
- III-38 灰化物
- V-9 細オーピー色粘質土 (径 3 ~ 5 cm の理、有機物、砂混じる)
- V-10 流成オーピー色砂
- V-11 灰褐色粘質土 (理、粘土混じる)
- V-12 灰褐色粘質土 (褐色灰褐色粘質土上、炭化物、理混じる)
- V-13 灰褐色粘質土 (褐色オーピー色粘質土 (しまりあり))
- V-14 灰褐色粘砂質土 (炭化物、理混じる)
- V-15 流成灰色砂
- V-16 灰青色粘質土 (砂混じる)
- V-17 黒褐色粘質土 (人手で揉むと褐色土塊混じる。加工木片少し含む)
- V-1 黑褐色粘質土 (漆青色粘土状態・理混じる)
- V-2 黑褐色粘質土 (漆青色粘土状態多く混じる)
- V-3 灰褐色灰褐色粘質土 (青灰色粘質土 (灰白色、粘土互層))
- V-4 灰オーピー色粘質土 (砂混じる)
- V-5 灰褐色灰褐色粘質土 (黃褐色土塊混じる) 明茶褐色粘質土
- V-6 灰褐色灰褐色粘質土 (シルト)
- V-7 黃褐色灰褐色粘質土
- V-8 黑褐色灰褐色粘質土
- V-9 黑褐色灰褐色粘質土
- V-10 黄褐色粘質土
- V-11 灰褐色灰褐色粘質土 (揉みこむと、黄褐色粘質土・小理少し混じる。下部塗地層)
- V-12 灰褐色粘質土 (理多く混じる)
- V-13 灰褐色
- V-14 にぶく褐色
- V-15 灰褐色粘質土
- V-16 灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土上、灰褐色粘質土)
- V-17 塗装青褐色粘質土 (下部に黄褐色粘質土上混じる)
- V-18 にぶく褐色粘質土 (炭化物、理、理混じる) 北側：第 VI 面 SD02 地上
- V-19 灰褐色 (しまりあり。木片混じる)
- V-20 灰化物
- V-21 塗装青褐色粘質土 (灰褐色粗砂・利糸混じる)
- V-22 灰褐色粘質土 (理、理混じる)
- V-23 灰褐色粘質土 (漆青色粘土シルト・砂質上層状に混じる)
- V-24 灰褐色粘砂質土 (小理、利糸理多く混じる)
- V-25 灰褐色粘質土 (黒褐色土塊多く混じる)
- V-26 塗装青褐色粘質土 (上層にやりやけにぶい、理・利糸混じる)
- V-27 灰灰褐色 (漆青色粘土上層状に混じる)
- V-28 塗装灰褐色シルト (黒褐色粘土、黄褐色粘土上塊混じる)
- V-29 塗装灰褐色粘質土 (灰褐色粘土上層状に混じる。下部に灰褐色物あり)
- V-30 灰褐色粘質土 (利糸理入り。砂利・小理多く混じる)
- V-31 灰褐色粘質土 (利糸理上層状に混じる)
- V-32 青褐色粘土、黑褐色粘土混じる (砂質分多い)
- V-33 細オーピー褐色粘土
- V-34 灰褐色粘質土 (黑褐色粘土、灰色粗砂混土)
- V-35 黑褐色粘質土

第138図 五十間長屋台南北土層断面図 (S=1/100)

第38表 橋爪門周辺整地土対応表

番	面番	橋爪門二ノ門	橋爪門前	内堀東部南岸上層断面		櫛ノ丸第2次		五十間長屋台南北上層断面	
				番	道構 等	番	道構 等	番	道構 等
I	I番	近現代	A~C番	近現代		I番	近現代		近現代
IIa面	IIa番	文政9年(1806)修築							
IIb面	IIb番	文化6年修築に伴う整地土 ・宝曆13年(1762)修築		(D~F番は近現代の 道構等上)					
IIc面	IIc番	宝曆13年修築に伴う整地土				寛永8年(1631) 橋爪門前・五十間長屋跡			
IIIa面	IIIa番	寛永8年構築に伴う整地土							
IIIb面	IIIb番			43.44m					
IIIc面	IIIc番	SK17	C番 (6番)	II番 (14~16・ 20~22番)		A番	VIIW (S) 43.2~(N) 43.05m 豆畠 (9~11番)	VIIW (S) 43.2~(N) 43.05m 豆畠 (9~11番)	
IVa面	IVa番	(S) 43.25~(N) 43.33m	(S) 43.25~(N) 43.30m	- (W) 43.20~(E) 43.30m -			VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (8~16~38番)	VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (8~16~38番)	
IVb面	IVb番	SK18	G番 (1~3番)	(5~13~18~ 19~23~24番)			VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (V) 4	VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (V) 4	
IVc面	IVc番	(S) 43.18~(N) 42.95m	(S) 42.95~(N) 43.00m	- (W) 43.21~(E) 42.89m -			VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (VI) 4	VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (VI) 4	
Va面	Va番	SK23	G番 (4~8番)	- (W) 42.83~(E) 42.82m -			VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (VII) 4	VIIW (S) 43.0~(N) 43.05m 豆畠 (VII) 4	
Vb面	Vb番	(S) 43.17~(N) 42.90m							
Vc面	Vc番	(S) 43.00~(N) 42.78m	(S) 42.73~(N) 42.66m	III番	S001				
Va面	Va番	(S) 42.88~(N) 42.57m	42.56m	(W) 42.64~(E) 42.71m			(S) 42.50~(N) 41.79m	(S) 42.50~(N) 41.79m	
Vb面	Vb番	地山(黒い土)	X1	N1	701 702~800	SK14	V1	V1	
Vc面	Vc番	~42.94		N2			V2	(S) 41.36~(N) 41.60m	
		地山 (褐色シルト・黄褐色砂質土)		N3			V3	(S) 40.66~(N) 40.07m	
		~42.84							
		地山 (褐色砂質土・粘質土・礫層)							



第139図 金沢城の石垣構築時期とSD06 (S=1/4,000)

## 下層遺構の分布・性格

前述の年代観を基に、大別した遺構掘り込み面ごとの遺構分布状況を平面図で表した。橋爪門調査区の時期が比定できた遺構は、概要で用いた面・層の色と同色で示し、その他の調査区も対応関係が確認できたものについては同様に示した。壁面検出の遺構のうち、規模の推測が可能なものは範囲を示し、プランが不明のものは断面で検出した長さを直径として円で位置を図化している。時期の特定ができなかった遺構については、該当する可能性がある時期全てに図化している。

### 寛永8年以前 [第139・140図]

橋爪門調査区Ⅲ層・五十間長屋台調査区第V面にある。二ノ丸内堀調査区・鶴ノ丸第2次調査区ではⅢc面以下まで削平を受けていたため、明確な遺構はみられなかつたが、ほぼ全域に展開するとみられる。五十間長屋台調査区第V面も橋爪門のどの層に対応するか不明であるが、上限を同じとみて少なくとも橋爪門Ⅲc面埋没時から寛永8年（1631）までの短期間に、何度も整地や遺構の構築が行われている。

最上面のⅢa面SD06を特徴とする。東西方向をSD06-2、SX09、南北方向をSD01-1、SD06-3に区画されている。その目的は屋敷地の境を示す区画溝、または城内の防御的な役割をもつ施設の一つである可能性が考えられるが、全体に遺構密度が低く敷地の縁辺と考えたいが判然としない。またSD06-3は北へ伸びず、橋爪門調査区内で收まるのみなら、SD06-2とSX09との連続は不確実である。ここが途切れるすればSD06-2とSX09の間に出入り口のようなものが想定できるのかもしれない。五十間長屋下層は遺構が少なく判然としないが、唯一V面SD01と軸が類似している。

Ⅲb面の遺構は橋爪門調査区中央部より西側にみられる。橋爪門調査区では、Ⅲb面は不定形な遺構が多く性格の判定は難しい。遺構の主軸の判るものを比較すると、南北方向のものがみられるものの判然としない。

Ⅲc面の遺構もまた橋爪門調査区中央部より西側にみられる。SK18は大型の土坑で、少ないながらも土師器皿が出ており、区画溝とも考えられる南北方向の溝が数条みられる。

この他、時期不明とした遺構が教育学部分館側で、大型の遺構が多数重なり合って確認されている。土取り穴とも考えられるが判然としない。

### 元和年間頃 [第140図]

橋爪門Ⅲc面の遺構を五十間長屋第VI面と比較してみた。年代的にはSK18出土の土師器や土層の対比からⅢc面の遺構は五十間長屋V面にあたると考えているが、わずかな出土遺物に基づく年代観であり、鶴ノ丸第2次調査区A層出土の遺物が元和年間頃のものであることから、橋爪門Ⅲc面検出遺構中に同時期の遺構の存在していた可能性もある。

五十間長屋第VI面の特徴的な遺構として、南北26m以上に及ぶSD01があげられる。採土坑群が連續したものとみられており、最終的には廃棄坑として利用され、一般的な生活用具が多く出土している。SX02からも漆器や金属製品等が出土しており、一帯に屋敷地が展開していたと推測されているが、廃棄坑の存在から、その縁辺部とみられている。橋爪門調査区では、これと軸を同じくする溝状遺構が散見され、土坑等の一部もこの時期のものが含まれているのかもしれない。

### 文禄～慶長年間頃 [第141図]

橋爪門IV層・鶴ノ丸第2次B～D層にある。橋爪門調査区・鶴ノ丸第2次調査区・二ノ丸内堀調査区など、橋爪門二ノ門・枡形周辺で展開していることがわかる。橋爪門調査区二ノ門付近はⅡc層に覆われているため遺構密度は低いが、全域に展開していると推測される。

IVa面の遺構は、橋爪門調査区の枡形内に集中する。とりわけSX26周辺には深さ20～30cmの大型土坑など複数の遺構が重複しているが、壁面検出のため遺物もなく遺構の性格を判断することは難し

い。鶴ノ丸第2次調査区では、土師器皿が出土した土坑（SK5）がみられ、屋敷地であったと推測されることから、橋爪門調査区も屋敷地に含まれると推測される。

IVb面の遺構はIVa面に比べて遺構密度が低く、橋爪門枠形内に点在する。橋爪門調査区ではほぼ壁面検出であったこともあり、遺構の性格を特定することができなかった。しかし鶴ノ丸第2次調査区では平面検出されており、SK4・7・10から土師器皿や擂鉢が出土していることから、IVa面と同様に屋敷地が展開していたと推測される。

IVc面の遺構は、橋爪門枠形の東側を中心に大型の土坑が多くみられる。二ノ丸内堀調査区のSK01は穴蔵（室状遺構）と推定されており、鶴ノ丸第2次調査区ではSK3から土師器皿・擂鉢・天目茶碗・鉄砲玉が、SK2からは焼塙壺が出土しており、武家屋敷地が展開していたと考えられる。

「五十間長屋II」では、五十間長屋台調査区が元和期を主体とするのに対し、二ノ丸内堀調査区は文祿～慶長期を主体とし元和期の遺構がみられないことから、五十間長屋台調査区に屋敷地が築かれていた元和年間には、二ノ丸内堀調査区付近は通路や広場に変容していた可能性が指摘されている。二ノ丸内堀調査区に隣接する橋爪門調査区では、主軸を同じくする溝等が調査区中央から西側に存在するのみで、元和年間の遺構をとらえることはできない。

#### 地山面の遺構 [第141図]

橋爪門V層にある。文祿～慶长期と同様、橋爪門二ノ門・枠形付近にのみみられる。全体に遺構密度は低い。明確な遺構として、二ノ丸内堀調査区では金沢御堂の段階に属する可能性のあるP01・SB02と、8～9世紀とみられるSB01・P02が、鶴ノ丸第2次調査区でも古代とみられるSK14が検出されており、中世～近世初期、古代（8～9世紀）の2時期が存在するとみられる。立地からして単独とは思えず、東側に遺跡が展開しているのかもしれない。また、古代の建物は方形の大型柱穴で構成されており、通常の集落とは異なるものと思われる。

橋爪門周辺を整地状況で見ると、当初は地山直上（Va面）に生活面が築かれていたが、大規模な造成・整地が行われてIVc面が形成され、生活面の高低差を縮小するようにIVb面・IVa面を整地・形成したのち、改めて大規模な造成が行われてIIIc面が構築され、その上にIIIb層・IIIa層の造成を行っている。①IVc面の形成、②IIIc面の形成に大規模造成が行われる画期が存在すると考えられる。西オイルタンク北壁ではIV期には、Vb層上部を削平する整地が行われ、本丸附段付近まで整地が行われたと想定している。

土地の利用形態で見ると、Va面～IIIc面までは確実ではないが、縁辺部にせよ屋敷地が展開していると考えたい。IIIb面は実態不明だが、IIIa面にはこれまで見られなかつた区画を目的とする遺構が構築され、屋敷地とは異なる性格に転換した可能性もある。③IIIc面以降、IIIb・IIIa面に画期が存在すると考えられる。

歴史的な年代観で見ると、①の最初に橋爪門周辺で大規模に造成が行われたIVc面は文祿期頃とみられることから、天正11年（1583）の前田利家入城以降のことである。この時期には本丸を中心として石垣や天守などの造営が行われていることから、橋爪門周辺でも土地に手が加えられ、屋敷地として利用されていたと推測される。②のIIIc面の造成を鶴ノ丸第2次調査A層の年代観から元和期（1615～1624）に遡る可能性を考えたいが、現状では判断しかねる。元和6年（1620）に本丸が焼失したのを契機に、本丸の拡張や外堀の付け替え等大規模な整備が行われる時期にあたり、現在の橋爪門や五十間長屋周辺でも大規模な造成が行われたものと考えたいが、今回の調査成果ではそれを証明するに至らなかった。③についての契機となったものは現在のところ不明である。③の時期はSK18出土土師器からIIIc面が1630年頃を下限としていることから、③は寛永大火直前となる。寛永大火後の五十間長屋等とは方向が異なって、このことからするならば、寛永大火直前には、寛永大火後の整

備とはまったく異なる整備が進められていたこととなる。直後の寛永8年（1631）の大火を契機に計画変更され、二ノ丸拡張が図られ、それに伴う続櫓台石垣構築・橋爪門創建によりⅢa面は埋没したと考えられる。

「加州金沢之城図」は元和7年（1621）の本丸拡張普請に伴って幕府へ提出された絵図である可能性が高く、元和7年前後の金沢城をある程度反映していると推測されている（木越2003）。橋爪門調査区は、河北門から「本丸」（現：東ノ丸）に至る直線上のやや西側に位置するが、絵図では東側に、「本丸」や河北門周辺の石垣と軸を合わせた石垣が複数描かれている。橋爪門あるいは二ノ丸と考えられる部分は黒の太線で区画が描かれている。検出した遺構からは、この時期には屋敷地が展開していたと考えたいが、絵図に屋敷地は描かれていません。橋爪門付近には食い違いになった出入り口と平入門が描かれている。本丸や、河北門周辺とは異なり斜めに描かれている石垣や黒い太線などと、今回検出したSD06が対比できるかもしれないが、年代観のずれやその他の遺構の状況など全くそれを裏付ける資料はなく、今のところ別のものと考えておきたい。

『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書』〔石川県金沢城調査研究所 2014c〕で提示された、元和年間の本丸拡張に連動した橋爪門周辺の整備の姿が確認できるかを念頭に置いて状況を眺めてみたが、今回の調査地点ではその姿は確認できなかった。むしろ、それ以降に大きな改変が進められているようと思われるが、それを検証するだけのデータは今回の調査では得ることが出来ず今後の課題としたい。

寛永8年以前

元和年間



第140図 下層遺構 寛永8年以前・元和年間頃 (S=1/500)



第141図 下層道路 文禄～慶長・地山面の遺構 (S=1/500)

## 引用・参考文献

- 石川県1996「金沢城址公園 金沢大学教育学部第2教棟（旧陸軍第7聯隊兵舎）解体工事による記録保存調査報告書」
- 石川県1997「平成8年度地震調査研究交付金 森本断層系に関する調査成果報告書」
- 石川県金沢城・兼六園管理事務所 石川県金沢城調査研究所2012『特別名勝兼六園 宋螺山石垣等修復工事報告書』
- 石川県金沢城調査研究所2006『よみがえる金沢城』
- 石川県金沢城調査研究所2008a『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書I』
- 石川県金沢城調査研究所2008b『玉泉院石切口場確認調査報告書I』
- 石川県金沢城調査研究所2008c『絵図でみる金沢城』
- 石川県金沢城調査研究所2008d『金沢城調査研究年報1』
- 石川県金沢城調査研究所2009a『よみがえる金沢城2』
- 石川県金沢城調査研究所2009b『金沢城調査研究年報2』
- 石川県金沢城調査研究所2009c『金沢城跡玉泉院丸造構確認調査概報』（現地説明会資料）
- 石川県金沢城調査研究所2010a『金沢城跡石垣修理工事報告書-玉泉院丸東西石垣-』
- 石川県金沢城調査研究所2010b『金沢城の三御門-河北門・橋爪門・石川門-』
- 石川県金沢城調査研究所2010c『金沢城跡玉泉院丸造構確認調査概報2』（現地説明会資料）
- 石川県金沢城調査研究所2010d『金沢城調査研究年報3』
- 石川県金沢城調査研究所2011b『金沢城跡-河北門-』
- 石川県金沢城調査研究所2011c『金沢城跡-二ノ丸内櫓・菱櫓・五十間長屋・橋爪門純櫓I-』
- 石川県金沢城調査研究所2011d『金沢城調査研究年報4』
- 石川県金沢城調査研究所2012a『金沢城跡-二ノ丸内櫓・菱櫓・五十間長屋・橋爪門純櫓II-』
- 石川県金沢城調査研究所2012b『金沢城跡研究年報5』
- 石川県金沢城調査研究所2012c『城郭石垣の技術と組織』
- 石川県金沢城調査研究所2013a『玉泉院石切口場確認調査報告書II』
- 石川県金沢城調査研究所2013b『金沢城調査研究年報6』
- 石川県金沢城調査研究所2014c『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書II』
- 石川県金沢城調査研究所2014d『金沢城調査研究年報7』
- 石川県教育委員会1970「金沢城二ノ丸跡発掘調査概報」
- 石川県教育委員会1979「金沢市笠舞A遺跡調査報告」
- 石川県教育委員会1981「金沢市笠舞道路」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2001「金沢市三社町遺跡」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002a「金沢市 金沢城跡I」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002b「金沢市 木ノ新保遺跡」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002d「金沢市 高岡町一ツ水溜跡」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2002e「金沢市 前田氏（長種系）屋敷跡」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2007「金沢市 三社町遺跡」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2010「金沢市 金沢城跡1」
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2012「金沢市 金沢城跡2-堂形（第3・4次調査）-」
- 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2014c「金沢市 金沢城跡3-堂形（第5次調査）-」
- 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2014a「石川県金沢市 金沢城下町遺跡（丸の内7番地点）」
- 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2014b「金沢市 小立野ユミノマチ遺跡」
- 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2014c「金沢市 金沢城跡3-堂形（第5次調査）-」
- 石川県教育委員会事務局文化課「いしかわ文化財ナビ」(<http://www.bunkazainavi.prefishikawa.lg.jp/>) (2015/03/17参照)
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2004a「年報2」
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2004b「御造宮方日並記」上巻
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2005b「御造宮方日並記」下巻
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2005d「金沢城を採る」金沢城調査研究パンフレットNo.3
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2006a「金沢城跡II」
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2006d「年報4」
- 石川県教育委員会事務局文化課金沢城研究調査室2007a「年報5」
- 石川県教育委員会文化課、金沢御堂金沢城調査委員会1991「金沢御堂、金沢城調査報告書」金沢城史料編
- 石川県土木部営繕課2001「金沢城公園菱櫓・五十間長屋・橋爪門純櫓等復元工事報告書」
- 石川県土木部公園緑地課2013「金沢城公園 河北門復元整備工事報告書」
- 石川県立埋蔵文化財センター1987「金沢市 笠舞A遺跡（Ⅲ）」
- 石川県立埋蔵文化財センター1992「特別名勝 兼六園（江戸町推定地）発掘調査報告・附 本多家上屋敷跡試掘調査報告」
- 石川県立埋蔵文化財センター1996「金沢城跡車橋門発掘調査報告書」

- 石川県立埋蔵文化財センター 1997a 「金沢城跡石川門前土橋（通称石川橋）発掘調査報告書Ⅰ」
- 石川県立埋蔵文化財センター 1997b 「中戸遺跡」『石川県立埋蔵文化財センター年報』第17号
- 石川県立埋蔵文化財センター 1998 「金沢城跡石川門前土橋（通称石川橋）発掘調査報告書Ⅱ」
- 伊藤さやか 2004 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第12号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 伊藤さやか 2005 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第14号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 福垣重之・六川啓之 2006 「金沢市銭子町 表面採集遺物の紹介」『石川考古』第287号
- 井上聰夫 1969 「金沢城跡の発掘」金沢大学金沢城学术調査委員会
- 上野佳也 1976 「金沢城跡十間長屋跡発掘調査概報」『日本海文化』No.3 金沢大学法文学部日本海文化研究室
- 江戸遺跡研究会 2001 「図説 江戸考古学研究事典」柏書房
- 岡本是 1975 「金沢の笠舞B遺跡」『石川考古学研究会誌』第18号 石川考古学研究会
- 加藤克郎 2001 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第6号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 加藤克郎 2009 「金沢城跡」『石川県埋蔵文化財情報』第22号 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 加藤道雄 2001 「小立野町と金沢城址」『いしかわ人は自然人』第57号 橋本確文堂
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2002 「石川県金沢市 彦三町遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2003 「石川県金沢市 高岡町遺跡Ⅱ」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2003d 「野田山墓地」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2003e 「石川県金沢市 大桑ジョウデン遺跡1」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2003f 「石川県金沢市 田上北遺跡・田上東遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2004b 「石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）I（測量図編）」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2004c 「石川県金沢市 久昌寺遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2004d 「石川県金沢市 大桑ジョウデン遺跡2」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2004e 「石川県金沢市 若松遺跡・田上遺跡群3-」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2005b 「石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）II（古代・中世編、測量図編）」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2005c 「石川県金沢市 木ノ新保遺跡II」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2005e 「石川県金沢市 鹿2丁目遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2005f 「石川県金沢市 田上西遺跡2」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2006a 「石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）III（近世編1）」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2006d 「石川県金沢市 山科やなした遺跡 山科かなした遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2006f 「石川県金沢市 田上南遺跡1」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2007a 「石川県金沢市 兼六園遺跡 修三一丁目遺跡」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2007e 「石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）IV（近世編2）」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2008a 「石川県金沢市 金沢城懇構跡I～西外懇構跡・東内懇構跡発掘調査報告書～」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2008b 「野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2009b 「辰巳用水調査報告書」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2009c 「石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）V（金沢能楽美術館地点）」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2009d 「石川県金沢市 田上南遺跡2」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2011a 「平成22年度 金沢市埋蔵文化財調査年報」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2011b 「石川県金沢市 金沢城懇構跡II～西内懇構跡（主計町地点）発掘調査報告書～」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2011c 「石川県金沢市 金沢城懇構跡III～西外懇構跡（武藏町地点）発掘調査報告書～」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2012d 「石川県金沢市 金沢城懇構跡IV 金沢城下町遺跡（西外懇構跡升形地点）発掘調査報告書 遺構編」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2013a 「石川県金沢市 金沢城懇構跡V 金沢城下町遺跡（西外懇構跡升形地点）発掘調査報告書 遺物編」
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2014 「石川県金沢市 金沢城懇構跡VI 東内懇構跡（枯木崎南地点）発掘調査報告書」
- 金沢市・金沢市教育委員会 1994 「金沢市三小牛ハバ遺跡」
- 金沢市・金沢市教育委員会 1995 「金沢市本町一丁目遺跡」
- 金沢市・金沢市教育委員会 1997 「安江町遺跡」
- 金沢市教育委員会 1989 「金沢市笠舞A遺跡IV-5・6次発掘調査報告書」
- 金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター) 2000a 「石川県金沢市 田上本町遺跡」
- 金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター) 2000b 「石川県金沢市 田上西遺跡」
- 金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター) 2001a 「金沢市醒ヶ井遺跡」
- 金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター) 2001d 「石川県金沢市 笠舞A遺跡V」
- 金沢市教育委員会(金沢市埋蔵文化財センター) 2001e 「石川県金沢市 大桑アナグチ遺跡」
- 金沢市史編さん委員会 1999 「16丁目遺跡」『金沢市史』資料編19考古 金沢市
- 金沢市埋蔵文化財センター 1999 「下本多町遺跡」
- 金沢市埋蔵文化財センター 1999 「下本多町遺跡」
- 金沢大学創立50周年記念事業後援会 2001 「金沢大学50年史」通史編

- 金沢大学埋蔵文化財調査センター2000「金沢大学文化財学研究」2
- 金沢御堂、金沢城跡調査委員会1993「金沢城跡 金沢城跡構造実態調査概要報告書」石川県教育委員会
- 絹野義夫2001「石川県の地質に関する調査研究の百年史年表」「石川県地質誌、補遺」北陸地質研究所
- 木越隆三2003「元和~寛文期の金沢城修築について」「研究紀要 金沢城研究」創刊号 金沢城研究調査室
- 木越隆三2013「金沢の城郭創建年次を再検証する」「日本歴史」第780号 日本歴史学会
- 九州近世陶磁学会2004「九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念」
- 熊谷葉月2013「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第30号（公財）石川県埋蔵文化財センター
- 経済企画1969「土地分類基本調査 地形・表土地表・土じょう 金沢 5万分の1」
- 国土地理院2002「金沢南方の段丘面編年と変動地形」「国土地理院時報」No.99
- 小鶴芳考1978「金沢市長坂古墳群の研究」「石川県立郷土資料館紀要」第9号 石川県立郷土資料館
- 小鶴芳考1979「北加賀地域古墳群分布調査報告-石川県主要古墳群分布調査第3年度-」「石川考古学研究会々誌」第22号石川県考古学会
- 白峰2008「文化期金沢城二の丸重建における石材調達等に関する考察-『御造當方日並記』の内容分析から-」「研究紀要 金沢城研究」第6号 石川県金沢城調査研究所
- 白峰 旬2009「文化期金沢城二の丸重建工事期間における労務管理に関する考察-『御造當方日並記』の内容分析から-」「研究紀要 金沢城研究」第7号 石川県金沢城調査研究所
- (財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター2007「瀬戸出土の“近代陶磁”-瀬戸・美濃窯の近代1-」
- (財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター2008「東京・小田原出土の“近代陶磁”-瀬戸・美濃窯の近代2-」
- (財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター2009「せともの百年史-中部地方出土の近代陶磁 瀬戸・美濃窯の近代3-」
- (財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター2010「関西出土の近代陶磁-瀬戸・美濃窯の近代4-」
- (財)瀬戸市文化振興財團埋蔵文化財センター2011「瀬戸・美濃窯の近代-生産と流通-」
- 瀬戸重徳1999「金沢城跡」〔木丸阶段調査区〕」「石川県埋蔵文化財情報」創刊号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 土田友信2000「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第4号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 東郷正美・池田安隆・今泉伸一・津澤・平野信-1998「森本-富樫新層帯の詳細位置と活動性について」「活断層研究」17号
- 富田和氣夫・瀬尾玲美2002「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第7号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 中村洋介・金幸隆・岡田篤正・武村恵二2003「金沢市街地における河成段丘の形成時期と森本-富樫新層帯野町挽曲の第四紀後期における上下変異速度-」「活断層研究」23号
- 中村洋介・宮谷淳史・岡田篤正2006「森本-富樫新層-における平均上下変位速度分布-」「活断層研究」26号
- 布尾幸彦2008「第5章 石工道具調査報告」「石室石切丁場確認調査報告書1」石川県金沢城調査研究所
- 布尾幸彦2009「石川市内の礎岩岩石工具調査報告-石室石工道具の比較-」「研究紀要 金沢城研究」第7号 石川県金沢城調査研究所
- 沼田啓太郎1976「金沢市大桑町中平道路報告」「石川考古学研究会々誌」第19号 石川考古学研究会
- 林 大智2008「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第19号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 藤 则雄1975「河岸段丘」「金沢周辺の第四系と道路」
- 藤 则雄1983「辰巳用水とその周辺の自然環境」「加賀辰巳用水-辰巳ダム関係文化財等調査報告書-」辰巳ダム関係文化財等調査団
- 藤 则雄1999「金沢城「百間塀」の断層とその周辺の地形」「北陸の考古学Ⅲ」石川考古学研究会々誌第42号 石川考古学研究会
- 北陸中世考古学研究会2006「中世北陸のカワラケと輸入陶磁器、瀬戸美濃製品」
- 増山 仁1999「金沢城跡」「金沢市史」資料編19考古 金沢市史編さん委員会
- 三浦ゆかり1999「金沢城跡いもり堀発掘調査」「石川県埋蔵文化財情報」第2号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 藤 则雄1999「金沢城「百間塀」の断層とその周辺の地形」「北陸の考古学Ⅲ」石川考古学研究会々誌第42号 石川考古学研究会
- 濱屋玲美・土田友信2001「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第5号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 濱屋玲美・土田友信2001「金沢城跡」「石川県埋蔵文化財情報」第6号（財）石川県埋蔵文化財センター
- 文部科学省研究開発局地震・防災研究課 地震調査研究推進本部地震調査委員会2014「森本-富樫新層帯の長期評価（一部改訂）」  
[\[http://www.jishin.go.jp/main/p\\_hyoka02\\_danso.htm#57\]](http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka02_danso.htm#57) (2015/03/13参照)
- 吉岡康輔1985「金沢城の発掘」「金沢城と前田氏領内の諸城」日本城郭史研究叢書 第五巻 名著出版
- 吉岡康輔2001「人間都市創造の原点「石川文化の杜」ゾーン-金沢城・兼六園・本多の森-」「いかわ人は自然人」第57号 橋本唯文堂

## 報告書抄録

ふりがな	かなざわじょうあと - はしづめもん -													
書名	金沢城跡 - 橋爪門 -													
副書名	金沢城史料叢書23													
シリーズ名	金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書													
シリーズ番号	7													
編著者名	本田秀生、石野康友、森由佳、東緋美、森将志、藤根久、米田恭子、竹原弘展													
編集機関	石川県金沢城調査研究所													
所在地	〒920-0918 石川県金沢市尾山町10-5 石川県文教会館5階 TEL 076-223-9696													
発行年月日	平成27年3月31日													
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因						
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		(m <sup>2</sup> )							
かなざわじょうあと 金沢城跡	かなざわじょうあと 金沢市丸の内	01	01215	36°	136°	20000509 ～ 20000615	50	活用目的 調査						
				33°	39'	20010622 ～ 20010705	15							
				58°	35°	20100714 ～ 20101217	400							
						20110512 ～ 20111222	1,100							
						20120419 ～ 20120615	200							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項								
金沢城跡	城館	近世	石垣、礎石根固め、石組溝、石組枡	陶磁器、土器、瓦、石製品、金属製品										
要約	橋爪門は二ノ丸御殿の正門で、石川門・河北門とともに金沢城三御門とも呼ばれる重要な門である。一ノ門・二ノ門を備えた枠形門の形式をとり、枠形は城内でも最大規模であったが、明治14年に焼失した。平成13年に菱櫓・五十間長屋・橋爪門統轄・橋爪門一ノ門・鶴ノ丸土塼・内堀等が復元整備されている。													
	2010～2012年の橋爪門二ノ門・枠形等の復元整備に係る遺構確認調査で、橋爪門二ノ門の礎石の基礎となる根固め、二ノ丸からの排水施設である石組溝・石組枡等を確認するとともに、統轄台に石垣に残る添柱の中心を示す鑿切、門下の敷石等の痕跡等を確認した。これらから橋爪門二ノ門の、創建、宝曆大火後の再建、文化二ノ丸火災後の再建期の規模や変遷等について明らかにすることができた。二ノ門内側では二ノ丸に上がる雁木坂横の石垣台下部、路盤面等を検出している。													
枠形については、後世の改変ではなくどこが失われていたか、統轄台石垣に残る加工痕跡により、枠形地盤面の高さや頗当て石垣階段の規模等を明らかにすることができた。また、2000、2001年の調査を含め、橋爪門創建以前の遺構・遺物を確認しており、初期金沢城の実態解明の手掛かりとなる所見を得ることができた。														



明治初期の橋爪門  
(金沢大学附属図書館蔵)



大正 13 年（1924）  
〔金沢城跡〕〔石川県教育委員会 1993〕より転載



明治終頃～昭和 11 年の三ノ丸（南から）  
（個人蔵）



昭和 30 年頃の二ノ丸（北西から）  
〔金沢大学 写真で見る 50 年〕より転載・加工



昭和 48 年（1973）の金沢城跡  
(国土地理院撮影の空中写真 (1973 撮影))

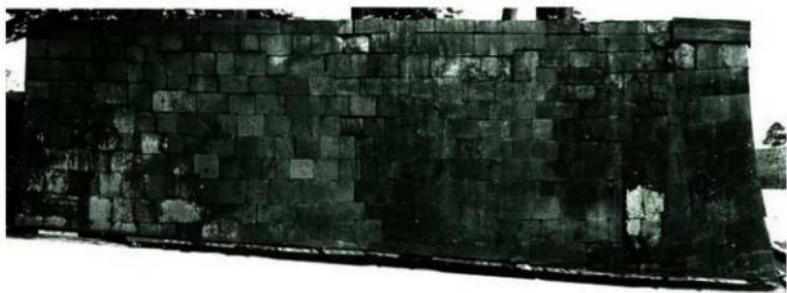
写真団版 1 金沢城内古写真



金沢大学時代の続櫓台石垣周辺



続櫓台石垣東面 2110E（修築前）



続櫓台石垣南面 2110S（修築前）



二ノ丸内堀調査区 全景（北から）

写真図版2 過年度調査（修築前石垣、二ノ丸内堀）



二ノ丸内堀調査区南壁（北から）



二ノ丸階段 全景（北西から）



石垣台（東から）



石垣台（東から）

写真図版3 過年度調査（二ノ丸内堀、二ノ丸階段）



鶴ノ丸第1次調査 調査区全景（東から）



石垣台（西から）



石垣台（南西から）



石垣台（東から）

写真図版4 過年度調査（鶴ノ丸第1次）



調査区全景（南西から）



SB01 内（西から）



東壁鉄管（南から）



南東部鉄管（北から）

写真図版5 鶴ノ丸第2次（近世整地土検出）



B層検出面 調査区全域（北東から）



B層検出面 S4区（南西から）



B層検出面 N4区（西から）



B層集石層 S1～3区（東から）



B層集石層 S1～3区（西から）

写真図版6 鶴ノ丸第2次（B層 検出面・集石層）



調査区全景（東から）



NS1～3区（北から）



NS1～3区（北西から）



SI～3区（西から）



NS1～3区（南から）

写真図版7 鶴ノ丸第2次（C層 検出状況）



S4区（西から）



S4区（南から）

写真図版8 鶴ノ丸第2次（D層 検出面）



完掘状況（南から）



完掘状況（北から）

写真図版9 鶴ノ丸第2次（完掘状況）



B層 集石層上面（東から）



B層 集石層上面（北東から）



N3区 B層（北から）



A・B層間 集石層上面（南西から）



N1区 B層（西から）

写真図版 10 鶴ノ丸第2次（遺物検出状況）



検出状況（西から）



完掘状況（西から）



P2（西から）



P3（南から）



P4（南から）

写真図版 11 鶴ノ丸第2次 (P2~4)



P1・6 (南から)



P7 断面 (東から)



P8 (南から)



P9 (西から)



P8・9 (南から)



P10・11周辺 (南から)



P10 (西から)



P11 (北から)

写真図版12 鶴ノ丸第2次 (P1・6・7～11)



検出状況（南から）



遺構掘削状況（南から）



断面（南から）



断面・西側（南から）



断面・東側（南から）

写真図版13 鶴ノ丸第2次 (SK.5)



SK 4 (南から)



SK 7 断面 (南から)

写真図版14 鶴ノ丸第2次 (SK 4・7)



底面遺構検出（北から）



SK2・3切り合い（東から）



SK2・3切り合い（西から）



SK2完掘状況（南から）



SK3完掘状況（東から）

写真図版15 鶴ノ丸第2次（SK2・3）



SK 8 検出状況（西から）



SK 8 完掘状況（東から）



SK 9 検出状況（北から）



SK 9 完掘状況（西から）



SK 12 検出状況（北から）



SK 12 完掘状況（北から）



SK 13 南側断面（北から）



SK 13 西側断面（東から）

写真図版16 鶴ノ丸第2次（D層 SK 8、9、12、13）



東壁断面（西から）



東壁断面（西から）

写真図版 17 鶴ノ丸第2次（東壁断面）



南壁断面（北から）

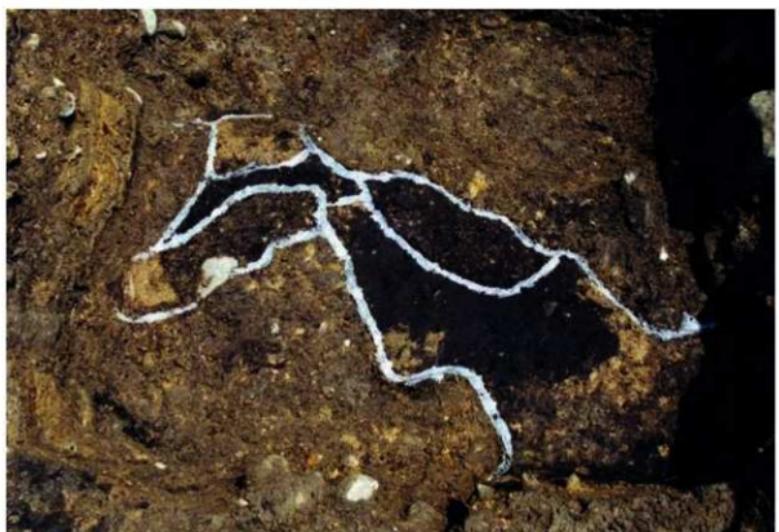


南壁断面（北から）

写真図版 18 鶴ノ丸第2次（南壁断面）



表土除去（北から）



上層遺構（南から）

写真図版 19 桥爪門構形（表土除去・上層遺構）



調査区全景（東から）



西壁断面南側（東から）



西側断面北側（東から）



南壁断面（北から）

写真図版 20 橋爪門構形（西壁・南壁断面）



完掘状況（北西から）



P1（東から）



P2・3（東から）



P2（東から）



P3（北から）

写真図版21 橋爪門拱形（完掘状況）



二ノ門柱穴（東から）



鏡柱（南から）



脇柱・添柱（南から）



中央大柱（南から）



背面大柱（南から）

写真図版 22 橋爪門（二ノ門礎石根固め）



P01（文化） 鏡柱（南から）



P05（宝曆） 鏡柱（西から）



P09（寛永） 鏡柱（南から）



P02（文化）・P06（宝曆） 脇柱・添柱（南から）



P03（文化）・P07（宝曆） 中央大柱（南から）



P11（寛永） 中央大柱（南から）



P04（文化）・P08（宝曆） 背面大柱（南から）



P12（寛永） 背面大柱（南から）

写真図版 23 橋爪門（二ノ門礎石根固め・拡大）



SD01 (石組暗渠)・SK01 (石組構) (東から)



SD01 (屈折部) 蓋板除去前 (北から)



SD01 (屈折部) 蓋板除去後 (北から)



SD01 (直線部) 蓋板除去後 (東から)



SD01 (直線部) 蓋板除去後 (北から)

写真図版 24 橋爪門 (石組暗渠・構 1)



2012-15-4 土層断面（南から）



2012-15-1 土層断面（南から）



2012-14 土層断面（東から）



2012-15-2 土層断面（西から）



2010-6 土層断面（東から）



石組暗渠・橋接合部（東から）



2012-9-1 土層断面（西から）



2012-7-2 土層断面（南から）

写真図版 25 橋爪門（石組暗渠・橋 2）



SD01（石組暗渠）・SK01（石組枡）改修痕（東から）



2011-7 土層断面（南東から）

写真図版 26 橋爪門（石組暗渠・枡改修痕）



2011-8・9 土層断面 SX02・07（北から）



2012-7-3 土層断面 SX02・07（南から）



2012-10 土層断面 SD02（東から）



石組暗渠抜き取り痕（東から）



石組暗渠抜き取り痕（西から）



2012-17-2 土層断面 T11（南から）



2012-17-1 土層断面 T12（南から）

写真図版 27 橋爪門（石組暗渠、木蓋付溝、続檜台石垣掘方）



2012-16 土層断面 T14 (北から)



2012-16 土層断面 T14 (北東から)



2330E (石垣台) 上面の状況 (南から)



2330E (石垣台) (北から)

写真図版 28 橋爪門 (トレンチ・石垣台 1)



2330E (石垣台) (東から)



2330E (石垣台) (東から)



2330E (石垣台) (東から)

写真図版 29 橋爪門 (石垣台 2)



SX04・05（南から）



2330EとSX04（東から）



III区SX01（近世路盤面）（南西から）



III区SX01（近世路盤面）（西から）



III区近世路盤面 拡大（東から）

写真図版 30 橋爪門（III区近世路盤面 1）



III区 SX01（近世路盤面）遺物出土状況（東から）



III区 SX01（近世路盤面）遺物出土状況（東から）



2012-3 土層断面 2330E（石垣台）（南から）



2012-3 土層断面アゼ裏側（北から）



2012-5 土層断面（西から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）

写真図版 31 橋爪門（III区近世路盤面2・石垣台土層断面図1）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



2012-3 土層断面（南から）



Ⅲ区南壁土層断面（北から）

写真図版 32 橋爪門（石垣台土層断面 2）



2012-2 土層断面（南から）



2012-2 土層断面（南から）



2012-2 土層断面（南から）



2012-2 土層断面（南から）



2011-8・9 土層断面（北から）



2011-8・9 土層断面（北から）



2011-8・9 土層断面（北から）

写真図版 33 橋爪門（整地土 1）



2012-10 土層断面（東から）



2012-9-2 土層断面（西から）



2012-11-1 層断面（南から）



2012-11-2、2012-33 土層断面（北から）



2012-33 土層断面（北から）



2012-33 土層断面（北から）

写真図版 34 橋爪門（整地土 2）



2012-33 土層断面（北西から）



下水管内下層遺構 SX47～52（南西から）



2012-33 土層断面・下層遺構（北西から）



2012-33 土層断面（北から）



2012-33 土層断面（北から）



下水管北壁土層断面（南から）



2012-33 土層断面（北から）



下水管北壁土層断面（南から）

写真図版 35 橋爪門（整地土・下層遺構 1）



2012-33 土層断面（北西から）



2012-33 土層断面（北から）



2012-33 土層断面（北から）



下水管北壁土層断面 SX27（南から）



2012-33 土層断面 SD05-1（北西から）



2012-33 土層断面（北から）



2012-34 土層断面（北西から）

写真図版 36 橋爪門（整地土・下層遺構 2）



2012-34 土層断面（南西から）



下層遺構 SK19（北から）



2012-34 土層断面（南西から）



2012-34 土層断面（南西から）



2012-25・26 土層断面（北西から）



2012-25・26 土層断面（北から）



2012-25・26 土層断面（北から）



2012-25・26 土層断面（北から）

写真図版 37 橋爪門（整地土・下層遺構 3）



2012-22、2012-23-1 土層断面（南から）



2012-21-1 土層断面（南から）



西オイルタンク北壁土層断面（南から）



2012-23-1 土層断面（南から）



T05 内下層遺構（南西から）



2012-23-2 土層断面（西から）

写真図版 38 橋爪門（整地土・下層遺構 4）



2012-21-2 土層断面（南西から）



2012-21-2 土層断面 SD07（南から）



2012-21-3 土層断面（東から）



2012-20 土層断面（南から）



2012-9 土層断面（西から）

写真図版 39 橋爪門（整地土 3）



近代石垣（南から）



解体 No.58・57 磁石転用か（南から）



解体 No.1 葛石転用か（南西から）



通用門掘方・磁石（南から）



近代暗渠（南から）



充電所関連遺構（東から）



近代桥（1）・（2）（北から）

写真図版 40 橋爪門（近代遺構）



2110S (南から)



20120W (南西から)



2110E (東から)



2110S 加工痕 (南東から)

写真図版 41 橋爪門（続櫓台石垣 1）



2110S 正面葛石痕跡（南から）



2110S 整切痕跡（南から）



2110S 敷石痕跡（南東から）



2110S 敷石痕跡（南から）



2110S 整切・被熱痕跡（南から）

写真図版 42 橋爪門（続櫓台石垣 2）



2110S 背面葛石痕跡（南東から）



2110S 地表面の痕跡（南から）



2110S 根石（南から）



2110E 地表面の痕跡（東から）



2110E 地表面の痕跡（東から）



2110E 階段痕跡（東から）

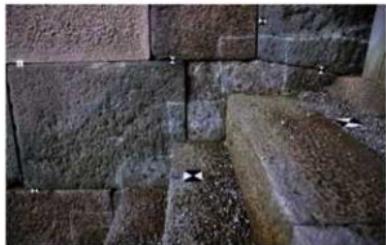


2110E 階段痕跡（東から）



2110E 階段痕跡（東から）

写真図版 43 橋爪門（続櫓台石垣 3）



2110E 階段痕跡（東から）



2110E 階段痕跡（東から）



2110E 地表面の痕跡（東から）



2110E 地覆石取付き痕跡（東から）



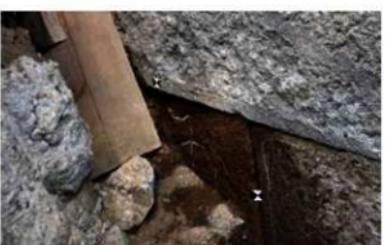
2110E 地覆石取付き痕跡（北東から）



2110E 頬当石垣下部分（東から）



2120W 階段痕跡（西から）



2120W 刻印（南西から）

写真図版 44 橋爪門（続櫓台石垣 4）



200001-D46 P1



200001-D47 P2



200001-D22 P3



200001-D30 P4



200001-D29 P5



200001-D27 P6



200001-D28 P7



200001-D26 P8



200001-D24 P9



200001-D25 P10



200001-D66 P11



200001-D35 P12



200001-D36 P13

写真図版 45 出土遺物

鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 1



写真図版 46 出土遺物 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 2



写真図版 47 出土遺物 鶴ノ丸第2次遺構出土遺物 3



写真図版 48 出土遺物 土器・陶磁器 1



写真図版 49 出土遺物 土器・陶磁器 2



写真図版 50 出土遺物 土器・陶磁器 3



写真図版 51 出土遺物 土器・陶磁器 4



写真図版 52 出土遺物 土器・陶磁器 5



写真図版 53 出土遺物 土器・陶磁器 6





201203-D19 瓦 T31



201203-D44 瓦 T32



200001-D9 瓦 T33



201005-D16 瓦 T34



201105-D59 瓦 T35



201203-D28 瓦 T36



201105-D72 瓦 T39



201203-D48 瓦 T41



201105-D113 瓦 T38



201005-D22 瓦 T40



201005-D21 瓦 T42



201203-D27 瓦 T43



201105-D28 瓦 T44



200001-D1 瓦 T45



201105-D40 瓦 T46



201105-D87 瓦 T47



201105-D88 瓦 T48



201005-D6 瓦 T49

写真图版 55 出土遗物 瓦 2



201105-D84 瓦 T50







201203-D15 残 T88

201203-B17 残 T89

200001-D5 残 T90



200001-D3 残 T91

200001-D6 残 T92

201105-D65 残 T93



201105-D54 残 T94

201203-D22 残 T95

201203-D30 残 T96



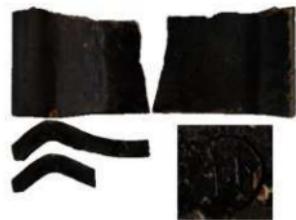
201105-D38 残 T97

201105-D25 残 T98

201105-D109 残 T99

200001-D8 残 T100

写真図版 58 出土遺物 瓦 5





写真図版 60 出土遺物 瓦 7



写真図版 61 出土遺物 瓦 8



201203-D23 軸 T147



200001-D20 軸 T148



201203-D21 軸 T149



201105-D64 軸 T150



201105-D52 軸 T151



201203-D49 軸 T152



201203-D41 軸 T153



201203-D24 軸 T154



201105-D36 軸 T155



201105-D114 軸 T156



201105-D73 軸 T157

写真図版 62 出土遺物 瓦 9



201203-D40 T158

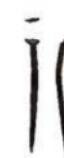




201105-M7 M5



201105-M10 M6



201105-M11 M7



201105-M14 M8



201105-M15 98



201105-M26 M10



201105-M27 M11



201105-M28 M12



201105-M29 M13



201105-M13 M14



200001-M10 M15



201203-M1 M16



201105-M18 M17



201105-M19 M18



201105-M20 M19



201105-M21 M20



201105-M22 M21



201105-M23 M22



201105-M32 M23



201105-M24 M24



201105-M3 M25



201203-M10 M26



201203-M11 M27



201203-M12 M28



201005-M27 M29

写真図版 64 出土遺物 金属製品 1



写真図版 65 出土遺物 金属製品 2



写真図版 66 出土遺物 金属製品 3



写真図版 67 出土遺物 金属製品 4



201005-S9 S1



201203-S7 S2

写真図版 68 出土遺物 石製品 1



201005-S10 S3



201203-S6 S4

写真図版 69 出土遺物 石製品 2



201203-S5 S5



201005-S12 S6



201005-S6 S7



201105-S3 S8

写真図版 70 出土遺物 石製品 3



201203-S3 S9



201203-S4 S10



201203-S11 S11



201005-57 S12



201203-S10 S13  
写真図版 71 出土遺物 石製品 4



201203-S1 S14

201203-S12 S15

201203-S2 S16

写真図版 72 出土遺物 石製品 5



写真図版 73 出土遺物 石製品 6



201005-S8 S25



201005-S1 S26



201005-S2 S27



201005-S3 S28

写真图版 74 出土遗物 石製品 7



写真図版 75 出土遺物 石製品 8



写真図版 76 復元された橋爪門等

金沢城史料叢書23  
金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書7

金 沢 城 跡  
一橋 爪 門一

平成27年3月31日 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所  
〒920-0918  
石川県金沢市尾山町10-5 石川県文教会館5階  
TEL 076-223-9696/FAX 076-223-9697  
E-mail kncastle@pref.fishikawa.lg.jp

印 刷 株式会社 ハクイ印刷